

授業コード	10200151		
授業科目名	人間学	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	柴崎 雅子		
成績担当教員氏名	柴崎 雅子		
単位数	2 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

この授業の第一の目的は、人間の様々な可能性を知り、自己認識を深めることである。20 年近く生きていけば、「人間とはこのようなものだ」というイメージ（人間観）を誰もが持っているだろう。しかしそれは、21 世紀の日本という非常に限られた環境の中で、さらに個人の限定された体験を通じて作られたものでしかない。各人が持っている人間観から外れたことを、時に人間はやってのける。だからこそ私たちは、「あんなことをするなんて、人間じゃない、悪魔だ」、「あんなことができるなんて、人間とは思えない、神様だ」、などと言うのである。これまで想像もしなかったような人間の可能性を知り、人間に対する理解、ひいては自分自身に対する理解を深めるために、この授業では様々な観点から人間をとらえ、パワーポイントを使って概説する。

この授業の第二の目的は、思考力、日本語の読解力・表現力、自己管理能力といったスキルを高めることである。そのため、各回のテーマに関する文章を集めたプリントを配布し、内容の理解度を確認する。また毎回、最後に 200 字以上のミニレポートの提出が必要である。さらに、社会人なら当然の自己管理能力をもって受講することを求める。

到達目標

- ①人間学に関する文章を正確に読解できる。
- ②人間学に関する他者の主張に対して、自分自身の考えを作ることができる。
- ③人間学の問題について、自分自身の考えを的確な日本語で表現できる。

授業計画

- 【第 1 回】オリエンテーション、ベジタリアン：この授業の成績評価方法やルールについて説明する。肉食拒否の背景について解説する。
- 【第 2 回】言葉：日本語と英語では、物の見方、発言の仕方が異なることを解説する。
- 【第 3 回】女と男の狭間で：誕生前に女と男に分かれていく過程と、それが上手くいかなかったときに生じる性分化疾患について解説する。
- 【第 4 回】親と子：日本の親子関係の変化と、現代の生殖補助医療がもたらす問題について解説する。
- 【第 5 回】人と国：日本という国の特徴、国籍の決め方、国家と個人の対立の問題について解説する。
- 【第 6 回】小論文：論理的な文章作成法について説明し、人間学のトピックで小論文を書いてもらう。
- 【第 7 回】体と心：体と心の関係についての諸理論と「脳死」について解説する。
- 【第 8 回】カニバリズム：人間が人間の肉を食するカニバリズムの実例を挙げ、その問題点を解説する。
- 【第 9 回】状況の力：ミルグラムの電気ショック実験をもとに、人間の行動が状況によって大きく左右されることについて解説する。
- 【第 10 回】愚かさの源：人間の注意力の限界や、思い込みによる非合理的な判断などについて解説する。
- 【第 11 回】死刑：世界的な死刑廃止の動向と、そこから外れた日本の現状について解説する。
- 【第 12 回】憎しみを超えて：キリスト教、仏教、心理学における「ゆるし」の意義について解説する。
- 【第 13 回】「私」とは：記憶の不確かさを証明した実験などをもとに、「私」の曖昧さについて解説する。
- 【第 14 回】人間と動物：地球の歴史から見た生物としてのヒトについて解説する。
- 【第 15 回】人間と死：日本における死のありようの変化や、死後に関する様々な考え方を解説する。

事前事後の学習

授業（1 回につき 2 時間として計算）と事前事後のあわせて 1 単位あたり 4 5 時間が必要です。

第 1 回

- 【事前】シラバスをよく読んで、学習計画を立てる。0.5 時間
- 【事後】第 1 回の授業で指示された「発展学習」のキーワードと参考図書を調べる。3 時間

第 2 回～第 15 回

- 【事後】返却されたミニレポートを確認し、自分の解答と模範例の解答とを比較して改善点を考える。1 時間
- その回に指示された「発展学習」のキーワードと参考図書を調べる。3 時間

*期末レポートを仕上げる 2 時間

課題に対するフィードバックの方法

ミニレポートは採点し、次の授業時に返却する。

成績評価の方法・基準（方針）

毎回のミニレポートと、授業終了後に提出を求める期末のレポートに基づき評価する。正当な理由なく 6 回以上欠席した場合は「K」評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	毎回のミニレポート (15 回×6)	①②③
授業外での評価	0		
期末試験	10	全授業終了後に提出を求める期末レポート	①②③
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。
参考書	毎回、授業の中で指示する。
履修条件・他の科目との関連	欠席者には次の授業時に配布プリントを渡す。
担当教員への連絡方法	・柴崎 雅子 sibasaki@oiu.jp

授業コード	10200203		
授業科目名	心理学	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	木村 真人		
成績担当教員氏名	木村 真人		
単位数	2 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

この授業では、受講生それぞれの日常体験を題材として、心理学という学問の基礎知識とものの見方を習得することを目的とします。この授業を通して、受講生一人ひとりが心理学的なものの方で、人間のこころと行動を捉え、理解できるようになることが目標です。授業内容は受講生の興味・関心が高いと思われる領域を取り上げ、具体的な事例を通して、受講生と一緒に考えながら理解を深めていきます。1 回完結型の授業です。理解の定着、および受講生の考え・意見の共有を目的として、毎回の授業で課題を課します。授業は講義形式の他、個人ワーク・ペアワーク・グループワークなどの演習も取り入れます。なお、下記の授業計画は、受講生の要望や進捗状況により変更する場合があります。

到達目標

1. 心理学の基礎知識を習得し、説明することができる。
2. 心理学的なものの方・考え方を身に付け、活用できる。
3. 人間のこころと行動を心理学的にとらえ、説明することができる。

授業計画

【第1回】

テーマ：心理学とは（オリエンテーション）

【第2回】

テーマ：感覚・知覚のメカニズム

- ・私たち人間が外の世界をどのように認識するかを学ぶ。
- ・人間特有の感覚・知覚・認知のメカニズムを理解する。

【第3回】

テーマ：動機づけとは

- ・動機づけのメカニズムを理解する。
- ・動機づけを高める方法を考える。

【第4回】

テーマ：教育場面における動機づけ

- ・目標とやる気との関係を理解する。
- ・成功・失敗に対する原因のとらえ方とやる気との関係を理解する。

【第5回】

テーマ：こころとからだの発達

- ・人間の生まれてから死ぬまでの生涯にわたる心理的な成長と発達を概観する。
- ・アタッチメントが人間の発達にもたらす影響を学ぶ。

【第6回】

テーマ：パーソナリティとは

- ・パーソナリティを形成・規定する要因について学ぶ。
- ・自分自身のパーソナリティを客観的にとらえる。

【第7回】

テーマ：パーソナリティの測定

- ・パーソナリティの代表的な理論を学ぶ。
- ・心理テストの代表的な種類について理解する。

【第8回】

テーマ：こころの病とは

- ・こころが健康とはどういうことかを考える。
- ・うつ病について理解を深める。

【第9回】

テーマ：こころの病とメンタルヘルス・リテラシー

- ・障害のとらえ方について理解する。
- ・統合失調症について理解を深める。

【第10回】

テーマ：人間関係

- ・対人魅力の観点から人間関係に影響を与える心理について学ぶ。
- ・認知的バランス理論からみた人間関係について学ぶ。
- ・人間関係を進展させる条件について理解する。

【第11回】

テーマ：自己表現と心理学

- ・自己表現のタイプについて学ぶ。
- ・自分自身の自己表現・コミュニケーション・伝え方について振り返る。

【第12回】

テーマ：こころの理解と援助：自分を傷つける行動

- ・自分を傷つける行動の実態を知る。
- ・自分を傷つける行動のメカニズムや対応を学ぶ。

【第13回】

テーマ：心理的援助の理論と実際

- ・教育場面の事例を通して心理的支援について学ぶ

<p>・ソリューション・フォーカスト・アプローチの考え方を学ぶ</p> <p>【第14回】</p> <p>テーマ：社会問題と心理学</p> <p>・社会的場面での人間の行動のメカニズムを理解する</p> <p>・犯罪・防犯に関する人間の行動や心理を学ぶ。</p> <p>【第15回】</p> <p>テーマ：到達度確認テストと総括</p>
<p>事前事後の学習</p>
<p>授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。</p>
<p>【第1回】</p> <p>・事前：授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する。 1.0時間</p> <p>・事後：オリエンテーションの説明内容にもとづき心理学が受講生自身とどのように結びつくかを考え書きます。2.0時間</p> <p>【第2回】</p> <p>・事前：自分自身が外界の世界をどのようにとらえているか、認識しているかを振り返る。1.5時間</p> <p>・事後：日常場面で体験した感覚・知覚・認知の具体例を書き出し、授業の内容を復習する。2.5時間</p> <p>【第3回】</p> <p>・事前：動機づけについて自分で調べて、自分自身の体験に当てはめる。1.5時間</p> <p>・事後：授業で提示した動機づけについての課題に取り組む。2.5時間</p> <p>【第4回】</p> <p>・事前：大学でまなぶことの自分自身の動機づけについて振り返る。1.5時間</p> <p>・事後：授業で提示した教育場面における動機づけについての課題に取り組む。2.5時間</p> <p>【第5回】</p> <p>・事前：自分自身が生まれてから今までにこころとからだがどのように発達してきたかを振り返る。1.5時間</p> <p>・事後：授業で提示したこころとからだの発達についての課題に取り組む。2.5時間</p> <p>【第6回】</p> <p>・事前：自分自身の性格・パーソナリティについて振り返り、書き出す。1.5時間</p> <p>・事後：授業で提示したパーソナリティについての課題に取り組む。2.5時間</p> <p>【第7回】</p> <p>・事前：パーソナリティの測定の仕方とどのような方法があるか考える。1.5時間</p> <p>・事後：授業で提示した心理テストについての課題に取り組む。2.5時間</p> <p>【第8回】</p> <p>・事前：こころが健康・不健康とはどういうことかを自分の体験をもとに振り返る。1.5時間</p> <p>・事後：授業で提示したこころの病についての課題に取り組む。2.5時間</p> <p>【第9回】</p> <p>・事前：こころの健康のために何が必要か大切かを考え書き出す。1.5時間</p> <p>・事後：授業で提示したメンタルヘルスリテラシーについての課題に取り組む。2.5時間</p> <p>【第10回】</p> <p>・事前：人間関係についての疑問や悩みを振り返り書き出す。1.5時間</p> <p>・事後：授業で提示した人間関係についての課題に取り組む。2.5時間</p> <p>【第11回】</p> <p>・事前：自分が他者に自分をどう見せているか、他者からどう見られているかについて振り返り書き出す。1.5時間</p> <p>・事後：授業で提示した自己表現についての課題に取り組む。2.5時間</p> <p>【第12回】</p> <p>・事前：わが国における自殺予防・対策について調べる。1.5時間</p> <p>・事後：授業で提示した自分を傷つける行動についての課題に取り組む。2.5時間</p> <p>【第13回】</p> <p>・事前：心理カウンセリングについて知っていることやイメージを書き出す。1.5時間</p> <p>・事後：授業で提示した心理的援助についての課題に取り組む。2.5時間</p> <p>【第14回】</p> <p>・事前：現代の社会問題が心理学とどのように関連しているか考える。1.5時間</p> <p>・事後：授業で提示した社会問題と心理学についての課題に取り組む。2.5時間</p> <p>【第15回】</p> <p>・事前：第1回～14回の内容を復習する。2.5時間</p> <p>・事後：到達度確認テストの振り返りをする。2.5時間</p>
<p>課題に対するフィードバックの方法</p>
<p>・毎回の授業内課題に対して授業内で講評・解説します。</p> <p>・到達度確認テストは、自己採点が可能となるよう採点基準を公開します。</p> <p>・レポート試験は、評価基準表にもとづく評価結果をフィードバックします。</p>
<p>成績評価の方法・基準（方針）</p>
<p>以下に示す通り、授業期間内に実施される課題・到達度確認テストと、レポート試験の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定します。正当な理由のない欠席5回以上、または到達度確認テストかレポート試験のいずれかを未提出・未受験の場合、評価の対象とせず、「K」評価とします。</p>

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	・毎回の授業内で課す課題 (計15回、各4) ・第15回に実施する到達度確認テスト (20)	1,2,3
授業外での評価	0		
期末試験	20	全授業終了後に実施するレポート試験 (20)	1,2,3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用しません。必要に応じて、資料を配布します。
参考書	適宜、授業の中で紹介します。
履修条件・他の科目との関連	・欠席学生には、次の授業時に資料を配布しますので、申し出てください。 ・受講にあたり、特別な配慮を必要とする学生は申し出てください。
担当教員への連絡方法	・木村 真人 m-kimura@oiu.jp

授業コード	10200251		
授業科目名	心理学	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	森上 幸夫		
成績担当教員氏名	森上 幸夫		
単位数	2 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

<心理学の目的と概要>

心理学は人間の行動や経験といった心の働きに関する多種多様な知見を体系化してきた。それは心理学的概念としてあらわされたり、また心理学的理論として記述されたりしている。その概念や理論は人間の行動や経験を一般化して、「人間とは何か」という問に対する一定の回答を提示してきたと言える。本講義では、自分や他者の心理を理解するために、人間の心の働きを「記述する」と「説明する」ことが目的である。

講義はパワーポイントによるプレゼン形式で行い、文字情報および静止画・動画の資料などを提示しながらすすめていく。授業はオンラインを用いた資料提示や課題提出を随時実施していく予定であり、受講において自身のパソコンを常に使用することを求める。

到達目標

1. 人間の心の働きを記述することができる
2. 人間の心の働きを説明することができる

授業計画

★この授業は遠隔授業となります。リアルタイム型の遠隔授業（その授業時間に Zoom 等で参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出して頂く形で実施予定です。

- 第1回 授業オリエンテーション「本科目の目的と概要、授業ノートの構成について述べる」
- 第2回 自己の心理1：自己への意識「自己意識理論にもとづく私的側面と公的側面の自己意識を紹介する」
- 第3回 自己の心理2：自己の把握「アイデンティティ、自己概念、自己スキーマの事例を紹介する」
- 第4回 自己の心理3：自己の状態「エゴグラムにおける5つの側面とその特徴を紹介する」
- 第5回 自己の心理4：自己の表出「自己呈示、自己開示、自己モニタリングの特徴と機能を紹介する」
- 第6回 コミュニケーションの心理1：空間とコミュニケーション「コミュニケーションにおける物理的距離と位置関係の意味を紹介する」
- 第7回 コミュニケーションの心理2：非言語のコミュニケーション「言葉以外のコミュニケーションの種類と機能を紹介する」
- 第8回 コミュニケーションの心理3：コミュニケーションのうまさ「コミュニケーションに関する技能の内容と事例を紹介する」
- 第9回 対人関係の心理1：夫婦のトラブル、夫婦の破綻「夫婦間葛藤の心理的要因の分類を紹介する」
- 第10回 対人関係の心理2：青年期の親子、家族の問題と役割「家族機能と親子間葛藤の特徴を紹介する」
- 第11回 対人関係の心理3：想像する恋愛、恋愛の始まり「恋愛のイメージ、一目惚れの心理的要因を紹介する」
- 第12回 対人関係の心理4：恋愛スキル、恋愛の破局「恋愛を促進させる技能、失恋の時期と原因を紹介する」
- 第13回 集団・組織の心理1：集団の条件「集団成立の最低限の要因、集団維持の要因を紹介する」
- 第14回 集団・組織の心理2：集団の愚行「集団による愚かな意思決定の特徴を紹介する」
- 第15回 集団・組織の心理3：リーダーシップ「リーダーシップ理論の概念と種類を紹介する」

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

第1回

- 【事前】授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する 2.0時間
- 【事後】オリエンテーションの説明内容にもとづき心理学の位置づけを理解し、ノートを準備する 2.0時間

第2回

- 【事前】「人が自分に注意を向ける」ことに関する文献を読む 1.5時間
- 【事後】「自己注目」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートを加筆する 2.5時間

第3回

- 【事前】「人が自分の特性を知る」ことに関する文献を読む 1.5時間
- 【事後】「自己把握」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートを加筆する 2.5時間

第4回

- 【事前】「人が有する自我状態の側面」に関する文献を読む 1.5時間
- 【事後】「エゴグラム」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートを加筆する 2.5時間

第5回

- 【事前】「人が自分を他者に見せる」ことに関する文献を読む 1.5時間
- 【事後】「自己表出」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートを加筆する 2.5時間

第6回

- 【事前】「人が他者と接するときの空間の使い方」に関する文献を読む 1.5時間
- 【事後】「個人的空間」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートを加筆する 2.5時間

第7回

- 【事前】「人が言語以外の手段で他者と意思疎通する」ことに関する文献を読む 1.5時間
- 【事後】「ノンバーバルコミュニケーション」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートを加筆する 2.5時間

第8回

- 【事前】「人が他者とうまく意思疎通する方法」に関する文献を読む 1.5時間
- 【事後】「コミュニケーションスキル」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートを加筆する 2.5時間

第9回

- 【事前】「夫婦、結婚」に関する文献を読む 1.5時間
- 【事後】「夫婦関係の問題、結婚のストレス」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートを加筆する 2.5時間

第10回

- 【事前】「親子、家族」に関する文献を読む 1.5時間

【事後】「親子関係の葛藤、家族の機能不全」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートを加筆する 2.5 時間
第 11 回
【事前】「恋愛」に関する文献を読む 1.5 時間
【事後】「恋愛の実態調査」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートを加筆する 2.5 時間
第 12 回
【事前】「恋人関係」に関する文献を読む 1.5 時間
【事後】「恋愛スキル」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートを加筆する 2.5 時間
第 13 回
【事前】「集団・組織が盛衰する」ことに関する文献を読む 1.5 時間
【事後】「集団・組織に必要な要素」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートを加筆する 2.5 時間
第 14 回
【事前】「集団・組織の意思決定」に関する文献を読む 1.5 時間
【事後】「集団浅慮」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートを加筆する 2.5 時間
第 15 回
【事前】「集団・組織の運営」に関する文献を読む 1.5 時間
【事後】「有能なリーダーと有効なリーダーシップ」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートを加筆する 2.5 時間

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題について自己採点が可能になるよう正解（模範解答）を開示する。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、期末試験の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由のない欠席 4 回以上、または期末課題を未提出の場合、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	各章の最終回に実施する課題 (4 回×10)	1, 2.
授業外での評価	0		
期末試験	60	全授業終了後に提出するレポート試験	1, 2.
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	なし。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	心理学関連の科目を履修していることが望ましい。講義の内容はノートをとることが必要となる。
担当教員への連絡方法	・森上 幸夫 morikami@oiu.jp

授業コード	10205551		
授業科目名	文化人類学	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	早川 公		
成績担当教員氏名	早川 公		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

本科目は、文化人類学の考え方の修得をつうじて、「世界をわかりなおす」ための知識や態度を身につけます。これからの未来づくりを担うみなさんには、これまでの「あたりまえを疑う」ための道具が必要となります。そのための有用な「武器」になりうるのが文化人類学です。

皆さんも文化人類学を通じてともに思考のバージョンアップをしていきましょう。

到達目標

1. 自分の考えや価値観を言語化できる
2. 文化人類学に関する初歩的な知識・態度を理解する
3. 文化人類学的思考法に基づいて、現代社会を考察できる

授業計画

この授業は基本的に遠隔授業（オンデマンド）となります。講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出する形で実施予定です。ただし Youtube Live 形式での授業回も想定していますので、Google Classroom のストリームを随時確認してください。

第1回：オリエンテーション&マインドセット（世界を考える道具をつくろう）

授業の流れを紹介し、受講者が何を目的として学ぶかを言語化します。

第2回：世界のとらえ方①：自然と知識

「自然と文化」というあたりまえについて、自然に関する知識をとりあげて検討します。

第3回：世界のとらえ方②：技術と環境

「道具を作る動物」としての人間について、「技術」にまつわる人類学的議論をもとに検討します。

第4回：世界のとらえ方③：呪術と科学

「なぜ人間は呪術を信じるのか」というシンプルな問いから、世界との関わり方としての「科学」を考えます。

第5回：世界のとらえ方④：現実と異世界

文化人類学における「妖精」や「精霊」の議論から、「他者理解・異文化理解」について検討します。

第6回：価値と秩序が生まれるとき①：モノと芸術

「芸術（アート）」という観点から、人間のもつ創造性について考えます。

第7回：価値と秩序が生まれるとき②：贈り物と負債

「経済」とは何であるかを、経済人類学の議論をもとに検討します。

第8回：価値と秩序が生まれるとき③：貨幣と信用

「貨幣」とは何であるかを、経済人類学の議論をもとに検討します。

第9回：価値と秩序が生まれるとき④：国家とグローバリゼーション

「国家」とは何であるかを、人類学の議論をもとに検討します。

第10回：価値と秩序が生まれるとき⑤：戦争と平和

「戦争」とは何であるかを、人類学の議論をもとに検討します。

第11回：あらたな共同性へ①：子どもと大人

「私・自己」とは何であるかを、人類学の議論をもとに検討します。

第12回：あらたな共同性へ②：親族と名前

「家族」とは何であるかを、人類学の議論をもとに検討します。

第13回：あらたな共同性へ③：ケアと共同性

「福祉」とは何であるかを、人類学の議論をもとに検討します。

第14回：あらたな共同性へ④：市民社会と政治

「市民」とは何であるかを、人類学の議論をもとに検討します。

第15回：デブリーフィング

これまでの授業を振り返り、今後活かしていくための言語化をします。

授業内容は、受講生の関心や理解度によって前後します。

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

各回、事前学習は2時間、事後学習は2時間を目安とし、以下のようなことをおこなってください。

主な事前学習は、前の授業で伝えた疑問点や課題について調べてくること。

主な事後学習は、ツールを用いて振り返りを丁寧におこなうこと、また、小課題・期末課題に取り組むこと。

課題に対するフィードバックの方法

各種シートはコメントをつけて返却します。またフィードバック回ではより詳細にフィードバックします。

また中間テストは採点して返却し、理解の定着をはかります。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定します。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	各回のリアクション・ペーパーの量と質 (40)	1
授業外での評価	0		
期末試験	30	期末レポート (30)	2, 3
定期試験	0		
その他	30	小課題 (30)	2

テキスト	テキスト指定はしませんが、松村圭一郎ほか編『文化人類学の思考法』（世界思想社）の解説を中心に進めるので、必要であれば購入してください。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介します。
履修条件・他の科目との関連	とくになし。オンデマンドですが主体的な学びになるよう進めますので、そのつもりで受講してください。
担当教員への連絡方法	・早川 公 k-hayakawa@oiu.jp

授業コード	10200351		
授業科目名	社会学	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	三木 英		
成績担当教員氏名	三木 英		
単位数	2 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

社会学とは、我々がその只中で生きている社会を捉える方法である。その特徴を挙げれば、社会がすべてを決めるという社会決定論であり、絶対的なものを排除する相対主義のスタンスであり、また常識的見地から一步距離を置いた逆説的発想をそれと指摘できよう。社会学的視線は、それを学ぶ者に社会の新たな一面の発見をもたらす。仲間集団や家族から国家、さらには世界社会まで、人々の集まりである社会の知られざる側面を講義は指摘してゆくが、それが受講生に知的刺激を与え、延いては彼らの成熟した思考を涵養するであろう。

到達目標

- ①個人のことだけでなく個人を取り囲む社会のことを考えることができる。
- ②新聞、TVあるいはネットであれ、メディアに常に接して現代社会で起こっていることについて情報収集することができる。
- ③高い視点から包括的に物事を捉える「思考の癖」に親しむようになることを目標とする。

授業計画

【第1回】

テーマ：社会学とは何か（イントロダクション）

内容・方法：社会学という学問の諸特徴を論じ、この学問の姿を浮き彫りにしてゆく。

【第2回】

テーマ：社会学の古典：マックス・ヴェーバーの社会学

内容・方法：『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を中心に、ヴェーバー社会学の世界を展開する。

【第3回】

テーマ：社会学の古典：エミール・デュルケムの社会学

内容・方法：『自殺論』『社会分業論』を中心に、デュルケム社会学の世界を展開する。

【第4回】

テーマ：社会学の古典：ゲオルク・ジンメルの社会学

内容・方法：『闘争の社会学』『秘密の社会学』を中心に、ジンメル社会学の世界を展開する。

【第5回】

テーマ：自由という呪縛

内容・方法：エーリヒ・フロム『自由からの逃走』を題材にして、社会的現実の単純ならざるところを指摘してゆく。

【第6回】

テーマ：社会的機能の諸相

内容・方法：ロバート・マートン『社会理論と社会構造』を主たる題材として、「機能」への理解を促す。

【第7回】

テーマ：社会的逸脱論

内容・方法：犯罪・非行についての社会学的な説明理論の紹介。

【第8回】

テーマ：家族社会学

内容・方法：家族に関する社会学的議論の、その概要を呈示する。

【第9回】

テーマ：組織社会学

内容・方法：官僚制、寡頭制、インフォーマル・グループ等々、集団論・組織論に関わる重要概念について解説する。

【第10回】

テーマ：産業・経済の社会学

内容・方法：産業・経済に関わる諸側面（疎外・消費・資本主義・グローバル化等々）の社会学的解説を行なう。

【第11回】

テーマ：文化社会学

内容・方法：サブ・カルチャーやメディアを切り口として、現代文化に社会学的視線を注ぐ。

【第12回】

テーマ：宗教社会学

内容・方法：新宗教の躍進、カリスマの教祖への熱狂といった現象を中心に、人が宗教を求める理由に迫ってゆく。

【第13回】

テーマ：教育社会学

内容・方法：いじめ問題、あるいは学歴社会をキーワードとして、現代日本の教育の隠された部分に照射する。

【第14回】

テーマ：管理社会論・権力論

内容・方法：管理社会と化している現代社会の現実について、こと細かく解説してゆく。

【第15回】

テーマ：社会学とは何か（総括）

内容・方法：あらためて、社会学と何かを論じ、この学問の特異性・必要性について理解せしめる。

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

各回、事前学習2時間、事後学習2時間を想定している。

【第1回】

- ①事前学修課題：指定文献購読

②事後学修課題：講義ノートのまとめ（次回においてチェックする（以下、同じ））
【第2回】
①事前学修課題：指定文献購読（『プロ倫』解説書）
②事後学修課題：講義ノートのまとめ
【第3回】
①事前学修課題：指定文献購読（『自殺論』解説書）
②事後学修課題：講義ノートのまとめ
【第4回】
①事前学修課題：指定文献購読（ジメル社会学の解説書）
②事後学修課題：講義ノートのまとめ
【第5回】
①事前学修課題：指定文献購読（『自由からの逃走』解説書）
②事後学修課題：講義ノートのまとめ
【第6回】
①事前学修課題：指定文献購読（『社会理論と社会構造』解説書）
②事後学修課題：講義ノートのまとめ
【第7回】
①事前学修課題：指定文献購読（『レイベリング・セオリー』等の解説書）
②事後学修課題：講義ノートのまとめ
【第8回】
①事前学修課題：指定文献購読（『家族社会学』テキスト）
②事後学修課題：講義ノートまとめ
【第9回】
①事前学修課題：指定文献購読（ヴェーバー『官僚制』解説書）
②事後学修課題：講義ノートのまとめ
【第10回】
①事前学修課題：指定文献購読（ジャン・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』解説書）
②事後学修課題：講義ノートのまとめ
【第11回】
①事前学修課題：指定文献購読（ダニエル・ベル『資本主義の文化的矛盾』解説書）
②事後学修課題：講義ノートのまとめ
【第12回】
①事前学修課題：指定文献購読（安丸良夫『出口なお』）
②事後学修課題：講義ノートまとめ
【第13回】
①事前学修課題：「いじめ」をめぐる新聞・雑誌記事を蒐集しておくことを求める
②事後学修課題：講義ノートのまとめ、講義中の話題のなかで心に残った一つを選び、それについて感想文作成を求める
【第14回】
①事前学修課題：指定文献購読（ミシェル・フーコー『監獄の誕生』解説書）
②事後学修課題：講義ノートのまとめ
【第15回】
①事前学修課題：これまでの講義全体についての感想の呈示を求める
②事後学修課題：社会学に対するの自分なりの考え、そして好悪について、率直な意見をまとめることを求める（指定期日までの提出を課す）。

課題に対するフィードバックの方法

講義内で受講生個々に何らかの課題（レポート提出あるいは感想等の執筆）を与えた場合、その翌週当該時間に各々についてコメントを返す。

成績評価の方法・基準（方針）

講義中そして講義後に提出を求める小さな課題、講義中の態度、そして定期試験他により総合的に評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	講義内で4回程度提出が求められる簡便課題。	①②
授業外での評価	20	授業終了後に提出を求めるレポート（2回程度）。	①②
期末試験	0		
定期試験	40	定期試験期間中に実施される筆記試験。	①②③
その他	10	授業中の態度、質問・発言等に対する評価。	①②③

テキスト	プリントを配布する
参考書	講義中に適宜指示するが、受講生には自ら進んで社会学文献に触れておくことを期待する。文献については、簡便な解説書（読み物）ものから古典的なものまで、図書館において幅広く入手可能である。
履修条件・他の科目との関連	文化人類学関係の科目、あるいは歴史学関係の科目と並行して受講するなら、本講義への一層の理解が進むと思われる。
担当教員への連絡方法	・三木 英 mikia@oiu.jp

授業コード	10200401		
授業科目名	くらしの中の憲法	実務家教員による授業	○
授業担当教員氏名	三輪 淳之		
成績担当教員氏名	三輪 淳之		
単位数	2 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

憲法というと、自分たちにとっては遠い存在のように感じられ、あるいは法律の中でもとっつきにくいイメージがあるが、実際には憲法は、私たちが社会活動を行う中で大いに影響があり、無意識のうちに私たちも憲法の規律のもとにおかれている。

本授業では、遠い存在である憲法について、担当教員が長年に亘り、企業において「国際法務」業務に従事してきた経験をもとに、実務家教員として、実際に経験した実例を取り入れながら概説し、憲法の意味、適用のされ方やかたについて双方向授業の形式で学び、自らの頭で思考して意見を出すことを促すことによって、日常生活における法律行為や時事問題について解説をしていくことで、憲法を身近なものとするための実践的な学びの場とすることを狙いとす。

到達目標

1. 憲法そのものの存在意義や基本的な枠組みを理解する
2. 憲法的視点を身につけることにより、社会的・政治的問題について主体的に考え、あるいは検討することができるようになる。
3. 憲法という題材を通して、社会のあらゆる立場にある人の利害調整について多角的視点を持って検討することを身につける。

授業計画

第1回：ガイダンス - 日本国憲法とは？

1. 憲法の定義と目的
2. 憲法の基本原則と構造
「憲法の目的、法律の中の憲法の位置づけや大まかな構成について学ぶ」

第2回：天皇と象徴

1. 天皇の位置づけ
2. 天皇の仕事
「天皇の立場や仕事内容、財産を学ぶ」

第3回：人権の制限

1. 外国人
2. 公務員
3. 受刑者
4. 未成年
「日本人と外国人の人権は同じか、公務員の人権はどのように保障されるか；猿払事件等の判例をとりあげて解説する」

第4回：信教の自由

1. 思想良心の自由
2. 信教の自由
「国による宗教的行為とは何なのか；津地鎮祭事件等の判例を取り上げて解説する」

第5回：表現の自由とプライバシーの侵害

1. 表現の自由と知る権利（インターネット上の表現）
2. 検閲の禁止
3. 通信の秘密
4. プライバシー権（個人情報保護等）と肖像権
5. 学問の自由
6. 教育を受ける権利と義務教育
「プライバシーのあり方の変化と最近のネット社会での動きや、チャタレイ夫人事件等の判例を取り上げて表現の自由について解説し、大学の自治についても触れる」

第6回：婚姻の自由と男女平等

1. 婚姻の自由
2. 男女平等（社会・企業における取り組み）、
3. 再婚禁止期間
4. 積極的是正措置
「男女平等の歴史に触れ、女性の再婚禁止期間変更の法改正や、子供の父親確定ルール等について解説する」

第7回：勤労の権利・義務と生存権

1. 勤労の権利・義務と過重労働問題等
2. 職業選択の自由
3. 生存権（生活保護制度等）・財産権
4. 労働権（労働三権）
「働く権利と義務や職業を選ぶ自由について、そして過労死とブラック企業等について解説する」

第8回：立法と国会

1. 立法の仕事（選挙制度のあり方、国会組織・運営）
2. 国会議員の特権
「法律やルールができるまでの動きや、政治家の仕事・役割等について解説する」

第9回：行政と内閣

1. 行政権
2. 議院内閣制
3. 内閣総理大臣の役割と権限
4. 独立行政委員会
「首相や大臣はどうやって選ばれるのか、政治とは何か等について解説する」

第10回：司法と裁判所

1. 司法権
2. 裁判員制度
3. 違憲立法審査権
4. 裁判官の独立・権限
「裁判とは何か；裁判所の仕組みについて解説し、国民参加の裁判員制度等について解説する」

第11回：地方自治

1. 地方自治・住民投票（地方自治体の組織、大阪都構想）
「国と地方の政治や最近の大阪都構想と住民投票等について解説する」

第12回：憲法9条と自衛隊

1. 憲法9条
2. 自衛隊の位置づけ
3. 自衛権
「戦争放棄とは何を意味するのか；自衛隊の位置づけについて、砂川事件判例や百里基地事件判例等を取りあげて解説する」

第13回：憲法改正

<p>1. 現在議論されているトピック 2. 憲法改正手続 「世界の憲法改正状況と日本の憲法改正の議論について解説する」 第14回：国民の義務、新しい人権 「憲法制定時には想定しなかった新しいプライバシー権やLGBTの権利等について解説する」 第15回：「暮らしのなかの憲法」まとめ 「14回目までの総ざらいをする」</p>																								
事前事後の学習																								
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。																								
<p>各回、事前学習は2時間、事後学習は2時間を目安とする。</p> <p>・事前学習； テキストの該当箇所を読んで、疑問点を整理しておくこと。</p> <p>・事後学習； 毎授業の最後の10分間で、その授業の理解度を確認するために、「理解度テスト」を実施することを基本とする。</p>																								
課題に対するフィードバックの方法																								
理解度テスト（場合によってはレポート課題に代わる場合もあり）については、授業において評価ポイントの解説をおこない、採点及び解説を実施する。																								
成績評価の方法・基準（方針）																								
<p>以下に示すとおり、授業期間内に実施される理解度テスト（レポート課題に代わる可能性あり）、期末試験（レポート課題に代わる可能性あり）、授業への取り組み姿勢等を総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。</p> <p>正当な理由なく4回以上の欠席の場合、又は期末試験を受験しなかった場合、評価の対象とせず、「K」評価とする。</p>																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価の種類</th> <th>評価割合（%）</th> <th>評価方法・割合</th> <th>評価対象となる到達目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業内での評価</td> <td>30</td> <td>毎授業後の理解度テスト（レポート課題に代わる可能性あり）</td> <td>1, 2, 3</td> </tr> <tr> <td>授業外での評価</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>50</td> <td>全授業終了後に実施する試験又はレポート試験</td> <td>1, 2, 3</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>20</td> <td>授業に関する質問・議論参加（10）及び取り組み姿勢（10）</td> <td>1, 2, 3</td> </tr> </tbody> </table>	成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標	授業内での評価	30	毎授業後の理解度テスト（レポート課題に代わる可能性あり）	1, 2, 3	授業外での評価	0			期末試験	50	全授業終了後に実施する試験又はレポート試験	1, 2, 3	定期試験	0			その他	20	授業に関する質問・議論参加（10）及び取り組み姿勢（10）	1, 2, 3
成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標																					
授業内での評価	30	毎授業後の理解度テスト（レポート課題に代わる可能性あり）	1, 2, 3																					
授業外での評価	0																							
期末試験	50	全授業終了後に実施する試験又はレポート試験	1, 2, 3																					
定期試験	0																							
その他	20	授業に関する質問・議論参加（10）及び取り組み姿勢（10）	1, 2, 3																					

テキスト	<p>1. 「大学生のための日本国憲法入門」吉田 成利（慶應義塾大学出版会、2020年） 1,500円(税別) ISBN978-4-7644-2647-2</p> <p>2. 上記①に加えて、必要に応じて授業で配布する資料による。</p>
参考書	ポケット六法などの六法があれば望ましい
履修条件・他の科目との関連	<p>憲法についての知識がまったくない学生を歓迎します。</p> <p>新聞やインターネットの新聞記事に普段から目を通して、憲法に関連するトピックについてピックアップするとともに、何がとりあげられてどのような焦点が当てられているのかについて理解と関心を高めておくこと。</p>
担当教員への連絡方法	・三輪 淳之 a-miwa@oiu.jp

授業コード	10205851		
授業科目名	人権論	実務家教員による授業	○
授業担当教員氏名	金 洪仙		
成績担当教員氏名	金 洪仙		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

「21世紀は人権の世紀である」と言われる。日本国の人権教育は、同和問題の解決をめざすことから始まった同和教育の取り組みと、国連などでもとりあげられている国際的人権教育への取り組みが、一つの流れとして合流したものである。グローバルな人権問題を視野に入れながら、それぞれの国内の人権問題に取り組むのが人権教育である。

今、私たちの身の回りには、人命軽視の傾向や人権侵害の事実が数多く存在しており、私たちの人権意識の内実を見つめ直し、人権尊重の今日的意義を問い直すことが益々重要となっている。

そこで、新聞報道やビデオ等を活用し、日々生起する生活事例を教材として取り上げることで、差別と人権の問題を追求し、これからの人権教育の在り方について考えていく。長年にわたり教職に従事した実務経験をもとに、将来、教職・保育・幼稚園・福祉関係等の分野で活躍したい人にも役立つ授業を展開する。

到達目標

1. 「世界人権宣言」を読んで理解し、具体的に説明することができる
2. 日本国憲法「基本的人権」を読んで理解し、具体的に説明することができる
3. 「子どもの権利条約」を読んで理解し、具体的に説明することができる
4. 人権に関する時事問題に注視し、その内容について理解することができる
5. 人権学習を基礎として、人間が人間らしく生きるうえで欠くことのできない、自他の人権を尊重する生き方が実践できる

授業計画

- 【第1回】オリエンテーション（授業の概要と受講の心構え ささまざまな人権問題の提示）
- 【第2回】障がい者の人権1：ありのままの自分を受け入れ、自己肯定している当事者の姿を観せて解説する
- 【第3回】人命尊重＝命の授業1：人命尊重を「生存権」等多角的に取り上げ解説する
- 【第4回】「世界人権宣言」：外国での人権問題問題についてアムネスティなどの資料を取り上げ解説する
- 【第5回】「子どもの権利条約」1：「教育人権」について日本国憲法26条1項、世界人権宣言26条1項を取り上げ解説する
- 【第6回】人命尊重＝命の授業2：病死の視覚教材を取り上げ、かけがえのない命について解説する
- 【第7回】障がい者の人権2：「障害者差別解消法」を取り上げ解説する
- 【第8回】「子どもの権利条約」2：「児童の権利に関する条約28条1項」を取り上げ解説する
- 【第9回】戦争と平和：沖縄戦の犠牲者と基地問題について「日米安全保障条約」「日米地位協定」を取り上げ解説する
- 【第10回】マイノリティの人権1：多様な性についてLGBTQを取り上げ解説する
- 【第11回】人命尊重＝命の授業3：限りある命の尊さを可視化し解説する
- 【第12回】マイノリティの人権2：多文化共生について平成28年6月3日に施行された「ヘイトスピーチ解消法」を取り上げ解説する
- 【第13回】格差社会の問題を考える：「非正規雇用」の現状と課題をパワーポイント画像で示し解説する
- 【第14回】様々な人権蹂躞：冤罪・差別・イジメ等が重大な人権侵害であることを取り上げ解説する
- 【第15回】人権教育論まとめ

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

第1回

- 【事前】シラバスを熟読し、授業構成を理解する 1.0時間
- 【事後】オリエンテーションの内容から、多様な「人権」問題をノートに箇条書きし、内容を把握する 3.0時間

第2回

- 【事前】2006年12月13日に国連総会において採択され、2008年5月3日に発効した国連の「障害者権利条約」を調べておく 1.5時間
- 【事後】授業内容の復習 気付き・理解したことをノートに整理する 2.5時間

第3回

- 【事前】人命にかかわるニュースを調べておく 1.5時間
- 【事後】授業内容の復習 感想をノートに書いて整理しておく 2.5時間

第4回

- 【事前】紛争の続くイラク・シリア等の情勢についての予備知識を得ておく 1.5時間
- 【事後】「世界人権宣言」第1条～第5条まで読んで、解りやすい言葉でノートに整理しておく テキストを読む 2.5時間

第5回

- 【事前】すべての人に、教育を受ける権利があるということについて調べ、考えておく 1.5時間
- 【事後】「子どもの権利条約」全文（政府訳）の前文を自分の言葉でノートに書き直す テキストを読む 2.5時間

第6回

- 【事前】幼くして病死した子どもたちの本を探してノートに書いておく 1.5時間
- 【事後】授業内容の復習 感想文をノートに書く テキストを読む 2.5時間

第7回

- 【事前】日本の障害者基本法の改正（2011年）障害者総合支援法の制定（2012年）新たな障害者差別解消法（2016年4月施行）について調べておく 1.5時間
- 【事後】障害者福祉の理念としての「ノーマライゼーション」の概要について考察し、ノートに整理しておく テキストを読む 2.5時間

第8回

- 【事前】児童虐待防止法の施行（2000年）について調べておく 1.5時間
- 【事後】「子どもの権利条約」第1条～第5条まで読み、授業内容との関連性について考察し、ノートに整理しておく 2.5時間

第9回

- 【事前】沖縄の戦後史（米軍占領、本土復帰問題、米軍基地問題等について調べておく 2.5時間
- 【事後】授業で観たドキュメンタリー映像の感想文をノートに書いておく 1.5時間

第10回

- 【事前】LGBTQの人々に対する人権侵害を調べておく 1.5時間

【事後】同性婚を認めている国とパートナーシップ制度がある国を調べて列挙し、日本の現状とを比較してノートに整理しておく 2.5時間
第11回
【事前】「生」と「死」——よりよく生きるとは？を考える 1.5時間
【事後】SNSで中傷されたリイジメを受けたりして苦しみ、自死を選んだ人々に思いを馳せ、自分の考えをノートに書いておく 2.5時間
第12回
【事前】国連の「難民条約」等について調べておく 1.5時間
【事後】日本に在住する外国人が受けている人権侵害について調べ、ノートにまとめておく 2.5時間
第13回
【事前】日本における貧困と格差問題を調べておく 1.5時間
【事後】コロナ禍で困窮した人々、若年ホームレスや、ホームレス支援の雑誌「BIG ISSUE JAPAN」について考察し、ノートにまとめておく 2.5時間
第14回
【事前】自他の違いを認め合うことができない偏見や差別意識を考察する 1.5時間
【事後】「世界人権宣言」第6条～30条まで読んで解釈し、ノートに箇条書きにしておく 3.0時間
第15回
【事前】日本国憲法「幸福追求権」について調べておく 1.5時間
【事後】授業の振り返り 「ここまで解った人権こと」をまとめてノートに整理しておく 2.0時間

課題に対するフィードバックの方法

受講生の感想文・課題文やレポートをプリント配布またはパワーポイント等で公開する。(匿名)

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業期間中に実施される課題と、期末試験(レポート)の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由のない欠席5回以上、またはレポート課題を未提出の場合、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業内で課される課題	1
授業外での評価	50	テキストのレポート提出	4,2
期末試験	10	レポートの提出	5
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	キム・ホンソンという生き方/金洪仙/解放出版社/1620/978-4-7592-6753-2
参考書	*絵本「ラヴ・ユウ・フォーエバー」ロバート・マンチ、岩崎書店*「およぐひと」長谷川集平、解放出版社*コミック「リアル」井上雄彦、集英社 *「岳」石塚 真一、小学館*「THE BIG ISSUE JAPAN」主要駅付近の街頭でホームレス当事者が販売*「母子避難、心の軌跡」森松明希子、かもがわ出版(他は必要に応じて授業の中で紹介する)
履修条件・他の科目との関連	私語等で騒がしい場合は、退室させる。授業回数の3分の2以上の出席は基本。20分以上の遅刻は入室禁止。出席やレポートで不正があった場合は単位認定しない。
担当教員への連絡方法	・金 洪仙 h-kim@oiu.jp

授業コード	10200651		
授業科目名	統計学入門	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	岡本 容典		
成績担当教員氏名	岡本 容典		
単位数	2 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

統計学はデータを分析することによって、その特徴を整理・要約し、元の集団について推測する方法を学ぶ学問である。その考え方は経済学の理解にとって不可欠であるだけでなく、さまざまな社会現象の特徴や因果関係を考察するのにも役立つ。

本講義では統計学の基本的な考え方について解説すると共に、実際の各種数量データを用い、それらを統計的に分析するための手法について紹介していく。

到達目標

1. 経済学やビジネスの問題解決に必要な統計学を理解する。

授業計画

★この授業は、遠隔授業となります。リアルタイム型の遠隔授業（その授業時間に Zoom 等で参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施予定です。

1. ガイダンス
2. 確率と推定
3. 平均
4. 標準偏差
5. 正規分布(1)
6. 正規分布(2)
7. サンプル抽出
8. 中間テスト
9. 相関関係と因果関係
10. 回帰曲線(1)
11. 回帰曲線(2)
12. 推測統計学
13. ランダムサンプリング
14. 仮説検定
15. まとめ

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4-5時間が必要です。

【事前】 前回の授業内容を復習しておくこと。

【事後】 授業中に指示された課題を次回までに提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

小テストに関しては、次回の授業で解説を行う。中間テストは試験後に授業内で解説を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示すとおり、授業期間中に実施される小テスト・中間テストと、全授業終了後に実施される期末試験の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業中に実施される小テスト・中間テスト	1
授業外での評価	0		
期末試験	40	全授業終了後に実施される期末試験	1
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	マンガでわかる統計学、SB クリエイティブ、大上丈彦、1,047 円、ISBN-13: 978-4797342512
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	「コンピュータ基礎演習Ⅱ」「経済数学」を修得していることが望ましい。
担当教員への連絡方法	・岡本 容典 okamoto@oiu.jp

授業コード	10206003		
授業科目名	人間と環境	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	東 泰好		
成績担当教員氏名	東 泰好		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

私たちの生存・健康・暮らしは、地球という惑星の環境の中で成り立っています。いま、地球上で起きている様々な環境変化（劣化）に目を向け、これらが人間の営みと大きく関係していることを説明し、これから先も持続可能な暮らしをしていくためにはどのようなことが必要かを概説します。

到達目標

1. 環境が人間の健康に影響を与えることを理解し、説明できるようになる。
2. 環境保全を含めたSDGsに関する理解を高め、持続可能な社会の実現に向けた高い意識をもてるようにする。
3. 健康の維持に必要な安全な農作物の生産についての理解を高め、今後の食生活に活かせるようにする。

授業計画

- 第1回 講義のオリエンテーション：「人間と環境」に関するイントロダクションを行います。
- 第2回 宇宙船地球号：人類に残された時間（環境危機時計・地球カレンダー）について説明します。
- 第3回 環境が生命・健康に及ぼす影響：環境が動植物の生命・健康にどのように影響するかを説明します。
- 第4回 公害問題：日本の四大公害と環境基本法について説明します。
- 第5回 生活環境の公害（騒音・振動・悪臭）と産業廃棄物：豊島問題などの実例を挙げながら説明します。
- 第6回 健全な水の循環と利用：上水道・下水道の役割と関連法規について説明します。
- 第7回 私たちの身の回りの環境問題：私たちが使用のお薬が環境に及ぼす影響について説明します。
- 第8回 前半のまとめと復習（中試験あり）
- 第9回 化学物質による環境汚染：農薬やその他の環境中の有害物質について学びます。
- 第10回 放射能汚染：放射能の有害性を説明し、福島原発事故による農畜産物や土壌の放射能汚染について考えます。
- 第11回 地球温暖化・気候変動：二酸化炭素濃度の経年変化・オゾン層の破壊について説明します。
- 第12回 プラスチック問題：マイクロプラスチックを含めたプラスチックごみの海洋汚染について説明します。
- 第13回 農業と環境：持続可能な農業生産について考えます。
- 第14回 持続可能な社会と環境：人類が地球上の他の生き物たちと共に持続可能な暮らしをするために必要なことは？
- 第15回 後半のまとめと復習（中試験あり）

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

1.5時間の事前学習と2.5時間の事後学習が必要です。

事前に参考書などの文献に目を通し、加えてインターネットなどによって基礎的知識や事例を身につけておくこと（1.5時間の事前学習）が必要です。

事後に講義ノートを整理しながら復習することやレポート試験に解答すること（2.5時間の事後学習）が必要です。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパー、授業内試験、期末レポート試験は、いずれも Google Classroom を用いての提出とし、これに対し、できるだけ速やかなフィードバックを行います。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定します。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	各回講義リアクションペーパー（30） 授業内試験（40） （第8回授業「前半のまとめと復習」および第15回授業「後半のまとめと復習」の際に試験を実施）	1, 2, 3
授業外での評価	0		
期末試験	30	期末レポート(30)	1, 2, 3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用しません。
参考書	・文系のための環境科学入門新版・藤倉良ら著・有斐閣・¥2,484・ISBN-13:978-4641174238 この他に必要に応じて授業の中で紹介します。
履修条件・他の科目との関連	テキストや配布資料がなく、講義中のノートテイキング重視の講義ですので、各自がしっかりと自分自身のノートを作成するとともに、参考書を手元において予習と復習をしっかりと行うことが求められます。 ・状況により授業内容の一部および順番を変更する場合があります。
担当教員への連絡方法	・東 泰好 y-azuma@oiu.jp

授業コード	10206051		
授業科目名	人間と環境	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	眞鍋 昇		
成績担当教員氏名	眞鍋 昇		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

最新の生命科学は、様々な環境要因が遺伝子の発現に影響する（エピジェネティクス）ことを明らかにしてきています。人間の健康は、食料生産を含む持続可能な社会の構築を基盤とした環境との調和・共存によって維持されています。

この講義では、世界各地で問題を引き起こしてきた様々な公害、放射性物質や化合物による地球環境汚染などの不幸な出来事とそれらへの対処方法などを具体的に概説しながら、すべての人間が幸せに暮らすための基盤となる人間と環境との関係を科学的に説明し、将来健康に過ごすために欠かすことができない基盤的知識とスキルを身につけます。

到達目標

- 1) 環境が人間の遺伝子の発現に影響することを、科学的かつ具体的に実例をあげながら説明できるようになります。
- 2) 過去に人間が環境を破壊したために引き起こされた様々なできごとについて、科学的かつ具体的に実例をあげながら説明し、それを防ぐ方法について具体的に提言できるようになります。
- 3) 地球規模で問題化している環境の保全と共存のための手法について、科学的かつ具体的に実例をあげながら説明できるようになります。
- 4) 将来健康に過ごすために欠かすことができない大気、大地、水系、食料などの環境に関わる

授業計画

前期の講義を遠隔授業として実施し、後期の講義を対面授業として実施する予定である。

遠隔授業は、リアルタイム型（授業の時間に Zoom などに参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間内に視聴し、所定の課題を決められた期日までに提出するオンデマンド型で実施する予定である。

- 第1回 講義のオリエンテーション：人間と環境に関するイントロダクション。
- 第2回 エピジェネティクス：環境が遺伝子発現に影響することを最新の生命科学にもとづいて説明します。
- 第3回 環境科学の重要性：人間に残された時間（環境危機時計・地球カレンダー）などについて説明します。
- 第4回 日本の四大公害（水俣病・新潟水俣病・イタイイタイ病・四日市ぜんそく）と環境基本法などについて説明します。
- 第5回 健全な水の循環と利用（1）：上水道の役割と上水道基準について歴史的経緯を含めて説明します。
- 第6回 健全な水の循環と利用（2）：下水処理と水質汚濁（水質汚濁防止法）などについて説明します。
- 第7回 前半のまとめと復習（中試験）
- 第8回 生活環境の公害（騒音・振動・悪臭）と産業廃棄物：豊島問題を例にあげながらリサイクルについて考えます。
- 第9回 化学物質による環境汚染（1）：農薬の安全性評価法と問題点および対処方法について実例をあげながら考えます。
- 第10回 化学物質による環境汚染（2）：環境中の有害物質と基準について説明します。
- 第11回 放射能汚染（1）：放射性核種の科学と有害性について説明します。
- 第12回 放射能汚染（2）：福島原発事故による農畜産物や土壌の放射能汚染などについて実例をあげながら対処方法を考えます。
- 第13回 地球温暖化のもたらすもの：二酸化炭素濃度の経年変化・オゾン層の破壊などについて説明します。
- 第14回 地球規模での環境問題：持続可能な農業生産について考えます。
- 第15回 後半のまとめと復習（中試験）

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

この授業は講義形式でおこなうので受動的学習となり、アクティブラーニングの要素を含みませんが、事前に積極的に教科書、参考書の講義やオンラインを通じて配布する講義用のパワーポイントのpdfの精読、インターネット検索などによる基礎的知識を身につけたうえで受講することなどがが必要です（1. 5時間の事前学習）。

事後に講義ノートを整理しながら復習すること、および受講レポートの作成やレポート試験に解答することなどが必須です（2. 5時間の事後学習）。

課題に対するフィードバックの方法

試験などを実施する場合を除いて、授業毎に「講義の概要」と「講義をうけて新たに分かったことや自分で考えたこと、質問したかったことなど」などを記述した受講レポートを実施しますが、提出締め切りを過ぎた場合は受理しません。受講レポートを受理した場合には、出席簿への記入とレポートに対するコメントをオンラインで返信し、質問があった場合には適時講義中に解説します。講義内で小試験や中試験を実施した場合には、模範解答と採点基準を付して答案をオンラインで返却し、復習を即します。

成績評価の方法・基準（方針）

下記のように、受講の平常点（受講レポートの提出）および授業内試験としてレポート形式で行う小試験と中試験ならびに期末試験によって成績を総合的に評価します。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内試験として、小試験と中試験としてレポート試験を行います。小試験は適時に実施します。「前半のまとめと復習」と「後半のまとめと復習」の際に中試験を実施します（教員が提示した課題に対するレポートおよび前半の講義の取りまとめ）：30点	1, 2
授業外での評価	40	受講毎の平常点として受講レポートの提出を実施します（受講後に提出する受講レポートの内容を評価します。ただし、小試験・中試験を行う場合には受講レポートの提出を求めないことがあります。）：40点	1, 2
期末試験	30	期末試験（終講後に実施します。教員が提示する課題に対するレポートの内容を評価します）：30点	3, 4
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	「文系のための環境科学入門新版」・藤倉良ら著・有斐閣・ISBN-13:978-4641174238 オンラインを通じて授業毎に講義用のパワーポイントのpdfを配布します。
------	--

参考書	<p>「トコトンやさしい環境汚染の本」・大岩敏男ら著・日刊工業新聞社・ISBN-13:978-4526073007</p> <p>「健康と環境の科学：人類の明るい未来を目指して」・三浦悌ら著・南山堂・ISBN978-4-525-61101-9</p> <p>上記の他に必要に応じて授業の中で紹介します。</p>
履修条件・他の科目との関連	<p>テキストと参考書およびオンラインを通じて配布する講義用のパワーポイントのpdfなどを用いて予習・復習を行って受講してください。講義に際しては、各自がしっかりと自分自身の講義ノートを作成することが求められます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状況により授業内容の一部および順番を変更する場合があります。 ・受講レポート、授業内試験（小試験、中試験、レポート試験）レポート形式の定期試験などは締切期限までに必ず提出してください。提出が遅れた場合は評価しません。
担当教員への連絡方法	<ul style="list-style-type: none"> ・眞鍋 昇 n-manabe@oiu.jp

授業コード	10209751		
授業科目名	地球の科学	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	矢島 彰		
成績担当教員氏名	矢島 彰		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

現代における人間の社会活動は科学を基盤としたものになっています。なぜ人間だけが地球上の他の生物と異なるレベルで科学を活用しているのでしょうか。人間の誕生のプロセスを地球の歴史と共に知ることで、人間の科学の誕生とその根底にある地球の科学が密接に関連していることがわかります。また、人間は今、自分たちの科学では制御できない自然現象にどのように対応すべきかを考える時期に到達しています。人間の存在が地球環境に及ぼす影響が無視できないほど大きくなりました。これからの人間の科学がどうあるべきなのか、災害をキーワードにして考えていきます。

到達目標

1. 科学とは何かを理解し、様々な説や見解が科学的見地に基づいているかを分別できる。
2. 地球誕生から人類の誕生へ至る経緯を理解し、なぜ科学が誕生したかを説明できる。
3. 現在の人類にとって重要な課題である防災の科学を知り、これからの科学のあり方について説明できる。

授業計画

★この授業は、遠隔授業となります。リアルタイム型の遠隔授業（その授業時間に Zoom 等で参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施予定です。

各回の演習問題は、授業内容について理解し、自分の言葉で説明することができるかを問う記述問題（50 字～200 字を 1 問～5 問程度）です。

【第 1 回】

テーマ：地球科学の様々な量

内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む

【第 2 回】

テーマ：似非科学とのつきあい方

内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む

【第 3 回】

テーマ：地震予測に挑む

内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む

【第 4 回】

テーマ：地震のしくみと被害

内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む

【第 5 回】

テーマ：加速する異常気象との闘い

内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む

【第 6 回】

テーマ：大水害・海面上昇と地盤沈下

内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む

【第 7 回】

テーマ：大水害・水害に強い都市計画

内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む

【第 8 回】

テーマ：地球大進化<第一集>生命の星 大衝突からの始まり

内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む

【第 9 回】

テーマ：地球大進化<第二集>全球凍結 大型生物誕生の謎

内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む

【第 10 回】

テーマ：地球大進化<第三集>大海からの離脱 そして手が生まれた

内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む

【第 11 回】

テーマ：地球大進化<第四集> 大量絶滅 巨大噴火がほ乳類を生んだ

内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む

【第 12 回】

テーマ：地球大進化<第五集> 大陸大分裂 目に秘められた物語

内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む

【第 13 回】

テーマ：地球大進化<第六集> ヒト 果てしなき冒険者

内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む

【第 14 回】

テーマ：総合演習（防災）

内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む

【第 15 回】

テーマ：総合演習（地球大進化）

内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む

事前事後の学習

授業（1 回につき 2 時間として計算）と事前事後のあわせて 1 単位あたり 4 5 時間が必要です。

各回、事前学修は2時間、事後学修は2時間を想定しています。

【第1回】

- ①事前学修課題：基本用語事前調べ
- ②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出

【第2回】

- ①事前学修課題：基本用語事前調べ
- ②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出

【第3回】

- ①事前学修課題：基本用語事前調べ
- ②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出

【第4回】

- ①事前学修課題：基本用語事前調べ
- ②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出

【第5回】

- ①事前学修課題：基本用語事前調べ
- ②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出

【第6回】

- ①事前学修課題：基本用語事前調べ
- ②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出

【第7回】

- ①事前学修課題：基本用語事前調べ
- ②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出

【第8回】

- ①事前学修課題：基本用語事前調べ
- ②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出

【第9回】

- ①事前学修課題：基本用語事前調べ
- ②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出

【第10回】

- ①事前学修課題：基本用語事前調べ
- ②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出

【第11回】

- ①事前学修課題：基本用語事前調べ
- ②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出

【第12回】

- ①事前学修課題：基本用語事前調べ
- ②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出

【第13回】

- ①事前学修課題：基本用語事前調べ
- ②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出

【第14回】

- ①事前学修課題：基本用語事前調べ
- ②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出

【第15回】

- ①事前学修課題：基本用語事前調べ
- ②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出

課題に対するフィードバックの方法

GoogleClassroom での評価・コメントを用いる予定です。

成績評価の方法・基準（方針）

各授業の課題提出によって評価します。

成績評価の種類	評価割合（％）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	90	授業内容の理解度を問う設問への解答状況や、授業のテーマについての自身の意見表明の内容を評価します。	1,2,3
期末試験	10	期末レポート（オンライン提出）を評価します。	1,2,3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	利用しません。
参考書	授業時に随時紹介します。
履修条件・他の科目との関連	特になし
担当教員への連絡方法	・矢島 彰 yajima@oiu.jp

授業コード	10200851		
授業科目名	コンピュータ基礎演習	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	藤居 大樹		
成績担当教員氏名	藤居 大樹		
単位数	2 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

ビジネス社会においてはもちろん、大学の授業においてもワープロソフトを用いて、簡単なレポートを作成したり、作成した文書をメールに添付して送ったりすることがごく普通に行われるようになってきた。

そこで、これらの能力を身につけるために、代表的なワープロソフトである Word や表計算ソフトである Excel の基礎について概説し、効率的な文字入力及びかな漢字変換、文章の校正、書式の設定についての演習を行う。さらに、図や表入りの文書の作成、ビジネス文書の作成、ビジュアルな文書の作成、レポート・論文に役立つ機能を中心に解説する。

到達目標

1. パソコンの基本操作ができる。
2. 効率的なかな漢字変換ができる。
3. 図や表をバランスよく配置した文書の作成ができる。
4. ワープロソフトに関する基本的用語の意味について説明ができる。
5. ビジネス文書の構成について理解している。
6. 簡単なビジネス文書の作成ができる。
7. レポート・論文作成に Word の機能を活用できる。

授業計画

第1回 Excel(1)：Excel の概要

教科書の例題と練習問題に取組みスキルを定着させる。

第2回 Excel(2)：データ入力と数式作成

教科書の例題と練習問題に取組みスキルを定着させる。

第3回 Excel(3)：書式設定と行/列の操作

教科書の例題と練習問題に取組みスキルを定着させる。

第4回 Excel(4)：基本的な関数

教科書の例題と練習問題に取組みスキルを定着させる。

第5回 Excel(5)：相対参照と絶対参照

教科書の例題と練習問題に取組みスキルを定着させる。

第6回 Excel(6)：グラフ機能

教科書の例題と練習問題に取組みスキルを定着させる。

第7回 Excel(7)：Excel の復習

教科書の例題と練習問題に取組みスキルを定着させる。

第8回 Excel(8)：Excel の復習

教科書の例題と練習問題に取組みスキルを定着させる。

第9回 Word(1)(2)：Word の基礎、文章の入力と校正、文書作成と文字書式、段落書式

教科書の例題と練習問題に取組みスキルを定着させる。

第10回 Word(3)：ビジネス文書の基本形式とページ書式

教科書の例題と練習問題に取組みスキルを定着させる。

第11回 Word(4)：表作成と表編集の基礎

教科書の例題と練習問題に取組みスキルを定着させる。

第12回 Word(5)：表の応用

教科書の例題と練習問題に取組みスキルを定着させる。

第13回 Word(6)：社外ビジネス文書の基本形式内容・方法等

教科書の例題と練習問題に取組みスキルを定着させる。

第14回 Word(7)：図形描画

教科書の例題と練習問題に取組みスキルを定着させる。

第15回 Word(8)：ビジュアルな文書の作成

教科書の例題と練習問題に取組みスキルを定着させる。

第16回 Word(9)：Word 復習

教科書の例題と練習問題に取組みスキルを定着させる。

第17回 Word(10)：レポートの作成

教科書の例題と練習問題に取組みスキルを定着させる。

第18回 Word(11)：レポートの作成

教科書の例題と練習問題に取組みスキルを定着させる。

第19回 総合課題のための Word、Excel の復習

教科書の例題と練習問題に取組みスキルを定着させる。

第20回 総合演習(1)

Word・Excel の連携

第21回 PowerPoint(1)(2)(3)：スライド作成の基礎

教科書の例題と練習問題に取組みスキルを定着させる

第22回 PowerPoint(4)(5)(6)：スライドのデザイン・図表の利用

教科書の例題と練習問題に取組みスキルを定着させる。

第23回 PowerPoint(7)(8)(9)(10)：プレゼンテーションの実際

教科書の例題と練習問題に取組みスキルを定着させる。

<p>第24回 PowerPoint(11)：PowerPointの復習 教科書の例題と練習問題に取組みスキルを定着させる。</p> <p>第25回 総合課題のためのWord、Excel & PowerPoint：PowerPointの復習 教科書の例題と練習問題に取組みスキルを定着させる。</p> <p>第26回 総合演習(2)：最終課題に取組む Word・Excel・PowerPointの連携</p> <p>第27回 総合演習(1)(2)：総合演習(1)(2)の追加編集と提出課題の再編集 課題問題、総合課題の再取組み</p> <p>第28回 総合演習(1)(2)：総合演習(1)(2)の追加編集と提出課題の再編集 課題問題、総合課題の再取組み</p> <p>第29回 Google Driveと授業のまとめ クラウドサービスによるファイル管理</p> <p>第30回 スマートデバイスアプリ アプリの利用と連携</p>
--

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

事前学習として1回目はシラバスの内容を、2～30回は各回に対応するテキストの内容を読み、内容を理解しておくこと。また、事後学習として授業で解説された内容を復習しておくこと。各回につき0.5時間以上の事前学習及び0.5時間以上の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内の課題については、机間巡視により理解度を把握し、間違いや優れた点の指摘、助言等を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

各回の演習時の取組態度、演習課題の達成度と全授業終了後に実施される期末試験の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。期末試験を未提出の場合、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合（％）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業期間中に実施される課題・レポート	1、2、3、4、5、6、7
授業外での評価	0		
期末試験	40	全授業終了後に実施される期末試験	1、2、3、4、5、6、7
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	「コンピューターリテラシー Microsoft Office Word&PowerPoint 編 [改訂版]、花木泰子・浅里京子著、日本理工出版会、ISBN978-4-89019-524-4」 「コンピューターリテラシー Microsoft Office Excel 編 [改訂版]、多田憲孝・内藤富美子 著、日本理工出版会、ISBN978-4-89019-525-1」
参考書	「コンピューターリテラシー Microsoft Office Word&PowerPoint 編、花木泰子・浅里京子著、日本理工出版会、ISBN978-4-89019-524-4」 「コンピューターリテラシー Microsoft Office Excel 編、多田憲孝・内藤富美子著、日本理工出版会、ISBN978-4-89019-525-1」 所持者は上記テキスト購入不要
履修条件・他の科目との関連	他の科目で必要となるレポート作成やプレゼンテーションの技能を修得する必修科目であるため、必ず合格するように取組むこと。
担当教員への連絡方法	・藤居 大樹 h-fujii@oiu.jp

授業コード	10206451		
授業科目名	コンピュータの活用III(マルチメディア)	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	西本 秀樹		
成績担当教員氏名	西本 秀樹		
単位数	1 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要			
情報通信技術の発達により、画像や音声、映像など様々なデータ形式のメディアを個人でも容易かつ安価に扱える時代となっている。また、クラウドシステムやビッグデータ、IoT の活用も盛んになってきた。本講義では、そのような環境を説明しながら、ビジネスや公共の場での応用と一緒に考えていく。授業形態は講義を中心としますが、ネット参照しながら易しく進める。本講は実習形式で行う。			
到達目標			
1. 社会でのコンピュータ活用を知る 2. データサイエンスの基礎を知る 3. 最新のコンピュータ応用を考える			
授業計画			
【第1回】 オリエンテーション 【第2回】 クラウドシステムとは 【第3回】 アミューズメントへの応用1 【第4回】 アミューズメントへの応用2 【第5回】 ゲームの世界1 【第6回】 ゲームの世界2 【第7回】 確認テスト1とフィードバック 【第8回】 ビジネスモデル 【第9回】 電子決済について 【第10回】 情報セキュリティについて 【第11回】 デジタルコンテンツ 【第12回】 ビッグデータとマルチメディア 【第13回】 人工知能とマルチメディア 【第14回】 自動運転への応用 【第15回】 確認テスト2とフィードバック			
事前事後の学習			
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。			
関連事項等をリサーチしたり、授業後ノートの該当箇所を再読、整理復習し、授業を振り返ること、課題が出た場合、課題を行うことを求める。毎回、復習には十分な時間を確保すること。			
課題に対するフィードバックの方法			
授業内課題についてはその都度、コメント等のフィードバックを行う。質問は常時受け付ける。			
成績評価の方法・基準（方針）			
課題内容を中心に評価する。授業内で課される簡便課題と確認テストの評価が 70%、全授業終了後に実施するレポート試験が 30% である。単位認定は、課題を全て提出していることが条件である。			
成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業内で課される簡便課題評価 35 確認テスト評価 35	1,2,3
授業外での評価	0		
期末試験	30	全授業終了後に実施するレポート試験 30	1,2,3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	毎回の復習は怠らないこと。グループでの作業を伴うことがあるので欠席時はできるだけ事前連絡すること。
担当教員への連絡方法	・西本 秀樹 nisimoto@oiu.jp

授業コード	10206551		
授業科目名	コンピュータの活用IV(データベース)	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	西本 秀樹		
成績担当教員氏名	西本 秀樹		
単位数	1 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

現代の社会では、データベース、ビッグデータと呼ばれる巨大データを扱いながら様々なインターネット応用が考えられている。この講義では、インターネットで結ばれた様々なデータサイトを参照しながら、データベース活用を元にワークショップ形式で学習をおこない、複数のメンバーから成るチームで作業することになる。この科目は実習科目である。

到達目標

1. データベースの基礎を知る
2. データ活用を実践する
3. チーム作業でコンピュータ応用を考える

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション
- 【第2回】 データベースシステムとは
- 【第3回】 パーソナルベースへのネット応用1
- 【第4回】 パーソナルベースへのネット応用2
- 【第5回】 チーム作業1-1
- 【第6回】 チーム作業1-2
- 【第7回】 発表会、評価会1
- 【第8回】 ビジネスモデル
- 【第9回】 ビジネスへのネット活用1
- 【第10回】 ビジネスへのネット活用2
- 【第11回】 デジタルコンテンツ
- 【第12回】 チーム作業2-1
- 【第13回】 チーム作業2-2
- 【第14回】 チーム作業2-3
- 【第15回】 発表会、評価会2

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

関連事項等をリサーチしたり、授業後ノートの該当箇所を再読、整理復習し、授業を振り返ること、課題が出た場合、課題を行うことを求める。毎回、復習には十分な時間を確保すること。

課題に対するフィードバックの方法

授業内課題についてはその都度、コメント等のフィードバックを行う。質問は常時受け付ける。

成績評価の方法・基準（方針）

課題内容を中心に評価する。授業内で課される簡便課題と確認テストの評価が70%、全授業終了後に実施するレポート試験が30%である。単位認定は、課題を全て提出していることが条件である。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業内で課される簡便課題評価 35 プレゼンテーション作品評価 35	1,2,3
授業外での評価	0		
期末試験	30	全授業終了後に実施するレポート課題 30	1,2,3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	毎回の復習は怠らないこと。グループでの作業を伴うことがあるので欠席時はできるだけ事前連絡すること。
担当教員への連絡方法	・西本 秀樹 nisimoto@oiu.jp

授業コード	10201001		
授業科目名	情報の科学	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	野村 孝久		
成績担当教員氏名	野村 孝久		
単位数	2 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

現在の情報社会において、情報は大きな価値を持ち、これらはコンピューターを用いた情報システムにより管理・運用されている。情報システムとは、社会や企業等の活動に必要な情報の利活用に関わるしくみである。情報社会を生きる者にとって、情報を理解しコンピューターを適切に使いこなす能力は不可欠といえよう。本授業では、情報社会とコンピューターとの関わり、数値・文字・画像などのデータ表現、コンピューターのハードウェアとソフトウェアの構成とその動作原理、情報ネットワークのしくみ、セキュリティー、効果的な情報デザイン手法、生活・ビジネス・ものづくりを支える情報システム、情報モラル、未来の情報技術等について解説する。

到達目標

1. 情報社会とコンピューター及び情報システムの間わりについて説明できる。
2. コンピューターにおけるデータ表現・ハードウェア・ソフトウェアの概要とその動作原理を説明できる。
3. 情報ネットワークのしくみとセキュリティー及び情報モラルについて説明できる。
4. 効果的な情報デザイン手法について説明できる。
5. 生活・ビジネス・ものづくりを支える情報システムについて説明できる。
6. これからの情報社会の展望について説明できる。

授業計画

この授業は、遠隔授業となります。リアルタイム型の遠隔授業(その授業時間に Zoom 等で参加する方法)ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施予定です。

- 第1回 コンピューターとは(授業の進め方、受講ルール、情報社会におけるコンピューター等)
- 第2回 データ表現(アナログとデジタル、数値・文字・画像・動画・音の表現、データの圧縮等)
- 第3回 ハードウェアの構成(コンピューター機器の構成、制御装置・演算装置、記憶装置、入出力装置等)
- 第4回 ソフトウェアの構成(オペレーティングシステム、アプリケーションソフトウェア等)
- 第5回 アルゴリズムとプログラム(流れ図、基本的な制御構造、データ構造、ソフトウェア開発等)
- 第6回 ソフトウェアの応用(データベース、CG、人工知能とソフトコンピューティング等)
- 第7回 通信のしくみ(ネットワークの構成、通信プロトコル、インターネットのしくみ等)
- 第8回 インターネットの利用(インターネットへの接続方法とサービス、セキュリティー対策等)
- 第9回 情報デザイン(情報の構造化、レイアウト、文字等)
- 第10回 生活を支える情報システム(電子行政と電子認証、気象・防災システム、医療情報システム等)
- 第11回 ビジネスを支える情報システム(電子商取引、電子決済、販売時点情報管理システム等)
- 第12回 ものづくりを支える情報システム(設計・製造・生産管理における情報システム等)
- 第13回 情報モラル(著作権問題、ネット上のルールとマナー、情報漏えいと対策、サイバー犯罪等)
- 第14回 これからの情報社会(未来の情報技術、未来の情報社会と人間等)
- 第15回 学習のまとめ

事前事後の学習

授業(1回につき2時間として計算)と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。

授業(1回につき2時間として計算)と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。
各回に対応するテキストの内容を事前に熟読し概要を理解しておくこと。また事後には、学んだ重要キーワード及びその周辺事項について、インターネットを用いて調査すること。各回につき2時間以上の事前学習および2時間以上の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で実施した小テスト等の解答・解説を行う。これにより自己採点と復習を可能とする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業期間中に実施される課題・レポートと、全授業終了後に実施される期末試験の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
期末試験を未提出の場合、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業期間中に実施される課題・レポート	1、2、3、4、5、6
授業外での評価	0		
期末試験	40	全授業終了後に実施される期末試験	1、2、3、4、5、6
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	・コンピューターと情報システム、福田真規夫 監修、日本理工出版会、2,500円(税別)、ISBN978-4-89019-528-2 ・資料を必要に応じて配付する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・本科目と並行して「コンピュータ基礎演習」を履修することが望ましい。 ・欠席した場合は、その回の学習内容・課題等を担当教員に聞き、自習しておくこと。
担当教員への連絡方法	・野村 孝久 nomura@oiu.jp

授業コード	10206651		
授業科目名	情報と社会	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	植松 康祐		
成績担当教員氏名	植松 康祐		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要			
コンピュータの歴史から現状を知る。また、社会での IT 化の流れを押さえる。将来の変革に対応する知識を得る。			
到達目標			
1.コンピュータの仕組みと通信システムの概要を理解した上で、現在の情報化社会の構造を学ぶ。 2.また、情報化の波によって、今後変革する仕事についても理解を深める。			
授業計画			
講義中に必ず、理解を深めるために、確認テスト、課題を出す。 1 回目 コンピュータハードウェアの発展とその歴史 2 回目、3 回目、4 回目において、ハードウェアの構造と仕組みについて学ぶ。 5 回目、6 回目、7 回目において、ソフトウェアの構造と仕組みについて学ぶ。 8 回目、通信システムの構造を理解する。 9 回目、セキュリティに関する知識を学ぶ。 10 回目、IT 化による社会の変化とその対応。 11 回目、日本企業の世界の中での位置づけ。 12 回目、半導体を含む世界での動向を学ぶ。 13 回目、DX (デジタル・トランスフォーメーション) による社会の変化 14 回目、IT による働き方の変化 15 回目、総合演習			
事前事後の学習			
授業 (1 回につき 2 時間として計算) と事前事後のあわせて 1 単位あたり 4.5 時間が必要です。 事前の学習：各課題に対応して、インターネットなどで情報を得ておく。 事後の学習：講義中に出された課題について、調査研究を行う。			
課題に対するフィードバックの方法			
課題に対しては、内容をチェックして、必ず返還する。再度、提出によって評価を行う。			
成績評価の方法・基準 (方針)			
毎回の確認テスト、課題、総合演習、期末試験で評価する。			
成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	講義内での課題提出で評価	1 と 2
授業外での評価	20	課題の提出で評価	1 と 2
期末試験	40	確認テストで評価	1 と 2
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	講義時間中に資料を配布する。
参考書	講義中にお知らせします。
履修条件・他の科目との関連	コンピュータ関係の実習科目
担当教員への連絡方法	・植松 康祐 uematsu@oiu.jp

授業コード	10206652		
授業科目名	情報と社会	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	間島 勝彦		
成績担当教員氏名	間島 勝彦		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

現在の情報社会において、情報は大きな価値を持ち、これらはコンピューターを用いた情報システムにより管理・運用されている。情報システムとは社会や企業等の活動に必要な情報の利活用に関わるしくみのことであり、この授業では効果的な情報デザイン手法、生活・ビジネス・ものづくりを支える情報システム、情報モラル、未来の情報技術等について解説していく。

授業は、講義・ディスカッション及び演習を取り交ぜた形態で行われる。

到達目標

1. 効果的な情報デザイン手法を使ってコンテンツを作成することができる。
2. 生活・ビジネス・ものづくりを支える情報システムについて説明できる。
3. 情報モラル及びセキュリティについて説明できる。
4. 未来の情報社会と情報システムについて説明できる。
5. 上記の知識を用いて、身の回りにおける情報システムのしくみを概説することができる。

授業計画

- 【第1回】情報システムとは（授業の進め方、受講ルール、情報システムの概要等）
- 【第2回】情報デザイン（情報の構造化、レイアウト、文字等）
- 【第3回】生活を支える情報システム（1）（電子行政と電子認証、気象・防災システム）
- 【第4回】生活を支える情報システム（2）（交通関連システム、医療情報システム）
- 【第5回】生活を支える情報システム（3）（情報家電と組み込みシステム、日常生活の進化）
- 【第6回】ビジネスを支える情報システム（1）（電子商取引、電子決済）
- 【第7回】ビジネスを支える情報システム（2）（販売時点情報管理、顧客情報管理、企業資源管理計画等）
- 【第8回】ビジネスを支える情報システム（3）（供給連鎖管理システム、ネットビジネス等）
- 【第9回】ものづくりを支える情報システム（1）（設計・製造・生産管理における情報システム等）
- 【第10回】ものづくりを支える情報システム（2）（生産管理・農業・漁業における情報システム等）
- 【第11回】情報モラル（1）（情報社会の特徴と問題点、著作権問題、ネット上のルールとマナー等）
- 【第12回】情報モラル（2）（情報漏えいと対策、サイバー犯罪、サイバー攻撃と防衛等）
- 【第13回】未来の情報技術（ユビキタスコンピューティング、新たなユーザーインターフェイス等）
- 【第14回】未来の情報社会と人間（現在の情報社会、現在から未来へつながる技術、未来の情報社会等）
- 【第15回】学習のまとめ

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

各回につき2時間以上の事前学習および2時間以上の事後学習を要する。

【事前】各回に対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておくこと。

【事後】学んだ重要キーワード及びその周辺事項について、インターネットを用いて調査すること。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で実施した小テスト等の解答・解説を行う。これにより自己採点と復習を可能とする。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示すとおり、授業期間中に実施される課題・レポートと、全授業終了後に実施される期末試験(レポート)の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

期末レポートを未提出の場合、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業期間中に実施される課題・レポート (50)	1、2、3、4
授業外での評価	0		
期末試験	50	全授業終了後に実施される期末レポート (50)	5
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	・コンピューターと情報システム、福田真規夫 監修、日本理工出版会、2,500円（税別）、ISBN978-4-89019-528-2 ・資料を必要に応じて配付する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・「情報処理のしくみ」の単位を取得済み、あるいは同等の知識を有していることを前提とする。 ・欠席した場合は、その回の学習内容・課題等を担当教員に聞き、自習しておくこと。
担当教員への連絡方法	・間島 勝彦 majima@oiu.jp

授業コード	10206702		
授業科目名	英語III	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	松井 珠美代		
成績担当教員氏名	松井 珠美代		
単位数	1 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

本授業は、大学生として必要な教養を深めることができるような読み物を用いて、読むことに習熟することを目的とする。併せて、語彙の増大を図る。また、場合によっては、聞く、書くなどの作業を入れて総合的な英語力を養成する。

到達目標

- ①ある程度の長さの英文を読み、その内容を的確に把握することができる。
- ②読んだ英文に対して自分の考えを持つことができる。
- ③自分の考えを分かりやすい英語で表現することができる。

授業計画

- 第1回 Introduction: テキストを使って授業概要と授業心得について説明する。
 第2回 1. Cash Loses out to electronic money: Vocabulary Check & Comprehension
 第3回 1. Analysis
 第4回 2. Japnime overtakes Disneyland as world's most popular theme park: Vocabulary & Comprehension
 第5回 2. Analysis
 第6回 3. Japan's unemployment hits 30% as AI advances: Vocabulary & Comprehension
 第7回 3. Analysis
 第8回 4. Burger McMoss sells its last hamburger made of real beef: Vocabulary & Comprehension
 第9回 4. Analysis
 第10回 5. Shinkansen takes its last passengers: Vocabulary & Comprehension
 第11回 5. Analysis
 第12回 6. English removed from the Center Test: Vocabulary & Comprehension
 第13回 6. Analysis
 第14回 7. Passports no longer required for international travel: Vocabulary & Comprehension
 第15回 Review

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。
 毎回読む部分をフレーズ・リーディングで読み、辞書で意味を確認するなどして、自分なりに内容を理解する努力をしてくる。
 事後は各段落のトピックを確認して全体の要旨を確認する。
 事前事後併せて60分以上が必要です。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の発表時や提出物の返却時に、クラス全体または個人に対してフィードバックをする。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 4回を超えて欠席すると、評価の対象とは認めず、K評価となる。3回の遅刻・早退で欠席1回とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	発表(30)	1,2
授業外での評価	40	課題提出(40)	1,2,3
期末試験	30	まとめのレポート(30)	1,2,3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	Future Times / Paul Stapleton・植村淳子 / センゲージラーニング / 978-4-86312-367-0
参考書	授業内にて紹介する。
履修条件・他の科目との関連	授業中にも英単語を調べたり、Google Classroom にアクセスしたりする用意しておくこと。
担当教員への連絡方法	・松井 珠美代 s-matsui@oiu.jp

授業コード	10206802		
授業科目名	英語IV	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	松井 珠美代		
成績担当教員氏名	松井 珠美代		
単位数	1 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

本授業は、大学生として必要な教養を深めることができるような読み物を用いて、読むことに習熟することを目的とする。併せて、語彙の増大を図る。また、場合によっては、聞く、書くなどの作業を入れて総合的な英語力を養成する。

到達目標

- ①ある程度の長さの英文を読み、その内容を的確に把握することができる。
- ②読んだ英文に対して自分の考えを持つことができる。
- ③自分の考えを分かりやすい英語で表現することができる。

授業計画

- 第1回 Introduction: テキストを使って授業概要と授業心得を説明する。
前期の内容を復習しながら次回の予備練習をする。
- 第2回 Eleven Mart reintroduces human staff: Vocabulary & Comprehension
- 第3回 Analysis
- 第4回 Japanese are first humans to set foot on Mars: Vocabulary & Comprehension
- 第5回 Analysis
- 第6回 Japan joins NPTO (North Pacific Trade Organization): Vocabulary & Comprehension
- 第7回 Analysis
- 第8回 Japan's population no longer declining: Vocabulary & Comprehension
- 第9回 Analysis
- 第10回 Japan's two biggest brewers merge: Vocabulary & Comprehension
- 第11回 Analysis
- 第12回 Government introduces radical new university curriculum: Vocabulary & Comprehension
- 第13回 Analysis
- 第14回 Two die in first flying car accident: Vocabulary & Comprehension
- 第15回 Review

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4-5時間が必要です。

毎回読む部分をフレーズ・リーディングで読み、辞書で意味を確認するなどして、自分なりに内容を理解する努力をしてください。

事後は各段落のトピックを確認して全体の要旨を確認する。

事前事後併せて60分以上が必要です。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の発表時や提出物の返却時に、クラス全体または個人に対してフィードバックをする。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

4回を超えて欠席すると、評価の対象とは認めず、K評価となる。3回の遅刻・早退で欠席1回とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	発表(30)	1, 2
授業外での評価	40	課題提出(40)	1, 2, 3
期末試験	30	まとめのレポート(30)	
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	Future Times / Paul Stapleton・植村淳子 / センゲージラーニング / 978-4-86312-367-0
参考書	授業内に紹介する。
履修条件・他の科目との関連	授業中にも英単語を調べたり、Google Classroom にアクセスしたりする用意をしておくこと。
担当教員への連絡方法	・松井 珠美代 s-matsui@oiu.jp

授業コード	10201301		
授業科目名	オーラルイングリッシュ I	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	G.S.ジョン-バプティースト		
成績担当教員氏名	G.S.ジョン-バプティースト		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. (R)

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

- 1 develop the ability to converse about various everyday topics (as listed below)
- 2 develop listening skills related to everyday conversation
- 3 learn vocabulary essential for conversing about various every

授業計画

- 【第 1 回】**
 テーマ：Introduction to the course
 内容・方法：(Units 0, 1) Meeting people, Giving Introductions
- 【第 2 回】**
 テーマ：Introductions
 内容・方法：(Unit 1) Sharing personal information
- 【第 3 回】**
 テーマ：Fashion
 内容・方法：(Unit 2) Talking about clothing
- 【第 4 回】**
 テーマ：Clothing & Preferences
 内容・方法：(Unit 2) Talking about fashion preferences
- 【第 5 回】**
 テーマ：Review & Quiz (Units 0, 1, 2)
 内容・方法：Units 0, 1, 2 review and quiz; Start discussing health advice
- 【第 6 回】**
 テーマ：Health
 内容・方法：(Unit 3) Talking about healthy activities
- 【第 7 回】**
 テーマ：Health & Happiness
 内容・方法：(Unit 3) Talking about the connection between health and happiness
- 【第 8 回】**
 テーマ：Locations & Directions
 内容・方法：(Unit 4) Practicing expressions for describing locations and giving directions
- 【第 9 回】**
 テーマ：Finding our Way
 内容・方法：(Unit 4) Giving directions around town and your neighborhood
- 【第 10 回】**
 テーマ：Review & Quiz (Units 3, 4)
 内容・方法：Units 3, 4 review and quiz; Describing things
- 【第 11 回】**
 テーマ：Describing Things
 内容・方法：(Unit 5) Descriptive expressions for identifying objects
- 【第 12 回】**
 テーマ：Describing How Things are Used
 内容・方法：(Unit 5) Expressions for explaining how things are used
- 【第 13 回】**
 テーマ：Future Dreams
 内容・方法：(Unit 6) Talking about the future
- 【第 14 回】**
 テーマ：Future Work
 内容・方法：(Unit 6) Talking about life after graduation
- 【第 15 回】**
 テーマ：Semester Review and Quiz
 内容・方法：Review and quiz of Units 5 & 6

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。

Note: This is a 1-credit (1 単位) course, which requires a total of 45 hours of study throughout the semester. Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

- ①事前学修課題：Buy a textbook.
- ②事後学修課題：Buy a textbook. Register for My Mobile World (MMW).

【第2回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World (MMW) and start Chapter 1 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 1 work.

【第3回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 1 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 2 work.

【第4回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 2 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 2 work.

【第5回】

- ①事前学修課題：Review Units 0, 1 & 2
- ②事後学修課題：Analyze your quiz mistakes

【第6回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 3 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 3 work.

【第7回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 3 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 4 work.

【第8回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 4 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and start on Chapter 4 work.

【第9回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 4 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and review Chapters 0~4.

【第10回】

- ①事前学修課題：Review Units 3 & 4
- ②事後学修課題：Analyze your quiz mistakes

【第11回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 5 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 5 work.

【第12回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 5 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 6 work.

【第13回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 6 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 6 work.

【第14回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 6 work.
- ②事後学修課題：Review Units 4-6

【第15回】

- ①事前学修課題：Review Units 4-6
- ②事後学修課題：Review all chapters and online work during summer break.

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly to a grade tracking system (Google Classroom, moodle, or UNIPA).

成績評価の方法・基準（方針）

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown

- 1) Participation (30%)
- 2) Homework and preparation for classes (30%)
- 3) Formative quizzes (30%)
- 4) Summative Quiz (10%)

Notes:

- 1) You will get more information f

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	You will be evaluated according to a participation rubric. You can earn a maximum of 2 points for each session (2 points X 15 sessions = 30 points maximum).	1 2 3 4
授業外での評価	30	You will be evaluated based upon the amount and quality of the online class preparation and review materials. You can earn a maximum of 2 points for each session's preparation (2 points X 15 sessions = 30 points maximum).	2 3
期末試験	10	You will be evaluated according to performance on a summative test worth 10 points. The summative quiz will be due within one week after the final class session.	2 4
定期試験	0		
その他	30	You will be evaluated according to performance on three formative quizzes. Each quiz will be worth 10 points.	2 4

テキスト	English Firsthand Access with MyMobile World (2018 5th edition) Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier Pearson Longman 9789813132757
参考書	
履修条件・他の科目との関連	Students should review all of their English textbooks from high school.
担当教員への連絡方法	・G.S.ジョン・バプティースト johnbaptiste@oiu.jp

授業コード	10201302		
授業科目名	オーラルイングリッシュ I	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	S.ビーターソン		
成績担当教員氏名	S.ビーターソン		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. (M)

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

- 1 develop the ability to converse about various everyday topics (as listed below)
- 2 develop listening skills related to everyday conversation
- 3 learn vocabulary essential for conversing about various every

授業計画

★この授業は、遠隔授業となります。原則として、リアルタイム型授業で実施予定です。参加方法などの詳細は、追って案内します。

【第1回】

テーマ：Introduction to the course

内容・方法：(Units 0, 1) Meeting people, Giving Introductions

【第2回】

テーマ：Introductions

内容・方法：(Unit 1) Sharing personal information

【第3回】

テーマ：Fashion

内容・方法：(Unit 2) Talking about clothing

【第4回】

テーマ：Clothing & Preferences

内容・方法：(Unit 2) Talking about fashion preferences

【第5回】

テーマ：Review & Quiz (Units 0, 1, 2)

内容・方法：Units 0, 1, 2 review and quiz; Start discussing health advice

【第6回】

テーマ：Health

内容・方法：(Unit 3) Talking about healthy activities

【第7回】

テーマ：Health & Happiness

内容・方法：(Unit 3) Talking about the connection between health and happiness

【第8回】

テーマ：Locations & Directions

内容・方法：(Unit 4) Practicing expressions for describing locations and giving directions

【第9回】

テーマ：Finding our Way

内容・方法：(Unit 4) Giving directions around town and your neighborhood

【第10回】

テーマ：Review & Quiz (Units 3, 4)

内容・方法：Units 3, 4 review and quiz; Describing things

【第11回】

テーマ：Describing Things

内容・方法：(Unit 5) Descriptive expressions for identifying objects

【第12回】

テーマ：Describing How Things are Used

内容・方法：(Unit 5) Expressions for explaining how things are used

【第13回】

テーマ：Future Dreams

内容・方法：(Unit 6) Talking about the future

【第14回】

テーマ：Future Work

内容・方法：(Unit 6) Talking about life after graduation

【第15回】

テーマ：Semester Review and Quiz

内容・方法：Review and quiz of Units 5 & 6

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。

Note: This is a 1-credit (1 単位) course, which requires a total of 45 hours of study throughout the semester. Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

- ①事前学修課題：Buy a textbook.
- ②事後学修課題：Buy a textbook. Register for My Mobile World (MMW).

【第2回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World (MMW) and start Chapter 1 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 1 work.

【第3回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 1 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 2 work.

【第4回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 2 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 2 work.

【第5回】

- ①事前学修課題：Review Units 0, 1 & 2
- ②事後学修課題：Analyze your quiz mistakes

【第6回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 3 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 3 work.

【第7回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 3 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 4 work.

【第8回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 4 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and start on Chapter 4 work.

【第9回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 4 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and review Chapters 0~4.

【第10回】

- ①事前学修課題：Review Units 3 & 4
- ②事後学修課題：Analyze your quiz mistakes

【第11回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 5 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 5 work.

【第12回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 5 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 6 work.

【第13回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 6 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 6 work.

【第14回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 6 work.
- ②事後学修課題：Review Units 4-6

【第15回】

- ①事前学修課題：Review Units 4-6
- ②事後学修課題：Review all chapters and online work during summer break.

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly to a grade tracking system (Google Classroom, moodle, or UNIPA).

成績評価の方法・基準（方針）

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown

- 1) Participation (30%)
- 2) Homework and preparation for classes (30%)
- 3) Formative quizzes (30%)
- 4) Summative Quiz (10%)

Notes:

- 1) You will get more information f

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	You will be evaluated according to a participation rubric. You can earn a maximum of 2 points for each session (2 points X 15 sessions = 30 points maximum).	1 2 3 4
授業外での評価	30	You will be evaluated based upon the amount and quality of the online class preparation and review materials. You can earn a maximum of 2 points for each session's preparation (2 points X 15 sessions = 30 points maximum).	2 3
期末試験	10	You will be evaluated according to performance on a summative test worth 10 points. The summative quiz will be due within one week after the final class session.	2 4
定期試験	0		
その他	30	You will be evaluated according to performance on three formative quizzes. Each quiz will be worth 10 points.	2 4

テキスト	English Firsthand Access with MyMobile World (2018 5th edition) Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier Pearson Longman 9789813132757
参考書	
履修条件・他の科目との関連	Students should review all of their English textbooks from high school.
担当教員への連絡方法	・S.ピーターソン s-peters@oiu.jp

授業コード	10201303		
授業科目名	オーラルイングリッシュ I	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	E.S.モリソン		
成績担当教員氏名	E.S.モリソン		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要	
The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. (M)	
到達目標	
At the end of the course, you will be able to: 1 develop the ability to converse about various everyday topics (as listed below) 2 develop listening skills related to everyday conversation 3 learn vocabulary essential for conversing about various every	
授業計画	
★この授業は遠隔授業となります。リアルタイム型の遠隔授業（その授業時間に Zoom 等で参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出して頂くオンデマンド型で実施予定です。	
【第1回】 テーマ：Introduction to the course 内容・方法：(Units 0, 1) Meeting people, Giving Introductions	
【第2回】 テーマ：Introductions 内容・方法：(Unit 1) Sharing personal information	
【第3回】 テーマ：Fashion 内容・方法：(Unit 2) Talking about clothing	
【第4回】 テーマ：Clothing & Preferences 内容・方法：(Unit 2) Talking about fashion preferences	
【第5回】 テーマ：Review & Quiz (Units 0, 1, 2) 内容・方法：Units 0, 1, 2 review and quiz; Start discussing health advice	
【第6回】 テーマ：Health 内容・方法：(Unit 3) Talking about healthy activities	
【第7回】 テーマ：Health & Happiness 内容・方法：(Unit 3) Talking about the connection between health and happiness	
【第8回】 テーマ：Locations & Directions 内容・方法：(Unit 4) Practicing expressions for describing locations and giving directions	
【第9回】 テーマ：Finding our Way 内容・方法：(Unit 4) Giving directions around town and your neighborhood	
【第10回】 テーマ：Review & Quiz (Units 3, 4) 内容・方法：Units 3, 4 review and quiz; Describing things	
【第11回】 テーマ：Describing Things 内容・方法：(Unit 5) Descriptive expressions for identifying objects	
【第12回】 テーマ：Describing How Things are Used 内容・方法：(Unit 5) Expressions for explaining how things are used	
【第13回】 テーマ：Future Dreams 内容・方法：(Unit 6) Talking about the future	
【第14回】 テーマ：Future Work 内容・方法：(Unit 6) Talking about life after graduation	
【第15回】 テーマ：Semester Review and Quiz 内容・方法：Review and quiz of Units 5 & 6	

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。

Note: This is a 1-credit (1 単位) course, which requires a total of 45 hours of study throughout the semester. Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

- ①事前学修課題：Buy a textbook.
- ②事後学修課題：Buy a textbook. Register for My Mobile World (MMW).

【第2回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World (MMW) and start Chapter 1 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 1 work.

【第3回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 1 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 2 work.

【第4回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 2 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 2 work.

【第5回】

- ①事前学修課題：Review Units 0, 1 & 2
- ②事後学修課題：Analyze your quiz mistakes

【第6回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 3 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 3 work.

【第7回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 3 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 4 work.

【第8回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 4 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and start on Chapter 4 work.

【第9回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 4 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and review Chapters 0~4.

【第10回】

- ①事前学修課題：Review Units 3 & 4
- ②事後学修課題：Analyze your quiz mistakes

【第11回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 5 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 5 work.

【第12回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 5 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 6 work.

【第13回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 6 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 6 work.

【第14回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 6 work.
- ②事後学修課題：Review Units 4-6

【第15回】

- ①事前学修課題：Review Units 4-6
- ②事後学修課題：Review all chapters and online work during summer break.

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly to a grade tracking system (Google Classroom, moodle, or UNIPA).

成績評価の方法・基準（方針）

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown

- 1) Participation (30%)
- 2) Homework and preparation for classes (30%)
- 3) Formative quizzes (30%)
- 4) Summative Quiz (10%)

Notes:

- 1) You will get more information f

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	You will be evaluated according to a participation rubric. You can earn a maximum of 2 points for each session (2 points X 15 sessions = 30 points maximum).	1 2 3 4
授業外での評価	30	You will be evaluated based upon the amount and quality of the online class preparation and review materials. You can earn a maximum of 2 points for each session's preparation (2 points X 15 sessions = 30 points maximum).	2 3
期末試験	10	You will be evaluated according to performance on a summative test worth 10 points. The summative quiz will be due within one week after the final class session.	2 4
定期試験	0		
その他	30	You will be evaluated according to performance on three formative quizzes. Each quiz will be worth 10 points.	2 4

テキスト	English Firsthand Access with MyMobile World (2018 5th edition) Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier Pearson Longman 9789813132757
参考書	
履修条件・他の科目との関連	Students should review all of their English textbooks from high school.
担当教員への連絡方法	・E.S.モリソン emorrison@oiu.jp

授業コード	10201401		
授業科目名	オーラルイングリッシュⅡ	実務家教員による授業	—
授業担当教員氏名	G.S.ジョン-バプティースト		
成績担当教員氏名	G.S.ジョン-バプティースト		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

The aim of this course is to help you become better at basic English conversation by continuing the types of study you did in the first semester. During each class, you will practice talking about various topics and take part in different conversational activities. The textbook includes example conversations for many different situations and will be able to learn useful phrases and common vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. (R)

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

- 1 develop the ability to converse about various everyday topics (as listed below)
- 2 develop listening skills related to everyday conversation
- 3 learn vocabulary essential for conversing about various every

授業計画

- 【第1回】**
 テーマ：Past Activities
 内容・方法：(Unit 7) Talking about past activities
- 【第2回】**
 テーマ：A Special Day
 内容・方法：(Unit 7) Learning to talk about special events
- 【第3回】**
 テーマ：Nature
 内容・方法：(Unit 8) Talking about nature and animals
- 【第4回】**
 テーマ：Pets
 内容・方法：(Unit 8) Talking about animals and pets
- 【第5回】**
 テーマ：Review & Quiz (Units 7 & 8)
 内容・方法：Units 7 & 8 review and quiz
- 【第6回】**
 テーマ：Abilities
 内容・方法：(Unit 9) Talking about your abilities and strengths
- 【第7回】**
 テーマ：Skills
 内容・方法：(Unit 9) Talking about what you can or could do
- 【第8回】**
 テーマ：Likes and Dislikes
 内容・方法：(Unit 10) Talking about preferences
- 【第9回】**
 テーマ：Making Plans
 内容・方法：(Unit 10) Talking about things to do and making plans
- 【第10回】**
 テーマ：Review & Quiz (Units 9 & 10)
 内容・方法：Units 9 & 10 review and quiz
- 【第11回】**
 テーマ：Rules
 内容・方法：(Unit 11) Talking about rules and regulations
- 【第12回】**
 テーマ：Family rules
 内容・方法：(Unit 11) Talking about various family rules and policies
- 【第13回】**
 テーマ：Stories
 内容・方法：(Unit 12) Learning about narratives
- 【第14回】**
 テーマ：More Stories
 内容・方法：(Unit 12) Talking about different fiction and genre
- 【第15回】**
 テーマ：Semester review
 内容・方法：Review of Units 10-12

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。

Note: This is a 1-credit (1単位) course, which requires a total of 45 hours of study throughout the semester. Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

- ①事前学修課題：Buy a textbook.
- ②事後学修課題：Buy a textbook. Register for My Mobile World (MMW).

【第2回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World (MMW) and start Chapter 7 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 7 work.

【第3回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 7 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 8 work.

【第4回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 8 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 8 work.

【第5回】

- ①事前学修課題：Review Units 7 & 8
- ②事後学修課題：Analyze your quiz mistakes

【第6回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 9 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 9 work.

【第7回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 9 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 10 work.

【第8回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 10 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and start on Chapter 10 work.

【第9回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 10 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and review Chapters 9 & 10.

【第10回】

- ①事前学修課題：Review Units 9 & 10
- ②事後学修課題：Analyze your quiz mistakes

【第11回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 11 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 11 work.

【第12回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 11 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 12 work.

【第13回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 12 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 12 work.

【第14回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 12 work.
- ②事後学修課題：Review Units 11 & 12

【第15回】

- ①事前学修課題：Review Units 11 & 12
- ②事後学修課題：Review all chapters and online work.

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly to a grade tracking system (Google Classroom, moodle, or UNIPA).

成績評価の方法・基準（方針）

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown

- 1) Participation (30%)
- 2) Homework and preparation for classes (30%)
- 3) Formative quizzes (30%)
- 4) Summative Quiz (10%)

Notes:

- 1) You will get more information f

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	You will be evaluated according to a participation rubric. You can earn a maximum of 2 points for each session (2 points X 15 sessions = 30 points maximum).	1 2 3 4
授業外での評価	30	You will be evaluated based upon the amount and quality of the online class preparation and review materials. You can earn a maximum of 2 points for each session's preparation (2 points X 15 sessions = 30 points maximum).	2 3
期末試験	10	You will be evaluated according to performance on a summative test worth 10 points. The summative quiz will be due within one week after the final class session.	2 4
定期試験	0		
その他	30	You will be evaluated according to performance on three formative quizzes. Each quiz will be worth 10 points.	2 4

テキスト	English Firsthand Access with MyMobile World (2018 5th edition) Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier Pearson Longman 9789813132757
参考書	
履修条件・他の科目との関連	Students should have completed Oral English 1 before taking this class.
担当教員への連絡方法	・ G.S.ジョン・バプティースト johnbaptiste@oiu.jp

授業コード	10201402		
授業科目名	オーラルイングリッシュⅡ	実務家教員による授業	—
授業担当教員氏名	S.ビーターゾン		
成績担当教員氏名	S.ビーターゾン		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

The aim of this course is to help you become better at basic English conversation by continuing the types of study you did in the first semester. During each class, you will practice talking about various topics and take part in different conversational activities. The textbook includes example conversations for many different situations and will be able to learn useful phrases and common vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. (M)

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

- 1 develop the ability to converse about various everyday topics (as listed below)
- 2 develop listening skills related to everyday conversation
- 3 learn vocabulary essential for conversing about various every

授業計画

★この授業は、遠隔授業となります。原則として、リアルタイム型授業で実施予定です。参加方法などの詳細は、追って案内します。

【第1回】

テーマ：Past Activities

内容・方法：(Unit 7) Talking about past activities

【第2回】

テーマ：A Special Day

内容・方法：(Unit 7) Learning to talk about special events

【第3回】

テーマ：Nature

内容・方法：(Unit 8) Talking about nature and animals

【第4回】

テーマ：Pets

内容・方法：(Unit 8) Talking about animals and pets

【第5回】

テーマ：Review & Quiz (Units 7 & 8)

内容・方法：Units 7 & 8 review and quiz

【第6回】

テーマ：Abilities

内容・方法：(Unit 9) Talking about your abilities and strengths

【第7回】

テーマ：Skills

内容・方法：(Unit 9) Talking about what you can or could do

【第8回】

テーマ：Likes and Dislikes

内容・方法：(Unit 10) Talking about preferences

【第9回】

テーマ：Making Plans

内容・方法：(Unit 10) Talking about things to do and making plans

【第10回】

テーマ：Review & Quiz (Units 9 & 10)

内容・方法：Units 9 & 10 review and quiz

【第11回】

テーマ：Rules

内容・方法：(Unit 11) Talking about rules and regulations

【第12回】

テーマ：Family rules

内容・方法：(Unit 11) Talking about various family rules and policies

【第13回】

テーマ：Stories

内容・方法：(Unit 12) Learning about narratives

【第14回】

テーマ：More Stories

内容・方法：(Unit 12) Talking about different fiction and genre

【第15回】

テーマ：Semester review

内容・方法：Review of Units 10-12

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。

Note: This is a 1-credit (1単位) course, which requires a total of 45 hours of study throughout the semester. Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

- ①事前学修課題：Buy a textbook.
- ②事後学修課題：Buy a textbook. Register for My Mobile World (MMW).

【第2回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World (MMW) and start Chapter 7 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 7 work.

【第3回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 7 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 8 work.

【第4回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 8 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 8 work.

【第5回】

- ①事前学修課題：Review Units 7 & 8
- ②事後学修課題：Analyze your quiz mistakes

【第6回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 9 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 9 work.

【第7回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 9 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 10 work.

【第8回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 10 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and start on Chapter 10 work.

【第9回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 10 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and review Chapters 9 & 10.

【第10回】

- ①事前学修課題：Review Units 9 & 10
- ②事後学修課題：Analyze your quiz mistakes

【第11回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 11 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 11 work.

【第12回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 11 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 12 work.

【第13回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 12 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 12 work.

【第14回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 12 work.
- ②事後学修課題：Review Units 11 & 12

【第15回】

- ①事前学修課題：Review Units 11 & 12
- ②事後学修課題：Review all chapters and online work.

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly to a grade tracking system (Google Classroom, moodle, or UNIPA).

成績評価の方法・基準（方針）

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown

- 1) Participation (30%)
- 2) Homework and preparation for classes (30%)
- 3) Formative quizzes (30%)
- 4) Summative Quiz (10%)

Notes:

- 1) You will get more information f

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	You will be evaluated according to a participation rubric. You can earn a maximum of 2 points for each session (2 points X 15 sessions = 30 points maximum).	1 2 3 4
授業外での評価	30	You will be evaluated based upon the amount and quality of the online class preparation and review materials. You can earn a maximum of 2 points for each session's preparation (2 points X 15 sessions = 30 points maximum).	2 3
期末試験	10	You will be evaluated according to performance on a summative test worth 10 points. The summative quiz will be due within one week after the final class session.	2 4
定期試験	0		
その他	30	You will be evaluated according to performance on three formative quizzes. Each quiz will be worth 10 points.	2 4

テキスト	English Firsthand Access with MyMobile World (2018 5th edition) Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier Pearson Longman 9789813132757
参考書	
履修条件・他の科目との関連	Students should have completed Oral English 1 before taking this class.
担当教員への連絡方法	・S.ピーターソン s-peters@oiu.jp

授業コード	10201403		
授業科目名	オーラルイングリッシュⅡ	実務家教員による授業	—
授業担当教員氏名	E.S.モリソン		
成績担当教員氏名	E.S.モリソン		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

The aim of this course is to help you become better at basic English conversation by continuing the types of study you did in the first semester. During each class, you will practice talking about various topics and take part in different conversational activities. The textbook includes example conversations for many different situations and will be able to learn useful phrases and common vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. (M)

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

- 1 develop the ability to converse about various everyday topics (as listed below)
- 2 develop listening skills related to everyday conversation
- 3 learn vocabulary essential for conversing about various every

授業計画

★この授業は遠隔授業となります。リアルタイム型の遠隔授業（その授業時間に Zoom 等で参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出して頂くオンデマンド型で実施予定です。

- 【第1回】**
 テーマ：Past Activities
 内容・方法：(Unit 7) Talking about past activities
- 【第2回】**
 テーマ：A Special Day
 内容・方法：(Unit 7) Learning to talk about special events
- 【第3回】**
 テーマ：Nature
 内容・方法：(Unit 8) Talking about nature and animals
- 【第4回】**
 テーマ：Pets
 内容・方法：(Unit 8) Talking about animals and pets
- 【第5回】**
 テーマ：Review & Quiz (Units 7 & 8)
 内容・方法：Units 7 & 8 review and quiz
- 【第6回】**
 テーマ：Abilities
 内容・方法：(Unit 9) Talking about your abilities and strengths
- 【第7回】**
 テーマ：Skills
 内容・方法：(Unit 9) Talking about what you can or could do
- 【第8回】**
 テーマ：Likes and Dislikes
 内容・方法：(Unit 10) Talking about preferences
- 【第9回】**
 テーマ：Making Plans
 内容・方法：(Unit 10) Talking about things to do and making plans
- 【第10回】**
 テーマ：Review & Quiz (Units 9 & 10)
 内容・方法：Units 9 & 10 review and quiz
- 【第11回】**
 テーマ：Rules
 内容・方法：(Unit 11) Talking about rules and regulations
- 【第12回】**
 テーマ：Family rules
 内容・方法：(Unit 11) Talking about various family rules and policies
- 【第13回】**
 テーマ：Stories
 内容・方法：(Unit 12) Learning about narratives
- 【第14回】**
 テーマ：More Stories
 内容・方法：(Unit 12) Talking about different fiction and genre
- 【第15回】**
 テーマ：Semester review
 内容・方法：Review of Units 10-12

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。

Note: This is a 1-credit (1単位) course, which requires a total of 45 hours of study throughout the semester. Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

- ①事前学修課題：Buy a textbook.
- ②事後学修課題：Buy a textbook. Register for My Mobile World (MMW).

【第2回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World (MMW) and start Chapter 7 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 7 work.

【第3回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 7 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 8 work.

【第4回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 8 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 8 work.

【第5回】

- ①事前学修課題：Review Units 7 & 8
- ②事後学修課題：Analyze your quiz mistakes

【第6回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 9 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 9 work.

【第7回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 9 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 10 work.

【第8回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 10 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and start on Chapter 10 work.

【第9回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 10 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and review Chapters 9 & 10.

【第10回】

- ①事前学修課題：Review Units 9 & 10
- ②事後学修課題：Analyze your quiz mistakes

【第11回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 11 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 11 work.

【第12回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 11 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and start Chapter 12 work.

【第13回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and continue Chapter 12 work.
- ②事後学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 12 work.

【第14回】

- ①事前学修課題：Log on to My Mobile World and finish Chapter 12 work.
- ②事後学修課題：Review Units 11 & 12

【第15回】

- ①事前学修課題：Review Units 11 & 12
- ②事後学修課題：Review all chapters and online work.

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly to a grade tracking system (Google Classroom, moodle, or UNIPA).

成績評価の方法・基準（方針）

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown

- 1) Participation (30%)
- 2) Homework and preparation for classes (30%)
- 3) Formative quizzes (30%)
- 4) Summative Quiz (10%)

Notes:

- 1) You will get more information f

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	You will be evaluated according to a participation rubric. You can earn a maximum of 2 points for each session (2 points X 15 sessions = 30 points maximum).	1 2 3 4
授業外での評価	30	You will be evaluated based upon the amount and quality of the online class preparation and review materials. You can earn a maximum of 2 points for each session's preparation (2 points X 15 sessions = 30 points maximum).	2 3
期末試験	10	You will be evaluated according to performance on a summative test worth 10 points. The summative quiz will be due within one week after the final class session.	2 4
定期試験	0		
その他	30	You will be evaluated according to performance on three formative quizzes. Each quiz will be worth 10 points.	2 4

テキスト	English Firsthand Access with MyMobile World (2018 5th edition) Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier Pearson Longman 9789813132757
参考書	
履修条件・他の科目との関連	Students should have completed Oral English 1 before taking this class.
担当教員への連絡方法	・E.S.モリソン emorrison@oiu.jp

授業コード	10207101		
授業科目名	リスニングⅠ	実務家教員による授業	—
授業担当教員氏名	J.ポイル		
成績担当教員氏名	J.ポイル		
単位数	1 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要	
<p>(1) 授業内および家庭学習を通じて、実用的な状況を題材としたリスニングをすることで、基本的な英語の聴き取り能力を育成する。</p> <p>(2) リスニング以外のスキル（英語を話す・読む・書く）を通じて、バランスよく英語学習する。</p>	
到達目標	
本授業の目的は、(1) 日常生活に必要な基礎的英語リスニング能力を育成すること、および、(2) 基礎的な英語のリスニングになれることである。	
授業計画	
第1回	<p>テーマ： Class introduction</p> <p>内容、方法： Class rules, class purpose, sample listening from unit 1 (Self introductions)</p>
第2回	<p>テーマ： Self introductions (unit 1)</p> <p>内容、方法： Personal information, interests (listening and speaking)</p>
第3回	<p>テーマ： Family, hobbies (unit 2)</p> <p>内容、方法： Information on family members and their hobbies (listening and speaking)</p>
第4回	<p>テーマ： Weekend activities (unit 3)</p> <p>内容、方法： Weekend activity preferences, talking about last weekend (listening and speaking)</p>
第5回	<p>テーマ： Units 1-3 quiz</p> <p>内容、方法： Listening quiz, speaking quiz</p>
第6回	<p>テーマ： Shopping (unit 4)</p> <p>内容、方法： Shopping behavior, prices (listening and speaking)</p>
第7回	<p>テーマ： Driving (unit 5)</p> <p>内容、方法： Driving attitudes, renting a car (listening and speaking)</p>
第8回	<p>テーマ： Travel (unit 6)</p> <p>内容、方法： Buying tickets, meeting new people (listening and speaking)</p>
第9回	<p>テーマ： Quiz (units 4-6)</p> <p>内容、方法： Listening quiz, speaking quiz</p>
第10回	<p>テーマ： Food (unit 7)</p> <p>内容、方法： Food preferences, ordering (listening and speaking)</p>
第11回	<p>テーマ： On a trip (unit 8)</p> <p>内容、方法： Hotel, taxi (listening and speaking)</p>
第12回	<p>テーマ： People's appearances (unit 9)</p> <p>内容、方法： Describing people and their clothes (listening and speaking)</p>
第13回	<p>テーマ： Quiz (units 7-9)</p> <p>内容、方法： Listening quiz, speaking quiz</p>
第14回	<p>テーマ： Relationships (unit 10)</p>

内容、方法： Romantic relationships (listening and speaking)

第 15 回

テーマ： Quiz (unit 10)

内容、方法： Short quiz and final light review

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

「毎回の授業において、2時間の事前学習と2時間の事後学習が必要です」

第 1 回

事前学修課題： Bring the textbook, notebook, dictionary, etc.

事後学修課題： Review today's lesson (listen to CD)

第 2 回

事前学修課題： Bring the textbook, review last week's lesson.

事後学修課題： Review today's lesson (listen to unit 1 on CD)

第 3 回

事前学修課題： Bring the textbook, review last week's lesson.

事後学修課題： Review today's lesson (listen to unit 2 on CD)

第 4 回

事前学修課題： Bring the textbook, review last week's lesson.

事後学修課題： Study for units 1-3 quiz next week.

第 5 回

事前学修課題： Bring textbook, be ready for units 1-3 quiz

事後学修課題： Review today's quiz.

第 6 回

事前学修課題： Bring the textbook, review last week's lesson.

事後学修課題： Review today's lesson (listen to unit 4 on CD)

第 7 回

事前学修課題： Bring the textbook, review last week's lesson.

事後学修課題： Review today's lesson (listen to unit 5 on CD)

第 8 回

事前学修課題： Bring the textbook, review last week's lesson.

事後学修課題： Study for units 4-6 quiz next week.

第 9 回

事前学修課題： Bring textbook, be ready for units 4-6 quiz

事後学修課題： Review today's quiz.

第 10 回

事前学修課題： Bring the textbook, review last week's lesson.

事後学修課題： Review today's lesson (listen to unit 7 on CD)

第 11 回

事前学修課題： Bring the textbook, review last week's lesson.

事後学修課題： Review today's lesson (listen to unit 8 on CD)

第 12 回

事前学修課題： Bring the textbook, review last week's lesson.

事後学修課題： Study for units 7-9 quiz next week.

第 13 回

事前学修課題： Bring textbook, be ready for units 7-9 quiz

事後学修課題： Review today's quiz.

第 14 回

事前学修課題： Bring the textbook, review last week's lesson.

事後学修課題： Study for unit 10 quiz next week (listen to unit 10 on CD)

第 15 回

事前学修課題 : Bring textbook, be ready for unit 10 quiz			
事後学修課題: Enjoy your summer.			
課題に対するフィードバックの方法			
適宜、授業内でフィードバックを与える。			
成績評価の方法・基準 (方針)			
正当な理由のない欠席が4回以上ある場合はK判定となる。			
成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業中の小テスト	1と2
授業外での評価	20	課題 (10%)・宿題 (10%)	1と2
期末試験	20	期末試験 : Students will do a listening assignment that combines the key listening points from the textbook chapters covered in Listening I.	1と2
定期試験	0		
その他	30	モチベーションなど	1と2

テキスト	テキストは不要。プリント、PDF を配布します。
参考書	
履修条件・他の科目との関連	(1) 「リスニングI」の受講者は、後期に「リスニングII」を引き続き受講することが望ましい。 (2) 「リスニングIおよびII」は、1回生4月実施の英語試験でレベル別クラス編成を行い、受講対象学生のレベル (上級、レギュラー) を指定しています。1回生以外の方は、自分の英語能力を考慮したレベルの授業を受講するために受講申請前に、担当教員に相談すること。
担当教員への連絡方法	・J.ボイル boyle@oiu.jp

授業コード	10207201		
授業科目名	リスニングⅡ	実務家教員による授業	—
授業担当教員氏名	J.ポイル		
成績担当教員氏名	J.ポイル		
単位数	1 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

(1) 授業内および家庭学習を通じて、実用的な状況を題材としたリスニング教材を用いて、リスニングⅠに引き続いて日常的な英語を聴く練習をする。

到達目標

本授業の目標は、(1) 授業内および家庭学習を通じて、実用的な状況を題材としたリスニング教材を用いて、英語を聞く練習をすることにより基礎的な英語のリスニング能力をつけることである。

授業計画

第1回

テーマ： Class introduction

内容、方法： Class rules, class purpose, sample listening from first half of textbook.

第2回

テーマ： Travelling around Japan (unit 11)

内容、方法： Opinions about Japan, places around Japan (listening and speaking)

第3回

テーマ： Sports highlights (unit 12)

内容、方法： Talking about sports, listening to announcers (listening and speaking)

第4回

テーマ： Music (unit 13)

内容、方法： Opinions about music and musicians (listening and speaking)

第5回

テーマ： Units 11-13 quiz

内容、方法： Listening quiz, speaking quiz

第6回

テーマ： Jobs (unit 14)

内容、方法： Opinions about work, looking for a job (listening and speaking)

第7回

テーマ： Future dreams (unit 15)

内容、方法： Future plans, opinions about one's future (listening and speaking)

第8回

テーマ： Questions (unit 16)

内容、方法： People's interest levels, surveys, quizzes (listening and speaking)

第9回

テーマ： Quiz (units 14-16)

内容、方法： Listening quiz, speaking quiz

第10回

テーマ： What's on your mind (unit 17)

内容、方法： Opinions about concerns, issues (listening and speaking)

第11回

テーマ： Hometowns (unit 18)

内容、方法： Talking about hometowns (listening and speaking)

第12回

テーマ： Holidays to remember (unit 19)

内容、方法： Talking about past holidays and festivals (listening and speaking)

第13回

テーマ： Quiz (units 17-19)

内容、方法： Listening quiz, speaking quiz

第14回

テーマ： Guess what happened (unit 20)

内容、方法： Sharing funny past experiences (listening and speaking)

第 15 回

テーマ： Quiz (unit 20)

内容、方法： Short quiz and final light review

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

「毎回の授業において、2時間の事前学習と2時間の事後学習が必要です」

第 1 回

事前学修課題： Bring the textbook, notebook, dictionary, etc.

事後学修課題: Review today's lesson (listen to CD)

第 2 回

事前学修課題： Bring the textbook, review last week's lesson.

事後学修課題: Review today's lesson (listen to unit 11 on CD)

第 3 回

事前学修課題： Bring the textbook, review last week's lesson.

事後学修課題: Review today's lesson (listen to unit 12 on CD)

第 4 回

事前学修課題： Bring the textbook, review last week's lesson.

事後学修課題: Study for units 11-13 quiz next week.

第 5 回

事前学修課題： Bring textbook, be ready for units 11-13 quiz

事後学修課題: Review today's quiz.

第 6 回

事前学修課題： Bring the textbook, review last week's lesson.

事後学修課題: Review today's lesson (listen to unit 14 on CD)

第 7 回

事前学修課題： Bring the textbook, review last week's lesson.

事後学修課題: Review today's lesson (listen to unit 15 on CD)

第 8 回

事前学修課題： Bring the textbook, review last week's lesson.

事後学修課題: Study for units 14-16 quiz next week.

第 9 回

事前学修課題： Bring textbook, be ready for units 14-16 quiz

事後学修課題: Review today's quiz.

第 10 回

事前学修課題： Bring the textbook, review last week's lesson.

事後学修課題: Review today's lesson (listen to unit 17 on CD)

第 11 回

事前学修課題： Bring the textbook, review last week's lesson.

事後学修課題: Review today's lesson (listen to unit 18 on CD)

第 12 回

事前学修課題： Bring the textbook, review last week's lesson.

事後学修課題: Study for units 17-19 quiz next week.

第 13 回

事前学修課題： Bring textbook, be ready for units 17-19 quiz

事後学修課題: Review today's quiz.

第 14 回

事前学修課題： Bring the textbook, review last week's lesson.

事後学修課題: Study for unit 20 quiz next week (listen to unit 20 on CD)

第 15 回

事前学修課題 : Bring textbook, be ready for unit 20 quiz			
事後学修課題: Have a good spring break.			
課題に対するフィードバックの方法			
適宜、授業内でフィードバックを与える			
成績評価の方法・基準 (方針)			
正当な理由のない欠席が4回以上ある場合はK判定となる。			
成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業中の小テスト	1と2
授業外での評価	20	課題 (10%)・宿題 (10%)	1と2
期末試験	20	期末試験 : Students will do a listening assignment that combines the key listening points from the textbook chapters covered in Listening II.	1と2
定期試験	0		
その他	30	モチベーションなど	1と2

テキスト	テキストは不要。プリント、PDF を配布します。
参考書	
履修条件・他の科目との関連	(1) 「リスニングI」の受講者は、後期に「リスニングII」を引き続き受講することが望ましい。 (2) 「リスニングIおよびII」は、1回生4月実施の英語試験でレベル別クラス編成を行い、受講対象学生のレベル (上級、レギュラー) を指定しています。1回生以外の方は、自分の英語能力を考慮したレベルの授業を受講するために受講申請前に、担当教員に相談すること。
担当教員への連絡方法	・J.ボイル boyle@oiu.jp

授業コード	10201501		
授業科目名	ポキャブラリービルディング I	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	J.R.リード		
成績担当教員氏名	J.R.リード		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

ポキャブラリービルディングとは、語彙を増やすことである。英語を学ぶにはまずその単語を知らなければならない。しかし、ただ単に単語だけを知っても使うことができれば何にもならないので、この授業の目的は文脈の中での単語の使われ方・使い方を学ぶことによって、語彙を増やすことである。授業では具体的に、読む・聴く・書く・話すという4技能を使った様々なタスクやアクティビティを通して単語を学ぶようにする。時には、クロスワードパズルや guessing game や英語の歌などを交えながら楽しく学べるようにしている。適宜、単語の小テストを行い、授業で学んだ語彙の習得を確かなものにする。receptive vocabulary および productive vocabulary としての基本 1000 語の習得が目標である。

Put simply, "Vocabulary Building" refers to expanding the number of words you know. An important first step in learning English is learning individual vocabulary words. However, knowing a word is only helpful if you can use your knowledge. For this reason, this course's goal is for students to learn how to understand and actively use vocabulary words in context. Specifically, this involves learning words through various tasks and activities that incorporate the 4 skills of reading, listening, writing, and speaking. Occasionally, students will take part in fun activities involving crossword puzzles, guessing games, and song lyrics. To solidify learning, vocabulary quizzes will be conducted as deemed necessary by the instructor. Students are expected to gain receptive and productive knowledge of about 1000 basic vocabulary items throughout the course.

到達目標

1. Learn to recognize and use vocabulary from thematic units 1-20 over the course of the semester. 既に知っている単語を幅広く使えるようになる。さらに新出単語を学習し、色んな状況で使えるようになること。
2. Learn to recognize and use common verbs from Units 38-49 over the course of the semester.
3. This c

授業計画

授業計画

【第1回】

テーマ：Outline the course. Units 1, 2.

内容・方法：Text units 1 & 2. Supplementary material / Extra reading material.

【第2回】

テーマ：Units 3, 4. Focus on Verbs: Unit 38 Have/had

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.

【第3回】

テーマ：Units 5, 6. Focus on Verbs: Unit 39 Go/went/gone

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.

【第4回】

テーマ：Units 7, 8. Focus on Verbs: Unit 40 Do/did/done

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Review of previous units.

【第5回】

テーマ：Unit Evaluation Quiz 1

内容・方法：Unit review, Evaluation 1, teacher-selected activities

【第6回】

テーマ：Units 9, 10. Focus on Verbs: Unit 41 Make/made

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.

【第7回】

テーマ：Units 11, 12. Focus on Verbs: Unit 42 Come/came

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.

【第8回】

テーマ：Units 13, 14. Focus on Verbs: Unit 43 Take/took/taken

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.

【第9回】

テーマ：Units 15, 16. Focus on Verbs: Unit 44 Bring/brought

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Review of previous units

【第10回】

テーマ：Unit Evaluation Quiz 2 (+ units review)

内容・方法：Evaluation 2

【第11回】

テーマ：Units 17, 18. Focus on Verbs: Unit 45 Get, got

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.

【第12回】

テーマ：Units 19, 20. Focus on Verbs: Unit 46 & 47 Phrasal verbs, everyday verbs

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.

【第13回】

テーマ：Focus on Verbs: Unit 48 & 49 Talking & Moving

内容・方法：Text units. Unit Review: 1-10. Unit review.

【第14回】

テーマ：Unit Review: 11-20. Focus on Verbs Review

内容・方法：Unit 11-20. Verbs: Unit 38-49

【第15回】

テーマ：Final Evaluation

内容・方法：Final Evaluation & Course review

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4-5時間が必要です。

Note: This is a 1-credit (1 単位) course, which requires a total of 45 hours of study throughout the semester. Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

事前学修課題：Read the course outline

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises

【第2回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises

【第3回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises

【第4回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises. Prepare for Evaluation.

【第5回】

事前学修課題：Prepare for Evaluation

事後学修課題：Review errors on evaluation. Vocabulary homework exercises

【第6回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises

【第7回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises

【第8回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises

【第9回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises. Prepare for Evaluation

【第10回】

事前学修課題：Prepare for Evaluation

事後学修課題：Review errors on Evaluation. Vocabulary homework exercises

【第11回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises

【第12回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises

【第13回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises

【第14回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Prepare for Final Evaluation.

【第15回】

事前学修課題：Final Evaluation

事後学修課題：None

課題に対するフィードバックの方法

Participation and effort will be considered in addition to accuracy during in-class practice activities. Feedback will be given during class and on homework assignments.

フィードバックは授業中にします。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す通り、成績は課題、小テスト及び期末試験の結果に基づく総合的な評価により決定される。60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由のない欠席が4回を超える場合は、「K」評価（不合格）とする。

注：授業計画や成績評価の基準は変更する場合がある。詳しくは科目担任の各教員に確認してください。

As described below, grades will be calculated based on assignments, quizzes, and an end-of-ter

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	In-class assignments (10) and evaluation quizzes (20)	1.2.3.
授業外での評価	20	Vocabulary notebook, other out-of-class assignments (20)	1.2.3.
期末試験	30	Final Test (30)	1.2.3.
定期試験	0		
その他	20	Presentation and communication activities (20)	1.2.3.

テキスト	English Vocabulary In Use: Elementary, Michael McCarthy, Felicity O'Dell Book with answers and Enhanced eBook Cambridge University Press; 3 edition (August 4, 2017), ISBN: 9781316631522
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	意欲的に取り組み、予習復習を行うことが求められます。
担当教員への連絡方法	・J.R.リード reed@oiu.jp

授業コード	10201502		
授業科目名	ポキャブラリービルディングⅠ	実務家教員による授業	—
授業担当教員氏名	G.S.ジョン-バプティースト		
成績担当教員氏名	G.S.ジョン-バプティースト		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

ポキャブラリービルディングとは、語彙を増やすことである。英語を学ぶにはまずその単語を知らなければならない。しかし、ただ単に単語だけを知っても使うことができれば何にもならないので、この授業の目的は文脈の中での単語の使われ方・使い方を学ぶことによって、語彙を増やすことである。授業では具体的に、読む・聴く・書く・話すという4技能を使った様々なタスクやアクティビティを通して単語を学ぶようにする。時には、クロスワードパズルや guessing game や英語の歌などを交えながら楽しく学べるようにしている。適宜、単語の小テストを行い、授業で学んだ語彙の習得を確実なものにする。receptive vocabulary および productive vocabulary としての基本 1000 語の習得が目標である。

Put simply, "Vocabulary Building" refers to expanding the number of words you know. An important first step in learning English is learning individual vocabulary words. However, knowing a word is only helpful if you can use your knowledge. For this reason, this course's goal is for students to learn how to understand and actively use vocabulary words in context. Specifically, this involves learning words through various tasks and activities that incorporate the 4 skills of reading, listening, writing, and speaking. Occasionally, students will take part in fun activities involving crossword puzzles, guessing games, and song lyrics. To solidify learning, vocabulary quizzes will be conducted as deemed necessary by the instructor. Students are expected to gain receptive and productive knowledge of about 1000 basic vocabulary items throughout the course.

到達目標

1. Learn to recognize and use vocabulary from thematic units 1-20 over the course of the semester. 既に知っている単語を幅広く使えるようになる。さらに新出単語を学習し、色んな状況で使えるようになること。
2. Learn to recognize and use common verbs from Units 38-49 over the course of the semester.
3. This c

授業計画

授業計画

【第1回】

テーマ：Outline the course. Units 1, 2.

内容・方法：Text units 1 & 2. Supplementary material / Extra reading material.

【第2回】

テーマ：Units 3, 4. Focus on Verbs: Unit 38 Have/had

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.

【第3回】

テーマ：Units 5, 6. Focus on Verbs: Unit 39 Go/went/gone

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.

【第4回】

テーマ：Units 7, 8. Focus on Verbs: Unit 40 Do/did/done

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Review of previous units.

【第5回】

テーマ：Unit Evaluation Quiz 1

内容・方法：Unit review, Evaluation 1, teacher-selected activities

【第6回】

テーマ：Units 9, 10. Focus on Verbs: Unit 41 Make/made

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.

【第7回】

テーマ：Units 11, 12. Focus on Verbs: Unit 42 Come/came

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.

【第8回】

テーマ：Units 13, 14. Focus on Verbs: Unit 43 Take/took/taken

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.

【第9回】

テーマ：Units 15, 16. Focus on Verbs: Unit 44 Bring/brought

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Review of previous units

【第10回】

テーマ：Unit Evaluation Quiz 2 (+ units review)

内容・方法：Evaluation 2

【第11回】

テーマ：Units 17, 18. Focus on Verbs: Unit 45 Get, got

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.

【第12回】

テーマ：Units 19, 20. Focus on Verbs: Unit 46 & 47 Phrasal verbs, everyday verbs

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.

【第13回】

テーマ：Focus on Verbs: Unit 48 & 49 Talking & Moving

内容・方法：Text units. Unit Review: 1-10. Unit review.

【第14回】

テーマ：Unit Review: 11-20. Focus on Verbs Review

内容・方法：Unit 11-20. Verbs: Unit 38-49

【第15回】

テーマ：Final Evaluation

内容・方法：Final Evaluation & Course review

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。

Note: This is a 1-credit (1単位) course, which requires a total of 45 hours of study throughout the semester. Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

事前学修課題：Read the course outline

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises

【第2回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises

【第3回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises

【第4回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises. Prepare for Evaluation.

【第5回】

事前学修課題：Prepare for Evaluation

事後学修課題：Review errors on evaluation. Vocabulary homework exercises

【第6回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises

【第7回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises

【第8回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises

【第9回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises. Prepare for Evaluation

【第10回】

事前学修課題：Prepare for Evaluation

事後学修課題：Review errors on Evaluation. Vocabulary homework exercises

【第11回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises

【第12回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises

【第13回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises

【第14回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Prepare for Final Evaluation.

【第15回】

事前学修課題：Final Evaluation

事後学修課題：None

課題に対するフィードバックの方法

Participation and effort will be considered in addition to accuracy during in-class practice activities. Feedback will be given during class and on homework assignments.

フィードバックは授業中にします。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す通り、成績は課題、小テスト及び期末試験の結果に基づく総合的な評価により決定される。60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由のない欠席が4回を超える場合は、「K」評価（不合格）とする。

注：授業計画や成績評価の基準は変更する場合がある。詳しくは科目担任の各教員に確認してください。

As described below, grades will be calculated based on assignments, quizzes, and an end-of-ter

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	In-class assignments (10) and evaluation quizzes (20)	1.2.3.
授業外での評価	20	Vocabulary notebook, other out-of-class assignments (20)	1.2.3.
期末試験	30	Final Test (30)	1.2.3.
定期試験	0		
その他	20	Presentation and communication activities (20)	1.2.3.

テキスト	English Vocabulary In Use: Elementary, Michael McCarthy, Felicity O'Dell Book with answers and Enhanced eBook Cambridge University Press; 3 edition (August 4, 2017), ISBN: 9781316631522
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	意欲的に取り組み、予習復習を行うことが求められます。
担当教員への連絡方法	・G.S.ジョン・バプティースト johnbaptiste@oiu.jp

授業コード	10201503		
授業科目名	ポキャブラリービルディングⅠ	実務家教員による授業	—
授業担当教員氏名	C.ロジャース		
成績担当教員氏名	C.ロジャース		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

ポキャブラリービルディングとは、語彙を増やすことである。英語を学ぶにはまずその単語を知らなければならない。しかし、ただ単に単語だけを知っても使うことができれば何にもならないので、この授業の目的は文脈の中での単語の使われ方・使い方を学ぶことによって、語彙を増やすことである。授業では具体的に、読む・聴く・書く・話すという4技能を使った様々なタスクやアクティビティを通して単語を学ぶようにする。時には、クロスワードパズルや guessing game や英語の歌などを交えながら楽しく学べるようにしている。適宜、単語の小テストを行い、授業で学んだ語彙の習得を確かなものにする。receptive vocabulary および productive vocabulary としての基本 1000 語の習得が目標である。

Put simply, "Vocabulary Building" refers to expanding the number of words you know. An important first step in learning English is learning individual vocabulary words. However, knowing a word is only helpful if you can use your knowledge. For this reason, this course's goal is for students to learn how to understand and actively use vocabulary words in context. Specifically, this involves learning words through various tasks and activities that incorporate the 4 skills of reading, listening, writing, and speaking. Occasionally, students will take part in fun activities involving crossword puzzles, guessing games, and song lyrics. To solidify learning, vocabulary quizzes will be conducted as deemed necessary by the instructor. Students are expected to gain receptive and productive knowledge of about 1000 basic vocabulary items throughout the course.

到達目標

1. Learn to recognize and use vocabulary from thematic units 1-20 over the course of the semester. 既に知っている単語を幅広く使えるようになる。さらに新出単語を学習し、色んな状況で使えるようになること。
2. Learn to recognize and use common verbs from Units 38-49 over the course of the semester.
3. This c

授業計画

授業計画

【第1回】

テーマ：Outline the course. Units 1, 2.

内容・方法：Text units 1 & 2. Supplementary material / Extra reading material.

【第2回】

テーマ：Units 3, 4. Focus on Verbs: Unit 38 Have/had

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.

【第3回】

テーマ：Units 5, 6. Focus on Verbs: Unit 39 Go/went/gone

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.

【第4回】

テーマ：Units 7, 8. Focus on Verbs: Unit 40 Do/did/done

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Review of previous units.

【第5回】

テーマ：Unit Evaluation Quiz 1

内容・方法：Unit review, Evaluation 1, teacher-selected activities

【第6回】

テーマ：Units 9, 10. Focus on Verbs: Unit 41 Make/made

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.

【第7回】

テーマ：Units 11, 12. Focus on Verbs: Unit 42 Come/came

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.

【第8回】

テーマ：Units 13, 14. Focus on Verbs: Unit 43 Take/took/taken

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.

【第9回】

テーマ：Units 15, 16. Focus on Verbs: Unit 44 Bring/brought

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Review of previous units

【第10回】

テーマ：Unit Evaluation Quiz 2 (+ units review)

内容・方法：Evaluation 2

【第11回】

テーマ：Units 17, 18. Focus on Verbs: Unit 45 Get, got

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.

【第12回】

テーマ：Units 19, 20. Focus on Verbs: Unit 46 & 47 Phrasal verbs, everyday verbs

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.

【第13回】

テーマ：Focus on Verbs: Unit 48 & 49 Talking & Moving

内容・方法：Text units. Unit Review: 1-10. Unit review.

【第14回】

テーマ：Unit Review: 11-20. Focus on Verbs Review

内容・方法：Unit 11-20. Verbs: Unit 38-49

【第15回】

テーマ：Final Evaluation

内容・方法：Final Evaluation & Course review

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4-5時間が必要です。

Note: This is a 1-credit (1単位) course, which requires a total of 45 hours of study throughout the semester. Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

事前学修課題：Read the course outline

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises

【第2回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises

【第3回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises

【第4回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises. Prepare for Evaluation.

【第5回】

事前学修課題：Prepare for Evaluation

事後学修課題：Review errors on evaluation. Vocabulary homework exercises

【第6回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises

【第7回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises

【第8回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises

【第9回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises. Prepare for Evaluation

【第10回】

事前学修課題：Prepare for Evaluation

事後学修課題：Review errors on Evaluation. Vocabulary homework exercises

【第11回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises

【第12回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises

【第13回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises

【第14回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Prepare for Final Evaluation.

【第15回】

事前学修課題：Final Evaluation

事後学修課題：None

課題に対するフィードバックの方法

Participation and effort will be considered in addition to accuracy during in-class practice activities. Feedback will be given during class and on homework assignments.

フィードバックは授業中にします。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す通り、成績は課題、小テスト及び期末試験の結果に基づく総合的な評価により決定される。60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由のない欠席が4回を超える場合は、「K」評価（不合格）とする。

注：授業計画や成績評価の基準は変更する場合がある。詳しくは科目担任の各教員に確認してください。

As described below, grades will be calculated based on assignments, quizzes, and an end-of-ter

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	In-class assignments (10) and evaluation quizzes (20)	1.2.3.
授業外での評価	20	Vocabulary notebook, other out-of-class assignments (20)	1.2.3.
期末試験	30	Final Test (30)	1.2.3.
定期試験	0		
その他	20	Presentation and communication activities (20)	1.2.3.

テキスト	English Vocabulary In Use: Elementary, Michael McCarthy, Felicity O'Dell Book with answers and Enhanced eBook Cambridge University Press; 3 edition (August 4, 2017), ISBN: 9781316631522
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	意欲的に取り組み、予習復習を行うことが求められます。
担当教員への連絡方法	・C.ロジャース crogers@oiu.jp

授業コード	10201504		
授業科目名	ポキャブラリービルディング I	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	JA.マクナブ		
成績担当教員氏名	JA.マクナブ		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

ポキャブラリービルディングとは、語彙を増やすことである。英語を学ぶにはまずその単語を知らなければならない。しかし、ただ単に単語だけを知っても使うことができれば何にもならないので、この授業の目的は文脈の中での単語の使われ方・使い方を学ぶことによって、語彙を増やすことである。授業では具体的に、読む・聴く・書く・話すという4技能を使った様々なタスクやアクティビティを通して単語を学ぶようにする。時には、クロスワードパズルや guessing game や英語の歌などを交えながら楽しく学べるようにしている。適宜、単語の小テストを行い、授業で学んだ語彙の習得を確実なものにする。receptive vocabulary および productive vocabulary としての基本 1000 語の習得が目標である。

Put simply, "Vocabulary Building" refers to expanding the number of words you know. An important first step in learning English is learning individual vocabulary words. However, knowing a word is only helpful if you can use your knowledge. For this reason, this course's goal is for students to learn how to understand and actively use vocabulary words in context. Specifically, this involves learning words through various tasks and activities that incorporate the 4 skills of reading, listening, writing, and speaking. Occasionally, students will take part in fun activities involving crossword puzzles, guessing games, and song lyrics. To solidify learning, vocabulary quizzes will be conducted as deemed necessary by the instructor. Students are expected to gain receptive and productive knowledge of about 1000 basic vocabulary items throughout the course.

到達目標

1. Learn to recognize and use vocabulary from thematic units 1-20 over the course of the semester. 既に知っている単語を幅広く使えるようになる。さらに新出単語を学習し、色んな状況で使えるようになること。
2. Learn to recognize and use common verbs from Units 38-49 over the course of the semester.
3. This c

授業計画

授業計画

【第1回】

テーマ：Outline the course. Units 1, 2.

内容・方法：Text units 1 & 2. Supplementary material / Extra reading material.

【第2回】

テーマ：Units 3, 4. Focus on Verbs: Unit 38 Have/had

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.

【第3回】

テーマ：Units 5, 6. Focus on Verbs: Unit 39 Go/went/gone

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.

【第4回】

テーマ：Units 7, 8. Focus on Verbs: Unit 40 Do/did/done

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Review of previous units.

【第5回】

テーマ：Unit Evaluation Quiz 1

内容・方法：Unit review, Evaluation 1, teacher-selected activities

【第6回】

テーマ：Units 9, 10. Focus on Verbs: Unit 41 Make/made

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.

【第7回】

テーマ：Units 11, 12. Focus on Verbs: Unit 42 Come/came

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.

【第8回】

テーマ：Units 13, 14. Focus on Verbs: Unit 43 Take/took/taken

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.

【第9回】

テーマ：Units 15, 16. Focus on Verbs: Unit 44 Bring/brought

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Review of previous units

【第10回】

テーマ：Unit Evaluation Quiz 2 (+ units review)

内容・方法：Evaluation 2

【第11回】

テーマ：Units 17, 18. Focus on Verbs: Unit 45 Get, got

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.

【第12回】

テーマ：Units 19, 20. Focus on Verbs: Unit 46 & 47 Phrasal verbs, everyday verbs

内容・方法：Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.

【第13回】

テーマ：Focus on Verbs: Unit 48 & 49 Talking & Moving

内容・方法：Text units. Unit Review: 1-10. Unit review.

【第14回】

テーマ：Unit Review: 11-20. Focus on Verbs Review

内容・方法：Unit 11-20. Verbs: Unit 38-49
【第15回】
テーマ：Final Evaluation
内容・方法：Final Evaluation & Course review

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。

Note: This is a 1-credit (1単位) course, which requires a total of 45 hours of study throughout the semester. Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

- 【第1回】
事前学修課題：Read the course outline
事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises
- 【第2回】
事前学修課題：Review the units studied
事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises
- 【第3回】
事前学修課題：Review the units studied
事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises
- 【第4回】
事前学修課題：Review the units studied
事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises. Prepare for Evaluation.
- 【第5回】
事前学修課題：Prepare for Evaluation
事後学修課題：Review errors on evaluation. Vocabulary homework exercises
- 【第6回】
事前学修課題：Review the units studied
事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises
- 【第7回】
事前学修課題：Review the units studied
事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises
- 【第8回】
事前学修課題：Review the units studied
事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises
- 【第9回】
事前学修課題：Review the units studied
事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises. Prepare for Evaluation
- 【第10回】
事前学修課題：Prepare for Evaluation
事後学修課題：Review errors on Evaluation. Vocabulary homework exercises
- 【第11回】
事前学修課題：Review the units studied
事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises
- 【第12回】
事前学修課題：Review the units studied
事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises
- 【第13回】
事前学修課題：Review the units studied
事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework exercises
- 【第14回】
事前学修課題：Review the units studied
事後学修課題：Review units studied. Prepare for Final Evaluation.
- 【第15回】
事前学修課題：Final Evaluation
事後学修課題：None

課題に対するフィードバックの方法

Participation and effort will be considered in addition to accuracy during in-class practice activities. Feedback will be given during class and on homework assignments.
フィードバックは授業中にします。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す通り、成績は課題、小テスト及び期末試験の結果に基づく総合的な評価により決定される。60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由のない欠席が4回を超える場合は、「K」評価（不合格）とする。
注：授業計画や成績評価の基準は変更する場合がある。詳しくは科目担任の各教員に確認してください。

As described below, grades will be calculated based on assignments, quizzes, and an end-of-ter

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	In-class assignments (10) and evaluation quizzes (20)	1.2.3.
授業外での評価	20	Vocabulary notebook, other out-of-class assignments (20)	1.2.3.
期末試験	30	Final Test (30)	1.2.3.
定期試験	0		
その他	20	Presentation and communication activities (20)	1.2.3.

テキスト	English Vocabulary In Use: Elementary, Michael McCarthy, Felicity O'Dell Book with answers and Enhanced eBook Cambridge University Press; 3 edition (August 4, 2017), ISBN: 9781316631522
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	意欲的に取り組み、予習復習を行うことが求められます。
担当教員への連絡方法	・ J.A. マクナブ macnab@oiu.jp

授業コード	10201601		
授業科目名	ポキャブラービルディングII	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	J.R.リード		
成績担当教員氏名	J.R.リード		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

ポキャブラービルディングとは、語彙を増やすことである。英語を学ぶにはまずその単語を知らなければならない。しかし、ただ単に単語だけを知っても使うことができれば何にもならないので、この授業の目的は文脈の中での単語の使われ方・使い方を学ぶことによって、語彙を増やすことである。授業では具体的に、読む・聴く・書く・話すという4技能を使った様々なタスクやアクティビティを通して単語を学ぶようにする。時には、クロスワードパズルや guessing game や英語の歌などを交えながら楽しく学べるようにしている。適宜、単語の小テストを行い、授業で学んだ語彙の習得を確実なものにする。receptive vocabulary および productive vocabulary としての基本 1000 語の習得が目標である。

Put simply, "Vocabulary Building" refers to expanding the number of words you know. An important first step in learning English is learning individual vocabulary words. However, knowing a word is only helpful if you can use your knowledge. For this reason, this course's goal is for students to learn how to understand and actively use vocabulary words in context. Specifically, this involves learning words through various tasks and activities that incorporate the 4 skills of reading, listening, writing, and speaking. Occasionally, students will take part in fun activities involving crossword puzzles, guessing games, and song lyrics. To solidify learning, vocabulary quizzes will be conducted as deemed necessary by the instructor. Students are expected to gain receptive and productive knowledge of about 1000 basic vocabulary items throughout the course.

到達目標

1. Learn to recognize and use vocabulary from thematic units 21-37 over the course of the semester. 既知っている単語を幅広く使えるようになる。さらに新出単語を学習し、色んな状況で使えるようになること。
2. Learn to recognize and use common grammar from Units 50-60 over the course of the semester.

授業計画

【第1回】

テーマ：Orientation: Outline the course, explain syllabus and grading policy.

内容・方法：Outline the course, explain syllabus and grading policy. Start on Units 21, 22.

【第2回】

テーマ：Unit 23, 24. Focus on Grammar: Unit 50 (conjunctions)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Extra reading material

【第3回】

テーマ：Unit 25, 26. Focus on Grammar: Unit 51 (days, months, seasons)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Extra reading material

【第4回】

テーマ：Unit 27, 28. Focus on Grammar: Unit 52 (time words)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Review of previous units

【第5回】

テーマ：Unit Evaluation Quiz 1

内容・方法：Test 1, unit review, teacher-selected activities

【第6回】

テーマ：Unit 29, 30. Focus on Grammar: Unit 53 (places)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Extra reading material

【第7回】

テーマ：Unit 31, 32. Focus on Grammar: Unit 54 (manner: adjectives/adverbs)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Extra reading material

【第8回】

テーマ：Unit 33, 34. Focus on Grammar: Unit 55 (common uncountable nouns)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Extra reading material

【第9回】

テーマ：Unit 35. Focus on Grammar: Unit 56 (common adjectives)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Review of previous units

【第10回】

テーマ：Unit Evaluation Quiz 2

内容・方法：Evaluation 2, unit review, teacher-selected activities

【第11回】

テーマ：Unit 36. Focus on Grammar: Unit 57 (prepositions)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material. Review of previous units

【第12回】

テーマ：Unit 37. Focus on Grammar: Unit 58, 59 (prefixes, suffixes)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material. Review of previous units

【第13回】

テーマ：Units Review: 21-30. Focus on Grammar: Unit 60 (confusing words)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material. Review of previous units

【第14回】

テーマ：Units Review: 31-37. Focus on Grammar: Review of units 50-60

内容・方法：Review of previous units

【第15回】

テーマ：Final Test

内容・方法：Final Test

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。

Note: This is a 1-credit (1単位) course, which requires a total of 45 hours of study throughout the semester. Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

事前学修課題：Read the course outline

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第2回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第3回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第4回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment. Prepare for Evaluation

【第5回】

事前学修課題：Prepare for Evaluation

事後学修課題：Review test errors. Vocabulary homework assignment

【第6回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第7回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第8回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第9回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment. Prepare for Evaluation

【第10回】

事前学修課題：Prepare for Evaluation

事後学修課題：Review test errors. Vocabulary homework assignment

【第11回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第12回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第13回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第14回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Prepare for Final Test.

【第15回】

事前学修課題：Final Evaluation

事後学修課題：Nothing

課題に対するフィードバックの方法

Participation and effort will be considered in addition to accuracy during in-class practice activities. Feedback will be given during class and on homework assignments.

フィードバックは授業中にします。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す通り、成績は課題、小テスト及び期末試験の結果に基づく総合的な評価により決定される。60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由のない欠席が4回を超える場合は、「K」評価（不合格）とする。

注：授業計画や成績評価の基準は変更する場合がある。詳しくは科目担任の各教員に確認してください。

As described below, grades will be calculated based on assignments, quizzes, and an end-of-ter

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	In-class assignments (10) and evaluation quizzes (20)	1.2.3.
授業外での評価	20	Vocabulary notebook, other out-of-class assignments (20)	1.2.3.
期末試験	30	Final Evaluation (30)	1.2.3.
定期試験	0		
その他	20	Presentation and communication activities (20)	1.2.3.

テキスト	English Vocabulary In Use: Elementary, Michael McCarthy, Felicity O'Dell Book with answers and Enhanced eBook Cambridge University Press; 3 edition (August 4, 2017), ISBN: 9781316631522
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。 Additional materials will be introduced in class as necessary.
履修条件・他の科目との関連	意欲的に取り組み、予習復習を行うことが求められます。 Students are expected to participate actively and preview/review regularly.
担当教員への連絡方法	・J.R.リード reed@oiu.jp

授業コード	10201602		
授業科目名	ポキャブラリービルディングII	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	G.S.ジョン-バプティースト		
成績担当教員氏名	G.S.ジョン-バプティースト		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

ポキャブラリービルディングとは、語彙を増やすことである。英語を学ぶにはまずその単語を知らなければならない。しかし、ただ単に単語だけを知っても使うことができれば何にもならないので、この授業の目的は文脈の中での単語の使われ方・使い方を学ぶことによって、語彙を増やすことである。授業では具体的に、読む・聴く・書く・話すという4技能を使った様々なタスクやアクティビティを通して単語を学ぶようにする。時には、クロスワードパズルや guessing game や英語の歌などを交えながら楽しく学べるようにしている。適宜、単語の小テストを行い、授業で学んだ語彙の習得を確実なものにする。receptive vocabulary および productive vocabulary としての基本 1000 語の習得が目標である。

Put simply, "Vocabulary Building" refers to expanding the number of words you know. An important first step in learning English is learning individual vocabulary words. However, knowing a word is only helpful if you can use your knowledge. For this reason, this course's goal is for students to learn how to understand and actively use vocabulary words in context. Specifically, this involves learning words through various tasks and activities that incorporate the 4 skills of reading, listening, writing, and speaking. Occasionally, students will take part in fun activities involving crossword puzzles, guessing games, and song lyrics. To solidify learning, vocabulary quizzes will be conducted as deemed necessary by the instructor. Students are expected to gain receptive and productive knowledge of about 1000 basic vocabulary items throughout the course.

到達目標

1. Learn to recognize and use vocabulary from thematic units 21-37 over the course of the semester. 既知っている単語を幅広く使えるようになる。さらに新出単語を学習し、色んな状況で使えるようになること。
2. Learn to recognize and use common grammar from Units 50-60 over the course of the semester.

授業計画

【第1回】

テーマ：Orientation: Outline the course, explain syllabus and grading policy.

内容・方法：Outline the course, explain syllabus and grading policy. Start on Units 21, 22.

【第2回】

テーマ：Unit 23, 24. Focus on Grammar: Unit 50 (conjunctions)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Extra reading material

【第3回】

テーマ：Unit 25, 26. Focus on Grammar: Unit 51 (days, months, seasons)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Extra reading material

【第4回】

テーマ：Unit 27, 28. Focus on Grammar: Unit 52 (time words)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Review of previous units

【第5回】

テーマ：Unit Evaluation Quiz 1

内容・方法：Test 1, unit review, teacher-selected activities

【第6回】

テーマ：Unit 29, 30. Focus on Grammar: Unit 53 (places)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Extra reading material

【第7回】

テーマ：Unit 31, 32. Focus on Grammar: Unit 54 (manner: adjectives/adverbs)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Extra reading material

【第8回】

テーマ：Unit 33, 34. Focus on Grammar: Unit 55 (common uncountable nouns)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Extra reading material

【第9回】

テーマ：Unit 35. Focus on Grammar: Unit 56 (common adjectives)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Review of previous units

【第10回】

テーマ：Unit Evaluation Quiz 2

内容・方法：Evaluation 2, unit review, teacher-selected activities

【第11回】

テーマ：Unit 36. Focus on Grammar: Unit 57 (prepositions)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material. Review of previous units

【第12回】

テーマ：Unit 37. Focus on Grammar: Unit 58, 59 (prefixes, suffixes)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material. Review of previous units

【第13回】

テーマ：Units Review: 21-30. Focus on Grammar: Unit 60 (confusing words)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material. Review of previous units

【第14回】

テーマ：Units Review: 31-37. Focus on Grammar: Review of units 50-60

内容・方法：Review of previous units

【第15回】

テーマ：Final Test

内容・方法：Final Test

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。

Note: This is a 1-credit (1単位) course, which requires a total of 45 hours of study throughout the semester. Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

事前学修課題：Read the course outline

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第2回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第3回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第4回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment. Prepare for Evaluation

【第5回】

事前学修課題：Prepare for Evaluation

事後学修課題：Review test errors. Vocabulary homework assignment

【第6回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第7回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第8回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第9回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment. Prepare for Evaluation

【第10回】

事前学修課題：Prepare for Evaluation

事後学修課題：Review test errors. Vocabulary homework assignment

【第11回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第12回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第13回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第14回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Prepare for Final Test.

【第15回】

事前学修課題：Final Evaluation

事後学修課題：Nothing

課題に対するフィードバックの方法

Participation and effort will be considered in addition to accuracy during in-class practice activities. Feedback will be given during class and on homework assignments.

フィードバックは授業中にします。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す通り、成績は課題、小テスト及び期末試験の結果に基づく総合的な評価により決定される。60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由のない欠席が4回を超える場合は、「K」評価（不合格）とする。

注：授業計画や成績評価の基準は変更する場合がある。詳しくは科目担任の各教員に確認してください。

As described below, grades will be calculated based on assignments, quizzes, and an end-of-ter

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	In-class assignments (10) and evaluation quizzes (20)	1.2.3.
授業外での評価	20	Vocabulary notebook, other out-of-class assignments (20)	1.2.3.
期末試験	30	Final Evaluation (30)	1.2.3.
定期試験	0		
その他	20	Presentation and communication activities (20)	1.2.3.

テキスト	English Vocabulary In Use: Elementary, Michael McCarthy, Felicity O'Dell Book with answers and Enhanced eBook Cambridge University Press; 3 edition (August 4, 2017), ISBN: 9781316631522
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。 Additional materials will be introduced in class as necessary.
履修条件・他の科目との関連	意欲的に取り組み、予習復習を行うことが求められます。 Students are expected to participate actively and preview/review regularly.
担当教員への連絡方法	・G.S.ジョン・バプティースト johnbaptiste@oiu.jp

授業コード	10201603		
授業科目名	ポキャブラリービルディングII	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	C.ロジャース		
成績担当教員氏名	C.ロジャース		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

ポキャブラリービルディングとは、語彙を増やすことである。英語を学ぶにはまずその単語を知らなければならない。しかし、ただ単に単語だけを知っても使うことができれば何にもならないので、この授業の目的は文脈の中での単語の使われ方・使い方を学ぶことによって、語彙を増やすことである。授業では具体的に、読む・聴く・書く・話すという4技能を使った様々なタスクやアクティビティを通して単語を学ぶようにする。時には、クロスワードパズルや guessing game や英語の歌などを交えながら楽しく学べるようにしている。適宜、単語の小テストを行い、授業で学んだ語彙の習得を確実なものにする。receptive vocabulary および productive vocabulary としての基本 1000 語の習得が目標である。

Put simply, "Vocabulary Building" refers to expanding the number of words you know. An important first step in learning English is learning individual vocabulary words. However, knowing a word is only helpful if you can use your knowledge. For this reason, this course's goal is for students to learn how to understand and actively use vocabulary words in context. Specifically, this involves learning words through various tasks and activities that incorporate the 4 skills of reading, listening, writing, and speaking. Occasionally, students will take part in fun activities involving crossword puzzles, guessing games, and song lyrics. To solidify learning, vocabulary quizzes will be conducted as deemed necessary by the instructor. Students are expected to gain receptive and productive knowledge of about 1000 basic vocabulary items throughout the course.

到達目標

1. Learn to recognize and use vocabulary from thematic units 21-37 over the course of the semester. 既知っている単語を幅広く使えるようになる。さらに新出単語を学習し、色んな状況で使えるようになること。
2. Learn to recognize and use common grammar from Units 50-60 over the course of the semester.

授業計画

【第1回】

テーマ：Orientation: Outline the course, explain syllabus and grading policy.

内容・方法：Outline the course, explain syllabus and grading policy. Start on Units 21, 22.

【第2回】

テーマ：Unit 23, 24. Focus on Grammar: Unit 50 (conjunctions)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Extra reading material

【第3回】

テーマ：Unit 25, 26. Focus on Grammar: Unit 51 (days, months, seasons)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Extra reading material

【第4回】

テーマ：Unit 27, 28. Focus on Grammar: Unit 52 (time words)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Review of previous units

【第5回】

テーマ：Unit Evaluation Quiz 1

内容・方法：Test 1, unit review, teacher-selected activities

【第6回】

テーマ：Unit 29, 30. Focus on Grammar: Unit 53 (places)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Extra reading material

【第7回】

テーマ：Unit 31, 32. Focus on Grammar: Unit 54 (manner: adjectives/adverbs)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Extra reading material

【第8回】

テーマ：Unit 33, 34. Focus on Grammar: Unit 55 (common uncountable nouns)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Extra reading material

【第9回】

テーマ：Unit 35. Focus on Grammar: Unit 56 (common adjectives)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Review of previous units

【第10回】

テーマ：Unit Evaluation Quiz 2

内容・方法：Evaluation 2, unit review, teacher-selected activities

【第11回】

テーマ：Unit 36. Focus on Grammar: Unit 57 (prepositions)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material. Review of previous units

【第12回】

テーマ：Unit 37. Focus on Grammar: Unit 58, 59 (prefixes, suffixes)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material. Review of previous units

【第13回】

テーマ：Units Review: 21-30. Focus on Grammar: Unit 60 (confusing words)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material. Review of previous units

【第14回】

テーマ：Units Review: 31-37. Focus on Grammar: Review of units 50-60

内容・方法：Review of previous units

【第15回】

テーマ：Final Test

内容・方法：Final Test

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。

Note: This is a 1-credit (1単位) course, which requires a total of 45 hours of study throughout the semester. Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

事前学修課題：Read the course outline

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第2回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第3回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第4回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment. Prepare for Evaluation

【第5回】

事前学修課題：Prepare for Evaluation

事後学修課題：Review test errors. Vocabulary homework assignment

【第6回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第7回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第8回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第9回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment. Prepare for Evaluation

【第10回】

事前学修課題：Prepare for Evaluation

事後学修課題：Review test errors. Vocabulary homework assignment

【第11回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第12回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第13回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第14回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Prepare for Final Test.

【第15回】

事前学修課題：Final Evaluation

事後学修課題：Nothing

課題に対するフィードバックの方法

Participation and effort will be considered in addition to accuracy during in-class practice activities. Feedback will be given during class and on homework assignments.

フィードバックは授業中にします。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す通り、成績は課題、小テスト及び期末試験の結果に基づく総合的な評価により決定される。60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由のない欠席が4回を超える場合は、「K」評価（不合格）とする。

注：授業計画や成績評価の基準は変更する場合があります。詳しくは科目担任の各教員に確認してください。

As described below, grades will be calculated based on assignments, quizzes, and an end-of-ter

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	In-class assignments (10) and evaluation quizzes (20)	1.2.3.
授業外での評価	20	Vocabulary notebook, other out-of-class assignments (20)	1.2.3.
期末試験	30	Final Evaluation (30)	1.2.3.
定期試験	0		
その他	20	Presentation and communication activities (20)	1.2.3.

テキスト	English Vocabulary In Use: Elementary, Michael McCarthy, Felicity O'Dell Book with answers and Enhanced eBook Cambridge University Press; 3 edition (August 4, 2017), ISBN: 9781316631522
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。 Additional materials will be introduced in class as necessary.
履修条件・他の科目との関連	意欲的に取り組み、予習復習を行うことが求められます。 Students are expected to participate actively and preview/review regularly.
担当教員への連絡方法	・C.ロジャース crogers@oiu.jp

授業コード	10201604		
授業科目名	ポキャブラリービルディングII	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	JA.マクナブ		
成績担当教員氏名	JA.マクナブ		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

ポキャブラリービルディングとは、語彙を増やすことである。英語を学ぶにはまずその単語を知らなければならない。しかし、ただ単に単語だけを知っても使うことができれば何にもならないので、この授業の目的は文脈の中での単語の使われ方・使い方を学ぶことによって、語彙を増やすことである。授業では具体的に、読む・聴く・書く・話すという4技能を使った様々なタスクやアクティビティを通して単語を学ぶようにする。時には、クロスワードパズルや guessing game や英語の歌などを交えながら楽しく学べるようにしている。適宜、単語の小テストを行い、授業で学んだ語彙の習得を確実なものにする。receptive vocabulary および productive vocabulary としての基本 1000 語の習得が目標である。

Put simply, "Vocabulary Building" refers to expanding the number of words you know. An important first step in learning English is learning individual vocabulary words. However, knowing a word is only helpful if you can use your knowledge. For this reason, this course's goal is for students to learn how to understand and actively use vocabulary words in context. Specifically, this involves learning words through various tasks and activities that incorporate the 4 skills of reading, listening, writing, and speaking. Occasionally, students will take part in fun activities involving crossword puzzles, guessing games, and song lyrics. To solidify learning, vocabulary quizzes will be conducted as deemed necessary by the instructor. Students are expected to gain receptive and productive knowledge of about 1000 basic vocabulary items throughout the course.

到達目標

1. Learn to recognize and use vocabulary from thematic units 21-37 over the course of the semester. 既知っている単語を幅広く使えるようになる。さらに新出単語を学習し、色んな状況で使えるようになること。
2. Learn to recognize and use common grammar from Units 50-60 over the course of the semester.

授業計画

【第1回】

テーマ：Orientation: Outline the course, explain syllabus and grading policy.

内容・方法：Outline the course, explain syllabus and grading policy. Start on Units 21, 22.

【第2回】

テーマ：Unit 23, 24. Focus on Grammar: Unit 50 (conjunctions)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Extra reading material

【第3回】

テーマ：Unit 25, 26. Focus on Grammar: Unit 51 (days, months, seasons)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Extra reading material

【第4回】

テーマ：Unit 27, 28. Focus on Grammar: Unit 52 (time words)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Review of previous units

【第5回】

テーマ：Unit Evaluation Quiz 1

内容・方法：Test 1, unit review, teacher-selected activities

【第6回】

テーマ：Unit 29, 30. Focus on Grammar: Unit 53 (places)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Extra reading material

【第7回】

テーマ：Unit 31, 32. Focus on Grammar: Unit 54 (manner: adjectives/adverbs)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Extra reading material

【第8回】

テーマ：Unit 33, 34. Focus on Grammar: Unit 55 (common uncountable nouns)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Extra reading material

【第9回】

テーマ：Unit 35. Focus on Grammar: Unit 56 (common adjectives)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Review of previous units

【第10回】

テーマ：Unit Evaluation Quiz 2

内容・方法：Evaluation 2, unit review, teacher-selected activities

【第11回】

テーマ：Unit 36. Focus on Grammar: Unit 57 (prepositions)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material. Review of previous units

【第12回】

テーマ：Unit 37. Focus on Grammar: Unit 58, 59 (prefixes, suffixes)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material. Review of previous units

【第13回】

テーマ：Units Review: 21-30. Focus on Grammar: Unit 60 (confusing words)

内容・方法：Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material. Review of previous units

【第14回】

テーマ：Units Review: 31-37. Focus on Grammar: Review of units 50-60

内容・方法：Review of previous units

【第15回】

テーマ：Final Test

内容・方法：Final Test

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。

Note: This is a 1-credit (1単位) course, which requires a total of 45 hours of study throughout the semester. Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

事前学修課題：Read the course outline

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第2回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第3回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第4回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment. Prepare for Evaluation

【第5回】

事前学修課題：Prepare for Evaluation

事後学修課題：Review test errors. Vocabulary homework assignment

【第6回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第7回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第8回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第9回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment. Prepare for Evaluation

【第10回】

事前学修課題：Prepare for Evaluation

事後学修課題：Review test errors. Vocabulary homework assignment

【第11回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第12回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第13回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Vocabulary homework assignment

【第14回】

事前学修課題：Review the units studied

事後学修課題：Review units studied. Prepare for Final Test.

【第15回】

事前学修課題：Final Evaluation

事後学修課題：Nothing

課題に対するフィードバックの方法

Participation and effort will be considered in addition to accuracy during in-class practice activities. Feedback will be given during class and on homework assignments.

フィードバックは授業中にします。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す通り、成績は課題、小テスト及び期末試験の結果に基づく総合的な評価により決定される。60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由のない欠席が4回を超える場合は、「K」評価（不合格）とする。

注：授業計画や成績評価の基準は変更する場合があります。詳しくは科目担任の各教員に確認してください。

As described below, grades will be calculated based on assignments, quizzes, and an end-of-ter

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	In-class assignments (10) and evaluation quizzes (20)	1.2.3.
授業外での評価	20	Vocabulary notebook, other out-of-class assignments (20)	1.2.3.
期末試験	30	Final Evaluation (30)	1.2.3.
定期試験	0		
その他	20	Presentation and communication activities (20)	1.2.3.

テキスト	English Vocabulary In Use: Elementary, Michael McCarthy, Felicity O'Dell Book with answers and Enhanced eBook Cambridge University Press; 3 edition (August 4, 2017), ISBN: 9781316631522
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。 Additional materials will be introduced in class as necessary.
履修条件・他の科目との関連	意欲的に取り組み、予習復習を行うことが求められます。 Students are expected to participate actively and preview/review regularly.
担当教員への連絡方法	・J.A. マクナブ macnab@oiu.jp

授業コード	10201701		
授業科目名	エッセンシャルグラマーⅠ	実務家教員による授業	—
授業担当教員氏名	J.エチャー		
成績担当教員氏名	J.エチャー		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

Essential Grammar とは 必要な文法という意味です。今までの勉強のやり方と違って、英語で英語の文法を学ぶコースです。

英語で文法を勉強するメリットは、スムーズなコミュニケーションができるようになる点です。

今までの勉強では、英語を話そうとする時に、自分の脳の中でまず日本語で考え、それから英語に訳します。コミュニケーション的にこのやり方は不便です。リアルタイムに訳す時間がありません。

それより、基本的な文から全部英語で考えたら、もっとスムーズなコミュニケーションができるはず。だから、このコースは基本的な文法から英語で復習し、コミュニケーションを中心としたコースになっています。

In this class, students will review essential parts of English grammar. A diagnostics test will be given the first day of class. Based on the results of this test, the teacher will select points to be reviewed in each of the following lessons. Each day, students will be given a short writing assignment practicing grammar studied as homework. A short quiz will be given at the beginning of each lesson covering the point studied in the previous lesson.

到達目標

1. Review grammatical structures covered in previous courses
2. Demonstrate understanding of grammar through term tests
3. Build fluency and accuracy through grammar homework

授業計画

- 【第1回】**
 テーマ：オリエンテーション Course Introduction
 内容・方法：授業の概要、受講にあたっての注意事項の説明。Course overview
 Unit 1 & grammar activities; Unit 3 (Homework)
- 【第2回】**
 テーマ：Selected Grammar Point & Homework review
 内容・方法：Unit 2 & grammar activities; Unit 4 (Homework)
- 【第3回】**
 テーマ：Selected Grammar Point & Homework review
 内容・方法：Unit 5 & grammar activities; Unit 9 (Homework)
- 【第4回】**
 テーマ：Selected Grammar Point & Homework review
 内容・方法：Unit 6 & grammar activities; Unit 7 (Homework)
- 【第5回】**
 テーマ：Term Test 1
 内容・方法：Review of units studied in class and for homework. Term Test
 Unit 11 (Homework)
- 【第6回】**
 テーマ：Selected Grammar Point & Homework review
 内容・方法：Unit 16 & grammar activities; Unit 10 (Homework)
- 【第7回】**
 テーマ：Selected Grammar Point & Homework review
 内容・方法：Unit 17 & grammar activities; Unit 22 (Homework)
- 【第8回】**
 テーマ：Selected Grammar Point & Homework review
 内容・方法：Unit 26 & grammar activities; Unit 42 (Homework)
- 【第9回】**
 テーマ：Selected Grammar Point & Homework review
 内容・方法：Unit 27 & grammar activities; Unit 38 (Homework)
- 【第10回】**
 テーマ：Term Test 2
 内容・方法：Review of units studied in class and for homework. Term Test
 Unit 10 (Homework)
- 【第11回】**
 テーマ：Selected Grammar Point & Homework review
 内容・方法：Unit 28, 29 & grammar activities; Unit 39 (Homework)
- 【第12回】**
 テーマ：Selected Grammar Point & Homework review
 内容・方法：Unit 32 & grammar activities; Unit 35 (Homework)
- 【第13回】**
 テーマ：Selected Grammar Point & Homework review
 内容・方法：Unit 34 & grammar activities; Unit 37 (Homework)
- 【第14回】**
 テーマ：Selected Grammar Point & Homework review
 内容・方法：Unit 17 & grammar activities; Unit 31 (Homework)

<p>【第15回】 テーマ：Term Test 3 内容・方法：Review of units studied in class and for homework. Term Test</p>			
<p>事前事後の学習</p>			
<p>授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。</p>			
<p>Note: This is a 1-credit (1 単位) course, which requires a total of 45 hours of study throughout the semester. Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.</p>			
<p>【第1回】 事前学習：シラバスを読んでおくこと 事後学習：オリエンテーションの内容を見直し不明なところがないかを確認する。学習内容の復習、宿題</p>			
<p>【第2回~第4回】 事前学習：テキストの該当箇所を読んでおく。宿題を完成させる 意味の分からない単語は辞書で確認しておく。 事後学習：学習内容の復習、宿題 小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第5回】 事前学習：学習内容を復習、テスト1 事後学習：小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第6回~第9回】 事前学習：テキストの該当箇所を読んでおく。宿題を完成させる 意味の分からない単語は辞書で確認しておく。 事後学習：学習内容の復習、宿題 小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第10回】 事前学習：学習内容を復習、テスト2 事後学習：小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第11回~第14回】 事前学習：テキストの該当箇所を読んでおく。宿題を完成させる 意味の分からない単語は辞書で確認しておく。 事後学習：学習内容の復習、宿題 小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第15回】 事前学習：学習内容を復習、テスト3 事後学習：小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>課題に対するフィードバックの方法</p>			
<p>The teacher will tell you your current grade three times during the semester.</p>			
<p>成績評価の方法・基準（方針）</p>			
<p>小テスト、まとめのテスト、TOEIC・TOEIC Bridge の成績、提出物、授業への取り組みなどを総合して評価する。</p>			
<p>Notes: 1) You will get more information from the course teacher on the first class session. 最初の授業に、先生がもっと詳しく授業の方針とスケジュールを説明する。 2) If you are absent 4 or more times without excuse, you cannot r</p>			
成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	Participation (10), Classwork (30), Two term tests (20)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Grammar Homework	3
期末試験	20	Final Term Test	1, 2
定期試験	0		
その他	0		
テキスト	<p>マーフィーのケンブリッジ英文法 初級編（第3版）2016 Murphy, Raymond (著) / Smalzer, William R. (執筆協力) 渡辺 雅仁/田島 祐規子(訳) ISBN: 9784889967654</p>		
参考書	<p>必要に応じて授業の中で紹介する。</p>		
履修条件・他の科目との関連	<p>授業には必ずテキストを持って臨むこと。</p>		
担当教員への連絡方法	<p>・J.エチャャー ecerjiri@oiu.jp</p>		

授業コード	10201702		
授業科目名	エッセンシャルグラマーⅠ	実務家教員による授業	—
授業担当教員氏名	J.D.ラッセル		
成績担当教員氏名	J.D.ラッセル		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

Essential Grammar とは 必要な文法という意味です。今までの勉強のやり方と違って、英語で英語の文法を学ぶコースです。

英語で文法を勉強するメリットは、スムーズなコミュニケーションができるようになる点です。

今までの勉強では、英語を話そうとする時に、自分の脳の中でまず日本語で考え、それから英語に訳します。コミュニケーション的にこのやり方は不便です。リアルタイムに訳す時間がありません。

それより、基本的な文から全部英語で考えたら、もっとスムーズなコミュニケーションができるはず。だから、このコースは基本的な文法から英語で復習し、コミュニケーションを中心としたコースになっています。

In this class, students will review essential parts of English grammar. A diagnostics test will be given the first day of class. Based on the results of this test, the teacher will select points to be reviewed in each of the following lessons. Each day, students will be given a short writing assignment practicing grammar studied as homework. A short quiz will be given at the beginning of each lesson covering the point studied in the previous lesson.

到達目標

1. Review grammatical structures covered in previous courses
2. Demonstrate understanding of grammar through term tests
3. Build fluency and accuracy through grammar homework

授業計画

【第1回】

テーマ：オリエンテーション Course Introduction

内容・方法：授業の概要、受講にあたっての注意事項の説明。Course overview

Unit 1 & grammar activities; Unit 3 (Homework)

【第2回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 2 & grammar activities; Unit 4 (Homework)

【第3回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 5 & grammar activities; Unit 9 (Homework)

【第4回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 6 & grammar activities; Unit 7 (Homework)

【第5回】

テーマ：Term Test 1

内容・方法：Review of units studied in class and for homework. Term Test

Unit 11 (Homework)

【第6回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 16 & grammar activities; Unit 10 (Homework)

【第7回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 17 & grammar activities; Unit 22 (Homework)

【第8回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 26 & grammar activities; Unit 42 (Homework)

【第9回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 27 & grammar activities; Unit 38 (Homework)

【第10回】

テーマ：Term Test 2

内容・方法：Review of units studied in class and for homework. Term Test

Unit 10 (Homework)

【第11回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 28, 29 & grammar activities; Unit 39 (Homework)

【第12回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 32 & grammar activities; Unit 35 (Homework)

【第13回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 34 & grammar activities; Unit 37 (Homework)

【第14回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

<p>内容・方法：Unit 17 & grammar activities; Unit 31 (Homework)</p> <p>【第15回】</p> <p>テーマ：Term Test 3</p> <p>内容・方法：Review of units studied in class and for homework. Term Test</p>			
<p>事前事後の学習</p>			
<p>授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。</p> <p>Note: This is a 1-credit (1 単位) course, which requires a total of 45 hours of study throughout the semester. Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.</p>			
<p>【第1回】</p> <p>事前学習：シラバスを読んでおくこと</p> <p>事後学習：オリエンテーションの内容を見直し不明なところがないかを確認する。学習内容の復習、宿題</p>			
<p>【第2回~第4回】</p> <p>事前学習：テキストの該当箇所を読んでおく。宿題を完成させる</p> <p>意味の分からない単語は辞書で確認しておく。</p> <p>事後学習：学習内容の復習、宿題</p> <p>小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第5回】</p> <p>事前学習：学習内容を復習、テスト1</p> <p>事後学習：小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第6回~第9回】</p> <p>事前学習：テキストの該当箇所を読んでおく。宿題を完成させる</p> <p>意味の分からない単語は辞書で確認しておく。</p> <p>事後学習：学習内容の復習、宿題</p> <p>小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第10回】</p> <p>事前学習：学習内容を復習、テスト2</p> <p>事後学習：小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第11回~第14回】</p> <p>事前学習：テキストの該当箇所を読んでおく。宿題を完成させる</p> <p>意味の分からない単語は辞書で確認しておく。</p> <p>事後学習：学習内容の復習、宿題</p> <p>小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第15回】</p> <p>事前学習：学習内容を復習、テスト3</p> <p>事後学習：小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>課題に対するフィードバックの方法</p>			
<p>The teacher will tell you your current grade three times during the semester.</p>			
<p>成績評価の方法・基準（方針）</p>			
<p>小テスト、まとめのテスト、TOEIC・TOEIC Bridge の成績、提出物、授業への取り組みなどを総合して評価する。</p> <p>Notes:</p> <p>1) You will get more information from the course teacher on the first class session. 最初の授業に、先生がもっと詳しく授業の方針とスケジュールを説明する。</p> <p>2) If you are absent 4 or more times without excuse, you cannot r</p>			
成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	Participation (10), Classwork (30), Two term tests (20)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Grammar Homework	3
期末試験	20	Final Term Test	1, 2
定期試験	0		
その他	0		
テキスト	<p>マーフィーのケンブリッジ英文法 初級編（第3版）2016 Murphy, Raymond (著) / Smalzer, William R. (執筆協力) 渡辺 雅仁/田島 祐規子(訳) ISBN: 9784889967654</p>		
参考書	<p>必要に応じて授業の中で紹介する。</p>		
履修条件・他の科目との関連	<p>授業には必ずテキストを持って臨むこと。</p>		
担当教員への連絡方法	<p>・J.D.ラッセル russell@oiu.jp</p>		

授業コード	10201703		
授業科目名	エッセンシャルグラマーⅠ	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	木村 理恵子		
成績担当教員氏名	木村 理恵子		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

Essential Grammar とは 必要な文法という意味です。今までの勉強のやり方と違って、英語で英語の文法を学ぶコースです。

英語で文法を勉強するメリットは、スムーズなコミュニケーションができるようになる点です。

今までの勉強では、英語を話そうとする時に、自分の脳の中でまず日本語で考え、それから英語に訳します。コミュニケーション的にこのやり方は不便です。リアルタイムに訳す時間がありません。

それより、基本的な文から全部英語で考えたら、もっとスムーズなコミュニケーションができるはず。だから、このコースは基本的な文法から英語で復習し、コミュニケーションを中心としたコースになっています。

In this class, students will review essential parts of English grammar. A diagnostics test will be given the first day of class. Based on the results of this test, the teacher will select points to be reviewed in each of the following lessons. Each day, students will be given a short writing assignment practicing grammar studied as homework. A short quiz will be given at the beginning of each lesson covering the point studied in the previous lesson.

到達目標

1. Review grammatical structures covered in previous courses
2. Demonstrate understanding of grammar through term tests
3. Build fluency and accuracy through grammar homework

授業計画

【第1回】

テーマ：オリエンテーション Course Introduction

内容・方法：授業の概要、受講にあたっての注意事項の説明。Course overview

Unit 1 & grammar activities; Unit 3 (Homework)

【第2回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 2 & grammar activities; Unit 4 (Homework)

【第3回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 5 & grammar activities; Unit 9 (Homework)

【第4回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 6 & grammar activities; Unit 7 (Homework)

【第5回】

テーマ：Term Test 1

内容・方法：Review of units studied in class and for homework. Term Test

Unit 11 (Homework)

【第6回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 16 & grammar activities; Unit 10 (Homework)

【第7回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 17 & grammar activities; Unit 22 (Homework)

【第8回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 26 & grammar activities; Unit 42 (Homework)

【第9回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 27 & grammar activities; Unit 38 (Homework)

【第10回】

テーマ：Term Test 2

内容・方法：Review of units studied in class and for homework. Term Test

Unit 10 (Homework)

【第11回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 28, 29 & grammar activities; Unit 39 (Homework)

【第12回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 32 & grammar activities; Unit 35 (Homework)

【第13回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 34 & grammar activities; Unit 37 (Homework)

【第14回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

<p>内容・方法：Unit 17 & grammar activities; Unit 31 (Homework)</p> <p>【第15回】</p> <p>テーマ：Term Test 3</p> <p>内容・方法：Review of units studied in class and for homework. Term Test</p>			
<p>事前事後の学習</p>			
<p>授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。</p> <p>Note: This is a 1-credit (1 単位) course, which requires a total of 45 hours of study throughout the semester. Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.</p>			
<p>【第1回】</p> <p>事前学習：シラバスを読んでおくこと</p> <p>事後学習：オリエンテーションの内容を見直し不明なところがないかを確認する。学習内容の復習、宿題</p>			
<p>【第2回~第4回】</p> <p>事前学習：テキストの該当箇所を読んでおく。宿題を完成させる</p> <p>意味の分からない単語は辞書で確認しておく。</p> <p>事後学習：学習内容の復習、宿題</p> <p>小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第5回】</p> <p>事前学習：学習内容を復習、テスト1</p> <p>事後学習：小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第6回~第9回】</p> <p>事前学習：テキストの該当箇所を読んでおく。宿題を完成させる</p> <p>意味の分からない単語は辞書で確認しておく。</p> <p>事後学習：学習内容の復習、宿題</p> <p>小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第10回】</p> <p>事前学習：学習内容を復習、テスト2</p> <p>事後学習：小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第11回~第14回】</p> <p>事前学習：テキストの該当箇所を読んでおく。宿題を完成させる</p> <p>意味の分からない単語は辞書で確認しておく。</p> <p>事後学習：学習内容の復習、宿題</p> <p>小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第15回】</p> <p>事前学習：学習内容を復習、テスト3</p> <p>事後学習：小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>課題に対するフィードバックの方法</p>			
<p>The teacher will tell you your current grade three times during the semester.</p>			
<p>成績評価の方法・基準（方針）</p>			
<p>小テスト、まとめのテスト、TOEIC・TOEIC Bridge の成績、提出物、授業への取り組みなどを総合して評価する。</p> <p>Notes:</p> <p>1) You will get more information from the course teacher on the first class session. 最初の授業に、先生がもっと詳しく授業の方針とスケジュールを説明する。</p> <p>2) If you are absent 4 or more times without excuse, you cannot r</p>			
成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	Participation (10), Classwork (30), Two term tests (20)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Grammar Homework	3
期末試験	20	Final Term Test	1, 2
定期試験	0		
その他	0		
テキスト	<p>マーフィーのケンブリッジ英文法 初級編（第3版）2016</p> <p>Murphy, Raymond (著) / Smalzer, William R. (執筆協力)</p> <p>渡辺 雅仁/田島 祐規子(訳)</p> <p>ISBN: 9784889967654</p>		
参考書	<p>必要に応じて授業の中で紹介する。</p>		
履修条件・他の科目との関連	<p>授業には必ずテキストを持って臨むこと。</p>		
担当教員への連絡方法	<p>・木村 理恵子 r-kimura@oiu.jp</p>		

授業コード	10201801		
授業科目名	エッセンシャルグラマーⅡ	実務家教員による授業	—
授業担当教員氏名	J.エチャー		
成績担当教員氏名	J.エチャー		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

Essential Grammar とは 必要な文法という意味です。今までの勉強のやり方と違って、英語で英語の文法を学ぶコースです。

英語で文法を勉強するメリットは、スムーズなコミュニケーションができるようになる点です。

今までの勉強では、英語を話そうとする時に、自分の脳の中でまず日本語で考え、それから英語に訳します。コミュニケーション的にこのやり方は不便です。リアルタイムに訳す時間がありません。

それより、基本的な文から全部英語で考えたら、もっとスムーズなコミュニケーションができるはず。だから、このコースは基本的な文法から英語で復習し、コミュニケーションを中心としたコースになっています。

In this class, students will review essential parts of English grammar. A diagnostics test will be given the first day of class. Based on the results of this test, the teacher will select points to be reviewed in each of the following lessons. Each day, students will be given a short writing assignment practicing grammar studied as homework. A short quiz will be given at the beginning of each lesson covering the point studied in the previous lesson.

到達目標

1. Review grammatical structures covered in previous courses
2. Demonstrate understanding of grammar through term tests
3. Build fluency and accuracy through grammar homework

授業計画

【第1回】

テーマ：オリエンテーション Course Introduction

内容・方法：授業の概要、受講にあたっての注意事項の説明。Course overview

Unit 46 & grammar activities; Unit 45 (Homework)

【第2回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 47 & grammar activities; Unit 52 (Homework)

【第3回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 48 & grammar activities; Unit 53 (Homework)

【第4回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 49 & grammar activities; Unit 75 (Homework)

【第5回】

テーマ：Term Test 1

内容・方法：Review of units studied in class and for homework. Term Test

Unit 11 (Homework)

【第6回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 54 & grammar activities; Unit 44 (Homework)

【第7回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 55 & grammar activities; Unit 57 (Homework)

【第8回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 60 & grammar activities; Unit 59 (Homework)

【第9回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 61 & grammar activities; Unit 41 (Homework)

【第10回】

テーマ：Term Test 2

内容・方法：Review of units studied in class and for homework. Term Test

Unit 10 (Homework)

【第11回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 104 & grammar activities; Unit 67 (Homework)

【第12回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 105 & grammar activities; Unit 68 (Homework)

【第13回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 106 & grammar activities; Unit 73 (Homework)

【第14回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

<p>内容・方法：Unit 110 & grammar activities; Unit 107 (Homework)</p> <p>【第15回】</p> <p>テーマ：Term Test 3</p> <p>内容・方法：Review of units studied in class and for homework. Term Test</p>			
事前事後の学習			
<p>授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。</p> <p>Note: This is a 1-credit (1 単位) course, which requires a total of 45 hours of study throughout the semester. Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.</p>			
<p>【第1回】</p> <p>事前学習：シラバスを読んでおくこと</p> <p>事後学習：オリエンテーションの内容を見直し不明なところがないかを確認する。学習内容の復習、宿題</p>			
<p>【第2回~第4回】</p> <p>事前学習：テキストの該当箇所を読んでおく。宿題を完成させる</p> <p>意味の分からない単語は辞書で確認しておく。</p> <p>事後学習：学習内容の復習、宿題</p> <p>小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第5回】</p> <p>事前学習：学習内容を復習、テスト1</p> <p>事後学習：小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第6回~第9回】</p> <p>事前学習：テキストの該当箇所を読んでおく。宿題を完成させる</p> <p>意味の分からない単語は辞書で確認しておく。</p> <p>事後学習：学習内容の復習、宿題</p> <p>小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第10回】</p> <p>事前学習：学習内容を復習、テスト2</p> <p>事後学習：小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第11回~第14回】</p> <p>事前学習：テキストの該当箇所を読んでおく。宿題を完成させる</p> <p>意味の分からない単語は辞書で確認しておく。</p> <p>事後学習：学習内容の復習、宿題</p> <p>小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第15回】</p> <p>事前学習：学習内容を復習、テスト3</p> <p>事後学習：小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
課題に対するフィードバックの方法			
The teacher will tell you your current grade three times during the semester.			
成績評価の方法・基準（方針）			
<p>小テスト、まとめのテスト、TOEIC・TOEIC Bridge の成績、提出物、授業への取り組みなどを総合して評価する。</p> <p>Notes:</p> <p>1) You will get more information from the course teacher on the first class session. 最初の授業に、先生がもっと詳しく授業の方針とスケジュールを説明する。</p> <p>2) If you are absent 4 or more times without excuse, you cannot r</p>			
成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	Participation (10), Classwork (30), Two term tests (20)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Grammar Homework	3
期末試験	20	Final term test	1, 2
定期試験	0		
その他	0		
テキスト	<p>マーフィーのケンブリッジ英文法 初級編（第3版）2016</p> <p>Murphy, Raymond (著) / Smalzer, William R. (執筆協力)</p> <p>渡辺 雅仁/田島 祐規子(訳)</p> <p>ISBN: 9784889967654</p>		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	授業には必ずテキストを持って臨むこと。		
担当教員への連絡方法	・J,エチャャー ecerjiri@oiu.jp		

授業コード	10201802		
授業科目名	エッセンシャルグラマー II	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	J.D.ラッセル		
成績担当教員氏名	J.D.ラッセル		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

Essential Grammar とは 必要な文法という意味です。今までの勉強のやり方と違って、英語で英語の文法を学ぶコースです。

英語で文法を勉強するメリットは、スムーズなコミュニケーションができるようになる点です。

今までの勉強では、英語を話そうとする時に、自分の脳の中でまず日本語で考え、それから英語に訳します。コミュニケーション的にこのやり方は不便です。リアルタイムに訳す時間がありません。

それより、基本的な文から全部英語で考えたら、もっとスムーズなコミュニケーションができるはず。だから、このコースは基本的な文法から英語で復習し、コミュニケーションを中心としたコースになっています。

In this class, students will review essential parts of English grammar. A diagnostics test will be given the first day of class. Based on the results of this test, the teacher will select points to be reviewed in each of the following lessons. Each day, students will be given a short writing assignment practicing grammar studied as homework. A short quiz will be given at the beginning of each lesson covering the point studied in the previous lesson.

到達目標

1. Review grammatical structures covered in previous courses
2. Demonstrate understanding of grammar through term tests
3. Build fluency and accuracy through grammar homework

授業計画

【第1回】

テーマ：オリエンテーション Course Introduction

内容・方法：授業の概要、受講にあたっての注意事項の説明。Course overview

Unit 46 & grammar activities; Unit 45 (Homework)

【第2回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 47 & grammar activities; Unit 52 (Homework)

【第3回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 48 & grammar activities; Unit 53 (Homework)

【第4回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 49 & grammar activities; Unit 75 (Homework)

【第5回】

テーマ：Term Test 1

内容・方法：Review of units studied in class and for homework. Term Test

Unit 11 (Homework)

【第6回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 54 & grammar activities; Unit 44 (Homework)

【第7回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 55 & grammar activities; Unit 57 (Homework)

【第8回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 60 & grammar activities; Unit 59 (Homework)

【第9回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 61 & grammar activities; Unit 41 (Homework)

【第10回】

テーマ：Term Test 2

内容・方法：Review of units studied in class and for homework. Term Test

Unit 10 (Homework)

【第11回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 104 & grammar activities; Unit 67 (Homework)

【第12回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 105 & grammar activities; Unit 68 (Homework)

【第13回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

内容・方法：Unit 106 & grammar activities; Unit 73 (Homework)

【第14回】

テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

<p>内容・方法：Unit 110 & grammar activities; Unit 107 (Homework)</p> <p>【第15回】</p> <p>テーマ：Term Test 3</p> <p>内容・方法：Review of units studied in class and for homework. Term Test</p>			
事前事後の学習			
<p>授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。</p> <p>Note: This is a 1-credit (1 単位) course, which requires a total of 45 hours of study throughout the semester. Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.</p>			
<p>【第1回】</p> <p>事前学習：シラバスを読んでおくこと</p> <p>事後学習：オリエンテーションの内容を見直し不明なところがないかを確認する。学習内容の復習、宿題</p>			
<p>【第2回~第4回】</p> <p>事前学習：テキストの該当箇所を読んでおく。宿題を完成させる</p> <p>意味の分からない単語は辞書で確認しておく。</p> <p>事後学習：学習内容の復習、宿題</p> <p>小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第5回】</p> <p>事前学習：学習内容を復習、テスト1</p> <p>事後学習：小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第6回~第9回】</p> <p>事前学習：テキストの該当箇所を読んでおく。宿題を完成させる</p> <p>意味の分からない単語は辞書で確認しておく。</p> <p>事後学習：学習内容の復習、宿題</p> <p>小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第10回】</p> <p>事前学習：学習内容を復習、テスト2</p> <p>事後学習：小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第11回~第14回】</p> <p>事前学習：テキストの該当箇所を読んでおく。宿題を完成させる</p> <p>意味の分からない単語は辞書で確認しておく。</p> <p>事後学習：学習内容の復習、宿題</p> <p>小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第15回】</p> <p>事前学習：学習内容を復習、テスト3</p> <p>事後学習：小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
課題に対するフィードバックの方法			
The teacher will tell you your current grade three times during the semester.			
成績評価の方法・基準（方針）			
<p>小テスト、まとめのテスト、TOEIC・TOEIC Bridge の成績、提出物、授業への取り組みなどを総合して評価する。</p> <p>Notes:</p> <p>1) You will get more information from the course teacher on the first class session. 最初の授業に、先生がもっと詳しく授業の方針とスケジュールを説明する。</p> <p>2) If you are absent 4 or more times without excuse, you cannot r</p>			
成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	Participation (10), Classwork (30), Two term tests (20)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Grammar Homework	3
期末試験	20	Final term test	1, 2
定期試験	0		
その他	0		
テキスト	<p>マーフィーのケンブリッジ英文法 初級編（第3版）2016</p> <p>Murphy, Raymond (著) / Smalzer, William R. (執筆協力)</p> <p>渡辺 雅仁/田島 祐規子(訳)</p> <p>ISBN: 9784889967654</p>		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	授業には必ずテキストを持って臨むこと。		
担当教員への連絡方法	・J.D.ラッセル russell@oiu.jp		

授業コード	10201803		
授業科目名	エッセンシャルグラマーⅡ	実務家教員による授業	—
授業担当教員氏名	木村 理恵子		
成績担当教員氏名	木村 理恵子		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

Essential Grammar とは 必要な文法という意味です。今までの勉強のやり方と違って、英語で英語の文法を学ぶコースです。
 英語で文法を勉強するメリットは、スムーズなコミュニケーションができるようになる点です。
 今までの勉強では、英語を話そうとする時に、自分の脳の中でまず日本語で考え、それから英語に訳します。コミュニケーション的にこのやり方は不便です。リアルタイムに訳す時間がありません。
 それより、基本的な文から全部英語で考えたら、もっとスムーズなコミュニケーションができるはず。だから、このコースは基本的な文法から英語で復習し、コミュニケーションを中心としたコースになっています。

In this class, students will review essential parts of English grammar. A diagnostics test will be given the first day of class. Based on the results of this test, the teacher will select points to be reviewed in each of the following lessons. Each day, students will be given a short writing assignment practicing grammar studied as homework. A short quiz will be given at the beginning of each lesson covering the point studied in the previous lesson.

到達目標

1. Review grammatical structures covered in previous courses
2. Demonstrate understanding of grammar through term tests
3. Build fluency and accuracy through grammar homework

授業計画

- 【第1回】**
 テーマ：オリエンテーション Course Introduction
 内容・方法：授業の概要、受講にあたっての注意事項の説明。Course overview
 Unit 46 & grammar activities; Unit 45 (Homework)
- 【第2回】**
 テーマ：Selected Grammar Point & Homework review
 内容・方法：Unit 47 & grammar activities; Unit 52 (Homework)
- 【第3回】**
 テーマ：Selected Grammar Point & Homework review
 内容・方法：Unit 48 & grammar activities; Unit 53 (Homework)
- 【第4回】**
 テーマ：Selected Grammar Point & Homework review
 内容・方法：Unit 49 & grammar activities; Unit 75 (Homework)
- 【第5回】**
 テーマ：Term Test 1
 内容・方法：Review of units studied in class and for homework. Term Test
 Unit 11 (Homework)
- 【第6回】**
 テーマ：Selected Grammar Point & Homework review
 内容・方法：Unit 54 & grammar activities; Unit 44 (Homework)
- 【第7回】**
 テーマ：Selected Grammar Point & Homework review
 内容・方法：Unit 55 & grammar activities; Unit 57 (Homework)
- 【第8回】**
 テーマ：Selected Grammar Point & Homework review
 内容・方法：Unit 60 & grammar activities; Unit 59 (Homework)
- 【第9回】**
 テーマ：Selected Grammar Point & Homework review
 内容・方法：Unit 61 & grammar activities; Unit 41 (Homework)
- 【第10回】**
 テーマ：Term Test 2
 内容・方法：Review of units studied in class and for homework. Term Test
 Unit 10 (Homework)
- 【第11回】**
 テーマ：Selected Grammar Point & Homework review
 内容・方法：Unit 104 & grammar activities; Unit 67 (Homework)
- 【第12回】**
 テーマ：Selected Grammar Point & Homework review
 内容・方法：Unit 105 & grammar activities; Unit 68 (Homework)
- 【第13回】**
 テーマ：Selected Grammar Point & Homework review
 内容・方法：Unit 106 & grammar activities; Unit 73 (Homework)
- 【第14回】**
 テーマ：Selected Grammar Point & Homework review

<p>内容・方法：Unit 110 & grammar activities; Unit 107 (Homework)</p> <p>【第15回】</p> <p>テーマ：Term Test 3</p> <p>内容・方法：Review of units studied in class and for homework. Term Test</p>			
<p>事前事後の学習</p>			
<p>授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。</p> <p>Note: This is a 1-credit (1 単位) course, which requires a total of 45 hours of study throughout the semester. Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.</p>			
<p>【第1回】</p> <p>事前学習：シラバスを読んでおくこと</p> <p>事後学習：オリエンテーションの内容を見直し不明なところがないかを確認する。学習内容の復習、宿題</p>			
<p>【第2回~第4回】</p> <p>事前学習：テキストの該当箇所を読んでおく。宿題を完成させる</p> <p>意味の分からない単語は辞書で確認しておく。</p> <p>事後学習：学習内容の復習、宿題</p> <p>小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第5回】</p> <p>事前学習：学習内容を復習、テスト1</p> <p>事後学習：小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第6回~第9回】</p> <p>事前学習：テキストの該当箇所を読んでおく。宿題を完成させる</p> <p>意味の分からない単語は辞書で確認しておく。</p> <p>事後学習：学習内容の復習、宿題</p> <p>小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第10回】</p> <p>事前学習：学習内容を復習、テスト2</p> <p>事後学習：小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第11回~第14回】</p> <p>事前学習：テキストの該当箇所を読んでおく。宿題を完成させる</p> <p>意味の分からない単語は辞書で確認しておく。</p> <p>事後学習：学習内容の復習、宿題</p> <p>小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>【第15回】</p> <p>事前学習：学習内容を復習、テスト3</p> <p>事後学習：小テスト返却後は、間違った箇所を確認して再復習し、学習内容の修得に努める</p>			
<p>課題に対するフィードバックの方法</p>			
<p>The teacher will tell you your current grade three times during the semester.</p>			
<p>成績評価の方法・基準（方針）</p>			
<p>小テスト、まとめのテスト、TOEIC・TOEIC Bridge の成績、提出物、授業への取り組みなどを総合して評価する。</p> <p>Notes:</p> <p>1) You will get more information from the course teacher on the first class session. 最初の授業に、先生がもっと詳しく授業の方針とスケジュールを説明する。</p> <p>2) If you are absent 4 or more times without excuse, you cannot r</p>			
成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	Participation (10), Classwork (30), Two term tests (20)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Grammar Homework	3
期末試験	20	Final term test	1, 2
定期試験	0		
その他	0		
テキスト	<p>マーフィーのケンブリッジ英文法 初級編（第3版）2016</p> <p>Murphy, Raymond (著) / Smalzer, William R. (執筆協力)</p> <p>渡辺 雅仁/田島 祐規子(訳)</p> <p>ISBN: 9784889967654</p>		
参考書	<p>必要に応じて授業の中で紹介する。</p>		
履修条件・他の科目との関連	<p>授業には必ずテキストを持って臨むこと。</p>		
担当教員への連絡方法	<p>・木村 理恵子 r-kimura@oiu.jp</p>		

授業コード	10207301		
授業科目名	ライティングⅠ	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	鈴木 三千代		
成績担当教員氏名	鈴木 三千代		
単位数	1 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要			
文法の基礎知識と英語の構造を解説するとともに、文法知識、英文法構造を踏まえて、短い英文が書ける様に、又、簡単な英語によるコミュニケーションができる様に指導する。更に授業を通して主体的に学ぶ態度と意欲を身につけるように指導する。			
到達目標			
1.語彙力の向上。(語彙の拡大と新出単語を使用して文章を作成する力) 2.英語の文法並びに構造を理解し短い英文作成に活用できる。 3.英語の文法を理解し、他者との短い英語でのコミュニケーションが実行できるようになる。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション(授業の概要について説明)又、基礎語学力のテストを実施。 第2回 英文の語順及び5文型を解説し、5文型の活用演習を実施。 第3回 BE動詞と一般動詞のルールを解説し、それらを使った基本文章の作成練習を実施。 第4回 Unit 1 「出身地」をテーマに、BE動詞を活用した英作文の応用練習を実施。 第5回 Unit 1 「出身地」をテーマにListening、Reading、Writingの演習を実施。 第6回 Unit 2 「趣味」をテーマに、一般動詞を活用した英作文の応用練習を実施。 第7回 Unit 2 「趣味」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。 第8回 語彙クイズ及び復習:Unit 1とUnit2で学んだ語彙や英作文の復習。 Unit 3 「ショッピング」をテーマに、名詞、代名詞の基礎を解説し、英作文の応用練習を実施。 第9回 Unit 3 「ショッピング」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。 第10回 Unit 4 「自然」をテーマに、疑問詞(WH)を解説し、英作文の応用練習を実施。 第11回 Unit 4 「自然」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。 第12回 Unit 5 「夢の家」をテーマに、前置詞を解説し、英作文の応用練習を実施。 第13回 Unit 5 「夢の家」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。 第14回 Unit 6 「食べ物」をテーマに、接続詞を解説し、英作文の応用練習を実施。 第15回 Unit 6 「食べ物」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。 語彙クイズ及び復習:Unit 3, Unit 4, Unit 5, Unit 6で学んだ語彙や英作文の復習及び全体のまとめ。			
事前事後の学習			
授業(1回につき2時間として計算)と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。			
講義の最後に提示される授業外課題に着実に取り組む事により、事前・事後学習を確実なものにする。又、課題以外にも自主的に、できるだけ多くの英作文を日ごろから作成する習慣をつける様に指導。(毎回平均1時間)			
課題に対するフィードバックの方法			
提出された課題等はチェックして返却し、模範となる解答や、共通の文法間違いなどが確認できた場合は、クラス内で解説を行いフィードバックする。			
成績評価の方法・基準(方針)			
以下に示す評価方法により60点以上を合格として所定の単位を認定する。 正当な理由の無い欠席が5回以上の場合、原則として評価不能とみなしK評価とする。			
成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	受講態度、積極性(自主的な発表・質問などの度合い)、理解度、ペアワーク・グループワークへの取り組み。	1,3
授業外での評価	15	事前事後学習・課題への取り組み。	2
期末試験	0		
定期試験	50	筆記試験	1,2
その他	5	発話練習への積極的参加。	3

テキスト	English Ace / Atsuko Yamamoto et al. / SEIBIDO / 1900 / ISBN978-4-7919-5089-8
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	この授業で使用するテキストは後期の「ライティングⅡ」でも引き続き使用する。授業を年間で計画しているので、後期「ライティングⅡ」を受講することが望ましい。 5回以上の欠席は単位を取得できない。また3回の遅刻は1回の欠席とみなす。 授業を欠席した場合は、欠席した授業の内容をクラスメートに確認し、自らフォローアップしておくこと。
担当教員への連絡方法	・鈴木 三千代 mc-suzuk@oiu.jp

授業コード	10207401		
授業科目名	ライティングII	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	鈴木 三千代		
成績担当教員氏名	鈴木 三千代		
単位数	1 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

文法の基礎知識と英語の構造を解説するとともに、文法知識、英文法構造を踏まえて、短い英文が書ける様に、又、簡単な英語によるコミュニケーションができる様に指導する。更に授業を通して主体的に学ぶ態度と意欲を身につけるように指導する。

到達目標

- 1.語彙力の向上。(語彙の拡大と新出単語を使用して文章を作成する力)
- 2.英語の文法並びに構造を理解し短い英文作成に活用できる。
- 3.英語の文法を理解し、他者との短い英語でのコミュニケーションが実行できるようになる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション (授業の概要について説明) 又、基礎語学力のテストを実施。
- 第2回 英文の語順及び5文型を解説し、5文型の活用演習を実施。
- 第3回 Unit 8 「探偵と真実」をテーマに、進行形を解説し、それを活用した英作文の応用練習を実施。
- 第4回 Unit 8 「探偵と真実」をテーマに、進行形に関する Listening、Reading、Writing の演習を実施。
- 第5回 Unit 9 「経歴」をテーマに、現在完了形を解説し、それを活用した英作文の応用練習を実施。
- 第6回 Unit 9 「経歴」をテーマに、現在完了形に関する Listening、Reading、Writing の演習を実施。
- 第7回 Unit 10 「パーティー」をテーマに、未来表現を解説し、それを活用した英作文の応用練習を実施。
- 第8回 Unit 10 「パーティー」をテーマに、未来表現に関する Listening、Reading、Writing の演習を実施。
- 第9回 語彙クイズ及び復習：Unit 8、Unit 9、Unit 10 で学んだ語彙や英作文の復習。
- Unit 11 「ルール」をテーマに、助動詞を解説し、それを活用した英作文の応用練習を実施。
- 第10回 Unit 11 「ルール」をテーマに、助動詞に関する Listening、Reading、Writing の演習を実施。
- 第11回 Unit 12 「発明、発見」をテーマに、受動態を解説し、それを活用した英作文の応用練習を実施。
- 第12回 Unit 12 「発明、発見」をテーマに、受動態に関する Listening、Reading、Writing の演習を実施。
- 第13回 Unit 15 「将来の夢」をテーマに、不定詞・動名詞を解説し、それを活用した英作文の応用練習を実施。
- 第14回 Unit 15 「将来の夢」をテーマに、不定詞・動名詞に関する Listening、Reading、Writing の演習を実施。
- 第15回 語彙クイズ及び復習：Unit 11、Unit 12、Unit 15 で学んだ語彙や英作文の復習及び全体のまとめ。

事前事後の学習

授業 (1回につき2時間として計算) と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

講義の最後に提示される授業外課題に着実に取り組む事により、事前・事後学習を確実なものにする。又、課題以外にも自主的に、できるだけ多くの英作文を日ごろから作成する習慣をつける様に指導。(毎回平均1時間)

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題等はチェックして返却し、模範となる解答や、共通の文法間違いなどが確認できた場合は、クラス内で解説を行いフィードバックする。

成績評価の方法・基準 (方針)

以下に示す評価方法により60点以上を合格として所定の単位を認定する。
正当な理由の無い欠席が5回以上の場合、原則として評価不能とみなしK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	受講態度、積極性 (自主的な発表・質問などの度合い)、理解度、ペアワーク・グループワークへの取り組み。	1, 3
授業外での評価	15	事前事後学習・課題への取り組み。	2
期末試験	0		
定期試験	50	筆記試験。	1, 2
その他	5	発話練習への積極的参加。	3

テキスト	English Ace / Atsuko Yamamoto et al. / SEIBIDO / 1900 / ISBN978-4-7919-5089-8
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	5回以上の理由のない欠席は単位を取得できない。また3回の遅刻は1回の欠席とみなす。 授業を欠席した場合は、欠席した授業の内容をクラスメートに確認し、自らフォローアップしておくこと。
担当教員への連絡方法	・鈴木 三千代 mc-suzuk@oiu.jp

授業コード	10210101		
授業科目名	旅行英語	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	木村 理恵子		
成績担当教員氏名	木村 理恵子		
単位数	1 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要			
旅行英語：実際の海外旅行・日本への海外からの訪問者を迎える場面の両方に役立つ英語表現をリスニング・リーディングを通して概説し、さらに文化についての解説を加えながら旅行英語について概観するとともに、学生自身がその状況に身を置きコミュニケーションをするという練習を行う。さらに、フィードバックとしては発音、そして英文の構成、的確な表現をアドバイスするという形で共有する。			
到達目標			
1. 海外旅行における手続きや乗り物、宿泊施設利用の方法を知り、英語でのコミュニケーションをすることができる。 2. 海外旅行において起きる可能性のある困難について知り、その場合の英語でのコミュニケーションをすることができる。 3. 海外から日本への訪問者（主に観光）への接待、案内について知り、その場合の英語でのコミュニケーションをすることができる。			
授業計画			
本授業は通常授業ですが、コロナ感染の拡大等により学校からの指示のもと、授業形態をやむを得ず変更する場合がありますことをご理解ください。			
【第1回】			
テーマ：オリエンテーションと活動			
内容・方法：授業概要を説明し、授業方針を知らせる。その後必要な作業を行う。			
【第2回】			
テーマ：海外旅行時に必要な書類と記入			
内容・方法：語彙を増やししながら、その背景を知り、利用する			
【第3回】			
テーマ：海外旅行時で利用される乗り物とその利用			
内容・方法：語彙を増やししながら、その背景を知り、利用する			
【第4回】			
テーマ：海外旅行時で利用されるホテル・B Bとその利用			
内容・方法：語彙を増やししながら、その背景を知り、利用する			
【第5回】			
テーマ：海外旅行でよく訪問される観光地			
内容・方法：語彙を増やししながら、その背景を知り、利用する			
【第6回】			
テーマ：旅行先での困った事 (1)			
内容・方法：場面や対処法、そして英語での表現を知り、利用する			
【第7回】			
テーマ：旅行先での困った事 (2)			
内容・方法：場面や対処法、そして英語での表現を知り、利用する			
【第8回】			
テーマ：授業1回目から7回目までの授業内容の確認と小テスト 1回目			
内容・方法：テスト範囲の英語表現を理解でき、聞き取ることが確認される			
【第9回】			
テーマ：日本を紹介・案内する (1)			
内容・方法：語彙を増やししながら、その背景を知り、利用する			
【第10回】			
テーマ：日本を紹介・案内する (2)			
内容・方法：語彙を増やししながら、その背景を知り、利用する			
【第11回】			
テーマ：日本を紹介・案内する (3)			
内容・方法：語彙を増やししながら、その背景を知り、利用する			
【第12回】			
テーマ：訪日する観光客が困っている時 (1)			
内容・方法：語彙を増やししながら、その背景を知り、利用する			
【第13回】			
テーマ：訪日する観光客が困っている時 (2)			
内容・方法：語彙を増やししながら、その背景を知り、利用する			
【第14回】			
テーマ：セメスターのまとめ			
内容・方法：セメスターを通して学んで来た英語、背景情報を発展させる			
【第15回】			
テーマ：授業9回目から14回目までの学習内容の確認と小テスト2回目、さらに期末試験についての説明			
内容・方法：テスト範囲の英語表現を理解でき、聞き取ることが確認される			
事前事後の学習			
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。			
毎回の授業において、1時間から1時間半程度の事前・事後学習が必要になります。			
【第1回】			

<p>事前学修課題：授業シラバスを確認しておくこと（30分）</p> <p>事後学修課題：単語の復習と旅行について詳細を振り返ってみること（60分）</p> <p>【第2回】</p> <p>事前学修課題：海外旅行時に必要な書類について自分なりのイメージを持つこと（30分）</p> <p>事後学修課題：学習した表現やコミュニケーションについて復習、練習しておくこと（60分）</p> <p>【第3回】</p> <p>事前学修課題：海外旅行時に利用される乗り物とその利用について自分なりのイメージを持つこと（30分）</p> <p>事後学修課題：学習した表現やコミュニケーションについて復習、練習しておくこと（60分）</p> <p>【第4回】</p> <p>事前学修課題：海外旅行時に利用されるホテル・B&Bとその利用について自分なりのイメージを持つこと（30分）</p> <p>事後学修課題：学習した表現やコミュニケーションについて復習、練習しておくこと（60分）</p> <p>【第5回】</p> <p>事前学修課題：海外旅行時でよく訪問される観光地について自分なりのイメージを持つこと（30分）</p> <p>事後学修課題：学習した表現やコミュニケーションについて復習、練習しておくこと（60分）</p> <p>【第6回】</p> <p>事前学修課題：海外旅行時に旅行先での困った事について自分なりのイメージを持つこと（30分）</p> <p>事後学修課題：学習した表現やコミュニケーションについて復習、練習しておくこと（60分）</p> <p>【第7回】</p> <p>事前学修課題：海外旅行時に旅行先での困った事について自分なりのイメージを持つこと（30分）</p> <p>事後学修課題：学習した表現やコミュニケーションについて復習、練習しておくこと（60分）</p> <p>【第8回】</p> <p>事前学修課題：1回目から8回目で学習したコミュニケーションや知識を復習すること（90分）</p> <p>事後学修課題：特にありません</p> <p>【第9回】</p> <p>事前学修課題：日本を紹介・案内することについて自分なりのイメージを持つこと（30分）</p> <p>事後学修課題：学習した表現やコミュニケーションについて復習、練習しておくこと（60分）</p> <p>【第10回】</p> <p>事前学修課題：日本を紹介・案内することについて自分なりのイメージを持つこと（30分）</p> <p>事後学修課題：学習した表現やコミュニケーションについて復習、練習しておくこと（60分）</p> <p>【第11回】</p> <p>事前学修課題：日本を紹介・案内することについて自分なりのイメージを持つこと（30分）</p> <p>事後学修課題：学習した表現やコミュニケーションについて復習、練習しておくこと（60分）</p> <p>【第12回】</p> <p>事前学修課題：訪日する観光客が困ることについて自分なりにイメージを持つこと（30分）</p> <p>事後学修課題：学習した表現やコミュニケーションについて復習、練習しておくこと（60分）</p> <p>【第13回】</p> <p>事前学修課題：訪日する観光客が困ることについて自分なりにイメージを持つこと（30分）</p> <p>事後学修課題：学習した表現やコミュニケーションについて復習、練習しておくこと（60分）</p> <p>【第14回】</p> <p>事前学修課題：発表課題等の準備を行うこと（30分）</p> <p>事後学修課題：10回目から13回目で学習したコミュニケーションや知識を復習すること（60分）</p> <p>【第15回】</p> <p>事前学修課題：小テストの準備を行うこと（30分）</p> <p>事後学修課題：期末試験の準備を行うこと（60分）</p>

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックは授業中に答え合わせ、それについての解説や注意点を加える形で共有する。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す通り、成績は授業内課題、小テスト及び期末試験の結果に基づく総合的な評価により決定される。60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由のない欠席が4回を超える場合は、「K」評価（不合格）とする。

注：授業計画や成績評価の基準は変更する場合がある。詳しくは科目担任の各教員に確認してください。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内課題や小テスト（30）	1.2.3
授業外での評価	0		
期末試験	50	期末試験 レポート試験(50)	1.2.3.
定期試験	0		
その他	20	発表等（20）	1.2.3.

テキスト	配布プリントを利用する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	英和、和英（電子辞書可）を必携のこと。
担当教員への連絡方法	・木村 理恵子 r-kimura@oiu.jp

授業コード	10210201		
授業科目名	時事英語	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	木村 理恵子		
成績担当教員氏名	木村 理恵子		
単位数	1 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要			
私達の生活の中で取り上げられる様々な分野のニュースの英語を概説し、語彙や語法についての説明を行う。学生諸君はそれらの理解を行いながら自分の知識、興味を深くし、探求、発表することが求められる。			
到達目標			
1. ニュースメディアで現在利用されている英語をある程度理解できる。 2. 英語のキーワードを利用して、他のニュースや知識を検索し、様々な見方を発見できる。 3. 興味が深まっている分野やテーマについて、深い英語サーチをすることで、自分なりの見解をまとめ、発表できる。			
授業計画			
本授業は通常授業ですが、コロナ感染の拡大等により学校からの指示のもと、授業形態をやむを得ず変更する場合がありますことをご理解ください。			
<p>【第1回】 テーマ：オリエンテーションと活動 内容・方法：授業概要を説明し、授業方針を知らせる。その後必要な作業を行う。</p> <p>【第2回】 テーマ：コロナ感染についてのニュースを読む（1） 内容・方法：語彙を増やししながら、ニュースを理解する。</p> <p>【第3回】 テーマ：コロナ感染についてのニュースを読む（2） 内容・方法： テーマの中から興味を持ってた点について深い検索を行い、さらに理解を深める。</p> <p>【第4回】 テーマ：政治・経済についてのニュースを読む（1） 内容・方法： 語彙を増やししながら、ニュースを理解する。</p> <p>【第5回】 テーマ：政治・経済についてのニュースを読む（2） 内容・方法： テーマの中から興味を持ってた点について深い検索を行い、さらに理解を深める。</p> <p>【第6回】 テーマ：健康についてのニュースを読む（1） 内容・方法： 語彙を増やししながら、ニュースを理解する。</p> <p>【第7回】 テーマ：健康についてのニュースを読む（2） 内容・方法： テーマの中から興味を持ってた点について深い検索を行い、さらに理解を深める。</p> <p>【第8回】 テーマ：スポーツについてのニュースを読む（1） 内容・方法：語彙を増やししながら、ニュースを理解する。</p> <p>【第9回】 テーマ：スポーツについてのニュースを読む（2） 内容・方法： テーマの中から興味を持ってた点について深い検索を行い、さらに理解を深める。</p> <p>【第10回】 テーマ：最新テクノロジーについてのニュースを読む（1） 内容・方法： 語彙を増やししながら、ニュースを理解する。</p> <p>【第11回】 テーマ：最新テクノロジーについてのニュースを読む（2） 内容・方法： テーマの中から興味を持ってた点について深い検索を行い、さらに理解を深める。</p> <p>【第12回】 テーマ：衣食住についてのニュースを読む（1） 内容・方法： 語彙を増やししながら、ニュースを理解する。</p> <p>【第13回】 テーマ：衣食住についてのニュースを読む（2） 内容・方法： テーマの中から興味を持ってた点について深い検索を行い、さらに理解を深める。</p> <p>【第14回】 テーマ：1回目から14回目授業で取り上げたテーマについての発表と復習 内容・方法：各自が研究しまとめた内容を発表する。</p> <p>【第15回】 テーマ：期末試験について、1回目から14回目までのテーマと内容の復習を行う。 内容・方法：それぞれのテーマで取り上げられた内容をさまざまな点から見る練習をする。</p>			
事前事後の学習			
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。			
毎回、事前・事後学習として1時間から1時間半程度の学習が必要です。			
<p>【第1回】 事前学修課題：授業シラバスを確認しておくこと（30分）</p>			

事後学修課題：オンライン等のニュースを英語で見る練習をする（60分）
【第2回】
事前学修課題：コロナ感染についてのニュースを自分なりに探す（30分）
事後学修課題：学習した内容についての単語やキーワードを再確認すること（60分）
【第3回】
事前学修課題：コロナ感染についてのニュースを自分なりに探す（30分）
事後学修課題：学習した内容についての単語やキーワードを再確認すること（60分）
【第4回】
事前学修課題：政治・経済についてのニュースを自分なりに探す（30分）
事後学修課題：学習した内容についての単語やキーワードを再確認すること（60分）
【第5回】
事前学修課題：政治・経済についてのニュースを自分なりに探す（30分）
事後学修課題：学習した内容についての単語やキーワードを再確認すること（60分）
【第6回】
事前学修課題：健康についてのニュースを自分なりに探す（30分）
事後学修課題：学習した内容についての単語やキーワードを再確認すること（60分）
【第7回】
事前学修課題：健康についてのニュースを自分なりに探す（30分）
事後学修課題：学習した内容についての単語やキーワードを再確認すること（60分）
【第8回】
事前学修課題：スポーツについてのニュースを自分なりに探す（30分）
事後学修課題：学習した内容についての単語やキーワードを再確認すること（60分）
【第9回】
事前学修課題：スポーツについてのニュースを自分なりに探す（30分）
事後学修課題：学習した内容についての単語やキーワードを再確認すること（60分）
【第10回】
事前学修課題：最新テクノロジーについてのニュースを自分なりに探す（30分）
事後学修課題：学習した内容についての単語やキーワードを再確認すること（60分）
【第11回】
事前学修課題：最新テクノロジーについてのニュースを自分なりに探す（30分）
事後学修課題：学習した内容についての単語やキーワードを再確認すること（60分）
【第12回】
事前学修課題：衣食住についてのニュースを自分なりに探す（30分）
事後学修課題：学習した内容についての単語やキーワードを再確認すること（60分）
【第13回】
事前学修課題：衣食住についてのニュースを自分なりに探す（30分）
事後学修課題：学習した内容についての単語やキーワードを再確認すること（60分）
【第14回】
事前学修課題：14回目授業の発表課題等の準備を行うこと（30分）
事後学修課題：発表課題から得られた知識や疑問をまとめる（60分）
【第15回】
事前学修課題：15回目授業の発表課題等の準備を行うこと（30分）
事後学修課題：発表課題から得られた知識や疑問をまとめる、さらに期末試験の準備をする（60分）

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックは授業中に解答、それに伴う必要な説明を行うことによって共有する。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す通り、成績は授業内課題、小テスト及び期末試験の結果に基づく総合的な評価により決定される。60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由のない欠席が4回を超える場合は、「K」評価（不合格）とする。

注：授業計画や成績評価の基準は変更する場合がある。詳しくは科目担任の各教員に確認してください。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業内課題や小テスト（40）	1.2.
授業外での評価	0		
期末試験	40	期末試験 レポート試験（40）	1.2.
定期試験	0		
その他	20	発表等（20）	2.3.

テキスト	配布プリントを利用する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	英和、和英（電子辞書可）を必携のこと。
担当教員への連絡方法	・木村 理恵子 r-kimura@oiu.jp

授業コード	10201901		
授業科目名	中国語Ⅰ（初級）	実務家教員による授業	—
授業担当教員氏名	松岡 依文／岡上 路子		
成績担当教員氏名	松岡 依文		
単位数	2 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要			
<p>中国語の正確な発音と「聞く」・「話す」などの基礎的な語学力を習得することによって中国語の初歩的なコミュニケーション能力を身につけ、これからの中国旅行あるいは卒業後の仕事などにおいて中国人とコミュニケーションするのに少しでも役に立つ基礎的な中国語力の習得と中国理解を目的とする。</p> <p>この授業では正確できれいな発音と聞き取りの練習を繰り返すことにより中国語の基本語彙と文型を習熟していく。「読む、書く、聞く、話す」という四基本技能の内、特に「聞く」と「話す」を重視する。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 正確できれいな発音ができる。 2. 中国語の簡単な挨拶と会話ができる。 			
授業計画			
<p>第1回】 テーマ：中国語とは 内容・方法：これからの授業についての説明、中国語についての紹介。</p> <p>【第2回】 テーマ：母音と声調 内容・方法：中国語の発音（母音、複母音と声調）の説明と練習。</p> <p>【第3回】 テーマ：母音と複母音 内容・方法：中国語の発音（母音、複母音と声調）の復習と練習</p> <p>【第4回】 テーマ：子音と鼻母音 内容・方法：中国語の発音（子音と鼻母音）の説明と練習</p> <p>【第5回】 テーマ：声調と変調 内容・方法：中国語における変調などについての説明、中国語の発音をまとめながら正確な発音ができるよう練習と矯正を行う。</p> <p>【第6回】 テーマ：名詞述語文 内容・方法：第1課、代詞と名詞述語文などの要点説明と練習</p> <p>【第7回】 テーマ：疑問文と名詞修飾 内容・方法：第1課、疑問文、連体修飾的などの要点説明と練習</p> <p>【第8回】 テーマ：第1課の理解と練習 内容・方法：第1課の本文理解とドリル</p> <p>【第9回】 テーマ：動詞述語文 内容・方法：第2課、動詞述語文、省略疑問などの要点説明と練習</p> <p>【第10回】 テーマ：選択疑問 内容・方法：第2課、選択疑問、副詞などの要点説明と練習</p> <p>【第11回】 テーマ：第2課の理解と練習 内容・方法：第2課の本文理解とドリル</p> <p>【第12回】 テーマ：第1課と第2課についての再確認 内容・方法：第1課と第2課についての復習と考査。学生の質問に説明を行う。</p> <p>【第13回】 テーマ：所有と存在表現 内容・方法：第3課、所有、存在の有等の要点説明と練習</p> <p>【第14回】 テーマ：接続助詞と副詞 内容・方法：第3課、接続助詞、副詞都等の要点説明と練習</p> <p>【第15回】 テーマ：第3課の理解と練習 内容・方法：第3課の本文理解とドリル</p> <p>【第16回】 テーマ：第3課の理解と練習 内容・方法：第3課の本文理解とドリル</p> <p>【第17回】 テーマ：形容詞述語文と現在進行形 内容・方法：第4課、形容詞述語文、現在進行の在等の要点説明と練習</p>			

【第18回】

テーマ：主述述語文

内容・方法：第4課、主述述語文、「有点見+形容詞」等の要点説明と練習

【第19回】

テーマ：第4課の理解と練習

内容・方法：第4課の本文理解とドリル

【第20回】

テーマ：第3課と第4課の再確認

内容・方法：第3、4課についての復習と考査。学生の質問に説明を行う。

【第21回】

テーマ：年月日と前置詞

内容・方法：第5課、年月日の言い方、前置詞からなどの要点説明と練習

【第22回】

テーマ：連動文と願望表現

内容・方法：第5課、連動文、願望表現などの要点説明と練習

【第23回】

テーマ：第5課の理解と復習

内容・方法：第5課の本文理解とドリル

【第24回】

テーマ：総合復習

内容・方法：これまでの内容について総合復習と総合練習

【第25回】

テーマ：指示詞と所在

内容・方法：第6課、指示詞、所在の在などの要点説明と練習

【第26回】

テーマ：方位詞と助数詞

内容・方法：第6課、方位詞と助数詞、反復疑問文などの要点説明と練習

【第27回】

テーマ：第6課の本文理解と復習

内容・方法：第6課の本文理解とドリル

【第28回】

テーマ：時間と曜日の言い方

内容・方法：第7課、時間などの表現と前置詞の在などの要点説明と練習

【第29回】

テーマ：比況表現と必要、義務の表現

内容・方法：第7課、「～と同じだ」の表現と助動詞要などの要点説明と練習

【第30回】

テーマ：第7課の本文理解と復習

内容・方法：第7課の本文理解とドリル

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

【第1回】

①事前学修課題：教科書の目次などを見て、中国語について大まかなイメージを掴む

②事後学修課題：教員の説明を復習する。

【第2回】

①事前学修課題：付属CDを聞いて大まかな母音と声調を事前予習する。

②事後学修課題：授業内容を復習し、付属CDを繰り返し聞く。

【第3回】

①事前学修課題：付属CDを聞いて複母音を事前予習。

②事後学修課題：授業内容を復習し、付属CDを繰り返し聞く。

【第4回】

①事前学修課題：付属CDを聞いて子音と鼻母音を事前予習。

②事後学修課題：授業内容を復習し、付属CDを繰り返し聞く。

【第5回】

①事前学修課題：付属CDを聞きながらこれまで学習した中国語の発音を復習

②事後学修課題：個々の発音をマスターできたかを自己チェックしながら、復習。

【第6回】

①事前学修課題：教科書の85と86ページを読んで、中国語の基礎文法のイメージを掴む。

②事後学修課題：新出単語や授業内容を復習する。

【第7回】

①事前学修課題：15ページの説明を読んで、大まかなイメージを掴む。

②事後学修課題：新出単語や授業内容を復習する。付属CDのこの課の内容を繰り返し聞く。

【第8回】

①事前学修課題：16ページの練習問題を事前予習する。

②事後学修課題：授業中の復習、練習で気づいた未だ理解できなかった部分をもう一度復習する。

【第9回】

①事前学修課題：第2課の新出単語と18ページの内容を事前予習する。

②事後学修課題：授業内容を復習。付属CDを繰り返し聞く。

【第10回】

①事前学修課題：19ページの内容を事前予習する。

②事後学修課題：授業内容を復習。付属CDを繰り返し聞く。

【第11回】

①事前学修課題：第2課の本文内容と20ページの練習問題を事前予習する。

②事後学修課題：授業中の復習、練習で気がついた未だ理解できなかった部分をもう一度復習する。

【第12回】

①事前学修課題：第1課と第2課で習った内容を確認し、分からないところがあればメモなどに書き留める。

②事後学修課題：チェックシートで気づいた理解できていない部分を復習する。

【第13回】

①事前学修課題：第3課の新出単語と22ページの内容を事前予習する。

②事後学修課題：授業内容を復習。付属CDを繰り返し聞く。

【第14回】

①事前学修課題：23ページの内容を事前予習する。

②事後学修課題：授業内容を復習。付属CDを繰り返し聞く。

【第15回】

①事前学修課題：第3課の本文内容と24ページの練習問題を事前予習する。

②事後学修課題：授業中の復習、練習で気がついた未だ理解できなかった部分をもう一度復習する。

【第16回】

①事前学修課題：第4課の新出単語と26ページの内容を事前予習する。

②事後学修課題：授業内容を復習。付属CDを繰り返し聞く。

【第17回】

①事前学修課題：前回内容の復習と27ページの内容を事前予習する。

②事後学修課題：授業内容を復習。付属CDを繰り返し聞く。

【第18回】

①事前学修課題：第4課の本文内容と28ページの練習問題を事前予習する。

②事後学修課題：授業中の復習、練習で気がついた未だ理解できなかった部分をもう一度復習する。

【第19回】

①事前学修課題：第3課と第4課で習った内容を確認し、まだ分からないところがあればメモなどに書き留める。

②事後学修課題：チェックシートで気づいた未だ理解できていない部分を復習する。

【第20回】

①事前学修課題：第5課の新出単語と30ページの内容を事前予習する。

②事後学修課題：授業内容を復習。付属CDを繰り返し聞く。

【第21回】

①事前学修課題：前回の内容を復習し、30と31ページの関連内容を事前予習する。

②事後学修課題：授業内容を復習。付属CDを繰り返し聞く。

【第22回】

①事前学修課題：第5課の本文内容と32ページの練習問題を事前予習する。

②事後学修課題：授業中の復習、練習で気がついた未だ理解できなかった部分をもう一度復習する。

【第23回】

①事前学修課題：発音や第1課～第5課の内容の再確認し、35ページの総合練習を事前予習する。

②事後学修課題：文法まとめや総合練習で気づいた理解できていない部分を復習する。

【第24回】

①事前学修課題：第6課の新出単語と38ページの内容を事前予習する。

②事後学修課題：授業内容を復習。付属CDを繰り返し聞く。

【第25回】

①事前学修課題：前回の内容を復習し、39ページの関連内容を事前予習する。

②事後学修課題：授業内容を復習。付属CDを繰り返し聞く。

【第26回】

①事前学修課題：第6課の本文内容と40ページの練習問題を事前予習する。

②事後学修課題：授業中の復習、練習で気がついた未だ理解できなかった部分をもう一度復習する。

【第27回】

①事前学修課題：第7課の新出単語と42ページの内容を事前予習する。

②事後学修課題：授業内容を復習。付属CDを繰り返し聞く。

【第28回】

①事前学修課題：前回の内容を復習し、43ページの関連内容を事前予習する。

②事後学修課題：授業内容を復習。付属CDを繰り返し聞く。

【第29回】

①事前学修課題：第7課の本文内容と44ページの練習問題を事前予習する。

②事後学修課題：授業中の復習、練習で気がついた未だ理解できなかった部分をもう一度復習する。

【第30回】

①事前学修課題：中国語Iで習って来た内容を復習し、まだ分からないところがあればメモなどに書き留める。

②事後学修課題：事前学修で気づいた問題などに対して、教員が行った説明に基づいて再度、これまでの学修内容を復習する。

課題に対するフィードバックの方法			
<p> 考査などを採点后、速やかに返還し間違いやすいところや、理解が不十分なところを説明する。 </p>			
成績評価の方法・基準（方針）			
<p> 授業態度、授業中の練習への取り組み方、小テスト及び総合考査などによる総合評価。 </p>			
成績評価の種類	評価割合（％）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業態度、授業中の練習への取り組み方、小テスト及び総合考査、期末試験などによる総合評価。	1.2.
授業外での評価	0		
期末試験	40	最終回に行われる総合考査テストの成績によって評価する。	1.2.
定期試験	0		
その他	30	授業中に行われる3回の考査の成績によって評価する。	1.2.

テキスト	『実学実用 漢語起步』/黄 志軍/白帝社/2400/978-4-86398-116-4
参考書	必要に応じて別途指示する
履修条件・他の科目との関連	この授業は木曜日3限中国語Ⅰと連携して行われるので、一方でも無断欠席すると理解できなくなるため、遅刻や無断欠席はしないこと。
担当教員への連絡方法	<ul style="list-style-type: none"> ・岡上 路子 okaue@oiu.jp ・松岡 依文 y-matuok@oiu.jp

授業コード	10202001		
授業科目名	中国語Ⅱ（中級）	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	松岡 依文／岡上 路子		
成績担当教員氏名	松岡 依文		
単位数	2 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

「中国語Ⅰ」に引き続き、中国でもっとも広く使われている「普通話(標準語)」の基礎を勉強していく。中国旅行や卒業後の仕事などにも生かせるように、中国人とのコミュニケーションがよりスムーズにできるための中国語を身につけることが目的である。

「中国語Ⅱ」で習った中国語の発音や基礎文法、文型等を復習しながら、新しい文法事項を習得していく。また、習得したものを応用できるように授業を進めていく。この講義では「聞く・読む・話す・書く」の四基本技能全般の能力養成を重視する。

尚、語学的なもの他にその背景となる中国の文化や現在の社会事情などを紹介し、中国社会全体についての興味を育てる。

到達目標

1. 基礎的な文法をマスターし、応用できる。
2. 基礎的なコミュニケーションができる。

授業計画

【第1回】
 テーマ：中国語Ⅰの復習
 内容・方法：中国語Ⅰで習った内容についての復習をする

【第2回】
 テーマ：完了と仮定表現
 内容・方法：第8課 完了の了、仮定表現などの要点説明と練習を行う

【第3回】
 テーマ：指示詞及び形容詞の名詞修飾
 内容・方法：第8課 勧誘を表す、指示詞や形容詞による名詞修飾などの要点説明と練習を行う

【第4回】
 テーマ：第8課の理解と練習
 内容・方法：第8課の本文理解とドリル

【第5回】
 テーマ：可能表現
 内容・方法：第9課 可能表現会、前置詞離などの要点説明と練習を行う

【第6回】
 テーマ：時間量の表現と 起点、終点の表現
 内容・方法：第9課 時間量、前置詞从?到?などの要点説明と練習を行う

【第7回】
 テーマ：第9課の理解と練習
 内容・方法：第9課の本文理解とドリル

【第8回】
 テーマ：第8課と第9課の再確認
 内容・方法：第8、9課についての復習と考査。学生の質問に説明を行う。

【第9回】
 テーマ：了と比較表現
 内容・方法：第10課 発生と実現の了、比較表現などの要点説明と練習を行う

【第10回】
 テーマ：結果補語と前置詞給
 内容・方法：第10課 結果補語と前置詞の給などの要点説明と練習を行う

【第11回】
 テーマ：第10課の理解と練習
 内容・方法：第10課の本文理解とドリル

【第12回】
 テーマ：第8課～第10課の総合復習
 内容・方法：第8課～第10課の総合復習と総合練習

【第13回】
 テーマ：様態補語、使役表現
 内容・方法：第11課の様態補語、使役表現構文などの要点説明と練習を行う

【第14回】
 テーマ：可能表現と二重目的語
 内容・方法：第11課 可能的助動詞、二重目的語を取る動詞などの要点説明と練習を行う

【第15回】
 テーマ：第11課の理解と練習
 内容・方法：第11課の本文理解とドリル

【第16回】
 テーマ：第11課の理解と練習
 内容・方法：第11課の本文理解とドリル

【第17回】

テーマ：経験相と可能補語

内容・方法：第12課 経験を表す過、可能補語などの要点説明と練習を行う

【第18回】

テーマ：有の連動的構文

内容・方法：第12課 有の連動的構文、已經?了などの要点説明と練習を行う

【第19回】

テーマ：第12課の理解と練習

内容・方法：第12課の本文理解とドリル

【第20回】

テーマ：第11課と第12課の再確認

内容・方法：第11、12課の復習と考査

【第21回】

テーマ：前置詞把と方向補語

内容・方法：第13課 把の構文、方向補語などの要点説明と練習を行う

【第22回】

テーマ：禁止表現と持続表現

内容・方法：第13課 禁止の別と持続の着などの要点説明と練習を行う

【第23回】

テーマ：第13課の理解と練習

内容・方法：第13課の本文理解とドリル

【第24回】

テーマ：受動態と因果関係の表現

内容・方法：第14課 受動態被、因果関係表現などの要点説明と練習を行う

【第25回】

テーマ：比況表現、推測表現

内容・方法：第14課 比況表現、推測表現、出現文などの要点説明と練習を行う

【第26回】

テーマ：第14課の理解と練習

内容・方法：第14課の本文理解とドリル

【第27回】

テーマ：第13課と第14課の再確認

内容・方法：第13課と第14課についての復習と考査。学生の質問に説明を行う。

【第28回】

テーマ：疑問詞の呼応と「～ながら」表現

内容・方法：第15課 同一疑問詞の呼応用法と「～ながら」などの要点説明と練習を行う

【第29回】

テーマ：意思表示の表現と「～ために」

内容・方法：第15課 意思表示の表現と「～ために」、「～のみならず」などの文型説明と練習を行う

【第30回】

テーマ：第15課の理解と練習

内容・方法：第15課の本文理解とドリル

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

【第1回】

①事前学修課題：中国語Ⅰで習った内容を復習する。

②事後学修課題：授業で復習した時に気づいた忘れていた内容や理解しきれていなかった内容の再復習。

【第2回】

①事前学修課題：第8課の新出単語と46ページの関連内容を事前予習する。

②事後学修課題：授業内容を復習し、付属CDを繰り返し聞く。

【第3回】

①事前学修課題：前回の学習内容の復習と47ページの関連内容の事前予習。

②事後学修課題：授業内容を復習し、付属CDを繰り返し聞く。

【第4回】

①事前学修課題：第8課の本文と48ページの練習問題を事前予習する。

②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいた未だ分からなかったところを復習する。

【第5回】

①事前学修課題：第9課の新出単語と50、51ページの関連内容を予習する。

②事後学修課題：授業内容を復習し、付属CDを繰り返し聞く。

【第6回】

①事前学修課題：前回の学習内容の復習と50、51ページの関連内容の事前予習。

②事後学修課題：授業内容を復習し、付属CDを繰り返し聞く。

【第7回】

①事前学修課題：第9課の本文と52ページの練習問題を事前予習する。

②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいた未だ分からなかったところを復習する。

【第8回】

- ①事前学修課題：第8課、第9家で習った内容を確認し、分からないところがあればメモなどに書き留める。
- ②事後学修課題：チェックシートで気づいた理解できていない部分を復習する。

【第9回】

- ①事前学修課題：第10課の新出単語と54、55ページの関連内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、付属CDを繰り返し聞く。

【第10回】

- ①事前学修課題：前回の学習内容の復習と54、55ページの関連内容の事前予習。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、付属CDを繰り返し聞く。

【第11回】

- ①事前学修課題：第10課の本文と56ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいた分からなかったところを復習する。

【第12回】

- ①事前学修課題：第8課～第10課で習った内容を再度確認し、分からないところがあればメモなどに書き留める。
- ②事後学修課題：文法のまとめや総合練習を通じて、分からなかったところについての説明を再度確認し、復習する。

【第13回】

- ①事前学修課題：第11課の新出単語と62、63ページの関連内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、付属CDを繰り返し聞く。

【第14回】

- ①事前学修課題：前回の学習内容の復習と62、63ページの関連内容の事前予習。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、付属CDを繰り返し聞く。

【第15回】

- ①事前学修課題：第11課の本文と64ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいた分からなかったところを復習する。

【第16回】

- ①事前学修課題：第12課の新出単語と66、67ページの関連内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、付属CDを繰り返し聞く。

【第17回】

- ①事前学修課題：前回の内容の復習と66、67ページの関連内容の事前予習。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、付属CDを繰り返し聞く。

【第18回】

- ①事前学修課題：第12課の本文と68ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいた分からなかったところを復習する。

【第19回】

- ①事前学修課題：第11課、第12家で習った内容を確認し、分からないところがあればメモなどに書き留める。
- ②事後学修課題：チェックシートで気づいた理解できていない部分を再確認し、復習する。

【第20回】

- ①事前学修課題：第13課の新出単語と70ページの内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、付属CDを繰り返し聞く。

【第21回】

- ①事前学修課題：前回の内容の復習と71ページの内容の事前予習。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、付属CDを繰り返し聞く。

【第22回】

- ①事前学修課題：第13課の本文内容と72ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいた分からなかったところを復習する。

【第23回】

- ①事前学修課題：第14課の新出単語と75ページの内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、付属CDを繰り返し聞く。

【第24回】

- ①事前学修課題：前回の内容の復習と74、75ページの関連内容の事前予習。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、付属CDを繰り返し聞く。

【第25回】

- ①事前学修課題：第14課の本文内容と76ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいた分からなかったところを復習する。

【第26回】

- ①事前学修課題：第13課と第14課で習った内容を確認し、分からないところがあればメモなどに書き留める。
- ②事後学修課題：チェックシートで気づいた理解できていない部分を復習する。

【第27回】

- ①事前学修課題：第15課の新出単語と79ページの関連内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、付属CDを繰り返し聞く。

【第28回】

- ①事前学修課題：前回の内容の復習と78、79ページの関連内容の予習。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、付属CDを繰り返し聞く。

【第29回】

- ①事前学修課題：第15課の本文内容と80ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいた分からなかったところを復習する。

【第30回】			
①事前学修課題：81ページの総合練習を事前予習する。不明な点や未だ理解できていないところをメモなどに書き留める			
②事後学修課題：ここまで学習して来た内容を再確認し、総点検を行う。			
課題に対するフィードバックの方法			
考査などを採点后、速やかに返還し間違いやすいところや、理解が不十分なところを説明する。			
成績評価の方法・基準（方針）			
授業態度、授業中の練習への取り組み方、小テスト及び総合考査などによる総合評価。			
成績評価の種類	評価割合（％）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業参加の態度及び授業中での練習問題などに出来具合などによって評価する。	1.2.
授業外での評価	0		
期末試験	40	最終回に行われる総合考査テストの成績によって評価する。	1.2.
定期試験	0		
その他	30	授業中に行われる3回の考査の成績によって評価する。	1.2.

テキスト	『実学実用 漢語起步』/黄 志軍/白帝社/2400/978-4-86398-116-4
参考書	必要に応じて別途指示する
履修条件・他の科目との関連	この授業は木曜日3限中国語Ⅰと連携して行われるので、一方でも無断欠席すると理解できなくなるため、遅刻や無断欠席はしないこと。
担当教員への連絡方法	・岡上 路子 okaue@oiu.jp ・松岡 依文 y-matuok@oiu.jp

授業コード	10203151		
授業科目名	日本語Ⅰa (文字と語彙)	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	村田 菜穂子		
成績担当教員氏名	村田 菜穂子		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

大学における学びにおいては、アカデミックな文献の読解やレポートの作成、さらに、上位学年においてはアカデミックプレゼンテーションや卒業論文を作成する力が求められる。この授業では、大学において求められる上級日本語の、語彙の使い分け、漢字の読み書きを中心に解説および演習を行う。さらに、学んだ語彙を使って目的に応じた文章が書けるようにするとともに、新聞記事等に出現する時事的な語彙を用いて上級日本語の表現ができるよう指導する。

到達目標

1. 大学におけるアカデミックな言語活動を行うための語彙と文字を使用することができる
2. 日本における社会生活および就職活動に対応し得る語彙と文字を使用することができる
3. 目的や場面によって使い分けられる多様な日本語表現に対応し得る語彙と文字を使用することができる

授業計画

★この授業は、原則として、リアルタイム型遠隔授業になります。参加方法など、詳細は追って連絡します。

【第1回】	ガイダンスと自己紹介	内容：前期授業の概要、授業の方針と進め方、事前事後の学習方法、評価の方法などについての説明
【第2回】	日本語の語彙と漢字の読み書きの力の強化	新しい言葉を学ぶ：名詞A (その1)
【第3回】	日本語の語彙と漢字の読み書きの力の強化	新しい言葉を学ぶ：名詞A (その2)
【第4回】	日本語の語彙と漢字の読み書きの力の強化	新しい言葉を学ぶ：動詞A (その1)
【第5回】	日本語の語彙と漢字の読み書きの力の強化	新しい言葉を学ぶ：動詞A (その2)
【第6回】	日本語の語彙と漢字の読み書きの力の強化	新しい言葉を学ぶ：形容詞A (その1)
【第7回】	日本語の語彙と漢字の読み書きの力の強化	新しい言葉を学ぶ：形容詞A (その2)
【第8回】	日本語の語彙と漢字の読み書きの力の強化	新しい言葉を学ぶ：カタカナA
【第9回】	日本語の語彙と漢字の読み書きの力の強化	新しい言葉を学ぶ：副詞A + 接続詞
【第10回】	日本語の語彙と漢字の読み書きの力の強化	上級語彙 (名詞・動詞) のまとめと総合演習
【第11回】	日本語の語彙と漢字の読み書きの力の強化	上級語彙 (動詞・形容詞・カタカナ) のまとめと総合演習
【第12回】	日本語の語彙と漢字の読み書きの力の強化	新しい言葉を学ぶ：動詞B (その1)
【第13回】	日本語の語彙と漢字の読み書きの力の強化	新しい言葉を学ぶ：動詞B (その2)
【第14回】	日本語の語彙と漢字の読み書きの力の強化	上級語彙 (副詞・接続詞等) のまとめと総合演習
【第15回】	前期の総括	

事前事後の学習

授業 (1回につき2時間として計算) と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

【第1回】	事後学習：本授業のシラバスをもう一度よく読むとともに、本授業の進め方を再確認する (1時間)。
【第2回】～【第9回】と【第12回】【第13回】	毎回の授業において、それぞれ事前学習1.5時間、事後学習1時間を要する。 ①事前学習：各回に対応するテキストを熟読し概要を理解しておくこと。 ②事後学習：新しく学んだ事柄を復習するとともに、間違った演習問題や授業中において学んだポイントをノートに整理しておくこと。
【第10回】【第11回】【第14回】	毎回の授業において、それぞれ事前学習1.5時間、事後学習1時間を要する。 ①事前学習：各回に対応するテキストを熟読し練習問題を行っておくこと。 ②事後学習：新しく学んだ事柄を復習するとともに、間違った演習問題や授業中において学んだポイントをノートに整理しておくこと。
【第15回】	①事前学習：本授業で学んだ内容全体に目を通し、疑問点を質問できるようにしておく (2時間)。 ②事後学習：本授業のポイントを整理する (2時間)。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については授業の中で取り上げて、評価すべきところ・修正すべきところに関して受講生が相互に学び合うとともに、それぞれに適切なコメントを行う。授業内の課題については、机間巡視により理解度を把握し、間違いや優れた点の指摘、助言等を行う。

成績評価の方法・基準 (方針)

以下に示す通り、授業内において実施する課題、授業外において課せる課題、および定期試験の評価結果に基づいて総合的な判定のうえ、6.0点以上を合格とし、所定の単位を認定する。なお、正当な理由なく、5回以上欠席した場合は評価対象外となり、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	15	リフレクションシート(15)	1,2,3
授業外での評価	42	事前学習・事後学習として課せる課題(42)	1,2
期末試験	38	レポート試験(38)	3
定期試験	0		
その他	5	授業に関する質問・発言(5)	1,2,3

テキスト	・『耳から覚える日本語能力試験 語彙トレーニングN1』 安藤栄里子・恵谷容子・阿部比呂子 アルク 2,160円 (税込) ・このほか、必要に応じて別に教材プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・5回以上欠席をした場合は、単位は認定されない。(ただし、公欠は含めない) ・正当な理由がない遅刻は、3回で1回の欠席とみなす。 ・日本語辞書および配布したプリントは毎時用意すること。
担当教員への連絡方法	・村田 菜穂子 nmurata@oiu.jp

授業コード	10203251		
授業科目名	日本語Ⅰb (文字と語彙)	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	村田 菜穂子		
成績担当教員氏名	村田 菜穂子		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

大学における学びにおいては、アカデミックな文献の読解やレポートの作成、さらに、上位学年においてはアカデミックプレゼンテーションや卒業論文を作成する力が求められる。この授業では、大学において求められる上級日本語の、語彙の使い分け、漢字の読み書きを中心に解説および演習を行う。さらに、学んだ語彙を使って目的に応じた文章が書けるようにするとともに、新聞記事等に出現する時事的な語彙を用いて上級日本語の表現ができるよう指導する。

到達目標

1. 大学におけるアカデミックな言語活動を行うための語彙と文字を使用することができる
2. 日本における社会生活および就職活動に対応し得る語彙と文字を使用することができる
3. 目的や場面によって使い分けられる多様な日本語表現に対応し得る語彙と文字を使用することができる

授業計画

★この授業は、原則として、リアルタイム型遠隔授業になります。参加方法など、詳細は追って連絡します。

- 【第1回】 ガイダンスと自己紹介
内容：前期授業の概要、授業の方針と進め方、事前事後の学習方法、評価の方法などについての説明
- 【第2回】 日本語の語彙と漢字の読み書きの力の強化 新しい言葉を学ぶ：名詞B
- 【第3回】 日本語の語彙と漢字の読み書きの力の強化 新しい言葉を学ぶ：名詞C (その1)
- 【第4回】 日本語の語彙と漢字の読み書きの力の強化 新しい言葉を学ぶ：名詞C (その2)
- 【第5回】 日本語の語彙と漢字の読み書きの力の強化 新しい言葉を学ぶ：カタカナB
- 【第6回】 日本語の語彙と漢字の読み書きの力の強化 新しい言葉を学ぶ：形容詞B (その1)
- 【第7回】 日本語の語彙と漢字の読み書きの力の強化 新しい言葉を学ぶ：形容詞B (その2)
- 【第8回】 日本語の語彙と漢字の読み書きの力の強化 新しい言葉を学ぶ：副詞A + 連体詞 (その1)
- 【第9回】 日本語の語彙と漢字の読み書きの力の強化 新しい言葉を学ぶ：副詞A + 連体詞 (その2)
- 【第10回】 日本語の語彙と漢字の読み書きの力の強化 新しい言葉を学ぶ：いろいろな意味をもつ言葉 (その1)
- 【第11回】 日本語の語彙と漢字の読み書きの力の強化 新しい言葉を学ぶ：いろいろな意味をもつ言葉 (その2)
- 【第12回】 日本語の語彙と漢字の読み書きの力の強化 上級語彙 (名詞) のまとめと総合演習
- 【第13回】 日本語の語彙と漢字の読み書きの力の強化 上級語彙 (カタカナ・形容詞) のまとめと総合演習
- 【第14回】 日本語の語彙と漢字の読み書きの力の強化 上級語彙 (副詞・接続詞・連体詞) のまとめと総合演習
- 【第15回】 後期の総括

事前事後の学習

授業 (1回につき2時間として計算) と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

- 【第1回】 事後学習：本授業のシラバスをもう一度よく読むとともに、本授業の進め方を再確認する (1時間)。
- 【第2回】～【第9回】 毎回の授業において、それぞれ事前学習1.5時間、事後学習1時間を要する。
- ①事前学習：各回に対応するテキストを熟読し概要を理解しておくこと。
- ②事後学習：新しく学んだ事柄を復習するとともに、間違った演習問題や授業中において学んだポイントをノートに整理しておくこと。
- 【第10回】【第11回】 毎回の授業において、それぞれ事前学習1.5時間、事後学習1時間を要する。
- ①事前学習：事前に配布されたプリントを熟読し、あらかじめ内容を押さえておくとともに練習問題を行ってしておくこと。
- ②事後学習：新しく学んだ事柄を復習するとともに、間違った演習問題や授業中において学んだポイントをノートに整理しておくこと。
- 【第12回】～【第14回】 毎回の授業において、それぞれ事前学習1.5時間、事後学習1時間を要する。
- ①事前学習：各回に対応するテキストを熟読し練習問題を行ってしておくこと。
- ②事後学習：新しく学んだ事柄を復習するとともに、間違った演習問題や授業中において学んだポイントをノートに整理しておくこと。
- 【第15回】
- ①事前学習：本授業で学んだ内容全体に目を通し、疑問点を質問できるようにしておく (2時間)。
- ②事後学習：本授業のポイントを整理する (2時間)。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については授業の中で取り上げて、評価すべきところ・修正すべきところに関して受講生が相互に学び合うとともに、それぞれに適切なコメントを行う。
授業内の課題については、机巡視により理解度を把握し、間違いや優れた点の指摘、助言等を行う。

成績評価の方法・基準 (方針)

以下に示す通り、授業内において実施する課題、授業外において課せる課題、および定期試験の評価結果に基づいて総合的な判定のうえ、6.0点以上を合格とし、所定の単位を認定する。なお、正当な理由なく、5回以上欠席した場合は評価対象外となり、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	15	リフレクションシート(15)	1,2,3
授業外での評価	42	事前学習・事後学習として課せる課題(42)	1,2
期末試験	38	レポート試験(38)	3
定期試験	0		
その他	5	授業に関する質問・発言(5)	1,2,3

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『耳から覚える日本語能力試験 語彙トレーニングN1』 安藤栄里子・恵谷容子・阿部比呂子 アルク 2,160円(税込) ・このほか、必要に応じて別に教材プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・5回以上欠席をした場合は、単位は認定されない。(ただし、公欠は含めない。) ・正当な理由がない遅刻は、3回で1回の欠席とみなす。 ・日本語辞書および配布したプリントは毎時用意すること。
担当教員への連絡方法	・村田 菜穂子 nmurata@oiu.jp

授業コード	10203351		
授業科目名	日本語Ⅱa (文章解釈の技法と文法)	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	井本 恵美		
成績担当教員氏名	井本 恵美		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

大学で学ぶために必要なレポートや論文で使用されている文法項目を学び、その学んだ文法・表現を読む・書くに活用する力を養成する。学んだ文法がレポートや論文の中のどこでどのように使用されることが多いのか、どのような目的で使用すればよいかを理解し、表現力を身につけることを目標とし、文法学習をした後、学んだ単一文レベルでの使い方にかかわる文法項目を使って文を作る練習をする。最終的には、自分自身で適切な文法・表現を使用し 1 文レベルではなくレポート・論文の型に沿ったある程度の長さの文が書けるような運用力を身につけることを目指す。以上と並行して、JLPTN1N2 レベルの文法を復習するとともに、その文法を使って、文を作る練習を行う。

到達目標

1. 学んだ文法表現が、レポートや論文でどのように使用されているかについて説明できる。
2. 適切な文法・表現を使用して、大学のレポートや論文などある程度の長さの文が書ける。
3. JLPTN1N2 レベルの文法を正しく理解し、文を作成できる。

授業計画

第1回 オリエンテーション : 前期の授業の概要説明と受講の心構え

第2回 書き言葉に統一する① : 書き言葉の文体と表現を学ぶ

第3回 書き言葉に統一する② : レポート・論文にふさわしい文体を学ぶ / 小テスト①

第4回 文の意味を明確にする① : 同じ接続詞の繰り返しを避ける方法を学ぶ

第5回 文の意味を明確にする② : 長文を避ける方法を学ぶ / 小テスト②

第6回 「こと」と「の」を使い分ける① : 「の」を使う場合のルールを学ぶ

第7回 「こと」と「の」を使い分ける② : 「こと」を使う場合のルールを学ぶ / 小テスト③

第8回 前半のまとめと復習

第9回 文をシンプルにする① : 名詞化にする方法を学ぶ

第10回 文をシンプルにする② : 助詞をともなった名詞化の方法を学ぶ / 小テスト④

第11回 文を首尾一貫させる① : 文頭と文末の呼応のさせかたを学ぶ

第12回 文を首尾一貫させる② : 副詞・疑問詞との呼応を学ぶ / 小テスト⑤

第13回 形が似ている表現を使い分ける① : 形が似ている助詞相当語 (によって・によると・に関して・に対して) の使い分けを学ぶ

第14回 形が似ている表現を使い分ける② : 状態述語とともに用いる助詞相当語 (にとって・として・に対して) の使い分けを学ぶ / 小テスト⑥

第15回 後半のまとめと復習

事前事後の学習

授業 (1回につき2時間として計算) と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

第1回

【事前】 授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する 0.5 時間

【事後】 実力試しテストのできなかった部分を復習する 0.5 時間

第2回

【事前】 配布プリント1課「やってみよう」に取り組む 0.5 時間

【事後】 指示された事後課題に取り組む 0.5 時間

第3回

【事前】 新しい文法項目について予習する 0.5 時間

【事後】 指示された事後課題に取り組む 0.5 時間

第4回

【事前】 配布プリント2課の「やってみよう」に取り組む 0.5 時間

【事後】 指示された事後課題に取り組む 0.5 時間

第5回

【事前】 新しい文法項目について予習する 0.5 時間

【事後】 指示された事後課題に取り組む 0.5 時間

第6回

【事前】 配布プリントの3課「やってみよう」に取り組む 0.5 時間

【事後】 指示された事後課題に取り組む 0.5 時間

第7回

【事前】	新しい文法項目について予習する	0.5 時間
【事後】	指示された事後課題に取り組む	0.5 時間
第 8 回		
【事前】	配布プリント 1 課～3 課までの内容をみなおす	0.5 時間
【事後】	指示された事後課題に取り組む	0.5 時間
第 9 回		
【事前】	配布プリント 4 課の「やってみよう」に取り組む	0.5 時間
【事後】	指示された事後課題に取り組む	0.5 時間
第 10 回		
【事前】	新しい文法項目について予習する	0.5 時間
【事後】	指示された事後課題に取り組む	0.5 時間
第 11 回		
【事前】	配布プリント 5 課の「やってみよう」に取り組む	0.5 時間
【事後】	指示された事後課題に取り組む	0.5 時間
第 12 回		
【事前】	新しい文法項目について予習する	0.5 時間
【事後】	指示された事後課題に取り組む	0.5 時間
第 13 回		
【事前】	配布プリント 6 課の「やってみよう」に取り組む	0.5 時間
【事後】	指示された事後課題に取り組む	0.5 時間
第 14 回		
【事前】	新しい文法項目について予習する	0.5 時間
【事後】	指示された事後課題に取り組む	0.5 時間
第 15 回		
【事前】	配布プリント 4 課～6 課までの内容をみなおす	0.5 時間
【事後】	今学期学んだ内容の振り返り及びをする	0.5 時間

課題に対するフィードバックの方法

小テスト、中間筆記試験は、授業内でフィードバックを行う。期末筆記試験に関しては、希望があれば採点后試験用紙を返却する。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

正当な理由のない欠席 5 回以上、または中間・期末の筆記試験を未受験の場合、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	18	小テスト (3×6 回)	3
授業外での評価	0		
期末試験	0		
定期試験	35	期末筆記試験 (35)	1,2,3
その他	47	中間筆記試験 (35) 授業への取り組み姿勢 (12)	1,2,3

テキスト	テキストを使用しない。事前にプリントを配布する。
参考書	『ここがポイントレポート論文を書くための日本語文法』小森万理・三井久美子、くろしお出版 『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』鎌田美千子 仁科浩美、スリーエーネットワーク 『TRY！トライ日本語能力試験 N1 文法から伸ばす日本語 改訂版』ABK 公益財団法人アジア学生文化協会著、アスク出版 『TRY！トライ日本語能力試験 N2 文法から伸ばす日本語 改訂版』ABK 公益財団法人アジア学生文化協会著、アスク出版
履修条件・他の科目との関連	正当な理由がない遅刻は、3 回で欠席 1 回とみなす。 欠席した場合、授業資料は、GoogleClassroom からダウンロードするように。
担当教員への連絡方法	・井本 恵美 m-imoto@oiu.jp

授業コード	10203451		
授業科目名	日本語Ⅱb (文章解釈の技法と文法)	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	井本 恵美		
成績担当教員氏名	井本 恵美		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

大学で学ぶために必要なレポートや論文で使用されている文法項目を学び、その学んだ文法・表現を読む・書くに活用する力を養成する。学んだ文法がレポートや論文の中のどこでどのように使用されることが多いのか、どのような目的で使用すればよいかを理解し、表現力を身につけることを目標とし、談話レベルでの使い方にかかわる文法項目学習した後、その文法を使って文を作る練習をする。最終的には、自分自身で適切な文法・表現を使用し 1 文レベルではなくレポート・論文の型に沿ったある程度の長さの文が書けるような運用力を身につけることを目指す。以上と並行して、JLPTN1 レベルの文法を復習するとともに、その文法を使って文を作る練習を行う。

到達目標

1. 学んだ文法表現が、レポートや論文でどのように使用されているかについて説明できる。
2. 適切な文法・表現を使用して、大学のレポートや論文などある程度の長さの文が書ける。
3. JLPTN1 レベルの文法を正しく理解し、文を作成できる。

授業計画

- 第1回 「は」と「が」を使い分ける① : 「は」と「が」の使い分けを学ぶ
- 第2回 「は」と「が」を使い分ける② : 対比の「は」と主題歌の「は」について学ぶ
- 第3回 書き手の視点を示す① : 「他動詞/使役形」と「自動詞/受身形」の使い分けを学ぶ / 小テスト①
- 第4回 書き手の視点を示す② : レポート・論文の中での「自動詞/他動詞の受身」と「他動詞/自動詞の使役」の使い分け
- 第5回 過去と現在のつながりを示す① : 時間を表すための述語の形 (ル形・タ形・テイル形) を学ぶ
- 第6回 過去と現在のつながりを示す② : テイタ形。テイル形。タ形がレポート・論文のどの部分で使われているか学ぶ / 小テスト③
- 第7回 前半のまとめと復習
- 第8回 文章中の語を指し示す① : 指示詞「コ」と「ソ」の使い分けについて学ぶ
- 第9回 文章中の語を指し示す② : 指示詞を使った定型表現について学ぶ
- 第10回 前後の関係を表す① : レポートや論文でよく使われる接続詞・接続表現を学ぶ / 小テスト④
- 第11回 前後の関係を表す② : 間違いやすい接続詞について学ぶ
- 第12回 前の文に関連づける① : 「~のだ文」が使える場合と使えない場合の特徴について学ぶ / 小テスト⑤
- 第13回 前の文に関連づける② : 「~のだ文」で表現できる4つの用法について学ぶ
- 第14回 効果的に意見を述べる① : 意見を述べる文末表現の使い分けについて学ぶ / 小テスト⑥
- 第15回 効果的に意見を述べる② : 書き手の意見を述べる文末表現の使い分けについて学ぶ / 後半のまとめと復習

事前事後の学習

授業 (1 回につき 2 時間として計算) と事前事後のあわせて 1 単位あたり 4 5 時間が必要です。

- 第1回
- 【事前】 配布プリントの7課「やってみよう」に取り組む 0.5 時間
- 【事後】 指示された事後課題に取り組む 0.5 時間
- 第2回
- 【事前】 新しい項目について予習する 0.5 時間
- 【事後】 指示された事後課題に取り組む 0.5 時間
- 第3回
- 【事前】 配布プリントの8課「やってみよう」に取り組む 0.5 時間
- 【事後】 指示された事後課題に取り組む 0.5 時間
- 第4回
- 【事前】 新しい文法項目について予習する 0.5 時間
- 【事後】 指示された事後課題に取り組む 0.5 時間
- 第5回
- 【事前】 配布プリントの9課「やってみよう」に取り組む 0.5 時間
- 【事後】 指示された事後課題に取り組む 0.5 時間
- 第6回
- 【事前】 新しい文法項目について予習する 0.5 時間
- 【事後】 指示された事後課題に取り組む 0.5 時間
- 第7回

【事前】	配布プリント7課～9課の内容を見直す	0.5時間
【事後】	指示された事後課題に取り組む	0.5時間
第8回		
【事前】	配布プリント10課「やってみよう」に取り組む	0.5時間
【事後】	指示された事後課題に取り組む	0.5時間
第9回		
【事前】	新しい文法項目について予習する	0.5時間
【事後】	指示された事後課題に取り組む	0.5時間
第10回		
【事前】	配布プリント11課「やってみよう」に取り組む	0.5時間
【事後】	指示された事後課題に取り組む	0.5時間
第11回		
【事前】	新しい文法項目について予習する	0.5時間
【事後】	指示された事後課題に取り組む	0.5時間
第12回		
【事前】	配布プリントの12課「やってみよう」に取り組む	0.5時間
【事後】	指示された事後課題に取り組む	0.5時間
第13回		
【事前】	新しい文法項目について予習する	0.5時間
【事後】	指示された事後課題に取り組む	0.5時間
第14回		
【事前】	配布プリントの13課「やってみよう」に取り組む	0.5時間
【事後】	指示された事後課題に取り組む	0.5時間
第15回		
【事前】	新しい文法項目について予習する	0.5時間
【事後】	配布プリント10課～13課までの内容をみなおす	0.5時間

課題に対するフィードバックの方法

小テスト・中間筆記試験は、授業内でフィードバックを行う。 期末試験に関しては、希望があれば採点后試験用紙を返却する。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

正当な理由のない欠席5回以上、または中間・期末の筆記試験を未受験の場合、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	18	小テスト (3×6回)	3
授業外での評価	0		
期末試験	0		
定期試験	35	期末筆記試験 (35)	1, 2, 3
その他	47	中間筆記試験 (35) 授業への取り組み姿勢 (12)	1, 2, 3

テキスト	テキストを使用しない。事前にプリントを配布する。
参考書	『ここがポイントレポート論文を書くための日本語文法』小森万理・三井久美子、くろしお出版 『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』鎌田美千子 仁科浩美、スリーエーネットワーク 『TRY！トライ日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版』ABK 公益財団法人アジア学生文化協会 著、アスク出版
履修条件・他の科目との関連	正当な理由がない遅刻は、3回で欠席1回とみなす。 欠席した場合、授業資料は、GoogleClassroom からダウンロードするように。
担当教員への連絡方法	・井本 恵美 m-imoto@oiu.jp

授業コード	10203551		
授業科目名	日本語Ⅲ a (聴解とコミュニケーション)	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	青島 美紀		
成績担当教員氏名	青島 美紀		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要			
日本での日常生活や大学の授業において必要とされる、幅広いテーマに関する聞き取り能力の向上、および「通じる日本語」を正確に話せる会話力の養成を目指す。日本語の音声の特徴や語彙・表現等について学び、実際に聞く・書き取る・要約する・発音する・テーマに沿った発表をする等の練習を行う。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活および大学での受講に必要な日本語聴解力を身につける 2. 短いニュースや、ある程度長さのある内容を聴いて要約することができる 3. 自分の考えを筋道立てて述べるることができる 4. 正確な発音とイントネーションで適切なコミュニケーションが行える 			
授業計画			
【第1回】 授業オリエンテーション 授業内容と進め方および自己紹介			
【第2回】 ニュースの聞き取り 要約して提出 第1課 「掃除」(1) 導入と内容の予想。本文に出てくる語彙や表現の確認と説明。発音とアクセントの練習。 本文を聞き、大意を理解するための質問、および話の重要ポイントを押さえるための質問に答え、提出。			
【第3回】 ニュースの聞き取り 要約して提出 第1課 「掃除」(2) 前回の重要ポイントの確認。スクリプトを読みながら、本文の細かい部分まで聞き取り理解するための質疑応答。 本文全体あるいは必要部分の音読やイントネーション・プロミネンス等の練習。 本文を要約して、提出。			
【第4回】 ニュースの聞き取り 要約して提出 発表準備 「私のお気に入り」というテーマで発表をするための準備シート作成。			
【第5回】 ニュースの聞き取り 要約して提出 発表「私のお気に入り」 発表後質疑応答 発表者の評価及び自己評価を提出			
【第6回】 ニュースの聞き取り 要約して提出 第2課「本屋」(1) 導入と内容の予想。本文に出てくる語彙や表現の確認と説明。発音とアクセントの練習。 本文を聞き、大意を理解するための質問、および話の重要ポイントを押さえるための質問に答え、提出。			
【第7回】 ニュースの聞き取り 要約して提出 第2課 「本屋」(2) 前回の重要ポイントの確認。スクリプトを読みながら、本文の細かい部分まで聞き取り理解するための質疑応答。 本文全体あるいは必要部分の音読やイントネーション・プロミネンス等の練習。 本文を要約して、提出。			
【第8回】 ニュースの聞き取り 要約して提出 第3課「新幹線のおでこ」(1) 導入と内容の予想。本文に出てくる語彙や表現の確認と説明。発音とアクセントの練習。 本文を聞き、大意を理解するための質問、および話の重要ポイントを押さえるための質問に答え、提出。			
【第9回】 ニュースの聞き取り 要約して提出 第3課 「新幹線のおでこ」(2) 前回の重要ポイントの確認。スクリプトを読みながら、本文の細かい部分まで聞き取り理解するための質疑応答。 本文全体あるいは必要部分の音読やイントネーション・プロミネンス等の練習。 本文を要約して、提出。			
【第10回】 ニュースの聞き取り 要約して提出 発表準備 「母国語の歴史」というテーマで発表するための資料作成			
【第11回】 ニュースの聞き取り 要約して提出 発表「母国語の歴史」 発表後、質疑応答 発表者の評価及び自己評価を提出			
【第12回】 ニュースの聞き取り 要約して提出 第4課「体験プレゼント」(1) 導入と内容の予想。本文に出てくる語彙や表現の確認と説明。発音とアクセントの練習。 本文を聞き、大意を理解するための質問、および話の重要ポイントを押さえるための質問に答え、提出。			
【第13回】			

ニュースの聞き取り 要約して提出

第4課 「体験プレゼント」(2)

前回の重要ポイントの確認。スクリプトを読みながら、本文の細かい部分まで聞き取り理解するための質疑応答。

本文全体あるいは必要部分の音読やイントネーション・プロミネンス等の練習。 本文を要約して、提出。

【第14回】

ニュースの聞き取り 要約して提出

発表準備 「これが日本だ」と思うものについての発表シート作成

各自発表シートをまとめて次週に備える。

【第15回】

最終発表 発表シートに沿って意見を述べ、質疑応答

発表者の評価及び自己評価を提出

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

毎回の授業の最初にニュースの聞き取りを行うので、日々の出来事に目を向け、知らない言葉は辞書で調べておくこと。授業内で聞いた内容は、終了後にスクリプトとして渡すので、再度内容を読み、理解できない単語、文法などがあれば質問できるように準備しておくこと。

第1回

【事前】 シラバスを読んでおく 0.5時間

【事後】 サンプルとして聞いたニュースのスクリプトを読んでおく 1時間

第2回

【事前】 自分の国のお正月の準備について説明できるように準備しておく 0.5時間

【事後】 今日のニュースのスクリプトを読んで、提出した要約の内容と比較しておく 1時間

第3回

【事前】 第1課の語彙を復習しておく 0.5時間

【事後】 今日のニュースのスクリプトを読んで、提出した要約の内容と比較しておく
第1課のスクリプトを読んで、内容を確認しておく 1時間

第4回

【事前】 今自分が気に入っているものについて言えるように準備しておく 0.5時間

【事後】 今日のニュースのスクリプトを読んで、提出した要約の内容と比較しておく 1時間

第5回

【事前】 発表ができるように資料をまとめておく 0.5時間

【事後】 今日のニュースのスクリプトを読んで、提出した要約の内容と比較しておく 1時間

第6回

【事前】 自分はどこでどんな本を買うか言えるように準備しておく 0.5時間

【事後】 今日のニュースのスクリプトを読んで、提出した要約の内容と比較しておく 1時間

第7回

【事前】 第2課の語彙を復習しておくこと 0.5時間

【事後】 今日のニュースのスクリプトを読んで、提出した要約の内容と比較しておく
第2課のスクリプトを読んで、内容を確認しておく 1時間

第8回

【事前】 日本の新幹線について知っていることをまとめておく 0.5時間

【事後】 今日のニュースのスクリプトを読んで、提出した要約の内容と比較しておく 1時間

第9回

【事前】 第3課の語彙を復習しておく 0.5時間

【事後】 今日のニュースのスクリプトを読んで、提出した要約の内容と比較しておく
第3課のスクリプトを読んで、内容を確認しておく 1時間

第10回

【事前】 自分の母国語の歴史を簡単に調べておく 0.5時間

【事後】 今日のニュースのスクリプトを読んで、提出した要約の内容と比較しておく 1時間

第11回

【事前】 発表ができるように資料を確認しておく 0.5時間

【事後】 今日のニュースのスクリプトを読んで、提出した要約の内容と比較しておく 1時間

第12回

【事前】 もらったプレゼントで一番記憶に残っているものを考えておく 0.5時間

【事後】 今日のニュースのスクリプトを読んで、提出した要約の内容と比較しておく 1時間

第13回

【事前】 第4課の語彙を復習しておく 0.5時間

【事後】 今日のニュースのスクリプトを読んで、提出した要約の内容と比較しておく 1時間

第14回

【事前】 自分が日本的だと思うものについて考えておくこと 0.5時間

【事後】 今日のニュースのスクリプトを読んで、提出した要約の内容と比較しておく 1時間

第15回

【事前】 発表ができるように資料を確認しておく 0.5時間

【事後】 発表の振り返りシートを書いて提出する 1時間

課題に対するフィードバックの方法

毎回実施するニュースの要約の結果や、授業中に指示して提出させる課題から読み取れる学生個々の理解の度合いを、その都度授業に反映させながら進めるつもりである。

成績評価の方法・基準（方針）			
以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。			
成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	ニュースの要約内容（20） 聴解問題の正解率（20） 発話・発表内容（20）	1、2、3、4
授業外での評価	20	発表のための準備シートの内容（20）	3
期末試験	0		
定期試験	20	ニュースの要約内容(10) 聴解問題の正解率(10)	1、2
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない。
参考書	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解 [中上級]』（スリーエーネットワーク） その他、必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・5 回以上欠席をした場合は、単位は認定されない。（ただし、公欠は含めない。） ・正当な理由がない遅刻は、3 回で 1 回の欠席とみなす。 ・欠席する（した）場合は、自ら教員に連絡を取って、配布物や課題について責任を持って準備すること。 ・授業人数やレベルにより授業内容や進度を多少変更することもある。 ・毎回、配布プリントや辞書を持参すること。
担当教員への連絡方法	・青島 美紀 aoshima@oiu.jp

授業コード	10203651		
授業科目名	日本語III b (聴解とコミュニケーション)	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	青島 美紀		
成績担当教員氏名	青島 美紀		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

日本での日常生活や大学の授業において必要とされる、幅広いテーマに関する聞き取り能力の向上、および「通じる日本語」を正確に話せる会話力の養成を目指す。日本語の音声の特徴や語彙・表現等について学び、実際に聞く・書き取る・要約する・発音する・テーマに沿った発表をする等の練習を行う。

到達目標

1. 日常生活および大学での受講に必要な日本語聴解力を身につける
2. 短いニュースや、ある程度長さのある内容を聴いて要約することができる
3. 自分の考えを筋道立てて述べる事ができる
4. グループ内で話し合った内容をまとめることができる
5. 正確な発音とイントネーションで適切なコミュニケーションが行える

授業計画

【第1回】

ニュースの聞き取り 要約して提出

第5課「そば屋ののれん」(1)

導入と内容の予想。本文に出てくる語彙や表現の確認と説明。発音とアクセントの練習。

本文を聞き、大意を理解するための質問、および話の重要ポイントを押さえるための質問に答え、提出。

【第2回】

ニュースの聞き取り 要約して提出

第5課 「そば屋ののれん」(2)

前回の重要ポイントの確認。スクリプトを読みながら、本文の細かい部分まで聞き取り理解するための質疑応答。

本文全体あるいは必要部分の音読やイントネーション・プロミネンス等の練習。 本文を要約して、提出。

【第3回】

ニュースの聞き取り 要約して提出

第6課「犬の肥満」(1)

導入と内容の予想。本文に出てくる語彙や表現の確認と説明。発音とアクセントの練習。

本文を聞き、大意を理解するための質問、および話の重要ポイントを押さえるための質問に答え、提出。

【第4回】

ニュースの聞き取り 要約して提出

第6課 「犬の肥満」(2)

前回の重要ポイントの確認。スクリプトを読みながら、本文の細かい部分まで聞き取り理解するための質疑応答。

本文全体あるいは必要部分の音読やイントネーション・プロミネンス等の練習。 本文を要約して、提出。

【第5回】

ニュースの聞き取り 要約して提出

グループディスカッション①「効果的なリラックス法」*パソコンを使用しての会話

グループで一番いい方法を考え、まとめて提出

【第6回】

ニュースの聞き取り 要約して提出

第8課 「女性専用車両」(1)

導入と内容の予想。本文に出てくる語彙や表現の確認と説明。発音とアクセントの練習。

本文を聞き、大意を理解するための質問、および話の重要ポイントを押さえるための質問に答え、提出。

【第7回】

ニュースの聞き取り 要約して提出

第8課 「女性専用車両」(2)

前回の重要ポイントの確認。スクリプトを読みながら、本文の細かい部分まで聞き取り理解するための質疑応答。

本文全体あるいは必要部分の音読やイントネーション・プロミネンス等の練習。 本文を要約して、提出。

【第8回】

ニュースの聞き取り 要約して提出

グループディスカッション②「自分の周りの大問題」について意見を述べ合う。 *パソコンを使用しての会話

終了後各グループでの内容をまとめ提出

【第9回】

ニュースの聞き取り 要約して提出

第9課 「剣道」(1)

導入と内容の予想。本文に出てくる語彙や表現の確認と説明。発音とアクセントの練習。

本文を聞き、大意を理解するための質問、および話の重要ポイントを押さえるための質問に答え、提出

【第10回】

ニュースの聞き取り 要約して提出

第9課 「剣道」(2)

前回の重要ポイントの確認。スクリプトを読みながら、本文の細かい部分まで聞き取り理解するための質疑応答。

本文全体あるいは必要部分の音読やイントネーション・プロミネンス等の練習。 本文を要約して、提出。

【第11回】

ニュースの聞き取り 要約して提出

日本語の曲紹介 好きな日本語の曲についてプレゼンテーションするための準備シート作成

【第12回】

ニュースの聞き取り 要約して提出
発表「好きな日本語の曲」 発表後質疑応答
自己評価表提出

【第13回】

ニュースの聞き取り 要約して提出
第11課 「そばをすする音」(1)
導入と内容の予想。本文に出てくる語彙や表現の確認と説明。発音とアクセントの練習。
本文を聞き、大意を理解するための質問、および話の重要ポイントを押さえるための質問に答え、提出。

【第14回】

ニュースの聞き取り 要約して提出
第11課 「そばをすする音」(2)
前回の重要ポイントの確認。スクリプトを読みながら、本文の細かい部分まで聞き取り理解するための質疑応答。
本文全体あるいは必要部分の音読やイントネーション・プロミネンス等の練習。 本文を要約して、提出。

【第15回】

第14課 「明治神宮の森」
問題終了後、答え合わせと解説。

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

毎回の授業の最初にニュースの聞き取りを行うので、日々の出来事に目を向け、知らない言葉は辞書で調べておくこと。授業内で聞いた内容は、終了後にスクリプトとして渡すので、再度内容を読み、理解できない単語、文法などがあれば質問できるように準備しておくこと。

第1回

【事前】 日本の店の看板などで、読めない文字を探しておく 0.5時間

【事後】 今日のニュースのスクリプトを読んで、提出した要約の内容と比較しておく 1時間

第2回

【事前】 第5課の語彙を復習しておく 0.5時間

【事後】 今日のニュースのスクリプトを読んで、提出した要約の内容と比較しておく
第5課のスクリプトを読んで、内容を確認しておく 1時間

第3回

【事前】 ペットを飼うときに難しいことは何か考えておく 0.5時間

【事後】 今日のニュースのスクリプトを読んで、提出した要約の内容と比較しておく 1時間

第4回

【事前】 第6課の語彙を復習しておく 0.5時間

【事後】 今日のニュースのスクリプトを読んで、提出した要約の内容と比較しておく
第6課のスクリプトを読んで、内容を確認しておく 1時間

第5回

【事前】 自分のやっているリラックス法が紹介できるように準備しておく 0.5時間

【事後】 今日のニュースのスクリプトを読んで、提出した要約の内容と比較しておく 1時間

第6回

【事前】 女性専用車両について調べておく（日本と自分の国） 0.5時間

【事後】 今日のニュースのスクリプトを読んで、提出した要約の内容と比較しておく 1時間

第7回

【事前】 第8課の語彙を復習しておくこと 0.5時間

【事後】 今日のニュースのスクリプトを読んで、提出した要約の内容と比較しておく
第8課のスクリプトを読んで、内容を確認しておく 1時間

第8回

【事前】 自分が今一番問題だと思うことについて考えておく 0.5時間

【事後】 今日のニュースのスクリプトを読んで、提出した要約の内容と比較しておく 1時間

第9回

【事前】 自分の知っている日本の伝統的なスポーツについて調べておく 0.5時間

【事後】 今日のニュースのスクリプトを読んで、提出した要約の内容と比較しておく 1時間

第10回

【事前】 第9課の語彙を復習しておく 0.5時間

【事後】 今日のニュースのスクリプトを読んで、提出した要約の内容と比較しておく
第9課のスクリプトを読んで、内容を確認しておく 1時間

第11回

【事前】 自分の好きな日本語の曲を選んでおく 0.5時間

【事後】 今日のニュースのスクリプトを読んで、提出した要約の内容と比較しておく 1時間

第12回

【事前】 曲が紹介できるように音源を準備し、資料をまとめておく 0.5時間

【事後】 今日のニュースのスクリプトを読んで、提出した要約の内容と比較しておく 1時間

第13回

【事前】 日本人が麺類を食べるときの音についてどう思うか考えておく 0.5時間

【事後】 今日のニュースのスクリプトを読んで、提出した要約の内容と比較しておく 1時間

第 14 回		
【事前】 第 11 課の語彙を復習しておく	0.5 時間	
【事後】 今日のニュースのスク립トを読んで、提出した要約の内容と比較しておく		
第 11 課のスク립トを読んで、内容を確認しておく	1 時間	
第 15 回		
【事前】 明治神宮について調べておく	0.5 時間	
【事後】 第 14 課のスク립トを読んで、提出した内容と比較する	1 時間	

課題に対するフィードバックの方法

毎回行うニュースの要約の結果や、授業中に指示して提出させる課題から読み取れる学生個々の理解の度合いを、その都度授業に反映させながら進めるつもりである。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	ニュースの要約内容 (20) 聴解問題の正解率 (20) グループ活動での発言および活動記録の内容 (10) 発話・発表内容 (10)	1、2、3、4、5
授業外での評価	20	発表のための準備シートの内容 (20)	3
期末試験	0		
定期試験	20	総まとめとしての聴解問題 聴解問題の正解率 (10) 課題文の要約内容 (10)	1、2
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない。
参考書	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解 [中上級]』(スリーエーネットワーク) その他、必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・5 回以上欠席をした場合は、単位は認定されない。(ただし、公欠は含めない。) ・正当な理由がない遅刻は、3 回で 1 回の欠席とみなす。 ・欠席する (した) 場合は、自ら教員に連絡を取って、配布物や課題について責任を持って準備すること。 ・授業人数やレベルにより授業内容や進度を多少変更することもある。 ・毎回、配布プリントや辞書を持参すること。
担当教員への連絡方法	・青島 美紀 aoshima@oiu.jp

授業コード	10203751		
授業科目名	日本語Ⅳa (文章作成の技術)	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	網 英美子		
成績担当教員氏名	網 英美子		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

今後の学習やレポート等の作成に必要とされる日本語文法の習得を通じて、各表現の正確な理解と、それに基づいた確かな使い分けができるようになること、またそれらを正しく運用し、レポートなどに生かせることを目指す。
提出した課題作文の誤用分析を中心に、正しい用法や、より自然な表現を質疑応答により確認する。
また、前半と終講後に学んだことをもとにレポートを作成する。

到達目標

1. 初歩的な間違いのない、日本語の文を書くことができる。
2. 中上級の日本語文法を正確に運用することができる。
3. 学んだ表現を生かして、自分の意見や感想を文章で書き表すことができる。

授業計画

- 第1回 授業オリエンテーション
第2回 書き言葉の文体と表現 ーレポートに相応しい文末と接続表現
第3回 書き言葉の文体と表現 ー話し言葉と書き言葉の表現の違い
第4回 複文の適切な使い方 ー同じ接続表現の繰り返しを避けるために
第5回 複文の適切な使い方 ー一文が長すぎる文章にならないために
第6回 名詞節「こと」と「の」の使い分け ー主に「の」を使う場合
第7回 名詞節「こと」と「の」の使い分け ー主に「こと」を使う場合
(レポート課題『ソーシャルゲームと子供』、下書き提出)
第8回 レポートの手直しと清書、及び前半の復習
第9回 語や節の名詞化
第10回 レポート・論文でよく使う語彙の使い分け
第11回 文頭と文末との呼応のさせ方
第12回 副詞と疑問視の呼応
第13回 形が似ている助詞相当語の使い分け ーによると、によって、など
第14回 その他の助詞相当語の使い分け ーとして、にとって、など
第15回 終講後のレポートについての説明、及び後半の復習

事前事後の学習

授業 (1回につき2時間として計算) と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

【事前学習】事前に与えられた課題を、今までの学習をもとに作成しておく。課題をする中で、生じた疑問を質問できるよう整理しておく。課題提出前には必ず読み返し、初歩的な間違いを犯さないよう十分に注意する。(0.5時間)

【事後学習】授業内で新たに学んだ語彙・文法について復習し、使いこなせるようにする。返却された課題の添削部分を見直し、なぜ間違いがあったかを確認する。授業や添削内容で疑問点がないか振り返っておく。(0.5時間)

【その他】前半のレポート及び、終講後のレポートの準備・作成・振り返りにそれぞれ4時間程度を要する。

課題に対するフィードバックの方法

前半のレポート課題、及び終講後のレポートで提出したものについては、手直しの指導を行うので、その中で説明する。毎回の課題は授業内に説明を行う。希望者に点数と内容を開示する。

成績評価の方法・基準 (方針)

以下に示すとおり、授業終了後のレポートとレポート課題、また小課題及び毎回の授業姿勢を総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

5回以上欠席 (ただし、公欠は含めない) をした場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	リフレクションシート (10)、授業内で行う小課題解説をもとにした小課題の再提出 (10)、前半レポートの添削指導後の再提出 (10)	1,2,3
授業外での評価	30	小課題の内容に対する評価 (計7回) (15)、レポート (1回) (15)	1,2,3
期末試験	30	最終レポート (30)	1,2,3
定期試験	0		
その他	10	授業に関する質問・発言 (5)、取り組み姿勢 (5)	2

テキスト	授業内で案内する。
参考書	授業内で必要に応じて紹介する。
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> * 5回以上欠席をした場合は、単位は認定されない。(ただし、公欠は含めない。) * 正当な理由がない遅刻は、3回で1回の欠席とみなす。 * 課題の作成やレポートが学習の大きな柱となるので、しっかり取り組むことが求められる。 * 課題提出が必要であることも多いので、欠席する場合は必ず連絡し、講師からの指示を確認すること。
担当教員への連絡方法	・網 英美子 e-ami@oiu.jp

授業コード	10203851		
授業科目名	日本語Ⅳb (文章作成の技術)	実務家教員による授業	—
授業担当教員氏名	網 英美子		
成績担当教員氏名	網 英美子		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

大学生として必要な学習やレポート等の作成に向けて、必要な場面で状況に応じた正確な日本語が書けることを目標とする。
提出した課題作文の誤用分析を中心に、正しい用法や、より自然な表現を質疑応答により確認する。
また、前半と終講後の2回、学んだことをもとにレポートを作成する。

到達目標

1. 初歩的な間違いのない、正しい日本語の文を書くことができる。
2. 上級の日本語文法を正確に運用することができる。
3. 学んだ表現を生かして、自分の意見や感想を文章で書き表すことができる。

授業計画

- 第1回 授業オリエンテーション
第2回 助詞「は」と「が」の使い分け
第3回 対比の「は」と主題化の「は」
第4回 書き手の視点を示す — 「他動詞/使役形」と「自動詞/受身形」の使い分け
第5回 書き手の視点を示す 一使い分けの具体例を学ぶ
第6回 過去と現在のつながりを示す — ルル形・タ形・テイル形
第7回 過去と現在のつながりを示す — テイタ形・テイル形、テイル形・タ形
(レポート『移民の受け入れ』、下書き提出)
第8回 レポートの手直しと消書、及び前半の復習
第9回 指示詞「こ」と「そ」の使い分け
第10回 前後の関係を表す — レポート・論文でよく使われる接続詞・接続表現
第11回 前後の関係を表す — 間違えやすい接続詞(「そのため」と「したがって」など)
第12回 前の文に関係づける — 「のだ文」の特徴と用法
第13回 意見を述べる文末表現の使い分け — 自分の意見と他者の意見
第14回 効果的に意見を述べる — 書き手の意見を述べる様々な文末表現
第15回 終講後のレポート提出についての説明と注意、及び後半の復習

事前事後の学習

授業(1回につき2時間として計算)と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

【事前学習】事前に与えられた課題を、今までの学習をもとに作成しておく。課題をする中で、生じた疑問を質問できるよう整理しておく。課題提出前には必ず読み返し、初歩的な間違いを犯さないよう十分に注意する。(0.5時間)

【事後学習】授業内で新たに学んだ語彙・文法について復習し、使いこなせるようにする。返却された課題の添削部分を見直し、なぜ間違いがあったかを確認する。授業や添削内容で疑問点がないか振り返っておく。(0.5時間)

【その他】前半のレポートと終講後のレポートの準備・作成・振り返りにそれぞれ4時間程度を要する。

課題に対するフィードバックの方法

前半のレポート及び終講後のレポートで提出したものについては、手直しの指導を行うので、その中で説明する。毎回の課題は授業内に説明を行う。希望者に点数と内容を開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業終了後のレポートとレポート課題、また小課題及び毎回の授業姿勢を総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
5回以上欠席(ただし、公欠は含めない)をした場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	リフレクションシート(10)、授業内で行う小課題解説をもとにした小課題の再提出(10)、レポートの再提出(10)	1,2,3
授業外での評価	30	小課題の内容に対する評価(計7回)(15)、レポート(1回)(15)	1,2,3
期末試験	30	最終レポート(30)	1,2,3
定期試験	0		
その他	10	授業に関する質問・発言(5)、取り組み姿勢(5)	2

テキスト	授業内で案内する。
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> * 5回以上欠席をした場合は、単位は認定されない。(ただし、公欠は含めない。) * 正当な理由がない遅刻は、3回で1回の欠席とみなす。 * 課題の作成が学習の大きな柱となるので、しっかり取り組むことが求められる。 * 課題提出が必要であることが多いので、欠席する場合は必ず連絡し、講師からの指示を確認すること。
担当教員への連絡方法	・ 網 英美子 e-ami@oiu.jp

授業コード	10203951		
授業科目名	日本語V a (読書とリスニング・ラン)	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	井本 恵美		
成績担当教員氏名	井本 恵美		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

専門分野のレポート・論文・専門書などの論理的文章を読むための基礎的な読解技術を養う。大学生として必要な文章が正しく理解できるようになることを目標に、読解ストラテジー（ボトムアップ処理・トップダウン処理・局所的な処理・全体的な処理）を身につける。さらに、社会的なトピックやアカデミックなトピックの内容の文章を読み、自分を取り巻く世界や社会で起きていることについて自分に引き付けて考える能力を養う。具体的には、まず様々な読解ストラテジーを学び、その技術を使って読むことを繰り返し行う。また、社会的なトピックの内容の文章を読み、内容理解の確認をしたうえで、文章の内容を簡潔にまとめる練習をする。さらに、そのトピックについて各自考え、意見を交換しあう。

到達目標

1. 読解力を向上させるための読解ストラテジーを学び、それらを適切に使うことができる。
2. 読解ストラテジーを使って文章を読み、様々なジャンルの文章を正しく把握できる。
3. 読んだ文章の内容を簡潔にまとめ、自らの言葉で説明できる。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション／ 「する/される」の関係をつかむ : 主語と述語の対応が分かりにくい文を正しく理解するストラテジーを学ぶ
- 【第2回】 文の構造をとらえる : 修飾関係を正しく理解するストラテジーを学ぶ
- 【第3回】 前件と後件の関係をつかむ : 複雑な複文を読み解くストラテジーを学ぶ
- 【第4回】 読解① : 「貿易とグローバル化」に関する文章を読み考え意見交換をする
- 【第5回】 「これ」「それ」が指すものを考える : 指示詞に注意しながら、文のつながりを正しく理解するストラテジーを学ぶ
- 【第6回】 省略されているものが何かを考える : 省略されているものが何かを考えながら文章を理解するストラテジーを学ぶ
- 【第7回】 関連のある言葉を探す : キーワードとなる言葉を中心に、文のつながりに注意しながら読むストラテジーを学ぶ
- 【第8回】 前半のまとめ / 読解②: 「女性の働き方」に関する文章を読み考え意見交換をする
- 【第9回】 筆者の意見を見抜く : 文末表現から筆者の意見を見抜くストラテジーを学ぶ
- 【第10回】 筆者の立場を見分ける : 対立する意見を紹介する文における筆者の立場を見分けるストラテジーを学ぶ
- 【第11回】 大切なことを伝えるサインをつかむ : 文章内のサインを使って文章の展開をつかむストラテジーを学ぶ
- 【第12回】 読解③ : 「いのちと科学」に関する文章を読み考え意見交換をする
- 【第13回】 内容を素早く理解する : 文章の内容を短時間で理解する「速読」のストラテジーを学ぶ
- 【第14回】 文章の話題を見抜く : 何について書かれた文章かを見抜くストラテジーを学ぶ
- 【第15回】 後半のまとめ / 読解④: 「科学」を考える」に関する文章を読み考え意見交換をする

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

第1回

- 【事前】 授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する 0.5 時間
【事後】 自分の使用している読解ストラテジーについて振り返る 0.5 時間

第2回

- 【事前】 第2回で読む文章のわからない語彙・漢字の読み方を調べる 0.5 時間
【事後】 授業中に指示された課題に取り組む 0.5 時間

第3回

- 【事前】 第3回で読む文章のわからない語彙・漢字の読み方を調べる 0.5 時間
【事後】 授業中に指示された課題に取り組む 0.5 時間

第4回

- 【事前】 第4回で読む文章のわからない語彙・漢字の読み方を調べる 0.5 時間
【事後】 授業中に指示された課題に取り組む 0.5 時間

第5回

- 【事前】 第5回で読む文章のわからない語彙・漢字の読み方を調べる 0.5 時間
【事後】 授業中に指示された課題に取り組む 0.5 時間

第6回

- 【事前】 第6回で読む文章のわからない語彙・漢字の読み方を調べる 0.5 時間
【事後】 授業中に指示された課題に取り組む 0.5 時間

第7回

【事前】	第7回で読む文章のわからない語彙・漢字の読み方を調べる	0.5時間
【事後】	授業中に指示された課題に取り組む	0.5時間
第8回		
【事前】	第8回で読む文章のわからない語彙・漢字の読み方を調べる	0.5時間
【事後】	授業中に指示された課題に取り組む	0.5時間
第9回		
【事前】	第9回で読む文章のわからない語彙・漢字の読み方を調べる	0.5時間
【事後】	授業中に指示された課題に取り組む	0.5時間
第10回		
【事前】	第10回で読む文章のわからない語彙・漢字の読み方を調べる	0.5時間
【事後】	授業中に指示された課題に取り組む	0.5時間
第11回		
【事前】	第11回で読む文章のわからない語彙・漢字の読み方を調べる	0.5時間
【事後】	授業中に指示された課題に取り組む	0.5時間
第12回		
【事前】	第12回で読む文章のわからない語彙・漢字の読み方を調べる	0.5時間
【事後】	授業中に指示された課題に取り組む	0.5時間
第13回		
【事前】	第13回で読む文章のわからない語彙・漢字の読み方を調べる	0.5時間
【事後】	授業中に指示された課題に取り組む	0.5時間
第14回		
【事前】	第14回で読む文章のわからない語彙・漢字の読み方を調べる	0.5時間
【事後】	授業中に指示された課題に取り組む	0.5時間
第15回		
【事前】	第15回で読む文章のわからない語彙・漢字の読み方を調べる	0.5時間
【事後】	授業で学んだ読解ストラテジーの振り返りをする	0.5時間

課題に対するフィードバックの方法

課題・中間筆記試験は、授業内でフィードバックを行う。期末試験に関しては、希望があれば採点后試験用紙を返却する。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

正当な理由のない欠席5回以上、または中間・期末の筆記試験を未受験の場合、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	15	指示された課題の提出率・内容	1,3
期末試験	0		
定期試験	35	期末筆記試験 (35)	1,2
その他	50	中間筆記試験 (35) 授業への取り組み姿勢 (15)	1,2,3

テキスト	テキストを使用しない。事前にプリントを配布する。
参考書	『留学生のための読解トレーニング』石黒圭編著、凡人社 『考える人の【上級】日本語読解』奥山貴之・宇津木奈美子・東会娟、凡人社 『中上級者のための速読の日本語第2版』岡まゆみ著、The japan times
履修条件・他の科目との関連	正当な理由がない遅刻は、3回で欠席1回とみなす。 欠席した場合、授業資料は、GoogleClassroom からダウンロードするように。
担当教員への連絡方法	・井本 恵美 m-imoto@oiu.jp

授業コード	10204051		
授業科目名	日本語V b (読書とリスニング・ラン)	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	井本 恵美		
成績担当教員氏名	井本 恵美		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

専門分野のレポート・論文・専門書などの論理的文章を読むための基礎的な読解技術を養う。大学生として必要な文章が正しく理解できるようになることを目標に、メタ認知を活用した読解ストラテジーを身につける。さらに、社会的なトピックやアカデミックなトピックの内容の文章を読み、自分を取り巻く世界や社会で起きていることについて自分に引き付けて考える能力を養う。具体的には、まず様々な読解ストラテジーを学び、その技術を使って読むことを繰り返す。また、社会的なトピックの内容の文章を読み、内容理解の確認をしたうえで、文章の内容を簡潔にまとめる練習をする。さらに、そのトピックについて各自考え、意見を交換しあう。

到達目標

1. 読解力を向上させるための読解ストラテジーを学び、それらを適切に使うことができる。
2. 読解ストラテジーを使って文章を読み、様々なジャンルの文章を正しく把握できる。
3. 読んだ文章の内容を簡潔にまとめ、自らの言葉で説明できる。

授業計画

- 【第1回】 メタ認知を使って読むとは
- 【第2回】 知っているルールを利用して読む方法を学ぶ
- 【第3回】 自分の知っていることや経験に引き付けて考えて読む方法を学ぶ
- 【第4回】 読解① : 「ゲームと人と社会と私」に関する文章を読み考え意見交換をする
- 【第5回】 焦点をしばって読む方法を学ぶ
- 【第6回】 メモをしながら読む方法を学ぶ
- 【第7回】 読解② : 「言語と向き合う」に関する文章を読み考え意見交換をする
- 【第8回】 図や表を利用して読む方法を学ぶ
- 【第9回】 周りの情報からことばの意味を推測しながら読む方法を学ぶ
- 【第10回】 読解③ : 「子供と自尊感情」に関する文章を読み考え意見交換をする
- 【第11回】 読むときの質問のしかたを学ぶ
- 【第12回】 読んだ後の理解度を自己評価する方法を学ぶ
- 【第13回】 読解④ : 「変わりゆく世界」に関する文章を読み考え意見交換をする
- 【第14回】 ストラテジーの選び方・使い方を自己評価してみる
- 【第15回】 読解⑤ : 「自分でつくるキャリア」に関する文章を読み考え意見交換する

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

第1回

- 【事前】 授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する 0.5 時間
- 【事後】 自分が今までどのようなメタ認知を使って読んでいたか振り返る 0.5 時間

第2回

- 【事前】 第2回で読む長文のわからない語彙、漢字の読み方を調べる 0.5 時間
- 【事後】 読んだ長文の内容理チェックをする。「知っているルール」というストラテジーを使って読んでみてどのようなことに気づいたか考える。 0.5 時間

第3回

- 【事前】 第3回で読む長文のわからない語彙、漢字の読み方を調べる 0.5 時間
- 【事後】 読んだ長文の内容理チェックをする。「自分の知っていることや経験に引き付けて考える」ストラテジーを使って読んでみてどのようなことに気づいたかを考える。 0.5 時間

第4回

- 【事前】 配布したプリントの長文のわからない語彙、漢字の読み方を調べる 0.5 時間
- 【事後】 読んだ長文の内容理チェックをする。「焦点をしばる」ストラテジーを使って読んでみてどのようなことに気づいたか考える。 0.5 時間

第5回

- 【事前】 第5回で読む長文のわからない語彙、漢字の読み方を調べる 0.5 時間
- 【事後】 「ゲームについての見方」に関しての教師が提示する質問について考えまとめる。0.5 時間

第6回

- 【事前】 第6回で読む長文のわからない語彙、漢字の読み方を調べる 0.5 時間
- 【事後】 読んだ長文の内容理チェックをする。「メモをしながら読む」というストラテジーを使って読んでみてどのようなことに気づいたか考える。 0.5 時間

第7回	【事前】 配布したプリントの長文のわからない語彙、漢字の読み方を調べる 0.5時間 【事後】 「身近にある言語状況」に関しての教師が提示する質問について考えまとめる 0.5時間
第8回	【事前】 第8回で読む長文のわからない語彙、漢字の読み方を調べる 0.5時間 【事後】 読んだ長文の内容理チェックをする。「図や表を使って読む」というストラテジーを使って読んでみてどのようなことに気づいたか考える。 0.5時間
第9回	【事前】 第9回で読む長文のわからない語彙、漢字の読み方を調べる 0.5時間 【事後】 読んだ長文の内容理チェックをする。「周りの情報からことばの意味を推測しながら読む」というストラテジーを使って読んでみてどのようなことに気づいたか考える。 0.5時間
第10回	【事前】 配布したプリントの長文のわからない語彙、漢字の読み方を調べる 0.5時間 【事後】 「自尊感情」についての読みもの、読む①と読む②の論旨の違いを考える。 0.5時間
第11回	【事前】 第11回で読む長文のわからない語彙、漢字の読み方を調べる 0.5時間 【事後】 読んだ長文の内容理チェックをする。「質問して確認する」というストラテジーを使って読んでみてどのようなことに気づいたか考える。 0.5時間
第12回	【事前】 第12回で読む長文のわからない語彙、漢字の読み方を調べる 0.5時間 【事後】 読んだ長文の内容理チェックをする。「読んだ後の理解度を自己評価する方法を学ぶ」というストラテジーを使って読んでみてどのようなことに気づいたか考える。 0.5時間
第13回	【事前】 配布したプリントの長文のわからない語彙、漢字の読み方を調べる 0.5時間 【事後】 「持続可能な開発」に関しての教師が提示した質問について考えまとめる。 0.5時間
第14回	【事前】 第14回で読む長文のわからない語彙、漢字の読み方を調べる 0.5時間 【事後】 読んだ長文の内容理チェックをする。ストラテジーの選び方・使い方を自己評価してみてどのようなことに気づいたか考える。 0.5時間
第15回	【事前】 配布したプリントの長文のわからない語彙、漢字の読み方を調べる 0.5時間 【事後】 「キャリアと人生設計」に関しての教師が提示する質問について考えまとめる。 0.5時間

課題に対するフィードバックの方法

課題及び中間筆記試験は、必ず授業内でフィードバックを行う。 期末試験に関しては、希望があれば採点后試験用紙を返却する。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

正当な理由がない欠席5回以上、または中間・期末の筆記試験を未受験の場合、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	15	課題の提出率及び内容	1,3
期末試験	0		
定期試験	35	期末筆記試験 (35)	1,2, 3
その他	50	中間筆記試験 (35) 授業への取り組み姿勢 (15)	1,2,3

テキスト	『メタ認知を活用したアカデミックリーディングのための10のストラテジー』グループさくら著、凡人社、1650円(税込み)、ISBN978-4-89358-958-3
参考書	『考える人の【上級】日本語読解』奥山貴之・宇津木奈美子・東会娟、凡人社
履修条件・他の科目との関連	正当な理由がない遅刻は、3回で欠席1回とみなす。
担当教員への連絡方法	・井本 恵美 m-imoto@oiu.jp

授業コード	10204151		
授業科目名	現代の国際社会	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	川波 竜三		
成績担当教員氏名	川波 竜三		
単位数	2 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要			
現代の国際社会は、技術革新やグローバル化の進展によって急速に発展してきたが、既存の価値やシステムにひずみが生まれ様々な問題が噴出するようになった。また、それらの問題も複雑化しているため全体像を理解することが難しくなっている。本講義では、毎授業において現代の国際社会が抱える論点を取り上げ、「国家」、「国際機構」、「多国籍企業」という三つの主要アクターの視点や関係性から解説する。現代の国際社会における個々の問題の全体像を理解するとともに、今後発生する時事問題について自らの力で論理的に説明できる能力を身につけることを目指す。			
到達目標			
1. 現代の国際社会が抱える問題点を個別に指摘し、説明することができる。 2. 「国家」、「国際機構」、「多国籍企業」の視点から国際社会が抱える問題にアプローチし、その概要を説明することができる。 3. 現在の国際社会における様々な論点に関心を持ち、講義で学んだことをもとに多様な視角から論理的に考えることができる。また、それを簡潔に表現することができる。			
授業計画			
【第1回】			
テーマ：現代の国際社会における論点と主要アクター 内容・方法：「国家」、「国際機構」、「多国籍企業」とはどのような主体か解説したうえで、本講義で扱う国際社会の論点について概要を説明する。そして、本講義の射程やねらいを明らかにする。			
【第2回】			
テーマ：新型コロナウイルスへの対応と社会の変化 内容・方法：未知のウイルスの出現は、国際社会が抱える問題点をあぶりだすとともに、新たな社会変革のきっかけとなっている。「国家」、「国際機構」、「国際企業」は、新型コロナウイルスに対してどのように対応したのか、それにより社会はどのように変化しつつあるのか検討する。			
【第3回】			
テーマ：DX 社会の進展と巨大IT 企業 内容・方法：新型コロナウイルスの出現により、社会のDX(デジタルトランスフォーメーション)化が一気に進展したと言われている。そして、GAFAM といった巨大IT 企業の存在感がますます高まる一方、「国家」にとって有害と見なされる点も散見されるようになった。情報プラットフォームと呼ばれる「多国籍企業」と「国家」および国際経済との関係について考察する。			
【第4回】			
テーマ：暗号資産の出現とデジタル通貨の開発 内容・方法：ブロックチェーン技術に基づく暗号資産、電子マネー、QR コード決済などの出現は、キャッシュレス社会を進展させてきた。新たな決済手段の開発は、今や国際経済秩序を揺るがす可能性が出てきており、主要国も神経をとがらせている。その現状について解説する。			
【第5回】			
テーマ：5G 覇権をめぐる米中対立 内容・方法：DX 社会が進化するうえで、新たな情報技術標準である 5G をめぐる米中の覇権争いは近年鋭さをましてきた。その経緯と現状について学んだうえで、今後の両国の関係について考察する。			
【第6回】			
テーマ：アメリカを中心とした同盟関係と安全保障 内容・方法：第二次世界大戦以降アメリカは、西側主要国との同盟関係を重視してきた。トランプ前大統領時に強固な同盟関係は一時的に揺らいだもののバイデン政権が発足し、改めて同盟国の協調が図られる可能性が高い。同盟を軸とした伝統的安全保障の変遷と現状、その問題点について解説する。			
【第7回】			
テーマ：グローバリゼーションの進展とその功罪 内容・方法：交通手段や金融システム、および情報通信技術の発展により、ヒト・モノ・カネの移動が容易になりグローバリゼーションは進展した。しかし、グローバリゼーションの進展は必ずしも国際社会に良いことばかりをもたらしたわけではない。その概要について説明する。			
【第8回】			
テーマ：西側主要国における民主主義の動揺 内容・方法：近年アメリカやイギリスでは、ポピュリスト的なトランプ政権やジョンソン政権が誕生し、主要国の民主主義は動揺している。その要因や現状について解説する。			
【第9回】			
テーマ：人権と民主主義 内容・方法：昨今、アメリカでは黒人やLGBT の人権の問題が大きく取りざたされ、昨年行われた大統領選挙の主な争点となった。また、バイデン政権では人権問題をめぐり中国に圧力をかけようという動きもある。人権の問題が、国内および国際社会にどのような影響を及ぼしているのか考察する。			
【第10回】			
テーマ：地球環境問題への対応 内容・方法：昨今、プラスチックゴミの削減や温暖化ガスの排出を削減するための取り組みが世界各国で行われている。その現状と今後について考察する。			
【第11回】			
テーマ：資源・エネルギーと国際関係 内容・方法：最近では、再生可能エネルギーがクリーンなエネルギーとして注目されているものの、依然として石油などの天然資源の確保は国家や産業にとって必要不可欠なものである。資源・エネルギーをめぐる国際関係について解説する。			
【第12回】			
テーマ：国際通商制度の動向と地域主義 内容・方法：第二次世界大戦後、自由で多角的な貿易制度の確立を目指し様々な通商協定が各国で締結されてきている。また、最近ではRCEP にみられるような地域的な経済連携協定の締結も推し進められている。国際通商制度の動向が、国際社会にどのような影響を与えてきたのか説明する。			
【第13回】			
テーマ：国家債務の増大とその影響 内容・方法：コロナ禍においては、日本をはじめ各国ともに大幅な財政出動を行い景気を下支えしている。しかし、国家債務の増加は将来的に景気に悪影響を及ぼす可能性がある。主要			

<p>国の国家債務の現状とその影響について説明する。</p> <p>【第14回】 テーマ：金融危機と国際社会 内容・方法：日本のバブル崩壊、ITバブルの崩壊、2000年代後半に発生した世界金融危機など、頻繁に金融危機は発生している。金融危機はなぜ発生し、その対応と国際社会への影響はどのようなものになっているのか解説する。</p> <p>【第15回】 テーマ：本講義のまとめ 内容・方法：本講義における重要な点を改めて見直し、内容理解の深化に努めることとする。</p>			
<p>事前事後の学習</p> <p>授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。</p> <p>事前学習(全授業共通)：授業日までに授業内容に関するプリントをダウンロード出来るようにするので事前に目を通し、わからない用語などがあった場合には調べておくこと。プリントの内容について、事前にインターネットを用いて調べておくことと理解がより進むと考える。事前学習については、各回二時間程度を目安にすること。</p> <p>事後学習(全授業共通)：各回の授業で扱った内容について、プリントや授業メモを用いて復習を行うこと。特に授業内で重要であると指摘した点については、確実に理解するよう努めること。また、授業内で扱った小テストの内容についても次回の授業までにおさらいしておくこと。事後学習についても、各回二時間程度を目安とする。</p>			
<p>課題に対するフィードバックの方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テストの解説及び質問に対する回答は、次回の授業内で行う。 ・中間レポートのフィードバックについては、Google Classroom 及び第9回目の授業内で行う。 ・定期試験の評価については、申し出があれば個別に開示する。 			
<p>成績評価の方法・基準（方針）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。 ・正当な理由がなく中間レポートを提出しなかった場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。 			
成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	小テスト(30)	1, 3
授業外での評価	10	中間レポート(10)	1, 2, 3
期末試験	0		
定期試験	60	筆記試験(60)	1, 2, 3
その他	0		
テキスト	テキストは使用せずダウンロード可能なプリント(資料)を配布する。		
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	事後に「国際関係論」や「政治経済学」を履修すれば、さらに内容の理解が深まると思います。わからないことがあれば積極的に質問するよう心掛けてください。		
担当教員への連絡方法	・川波 竜三 kawanami@oiu.jp		

授業コード	10204251		
授業科目名	世界の地理	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	久保 由加里		
成績担当教員氏名	久保 由加里		
単位数	2 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要	
観光資源を中心に、各国の魅力について知る	
到達目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の観光対象に関する知識を深める 2. 総合旅行業務取扱管理者資格受験者には必須科目である 3. 世界遺産検定 2 級、旅行地理検定（世界地理）中級取得を目指す 	
授業計画	
この講義は遠隔授業として実施する予定である。実施方法は、講義を録画した動画を一定期間配信し、期限内に課題を提出することが求められる。	
<p>【第 1 回】 テーマ：ガイドランス ・ アジア 内容・方法：アジア諸国の観光対象について講義する。</p> <p>【第 2 回】 テーマ：アジア 内容・方法：アジア諸国の観光対象について講義する。</p> <p>小テスト</p> <p>【第 3 回】 テーマ：オセアニア・オーストラリア・ニュージーランド 内容・方法：オセアニア地域諸国の観光対象について講義する。</p> <p>【第 4 回】 テーマ：エジプト・イスラエル 内容・方法：歴史を紐解きながら映像で講義する</p> <p>【第 5 回】 テーマ：エジプト・イスラエル 内容・方法：歴史を紐解きながら映像で講義する</p> <p>【第 6 回】 テーマ：ヨーロッパドイツ 内容・方法：ヨーロッパの観光対象について講義する。</p> <p>【第 7 回】 テーマ：ヨーロッパドイツ 内容・方法：ヨーロッパの観光対象について講義する。</p> <p>【第 8 回】 テーマ：中間テスト・ヨーロッパドイツ 内容・方法：これまでのまとめ・ヨーロッパの観光対象について講義する。</p> <p>【第 9 回】 テーマ：ヨーロッパフランス 内容・方法：ヨーロッパの観光対象について講義する。</p> <p>【第 10 回】 テーマ：ヨーロッパフランス 内容・方法：ヨーロッパの観光対象について講義する。</p> <p>【第 11 回】 テーマ：ヨーロッパスイス 内容・方法：ヨーロッパの観光対象について講義する。</p> <p>【第 12 回】 テーマ：ヨーロッパイタリア 内容・方法：ヨーロッパの観光対象について講義する。</p> <p>【第 13 回】 テーマ：ヨーロッパイタリア 内容・方法：ヨーロッパの観光対象について講義する。</p> <p>【第 14 回】 テーマ：中東 内容・方法：中東の観光対象について講義する 意見交換</p> <p>【第 15 回】 テーマ：まとめ 内容・方法：これまでのポイント復習・まとめテスト</p>	
事前事後の学習	
授業（1 回につき 2 時間として計算）と事前事後のあわせて 1 単位あたり 4 5 時間が必要です。	
授業（1 回につき 2 時間として計算）と事前事後のあわせて 1 単位あたり 45 時間が必要	
授業（1 回につき 2 時間として計算）と事前事後のあわせて 1 単位あたり 60 時間以上が必要	

毎回の授業において、2時間の事前学習と2時間の事後学習が必要

【第1回】

- ①事前学習課題：教科書の該当部分や旅行関連書籍から知識を得ておく。
- ②事後学習課題：国別のまとめノートを作成し、覚える。

【第2回】

- ①事前学習課題：教科書の該当部分や旅行関連書籍から知識を得ておく。
- ②事後学習課題：国別のまとめノートを作成し、覚える。

【第3回】

- ①事前学習課題：教科書の該当部分や旅行関連書籍から知識を得ておく。
- ②事後学習課題：国別のまとめノートを作成し、覚える。

【第4回】

- ①事前学習課題：それぞれの国について調べておく
- ②事後学習課題：学んだことがらをさらに詳しく調べる

【第5回】

- ①事前学習課題：教科書の該当部分や旅行関連書籍から知識を得ておく。
- ②事後学習課題：国別のまとめノートを作成し、覚える。

【第6回】

- ①事前学習課題：教科書の該当部分や旅行関連書籍から知識を得ておく。
- ②事後学習課題：国別のまとめノートを作成し、覚える。

【第7回】

- ①事前学習課題：教科書の該当部分や旅行関連書籍から知識を得ておく。
- ②事後学習課題：国別のまとめノートを作成し、覚える。

【第8回】

- ①事前学習課題：教科書の該当部分や旅行関連書籍から知識を得ておく。
- ②事後学習課題：国別のまとめノートを作成し、覚える。

【第9回】

- ①事前学習課題：教科書の該当部分や旅行関連書籍から知識を得ておく。
- ②事後学習課題：国別のまとめノートを作成し、覚える。

【第10回】

- ①事前学習課題：教科書の該当部分や旅行関連書籍から知識を得ておく。
- ②事後学習課題：国別のまとめノートを作成し、覚える。

【第11回】

- ①事前学習課題：教科書の該当部分や旅行関連書籍から知識を得ておく。
- ②事後学習課題：国別のまとめノートを作成し、覚える。

【第12回】

- ①事前学習課題：教科書の該当部分や旅行関連書籍から知識を得ておく。
- ②事後学習課題：国別のまとめノートを作成し、覚える。

【第13回】

- ①事前学習課題：まとめノートや教科書からこれまで学んだ点を復習する
- ②事後学習課題：理解が足りなかったところを復習する

【第14回】

- ①事前学習課題：発表内容をよく研究・調査し、準備と練習に打ち込む。
 - ②事後学習課題：発表内容の復習
- 自分と仲間のプレゼンテーションをふりかえり、検証する。

【第15回】

- ①事前学習課題：発表内容をよく研究・調査し、準備と練習に打ち込む。
- 総復習をおこなう。
- ②事後学習課題：理解度が不足していた箇所の強化を図る。

課題に対するフィードバックの方法

課題を分析して、理解が不十分であるところを強化した内容にする

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格として所定の単位を認定

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	10	小テスト	1~3
授業外での評価	10	課題問題	1~3
期末試験	70	まとめテスト課題	1~3
定期試験	0		
その他	10	課題への取り組み	1~3

テキスト	1. 旅行業務シリーズ『2021 海外観光資源』JTB 総合研究所 2. 『旅にでたくなる地図』帝国書院
参考書	『海外観光地理サブノート』JTB 総合研究所

	その他、講義内で紹介する
履修条件・他の科目との関連	随時小テストを実施するので、継続した自主学習が不可欠である。 総合旅行業務取扱管理者資格受験者には必須科目である 世界遺産検定2級、旅行地理検定（世界地理）中級取得を目指す
担当教員への連絡方法	・久保 由加里 kubo@oiu.jp

授業コード	10204353		
授業科目名	異文化コミュニケーション論	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	遠藤 正敬		
成績担当教員氏名	遠藤 正敬		
単位数	2 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

本講義では、政治社会においてさまざまな形で展開される異文化の接触と衝突を知ることで、「国民」や「民族」といったものの中身を理解し、あるべき共生社会を考える手がかりをさぐることを目的とする。具体的には、文学、芸術、映画、漫画など諸文化が国家、法、戦争、外交などをどのようにとらえ、またの政治によってどのように左右されてきたのかを考えていきたい。

到達目標

- 1、現在の自分を取り巻く世界の情勢がどのようなものであるかを理解できる。
- 2、何事にも多様な価値観をもって評価することができる。
- 3、法や社会の流れを自分なりの意見をもって説明できる。

授業計画

今年度は感染症対策の要請から、遠隔授業となり、オンデマンド動画形式で行う。

【第1回】

テーマ：序章

内容・方法：文化の異同からみえてくるもの

【第2回】

テーマ：国内社会のグローバル化

内容・方法：日本における多文化社会

【第3回】

テーマ：文化と政治（1）

内容・方法：国内政治の観点から

【第4回】

テーマ：文化と政治（2）

内容・方法：国際政治の観点から

【第5回】

テーマ：文明の衝突は不可避なのか？

内容・方法：宗教と国際社会

【第6回】

テーマ：文化と戦争（1）

内容・方法：二つの世界大戦と文化

【第7回】

テーマ：文化と戦争（2）

内容・方法：冷戦後の戦争と文化

【第8回】

テーマ：文化と市民運動

文化と市民運動

内容・方法：世界を変える文化の力

【第9回】

テーマ：文化と差別（1）

内容・方法：「人種」「国籍」「民族」の描かれ方

【第10回】

テーマ：文化と差別（2）

内容・方法：マイノリティと抵抗としての文化

【第11回】

テーマ：文化と企業

内容・方法：越境する文化ビジネス

【第12回】

テーマ：オリンピックと政治

内容・方法：スポーツからみた国際政治の歴史

【第13回】

テーマ：日本とアジアの文化交流

内容・方法：日中、日韓関係と文化政策

【第14回】

テーマ：世界の家族あれこれ

内容・方法：家族、結婚、身分登録の比較

【第15回】

テーマ：まとめ

内容・方法：過去の講義の総括

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

【第1回】

①事前学修課題：特になし 2時間

②事後学修課題：疑問点の整理 2時間
【第2回】
①事前学修課題：多文化社会の観察 2時間
②事後学修課題：多文化社会の発見 2時間
【第3回】
①事前学修課題：ニュースの確認 2時間
②事後学修課題：講義内容の復習 2時間
【第4回】
①事前学修課題：ニュースの確認 2時間
②事後学修課題：講義内容の復習 2時間
【第5回】
①事前学修課題：資料の予習 2時間
②事後学修課題：資料の理解 2時間
【第6回】
①事前学修課題：歴史の復習 2時間
②事後学修課題：テキストの理解 2時間
【第7回】
①事前学修課題：予備知識の確認 2時間
②事後学修課題：テキストの理解 2時間
【第8回】
①事前学修課題：備知識の確認 2時間
②事後学修課題：行動してみる 2時間
【第9回】
①事前学修課題：「〇〇人」とは何かを考える 2時間
②事後学修課題：国籍とは何を考える 2時間
【第10回】
①事前学修課題：差別とは何を考える 2時間
②事後学修課題：自分と差別について考える 2時間
【第11回】
①事前学修課題：ニュースの確認 2時間
②事後学修課題：資料の理解 2時間
【第12回】
①事前学修課題：スポーツの歴史を知る 2時間
②事後学修課題：自分の意見をまとめる 2時間
【第13回】
①事前学修課題：文化交流とは何を考える 2時間
②事後学修課題：異文化の比較 2時間
【第14回】
①事前学修課題：予備知識の習得 2時間
②事後学修課題：自分の問題としての考察 2時間
【第15回】
①事前学修課題：これまでの復習 2時間
②事後学修課題：何を理解できたかを確認してみる 2時間

課題に対するフィードバックの方法

前回の授業の復習として不特定の履修者に質問し、理解度を確認する。

成績評価の方法・基準（方針）

課題および最終レポートによって評価する。到達目標を評価の基準とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	課題 (60)	1,2
授業外での評価	0		
期末試験	40	レポート (40)	1,2,3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	毎回、レジメを配布する
参考書	田中宏『在日外国人 第3版』岩波新書、2013 S・ハンチントン著、鈴木主税訳『文明の衝突』集英社、1998
履修条件・他の科目との関連	積極的に授業への意見や質問を投じる。
担当教員への連絡方法	・遠藤 正敬 m-endo@oiu.jp

授業コード	10207751		
授業科目名	日本の伝統文化	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	佐藤 智明/丸山 西葉/高橋 泰代		
成績担当教員氏名	佐藤 智明		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

(全体の概要) 日本の伝統および文化について、講義から基本的な理解をする。その後、初心者向けの体験学習を通じて理論と実践の両面から理解を深める。(オムニバス方式全 15 回) (佐藤：全体講義 5 回・空手道 10 回) 単にスポーツ的に身体活動を実施するのではなく、身体活動を通じて礼節や体の使い方を学んでいく。(高橋：華道 10 回) 華道は日本の伝統芸術のひとつであり、草木や花を命あるものとしてとらえ、花器や花瓶の上でその美しさを表現するものである。華道の歴史的背景や現在の華道またフラワー・アレンジメントとの関連を解説し、初歩的な花を活ける実習を通して、華道を通して日本の伝統文化を理解することを目的とする。(丸山：書道 10 回) 臨書や自由制作を通じての漢字やかな書の実技の演習も行い、その中で鑑賞方法についても教授する。

到達目標

- 1.日本の伝統文化を説明することができる。
- 2.学んだ道の文化を表現することができる。
- 3.日本の伝統文化の知識を有することができる。

授業計画

- 【第1回】**
 テーマ：ガイダンス・日本とは・四季を楽しむ文化
 内容・方法：季節を生かした行事・旧暦と新暦の違い
- 【第2回】**
 テーマ：にほんごという言語
 内容・方法：ユニークな言語・ことば遊び
- 【第3回】**
 テーマ：日本の食文化
 内容・方法：和食・食事とマナー
- 【第4回】**
 テーマ：「道」のつく文化
 内容・方法：「道」に通じるもの
- 【第5回】**
 テーマ：伝統文化の継承
 内容・方法：伝統文化と日本の再生・翌週からの「道」を選択
- 【第6回】**
 テーマ：「空手道」・「華道」・「書道」のそれぞれの「道」の文化を体験する 1
 内容・方法：【空手道】稽古にあたっての作法を理解する
 【華道】「華道」の歴史や流派について解説する
 【書道】書道の基本練習
- 【第7回】**
 テーマ：「空手道」・「華道」・「書道」のそれぞれの「道」の文化を体験する 2
 内容・方法：【空手道】基本の動きを学ぶ1
 【華道】生け花の基本を学ぶ
 【書道】書道の歴史、2文字の実践練習
- 【第8回】**
 テーマ：「空手道」・「華道」・「書道」のそれぞれの「道」の文化を体験する 3
 内容・方法：【空手道】基本の動きを学ぶ2
 【華道】フラワーアレンジメントの基礎
 【書道】仮名の歴史、4文字の実践練習
- 【第9回】**
 テーマ：「空手道」・「華道」・「書道」のそれぞれの「道」の文化を体験する 4
 内容・方法：【空手道】基本の動きを学ぶ3
 【華道】自由花（盛り花）（三種活け）を活ける
 【書道】書体の変化（楷書、行書、草書）
- 【第10回】**
 テーマ：「空手道」・「華道」・「書道」のそれぞれの「道」の文化を体験する 5
 内容・方法：【空手道】移動の動きを学ぶ1
 【華道】季節のフラワーアレンジメント
 【書道】日本の生活と書・名前の練習（細字）
- 【第11回】**
 テーマ：「空手道」・「華道」・「書道」のそれぞれの「道」の文化を体験する 6
 内容・方法：【空手道】移動の動きを学ぶ2
 【華道】自由花（盛り花）（三種活け）を活ける
 【書道】日本の生活と書・芳名帳、ご祝儀など冠婚葬祭の練習（細字）
- 【第12回】**
 テーマ：「空手道」・「華道」・「書道」のそれぞれの「道」の文化を体験する 7
 内容・方法：【空手道】基本的な型を学ぶ1
 【華道】季節のフラワーアレンジメント

【書道】日本の生活と書・創作年賀状（細字）

【第13回】

テーマ：「空手道」・「華道」・「書道」のそれぞれの「道」の文化を体験する8

内容・方法：【空手道】基本的な型を学ぶ2

【華道】自由花（盛り花）（三種活け）を活ける

【書道】創作書道（課題決め）

【第14回】

テーマ：「空手道」・「華道」・「書道」のそれぞれの「道」の文化を体験する9

内容・方法：【空手道】基本的な技を学ぶ1

【華道】季節のフラワーアレンジメント

【書道】創作書道（実践練習）

【第15回】

テーマ：「空手道」・「華道」・「書道」のそれぞれの「道」の文化を体験する10

内容・方法：【空手道】基本的な技を学ぶ2

【華道】自由花（盛り花）（三種活け）を活ける

【書道】創作書道（作品制作、提出）

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

【第1回】

①事前学修課題：情報端末で「日本の四季」を調べておく 1.5時間

②事後学修課題：配布された資料や板書を整理しておく 2.5時間

【第2回】

①事前学修課題：情報端末で「にほんご」を調べておく 1.5時間

②事後学修課題：配布された資料や板書を整理しておく 2.5時間

【第3回】

①事前学修課題：情報端末で「日本の食文化」を調べておく 1.5時間

②事後学修課題：配布された資料や板書を整理しておく 2.5時間

【第4回】

①事前学修課題：情報端末で「日本の道」を調べておく 1.5時間

②事後学修課題：配布された資料や板書を整理しておく 2.5時間

【第5回】

①事前学修課題：情報端末で「伝統文化」を調べておく 1.5時間

②事後学修課題：配布された資料や板書を整理しておく 2.5時間

【第6回】

①事前学修課題：【空手道】情報端末で「空手道」を検索する 1.5時間

【華道】「華道」の歴史や流派について調べる

【書道】書道について自身の体験の振り返り

②事後学修課題：【空手道】授業で学んだ稽古にあたっての作法を確認する 2.5時間

【華道】「華道」の歴史や流派についてまとめる

【書道】基本練習の復習

【第7回】

①事前学修課題：【空手道】授業で学んだ稽古にあたっての作法を確認しておく 1.5時間

【華道】季節の草花を調べる

【書道】楷書とは何か

②事後学修課題：【空手道】学んだ基本の動きをおさらいする 2.5時間

【華道】生け花を自分の花器に活け、デッサンをする

【書道】書道の歴史の復習

【第8回】

①事前学修課題：【空手道】先週学んだ基本の動きをおさらいする 1.5時間

【華道】アレンジを考える

【書道】仮名と楷書の違いとは

②事後学修課題：【空手道】学んだ基本の動きをおさらいする 2.5時間

【華道】生け花を自分の花器に活け、デッサンをする

【書道】仮名の歴史の復習

【第9回】

①事前学修課題：【空手道】先週学んだ基本の動きをおさらいする 1.5時間

【華道】アレンジを考える

【書道】書体の種類について調べる

②事後学修課題：【空手道】学んだ基本の動きをおさらいする 2.5時間

【華道】生け花を自分の花器に活け、デッサンをする

【書道】書体の違いの復習

【第10回】

①事前学修課題：【空手道】先週学んだ基本の動きをおさらいする 1.5時間

【華道】アレンジを考える

【書道】9回の講義についての振り返り

②事後学修課題：【空手道】学んだ移動の動きをおさらいする 2.5時間

<p>【華道】生け花を自分の花器に活け、デッサンをする</p> <p>【書道】名前の復習</p> <p>【第11回】</p> <p>①事前学修課題：【空手道】先週学んだ移動の動きをおさらいする 15時間</p> <p>【華道】アレンジを考える</p> <p>【書道】日本の冠婚葬祭について確認</p> <p>②事後学修課題：【空手道】学んだ移動の動きをおさらいする 2.5時間</p> <p>【華道】生け花を自分の花器に活け、デッサンをする</p> <p>【書道】冠婚葬祭に使う文字の復習</p> <p>【第12回】</p> <p>①事前学修課題：【空手道】先週学んだ移動の動きをおさらいする 15時間</p> <p>【華道】アレンジを考える</p> <p>【書道】日本の年賀状の歴史について確認</p> <p>②事後学修課題：【空手道】学んだ型の動きをおさらいする 2.5時間</p> <p>【華道】生け花を自分の花器に活け、デッサンをする</p> <p>【書道】年賀状の基本的な作法の復習</p> <p>【第13回】</p> <p>①事前学修課題：【空手道】先週学んだ型の動きをおさらいする 15時間</p> <p>【華道】アレンジを考える</p> <p>【書道】自身の作品の文字を確認</p> <p>②事後学修課題：【空手道】学んだ型の動きをおさらいする 2.5時間</p> <p>【華道】生け花を自分の花器に活け、デッサンをする</p> <p>【書道】次回の講義に備え、決定課題の練習</p> <p>【第14回】</p> <p>①事前学修課題：【空手道】先週学んだ型の動きをおさらいする 15時間</p> <p>【華道】アレンジを考える</p> <p>【書道】前講義での課題を認識</p> <p>②事後学修課題：【空手道】学んだ基本的な技の動きをおさらいする 2.5時間</p> <p>【華道】生け花を自分の花器に活け、デッサンをする</p> <p>【書道】作品制作のためのデザイン、色彩など詰める</p> <p>【第15回】</p> <p>①事前学修課題：【空手道】先週学んだ基本的な技の動きをおさらいする 15時間</p> <p>【華道】アレンジを考える</p> <p>【書道】最終制作に向けての準備</p> <p>②事後学修課題：【空手道】学んだ基本的な技の動きをおさらいする 2.5時間</p> <p>【華道】生け花を自分の花器に活け、デッサンをする</p> <p>【書道】書道実践について振り返り</p>

課題に対するフィードバックの方法

講義においては、学んだ内容を授業中にレポートとして提出し、次回までに採点をし、復習を可能とする。また実習にあたっては、授業の最後にまとめとして作品や演技を通じて復習を可能とする予定である。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す通り、期間中に実施される通常課題の提出、期末試験（レポート）、その他受講態度を最低採点基準とし、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由のない欠席5回以上、また課題や期末レポート試験を未提出の場合、評価の対象とせず、「1」若しくは「K」評価とする。実習が中心となるため出席を重視し、かつ受講態度も併せて重視する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	授業内で課される活動課題やレポート課題	1.3
授業外での評価	20	授業外で課される課題	1.2.3
期末試験	40	全講義終了後に実施するレポートや課題	1.2.3
定期試験	0		
その他	20	グループ活動や問いへの回答などによる積極的な受講態度	

テキスト	プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	<p>講義と実習があるために、施設、用具の関係上、受講にあたって人数制限を行う。そのため必ず1回目の講義に出席する事。出席しない場合は原則、受講ができない。</p> <p>最初の5回は講義を展開する。その後の10回は「空手道」・「華道」・「書道」の内から1つを選択して各コースで実習を実施するが、それぞれ人数制限があるため、第三希望まで募り、振り分けを実施する。</p> <p>「空手道」希望者は、スポーツウェア若しくは道着を用意しておくこと。</p> <p>「華道」については、別途花材等、実習費が必要となる。</p>
担当教員への連絡方法	<ul style="list-style-type: none"> 丸山 茜葉 s-maruyama@oiu.jp 佐藤 智明 satomo@oiu.jp 高橋 泰代 takahasi@oiu.jp

授業コード	10209551		
授業科目名	日本と世界の宗教	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	三木 英		
成績担当教員氏名	三木 英		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

仏教やキリスト教、イスラーム等、世界には多くの信者を有する宗教が存在し、また日本には前記世界宗教の他、多くの新宗教が活動している。グローバル化の時代に生きる現代人は、それらについての知識無くして、世界の人々と交流することは難しい。宗教は人々の行動や思想の原理であるがゆえに、宗教への無理解は人間間の交渉を皮相なものにとどめ、さらには軌轢を生じさせる原因ともなる。現代の必須教養である宗教文化についての知識伝授が、本講義の目的とするところである。そしてそれが、国境を越えたビジネスの成功にもつながるはずである。

到達目標

- ①日本や世界の宗教について、関心を寄せることができる。
- ②日本や世界の宗教について、解説している文献に親しむことができる。
- ③日本や世界の宗教を知り、それらと現代の思想・政治等とを関連づけて考察することができる。

授業計画

- 【第1回】**
 テーマ：日本の宗教（1）
 内容・方法：日本の仏教（大乘仏教）について、先祖祭祀の問題と絡めながら、概略を示す。
- 【第2回】**
 テーマ：日本の宗教（2）
 内容・方法：日本民族の宗教である神道について、その成立から現在まで、対外戦争中のそのポジションや靖国神社の問題も含め、解説を加えてゆく。
- 【第3回】**
 テーマ：日本の宗教（3）
 内容・方法：幕末維新時から今日までに出現した新宗教について、具体的事例を多く交えながら、解説してゆく。
- 【第4回】**
 テーマ：日本の宗教（4）
 内容・方法：洗練度においても組織化レベルにおいても低いものの、いまま着実に日本人社会に根をおろしている民俗宗教を論じる。それがいまなお支持される理由の考察が、主なるところである。
- 【第5回】**
 テーマ：日本の宗教（5）
 内容・方法：完全な無信仰でないものの、所謂教団所属の信者ではない社会層の信仰について、論じる。すなわちスピリチュアリティに着目するわけである。
- 【第6回】**
 テーマ：キリスト教の世界（1）
 内容・方法：イエス・キリストの生涯について、四福音書に基づきながら、説明してゆく。
- 【第7回】**
 テーマ：キリスト教の世界（2）
 内容・方法：現代世界におけるキリスト教の勢力について、統計を示しながら、解説する。とくにアメリカにおけるキリスト教右派への注目が喚起される。
- 【第8回】**
 テーマ：イスラームの世界（1）
 内容・方法：『アル・クルアーン』『ハディース』に基づき、ムハンマドとその時代について、解説する。
- 【第9回】**
 テーマ：イスラームの世界（2）
 内容・方法：イスラーム法とムスリムの生活を中心に、日本人にとってなじみの薄い世界宗教の基本を、解説する。
- 【第10回】**
 テーマ：仏教の世界（1）
 内容・方法：マハーヤナ（大乘）仏教の成立について述べ、日本以外でのマハーヤナの現状を紹介する。
- 【第11回】**
 テーマ：仏教の世界（2）
 内容・方法：原始仏教の直接的後継であるテーラヴァーダ（上座）仏教の成立について述べ、東南アジア諸国でのその現状を解説する。
- 【第12回】**
 テーマ：ヒンドゥー教の世界
 内容・方法：世界有数の人口を抱えるインドの宗教を解説する。ヒンドゥーの神々が日本においても崇拝されている現実については、とくに念入りに説かれる。
- 【第13回】**
 テーマ：世界宗教地図（1）
 内容・方法：南北アメリカとヨーロッパに焦点を合わせ、彼の地で信仰される宗教について解説する。
- 【第14回】**
 テーマ：世界宗教地図（2）
 内容・方法：アジアとアフリカに焦点を合わせ、彼の地で信仰される宗教について解説する。
- 【第15回】**
 テーマ：近年の日本に進出してきた宗教
 内容・方法：1990 年以降、海外から日本に宗教の移入されることが活発化してきた。その結果いま国内には、様々な外来宗教の姿勢つが設けられている。それらについて解説を加える。

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

各回、事前学習2時間、事後学習2時間を想定している。

【第1回】

①事前学修課題：指定文献購読
②事後学修課題：講義ノートのまとめ（次回においてチェックする<以下、同じ>）
【第2回】
①事前学修課題：指定文献購読
②事後学修課題：講義ノートのまとめ
【第3回】
①事前学修課題：指定文献購読
②事後学修課題：講義ノートのまとめ
【第4回】
①事前学修課題：指定文献購読
②事後学修課題：講義ノートのまとめ
【第5回】
①事前学修課題：指定文献購読
②事後学修課題：講義ノートのまとめ
【第6回】
①事前学修課題：指定文献購読
②事後学修課題：講義ノートのまとめ
【第7回】
①事前学修課題：指定文献購読
②事後学修課題：講義ノートのまとめ
【第8回】
①事前学修課題：指定文献購読
②事後学修課題：講義ノートのまとめ
【第9回】
①事前学修課題：指定文献購読
②事後学修課題：講義ノートのまとめ
【第10回】
①事前学修課題：指定文献購読
②事後学修課題：講義ノートのまとめ
【第11回】
①事前学修課題：指定文献購読
②事後学修課題：講義ノートのまとめ
【第12回】
①事前学修課題：指定文献購読
②事後学修課題：講義ノートのまとめ
【第13回】
①事前学修課題：指定文献購読
②事後学修課題：講義ノートのまとめ
【第14回】
①事前学修課題：指定文献購読
②事後学修課題：講義ノートのまとめ
【第15回】
①事前学修課題：指定文献購読
②事後学修課題：講義ノートのまとめ、並びに講義全体に対する感想をまとめて、提出することを求める（指定期日までの提出を課す）。

課題に対するフィードバックの方法

講義内で受講生個々に何らかの課題（レポート提出あるいは感想等の執筆）を与えた場合、その翌週当該時間に各々についてコメントを返す。

成績評価の方法・基準（方針）

講義中の態度、講義中あるいは講義後に課す課題への対応、定期試験の成績等により総合的に評価する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	講義内で課される3回程度の簡便課題への対応。	①②
授業外での評価	20	講義終了後に提出が求められるレポート課題への対応。	①②
期末試験	0		
定期試験	40	全講義終了後、定期試験期間内に実施される筆記試験への対応。	③
その他	10	講義中の態度、質問等から講義へのコミットメントを評価する。	①②

テキスト	プリントを配布する
参考書	櫻井義秀・三木英共編『よくわかる宗教学』ミネルヴァ書房、2015年
履修条件・他の科目との関連	「社会学」も併せ受講することが望ましい。
担当教員への連絡方法	・三木 英 mikia@oiu.jp

授業コード	10210351		
授業科目名	アメリカの歴史と社会	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	西村 瑠里子		
成績担当教員氏名	西村 瑠里子		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

本講義は、アメリカ合衆国の歴史における政治・経済・文化・外交に関する基礎的な知識を受講生の皆さんに身につけてもらうことを目的に実施するものです。歴史を知り、理解するには、ある一定の視点が必要です。本講義においてはその「一定の視点」をアメリカの文学とし、そのうえでアメリカの歴史全体の流れと、歴史上の出来事がどのように文学などの文化に影響を与え、また文化がどのような意識を発信してきたのかを説明します。毎回の授業は、教科書を基にしつつ、主に配布するレジュメへ重要事項を記載するという形式で講義を進めます。必要に応じて、ディスカッションや映像資料の視聴も行います。前期の「アメリカの現代社会」との連続履修を推奨します。

到達目標

1. ヨーロッパ以外の国の1つとしてのアメリカ史に関心を持つことができるようになる。
2. 20世紀のアメリカ史のうち、ひとつ、あるいはそれ以上の年代的な知識を得る。
3. 20世紀のアメリカ史のうち、ひとつ、あるいはそれ以上の時代についての特質を挙げることができるようになる。
4. 国や文化が異なれば、考え方や価値観が異なることを認識し、それを尊重できるようになる。

授業計画

この授業は、遠隔授業となります。原則として、リアルタイム型授業で実施予定です。Zoom や Google Classroom を使用予定です。参加方法などの詳細はあって案内します。

- 【第1回】Ⅰ 1492～1820 新大陸発見から独立の時代
- 【第2回】Ⅱ 1820～1865 民主主義の確立、南北対立 散文・小説
- 【第3回】Ⅱ 1820～1865 民主主義の確立、南北対立 小説・詩
- 【第4回】Ⅲ 1865～1914 近代化、労働運動、資本守護 小説
- 【第5回】Ⅲ 1865～1914 近代化、労働運動、資本守護 小説・劇
- 【第6回】Ⅲ 1865～1914 近代化、労働運動、資本守護 小説・劇
- 【第7回】Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの総復習(確認テスト)/コメントシートへのフィードバック
- 【第8回】Ⅳ 1914～1945 両大戦のはざま、狂乱の20年代 小説
- 【第9回】Ⅳ 1914～1945 両大戦のはざま、狂乱の20年代 小説・詩
- 【第10回】Ⅳ 1914～1945 両大戦のはざま、狂乱の20年代 劇
- 【第11回】Ⅴ 1945～現代 大衆社会、東西冷戦の始まりと終結 小説
- 【第12回】Ⅴ 1945～現代 大衆社会、東西冷戦の始まりと終結 小説・詩
- 【第13回】Ⅴ 1945～現代 大衆社会、東西冷戦の始まりと終結 劇
- 【第14回】Ⅴ 1945～現代 大衆社会、東西冷戦の始まりと終結 批評
- 【第15回】総復習(確認テスト)/コメントシートへのフィードバック

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後学習をあわせて45時間の学修が必要です。

各単元の内容は事前にしっかり目を通すようにしましょう。

重要な、あるいはわからないキーワードを見つけ、意味を調べておきましょう。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に実施する授業内容復習テストやコメントシートについては、次の授業冒頭に必要な範囲で解説をします。

成績評価の方法・基準（方針）

期末レポートと授業ごとの小テスト、学期中に二回行う確認テストによって評価いたします。出席は毎時間授業終了時、授業内容確認の小テストを行い、その Google Classroom への提出をもって確認します。授業内試験としてアメリカ史の基礎的知識の定着度を確認するための「確認テスト」を2回実施します（実施日は上記「授業計画」に記載していますが、変更する場合がありますので注意してください。変更の場合には授業時間中に通知します）。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業内確認テスト(全2回)	1,2,3,4
授業外での評価	30	授業内容復習小テスト(全12回)	1,2,3,4
期末試験	10	期末レポート	1,2,3,4
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	<p>新版 アメリカ文学史 コロニアルからポストコロニアルまで 別府 恵子 (著), 渡辺 和子 (著) 出版社: ミネルヴァ書房; 新版 (2000/4/1) ISBN-10: 4623031985 ISBN-13: 978-4623031986 税込み 3300 円</p>
参考書	
履修条件・他の科目との関連	<p>授業内小テストの解答提出をもって出席の確認をします。欠席回数が3回を超えた場合には単位を認定しません。 授業中は私語をしない、必要時以外携帯・スマートフォンを触らないなど、最低限の常識やマナーは守ってください。担当者の注意や指導に従わない受講生は、確認テストなどの出来いかに関わらず単位の認定をしません。 遠隔授業（リアルタイム型）での実施予定です。レジュメを Google Classroom に掲示しますので、それをダウンロードし手元に用意したうえで授業をしてください。</p>
担当教員への連絡方法	・西村 瑠里子 r-nishimura@oiu.jp

授業コード	10210651		
授業科目名	アメリカの政治と経済	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	藤澤 宜広		
成績担当教員氏名	藤澤 宜広		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

アメリカは、グローバリゼーションを推進し主導していくなかで様々な制度的あるいは構造的変化を遂げてきました。アメリカ経済は日本の経済政策にも大きな影響を与えますから、アメリカ経済を理解することは日本経済や日本の政策を考える上でも有益になります。

この授業では、ミクロ経済学やマクロ経済学といった経済理論の基本的な知識を提供した上で、アメリカ経済の現状を経済学的に説明することを目的とします。また、アメリカの思想的背景や経済発展のプロセスを理解するために、アメリカ社会の歴史的経緯についても紹介します。具体的には、まず、アメリカの政治経済システムを概観した後、歴史的背景や経済発展について解説した上で、マクロ経済政策や産業政策などへと順次議論を展開していきます。

到達目標

1. アメリカ経済に関するニュースに関心を持つようになる。
2. アメリカ経済に関連する基本モデルを理解できるようになる。
3. アメリカ経済に関するニュースで取り扱われている内容やその背景に対して経済学的な論理で批判的に考察できるようになる。

授業計画

この授業は遠隔授業となる予定です。原則として、リアルタイム型授業ではなく、講義を記録した動画を視聴し、所定の課題を提出する形で実施予定です。詳細は追って案内します。

- 【第01回】第1章 アメリカの政治経済システム (1)：建国の理念
- 【第02回】第1章 アメリカの政治経済システム (2)：独立戦争
- 【第03回】第1章 アメリカの政治経済システム (3)：分断されたアメリカ
- 【第04回】第2章 19世紀から20世紀初頭の経済発展 (1)：小さな政府
- 【第05回】第2章 19世紀から20世紀初頭の経済発展 (2)：金融制度の確立
- 【第06回】第2章 19世紀から20世紀初頭の経済発展 (3)：大恐慌とニューディール政策
- 【第07回】第3章 マクロ財政・金融政策 (1)：マクロ経済政策の理論
- 【第08回】第3章 マクロ財政・金融政策 (2)：マクロ経済政策の実践
- 【第09回】第3章 マクロ財政・金融政策 (3)：金融システムの規制と金融革新
- 【第10回】第4章 ミクロ経済学と競争政策 (1)：反トラスト法の経済学
- 【第11回】第4章 ミクロ経済学と競争政策 (2)：支配的企業の規制
- 【第12回】第4章 ミクロ経済学と競争政策 (3)：合併・カルテルの規制
- 【第13回】第5章 企業システムと産業構造 (1)：アメリカの企業システム
- 【第14回】第5章 企業システムと産業構造 (2)：モノづくりの盛衰
- 【第15回】第5章 企業システムと産業構造 (3)：コーポレートガバナンス

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。各回を通じて、
【事前】 テキストに目を通し、重要事項を把握しておく。またわからない内容については質問できるように準備しておく。
【事後】 授業中に学んだ内容の要点、感想、わからない内容を記録しておく。

その他、アメリカ経済に関するニュースに触れるようにしましょう。予習も重要ですが、復習により時間を割きましょう。不定期に実施する小テストとその解説を通じて理解度を確認して下さい。

課題に対するフィードバックの方法

授業の中で確認し、理解を深めます。

成績評価の方法・基準（方針）

授業の感想や授業内課題 60%、期末試験 40%

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業の感想文 (10)、小テスト (30)、授業内課題 (20)	1、2
授業外での評価	0		
期末試験	40	最終レポート (40)	2、3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	宮田・玉井『アメリカ経済論入門』（第2版）晃洋書房、2018年3月、本体2,400円＋税、ISBN-13: 978-4771030343。
参考書	坂出・秋元・加藤『入門 アメリカ経済Q&A100』中央経済社、2019年5月、本体3,000円＋税、ISBN-13: 978-4502291913。 地主・加藤・村山『現代アメリカ経済論』（シリーズ・現代の世界経済1）ミネルヴァ書房、2012年5月、本体3,500円＋税、ISBN-13: 978-4623058693。 河村・弘兼『知識ゼロからのアメリカ経済入門』幻冬舎、2009年8月、本体1,300円＋税、ISBN-13: 978-4344901643。 河村哲二『現代アメリカ経済』（有斐閣アルマ）
履修条件・他の科目との関連	「経済学入門」「ミクロ経済学」「マクロ経済学」を単位取得済みもしくは履修中であることが望ましいです。
担当教員への連絡方法	・藤澤 宜広 fujisawa@oiu.jp

授業コード	10208451		
授業科目名	ヨーロッパの民族と文化	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	鷲田 睦朗		
成績担当教員氏名	鷲田 睦朗		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要			
現代ヨーロッパ概観 ヨーロッパ諸国は、近代以来、国際社会において先進地域としての地位を保っています。2021 年 1 月現在、その内の 27 カ国が地域連合「ヨーロッパ連合 (EU)」を形成し、個々の国家レベルを越えた大きな存在となっています。この地域統合の流れは、紆余曲折を経つつも、今も継続しています。本講義では、多様性を残しながらも統合へと向かうヨーロッパ諸国の現在の姿を紹介します。			
到達目標			
①現代ヨーロッパ諸国についての基本的な情報を知ること ②講義を聞いてリアクションペーパー、レポートを書くために、必要な情報を獲得するためのメディアリテラシーを涵養すること ③リアクションペーパー、レポートを書くことを通じて、自分の考えを発信するための表現力を涵養すること			
授業計画			
本講義は遠隔方式 (オンデマンド動画配信) で行います。			
<p>【第 1 回】 テーマ：オリエンテーション ヨーロッパの多様性——ヨーロッパとは何か—— 内容・方法：配布プリントに基づいた講義</p> <p>【第 2 回】 テーマ：近現代ヨーロッパ略史 (1) 内容・方法：配布プリントに基づいた講義</p> <p>【第 3 回】 テーマ：近現代ヨーロッパ略史 (2) 内容・方法：配布プリントに基づいた講義</p> <p>【第 4 回】 テーマ：近現代ヨーロッパ略史 (3) 内容・方法：配布プリントに基づいた講義</p> <p>【第 5 回】 テーマ：EU 成立の流れ 内容・方法：配布プリントに基づいた講義</p> <p>【第 6 回】 テーマ：現在の EU 組織と組織改革 内容・方法：配布プリントに基づいた講義</p> <p>【第 7 回】 テーマ：ユーロ 内容・方法：配布プリントに基づいた講義</p> <p>【第 8 回】 テーマ：EU 諸国—フランスとドイツ— 内容・方法：配布プリントに基づいた講義</p> <p>【第 9 回】 テーマ：EU 諸国—イギリスと北欧諸国— 内容・方法：配布プリントに基づいた講義</p> <p>【第 10 回】 テーマ：EU 諸国—東欧諸国と南欧諸国— 内容・方法：配布プリントに基づいた講義</p> <p>【第 11 回】 テーマ：拡大する EU 内容・方法：配布プリントに基づいた講義</p> <p>【第 12 回】 テーマ：EU が抱える諸問題 内容・方法：配布プリントに基づいた講義</p> <p>【第 13 回】 テーマ：EU の今後 内容・方法：配布プリントに基づいた講義</p> <p>【第 14 回】 テーマ：総括 内容・方法：理解度確認のための授業内試験</p> <p>【第 15 回】 テーマ：講評 内容・方法：試験の講評とまとめ、レポート執筆についての説明</p>			
事前事後の学習			
授業 (1 回につき 2 時間として計算) と事前事後のあわせて 1 単位あたり 4.5 時間が必要です。			

<p>【第1回】 ①事前学修課題：シラバスの確認 ②事後学修課題：配布プリントの確認</p> <p>【第2回】 ①事前学修課題：前回の配布プリントの確認 ②事後学修課題：配布プリントの確認</p> <p>【第3回】 ①事前学修課題：前回の配布プリントの確認 ②事後学修課題：配布プリントの確認</p> <p>【第4回】 ①事前学修課題：前回の配布プリントの確認 ②事後学修課題：配布プリントの確認</p> <p>【第5回】 ①事前学修課題：前回の配布プリントの確認 ②事後学修課題：配布プリントの確認</p> <p>【第6回】 ①事前学修課題：前回の配布プリントの確認 ②事後学修課題：配布プリントの確認</p> <p>【第7回】 ①事前学修課題：前回の配布プリントの確認 ②事後学修課題：配布プリントの確認</p> <p>【第8回】 ①事前学修課題：前回の配布プリントの確認 ②事後学修課題：配布プリントの確認</p> <p>【第9回】 ①事前学修課題：前回の配布プリントの確認 ②事後学修課題：配布プリントの確認</p> <p>【第10回】 ①事前学修課題：前回の配布プリントの確認 ②事後学修課題：配布プリントの確認</p> <p>【第11回】 ①事前学修課題：前回の配布プリントの確認 ②事後学修課題：配布プリントの確認</p> <p>【第12回】 ①事前学修課題：前回の配布プリントの確認 ②事後学修課題：配布プリントの確認</p> <p>【第13回】 ①事前学修課題：前回の配布プリントの確認 ②事後学修課題：配布プリントの確認</p> <p>【第14回】 ①事前学修課題：授業内試験準備 ②事後学修課題：なし</p> <p>【第15回】 ①事前学修課題：なし ②事後学修課題：試験結果の確認とレポート作成準備</p>			
<p>課題に対するフィードバックの方法</p>			
<p>14回目に行った授業内試験の解答用紙を採点したものを、15回目に学生に返却して、それに基づいて講評を行う。</p>			
<p>成績評価の方法・基準（方針）</p>			
<p>毎回、出席時に集める用紙に書いて貰う感想に基づく平常点（約20%）と、授業内試験の点数（約60%）、期末レポート（約20%）をもとに、総合的に成績を評価します。ただし、一定以上の平常点を獲得できていない学生については、評価不能（K判定）といたします。</p>			
成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	毎回のリアクションペーパー20% 14回目の授業内試験60%	③リアクションペーパー：講義を受講しての内容把握にとどまらず、自分の考えを説得的に述べられているかどうか。 ①②授業内試験：講義内で指示したテーマについての理解力、それに対する調査能力、論旨の説得力など以上を総合的に判断して成績を評価する
授業外での評価	0		
期末試験	20	講義全体を踏まえてのレポート20%	①現代ヨーロッパ諸国についての基本的な情報を踏まえて、 ②メディアリテラシーを駆使して調べた情報を加味して、 ③自分の考えを説得的に表現できているかどうかを、総合的に考量する。
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	逐次プリントを配布する
参考書	庄司克宏『欧州連合―統治の論理とゆくえー』、脇阪紀行『大欧州の時代』、田中素香『ユーロ―その衝撃とゆくえー』（以上、岩波新書）、J.D.ジュリアーニ『拡大ヨーロッパ』白水社文庫クセジュ、坂田豊光『欧州通貨統合のゆくえーユーロは生き残れるかー』、羽場久美子『拡大ヨーロッパの挑戦―アメリカに並ぶ多元的パワーとなるかー』（以上、中公新書） その他の本については、逐次、授業内で指示します。
履修条件・他の科目との関連	講義は、教師と学生との共同作業です。本講義では、円滑な進行のために、受講者に最低限のマナーを求めます。講義の妨げになると判断した場合、他の受講者にも迷惑ですので、遺憾ながら、退室・単位不認定などの手段を取らざるを得ません。その旨を了承した上で、受講して下さい。 なお、初回に講義のオリエンテーションを含め重要な話を行いますので、受講を希望する学生は必ず出席して下さい。
担当教員への連絡方法	・鷺田 睦朗 washida@oiu.jp

授業コード	10208551		
授業科目名	ヨーロッパの歴史と社会	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	鷲田 睦朗		
成績担当教員氏名	鷲田 睦朗		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要	
<p>ヨーロッパ中世史</p> <p>ヨーロッパは大まかに言って2つのルーツを持っています。その1つが現在から2000年以上前から繁栄していたギリシア・ローマ文明で、もう1つが中世にヨーロッパの文化基盤となったキリスト教文化です。本講義では、「大航海時代以前にキリスト教が広がっていた地域≒ヨーロッパ」の歴史を扱います。</p>	
到達目標	
<p>①ヨーロッパ中世史についての基本的な知識を獲得すること</p> <p>②キリスト教文化についての知見を獲得すること</p> <p>③講義を聞いてリアクションペーパー、レポートを書くために、必要な情報を獲得するためのメディアリテラシーを涵養すること</p> <p>④リアクションペーパー、レポートを書くことを通じて、自分の考えを発信するための表現力を涵養すること</p>	
授業計画	
<p>本講義は遠隔方式（オンデマンド動画配信）で行います。</p> <p>【第1回】 テーマ：ヨーロッパ中世史を講義するにあたって 内容・方法：配布プリントとテキストを活用しての講義</p> <p>【第2回】 テーマ：ゲルマン民族大移動とカトリック圏の形成 内容・方法：配布プリントとテキストを活用しての講義</p> <p>【第3回】 テーマ：ビザンツ帝国の発展と正教世界の形成 内容・方法：配布プリントとテキストを活用しての講義</p> <p>【第4回】 テーマ：フランク王国の盛衰と外民族の侵入 内容・方法：配布プリントとテキストを活用しての講義</p> <p>【第5回】 テーマ：西ヨーロッパ中世の社会（一）領主と農民 内容・方法：配布プリントとテキストを活用しての講義</p> <p>【第6回】 テーマ：西ヨーロッパ中世の社会（二）都市と商工業 内容・方法：配布プリントとテキストを活用しての講義</p> <p>【第7回】 テーマ：西ヨーロッパ中世の社会（三）カトリック教会と信徒 内容・方法：配布プリントとテキストを活用しての講義</p> <p>【第8回】 テーマ：西ヨーロッパ世界の拡大 内容・方法：配布プリントとテキストを活用しての講義</p> <p>【第9回】 テーマ：ビザンツ帝国の衰亡と正教世界の分断 内容・方法：配布プリントとテキストを活用しての講義</p> <p>【第10回】 テーマ：西ヨーロッパ諸国の成長 内容・方法：配布プリントとテキストを活用しての講義</p> <p>【第11回】 テーマ：宗教改革と宗派体制 内容・方法：配布プリントとテキストを活用しての講義</p> <p>【第12回】 テーマ：西ヨーロッパ中世文化とイタリア・ルネッサンス 内容・方法：配布プリントとテキストを活用しての講義</p> <p>【第13回】 テーマ：ヨーロッパ中世概観 内容・方法：配布プリントとテキストを活用しての講義</p> <p>【第14回】 テーマ：授業内試験 内容・方法：試験</p> <p>【第15回】 テーマ：解説、講評 内容・方法：試験解説・講評を通じてのフィードバック</p>	
事前事後の学習	
<p>授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。</p> <p>【第1回】</p>	

①事前学修課題：シラバスの確認
②事後学修課題：配布プリントの確認
【第2回】
①事前学修課題：テキスト該当箇所の確認
②事後学修課題：配布プリントの確認
【第3回】
①事前学修課題：テキスト該当箇所の確認
②事後学修課題：配布プリントの確認
【第4回】
①事前学修課題：テキスト該当箇所の確認
②事後学修課題：配布プリントの確認
【第5回】
①事前学修課題：テキスト該当箇所の確認
②事後学修課題：配布プリントの確認
【第6回】
①事前学修課題：テキスト該当箇所の確認
②事後学修課題：配布プリントの確認
【第7回】
①事前学修課題：テキスト該当箇所の確認
②事後学修課題：配布プリントの確認
【第8回】
①事前学修課題：テキスト該当箇所の確認
②事後学修課題：配布プリントの確認
【第9回】
①事前学修課題：テキスト該当箇所の確認
②事後学修課題：配布プリントの確認
【第10回】
①事前学修課題：テキスト該当箇所の確認
②事後学修課題：配布プリントの確認
【第11回】
①事前学修課題：テキスト該当箇所の確認
②事後学修課題：配布プリントの確認
【第12回】
①事前学修課題：テキスト該当箇所の確認
②事後学修課題：配布プリントの確認
【第13回】
①事前学修課題：テキスト該当箇所の確認
②事後学修課題：配布プリントの確認
【第14回】
①事前学修課題：試験準備
②事後学修課題：なし
【第15回】
①事前学修課題：なし
②事後学修課題：試験結果を踏まえてのレポート作成準備

課題に対するフィードバックの方法

14回目に行った試験を採点したものを、15回目に学生に返却して、それに基づいて講評を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

毎回、出席時に集める用紙に書いて貰うリアクションペーパーに基づく平常点（20%）と、授業内試験の点数（60%）、レポート作成（20%）をもとに、総合的に成績を評価します。ただし、一定以上の平常点を獲得できていない学生については、評価不能（K判定）といたします。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	リアクションペーパー20% 試験60%	③④リアクションペーパー：講義を受講しての内容把握にとどまらず、自分の考えを説得的に述べられているかどうか。 ①②試験：講義内で指示したテーマについての理解力など 以上を総合的に判断して成績を評価する。
授業外での評価	0		
期末試験	20	①ヨーロッパ中世史についての基本的な知識、②キリスト教文化についての知見を踏まえて、 ④自分の考えを説得的に表現できているかを、 総合的に考量する。	
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	<p>テキスト：毎回、プリントを配布いたしますので、各自でファイルして下さい。</p> <p>『最新世界史図説タペストリー 19訂版』/川北 稔・桃木 至朗監修/帝国書院/957</p>
参考書	<p>図版や史料などを参照するために、『最新世界史図説タペストリー 19訂版』を利用します。古い版を持っている人は、そちらを利用していただいても構いません。</p>
履修条件・他の科目との関連	<p>講義は教師と学生との共同作業です。本講義では、円滑な進行のために受講者にマナーを求めます。講義の妨げになると判断した場合、他の受講者に迷惑ですので、退室・単位不認定などの手段を取る場合があります。その旨を了承した上で、受講して下さい。</p> <p>なお、初回到講義のオリエンテーションを含め重要な話を行いますので、受講を希望する学生は必ず出席して下さい。場合によっては、座席指定を行う場合があります。</p>
担当教員への連絡方法	<p>・鷺田 睦朗 washida@oiu.jp</p>

授業コード	10208651		
授業科目名	ヨーロッパの政治と経済	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	花木 完爾		
成績担当教員氏名	花木 完爾		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

ヨーロッパにおける経済構造の基本を理解する。この科目はヨーロッパ経済論である。ヨーロッパ経済の大きな特徴のひとつはEUという地域統合経済圏が存在することである。現代日本においてはTPPなど国際経済圏への加入が検討されている。このような国際的な経済圏へ参加することのメリットやデメリットはなんだろうか。ヨーロッパ経済を学ぶことで市場統合、関税自由化、国際貿易についての知見を深めていく。

本講義ではEU地域統合経済圏のメリットとデメリット、そしてその合理性を記述し、説明することが目的である。講義はパワーポイントによるプレゼン形式で行い、文字情報および静止画・動画の資料などを提示しながらすすめていく。

授業は講義形式で受動的学習になるが、事前学習では授業テーマに関して事前の調査、前週の復習と統合された経済圏の課題を考えることが求められる。事後学習では授業出提示した資料をノートに加筆することなどの主体的学習が求められる。

到達目標

- 1.地域統合経済圏のメリットとデメリットを記述することができる。
- 2.地域統合経済圏のメリットとデメリットを説明することができる。
- 3.地域統合経済圏内の個別事情を記述することができる。
- 4.地域統合経済圏内の個別事情を説明することができる。

授業計画

*本授業は遠隔授業として実施する予定である。その遠隔授業の実施形式はオンデマンド型授業とする。リアルタイム型の遠隔授業(その授業時間にZoom等で参加する方法)ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施予定です。

- 第1回：授業オリエンテーション（授業の進め方、講義概要、成績評価について）
- 第2回：欧州経済史①：産業革命からの「近代産業」の形成
- 第3回：欧州経済史②：戦後経済復興から欧州統合までの道
- 第4回：欧州経済史③：2000年代以降の欧州経済と国際的な企業競争環境
- 第5回：欧州の地域統合とEU統合の独自性
- 第6回：関税同盟と単一市場：EU経済システムの形成
- 第7回：EU経済と産業構造①Airbus社とEUの産業政策
- 第8回：EU経済と産業構造②リーマンショック以降の産業政策、リスボン戦略と欧州2020
- 第9回：EU経済における地域間格差と移民問題
- 第10回：ユーロ経済圏とECB
- 第11回：個別のEU経済：ドイツ
- 第12回：個別のEU経済：フランス
- 第13回：個別のEU経済：イギリス
- 第14回：EUと国際関係
- 第15回：講義のまとめ、現代欧州経済における論点

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

事前学習：レジュメを配布しますので事前に読んできてください。1.5時間

事後学習：簡単なWEBクイズを出しますので、それに回答してください。1.5時間・課題

課題に対するフィードバックの方法

WEBクイズは次回の冒頭に詳しく説明します。

成績評価の方法・基準（方針）

授業期間中に実施される課題・レポートと期末試験（レポート）の評価結果に基づき総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

レポート課題か期末レポート試験のいずれかを未提出の場合、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業への取り組み姿勢 (10)、WEBクイズへの参加率 (40)	2,4
授業外での評価	0		
期末試験	50	期末の提出課題とする。内容評価は十分な質と分量を備えた説明、記述がなされていること。	1,2,3,4
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	田中素香、長部重康、久保広正、岩田健治『現代ヨーロッパ経済』有斐閣アルマ、2001年 ISBN978-4-641-22108-6、2,800円
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	授業資料はGOOGLE CLASSROOMに毎週アップロード予定です。 ヨーロッパの時事問題に関心を払ってください。
担当教員への連絡方法	・花木 完爾 k-hanaki@oiu.jp

授業コード	19108051		
授業科目名	スタディアブロードⅠ・Ⅱ・Ⅲ	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	佐藤 智明		
成績担当教員氏名	佐藤 智明		
単位数	2 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期、2021 年度後期

授業の目的・概要

日本とは違う海外での生活体験・学習体験・職業体験を通じて、日本社会・文化を捉えなおし、多文化理解を進めるとともに、グローバルマインドを持った国際的に活躍する人材を育成する

【研修メニュー】

- ・海外チャレンジ研修（アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリスなど世界 22 カ国・地域）
- ・日本語教員アシスタント研修（ベトナム、韓国など）
- ・グローバル短期研修（インドネシア、ベトナム、カンボジア、シンガポール）
- ・ハワイプライダル研修（1 単位）※、海外スポーツ交流（シンガポール）（1 単位）※

※グローバルビジネス学部において 1 単位の研修は他学部履修科目となり「グローバル科目群」での履修ではなく「その他科目群」での単位認定となる

到達目標

1. 海外を経験することによって、グローバルマインドを持った国際人となる。
2. 海外体験によって、多文化理解に関心を持つとともに、日本社会・文化の更なる理解を進める。

授業計画

【前期出発（8 月・9 月出発）】

- <5 月中旬～下旬>説明会：研修内容の確認、申込書の作成、提出
- <6 月中旬～7 月上旬>オリエンテーション（生活、ホームステイ、危機管理など）
- <8 月上旬>最終オリエンテーション（病気・怪我、渡航手続きなど）
- <8 月中旬～9 月中旬>各研修プログラム実施
- <10 月下旬>事後レポート提出、事後報告会

【後期出発（2 月・3 月出発）】

- <10 月中旬～下旬>説明会：研修内容の確認、申込書の作成、提出
- <11 月中旬～2 月上旬>オリエンテーション（生活、ホームステイ、危機管理など）
- <2 月中旬>最終オリエンテーション（病気・怪我、渡航手続きなど）
- <2 月下旬～3 月下旬>各研修プログラム実施
- <4 月下旬>事後レポート提出、事後報告会

事前事後の学習

授業（1 回につき 2 時間として計算）と事前事後のあわせて 1 単位あたり 4.5 時間が必要です。

出発前に行われる研修会に参加し、事前学習をする。事後にはレポート提出をし、振り返りワークショップや事後報告会などを行うことで、事後学習をする。

課題に対するフィードバックの方法

研修レポート他、提出物については、講評を記して返却する。

成績評価の方法・基準（方針）

研修参加者は定められた期間内に、事後レポートを提出すること（A4 用紙 800 字以上）。

- ・事前事後研修と事後報告会での発表と積極性（30%）
- ・現地プログラムを通じた理解度、積極性（50%）
- ・事後レポート評価（20%）

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	0		
期末試験	0		
定期試験	0		
その他	100	<ul style="list-style-type: none"> ・事前事後研修と事後報告会での発表と積極性（30%） ・現地プログラムを通じた理解度、積極性（50%） ・事後レポート評価（A4 用紙 800 字以上）（20%） 	1.2.

テキスト	なし
参考書	参考図書は、各研修ごとにオリエンテーション中に紹介する。
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・参加希望者は申し込みの後、スタディアブロード参加についての許可に関する選考がある。 ・Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは参加回数を表す。初めて参加のプログラムで単位認定された場合、スタディアブロードⅠ、2 回目はⅡ、3 回目はⅢとなる。 ・この科目に参加する場合は別途研修参加費用が必要となるので、説明会で研修内容、費用などを必ず確認すること。 ・選考により奨学金を得ることが可能である。 ・スタディアブロードプログラムは国際交流センターが窓口となっている。掲示なども国際交流センターから案内されるので、履修希望者は注意すること
担当教員への連絡方法	・佐藤 智明 satomo@oiu.jp

授業コード	10204751		
授業科目名	キャリアデザインⅠ(自己の探究)	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	木村 陽一		
成績担当教員氏名	木村 陽一		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

自己の探求は、自分自身について学ぶことから始まる。自分らしく生きることや社会で働く意味、卒業後の進路や職業選択について考える。そうして自分の生き方を考えるとき、大きな力になってくれるのは、クラスメートや先輩、家族、先生などあなたの周りにいる人々である。グループワークやインタビューを通して、様々な考え方や生き方に触れ、自分自身の「キャリアプラン」を作成する。さらに「キャリアプラン」の実現のために今、大学生活の中で必要なこと・なすべきことを明確にしていく。授業では様々なワークを通して、自己表現の礎となる

①聞く力②話す力③書く力④考えて動く力⑤協働する力を身につけ、各人のキャリアプランの重要性について説明する。

到達目標

1. 自分自身について学ぶことができる。
2. 他者について学ぶことができる。
3. キャリアプランの重要性について説明することができる。
4. 自分自身のキャリアプランを作成することができる。

授業計画

- 【第1回】自己紹介とグループワーク：キャリアデザインの重要性を理解し、大学生活で達成したいことを考える。
- 【第2回】協力と共有：他者理解の必要性について理解し、課題ゲームを通して協力と共有について学ぶ。
- 【第3回】聴き方と話し方：社会で必要となるコミュニケーションスキルについて、ワークを通して理解する。
- 【第4回】アサーション：アサーションについて学び、お互いを尊重しつつ自己を表現する方法を修得する。
- 【第5回】自己分析:自分自身の長所や短所について理解する。自分自身の価値観について考える。
- 【第6回】自己PR①：前回の授業で発見した自己分析をもとに、エピソードを交えて自己PRを作成する。
- 【第7回】自己PR②：自己PRを発表する。
- 【第8回】業界研究①：業界について理解する。興味ある業界について調べる。
- 【第9回】業界研究②：自分自身が興味のある業界について発表する。
- 【第10回】職種研究①：職種について理解する。興味ある職種について発表する。
- 【第11回】職種研究②：自分自身が興味のある職種について発表する。
- 【第12回】仕事とは①：仕事とは何か、何のために働くのかについて考え、自分の就きたい仕事について調べる。
- 【第13回】仕事とは②：自分の就きたい仕事について調べて、分かったことを発表する。
- 【第14回】仕事とは③：周りで働いている人にインタビューしてきた内容を発表する。
- 【第15回】マイキャリアプラン発表法：マイキャリアプランを発表し、今後の大学生活について具体的行動目標を宣言する。

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

第1回

- 【事前】授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する 1.0時間
- 【事後】授業の内容を振り返ること。0.5時間
- 【第2回】
- 【事前】第1回の授業で記入したワークシートを完成させ、目を通しておくこと 1.0時間
- 【事後】第2回の授業の内容を振り返ること 0.5時間
- 【第3回】
- 【事前】第2回授業で記入したワークシートの内容を完成させ確認しておくこと 1.0時間
- 【事後】第3回の授業の内容を振り返ること 0.5時間
- 【第4回】
- 【事前】第3回授業で記入したワークシートの内容を完成させ確認しておくこと 1.0時間
- 【事後】第4回の授業の内容を振り返ること。0.5時間
- 【第5回】
- 【事前】第4回の授業で記入したワークシートの内容を完成させ確認しておくこと。1.0時間
- 【事後】第5回の授業の内容を振り返ること。0.5時間
- 【第6回】
- 【事前】第5回の授業で記入したワークシートの内容を完成させ確認しておくこと。1.0時間
- 【事後】第6回の授業の内容を振り返ること。0.5時間
- 【第7回】
- 【事前】第6回の授業で記入したワークシートの内容を完成させ確認しておくこと。1.0時間
- 【事後】学修課題：第7回の授業の内容を振り返ること。0.5時間
- 【第8回】
- 【事前】第7回の授業で記入したワークシートの内容を完成させ確認しておくこと。1.0時間
- 【事後】第8回の授業の内容を振り返ること。0.5時間
- 【第9回】
- 【事前】第8回の授業で記入したワークシートの内容を完成させ確認しておくこと。1.0時間
- 【事後】第9回の授業の内容を振り返ること。0.5時間
- 【第10回】
- 【事前】第9回の授業で記入したワークシートの内容を完成させ確認しておくこと。1.0時間
- 【事後】第10回の授業の内容を振り返ること。0.5時間
- 【第11回】

【事前】 授業で記入したワークシートの内容を完成させ確認をしておくこと。1.0 時間
【事後】 第 11 回の授業の内容を振り返ること。0.5 時間
【第 12 回】
【事前】 これまでのワークシートに目を通す。1.0 時間
【事後】 授業内容を振り返る。0.5 時間
【第 13 回】
【事前】 12 回の授業で記入したワークシートの内容を完成させ確認をしておくこと。 1.0 時間
【事後】 第 13 回の授業の内容を振り返ること。0.5 時間
【第 14 回】
【事前】 13 回の授業で記入したワークシートの内容を完成させ確認をしておくこと。1.0 時間
【事後】 第 14 回の授業の内容を振り返ること。0.5 時間
【第 15 回】
【事前】 マイキャリアプラン発表 1.0 時間
【事後】 第 15 回の授業の内容を振り返ること。0.5 時間

課題に対するフィードバックの方法

レポート課題は採点基準を付して返却する。
発表は授業内で講評する。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示すとおり、授業期間中に実施される課題、レポート、発表の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由のない欠席 4 回以上、又は課題、レポートの未提出、未発表の場合、評価の対象とはせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	18	レジュメへの書き込み、レポート	1,2
授業外での評価	41	「課題」・13 回目、完成させたワークシート	1,3,4
期末試験	41	マイキャリアプランの発表	1,2,3,4
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	本授業は演習を中心に行う。授業内でレポート提出の指示があったときは期日を守ること。授業内での発表も多いので、受身の授業に参加するのではなく、積極的に意見も述べてほしい。
担当教員への連絡方法	・木村 陽一 you-kimura@oiu.jp

授業コード	10204851		
授業科目名	キャリアデザインⅡ(企業と仕事)	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	木村 陽一		
成績担当教員氏名	木村 陽一		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

「企業とは何か」「仕事とは何か」を知り、体感します。皆さんのうちの多くは、大学卒業後に仕事に就くでしょう。その仕事の選択肢として企業というフィールドがあります。また、現代の資本主義社会において企業の果たす役割はとて大きいです。よって、企業とは何か、仕事とは何かを知り体感することは、進路選択をするための大きな材料を得ることに繋がります（現時点で企業への就職を希望しない方にとっても今後の進路選択の材料となります）。

講義では、少人数のチームでテーマに対する解決策を考え発表します。テーマに取り組みむことで、社会で求められる力（社会人基礎力）を高めることが期待されます。現状を分析し課題の本質にたどり着く、効果的なアイデアを発見する、提案を相手に伝わる形にする、聴き手が動きたくなくなる発表を行う、チームが円滑に回るためのチームワークを意識するなど、多様な経験を積むことができます。

到達目標

- 1.「企業とは何か」「仕事とは何か」を説明できる。
- 2.体験を通して、社会で求められるちからについて説明できる。
- 3.チームの中で、自分はどうの力を発揮することができるか、どのように振舞うことが必要なかを説明できる。
- 4.企業や社会にある課題を解決するために、大学での学びが必要であることを説明できる。

授業計画

- 【第1回】オリエンテーション：この講義の目的を理解し今後どのような取り組みを行うか理解します。
- 【第2回】業界とは何か：業界とは何かを知り、どんな仕事があるのかを学びます。
- 【第3回】職種とは何か：会社の中での仕事である職種にどんなものがあるのか、プレゼンテーション手法も学びます。
- 【第4回】企業とは何か：プレゼンテーション実習法：企業とは社会的にどのような位置付けであるかを学びます。
- 【第5回】仕事とは何か：働くとはどのようなことなのか、働く上で何が大切なのかを学びます。
- 【第6回】課題発見①：課題を知り、現在どのような状況であるか、何が本質的な課題であるかを考えます。
- 【第7回】課題発見②/課題解決① 課題を知り、現在どのような状況であるか、何が本質的な課題であるかを考えます。
- 【第8回】課題解決②：フレームワークなどを活用し、抽出された課題を解決するためのプランを作成します。
- 【第9回】課題解決③（発表準備）：発表準備を行います。効果的な資料の作り方やプレゼンテーション手法を復習し、次回の発表に備えます。
- 【第10回】中間フィードバック：予め完成させたプランを講師に対して発表し、講師からフィードバックを受けます。
- 【第11回】課題解決④（発表準備）：中間フィードバックで指摘された事項をチームで改善し、発表につなげます。
- 【第12回】発表：各チームがプレゼンテーションを行い、優秀チームを決めます。
- 【第13回】振り返り：チームとしてどうすればよりよい発表ができたか、個人として、よりよいチームに貢献できたかを考える。
- 【第14回】仕事と就職活動：課題発見・課題解決の経験をふまえて「仕事とは何か」を整理します。また、仕事を得るためのステップとして就職活動がどういうものなのかを理解します。
- 【第15回】授業のまとめ：授業を通して学んだことから、「企業とは何か」「仕事とは何か」を自分の頭でまとめます。

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

- 【第1回】
- ①【事前】：シラバスを熟読すること 1.0時間
 - ②【事後】：授業の内容を振り返ること 0.5時間
- 【第2回】
- ①【事前】：事前に配布資料を一読すること 0.5時間
 - ②【事後】：特定の業界について調べること 1.0時間
- 【第3回】
- ①【事前】：資料を一読すること 0.5時間
 - ②【事後】：プレゼンテーションの準備を行うこと 1.0時間
- 【第4回】
- ①【事前】：プレゼンテーションを行う準備をすること 1.0時間
 - ②【事後】：授業の内容を振り返ること 0.5時間
- 【第5回】
- ①【事前】：事前に配布する資料を一読すること 1.0時間
 - ②【事後】：授業の内容を振り返ること 0.5時間
- 【第6回】
- ①【事前】：事前に配布資料を一読すること 0.5時間
 - ②【事後】：テーマに関する課題を分析し、チームでまとめること 1.0時間
- 【第7回】
- ①【事前】：事前に配布資料を一読すること 0.5時間
 - ②【事後】：テーマに関する課題を分析し、チームでまとめること 1.0時間
- 【第8回】
- ①【事前】：事前に配布する資料を一読すること 0.5時間
 - ②【事後】：プランをチームで作上げること 1.0時間
- 【第9回】
- ①【事前】：プランを一通りまとめてくること 0.5時間
 - ②【事後】：テーマに関する課題を分析し、チームでまとめること 1.0時間
- 【第10回】
- ①【事前】：プレゼンテーションを行う準備をすること 0.5時間

- ②【事後】フィードバックで指摘された事項の改善策を考えること 1.0時間
【第11回】
- ①【事前】中間フィードバックで指摘された事項の改善方法を考えること 0.5時間
②【事後】発表にむけた準備を行うこと 1.0時間
【第12回】
- ①【事前】プレゼンテーションのための準備を完成させること【資料・発表】0.5時間
②【事後】自分たちの企画の良かった点・改善点を振り返ること 1.0時間
【第13回】
- ①【事前】事前に配布資料を一読すること 0.5時間
②【事後】授業の内容を振り返ること 1.0時間
【第14回】
- ①【事前】事前に配布する資料を一読すること 0.5時間
②【事後】授業の内容を振り返ること 1.0時間
【第15回】
- ①【事前】事前に配布資料を一読すること 0.5時間
②【事後】授業での学び、気づきをまとめ、振り返ること 1.0時間

課題に対するフィードバックの方法

ミニッツペーパーを記入後、毎回提出する事、毎回返却する。

初回の授業で、ルーブリックを読み、現在のレベルを記入講義で伸ばしたい力を文章にて理解する。最終回での成長感を感じる。発表は授業内で講評する。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示すとおり、授業期間中に実施される課題や提出物、及びチームへの貢献度、

プレゼン発表の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

正当な理由のない欠席4回以上、又は課題などの未提出、プレゼン未発表などの場合、評価の対象とはせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	18	授業内で課される課題	1,3
授業外での評価	41	チームへの貢献、提出物(個人・チーム)	2,3
期末試験	41	第12回目 プレゼン発表	1,2,3,4
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	キャリア系科目で重要なことは、積極的に関心を持ち、授業に参加することです。特に、本講義はチームで学習を行いますので、チームに貢献できるよう、主体的に行動することを期待します。
担当教員への連絡方法	・木村 陽一 you-kimura@oiu.jp

授業コード	10208801		
授業科目名	キャリアアップ基礎Ⅰ(数的処理)	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	木村 陽一		
成績担当教員氏名	木村 陽一		
単位数	1 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

ビジネス社会では複雑な計算や大量のデータ処理にコンピュータを用い、多数のデータの中から役立つ情報を適切に読み取り、計算処理や論理的思考により分析し、様々な意思決定を行う。そのための数的処理能力は不可欠である。本授業では、数学の基礎的事項を復習した上で、ビジネス社会で求められている基本的な数的処理(計算処理、論理的思考)について解説する。また、就職試験に出題される数学的問題(非言語分野の問題)にも対応できるよう、演習を通して指導する。授業の形態は、講義及び演習を組み合わせたものである。

到達目標

- 1.基本的な計算処理思考を理解し、数的問題の解を得ることができる。
- 2.論理的思考を理解し、数的問題の解をえることができる。
- 3.就職試験(非言語問題)にも応用できる。

授業計画

- 第1回 数的処理の概要及び数学基礎(受講ルール、方程式等の数学基礎、就職試験との関わり等)
- 第2回 方程式(文章題の計算、方程式、数列等)
- 第3回 割合(元の量、比べる量、割合、比率等)
- 第4回 損益算(原価、売価、利益、損益、利益率、割引率等)
- 第5回 仕事算(仕事の量と仕事の分担、仕事時間の計算等)
- 第6回 濃度算その1(全体量と当該物の量、濃度表、簡単な濃度計算等)
- 第7回 濃度算その2(各種濃度計算等)
- 第8回 速度算その1(時間・距離・速度、速度変化、時刻表等)
- 第9回 速度算その2(旅人算、追いかかけ算、流水算、通過算等)
- 第10回 順列・組み合わせ(順列、円順列、組み合わせ等)
- 第11回 確率(確率、コイン問題、サイコロ問題、くじ引き問題等)
- 第12回 命題(命題、対偶、三段論法等)
- 第13回 集合(集合、条件、グループ分け、キャロル表、線分図等)
- 第14回 資料の読み取り(表・グラフの読み取り、各種グラフの選択等)
- 第15回 学習のまとめ(既習事項の要点整理、授業内試験)

事前事後の学習

授業(1回につき2時間として計算)と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

第1回

【事前】 対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておく 0.5 時間

【事後】 学内にあるe-ラーニング(ラインズドリル)により、数学(ベーシックコース)・数学(スタンダードコース)の教材を用いて学習をすること 1.0 時間

第2回

【事前】 対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておく 0.5 時間

【事後】 学内にあるe-Learning(ラインズドリル)を用いて学習をすること 1.0 時間

第3回

【事前】 対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておく 0.5 時間

【事後】 学内にあるe-Learning(ラインズドリル)を用いて学習をすること 1.0 時間

第4回

【事前】 対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておく 0.5 時間

【事後】 学内にあるe-Learning(ラインズドリル)を用いて学習をすること 1.0 時間

第5回

【事前】 対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておく 0.5 時間

【事後】 学内にあるe-Learning(ラインズドリル)を用いて学習をすること 1.0 時間

第6回

【事前】 対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておく 0.5 時間

【事後】 学内にあるe-Learning(ラインズドリル)を用いて学習をすること 1.0 時間

第7回

【事前】 対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておく 0.5 時間

【事後】 学内にあるe-Learning(ラインズドリル)を用いて学習をすること 1.0 時間

第8回

【事前】 対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておく 0.5 時間

【事後】 学内にあるe-Learning(ラインズドリル)を用いて学習をすること 1.0 時間

第9回

【事前】 対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておく 0.5 時間

【事後】 学内にあるe-Learning(ラインズドリル)を用いて学習をすること 1.0 時間

第10回

【事前】 対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておく 0.5 時間

【事後】 学内にあるe-Learning(ラインズドリル)を用いて学習をすること 1.0 時間

第11回

【事前】 対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておく 0.5 時間

【事後】 学内にあるe-Learning(ラインズドリル)を用いて学習をすること 1.0 時間

第12回

【事前】	対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておく	0.5 時間
【事後】	学内にある e-Learning (ラインズドリル)を用いて学習をすること	1.0 時間
第 13 回		
【事前】	対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておく	0.5 時間
【事後】	学内にある e-Learning (ラインズドリル)を用いて学習をすること	1.0 時間
第 14 回		
【事前】	対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておく	0.5 時間
【事後】	学内にある e-Learning (ラインズドリル)を用いて学習をすること	1.0 時間
第 15 回		
【事前】	対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておく	0.5 時間
【事後】	学内にある e-Learning (ラインズドリル)を用いて学習をすること	1.0 時間

課題に対するフィードバックの方法

授業内で実施した小テスト等の解答解説を行う。これにより自己採点と復習を可能にする。

成績評価の方法・基準（方針）

各回の小テスト・課題等の達成度及び授業内試験により評価する。ただし、欠席回数が1/3を超える場合、授業内試験を受験することができない。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	各回の演習時の取組態度	3
授業外での評価	30	各回の演習課題の達成度	1,2
期末試験	50	授業内試験の得点	1,2,3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	2023 年度版文系学生のための SPI3 完全攻略問題集 尾籐健著、高橋書店、1,485 円(税込)、ISBN:978-4-471-50026-9
参考書	必要に応じて授業の中で紹介をする。
履修条件・他の科目との関連	欠席した場合は、その回の学習内容・課題等を担当教員に聞き、自習をしておく。
担当教員への連絡方法	・木村 陽一 you-kimura@oiu.jp

授業コード	10208901		
授業科目名	キャリアアップ基礎Ⅱ（言語）	実務家教員による授業	—
授業担当教員氏名	中村 昌子		
成績担当教員氏名	中村 昌子		
単位数	1 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

言語能力は、大学在学中はもちろん、将来的にすべての場面で必要とされる力である。特に情報が飛び交う現代では、情報を「読む」だけではなく、文脈を理解し活用し、自分の意見を組み立てることが求められる。そこで、この授業では、円滑なコミュニケーションの基礎となる「語句・文を適切に使う力」をベースに、「情報を活用する力」、「論理的に伝える力」を育成することを目的としている。

授業の形態は、講義及び演習を組み合わせたものである。授業の中に、「読む」「書く」「話す」活動を取り入れ進めていくので、主体的に取り組むことが重要となる。また、毎回課題を与えるので、期限までに必ず提出すること。

到達目標

- 1.SPI 出題レベルの漢字・語句の習得及び文章理解をもとに、言語を正しく活用することができる。
- 2.与えられた情報を整理し、相手に確実に伝える文章を作成することができる。
- 3.様々な方向からの課題設定に対し、文脈を理解し、自分の意見を論理的に文章で説明することができる。

授業計画

- 【第1回】 授業オリエンテーション
- 【第2回】 間違いやすい表現・読みやすい文の理解
- 【第3回】 口語文法（助詞の用法を中心に）の理解
- 【第4回】 熟語の成り立ち・二語の関係の理解
- 【第5回】 敬語表現の実践的活用
- 【第6回】 情報整理（情報を整理する必要性を体験的に学ぶ）
- 【第7回】 情報伝達（情報を確実に相手に伝える表現を学ぶ）
- 【第8回】 自己PRの作成
- 【第9回】 自分も相手も大切に自己表現を体験的に学ぶ
- 【第10回】 グループの意思一致に向けた表現について学ぶ
- 【第11回】 紛争解決（もめ事を解決する表現について学ぶ）
- 【第12回】 論理力を鍛える①（論理の基本フォーマットを学ぶ）
- 【第13回】 論理力を鍛える②（物語の文脈を論理的に読み解く）
- 【第14回】 論理力を鍛える③（自分の意見を論理的に伝える文章を作成する）
- 【第15回】 授業のまとめ（何を学んだのかを考える）

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

- 第1回
- 【事前】 シラバスを確認しておく。 0.5時間
 - 【事後】 同意語の課題に取り組む。 0.5時間
- 第2回
- 【事前】 同意語を復習しておく。 0.5時間
 - 【事後】 間違いやすい表現・読みやすい文とは何かを考えておく。対義語の課題に取り組む。 0.5時間
- 第3回
- 【事前】 対義語を復習しておく。 0.5時間
 - 【事後】 口語文法（特に助詞の用法）を正しく理解しておく。ことわざ・慣用句の課題に取り組む。 0.5時間
- 第4回
- 【事前】 ことわざ・慣用句を復習しておく。 0.5時間
 - 【事後】 熟語の成り立ち・二語の関係の課題に取り組む。 0.5時間
- 第5回
- 【事前】 熟語の成り立ち・二語の関係を復習しておく。 0.5時間
 - 【事後】 適切な敬語を使って、課題に沿った文章を作成する。 1時間
- 第6回
- 【事前】 敬語を的確に見分けられるようにしておく。 0.5時間
 - 【事後】 情報を整理することについて熟考する。整理されていない文①の課題に取り組む。 0.5時間
- 第7回
- 【事前】 身の回りにある、整理されていない情報を探しておく。 0.5時間
 - 【事後】 情報を正しく確実に相手に伝えることについて熟考する。整理されていない文②の課題に取り組む。0.5時間
- 第8回
- 【事前】 自己PRの内容を考えておく。 0.5時間
 - 【事後】 授業内容を踏まえて、自己PRを作成する。 1時間
- 第9回
- 【事前】 自分も相手も大切に自己表現について考えておく。0.5時間
 - 【事後】 葛藤場面での自己表現についての課題に取り組む。0.5時間
- 第10回
- 【事前】 グループで意見が一致しない場合の自己表現について考えておく。 0.5時間
 - 【事後】 グループ内での意思一致に向けた課題に取り組む。 0.5時間
- 第11回
- 【事前】 もめ事を解決に導く表現について考えておく。 0.5時間

【事後】 もめ事を解決する表現についての課題に取り組む。 0.5 時間
第 12 回
【事前】 第 9 回から第 11 回までの表現に共通するものを考えておく。 0.5 時間
【事後】 論理のフォーマットを使った課題①（画像から読み取る）に取り組む。 0.5 時間
第 13 回
【事前】 物語における布石について考えておく。 0.5 時間
【事後】 論理のフォーマットを使った課題②（文脈を読み取る）に取り組む。 0.5 時間
第 14 回
【事前】 論理的な文章が相手に与える影響について考えておく。 0.5 時間
【事後】 論理のフォーマットを使った課題③（課題に沿って自分の意見をまとめる）に取り組む。 1 時間
第 15 回
【事前】 これまでの授業内容を復習しておく。 0.5 時間
【事後】 レポート試験に向けて授業内容をまとめておく。 0.5 時間

課題に対するフィードバックの方法

- ・授業内で実施する発表やグループワークについては、適時指導助言を行う。
- ・各回の課題については、授業内で解説する。また、必要に応じて個別に添削指導を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示すとおり、授業内及び毎回の課題、期末試験の結果に基づき総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく、欠席が授業回数の 1/3 を超えた場合、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内で課す課題への取り組み (10 回を予定)	1,2
授業外での評価	60	毎回課す課題 (語句等 6 回、文章作成 8 回を予定)	1,3
期末試験	10	レポート試験	1,2,3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず資料を配付する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	本授業は、のちの就職筆記試験での基礎となる講座である。社会で通用する幅広い国語力を身につけたいという学生は、積極的に受講してほしい。
担当教員への連絡方法	・中村 昌子 ma-nakamura@oiu.jp

授業コード	10204951		
授業科目名	日本語表現Ⅰ(文章表現)	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	村田 菜穂子		
成績担当教員氏名	村田 菜穂子		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

日常の言語活動の中で、特に「書く」ことに重点をおき、その基本的な事項（書き言葉に適した語彙、日本語の正しい表記、用途に応じたさまざまな文章の書き方、レポートの基本構成など）と、大学生らしいレポートを書くための調べ方について学習する。

到達目標

1. 日本語を的確に理解することができる
2. 目的や場面に応じた効果的な日本語による文章表現ができる
3. レポートをまとめ上げる能力が身についている

授業計画

★この授業は、原則として、リアルタイム型遠隔授業になります。参加方法など、詳細は追って連絡します。

【第1回】ガイダンス（授業の概要と受講における注意点について）
内容：授業の概要・進め方・評価の方法および、事前事後の学習の重要性に関する説明

【第2回】語彙と文体～アカデミックワードと日常語～
内容：アカデミックな場面で使用する日本語と日常に使用している日本語について

【第3回】Eメールの書き方
内容：連絡事項が過不足なく伝えることができるEメールの書き方について

【第4回】句読点と見やすい表記
内容：分かりやすい日本語を書くポイントその1

【第5回】語順と接続表現
内容：分かりやすい日本語を書くポイントその2

【第6回】文献検索の方法
内容：(1)インターネット利用とその注意点 (2)図書館での調べ方

【第7回】情報を読み解く
内容：資料を読み解き、要点を押さえて要約を行う方法

【第8回】大学生に求められるレポートとは
内容：「レポートには何を書けばよいのか」について

【第9回】レポートの構成
内容：基本的なレポートの構成と執筆の手順について

【第10回】「わかりやすい文」を書く
内容：アウトラインとパラグラフライティングを書く

【第11回】先行研究・引用の方法
内容：内容：先行研究の利用法と引用の基本について

【第12回】注・参考文献の書き方
内容：基本的な参考文献の示し方について

【第13回】調査の概要および調査結果と考察
内容：調査内容の大筋の示し方と、入手したデータの適切な分析法と考察法について

【第14回】結論と今後の課題
内容：明らかになった事柄と明らかにし得なかった事柄を区別して示す方法について

【第15回】後期の総括
内容：後期授業のポイントの整理

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

※毎回の授業において、事前学習（1時間）と事後学習（1時間）が必要である。

- 【第1回】
- ①事前学習課題：本授業のシラバスを予め印刷してよく読み、シラバスを持参する。
 - ②事後学習課題：受講における留意点を再確認する。
- 【第2回】～【第5回】、および【第11回】～【第14回】
- ①事前学習課題：授業テーマに即した部分のトレーニングシートを読み、できる限りやっておく。
 - ②事後学習課題：授業で学んだポイントを整理する。
- 【第6回】
- ①事前学習課題：授業テーマに即した部分のトレーニングシートを読み、できる限りやっておく。
 - ②事後学習課題：(1)インターネットを使い、情報収集を行ってみる。(2)文献検索を行い、図書館で実際に本を借りてみる。
- 【第7回】～【第10回】
- ①事前学習課題：事前に配布されたプリントを熟読し、あらかじめ内容を押さえておくとともに練習問題を行っておくこと。
 - ②事後学習課題：授業で学んだポイントを整理する。
- 【第15回】
- ①事前学習課題：これまでに習ったこと振り返り、理解の不十分な点について、質問できるように準備しておく。
 - ②事後学習課題：後期授業のポイントをまとめる。

課題に対するフィードバックの方法

手本となる文章構成や表現方法を示す中で予め評価の目安を伝える一方、学生から提出された文章に対して良いところ・修正すべきところなどに対して、他の学生の文章の良いところ

を紹介するなど学生の文章表現を相互に学び合うことを通して理解を深める。			
成績評価の方法・基準（方針）			
以下に示す通り、授業内において課せる課題、授業外において課せる課題、また期末試験（レポート）の評価結果に基づいて総合的な判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。なお、正当な理由がない欠席5回以上、または授業内に課せる課題・授業外において課せる課題の提出率7割以上、またはレポート試験のいずれかが未提出の場合は評価対象外となり、「K」評価をする。			
成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	5	授業内に課せる課題（5）	1,2
授業外での評価	45	事前・事後の学習として課せる課題（45）	1,2
期末試験	50	レポート試験（50）	1,2,3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編/安部朋世・福嶋健伸・橋本修編著/三省堂/1995/
参考書	『21世紀のカレッジ・ジャパニーズ』深澤のぞみ他著 国書刊行会 『大学生のための論文・レポートの論理的な書き方』渡邊淳子著 研究社 『論文ワークブック』浜田麻里・平尾得子・由井紀久子著 くろしお出版 また、指定したテキストのほかに必要なに応じて補助教材のプリントを配布する。 このほか、参考書は適宜授業中に指示する。
履修条件・他の科目との関連	1. 「日本語表現Ⅰ」と「日本語表現Ⅱ」は、両方を受講することが望ましい。 2. 本授業は頻繁に課題が課せられるので積極的に取り組むこと。 注意：本授業は留学生に向けた日本語科目ではありません。
担当教員への連絡方法	・村田 菜穂子 nmurata@oiu.jp

授業コード	10205051		
授業科目名	日本語表現II (口頭表現)	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	村田 菜穂子		
成績担当教員氏名	村田 菜穂子		
単位数	1 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要			
より良いコミュニケーションを行うために、本授業では「話す」「聞く」に重点をおく中、さらに様々な表現技術を学び、効果的に表現できるよう総合的な学習と演習を行う。			
到達目標			
1. 日本語を的確に理解することができる 2. 目的や場面に応じた効果的な日本語による口頭表現ができる 3. プレゼンテーションをまとめ上げる能力が身についている			
授業計画			
★この授業は、原則として、リアルタイム型遠隔授業になります。参加方法など、詳細は追って連絡します。			
【第1回】 ガイダンス (授業の概要と受講における注意点について) 内容：授業の概要・進め方・評価の方法および、事前事後の学習の重要性に関する説明			
【第2回】 説明する 内容：漏れや重複がない説明の方法とは			
【第3回】 段取りを考えた連絡 内容：重要な連絡内容を不備なく確実に伝える文章とは			
【第4回】 メールで連絡する 内容：親しい友達以外に送るメールのルールとマナー			
【第5回】 データを集めて解釈する 内容：データを正しく集めて妥当な解釈をする方法とは			
【第6回】 インターネットを用いた調査 内容：インターネットを利用した情報収集の方法			
【第7回】 図書館の上手な利用方法 内容：図書館を利用した情報収集の方法			
【第8回】 プレゼンテーションを行う【1】 内容：プレゼンテーションを行うための事前準備とアウトラインの構成			
【第9回】 プレゼンテーションを行う【2】 内容：レジュメの基本構成方法			
【第10回】 レジュメの推敲 内容：プレゼンテーションを成功させるための効果的なレジュメの仕上げ			
【第11回】 口頭表現の基礎を押さえる 内容：聞き手が受け入れやすい上手な話し方とは			
【第12回】 プレゼンテーションの実践～演習1～ 内容：プレゼンテーションの実践を通してより良いプレゼンテーションの提言とレジュメの改良を助言する			
【第13回】 プレゼンテーションの実践～演習2～ 内容：プレゼンテーションを実践を通してより良いプレゼンテーションの提言とレジュメの改良を助言する			
【第14回】 プレゼンテーションの実践～演習3～ 内容：プレゼンテーションを実践を通してより良いプレゼンテーションの提言とレジュメの改良を助言する			
【第15回】 前期の総括			
事前事後の学習			
授業 (1回につき2時間として計算) と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。			
※毎回の授業において、事前学習 (1時間) と事後学習 (1時間) が必要である。			
【第1回】 ①事前学習課題：本授業のシラバスを予め印刷してよく読み、シラバスを持参する。 ②事後学習課題：本授業で注意すべき点を整理し、ノートにまとめておく。			
【第2回】～【第8回】、【第11回】 ①事前学習課題：授業テーマに即した部分のテキストを読み、トレーニングシートのできる部分をやっておく。 ②事後学習課題：授業で学んだポイントを整理するとともに、指示された課題を行う。			
【第9回】【第10回】 ①事前学習課題：配布されたプリントをよく読み、プレゼンテーションに関する基礎知識を押さえておく。 ②事後学習課題：授業で学んだポイントを整理するとともに、指示された課題を行う。			
【第12回】～【第14回】 ①事前学習課題：プレゼンテーションの実践に向けて、徹底的にリハーサルを準備する。 ②事後学習課題：授業中のアドバイスを参考にして、プレゼンテーションとレジュメを改良する。			
【第15回】 ①事前学習課題：これまでに習ったこと振り返り、理解の不十分な点について、質問できるように準備しておく。 ②事後学習課題：前期授業のポイントをまとめる。			
課題に対するフィードバックの方法			
提出されたレジュメに対して良いところ・修正すべきところを授業の中で取り上げて受講生と相互に学び合うことに加え、授業中の発表に対して予め評価の目安を伝え、発表後それぞれにコメントする。			

成績評価の方法・基準（方針）			
以下に示す通り、授業内において課せる課題とプレゼンテーション、授業外において課せる課題、また期末試験（レポート）の評価結果に基づいて総合的な判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。なお、正当な理由がない欠席5回以上、または授業内において実施するプレゼンテーションが未実施の場合は評価対象外となり、「K」評価をする。			
成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内の課題(5)、プレゼンテーションの実践（45）	1,2,3
授業外での評価	30	事前・事後の学習として課せる課題（30）	1,3
期末試験	20	レポート試験（20）	1,3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	大学生のための日本語表現トレーニング 実践編/福嶋健伸・橋本修・安部朋世編著/三省堂/1995/
参考書	『論文ワークブック』 浜田麻里・平尾得子・由井紀久子著 くろしお出版 『21世紀のカレッジ・ジャパニーズ』 深澤のぞみ他著 国書刊行会 また、指定したテキストのほか必要に応じて補助教材のプリントを配布する。 このほか、参考書は適宜授業中に指示する。
履修条件・他の科目との関連	1. 「日本語表現Ⅰ」と「日本語表現Ⅱ」は、両方を受講することが望ましい。 2. 本授業は頻繁に課題が課せられるので積極的に取り組むこと。 注意：本授業は留学生に向けた日本語科目ではありません。
担当教員への連絡方法	・村田 菜穂子 nmurata@oiu.jp

授業コード	10209151		
授業科目名	ビジネスプレゼンテーション	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	木村 陽一		
成績担当教員氏名	木村 陽一		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

プレゼンテーションは、ビジネスや研究活動など、さまざまな場面で必要不可欠なものとなっている。特にビジネスにおいては、プレゼンテーションの印象が商談の成否を左右することも少なくない。本講義では、初めてプレゼンテーションを実施する人や、より効果的なプレゼンテーションを実施したいという人を対象として、プレゼンテーションの企画から実施において必要となる知識やスキルの習得を目指す。説得力のあるプレゼンテーションを行うために、「論理的なストーリー展開」「訴求力の高い表現方法」「効果的な話し方と発表技術」を身につけることを目標とする。プレゼンテーションの基本的な考え方や技術について理解し、さまざまなシーンを想定したプレゼンテーションの実践練習を行う。

到達目標

1. プレゼンテーション用のアプリケーション「power point」の操作はできる。
2. プレゼンテーションのため、身振り、声の出し方を考えることができる。
3. 自分の考えを聴き手に伝えるためには、どのような流れで構築するのか考えることができる。
4. 共感呼ぶスライドを作るためには、どのように考えていくのか説明できる。

授業計画

- 【第1回】プレゼンテーションの基礎知識・プレゼンテーションの形式、流れなどについて解説する。プレゼンテーションを行う際の機材や、アプリケーションについて解説する。グループワークを行い、発表する。
- 【第2回】プレゼンテーションの目的と情報収集：プレゼンテーションの3つの目的を解説する。情報の収集と分析方法について解説する。ケーススタディをもとにグループで改善点を考える。
- 【第3回】論理的なストーリー展開を考える①：提案型と問題解決型、2種類のプレゼンテーションについて解説する。ストーリーを組み立てる際の注意点について解説する。グループワークを行い、発表する。
- 【第4回】論理的なストーリー展開を考える②：本論の組み立て方として代表的な例を複数挙げ、解説する。・プレゼンテーション設計シートの作成方法について解説する。ケーススタディをもとにグループで改善点を考える。
- 【第5回】小テスト①：第1回から第4回までの出題範囲で、小テストを行う。
- 【第6回】訴求力の高い資料を作成する①：プレゼンテーション資料づくりの10大原則について解説する。箇条書きの階層化について解説する。グループワークを行い、発表する。
- 【第7回】訴求力の高い資料を作成する②：表による表現方法について解説する。・グラフによる表現方法について解説する。・グループワークを行い、発表する。
- 【第8回】訴求力の高い資料を作成する③：画像による表現方法について解説する。図解による表現方法について解説する。グループワークを行い、発表する。
- 【第9回】訴求力の高い資料を作成する④：資料をカラーにする意味、色の三属性について解説する。・色調や配色が与える印象、色づかいの工夫について解説する。
- 【第10回】小テスト②：第6回から第9回までの出題範囲で、小テストを行う。
- 【第11回】発表技術を磨く①：シナリオの作成手順、伝えるための技術について解説する。・パーソナリティの影響、聞き手を引きつける話し方について解説する。グループワークを行い、発表する。
- 【第12回】発表技術を磨く②：聞き手の理解力と発表者の表現力について解説する。効果的な視線の配り方とリハーサルの仕方について解説する。ケーススタディをもとにグループで改善点を考える。
- 【第13回】説得力のあるプレゼンテーションを実施する：配布資料作成時の注意点について解説する。プレゼンテーション当日の進行手順について解説する。ケーススタディをもとにグループで改善点を考える。
- 【第14回】プレゼンテーションの実践①：第14回と第15回は、2回に分けてプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションを聴いている側は、発表内容について評価をする。
- 【第15回】プレゼンテーションの実践②：前回に続き、まだ発表をしていない学生のプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションを聴いている側は、発表内容について評価をする。

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

- 【第1回】
- 【事前】：テキストに目を通しておくこと。1.0時間
- 【事後】：授業内容を振り返り、復習しておくこと。0.5時間
- 【第2回】
- 【事前】：テキストに目を通しておくこと。1.0時間
- 【事後】：授業内容を振り返り、復習しておくこと。0.5時間
- 【第3回】
- 【事前】：テキストに目を通しておくこと。0.5時間
- 【事後】：授業内容を振り返り、復習しておくこと。1.0時間
- 【第4回】
- 【事前】：テキストに目を通しておくこと。0.5時間
- 【事後】：授業内容を振り返り、復習しておくこと。1.0時間
- 【第5回】
- 【事前】：テキストに目を通しておくこと。0.5時間
- 【事後】：授業内容を振り返り、復習しておくこと。1.0時間
- 【第6回】
- 【事前】：テキストに目を通しておくこと。0.5時間
- 【事後】：授業内容を振り返り、復習しておくこと。1.0時間
- 【第7回】
- 【事前】：テキストに目を通しておくこと。0.5時間
- 【事後】：授業内容を振り返り、復習しておくこと。1.0時間
- 【第8回】
- 【事前】：テキストに目を通しておくこと。0.5時間

【事後】：授業内容を振り返り、復習しておくこと 1.0時間
【第9回】
【事前】：テキストに目を通しておくこと。0.5時間
【事後】：授業内容を振り返り、復習しておくこと。1.0時間
【第10回】
【事前】：テキストに目を通しておくこと。0.5時間
【事後】：授業内容を振り返り、復習しておくこと。1.0時間
【第11回】
【事前】：テキストに目を通しておくこと。0.5時間
【事後】：授業内容を振り返り、復習しておくこと 1.0時間。
【第12回】
【事前】：テキストに目を通しておくこと。0.5時間
【事後】：授業内容を振り返り、復習しておくこと。1.0時間
【第13回】
【事前】：テキストに目を通しておくこと。0.5時間
【事後】：授業内容を振り返り、復習しておくこと。1.0時間
【第14回】
【事前】：テキストに目を通しておくこと。プレゼンを準備しておくこと。0.5時間
【事後】：授業内容を振り返り、復習しておくこと。1.0時間
【第15回】
【事前】：テキストに目を通しておくこと。プレゼンを準備しておくこと。0.5時間
【事後】：授業内容を振り返り、復習しておくこと 1.0時間

課題に対するフィードバックの方法

小テストの答えは採点して返却する。解答解説は答案返却時に行う。

成績評価の方法・基準（方針）

以下の評価結果に基づき総合判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

1. 授業期間中に実施される小テスト、プレゼンテーション課題
2. 期末試験

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	59	授業内で課される課題、小テスト(2回)・プレゼンテーション	1,2,3,4
授業外での評価	0		
期末試験	41	授業期間終了後に実施される(レポート作成)	1,2,3,4
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	よくわかる自信がつくプレゼンテーション FOM 出版 1,980円(税込) ISBN978-4-86510-342-7
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	この授業では、プレゼンテーションの考え方、技術を学び、そのスキルを高めたいという学生を対象にしている。 グループ内での内容の策定時に、既にプレゼンテーションは始まっている。 人前で話すことへの苦手意識を払拭したい学生も大歓迎である。グループワークや発表が多いので、お互いに意見交換したり、協力しあったりして、積極的な姿勢で取り組んでほしい。
担当教員への連絡方法	・木村 陽一 you-kimura@oiu.jp

授業コード	10209201		
授業科目名	インターンシップⅠ	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	横山 誠		
成績担当教員氏名	横山 誠		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期、2021 年度後期

授業の目的・概要

本科目は、実際の企業・団体などの仕事の現場をフィールドとして、主に夏休み期間を中心に、80 時間（10 日）以上の就業体験（以下、インターンシップ）を行う実習科目である。実際の仕事の現場での実践を通じて、関わる業界や仕事の理解、自身の得意・不得意、向き・不向き、強み・弱みなどの自己理解を深め、経験からの気づきや学びを、その後の学生生活や将来に向けた自律的なキャリアデザインに活かしていくことを目的とする。通年開講の集中科目である本科目は、年度当初の履修登録はなく、①すべての研修への参加と授業課題の期限内提出、②すべてのエントリープロセスへの参加とエントリー課題の期限内提出、③本科目で紹介する受け入れ先での80 時間以上のインターンシップと実習中課題の期限内提出、これらの単位認定要件を充たした者を成績評価の対象とする。本科目は、授業として行うインターンシップであり、受け入れ先も本科目の目的に賛同した企業・団体が前提となるため、就職活動に直接結びつく可能性のある企業主導型のインターンシップではない（企業・団体に採用意図はない）ということと、本科目の目的を理解した上で受講することを求める。

到達目標

- 1.インターンシップ先企業・団体の産業・業界・職種、事業や仕事の特徴を他者にわかりやすく説明することができる
- 2.自分の立場と周囲からの期待を理解し、役割を果たし、周囲に貢献することができる
- 3.目標を掲げ、目標達成に向けて行動し、行動を内省・省察し、行動をより良く変えていくことができる
- 4.経験に意味を見出し、自分の将来や学生生活にどのように活かしていくか説明することができる

授業計画

本科目は、対面での通常授業を予定しているが、受講生の人数や教室確保の状況、あるいは、授業内容の特性を考慮し、新型コロナウイルスの感染予防として、遠隔授業として行う場合がある。遠隔授業になる際は、授業内容を考慮し、リアルタイム型か動画配信かを通知する。また、実際のインターンシップに関しても、社会情勢や企業・団体の受け入れ状況により、実施できない場合がある。しかし、実施が実現できることを前提に授業を進める。授業のスケジュールや開講日時などの詳細は、4 月に開催する正課インターンシップ科目説明会にて案内をするので、必ず参加すること。

【事前研修1】 オリエンテーション（授業：90 分）

授業目的・内容・プログラム・スケジュール・エントリープロセス・単位認定要件・受講条件を理解する

【事前研修2】 目的目標設定（授業：90 分）

インターンシップの参加目的を明確にし、インターンシップ参加で果たしたい目標を設定する

【事前研修3】 エントリーシートの作成（授業：90 分）

エントリーシートの書き方を学び、内容を深めるための視点を理解する

【事前研修4】 ビジネスマナー①（授業：90 分）

ビジネスで使用する E メールでの連絡とコミュニケーションについて、その目的と具体的方法について理解する

【事前研修5】 学内選考準備（授業：90 分）

学内選考として行う教員面談を受けるための準備を行う

【エントリープロセス(1)】 学内選考（連絡調整：30 分・面談：60 分 ※場合により複数回実施する可能性がある）

学内選考として、学科担当教員との個人面談面談を受ける

【事前研修6】 個人票の作成（授業：90 分）

学内選考結果より、決定したエントリー先へ提出する個人票の作成と内容を深めるための視点を理解する

【事前研修7】 ビジネスマナー②（授業：90 分）

エントリー先への事前連絡・訪問・面接の目的と具体的方法、訪問マナーについて理解する

【事前研修8】 事前訪問・受け入れ先選考準備（授業：90 分）

受け入れ先企業・団体を訪問し、選考を受けるための準備を行う

【エントリープロセス(2)】 事前訪問・受け入れ先選考（連絡調整：30 分・面接：60 分 ※場合により複数回実施）

受け入れ先選考として企業・団体を訪問し、面接を受ける

【事前研修9】 キックオフ研修（授業：90 分）

インターンシップスタートにあたっての注意事項、実習中の心構え、実習中課題について理解する

【インターンシップ実施】（主に夏休み期間を中心に、80 時間以上のインターンシップを実施）

各受入先のプログラムでインターンシップを行い、毎日、振り返りの上、活動日誌を作成し、必要な課題に取り組む

【中間研修】 中間振り返り（授業：90 分）

インターンシップ中に、教員の訪問、もしくは集合研修にて中間地点での振り返りを行う

【事後研修1】 経験の振り返り（授業：90 分）

インターンシップ終了後、経験を振り返り、今後のアクションプランを言語化する

【事後研修2】 修了報告会（授業：90 分）

インターンシップでの、経験と今後のアクションプランに関するプレゼンテーションを行う

事前事後の学習

授業（1 回につき 2 時間として計算）と事前事後のあわせて 1 単位あたり 4 5 時間が必要です。

事後、毎回の授業で指示のある授業後の課題に最低 1 時間取り組み、期限内に提出すること。

また、エントリープロセスの中で、エントリーシートや個人票など、課題の再修正や面談を繰り返す可能性がある。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で全体に向け課題に対しての振り返りとフィードバックを行うとともに、必要に応じて、個人に対し、課題の添削・コメントを、Google クラスルーム・OIU メール、または、直接口頭で行う。

成績評価の方法・基準（方針）

【単位認定要件】

- ①すべての研修への参加と授業課題の期限内提出
- ②すべてのエントリープロセスへの参加とエントリー課題の期限内提出

③本科目で紹介する受け入れ先での 80 時間以上のインターンシップと実習中課題の期限内提出

【成績評価】

すべての単位認定要件を充たした者を成績評価対象とし、提出課題と評価表を評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	リフレクションシート (20%) 授業課題・エントリー課題 (20%)	1,2,3,4
授業外での評価	30	活動日誌 (20%) 中間振り返りシート (10%)	1,2,3,4
期末試験	10	修了報告書 (最終のレポート課題として提出) (10%)	1,2,3,4
定期試験	0		
その他	20	受入先評価 (10%) 授業・課題・実習に対する取り組み姿勢 (10%)	1,2,3,4

テキスト	授業内で配布する
参考書	必要に応じて、授業内で紹介する
履修条件・他の科目との関連	年度当初の履修登録はない。 受講希望者は、4月に実施する正課インターンシップ科目説明会に必ず参加すること。 説明会案内は、受講対象者全員に対し、4月初旬に UNIPA とキャリアサポートセンターHP にて案内する。
担当教員への連絡方法	・横山 誠 m-yoko@oiu.jp

授業コード	10209251		
授業科目名	インターンシップⅠ	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	山本 幸一		
成績担当教員氏名	山本 幸一		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期、2021 年度後期

授業の目的・概要			
<p>本科目は、実際の企業・団体などの仕事の現場をフィールドとして、主に夏休み期間を中心に、80 時間（10 日）以上の就業体験（以下、インターンシップ）を行う実習科目である。実際の仕事の現場での実践を通じて、関わる業界や仕事の理解、自身の得意・不得意、向き・不向き、強み・弱みなどの自己理解を深め、経験からの気づきや学びを、その後の学生生活や将来に向けた自律的なキャリアデザインに活かしていくことを目的とする。通年開講の集中科目である本科目は、年度当初の履修登録はなく、①すべての研修への参加と授業課題の期限内提出、②すべてのエントリープロセスへの参加とエントリー課題の期限内提出、③本科目で紹介する受け入れ先での 80 時間以上のインターンシップと実習中課題の期限内提出、これらの単位認定要件を充たした者を成績評価の対象とする。本科目は、授業として行うインターンシップであり、受け入れ先も本科目の目的に賛同した企業・団体が前提となるため、就職活動に直接結びつく可能性のある企業主導型のインターンシップではない（企業・団体に採用意図はない）ということと、本科目の目的を理解した上で受講することを求める。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. インターンシップ先企業・団体の産業・業界・職種、事業や仕事の特徴を他者にわかりやすく説明することができる 2. 自分の立場と周囲からの期待を理解し、役割を果たし、周囲に貢献することができる 3. 目標を掲げ、目標達成に向けて行動し、行動を内省・省察し、行動をより良く変えていくことができる 4. 経験に意味を見出し、自分の将来や学生生活にどのように活かしていくか説明することができる 			
授業計画			
<p>本科目は、対面での通常授業を予定しているが、受講生の人数や教室確保の状況、あるいは、授業内容の特性を考慮し、新型コロナウイルスの感染予防として、遠隔授業として行う場合がある。遠隔授業になる際は、授業内容を考慮し、リアルタイム型か動画配信かを通知する。また、実際のインターンシップに関しても、社会情勢や企業・団体の受け入れ状況により、実施できない場合がある。しかし、実施が実現できることを前提に授業を進める。授業のスケジュールや開講日時などの詳細は、4 月に開催する正課インターンシップ科目説明会にて案内をするので、必ず参加すること。</p>			
<p>【事前研修1】 オリエンテーション（授業：90 分） 授業目的・内容・プログラム・スケジュール・エントリープロセス・単位認定要件・受講条件を理解する</p>			
<p>【事前研修2】 目的目標設定（授業：90 分） インターンシップの参加目的を明確にし、インターンシップ参加で果たしたい目標を設定する</p>			
<p>【事前研修3】 エントリーシートの作成（授業：90 分） エントリーシートの書き方を学び、内容を深めるための視点を理解する</p>			
<p>【事前研修4】 ビジネスマナー①（授業：90 分） ビジネスで使用する E メールでの連絡とコミュニケーションについて、その目的と具体的方法について理解する</p>			
<p>【事前研修5】 学内選考準備（授業：90 分） 学内選考として行う教員面談を受けるための準備を行う</p>			
<p>【エントリープロセス(1)】 学内選考（連絡調整：30 分・面談：60 分 ※場合により複数回実施する可能性がある） 学内選考として、学科担当教員との個人面談面談を受ける</p>			
<p>【事前研修6】 個人票の作成（授業：90 分） 学内選考結果より、決定したエントリー先へ提出する個人票の作成と内容を深めるための視点を理解する</p>			
<p>【事前研修7】 ビジネスマナー②（授業：90 分） エントリー先への事前連絡・訪問・面接の目的と具体的方法、訪問マナーについて理解する</p>			
<p>【事前研修8】 事前訪問・受け入れ先選考準備（授業：90 分） 受け入れ先企業・団体を訪問し、選考を受けるための準備を行う</p>			
<p>【エントリープロセス(2)】 事前訪問・受け入れ先選考（連絡調整：30 分・面接：60 分 ※場合により複数回実施） 受け入れ先選考として企業・団体を訪問し、面接を受ける</p>			
<p>【事前研修9】 キックオフ研修（授業：90 分） インターンシップスタートにあたっての注意事項、実習中の心構え、実習中課題について理解する</p>			
<p>【インターンシップ実施】（主に夏休み期間を中心に、80 時間以上のインターンシップを実施） 各受入先のプログラムでインターンシップを行い、毎日、振り返りの上、活動日誌を作成し、必要な課題に取り組む</p>			
<p>【中間研修】 中間振り返り（授業：90 分） インターンシップ中に、教員の訪問、もしくは集合研修にて中間地点での振り返りを行う</p>			
<p>【事後研修1】 経験の振り返り（授業：90 分） インターンシップ終了後、経験を振り返り、今後のアクションプランを言語化する</p>			
<p>【事後研修2】 修了報告会（授業：90 分） インターンシップでの、経験と今後のアクションプランに関するプレゼンテーションを行う</p>			
事前事後の学習			
<p>授業（1 回につき 2 時間として計算）と事前事後のあわせて 1 単位あたり 4 5 時間が必要です。</p>			
<p>事後、毎回の授業で指示のある授業後の課題に最低 1 時間取り組み、期限内に提出すること。 また、エントリープロセスの中で、エントリーシートや個人票など、課題の再修正や面談を繰り返す可能性がある。</p>			
課題に対するフィードバックの方法			
<p>毎回の授業で全体に向け課題に対しての振り返りとフィードバックを行うとともに、必要に応じて、個人に対し、課題の添削・コメントを、Google クラスルーム・OIU メール、または、直接口頭で行う。</p>			
成績評価の方法・基準（方針）			
<p>【単位認定要件】 ①すべての研修への参加と授業課題の期限内提出 ②すべてのエントリープロセスへの参加とエントリー課題の期限内提出</p>			

③本科目で紹介する受け入れ先での 80 時間以上のインターンシップと実習中課題の期限内提出

【成績評価】

すべての単位認定要件を充たした者を成績評価対象とし、提出課題と評価表を評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	リフレクションシート (20%) 授業課題・エントリー課題 (20%)	1,2,3,4
授業外での評価	30	活動日誌 (20%) 中間振り返りシート (10%)	1,2,3,4
期末試験	10	修了報告書 (最終のレポート課題として提出) (10%)	1,2,3,4
定期試験	0		
その他	20	受入先評価 (10%) 授業・課題・実習に対する取り組み姿勢 (10%)	1,2,3,4

テキスト	授業内で配布する
参考書	必要に応じて、授業内で紹介する
履修条件・他の科目との関連	年度当初の履修登録はない。 受講希望者は、4月に実施する正課インターンシップ科目説明会に必ず参加すること。 説明会案内は、受講対象者全員に対し、4月初旬に UNIPA とキャリアサポートセンターHP にて案内する。
担当教員への連絡方法	・山本 幸一 k-yamamoto@oiu.jp

授業コード	10209301		
授業科目名	インターンシップII	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	横山 誠		
成績担当教員氏名	横山 誠		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期、2021 年度後期

授業の目的・概要

本科目は、実際の企業・団体などの仕事の現場をフィールドとして、主に夏休み期間を中心に、80 時間（10 日）以上の就業体験（以下、インターンシップ）を行う実習科目である。実際の仕事の現場での実践を通じて、関わる業界や仕事の理解、自身の得意・不得意、向き・不向き、強み・弱みなどの自己理解を深め、経験からの気づきや学びを、その後の学生生活や将来に向けた自律的なキャリアデザインに活かしていくことを目的とする。通年開講の集中科目である本科目は、年度当初の履修登録はなく、①すべての研修への参加と授業課題の期限内提出、②すべてのエントリープロセスへの参加とエントリー課題の期限内提出、③本科目で紹介する受け入れ先での80 時間以上のインターンシップと実習中課題の期限内提出、これらの単位認定要件を充たした者を成績評価の対象とする。本科目は、授業として行うインターンシップであり、受け入れ先も本科目の目的に賛同した企業・団体が前提となるため、就職活動に直接結びつく可能性のある企業主導型のインターンシップではない（企業・団体に採用意図はない）ということと、本科目の目的を理解した上で受講することを求める。

到達目標

1. インターンシップ先企業・団体の産業・業界・職種、事業や仕事の特徴を他者にわかりやすく説明することができる
2. 自分の立場と周囲からの期待を理解し、役割を果たし、周囲に貢献することができる
3. 目標を掲げ、目標達成に向けて行動し、行動を内省・省察し、行動をより良く変えていくことができる
4. 経験に意味を見出し、自分の将来や学生生活にどのように活かしていくか説明することができる

授業計画

本科目は、対面での通常授業を予定しているが、受講生の人数や教室確保の状況、あるいは、授業内容の特性を考慮し、新型コロナウイルスの感染予防として、遠隔授業として行う場合がある。遠隔授業になる際は、授業内容を考慮し、リアルタイム型か動画配信かを通知する。また、実際のインターンシップに関しても、社会情勢や企業・団体の受け入れ状況により、実施できない場合がある。しかし、実施が実現できることを前提に授業を進める。授業のスケジュールや開講日時などの詳細は、4 月に開催する正課インターンシップ科目説明会にて案内をするので、必ず参加すること。

- 【事前研修1】 オリエンテーション（授業：90 分）**
 授業目的・内容・プログラム・スケジュール・エントリープロセス・単位認定要件・受講条件を理解する
- 【事前研修2】 目的目標設定（授業：90 分）**
 インターンシップの参加目的を明確にし、インターンシップ参加で果たしたい目標を設定する
- 【事前研修3】 エントリーシートの作成（授業：90 分）**
 エントリーシートの書き方を学び、内容を深めるための視点を理解する
- 【事前研修4】 ビジネスマナー①（授業：90 分）**
 ビジネスで使用する E メールでの連絡とコミュニケーションについて、その目的と具体的方法について理解する
- 【事前研修5】 学内選考準備（授業：90 分）**
 学内選考として行う教員面談を受けるための準備を行う
- 【エントリープロセス(1)】 学内選考（連絡調整：30 分・面談：60 分 ※場合により複数回実施する可能性がある）**
 学内選考として、学科担当教員との個人面談面談を受ける
- 【事前研修6】 個人票の作成（授業：90 分）**
 学内選考結果より、決定したエントリー先へ提出する個人票の作成と内容を深めるための視点を理解する
- 【事前研修7】 ビジネスマナー②（授業：90 分）**
 エントリー先への事前連絡・訪問・面接の目的と具体的方法、訪問マナーについて理解する
- 【事前研修8】 事前訪問・受け入れ先選考準備（授業：90 分）**
 受け入れ先企業・団体を訪問し、選考を受けるための準備を行う
- 【エントリープロセス(2)】 事前訪問・受け入れ先選考（連絡調整：30 分・面接：60 分 ※場合により複数回実施）**
 受け入れ先選考として企業・団体を訪問し、面接を受ける
- 【事前研修9】 キックオフ研修（授業：90 分）**
 インターンシップスタートにあたっての注意事項、実習中の心構え、実習中課題について理解する
- 【インターンシップ実施】**（主に夏休み期間を中心に、80 時間以上のインターンシップを実施）
 各受入先のプログラムでインターンシップを行い、毎日、振り返りの上、活動日誌を作成し、必要な課題に取り組む
- 【中間研修】 中間振り返り（授業：90 分）**
 インターンシップ中に、教員の訪問、もしくは集合研修にて中間地点での振り返りを行う
- 【事後研修1】 経験の振り返り（授業：90 分）**
 インターンシップ終了後、経験を振り返り、今後のアクションプランを言語化する
- 【事後研修2】 修了報告会（授業：90 分）**
 インターンシップでの、経験と今後のアクションプランに関するプレゼンテーションを行う

事前事後の学習

授業（1 回につき 2 時間として計算）と事前事後のあわせて 1 単位あたり 4 5 時間が必要です。

事後、毎回の授業で指示のある授業後の課題に最低 1 時間取り組み、期限内に提出すること。
 また、エントリープロセスの中で、エントリーシートや個人票など、課題の再修正や面談を繰り返す可能性がある。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で全体に向け課題に対しての振り返りとフィードバックを行うとともに、必要に応じて、個人に対し、課題の添削・コメントを、Google クラスルーム・OIU メール、または、直接口頭で行う。

成績評価の方法・基準（方針）

- 【単位認定要件】**
- ①すべての研修への参加と授業課題の期限内提出
 - ②すべてのエントリープロセスへの参加とエントリー課題の期限内提出

③本科目で紹介する受け入れ先での 80 時間以上のインターンシップと実習中課題の期限内提出

【成績評価】

すべての単位認定要件を充たした者を成績評価対象とし、提出課題と評価表を評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	リフレクションシート (20%) 授業課題・エントリー課題 (20%)	1,2,3,4
授業外での評価	30	活動日誌 (20%) 中間振り返りシート (10%)	1,2,3,4
期末試験	10	修了報告書 (最終のレポート課題として提出) (10%)	1,2,3,4
定期試験	0		
その他	20	受入先評価 (10%) 授業・課題・実習に対する取り組み姿勢 (10%)	1,2,3,4

テキスト	授業内で配布する
参考書	必要に応じて、授業内で紹介する
履修条件・他の科目との関連	年度当初の履修登録はない。 受講希望者は、4月に実施する正課インターンシップ科目説明会に必ず参加すること。 説明会案内は、受講対象者全員に対し、4月初旬に UNIPA とキャリアサポートセンターHP にて案内する。
担当教員への連絡方法	・横山 誠 m-yoko@oiu.jp

授業コード	10209302		
授業科目名	インターンシップII	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	山本 幸一		
成績担当教員氏名	山本 幸一		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期、2021 年度後期

授業の目的・概要			
<p>本科目は、実際の企業・団体などの仕事の現場をフィールドとして、主に夏休み期間を中心に、80 時間（10 日）以上の就業体験（以下、インターンシップ）を行う実習科目である。実際の仕事の現場での実践を通じて、関わる業界や仕事の理解、自身の得意・不得意、向き・不向き、強み・弱みなどの自己理解を深め、経験からの気づきや学びを、その後の学生生活や将来に向けた自律的なキャリアデザインに活かしていくことを目的とする。通年開講の集中科目である本科目は、年度当初の履修登録はなく、①すべての研修への参加と授業課題の期限内提出、②すべてのエントリープロセスへの参加とエントリー課題の期限内提出、③本科目で紹介する受け入れ先での80 時間以上のインターンシップと実習中課題の期限内提出、これらの単位認定要件を充たした者を成績評価の対象とする。本科目は、授業として行うインターンシップであり、受け入れ先も本科目の目的に賛同した企業・団体が前提となるため、就職活動に直接結びつく可能性のある企業主導型のインターンシップではない（企業・団体に採用意図はない）ということと、本科目の目的を理解した上で受講することを求める。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1.インターンシップ先企業・団体の産業・業界・職種、事業や仕事の特徴を他者にわかりやすく説明することができる 2.自分の立場と周囲からの期待を理解し、役割を果たし、周囲に貢献することができる 3.目標を掲げ、目標達成に向けて行動し、行動を内省・省察し、行動をより良く変えていくことができる 4.経験に意味を見出し、自分の将来や学生生活にどのように活かしていくか説明することができる 			
授業計画			
<p>本科目は、対面での通常授業を予定しているが、受講生の人数や教室確保の状況、あるいは、授業内容の特性を考慮し、新型コロナウイルスの感染予防として、遠隔授業として行う場合がある。遠隔授業になる際は、授業内容を考慮し、リアルタイム型か動画配信かを通知する。また、実際のインターンシップに関しても、社会情勢や企業・団体の受け入れ状況により、実施できない場合がある。しかし、実施が実現できることを前提に授業を進める。授業のスケジュールや開講日時などの詳細は、4 月に開催する正課インターンシップ科目説明会にて案内をするので、必ず参加すること。</p>			
<p>【事前研修1】 オリエンテーション（授業：90 分） 授業目的・内容・プログラム・スケジュール・エントリープロセス・単位認定要件・受講条件を理解する</p> <p>【事前研修2】 目的目標設定（授業：90 分） インターンシップの参加目的を明確にし、インターンシップ参加で果たしたい目標を設定する</p> <p>【事前研修3】 エントリーシートの作成（授業：90 分） エントリーシートの書き方を学び、内容を深めるための視点を理解する</p> <p>【事前研修4】 ビジネスマナー①（授業：90 分） ビジネスで使用する E メールでの連絡とコミュニケーションについて、その目的と具体的方法について理解する</p> <p>【事前研修5】 学内選考準備（授業：90 分） 学内選考として行う教員面談を受けるための準備を行う</p> <p>【エントリープロセス(1)】 学内選考（連絡調整：30 分・面談：60 分 ※場合により複数回実施する可能性がある） 学内選考として、学科担当教員との個人面談面談を受ける</p> <p>【事前研修6】 個人票の作成（授業：90 分） 学内選考結果より、決定したエントリー先へ提出する個人票の作成と内容を深めるための視点を理解する</p> <p>【事前研修7】 ビジネスマナー②（授業：90 分） エントリー先への事前連絡・訪問・面接の目的と具体的方法、訪問マナーについて理解する</p> <p>【事前研修8】 事前訪問・受け入れ先選考準備（授業：90 分） 受け入れ先企業・団体を訪問し、選考を受けるための準備を行う</p> <p>【エントリープロセス(2)】 事前訪問・受け入れ先選考（連絡調整：30 分・面接：60 分 ※場合により複数回実施） 受け入れ先選考として企業・団体を訪問し、面接を受ける</p> <p>【事前研修9】 キックオフ研修（授業：90 分） インターンシップスタートにあたっての注意事項、実習中の心構え、実習中課題について理解する</p> <p>【インターンシップ実施】（主に夏休み期間を中心に、80 時間以上のインターンシップを実施） 各受入先のプログラムでインターンシップを行い、毎日、振り返りの上、活動日誌を作成し、必要な課題に取り組む</p> <p>【中間研修】 中間振り返り（授業：90 分） インターンシップ中に、教員の訪問、もしくは集合研修にて中間地点での振り返りを行う</p> <p>【事後研修1】 経験の振り返り（授業：90 分） インターンシップ終了後、経験を振り返り、今後のアクションプランを言語化する</p> <p>【事後研修2】 修了報告会（授業：90 分） インターンシップでの、経験と今後のアクションプランに関するプレゼンテーションを行う</p>			
事前事後の学習			
<p>授業（1 回につき 2 時間として計算）と事前事後のあわせて 1 単位あたり 4 5 時間が必要です。</p> <p>事後、毎回の授業で指示のある授業後の課題に最低 1 時間取り組み、期限内に提出すること。 また、エントリープロセスの中で、エントリーシートや個人票など、課題の再修正や面談を繰り返す可能性がある。</p>			
課題に対するフィードバックの方法			
<p>毎回の授業で全体に向け課題に対しての振り返りとフィードバックを行うとともに、必要に応じて、個人に対し、課題の添削・コメントを、Google クラスルーム・OIU メール、または、直接口頭で行う。</p>			
成績評価の方法・基準（方針）			
<p>【単位認定要件】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①すべての研修への参加と授業課題の期限内提出 ②すべてのエントリープロセスへの参加とエントリー課題の期限内提出 			

③本科目で紹介する受け入れ先での 80 時間以上のインターンシップと実習中課題の期限内提出

【成績評価】

すべての単位認定要件を充たした者を成績評価対象とし、提出課題と評価表を評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	リフレクションシート (20%) 授業課題・エントリー課題 (20%)	1,2,3,4
授業外での評価	30	活動日誌 (20%) 中間振り返りシート (10%)	1,2,3,4
期末試験	10	修了報告書 (最終のレポート課題として提出) (10%)	1,2,3,4
定期試験	0		
その他	20	受入先評価 (10%) 授業・課題・実習に対する取り組み姿勢 (10%)	1,2,3,4

テキスト	授業内で配布する
参考書	必要に応じて、授業内で紹介する
履修条件・他の科目との関連	年度当初の履修登録はない。 受講希望者は、4月に実施する正課インターンシップ科目説明会に必ず参加すること。 説明会案内は、受講対象者全員に対し、4月初旬に UNIPA とキャリアサポートセンターHP にて案内する。
担当教員への連絡方法	・山本 幸一 k-yamamoto@oiu.jp

授業コード	10205151		
授業科目名	ボランティア論	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	佐藤 誠之		
成績担当教員氏名	佐藤 誠之		
単位数	2 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要			
<p>本講では、サービスマーケティングの実際を理解し、社会におけるサービスの価値やその方法論を経験的に学ぶものである。具体的には、講義・映像・フィールドワークなどを通して、地域社会の課題を探り、自らその課題や問題に触れ、それらの解決に対して組織が担うの役割や必要性を理解する。その為に組織のマネジメントに携わっているスタッフや現場で活躍しているスタッフを招聘し具体的な事例を知りより理解を深めていく。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実際の地域社会で起こっている諸問題や課題について説明できる。 2. 現場での課題等に対して、自身の関わりがどのように貢献できたかを説明できる。 3. 実践での取り組みの中から自分の方向性を確かめ、自分の能力に気づき、課題について説明できる。 			
授業計画			
<p>★この授業は、遠隔授業となります。原則として、リアルタイム型授業で実施予定です。 参加方法などの詳細は、追って案内します。</p> <p>【第1回】 テーマ：オリエンテーション 内容・方法：授業の内容や評価について</p> <p>【第2回】 テーマ：サービスマーケティングとは 内容・方法：用語の定義などを理解する</p> <p>【第3回】 テーマ：本学におけるサービスマーケティング① 内容・方法：事例紹介①</p> <p>【第4回】 テーマ：本学におけるサービスマーケティング② 内容・方法：事例紹介②</p> <p>【第5回】 テーマ：本学におけるサービスマーケティング③ 内容・方法：事例紹介③</p> <p>【第6回】 テーマ：サービスマーケティングの実践に向けた取り組み 内容・方法：その他の展開例等紹介</p> <p>【第7回】 テーマ：サービスマーケティング実践に向けて 内容・方法：事前指導の重要性を理解する</p> <p>【第8回】 テーマ：フィールドワーク① 内容・方法：現場でのやり取りのイメージ①</p> <p>【第9回】 テーマ：フィールドワーク② 内容・方法：現場でのやり取りのイメージ②</p> <p>【第10回】 テーマ：フィールドワーク③ 内容・方法：現場でのやり取りのイメージ③</p> <p>【第11回】 テーマ：フィールドワーク④ 内容・方法：現場でのやり取りのイメージ④</p> <p>【第12回】 テーマ：フィールドワークふりかえり 内容・方法：事後レポートの書き方を知る</p> <p>【第13回】 テーマ：フィールドワーク報告会準備 内容・方法：報告会での学びについて</p> <p>【第14回】 テーマ：フィールドワーク事後報告会 内容・方法：各自発表（〇分間スピーチ）</p> <p>【第15回】 テーマ：今後の取り組みと学修デザインの確認 内容・方法：今後の履修とフィールドワーク等の手続き</p>			
事前事後の学習			
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。			
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。			

授業内容に関する情報収集など自分なりのイメージを持つ。(各回2時間)

講義の中で説明した内容をまとめ、情報検索を行うなどして知識を深める。(各回2時間)

具体的な事前・事後学習内容は第1回のオリエンテーションにて説明を行うが、授業終了後のレポート作成と事前課題への取り組みを上手く活用すること。

レポート、課題以外にもインターネット等を活用して情報収集に努めること。

特に自分が興味関心を持つ領域へのボランティアについては、積極的に参加することを推奨する。

課題に対するフィードバックの方法

レポートについては返却を行い、ボランティアの計画段階から手続きについては対面指導で行う。事後報告、事後レポート等、はポートフォリオとしてまとめて提出し、評価の後に返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

原則、欠欠以外で5回以上欠席した場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

授業内での積極的な取り組みやふりかえりシートを評価する

口頭発表や最終課題レポートと授業内でのレポート、事前課題、配布資料などファイリングしたものを提出し、それを評価する。

※フィールドワークでの取り組みができない場合は、同等のとレポートや発表により評価する。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内での積極的な取り組みやふりかえりシートを評価する	1,2,3
授業外での評価	40	課題レポートと授業内でのレポート、事前課題、配布資料などファイリングしたものを提出し、それを評価する。	1,2,3
期末試験	30	口頭試問(発表および質疑応答)にて評価する	1,2,3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	「サービスマーケティング入門」 発行：あさひ高速印刷出版部 ※学内書店にて購入して下さい。
参考書	適宜紹介する
履修条件・他の科目との関連	様々なボランティアを経験できるよう自らでアンテナを張り情報を収集すること。 サービスマーケティングⅠ・Ⅱの関連科目の為、意欲的な受講と積極的な取り組みを求める。
担当教員への連絡方法	・佐藤 誠之 ma-sato@oiu.jp

授業コード	10205201		
授業科目名	ボランティア活動	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	横山 誠/古田 雄一		
成績担当教員氏名	横山 誠		
単位数	2 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期、2021 年度後期

授業の目的・概要

本科目は、地域・社会貢献活動（ボランティア活動＝サービス）での経験と、関連した学習（ラーニング）を通して、視野を広げ、学びを深めることを目指す授業であり、事前研修・ボランティア活動・事後研修から構成される。事前研修では、ボランティアに関する基礎的理解や心構えの確認に加え、各自が参加する活動の背景や関連する問題について調べ、理解を深める。その後、各自で一定時間以上のボランティア活動を実施するとともに、日誌の記入や担当教員とのやり取り、中間振り返り会等を通じて学びや内省を深める。事後研修では、各々の活動の成果や学びを振り返り、活動報告を行う。

到達目標

1. ボランティアやサービスラーニングに関する基礎的事項について説明できる。
 2. 自分が行うボランティア活動の社会的背景や関連する問題について説明できる。
 3. ボランティア活動での学びを、その後にどのように活かしていくか説明できる。
 4. 自分がどのように地域や社会に参加・貢献していきたいか説明できる。
- * そのほか、各自が設定した具体的な目標の達成に向けて、内省や自己評価をしながら自律的・主体的に活動を進めていくことが期待される。

授業計画

- 第1回 事前研修1（ガイダンス、自己紹介/関係づくり、ボランティア/サービスラーニングとは何か）
 第2回 事前研修2（活動の背景や関連する問題の調査）
 第3回 事前研修3（活動の背景や活動を通して学びたいことを発表する）
 第4回 事前研修4（ボランティア参加にあたっての心構え、手続きなど）
 第5回～第8回 ボランティア活動の実施（前半） *活動日誌に記入しながら学びや内省を深める
 第9回 中間振り返り会
 第10回～第12回 ボランティア活動の実施（後半） *活動日誌に記入しながら学びや内省を深める
 第13回 事後研修1（活動の振り返り）
 第14回 事後研修2（活動報告の準備）
 第15回 まとめと総括

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

ボランティア活動前は、事前研修の内容に沿って、活動に関する調査や予復習等の課題を課す（計16時間）。ボランティア活動中は、活動の準備や、活動日誌の記入を通じた振り返りに取り組む。ボランティア活動後は、活動報告の発表準備やまとめのレポートの作成を課す（計12時間）。

課題に対するフィードバックの方法

ボランティアの計画段階から実施中の報告、事後レポート等、対面指導やその他個別指導を中心に行います。事前学習、事後学習もレポートだけでなく、自らの言葉でしっかりと評価できるように心がけて下さい。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	事前研修・事後研修等での課題や発表 (20)	1、2、3、4
授業外での評価	50	ボランティア活動への取り組み状況 (30)、活動日誌 (20)	1、2、3、4
期末試験	30	口頭試問 (15)、総括レポート (15)	1、2、3、4
定期試験	0		
その他	0		

テキスト テキストを使用しない。適宜プリント等を配布する。

参考書 授業内で適宜紹介する。

履修条件・他の科目との関連

- ・授業開始に先立ち、説明会を実施する（4月後半を予定）。履修希望者は必ず参加すること。実施方法（対面/遠隔）や日時・場所・参加方法等については、UNIPAの掲示等を確認すること。
- ・一定の責任感をもって参加することが求められる。活動はもちろん、事前研修・事後研修等においても、無断欠席をした場合や、受講態度が著しく不適切な場合は、単位を認めないことがある。
- ・質問や相談があれば、担当教員宛にメールで連絡するか、研究室に入室すること。
横山 誠 (m-yoko@oiu.jp) 研究室：1号館523教室

担当教員への連絡方法

- ・古田 雄一 y-furuta@oiu.jp
- ・横山 誠 m-yoko@oiu.jp

授業コード	16200102		
授業科目名	経営学入門	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	何 成業		
成績担当教員氏名	何 成業		
単位数	2 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要			
<p>これから経営学や経済学、マーケティング、会計学、ファイナンスの学習を始める方を対象に、企業経営に対する興味を持ってもらうこと、そして、今後の学習を進めていくにあたって最低限必要な基礎知識の習得を学習のねらいとして、楽しい講義にしたいと思います。「経営学」の入門というより、広く「経営」全般に対する入門講座だと考えてください。</p> <p>初回に授業の進め方や成績評価の方法、受講に際しての注意など、基本的なガイダンスを行います。次に、ビデオ鑑賞の時間を設けて、楽しみながらビジネスの世界について感覚的に理解してもらいます。その後は、企業経営の基礎知識についてわかりやすく解説した独自教材を使用して学習を進めていきます。また、毎回、出席確認も兼ねて演習問題をしてもらいます。毎回の配布プリントを大切に保管し、復習やレポート対策に使用してください。</p>			
到達目標			
<p>1.経営学についての基礎的な用語を読み書きし</p> <p>2.学問の体系を理解する、授業レポートの提出</p> <p>3.課題レポートを完成する</p>			
授業計画			
<p>この授業は、遠隔授業となる。原則として、リアルタイム型授業で実施予定である。</p> <p>参加方法などの詳細は、追って案内する。</p> <p>授業計画1 ガイダンス 成績評価について説明を受ける。</p> <p>授業計画2 授業テーマ 経営と家計、企業と経営 配布資料の課題について調べてくる。 内容・方法等 経済活動とは何か、家計と企業の関係、自由主義経済制度、所有と経営の分離、について学ぶ。</p> <p>授業計画3 授業テーマ 経営と家計、企業と経営 内容・方法等 経済活動とは何か、家計と企業の関係、自由主義経済制度、所有と経営の分離、について学ぶ。</p> <p>授業計画3 授業テーマ 政府と経営、経営と情報 内容・方法等 政府の役割、公企業、経営資源、POSシステムについて学ぶ。</p> <p>授業計画4 授業テーマ ビデオ鑑賞① 内容・方法等 ビデオの映像を通して、経営の専門用語や経営戦略のことを理解する。</p> <p>授業計画5 授業テーマ ビデオ鑑賞② 内容・方法等 ビデオの映像を通して、経営の専門用語や経営戦略のことを理解する。</p> <p>授業計画6 授業テーマ 産業構造の変化～サービス産業 内容・方法等 第1次産業、第2次産業、第3次産業について学ぶ。</p> <p>授業計画7 授業テーマ サービス業の経営 内容・方法等 サービスの特質、サービス業の現状、高齢少子化問題について学ぶ。</p> <p>授業計画8 授業テーマ 組織の形態と経営管理 内容・方法等 取締役会の役割、職能別組織、事業部制組織について学ぶ。</p> <p>授業計画9 授業テーマ 経営計画と意思決定と財務管理 内容・方法等 計画、非定型的意思決定、マネジメント・サイクルについて学ぶ。</p> <p>授業計画10 授業テーマ 組織と経営戦略 内容・方法等 組織の成立条件、代表的な組織観、経営戦略について学ぶ。</p> <p>授業計画11 授業テーマ 労務政策とコミュニケーション 内容・方法等 労働力管理、人間観の変遷、管理原則、コミュニケーションの原則について学ぶ。</p> <p>授業計画12 授業テーマ 日本的経営の特質 内容・方法等 稟議制度、終身雇用制度、年功賃金制について学ぶ。</p> <p>授業計画13 授業テーマ 企業の環境適応と中小企業の経営 内容・方法等 消費者志向、中小企業者の定義、産業集積、下請けについて学ぶ。</p> <p>授業計画14</p>			

<p>授業テーマ 多国籍企業 内容・方法等 海外進出、多国籍企業、経済のグローバリゼーションについて学ぶ。 授業計画 15 授業テーマ 企業経営の課題（企業の社会的責任） 内容・方法等 企業の社会的責任、フィランソロピー、リストラクチャリングについて学ぶ。 期末試験（該当授業終講後）：レポート提出</p>
<p>事前事後の学習</p>
<p>授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。</p>
<p>各回、事前学修は2時間、事後学修は2時間を目安とする</p> <p>【第1回】 ①事前学修課題：経営学の基礎知識についてわかりやすく解説した独自教材を事前に準備してください。 ②事後学修課題：毎回の配布プリントを大切に保管し、復習やレポート対策に使用してください。</p> <p>【第2回】 ①事前学修課題：経営学の基礎知識についてわかりやすく解説した独自教材を事前に準備してください。 ②事後学修課題：毎回の配布プリントを大切に保管し、復習やレポート対策に使用してください。</p> <p>【第3回】 ①事前学修課題：経営学の基礎知識についてわかりやすく解説した独自教材を事前に準備してください。 ②事後学修課題：毎回の配布プリントを大切に保管し、復習やレポート対策に使用してください。</p> <p>【第4回】 ①事前学修課題：経営学の基礎知識についてわかりやすく解説した独自教材を事前に準備してください。 ②事後学修課題：毎回の配布プリントを大切に保管し、復習やレポート対策に使用してください。</p> <p>【第5回】 ①事前学修課題：経営学の基礎知識についてわかりやすく解説した独自教材を事前に準備してください。 ②事後学修課題：毎回の配布プリントを大切に保管し、復習やレポート対策に使用してください。</p> <p>【第6回】 ①事前学修課題：経営学の基礎知識についてわかりやすく解説した独自教材を事前に準備してください。 ②事後学修課題：毎回の配布プリントを大切に保管し、復習やレポート対策に使用してください。</p> <p>【第7回】 ①事前学修課題：経営学の基礎知識についてわかりやすく解説した独自教材を事前に準備してください。 ②事後学修課題：毎回の配布プリントを大切に保管し、復習やレポート対策に使用してください。</p> <p>【第8回】 ①事前学修課題：経営学の基礎知識についてわかりやすく解説した独自教材を事前に準備してください。 ②事後学修課題：毎回の配布プリントを大切に保管し、復習やレポート対策に使用してください。</p> <p>【第9回】 ①事前学修課題：経営学の基礎知識についてわかりやすく解説した独自教材を事前に準備してください。 ②事後学修課題：毎回の配布プリントを大切に保管し、復習やレポート対策に使用してください。</p> <p>【第10回】 ①事前学修課題：経営学の基礎知識についてわかりやすく解説した独自教材を事前に準備してください。 ②事後学修課題：毎回の配布プリントを大切に保管し、復習やレポート対策に使用してください。</p> <p>【第11回】 ①事前学修課題：経営学の基礎知識についてわかりやすく解説した独自教材を事前に準備してください。 ②事後学修課題：毎回の配布プリントを大切に保管し、復習やレポート対策に使用してください。</p> <p>【第12回】 ①事前学修課題：経営学の基礎知識についてわかりやすく解説した独自教材を事前に準備してください。 ②事後学修課題：毎回の配布プリントを大切に保管し、復習やレポート対策に使用してください。</p> <p>【第13回】 ①事前学修課題：経営学の基礎知識についてわかりやすく解説した独自教材を事前に準備してください。 ②事後学修課題：毎回の配布プリントを大切に保管し、復習やレポート対策に使用してください。</p> <p>【第14回】 ①事前学修課題：経営学の基礎知識についてわかりやすく解説した独自教材を事前に準備してください。 ②事後学修課題：毎回の配布プリントを大切に保管し、復習やレポート対策に使用してください。</p> <p>【第15回】 ①事前学修課題：経営学の基礎知識についてわかりやすく解説した独自教材を事前に準備してください。 ②事後学修課題：毎回の配布プリントを大切に保管し、復習やレポート対策に使用してください。</p>
<p>課題に対するフィードバックの方法</p>
<p>ディスカッション、報告レポートの発表と提出 Google Classroom で課題の提示、解答の回収、フィードバックまでを行うこともできますのでご利用ください。</p>
<p>成績評価の方法・基準（方針）</p>
<p>以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。 また、正当な理由なく5回以上欠席した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。 授業内評価：毎回行う演習問題、レポートを提出 30% 期末試験：課題レポートの完成、提出 60% その他：授業に関する質問・発言、取り組み姿勢 10%</p>

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業演習レポートの完成(30)	1,2
授業外での評価	0		
期末試験	60	課題レポートの完成、提出 (60)	3
定期試験	0		
その他	10	授業に関する質問・発言(5)、取り組み姿勢(5)	2

テキスト	プリントを配布する
参考書	稲葉元吉他著『経営 新訂版』実教出版株式会社、2004年。
履修条件・他の科目との関連	社会で活躍できる人材を養成するという基本方針から、受講のマナーを重視して、遅刻・欠席や途中退室、私語、携帯電話・音楽プレイヤーの使用、その他の迷惑行為等には厳しくペナルティーを科します。ルールをきちんと守って、正しく受講してください。 毎回の配布プリントを大切に保管し、復習やレポート対策に使用してください。
担当教員への連絡方法	・何 成業 he@oiu.jp

授業コード	16200201		
授業科目名	経済学入門	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	宇野 伸孝		
成績担当教員氏名	宇野 伸孝		
単位数	2 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

「コンビニでパンを買う」たったそれだけの行動にも、様々な経済的要素が含まれている。そのパンをなぜ選んだのか。値段がお手頃、メーカーの信頼度、以前食べて美味しかった、テレビで紹介されていた等々。そもそもお金の出所は、お小遣いなのかバイト代なのか。支払いは現金が電子マネーか。もちろん消費税も払う必要があるし、買ったパンがどのようにして作られたかまで考えるとときりがない。

また、景気の悪い日本しか知らない諸君も、かつてはこの国にも高度成長期や、バブルではあれ80年代後半の国全体が活気に満ち溢れていた時代があったという事は知っているだろう。では、なぜ景気が良くなったり悪くなったりするのか？そもそも景気とは何なのか？

この講義では、いわゆる「経済学」の基礎的な考え方を説明する。それはつまり、モノとカネの動きを捉え、人と人、人と社会、社会と社会の相互依存関係を理論的に明らかにすることである。ごくごく身近な問題から国や世界レベルまで、さらに時間的にも過去・現在・未来と広範囲に渡るが、各回の練習問題を解いていくことで理解を深められるだろう。

到達目標

1. 経済の基本的な仕組みを説明できる
2. 経済学の視点から物事を判断できる
3. 現実の経済動向について基礎的な分析ができる
4. 現実の経済が包摂する様々な問題点について議論できる

授業計画

- 【第1回】ガイダンス
- 【第2回】市場とは？（その仕組みと役割を理解する）
- 【第3回】ミクロとマクロの経済学（経済理論を大別する2つの違いを定義する）
- 【第4回】ミクロ編1：家計の経済行動（家計＝消費者の経済学的考え方と行動を解説する）
- 【第5回】ミクロ編2：企業の経済行動（企業＝生産者の経済学的考え方と行動を解説する）
- 【第6回】ミクロ編3：ゲーム理論（幅広い分野で応用されるゲーム理論の基礎を学ぶ）
- 【第7回】ミクロ編4：市場の失敗（市場の仕組みが働かないケースを紹介する）
- 【第8回】ミクロ編5：情報の非対称性（情報の偏りによって起こる問題とその克服法を考察する）
- 【第9回】ミクロ編まとめ
- 【第10回】マクロ編1：GDP 統計（GDP とは何かを再確認し、GDP 関連のデータを整理する）
- 【第11回】マクロ編2：GDP の決定理論（GDP が決定する仕組みを理論モデルで解明する）
- 【第12回】マクロ編3：経済政策（景気対策としての財政・金融政策の効果を議論する）
- 【第13回】マクロ編4：景気変動と循環（主に基礎的な内容のみ取り上げる）
- 【第14回】マクロ編5：国際経済（外国為替相場、貿易、資本移動などを説明する）
- 【第15回】マクロ編まとめ

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

第1回

- 【事前】シラバスを確認する（1.0時間）
- 【事後】身近な経済活動をまとめてみる（1.0時間）

第2回

- 【事前】配布したレジュメを読んで予習問題を解く（1.5時間）
- 【事後】提出した課題の自己採点やノートの整理をする（2.5時間）

第3回

- 【事前】配布したレジュメを読んで予習問題を解く（1.5時間）
- 【事後】提出した課題の自己採点やノートの整理をする（2.5時間）

第4回

- 【事前】配布したレジュメを読んで予習問題を解く（1.5時間）
- 【事後】提出した課題の自己採点やノートの整理をする（2.5時間）

第5回

- 【事前】配布したレジュメを読んで予習問題を解く（1.5時間）
- 【事後】提出した課題の自己採点やノートの整理をする（2.5時間）

第6回

- 【事前】配布したレジュメを読んで予習問題を解く（1.5時間）
- 【事後】提出した課題の自己採点やノートの整理をする（2.5時間）

第7回

- 【事前】配布したレジュメを読んで予習問題を解く（1.5時間）
- 【事後】提出した課題の自己採点やノートの整理をする（2.5時間）

第8回

- 【事前】配布したレジュメを読んで予習問題を解く（1.5時間）
- 【事後】提出した課題の自己採点やノートの整理をする（2.5時間）

第9回

- 【事前】ミクロ編のレジュメやノートを読んでおく（3.0時間）
- 【事後】まとめ問題の自己採点やノートを整理し直す（2.0時間）

第10回

- 【事前】配布したレジュメを読んで予習問題を解く（1.5時間）

【事後】 提出した課題の自己採点やノートの整理をする (2.5 時間)
第 11 回
【事前】 配布したレジュメを読んで予習問題を解く (1.5 時間)
【事後】 提出した課題の自己採点やノートの整理をする (2.5 時間)
第 12 回
【事前】 配布したレジュメを読んで予習問題を解く (1.5 時間)
【事後】 提出した課題の自己採点やノートの整理をする (2.5 時間)
第 13 回
【事前】 配布したレジュメを読んで予習問題を解く (1.5 時間)
【事後】 提出した課題の自己採点やノートの整理をする (2.5 時間)
第 14 回
【事前】 配布したレジュメを読んで予習問題を解く (1.5 時間)
【事後】 提出した課題の自己採点やノートの整理をする (2.5 時間)
第 15 回
【事前】 マクロ編のレジュメやノートを読んでおく (3.0 時間)
【事後】 まとめ問題の見直しやノートを整理し直す (2.0 時間)

課題に対するフィードバックの方法

授業始めに前回分の課題を解説する。

成績評価の方法・基準 (方針)

以下に示すとおり、各回の課題と期末試験 (レポート) の結果を総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業内課題の提出状況及び得点 (60%)	1、2、3、4
授業外での評価	0		
期末試験	40	全授業終了後に実施するレポート試験 (40%)	1、3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。その代わりに毎回レジュメを配布する。
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	この授業の後に続けて履修することが望ましい科目として、ミクロ経済学やマクロ経済学、金融論、国際経済学、ゲーム理論などがある。
担当教員への連絡方法	・宇野 伸孝 n-uno@oiu.jp

授業コード	16200302		
授業科目名	会計学入門	実務家教員による授業	○
授業担当教員氏名	佐々木 一雄		
成績担当教員氏名	佐々木 一雄		
単位数	2 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

会計学入門は、企業会計の基礎を理解し、会計情報をビジネスに活用する能力を養成することを目的とする。企業会計は、複雑なビジネス活動を一定のルールに従って、簡潔に表現し、評価する技術である。そして、会計情報は、ビジネス活動を写し出す「ビジネス言語」とも言われている。

この授業では、初年次教育として取引や会計用語のような企業会計に関する基本的な考え方を学び、簡単な財務諸表を作成・分析する技法について講義・演習を行う。これにより、ビジネスにおける共通言語である会計を理解でき、それをビジネスに活用できる能力や視座を獲得することを目標とする。

授業は講義形式で行うが、企業の財務諸表を使った演習を通じて、理解を深める。また、ノートパソコンと G Suites などの IT ツールを活用することで、効率的かつ効果的な学びができるように工夫する。数字に対する苦手意識のある学生は、積極的に数字と向き合うことで苦手意識を払拭してほしい。日頃から企業経営に関心を持ち、会計と企業活動を関連づけて理解してほしい。なお、適宜、課題を与えるので、積極的に取り組むことを期待する。

担当教員が長年に亘り、企業において「経理・財務」「経営管理」の仕事に従事してきた経験と、研修所で「会計・ファイナンス」の講師を務めた経験をもとに、実務家教員として会計学の理論を実際のビジネスと関連付けながら講義を展開する。

到達目標

1. 企業会計の目的、意義を説明することができる。
2. 企業会計の考え方、期間損益計算の方法、認識・測定の方法を説明することができる。
3. 財務諸表を企業の経営と関連づけて説明することができる。
4. 財務諸表を使って簡易な経営分析を行うことができる。
5. 企業の原価構造を理解し、CVP 分析を行うことができる。

授業計画

※授業計画については変更する可能性もある。

【第1回】 イントロダクション

内容：授業概要、会計の機能、会計を学ぶ意義、授業の進め方や評価方法などについて説明する。

【第2回】 会計制度の仕組み

内容：財務会計と管理会計、株式会社の特徴、株式会社を取り巻く法律、財務諸表の種類と機能について解説する。

【第3回】 複式簿記の仕組み

内容：会社の取引の流れと複式簿記、簿記の流れ、簿記の8要素について解説する。

【第4回】 貸借対照表 (B/S) と損益計算書 (P/L)

内容：貸借対照表 (B/S) と損益計算書 (P/L) の仕組みと読み方、B/S と P/L の関係について解説する。

【第5回】 流動資産

内容：資産の分類、流動資産の種類と配列、流動資産と会社の営業活動との関係について解説する。

【第6回】 固定資産

内容：固定資産の種類、固定資産と投資活動との関係、減価償却の意義と手続きについて解説する。

【第7回】 純資産と負債

内容：資金の調達方法、自己資本と他人資本、負債の種類、純資産の種類について解説する。

【第8回】 収益と費用

内容：収益の認識および測定基準、費用の認識および測定基準、費用収益対応の原則について解説する。

【第9回】 キャッシュ・フロー計算書

内容：発生主義と現金主義の比較、キャッシュ・フロー計算書の構成と分析方法について解説する。

【第10回】 安全性分析

内容：企業の財務健全性と短期的支払能力を示す指標の見方について解説する。

【第11回】 収益性分析

内容：企業の収益性、すなわち儲ける力を示す指標について解説する。

【第12回】 原価管理

内容：原価の分類と原価計算、新しいコストマネジメントの手法について解説する。

【第13回】 管理会計 (1) CVP 分析

内容：費用の固定分解、損益分岐点分析の手法について解説し、具体的数値を用いて演習を行う。

【第14回】 管理会計 (2) 経営管理の仕組み

内容：予算管理のシステム、バランススコアカード (BSC) と戦略マップについて解説する。

【第15回】 まとめ

内容：講義を通じてのまとめを行う。また、配布する財務諸表を用いて、安全性と収益性の分析を行う。

事前事後の学習

授業 (1回につき2時間として計算) と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

【第1回】

事前学習課題：シラバスを熟読し、授業構成を理解する。 1時間

事後学習課題：講義内容を参照しながら自分のノートを作成し、まとめる。 2時間

【第2回】 から 【第14回】

事前学習課題：授業範囲を予習し、用語の意味を調べておく。 1.5時間

事後学習課題：講義内容を参照しながら自分のノートを作成し、まとめる。 2.5時間

【第15回】

事前学習課題：これまで学んだことをしっかりと復習し、質問したいことを列挙する。 2時間

事後学習課題：講義内容を振り返り、定期試験に備える。 3時間

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックは、授業やUNIPA等の中で行う。			
成績評価の方法・基準（方針）			
以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。 正当な理由のない欠席4回以上の場合、評価の対象とせず、「K」評価とする。			
成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	小テスト（15）、リフレクションシート(15)	1, 2
授業外での評価	20	レポート（計2回）(20)	2, 3
期末試験	0		
定期試験	50	筆記試験（50）	2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、プリントを配布する。
参考書	朴大栄、小沢義昭、山田伊知郎編著（2018）『新版 まなびの入門会計学（第3版）』 中央経済社 ISBN978-4-502-25581-6
履修条件・他の科目との関連	電卓必須（できれば、12桁の電卓）。携帯電話の使用は不可。 講義内で配布するプリントは、復習やレポート作成に役立つため、大切に保管してください。
担当教員への連絡方法	・佐々木 一雄 k-sasaki@oiu.jp

授業コード	16200401		
授業科目名	マーケティング入門	実務家教員による授業	○
授業担当教員氏名	山本 誠一		
成績担当教員氏名	山本 誠一		
単位数	2 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

マーケティングは、企業が顧客とのつながりを形成し顧客との関係を長く深く保つために重要性を増してきている。また、時代の変化とともに多様な側面を持って進化してきている。マーケティングは、企業の基本的機能の一つであるが、本講義では、マーケティング論の歴史から現代社会におけるマーケティング・コンセプトとは何か、そして企業活動のなかでどのように活用するか、基本的な理論を具体的事例とともに学ぶ。

担当教員が長年に亘り、企業において「マーケティング」業務に従事した実務経験をもとに、「マーケティング」に関する理論と実践への応用を関連付けながら講義を展開する。

到達目標

1. 企業活動においてマーケティングがなぜ重要なのかについての説明ができる。
2. マーケティングの基礎的・理論的概念についての解釈および定義についての説明ができる。
3. 経営学における問題提起（テーマ）に対して、マーケティングの知識を用いて自説を構築することができる。

授業計画

※授業計画については、場合によっては変更する可能性もある。

【第1回】オリエンテーション

シラバスの説明、レポートの意義・書き方について学ぶ

【第2回】マーケティングとは

マーケティングの目的とは何か、企業活動の中でどのような意味をもつのかについて学ぶ

【第3回】事例研究その1（消費者の困りごとに応える）

製薬会社・保険会社の実践事例で学ぶ

【第4回】市場機会とは

「市場機会」を発見する切り口、政治・経済・社会・技術の関わり、顧客ニーズのとらえかた、製品ライフサイクルについて学ぶ

【第5回】事例研究その2（新しい市場を探る）

ゲーム機メーカーの実践事例で学ぶ

【第6回】ターゲットとは

セグメンテーションとターゲティング、セグメンテーションの切り口、ターゲット決定の諸要因を学ぶ

【第7回】事例研究その3（ターゲット顧客を定める）

電機メーカーの実践事例で学ぶ

【第8回】ポジショニングとは

ポジショニングとは、ポジショニングの目的、ポジショニング・マップによる設計図などを学ぶ

【第9回】事例研究その4（自社製品の特徴を示す）

飲料、クルマメーカーの実践事例で学ぶ

【第10回】マーケティングミックスとは①

製品 Product を構成する要素、製品コンセプトの表現、価格 Price を構成する要素、価格体系とは

【第11回】事例研究その5（価格をつける）

さまざまな消費財の価格戦略を実践事例で学ぶ

【第12回】マーケティングミックスとは②

流通を構成する要素、プロモーションを構成する要素、マーケティング戦略との整合性

【第13回】事例研究その6（ブランドの価値を伝える）

食品メーカーの実践事例で学ぶ

【第14回】実践演習

授業を通じた学びをベースに、自らのマーケティング戦略を立案する

【第15回】まとめ

今まで学んできたことについての総まとめと期末試験の準備を行う。

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

【第1回】講義概要などの説明を受けて、マーケティングを学ぶ意義について理解を深める。

【第2回】マーケティングの目的について、身近な企業事例を調べて理解を深める。

【第3回】授業で示された事例を復習するとともに、関連する企業事例を調べて理解を深める。

【第4回】市場機会について、身近な企業事例を調べて理解を深める。

【第5回】授業で示された事例を復習するとともに、関連する企業事例を調べて理解を深める。

【第6回】ターゲティングについて、身近な企業事例を調べて理解を深める。

【第7回】授業で示された事例を復習するとともに、関連する企業事例を調べて理解を深める。

【第8回】ポジショニングについて、身近な企業事例を調べて理解を深める。

【第9回】授業で示された事例を復習するとともに、関連する企業事例を調べて理解を深める。

【第10回】商品・価格について、身近な企業事例を調べて理解を深める。

【第11回】授業で示された事例を復習するとともに、関連する企業事例を調べて理解を深める。

【第12回】流通・コミュニケーションについて、身近な企業事例を調べて理解を深める。

【第13回】授業で示された事例を復習するとともに、関連する企業事例を調べて理解を深める。

【第14回】演習内容を復習するとともに、関連性がある企業の事例を調べて理解を深める。

【第15回】マーケティング入門の授業を振り返り、期末試験の準備を行う。

事前事後の学習時間：第1回は事後学習4.0時間、第2回～第14回は各回事前1.5時間、事後2.5時間、第15回は事前学習4.0時間

課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業時に、皆さんのレポートに対するコメントをします。			
成績評価の方法・基準（方針）			
以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。 ※成績評価方法・基準については、場合によっては変更する可能性もある。 ※※授業時間内の発言は回数をカウントし、授業参画の積極性を評価する。 ※※※確認テストは各授業ごとに示し、授業時間外に取り組むものとする。			
成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	授業時間内の発言回数・内容（20）	1,2
授業外での評価	40	各回の確認テスト（30）、課題レポート（10）の成績	1,2
期末試験	0		
定期試験	40	筆記試験（40）	2,3
その他	0		

テキスト	テキストは指定しない。
参考書	マーケティングや企業経営に関する記事や資料を必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	授業では自分の意見の発表が求められるので、学修に対する積極的な態度が必要です。
担当教員への連絡方法	・山本 誠一 n-yamamoto@oiu.jp

授業コード	16200501		
授業科目名	法学入門	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	雨夜 真規子		
成績担当教員氏名	雨夜 真規子		
単位数	2 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

私たちの日常生活は常に法と関わっています。誰にとっても、生まれた瞬間から親子や親族という法的な関係が始まっており、社会には法が常にあります。従って、私たちは生きていく上で法的なものの考え方、つまり法的思考力を身につけておく必要があります。

そこで本講義では、私たちの日常生活の様々な場面に、どのような法律がどのように影響を及ぼすのかという観点から、具体的なケースについて考えるとともに知識を習得していきます。とくにこれから皆さんの多くが経験するであろう結婚や出産、就職、様々な契約、相続等を取り上げ、実践的な内容を学びます。

到達目標

- 様々な法律を学ぶことで、日常生活のあらゆる場面について法律を適用して説明することができる。
- 法的思考力を身につけて、社会のあらゆる問題の本質について、論理的に考えた上で説明することができる。

授業計画

※この授業は、遠隔授業となります。原則として、リアルタイム型授業で実施予定です。

参加方法などの詳細は、追って案内します。

- ガイダンス・法的思考とは
- 家族－親子関係・子の養育・結婚・離婚
- 所有①－所有権とは
- 所有②－売買契約とそれに伴うトラブル
- 相続・原始取得・空き家問題
- 刑事事件－刑事訴訟法
- 民事事件－民事訴訟法と民法 709 条
- その他の事件－製造物責任法・表現の自由と他人の名誉
- 職業選択の自由と居住・移転の自由－不動産登記
- マンションを買う・借りる－区分所有権・賃貸借契約
- 貧困問題－居住・女性を中心に
- 株式会社－株主・株式・会社法
- 働く①－労働基準法・セクハラ・パワハラ・外国人労働者
- 働く②－労働保険・社会保険
- 振り返り・まとめ（※履修登録者数によりグループ発表になる可能性あり）

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

事前学習では、シラバス記載の各回のキーワードに該当する部分のテキストを読んで概要を理解するとともに、授業において質問や議論ができるように疑問点等を整理しておいてください。その際、インターネットや書籍を使って自分で積極的に調べてみることを怠らないでください。

事後学習では、授業で用いたスライドを見ながら、各回におけるポイントを理解し、それぞれの論点についてキーワードを用いて正しく説明できるようにしてください。

※各回につき、事前学習・事後学習はそれぞれ2時間を目安とします。

課題に対するフィードバックの方法

中間レポート課題を出します。レポートについては、授業において、その評価ポイントや、学生の皆さんが誤解や間違いをしやすい点等の解説を行います。

成績評価の方法・基準（方針）

講義各回への参加度・貢献度、中間レポートおよび期末試験により評価します。

※毎回出席をとります。欠席が5回以上となった場合、期末レポートを提出できません。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業内における議論への参加度、質問内容等により加点します。	1 2
授業外での評価	30	中間レポート課題	1 2
期末試験	30	授業で学んだことに関連し、与えられたテーマにつき、一定の分量（指定された字数）の論理的な文章を書くことができるかを評価します。	1 2
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	<p>【書名】「はじめまして、法学」</p> <p>【著者】遠藤研一郎</p> <p>【出版社】ウェッジ</p> <p>【価格】1,540 円（本体 1,400 円）</p> <p>【ISBN】978-4-86310-214-9</p>
参考書	副田隆重・浜村彰・棚村政行・武田万里子「ライフステージと法（第8版）」（有斐閣、2020年）
履修条件・他の科目との関連	<p>法についての知識がまったくない学生を歓迎します。履修登録者数次第ではグループ発表を実施する可能性があります。</p> <p>なお、授業中の合理的理由のない私語は厳に慎んでください。また、本講義においては基本的にスマートフォン・タブレット等を使用する必要はありませんので、それらの機器は各自カバンの中に入れておいてください。これらの指示に従わない場合、退室を命じ、当該授業は欠席扱いとすることがあります。</p>
担当教員への連絡方法	・雨夜 真規子 amaya@oiu.jp

授業コード	16200601		
授業科目名	情報学入門	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	下條 善史		
成績担当教員氏名	下條 善史		
単位数	2 単位	開講年次	1 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要			
<p>情報学は、現在においても、唯一の明決な定義は無く、主に自然界や人工物の分野における情報に関する学問の領域であるとされている。それだけ「情報」というのは多義性があり、世の中すべてを対象とするとってもよいほどあいまいなものである。本講義では、社会のすべてについて情報との関わりを探索することを目標とするが、特に人間と人間、人間と社会、および人間と機械のインターフェイスとしての情報の役割や今後の発展について考察する。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報学の基礎概念を理解し、情報関連のニュースを読めるようになること。 2. 情報技術の進歩の歴史について知り、現代社会を動かしている情報技術の成り立ちを理解すること。 3. 情報技術の進歩についての概要を知り、今後の社会の変化について議論できるようになること。 			
授業計画			
<p>★この授業は、遠隔授業となります。原則として、リアルタイム型授業で実施予定です。参加方法などの詳細は、追って案内します。 (状況を見て変更する可能性あり)</p> <p>【第1回】 テーマ：オリエンテーション 内容・方法：科目の概要,目的,達成目標やスケジュールなどについて説明する。</p> <p>【第2回】 テーマ：情報とはなにか 内容・方法：情報とは何か。身の回りの情報とコンピュータにおける内部表現について。</p> <p>【第3回】 テーマ：ハードウェアとソフトウェア 内容・方法：コンピューターのハードウェアとソフトウェアについて分類し、解説する。</p> <p>【第4回】 テーマ：プログラムとアルゴリズム 内容・方法：ソフトウェアを2つに分けたうちのひとつ、プログラムについて。</p> <p>【第5回】 テーマ：データベース 内容・方法：ソフトウェアを2つに分けたうちのもうひとつ、データについて。</p> <p>【第6回】 テーマ：ネットワークのしくみ 内容・方法：ネットワークの分類、プロトコル、サービス、伝送速度について。</p> <p>【第7回】 テーマ：ネットワークの利用 内容・方法：ネットワークのハードウェアと、メールやWEBなどネットワークアプリケーションについて。</p> <p>【第8回】 テーマ：ネットワークのセキュリティ 内容・方法：セキュリティとリスク、暗号技術など。</p> <p>【第9回】 テーマ：コンピューターシステムの進化 内容・方法：コンピューターの歴史を振り返り、この先を予想する。</p> <p>【第10回】 テーマ：メディアとしてのコンピューター 内容・方法：コンピューターとインターネットがもたらした新しいメディアについて。</p> <p>【第11回】 テーマ：ネットワークと著作権 内容・方法：コンピューターネットワークが変えた、法律と社会。</p> <p>【第12回】 テーマ：ヒューマンインタフェース 内容・方法：高度に専門的な機械が廉価になり大衆化していった経緯。</p> <p>【第13回】 テーマ：ロボットと人工知能 内容・方法：ロボットなどの事例を通して機器を人工知能技術で制御することについて。</p> <p>【第14回】 テーマ：社会を変える情報ネットワーク 内容・方法：情報ネットワークがもたらす、高度に情報化された社会。</p> <p>【第15回】 テーマ：授業内試験 内容・方法：この授業全体を通して総括するとともに,理解度の確認を行う。</p>			

事前事後の学習			
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。			
事前学修：事前に配布された資料について内容を確認し、疑問点等をまとめておく。			
事後学修：授業中に出された課題についてまとめ、提出する。			
課題に対するフィードバックの方法			
授業中に出した課題について解説を行い、理解度の確認を行う。			
成績評価の方法・基準（方針）			
出席点・平常点と最終回の授業内試験の結果を合計して評価する。			
成績評価の種類	評価割合（％）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	出席点と平常点	1、2、3
授業外での評価	0		
期末試験	50	最終回の授業内試験の得点によって評価する。	1、2、3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	資料としてPPTXファイルをGoogle Classroomにて配布する。
参考書	必要な都度にプリントを配布したり、書籍などを紹介する。
履修条件・他の科目との関連	5回以上の欠席者は不合格とする。
担当教員への連絡方法	・下條 善史 zen-s@oiu.jp

授業コード	16201401		
授業科目名	起業家論	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	何 成業		
成績担当教員氏名	何 成業		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要			
本講義では、新しく事業を始めた国内外の「起業家」に着目し、彼らの行動について、経営学における様々な理論に基づいて説明していきます。その際に、起業家の「着眼点」や「行動力」、「トラブル対処能力」などの理論だけでは説明できない起業家の人間的な部分に特に着目し講義を進めていきます。			
到達目標			
1.新しい事業を始める方法や、マネジメントの基礎的理論を理解する。 2.異なる視点で物事を考えることの重要性を理解する。 3.課題レポートの完成			
授業計画			
この授業は、遠隔授業となる。原則として、リアルタイム型授業で実施予定である。 参加方法などの詳細は、追って案内する。			
【第1回】 テーマ：イントロダクション 内容・方法：本講義の概要、講義の進め方、評価方法などについて説明します。			
【第2回】 テーマ：起業家の資質 内容・方法：起業家にはどのような資質が必要であると考えられるかについて、様々な起業家を例に考えていきます。			
【第3回】 テーマ：起業のプロセスと事業戦略① 内容・方法：起業するために必要な手順について考えます。具体的には、新しい事業機会の発見から起業に至ったプロセス、そして事業を成長させていくことについて考えていきます。			
【第4回】 テーマ：起業のプロセスと事業戦略②(事例①) 内容・方法：事例を通じて、新しい事業機会の発見から起業に至ったプロセス、そして事業を成長させていくことについて具体的に考えていきます。			
【第5回】 テーマ：起業と経営管理(事例②) 内容・方法：起業するにはどのようなメンバーが必要か？起業のプロセスの中で、チームを率いる時に起業家が直面する問題についてサイボウズを例に具体的に考えていきます。			
【第6回】 テーマ：事例③ 内容・方法：仕事に対するこだわりを通して、起業家に必要な資質や姿勢について考えていきます。			
【第7回】 テーマ：事例④ 内容・方法：「ヒット」を大切にできる精神は、起業後に成長するためにどのような役割を担うかについて、プロンコビリーの事例を通じて具体的に考えていきます。			
【第8回】 テーマ：事例⑤ 内容・方法：従業員教育と新規事業への参入（起業）のむつかしさについて事例を通じて具体的に考えていきます。			
【第9回】 テーマ：事例⑥ 内容・方法：事例を通じて、創業期の資金調達やマネジメントの在り方、直面した問題やその解決方法などを学びます。			
【第10回】 テーマ：事例⑦ 内容・方法：会社における人材育成（社員一人ひとりが起業家として活躍出来る人材の育成）の事例を通じて起業家に必要な資質を考えていきます。			
【第11回】 テーマ：事例⑧ 内容・方法：起業に至った経緯や会社の倒産危機のエピソードを通して、起業家が会社を成長させるために必要な「志」について考えていきます。			
【第12回】 テーマ：事例⑨ 内容・方法：事例を通じて、特に経営チームの組成について学びます。			
【第13回】 テーマ：事例 内容・方法：事例を通じて、特に資金調達の方法（融資と出資）について学んでいきます。			
【第14回】 テーマ：事例⑩ 内容・方法：事例を通じて、新しい事業を始めるうえでの困難やその解決方法について学びます。			
【第15回】 テーマ：ラップアップ 内容・方法：これまでの講義内容の総括をします。 期末試験（該当授業終講後）：レポート提出			
事前事後の学習			
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。			

本講義では、新しく事業を始めた国内外の「起業家」に着目し、彼らの行動について、経営学における様々な理論に基づいて説明していきます。その際に、起業家の「着眼点」や「行動力」、「トラブル対応能力」などの理論だけでは説明できない起業家の人間的な部分に特に着目し講義を進めていきます。

各回、事前学修は2時間、事後学修は2時間を目安とする

【第1回】

事前学習：シラバスを読んでいること

事後学習：イントロダクション本講義の概要、講義の進め方、評価方法などについて

【第2回】

事前学習：起業家の資質について調べる

事後学習：起業家にはどのような資質が必要であると考えられるかについて、様々な起業家を例に考えている

【第3回】

事前学習：起業するために必要な手順について考える

事後学習：新しい事業機会の発見から起業に至ったプロセス、そして事業を成長させていくことについて考えている

【第4回】

事前学習：事例を通じて、新しい事業機会の発見から起業に至ったプロセス

事後学習：事業を成長させていくことについて具体的に考えていきます

【第5回】

事前学習：起業するにはどのようなメンバーが必要かについて考える

事後学習：起業のプロセスの中で、チームを率いる時に起業家が直面する問題についてサイボウズを例に具体的に考えている

【第6回】

事前学習：仕事に対するこだわりを通して、起業家に必要な資質や姿勢について調べる

事後学習：仕事に対するこだわりを通して、起業家に必要な資質や姿勢について考える

【第7回】

事前学習：「ヒット」を大切にする精神は、起業後に成長するためにどのような役割を担うかについて調べる

事後学習：ブロンコピリーの事例を通じて具体的に考えている

【第8回】

事前学習：従業員教育と新規事業への参入（起業）のむつかしさについて調べる

事後学習：事例を通じて具体的に考えている

【第9回】

事前学習：創業期の資金調達やマネジメントの在り方について調べる

事後学習：事例を通じて、創業期の資金調達やマネジメントの在り方、直面した問題やその解決方法などを学び

【第10回】

事前学習：会社における人材育成（社員一人ひとりが起業家として活躍出来る人材の育成）の事例を調べる

事後学習：事例を通じて起業家に必要な資質を考えている

【第11回】

事前学習：起業に至った経緯や会社の倒産危機のエピソードについて調べる

事後学習：起業家が会社を成長させるために必要な「志」について考えている

【第12回】

事前学習：経営チームの組成について調べる

事後学習：事例を通じて、特に経営チームの組成について学び

【第13回】

事前学習：資金調達の方法（融資と出資）について調べる

事後学習：事例を通じて、特に資金調達の方法（融資と出資）について学び

【第14回】

事前学習：新しい事業を始めるうえでの困難やその解決方法について調べる

事後学習：事例を通じて、新しい事業を始めるうえでの困難やその解決方法について学び

【第15回】

事前学習：講義内容のまとめ

事後学習：これまでの講義内容の総括をする

課題に対するフィードバックの方法

ディスカッション、報告レポートの発表と提出

Google Classroom で課題の提示、解答の回収、フィードバックまでを行うこともできますのでご利用ください。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

また、正当な理由なく5回以上欠席した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

期末試験は期末レポートで成績評価します。

また、毎講義事に出欠確認を兼ねたミニレポートを実施し、その内容と講義での態度を加味して「その他」として加点します。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	毎講義事に出欠確認、ミニレポートの完成 (30)	1,2
授業外での評価	0		
期末試験	60	期末課題レポートの完成、提出 (60)	3
定期試験	0		
その他	10	授業に関する質問・発言(5)、取り組み姿勢(5)	2

テキスト	プリントを配布する
参考書	<p>忽那憲治・長谷川博和・高橋徳行・五十嵐伸吾・山田仁一郎（2013）『アントレプレナーシップ入門・ベンチャーの創造を学ぶ』有斐閣。</p> <p>米倉誠一郎(2005)『日本のスタートアップ企業』有斐閣。</p> <p>高橋徳行（2005）『起業学の基礎』勁草書房。</p> <p>その他、授業の進捗に合わせて適宜紹介します。</p>
履修条件・他の科目との関連	経営学や経営管理論の履修が望ましいです。
担当教員への連絡方法	・何 成業 he@oiu.jp

授業コード	16201501		
授業科目名	経営管理論	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	田窪 美葉		
成績担当教員氏名	田窪 美葉		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

本講義では、初年次向けの経営管理論として、経営管理に関連する諸理論、マーケティングやモチベーション、人事管理、リーダーシップ等を、身近な例を用いつつ、親しみやすく学習することに重点を置く。他の経営学関連講義の基礎を学習し、各専門講義につなげることを目的とする。

関連する内容について、ゲストスピーカーに講演をお願いする場合がある。

到達目標

- 1.経営管理に関する各理論を説明することができる
- 2.自身の身近な経験に経営管理の理論を応用することができる

授業計画

- ★この授業は、遠隔授業となります。
- リアルタイム型の遠隔授業(その授業時間にZoom 等で参加する方法)ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施予定です。
- 第1回 経営管理の諸理論：経済学と経営学の違い、科学的管理法、管理過程論、システムの協働の理論、意思決定論
 - 第2回 事業ドメイン：マネジャーの資質、組織の定義づけ
 - 第3回 マーケティング：マーケティングの定義、バリュープロポジション
 - 第4回 モチベーション：働きがい、欲求五段階説、X理論・Y理論、二要因理論
 - 第5回 人事管理：人的資源管理の基本的課題、マネジャーの役割
 - 第6回 職務設計：人のマネジメント、仕事を生産的なものにする方法、自己目標管理、職務設計
 - 第7回 イノベーション：イノベーションの定義、イノベーションの例
 - 第8回 社会貢献：マネジメントの役割、マネジメントの正当性、成果
 - 第9回 組織デザイン(1)：組織の規模、規模についての問題、組織の不適切さ
 - 第10回 組織デザイン(2)：規模と戦略、小企業のマネジメント
 - 第11回 組織デザイン(3)：中企業のマネジメント、大企業のマネジメント
 - 第12回 リーダーシップ：リーダーシップに関わる問題、リーダーの成長、リーダーの育成
 - 第13回 コストセンターとコスト構造：コスト管理の原則、コストポイントの分類
 - 第14回 コミュニケーション：個人間のコミュニケーション、組織のコミュニケーション
 - 第15回 まとめ：全体のまとめ

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

- 第1回
 - 【事前】 シラバスを読むこと。 20 時間
 - 【事後】 テーマに関連した課題を行うこと。 20 時間
- 第2回
 - 【事前】 自分の属している組織は何をしているかについて考える。 20 時間
 - 【事後】 テーマに関連した課題を行うこと。 20 時間
- 第3回
 - 【事前】 マーケティングについて調べる。 20 時間
 - 【事後】 テーマに関連した課題を行うこと。 20 時間
- 第4回
 - 【事前】 動機づけ理論について調べておく。 20 時間
 - 【事後】 テーマに関連した課題を行うこと。 20 時間
- 第5回
 - 【事前】 マネジャーの役割について考える。 20 時間
 - 【事後】 テーマに関連した課題を行うこと。 20 時間
- 第6回
 - 【事前】 自分が達成したい目標とその方法について考える。 20 時間
 - 【事後】 テーマに関連した課題を行うこと。 20 時間
- 第7回
 - 【事前】 イノベーションについて調べる。 20 時間
 - 【事後】 テーマに関連した課題を行うこと。 20 時間
- 第8回
 - 【事前】 身近な社会貢献について考える。 20 時間
 - 【事後】 テーマに関連した課題を行うこと。 20 時間
- 第9回
 - 【事前】 組織の適切な規模について考える。 20 時間
 - 【事後】 テーマに関連した課題を行うこと。 20 時間
- 第10回
 - 【事前】 小企業のマネジメントについて考える。 20 時間
 - 【事後】 テーマに関連した課題を行うこと。 20 時間
- 第11回
 - 【事前】 中企業・大企業のマネジメントについて調べる。 20 時間
 - 【事後】 テーマに関連した課題を行うこと。 20 時間

第12回
【事前】 リーダーシップについて調べる。 2.0時間
【事後】 テーマに関連した課題を行うこと。 2.0時間
第13回
【事前】 自分の普段の行動についてのコストを考える。 2.0時間
【事後】 テーマに関連した課題を行うこと。 2.0時間
第14回
【事前】 コミュニケーションについて考える。 2.0時間
【事後】 テーマに関連した課題を行うこと。 2.0時間
第15回
【事前】 これまでの内容を復習しておくこと。 2.0時間
【事後】 レポートの準備をすること。 2.0時間

課題に対するフィードバックの方法

課題を完成させることに関する質問は、授業内、もしくはE-mailで受け付ける。また、次回以降の授業にて優秀な回答を紹介する。
授業時間内で行う Moodle 課題(自動採点型)については、受験後すぐに正解かどうかと、得点が示される。

成績評価の方法・基準(方針)

遠隔授業内での Moodle 課題(Classroom から連携予定)と、期末レポート試験により評価する。
毎回の通常課題未提出4回以上、または期末レポートを未提出の場合、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	遠隔授業内での Moodle 課題(Classroom から連携予定)	1、2
授業外での評価	0		
期末試験	50	期末レポート(50)	1、2
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	プリントを配布する
参考書	『【エッセンシャル版】マネジメント 基本と原則』PFドラッカー著 上田敦生翻訳 ダイヤモンド社 『経営管理』塩次善代明・高橋伸夫・小林敏男著 有斐閣 『ゼミナール 経営管理入門』風早正宏著 日本経済新聞社 『よくわかる経営管理』高橋伸夫編著 ミネルヴァ書房 他の参考書は講義中に随時紹介する。
履修条件・他の科目との関連	経営学入門との同時履修が望ましい。事後学習や試験の一部に Moodle を利用する。
担当教員への連絡方法	・田窪 美葉 mihachi@oiu.jp

授業コード	16201601		
授業科目名	経営史	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	青木 崇		
成績担当教員氏名	青木 崇		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

経営史は企業の歴史を考察し、過去から現在に至る過程を理解するところに意義がある。本講義では日本企業とその経営の歴史を学習し、経営者の経営理念、戦略的意思決定をみていく。

日本企業の中には創業して 100 年以上の歴史ある企業が多くあり、その企業数は世界一である。業種別で見ると小売業、製造業、卸売業が全体のおよそ 8 割を占めている。業種分類では清酒製造、旅館、菓子製造販売があり、老舗といわれる企業が名を連ねている。

100 年以上の歴史ある企業に共通するのは何であろうか。本講義ではそうした問いについて考え、今日的テーマである持続可能な発展を目指す企業とその経営者の理念、戦略的意思決定、企業の社会的責任について事例を織り交ぜながら学習する。

授業は講義形式で受動的学習になるが、事前学習では授業テーマに関する問題について考え、ノートにまとめておく必要があり、事後学習では授業で提示された資料や紹介された参考文献をもとに学習していくといった主体的学習が必要となる。

到達目標

- 1.経営史に関する基礎的な知識を説明することができる。
- 2.経営史と関連して、経営理念や経営者の戦略的意思決定について考察し、説明することができる。
- 3.日本企業の経営史を学習し、個別企業の経営史について考察し、説明することができる。

授業計画

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 企業の経営理念：企業の経営理念について学習する
- 第 3 回 日本の老舗企業：日本の老舗企業について学習する
- 第 4 回 近江商人の経営理念とその精神：近江商人の経営理念とその精神について学習する
- 第 5 回 渋沢栄一：渋沢栄一について学習する
- 第 6 回 波多野鶴吉：波多野鶴吉について学習する
- 第 7 回 創業者の経営理念とその精神：創業者の経営理念とその精神について学習する
- 第 8 回 キヤノンの歴史：キヤノンの歴史について学習する
- 第 9 回 企業のロングセラーと日本の医薬品発祥の地：企業のロングセラーと日本の医薬品発祥の地について学習する
- 第 10 回 安藤百福と日清食品ホールディングスの歴史：安藤百福と日清食品ホールディングスの歴史について学習する
- 第 11 回 サントリーホールディングスの歴史：サントリーホールディングスの歴史について学習する
- 第 12 回 リコーと本田技研工業の歴史：リコーと本田技研工業の歴史について学習する
- 第 13 回 ソニーグループの歴史：ソニーグループの歴史について学習する
- 第 14 回 コンビニエンスストアの歴史：コンビニエンスストアの歴史について学習する
- 第 15 回 まとめ

授業計画を変更することがある。

事前事後の学習

授業（1 回につき 2 時間として計算）と事前事後のあわせて 1 単位あたり 4.5 時間が必要です。

- 第 1 回
事前学修課題：授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する。1 時間。
事後学修課題：授業の説明内容に基づき経営史の基礎知識を学習し、ノートを準備する。1 時間。
- 第 2 回
事前学修課題：企業の経営理念について調べる。1.5 時間。
事後学修課題：企業の経営理念についてまとめる。2.5 時間。
- 第 3 回
事前学修課題：日本の老舗企業について調べる。1.5 時間。
事後学修課題：日本の老舗企業についてまとめる。2.5 時間。
- 第 4 回
事前学修課題：近江商人の経営理念とその精神について調べる。1.5 時間。
事後学修課題：近江商人の経営理念とその精神についてまとめる。2.5 時間。
- 第 5 回
事前学修課題：渋沢栄一について調べる。1.5 時間。
事後学修課題：渋沢栄一についてまとめる。2.5 時間。
- 第 6 回
事前学修課題：波多野鶴吉について調べる。1.5 時間。
事後学修課題：波多野鶴吉についてまとめる。2.5 時間。
- 第 7 回
事前学修課題：創業者の経営理念とその精神について調べる。1.5 時間。
事後学修課題：創業者の経営理念とその精神についてまとめる。2.5 時間。

第8回

事前学修課題：キヤノンの歴史について調べる。1.5時間。
 事後学修課題：キヤノンの歴史についてまとめる。2.5時間。

第9回

事前学修課題：企業のロングセラーと日本の医薬品発祥の地について調べる。1.5時間。
 事後学修課題：企業のロングセラーと日本の医薬品発祥の地についてまとめる。2.5時間。

第10回

事前学修課題：安藤百福と日清食品ホールディングスの歴史について調べる。1.5時間。
 事後学修課題：安藤百福と日清食品ホールディングスの歴史についてまとめる。

第11回

事前学修課題：サントリーホールディングスの歴史について調べる。1.5時間。
 事後学修課題：サントリーホールディングスの歴史についてまとめる。2.5時間。

第12回

事前学修課題：リコーと本田技研工業の歴史について調べる。1.5時間。
 事後学修課題：リコーと本田技研工業の歴史についてまとめる。2.5時間。

第13回

事前学修課題：ソニーグループの歴史について調べる。1.5時間。
 事後学修課題：ソニーグループの歴史についてまとめる。2.5時間。

第14回

事前学修課題：コンビニエンスストアの歴史について調べる。1.5時間。
 事後学修課題：コンビニエンスストアの歴史についてまとめる。2.5時間。

第15回

事前学修課題：まとめについて調べる。1.5時間。
 事後学修課題：まとめについてまとめる。3.5時間。

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroom から個別にフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

経営史の内容を理解し、到達目標に関わる到達度に応じて単位を授与する。
 評価割合を合算し、総合的に評価する。
 大阪国際大学の規定に基づき、やむを得ない欠席を除いて5回以上欠席した場合は「K」評価とする。
 授業の出席は成績評価に加味しないので15回すべて出席したからといって単位が認定されるわけではない。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	振り返りシートのコメントの内容 (10) 受講態度 (10)	1、2
授業外での評価	30	レポート課題 (レポート内容、理解度、文章力)	1、2、3
期末試験	0		
定期試験	50	記述試験	1、2、3
その他	0		

テキスト	指定のテキストはない。
参考書	青木 崇 (2016) 『価値創造経営のコーポレート・ガバナンス』 税務経理協会。 宇田川 勝編著 (2013) 『ケースブック日本の企業家—近代産業発展の立役者たち—』 有斐閣。 宇田川 勝・生島 淳編著 (2011) 『企業家に学ぶ日本経営史—テーマとケースでとらえよう—』 有斐閣。 加藤健太・大石直樹 (2013) 『ケースに学ぶ日本の企業—ビジネス・ストーリーへの招待—』 有斐閣。 経営史学会・山崎広明編著 (2004) 『日本経営史の基礎知識』 有斐閣。 中瀬哲史 (2016) 『エッセンシャル経営史—生産システムの歴』
履修条件・他の科目との関連	日頃から新聞や雑誌を読み、当該テーマについての知識を蓄えておくこと。 積極的な参加を求める。 やむを得ない事情で欠席する場合は事前または事後連絡をすること。 私語や受講者の迷惑になる行為については厳禁とする。
担当教員への連絡方法	・青木 崇 t-aoki@oiu.jp

授業コード	16207401		
授業科目名	経営組織論	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	青木 崇		
成績担当教員氏名	青木 崇		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

経営学の中でも重要な科目の1つが経営組織論である。組織とは何であろうか。集団とどのように違うのであろうか。組織の対象は企業だけではなく、病院、学校、NPO 法人も含まれる。本講義では組織の必要性、意味、意義について触れ、組織のあり方および組織と個人の関係について検討する。組織論といっても社会学系の組織論はマクロ組織論、心理学系の組織論はミクロ組織論と呼ばれている。本講義は社会学系の組織論を中心にして展開していく。

組織論の中に官僚制組織という用語がある。組織を細分化し、仕事、役割を限定することによって集中して業務を遂行できるという意味であるが、お役所仕事、官僚的と聞くことどのような印象をもつてあろうか。組織には強みがあれば、弱みもある。それは企業を観察していれば、同じことがいえる。

社会に生きる私たちはどこかに所属することになる。経営学的な組織論を学び、組織に求めること、やる気、動機づけ、コミュニケーション、リーダーシップ、今後のキャリア（生き方・働き方）といったことと絡めて考えていってほしい。

授業は講義形式で受動的学習になるが、事前学習では授業テーマに関する問題について考え、ノートにまとめておく必要があり、事後学習では授業で提示された資料や紹介された参考文献をもとに学習していくといった主体的学習が必要となる。

到達目標

1. 経営組織論に関する基礎的な知識を説明することができる。
2. 経営組織論の特質、類型について説明することができる。
3. 経営組織論と関連して、経営戦略について考察し、説明することができる。

授業計画

- 第1回 インTRODククション
- 第2回 組織の考え方：組織の考え方について学習する
- 第3回 組織の共通理解と分業：組織の共通理解と分業について学習する
- 第4回 組織構造：組織構造について学習する
- 第5回 組織の意思決定：組織の意思決定について学習する
- 第6回 組織の多様性：組織の多様性について学習する
- 第7回 組織のモチベーション：組織のモチベーションについて学習する
- 第8回 リーダーシップ：リーダーシップについて学習する
- 第9回 組織の戦略：組織の戦略について学習する
- 第10回 イノベーション：イノベーションについて学習する
- 第11回 組織変革のプロセス：組織変革のプロセスについて学習する
- 第12回 組織の不祥事：組織の不祥事について学習する
- 第13回 コーポレート・ガバナンス（企業統治）1：コーポレート・ガバナンスについて学習する
- 第14回 コーポレート・ガバナンス（企業統治）2：コーポレート・ガバナンスについて理解を深める
- 第15回 SDGs（持続可能な開発目標）：SDGsについて学習する

授業計画を変更することがある。

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

- 第1回
事前学習課題：授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する。1時間。
事後学習課題：授業の説明内容に基づき経営組織論の基礎知識を学習し、ノートを準備する。1時間。
- 第2回
事前学習課題：組織の考え方について調べる。1.5時間。
事後学習課題：組織の考え方についてまとめる。2.5時間。
- 第3回
事前学習課題：組織の共通理解と分業について調べる。1.5時間。
事後学習課題：組織の共通理解と分業についてまとめる。2.5時間。
- 第4回
事前学習課題：組織構造について調べる。1.5時間。
事後学習課題：組織構造についてまとめる。2.5時間。
- 第5回
事前学習課題：組織の意思決定について調べる。1.5時間。
事後学習課題：組織の意思決定についてまとめる。2.5時間。
- 第6回
事前学習課題：組織の多様性について調べる。1.5時間。
事後学習課題：組織の多様性についてまとめる。2.5時間。
- 第7回
事前学習課題：組織のモチベーションについて調べる。1.5時間。

事後学修課題：組織のモチベーションについてまとめる。2.5 時間。

第 8 回

事前学修課題：リーダーシップについて調べる。1.5 時間。

事後学修課題：リーダーシップについてまとめる。2.5 時間。

第 9 回

事前学修課題：組織の戦略について調べる。1.5 時間。

事後学修課題：組織の戦略についてまとめる。2.5 時間。

第 10 回

事前学修課題：イノベーションについて調べる。1.5 時間。

事後学修課題：イノベーションについてまとめる。2.5 時間。

第 11 回

事前学修課題：組織変革のプロセスについて調べる。1.5 時間。

事後学修課題：組織変革のプロセスについてまとめる。2.5 時間。

第 12 回

事前学修課題：組織の不幸事について調べる。1.5 時間。

事後学修課題：組織の不幸事についてまとめる。2.5 時間。

第 13 回

事前学修課題：コーポレート・ガバナンスについて調べる。1.5 時間。

事後学修課題：コーポレート・ガバナンスについてまとめる。2.5 時間。

第 14 回

事前学修課題：コーポレート・ガバナンスについて調べる。1.5 時間。

事後学修課題：コーポレート・ガバナンスについてまとめる。2.5 時間。

第 15 回

事前学修課題：SDGs について調べる。1.5 時間。

事後学修課題：SDGs についてまとめる。3.5 時間。

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroom から個別にフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

経営組織論の内容を理解し、到達目標に関わる到達度に応じて単位を授与する。

評価割合を合算し、総合的に評価する。

大阪国際大学の規定に基づき、やむを得ない欠席を除いて 5 回以上欠席した場合は「K」評価とする。

授業の出席は成績評価に加味しないので 15 回すべて出席したからといって単位が認定されるわけではない。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	振り返りシートのコメントの内容 (10) 受講態度 (10)	1、2
授業外での評価	30	レポート課題 (レポート内容、理解度、文章力)	1、2、3
期末試験	0		
定期試験	50	記述試験	1、2、3
その他	0		

テキスト	指定のテキストはない。
参考書	青木 崇 (2016) 『価値創造経営のコーポレート・ガバナンス』 税務経理協会。 稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下 勝 (2010) 『キャリアで語る経営組織—個人の論理と組織の論理—』 有斐閣。 金井壽宏 (1999) 『経営組織』 日本経済新聞社。 上林憲雄・庭本佳子編著 (2020) 『経営組織入門』 文眞堂。 菊池敏夫・櫻井克彦編著 (2021) 『新企業統治論』 税務経理協会。 十川廣國編著 (2013) 『経営組織論 (第 2 版)』 中央経済社。 田尾雅夫 (2012) 『現代組織論』 勁草書房。 田尾雅夫編著 (2010)
履修条件・他の科目との関連	日頃から新聞や雑誌を読み、当該テーマについての知識を蓄えておくこと。 積極的な参加を求める。 やむを得ない事情で欠席する場合は事前または事後連絡をすること。 私語や受講者の迷惑になる行為については厳禁とする。
担当教員への連絡方法	・青木 崇 t-aoki@oiu.jp

授業コード	16201701		
授業科目名	組織行動論	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	田窪 美葉		
成績担当教員氏名	田窪 美葉		
単位数	2 単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要	
組織に関連する基礎概念をもとに、組織行動について学ぶことを目的とする。個人行動、パーソナリティ、動機づけ、意思決定、集団行動、コミュニケーション、リーダーシップ、コンフリクト、人材管理、組織学習など、さまざまなトピックをとりあげ、各理論を学ぶだけでなく、学習者の行動がどんな原理に基づいているかを取り扱う。また授業の一部にグループワークを伴うが、受講人数によって実施週や内容を変更することがある。	
到達目標	
1.組織行動論の各理論について説明することができる 2.組織行動論の各理論について身近な話題に置き換えて表現することができる	
授業計画	
第1回 組織行動論とは何か：注目する行動、態度、範囲、目的 第2回 個人の行動の基礎：価値観、態度、認知、学習 第3回 パーソナリティと感情：MBTI、ビッグ・ファイブ、パーソナリティと職務業績、感情 第4回 動機づけ：初期の動機づけ理論、現代の動機づけ理論 第5回 個人の意思決定：合理的な意思決定プロセス、創造性、限定された合理性、共通バイアスとエラー 第6回 集団行動：集団の定義と分類、役割、規範、地位、凝集性、規模、集団の意思決定 第7回 コミュニケーション：コミュニケーション・プロセス、個人間・組織のコミュニケーション 第8回 コミュニケーション演習：異文化コミュニケーション 第9回 リーダーシップ：特性理論、行動理論、条件適合理論 第10回 新しいリーダーシップ論：リーダー・メンバー交換理論、パス・ゴール理論 第11回 コンフリクトと交渉：コンフリクトのプロセス、交渉における問題 第12回 人材管理の考え方と方法：人事方針・制度・業績評価・業績フィードバック 第13回 インターネットの心理学：インターネット上での人々の行動 第14回 インバケット思考：優先順位決定、問題解決 第15回 まとめ：全体のまとめ	
事前事後の学習	
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。	
第1回 【事前】 シラバスを読むこと。 20 時間 【事後】 テーマに関連した課題を行うこと。 20 時間 第2回 【事前】 自身の行動がどんな価値観に基づいているかを考えておく。 20 時間 【事後】 テーマに関連した課題を行うこと。 20 時間 第3回 【事前】 自身のパーソナリティについてどのように分類されるか予想しておく。 20 時間 【事後】 テーマに関連した課題を行うこと。 20 時間 第4回 【事前】 動機づけ理論について調べておく。 20 時間 【事後】 テーマに関連した課題を行うこと。 20 時間 第5回 【事前】 自身がどのように意思決定を行うかについて考える。 20 時間 【事後】 テーマに関連した課題を行うこと。 20 時間 第6回 【事前】 自身が個人行動をするときと、集団行動をするときの行動の違いについて考える。 20 時間 【事後】 テーマに関連した課題を行うこと。 20 時間 第7回 【事前】 コミュニケーションがうまくいかない事例についてその理由を考える。 20 時間 【事後】 テーマに関連した課題を行うこと。 20 時間 第8回 【事前】 リーダーシップを発揮する人とはどのような人か考える。 20 時間 【事後】 テーマに関連した課題を行うこと。 20 時間 第9回 【事前】 実際に交渉する場面を想定して、どのような交渉が望ましいかを考える。 20 時間 【事後】 テーマに関連した課題を行うこと。 20 時間 第10回 【事前】 自身が属している組織について、その組織構造が自身の行動にどのように影響を与えているか考える。 20 時間 【事後】 テーマに関連した課題を行うこと。 20 時間 第11回 【事前】 自身の属する組織の組織文化について考える。 20 時間 【事後】 テーマに関連した課題を行うこと。 20 時間 第12回 【事前】 企業 Web ページを利用して、採用の流れについて調べる。 20 時間	

【事後】	テーマに関連した課題を行うこと。 2.0 時間
第 13 回	
【事前】	自身のインターネット上の行動について考える。 2.0 時間
【事後】	テーマに関連した課題を行うこと。 2.0 時間
第 14 回	
【事前】	とるべき行動の優先順位について考える。 2.0 時間
【事後】	テーマに関連した課題を行うこと。 2.0 時間
第 15 回	
【事前】	これまでの内容を復習しておくこと。 2.0 時間
【事後】	レポートの準備をすること。 2.0 時間

課題に対するフィードバックの方法

課題を完成させることに関する質問は、授業内、もしくは E-mail で受付ける。また、次回授業にて、解答例や優秀な回答を紹介する場合がある。
授業時間内で行う Moodle 課題(自動採点型)については、受験後すぐに正解かどうかと、得点が表示される。

成績評価の方法・基準 (方針)

通常授業内での配布課題及び Moodle での課題(Classroom から連携予定)と、レポート免除試験(予定)もしくは期末レポートにより評価する。
正当な理由のない欠席 4 回以上、毎回の通常課題未提出 4 回以上、またはレポート免除試験に不合格で期末レポートを未提出の場合、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	通常授業内での配布課題及び Moodle での課題(Classroom から連携予定)	1, 2
授業外での評価	0		
期末試験	50	レポート免除試験(予定)もしくは期末レポート試験	1, 2
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	プリントを配布する
参考書	<p>【【新版】組織行動のマネジメント-入門から実践へ】 スティーブン P.ロビンズ著 高木晴夫訳 ダイヤモンド社</p> <p>「組織行動研究の展開」 上田泰著 白桃書房</p> <p>他の参考書は講義中に随時紹介する。</p>
履修条件・他の科目との関連	経営学入門他、経営学の基礎科目の受講が必要。事後学習や試験の一部に Moodle を使用する。
担当教員への連絡方法	・田窪 美葉 mihachi@oiu.jp

授業コード	16207701		
授業科目名	経営倫理	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	青木 崇		
成績担当教員氏名	青木 崇		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

なぜ、企業はその行動の倫理性を問われなければならないのか。経営倫理（企業倫理）は今に始まった問題ではない。昨今、経営者が経営理念や倫理観をも脱ぎ捨てたかのように、あるいは法律違反ではないから何を行っても構わないという風潮を呼んだことがある。なぜ、このようなことが起きたのであろうか。この問いに答えることが本講義の目的である。

企業は経済的組織体であると同時に社会性、公益性、公共性を有している公器である。20 世紀ではエクセレント・カンパニーといわれ、業界を代表する国際的企業が反倫理的行為を繰り返して社会問題化した。この実態を正確に認識し、その根源の思想となぜ経営倫理を問われなければならないかについて、その論拠を講ずる。

世の中の企業や人間が良い企業や人間ばかりであれば、経営倫理の講義をする必要はないかもしれない。しかし、現実の社会はそうなっていない。これから社会に巣立っていく学生たちに、この科目が設けられたのは倫理観のない、または倫理観の薄い人間は社会人として生きていけないことを自覚してほしいからであろう。このことを学生たちが自分の問題として考えるきっかけにしたい。社会に生きる人間として、倫理の大切さを学んでほしい。

授業は講義形式で受動的学習になるが、事前学習では授業テーマに関する問題について考え、ノートにまとめておく必要があり、事後学習では授業で提示された資料や紹介された参考文献をもとに学習していくといった主体的学習が必要となる。

到達目標

- 1.経営倫理に関する基礎的な知識を説明することができる。
- 2.経営倫理と関連して、コンプライアンス（法令遵守）やコーポレート・ガバナンス（企業統治）について考察し、説明することができる。
- 3.経営倫理のあり方と課題について考察し、説明することができる。

授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 倫理の考え方：倫理の考え方について学習する
- 第3回 法律と倫理：法律と倫理について学習する
- 第4回 カントの倫理学：カントの倫理学について学習する
- 第5回 企業の存在意義と社会性：企業の存在意義と社会性について学習する
- 第6回 経営の目的—CSR、ESG、SDGsの意味—：経営の目的について学習する
- 第7回 雪印食品牛肉偽装事件：雪印食品牛肉偽装事件について考察する
- 第8回 ミートホープの食肉偽装事件：ミートホープの食肉偽装事件について考察する
- 第9回 雪印食品とミートホープの不祥事：雪印食品とミートホープの不祥事について考察する
- 第10回 様々な企業不祥事の内容と経緯：様々な企業不祥事の内容と経緯について学習する
- 第11回 企業不祥事の事後対応：企業不祥事の事後対応について学習する
- 第12回 1960年代と1990年代以降の企業不祥事：1960年代と1990年代以降の企業不祥事について考察する
- 第13回 リスクマネジメント：リスクマネジメントについて学習する
- 第14回 雪印乳業（現雪印メグミルク）の経営再生：雪印乳業の経営再生について学習する
- 第15回 日本航空の経営再生：日本航空の経営再生について学習する

授業計画を変更することがある。

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

- 第1回
事前学修課題：授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する。1時間。
事後学修課題：授業の説明内容に基づき経営倫理の基礎知識を学習し、ノートを準備する。1時間。

- 第2回
事前学修課題：倫理の考え方について調べる。1.5時間。
事後学修課題：倫理の考え方についてまとめる。2.5時間。

- 第3回
事前学修課題：法律と倫理について調べる。1.5時間。
事後学修課題：法律と倫理についてまとめる。2.5時間。

- 第4回
事前学修課題：カントの倫理学について調べる。1.5時間。
事後学修課題：カントの倫理学についてまとめる。2.5時間。

- 第5回
事前学修課題：企業の存在意義と社会性について調べる。1.5時間。
事後学修課題：企業の存在意義と社会性についてまとめる。2.5時間。

- 第6回
事前学修課題：経営の目的—CSR、ESG、SDGsの意味—について調べる。1.5時間。
事後学修課題：経営の目的—CSR、ESG、SDGsの意味—についてまとめる。2.5時間。

- 第7回
事前学修課題：雪印食品牛肉偽装事件について調べる。1.5時間。

事後学修課題：雪印食品牛肉偽装事件についてまとめる。2.5 時間。
第 8 回 事前学修課題：ミートホープの食肉偽装事件について調べる。1.5 時間。 事後学修課題：ミートホープの食肉偽装事件についてまとめる。2.5 時間。
第 9 回 事前学修課題：雪印食品とミートホープの不祥事について調べる。1.5 時間。 事後学修課題：雪印食品とミートホープの不祥事についてまとめる。2.5 時間。
第 10 回 事前学修課題：様々な企業不祥事の内容と経緯について調べる。1.5 時間。 事後学修課題：様々な企業不祥事の内容と経緯についてまとめる。2.5 時間。
第 11 回 事前学修課題：企業不祥事の事後対応について調べる。1.5 時間。 事後学修課題：企業不祥事の事後対応についてまとめる。2.5 時間。
第 12 回 事前学修課題：1960 年代と 1990 年代以降の企業不祥事について調べる。1.5 時間。 事後学修課題：1960 年代と 1990 年代以降の企業不祥事についてまとめる。2.5 時間。
第 13 回 事前学修課題：リスクマネジメントについて調べる。1.5 時間。 事後学修課題：リスクマネジメントについてまとめる。2.5 時間。
第 14 回 事前学修課題：雪印乳業の経営再生について調べる。1.5 時間。 事後学修課題：雪印乳業の経営再生についてまとめる。2.5 時間。
第 15 回 事前学修課題：日本航空の経営再生について調べる。1.5 時間。 事後学修課題：日本航空の経営再生についてまとめる。3.5 時間。

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroom から個別にフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

経営倫理の内容を理解し、到達目標に関わる到達度に応じて単位を授与する。
評価割合を合算し、総合的に評価する。
大阪国際大学の規定に基づき、やむを得ない欠席を除いて 5 回以上欠席した場合は「K」評価とする。
授業の出席は成績評価に加味しないので 15 回すべて出席したからといって単位が認定されるわけではない。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	振り返りシートのコメントの内容 (10) 受講態度 (10)	1、2
授業外での評価	30	レポート課題 (レポート内容、理解度、文章力)	1、2、3
期末試験	0		
定期試験	50	記述試験	1、2、3
その他	0		

テキスト	指定のテキストはない。
参考書	青木 崇 (2016) 『価値創造経営のコーポレート・ガバナンス』 税務経理協会。 飯富順久 (2000) 『企業行動の評価と倫理』 学文社。 出見世信之 (2004) 『企業倫理入門—企業と社会との関係を考える—』 同文館出版。 中村瑞穂編著 (2003) 『企業倫理と企業統治—国際比較—』 文眞堂。 平田光弘 (2008) 『経営者自己統治論—社会に信頼される企業の形成—』 中央経済社。 必要に応じて授業で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	日頃から新聞や雑誌を読み、当該テーマについての知識を蓄えておくこと。 積極的な参加を求める。 やむを得ない事情で欠席する場合は事前または事後連絡をすること。 私語や受講者の迷惑になる行為については厳禁とする。
担当教員への連絡方法	・青木 崇 t-aoki@oiu.jp

授業コード	16207501		
授業科目名	経営戦略論	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	青木 崇		
成績担当教員氏名	青木 崇		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

本講義は経営戦略論の概念、理論、フレームワークを学習し、企業が実際に行っている経営戦略について事例を織り交ぜて学習する。経営戦略の意味を「特定の組織が何らかの目的を達成するための道筋」と理解するのであれば、その方法論、構想、指針が重要になってくる。経営戦略論と一口にいっても時代背景や社会環境、研究者の考え方や信念などが強く反映され、多様な理論モデルが提起されてきた。戦略は英語で Strategy と書くが、語源はラテン語の Strategos (ストラテゴス) であり、軍事的指導者という役職を意味する。経営戦略は経営活動の中長期の基本的枠組みと方向性を決めるものであり、企業の存続や財務、会計業績に大きなインパクトを与える企業および経営の基本方針を意味する。

多くの場合、企業は経営理念、経営ビジョン、経営戦略を策定して、マネジメントを行っている。競合他社がある中、自社の強みを分析し、どのように取り組めば、他社よりも優位になれるかは企業によって異なってくる。品質、価格、立地条件、ユニークなサービス内容、デザイン、ブランド、信頼などが他社との違いを表す要素であれば、継続していくためには模倣されにくい方法が必要になってくる。企業は財・サービスをどの市場で、誰に対して、どのように提供すればよいのだろうか。社会に生きる私たちにとって身近で欠かすことのできない企業の存在、役割について事例を織り交ぜながら考察し、理解しながら今日の課題について検討する。

本講義は遠隔授業 (Zoom) の予定であるため、受動的学習になるが、事前学習では授業テーマに関する問題について考え、ノートにまとめておく必要があり、事後学習では授業で提示された資料や紹介された参考文献をもとに学習していくといった主体的学習が必要となる。

到達目標

1.経営戦略論の基本的な概念、理念、フレームワークについて説明することができる。

2.実際の企業の経営戦略について考察することができる。

3.今後の経営戦略論のあり方と課題について考察し、説明することができる。

授業計画

この授業は遠隔授業を予定しており、Zoom を使用したりリアルタイム型授業を実施する。

参加方法などの詳細はあって案内する。

第1回 イントロダクション

第2回 経営戦略論の考え方：経営戦略論の考え方について学習する

第3回 ドメイン：ドメインについて学習する

第4回 コア・コンピタンス：コア・コンピタンスについて学習する

第5回 アンゾフの成長ベクトル：アンゾフの成長ベクトルについて学習する

第6回 アンゾフの多角化戦略：アンゾフの多角化戦略について学習する

第7回 プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント (PPM)：プロダクト・ポートフォリオ・マネジメントについて学習する

第8回 SWOT 分析：SWOT 分析について学習する

第9回 PEST 分析、3C 分析、VRIO 分析：PEST 分析、3C 分析、VRIO 分析について学習する

第10回 マイケル・ポーターの競争戦略：マイケル・ポーターの競争戦略について学習する

第11回 マイケル・ポーターの競争戦略における事例：事例について考察する

第12回 マイケル・ポーターの5つの要因：マイケル・ポーターの5つの要因について学習する

第13回 バリューチェーン：バリューチェーンについて学習する

第14回 ミンツバーグの創発的戦略：ミンツバーグの創発的戦略について学習する

第15回 事例とまとめ

授業計画を変更することがある。

事前事後の学習

授業 (1回につき2時間として計算) と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

第1回

事前学修課題：授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する。1時間。

事後学修課題：授業の説明内容に基づき経営戦略論の基礎知識を学習し、ノートを準備する。1時間。

第2回

事前学修課題：経営戦略論の考え方について調べる。1.5時間。

事後学修課題：経営戦略論の考え方についてまとめる。2.5時間。

第3回

事前学修課題：ドメインについて調べる。1.5時間。

事後学修課題：ドメインについてまとめる。2.5時間。

第4回

事前学修課題：コア・コンピタンスについて調べる。1.5時間。

事後学修課題：コア・コンピタンスについてまとめる。2.5時間。

第5回

事前学修課題：アンゾフの成長ベクトルについて調べる。1.5時間。

事後学修課題：アンゾフの成長ベクトルについてまとめる。2.5時間。

第6回

事前学修課題：アンゾフの多角化戦略について調べる。1.5時間。

事後学修課題：アンソフの多角化戦略についてまとめる。2.5 時間。

第 7 回

事前学修課題：プロダクト・ポートフォリオ・マネジメントについて調べる。1.5 時間。

事後学修課題：プロダクト・ポートフォリオ・マネジメントについてまとめる。2.5 時間。

第 8 回

事前学修課題：SWOT 分析について調べる。1.5 時間。

事後学修課題：SWOT 分析についてまとめる。2.5 時間。

第 9 回

事前学修課題：PEST 分析、3C 分析、VRIO 分析について調べる。1.5 時間。

事後学修課題：PEST 分析、3C 分析、VRIO 分析についてまとめる。2.5 時間。

第 10 回

事前学修課題：マイケル・ポーターの競争戦略について調べる。1.5 時間。

事後学修課題：マイケル・ポーターの競争戦略についてまとめる。2.5 時間。

第 11 回

事前学修課題：マイケル・ポーターの競争戦略における事例について調べる。1.5 時間。

事後学修課題：マイケル・ポーターの競争戦略における事例についてまとめる。2.5 時間。

第 12 回

事前学修課題：マイケル・ポーターの 5 つの要因について調べる。1.5 時間。

事後学修課題：マイケル・ポーターの 5 つの要因についてまとめる。2.5 時間。

第 13 回

事前学修課題：バリューチェーンについて調べる。1.5 時間。

事後学修課題：バリューチェーンについてまとめる。2.5 時間。

第 14 回

事前学修課題：ミンツバークの創発的戦略について調べる。1.5 時間。

事後学修課題：ミンツバークの創発的戦略についてまとめる。2.5 時間。

第 15 回

事前学修課題：事例とまとめについて調べる。1.5 時間。

事後学修課題：事例とまとめについてまとめる。3.5 時間。

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroom から個別にフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

経営戦略論の内容を理解し、到達目標に関わる到達度に応じて単位を授与する。

評価割合を合算し、総合的に評価する。

大阪国際大学の規定に基づき、やむを得ない欠席を除いて 5 回以上欠席した場合は「K」評価とする。

授業の出席は成績評価に加味しないので 15 回すべて出席したからといって単位が認定されるわけではない。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	10	振り返りシートのコメントの内容	1、2
授業外での評価	40	レポート課題（レポート内容、理解度、文章力）	1、2、3
期末試験	50	記述試験	1、2、3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	指定のテキストはない。
参考書	音部大輔（2017）『なぜ「戦略」で差がつくのか。—戦略思考でマーケティングは強くなる—』宣伝会議。 株式会社日本総合研究所（2018）『マンガでやさしくわかる経営戦略』日本能率協会マネジメントセンター。 楠木 建（2012）『ストーリーとしての競争戦略—優れた戦略の条件—』東洋経済新報社。 十川廣國編著（2013）『経営戦略論（第 2 版）』中央経済社。 富山和彦・岸本光永編著（2016）『ビジネスモデルを劣化させない戦略思考の鍛え方』日本経済新聞出版社。 日本総合研究所経営戦略研究会（2008）
履修条件・他の科目との関連	遠隔授業を予定しているので大学または自宅などの落ち着いた場所で Zoom を視聴すること。 やむを得ない事情で欠席する場合は事前または事後連絡をすること。 私語や受講者の迷惑になる行為については厳禁とする。
担当教員への連絡方法	・青木 崇 t-aoki@oiu.jp

授業コード	16209001		
授業科目名	経営分析	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	安高 真一郎		
成績担当教員氏名	安高 真一郎		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

企業はさまざまな環境に適応し、事業を展開している。そして、その活動の結果が財務諸表という形でまとめられ、利害関係者に提供される。したがって、各企業の状況を理解するためには、財務諸表の内容とその財務諸表がどのような情報を提供しているのかを理解することが重要である。本講義では、財務諸表のしくみおよびその財務諸表の数値を用いて各企業の状況を把握する方法を学習する。

到達目標

1. 企業が公表している有価証券報告書等の財務資料に基づいて、企業の経営分析の基礎を学ぶ。

授業計画

<p>【第1回】 ガイダンス 内容: 経営分析とは</p> <p>【第2回】 経営分析の意義と目的 内容: 経営分析の必要性と様々な分析項目</p> <p>【第3回】 支払能力の分析 1 内容: 流動比率と当座比率</p> <p>【第4回】 安定性の分析 1 内容: 自己資本比率と負債比率</p> <p>【第5回】 安定性の分析 2 内容: 固定比率と固定長期適合率</p> <p>【第6回】 資金運用力の分析 1 内容: 総資本回転率</p> <p>【第7回】 資金運用力の分析 2 内容: 売上債権回転率と棚卸資産回転率</p> <p>【第8回】 収益性分析 1 内容: 総資本利益率と自己資本利益率</p> <p>【第9回】 収益性分析 2 内容: 資本金当期利益率と経営資本営業利益率</p> <p>【第10回】 収益性分析 3 内容: 売上高総利益率と売上高営業利益率</p> <p>【第11回】 収益性分析 5 内容: 売上高経常利益率と売上高当期利益率</p> <p>【第12回】 キャッシュ・フロー計算書 内容: キャッシュ・フロー計算書の必要性</p> <p>【第13回】 キャッシュ・フロー分析とキャッシュ・フロー経営 内容: キャッシュ・フロー計算書を用いた分析手法</p> <p>【第14回】 生産性の分析 内容: 労働生産性と労働分配率</p> <p>【第15回】 総合演習 内容: これまでの総復習</p>

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

<p>【第1回】 ①事前学習: シラバスを熟読(90分) ②事後学習: 経営分析の概念を把握した上で履修登録を再検討(90分)</p> <p>【第2回】 ①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分) ②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)</p> <p>【第3回】 ①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分) ②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)</p> <p>【第4回】 ①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分) ②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)</p> <p>【第5回】 ①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分) ②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)</p> <p>【第6回】 ①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分) ②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)</p> <p>【第7回】 ①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分) ②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)</p>
--

<p>【第8回】</p> <p>①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)</p> <p>②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)</p> <p>【第9回】</p> <p>①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)</p> <p>②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)</p> <p>【第10回】</p> <p>①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)</p> <p>②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)</p> <p>【第11回】</p> <p>①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)</p> <p>②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)</p> <p>【第12回】</p> <p>①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)</p> <p>②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)</p> <p>【第13回】</p> <p>①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)</p> <p>②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)</p> <p>【第14回】</p> <p>①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)</p> <p>②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)</p> <p>【第15回】</p> <p>①事前学習: これまでの内容で質問等をまとめておく。(90分)</p> <p>②事後学習: 期末試験へ備える(90分)</p>
--

課題に対するフィードバックの方法
授業中に返却し、解説を行う。
成績評価の方法・基準 (方針)
授業内での取り組み姿勢、期末試験の点数により総合的に評価する。 ※欠席6回以上でK評価

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	毎回、授業内で演習を行う。 その取り組み姿勢や解答の正誤によって評価する。	1
授業外での評価	0		
期末試験	0		
定期試験	60	定期試験の点数を基に評価する。	1
その他	0		

テキスト	新版 入門経営分析 / 藤永 弘 (著), 坂下 紀彦 (著), 長井 敏行 (著), 安高 真一郎 (著), 倉田 三郎 (監修) / 同文館出版
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	「会計学入門」を履修していることが望ましい。 また、毎回電卓を持参すること。 ノートを必ず持参し、また配布資料には必ず目を通すこと。 毎回行う演習には、積極的に臨むこと。 私語は控え、スマホでも遊ばず授業に集中すること。 数学(計算)が苦手な学生には、受講をオススメしない。
担当教員への連絡方法	・安高 真一郎 s-ataka@oiu.jp

授業コード	16206701		
授業科目名	人的資源管理	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	青木 崇		
成績担当教員氏名	青木 崇		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

本講義では人的資源管理の基本的な考え方、人的資源管理の仕組み、新しい勤労スタイルについて学習する。経営資源は一般にヒト、モノ、カネ、情報の4つの要素からなるといわれている。人的資源管理とはこのうちのヒトに関する企業の管理（マネジメント）活動の総称である。日本では1990年代半ば頃から労務管理あるいは人事管理が人的資源管理という名称に代わってきた。人的資源管理の対象であるヒト資源のもつ特徴は経営資源を構成する4要素の中でも最も基本的かつ重要な構成要素であるという点である。モノ、カネ、情報とは異なり、ヒトは生身の人間であるため、喜怒哀楽の感情をもち、高度な思考をする主体であるという点をあげることができる。

働き方改革が問われる中、企業の採用管理、ヒューマンアセスメントの重要性、ライフシフト、人事考課における評価者の能力の問題などの労働環境に関わる論点がある。

授業は講義形式で受動的学習になるが、事前学習では授業テーマに関する問題について考え、ノートにまとめておく必要があり、事後学習では授業で提示された資料や紹介された参考文献をもとに学習していくといった主体的学習が必要となる。

到達目標

1.人的資源管理論の基本的な概念、論点、フレームワークについて説明することができる。

2.実際の企業の人的資源管理について考察し、説明することができる。

3.今後の人的資源管理論のあり方と課題について考察し、説明することができる。

授業計画

第1回 イントロダクション

第2回 人はなぜ働くのか：人はなぜ働くのかについて考察する

第3回 モチベーション：モチベーションについて学習する

第4回 モチベーション理論：モチベーション理論について学習する

第5回 リーダーシップ1：リーダーシップについて学習する

第6回 リーダーシップ2：リーダーシップについて理解を深める

第7回 戦略的人的資源管理：戦略的人的資源管理について学習する

第8回 組織と人的資源管理：組織と人的資源管理について学習する

第9回 働き方1：働き方について学習する

第10回 働き方2：働き方について理解を深める

第11回 キャリアデザイン：キャリアデザインについて学習する

第12回 ダイバーシティ経営：ダイバーシティ経営について学習する

第13回 SDGs（持続可能な開発目標）1：SDGsについて学習する

第14回 SDGs（持続可能な開発目標）2：SDGsについて理解を深める

第15回 まとめ

授業計画を変更することがある。

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

第1回

事前学習課題：授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する。1時間。

事後学習課題：授業の説明内容に基づき人的資源管理論の基礎知識を学習し、ノートを準備する。1時間。

第2回

事前学習課題：人はなぜ働くのかについて調べる。1.5時間。

事後学習課題：人はなぜ働くのかについてまとめる。2.5時間。

第3回

事前学習課題：モチベーションについて調べる。1.5時間。

事後学習課題：モチベーションについてまとめる。2.5時間。

第4回

事前学習課題：モチベーション理論について調べる。1.5時間。

事後学習課題：モチベーション理論についてまとめる。2.5時間。

第5回

事前学習課題：リーダーシップについて調べる。1.5時間。

事後学習課題：リーダーシップについてまとめる。2.5時間。

第6回

事前学習課題：リーダーシップについて調べる。1.5時間。

事後学習課題：リーダーシップについてまとめる。2.5時間。

第7回

事前学習課題：戦略的人的資源管理について調べる。1.5時間。

事後学習課題：戦略的人的資源管理についてまとめる。2.5時間。

<p>第8回 事前学修課題：組織と人的資源管理について調べる。1.5時間。 事後学修課題：組織と人的資源管理についてまとめる。2.5時間。</p> <p>第9回 事前学修課題：働き方について調べる。1.5時間。 事後学修課題：働き方についてまとめる。2.5時間。</p> <p>第10回 事前学修課題：働き方について調べる。1.5時間。 事後学修課題：働き方についてまとめる。2.5時間。</p> <p>第11回 事前学修課題：キャリアデザインについて調べる。1.5時間。 事後学修課題：キャリアデザインについてまとめる。2.5時間。</p> <p>第12回 事前学修課題：ダイバーシティ経営について調べる。1.5時間。 事後学修課題：ダイバーシティ経営についてまとめる。2.5時間。</p> <p>第13回 事前学修課題：SDGsについて調べる。1.5時間。 事後学修課題：SDGsについてまとめる。2.5時間。</p> <p>第14回 事前学修課題：SDGsについて調べる。1.5時間。 事後学修課題：SDGsについてまとめる。2.5時間。</p> <p>第15回 事前学修課題：まとめについて調べる。1.5時間。 事後学修課題：まとめについてまとめる。3.5時間。</p>

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroom から個別にフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

人的資源管理論の内容を理解し、到達目標に関わる到達度に応じて単位を授与する。
評価割合を合算し、総合的に評価する。
大阪国際大学の規定に基づき、やむを得ない欠席を除いて5回以上欠席した場合は「K」評価とする。
授業の出席は成績評価に加味しないので15回すべて出席したからといって単位が認定されるわけではない。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	振り返りシートのコメントの内容 (10) 受講態度 (10)	1、2
授業外での評価	30	レポート課題 (レポート内容、理解度、文章力)	1、2、3
期末試験	0		
定期試験	50	記述試験	1、2、3
その他	0		

テキスト 指定のテキストはない。

参考書
 奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著 (2014)『入門人的資源管理』中央経済社。
 上林憲雄編著 (2015)『人的資源管理』中央経済社。
 上林憲雄・厨子直之・森田雅也 (2018)『経験から学ぶ人的資源管理 (新版)』有斐閣。
 佐藤博樹・藤村博之・八代充史 (2015)『新しい人事労務管理』有斐閣。
 白木三秀編著 (2015)『人的資源管理の基本』文眞堂。
 白木三秀編著 (2018)『人的資源管理の力』文眞堂。
 原田順子・平野光俊 (2018)『人的資源管理』放送大学教育振興会。
 日沖 健 (2017)『変革す

履修条件・他の科目との関連
 日頃から新聞や雑誌を読み、当該テーマについての知識を蓄えておくこと。
 積極的な参加を求める。
 やむを得ない事情で欠席する場合は事前または事後連絡をすること。
 私語や受講者の迷惑になる行為については厳禁とする。

担当教員への連絡方法
 ・青木 崇 t-aoki@oiu.jp

授業コード	16211901		
授業科目名	NPO論	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	小竹森 晃		
成績担当教員氏名	小竹森 晃		
単位数	2単位	開講年次	3年
		開講期	2021年度後期

授業の目的・概要			
<p>まちづくりは「行政（団体自治）」だけが行うものではなく、「市民（住民自治）」が重要な担い手となっている。すなわち、「住民自治をベースにしたガバナンス」を考え、実践して行くことが必要不可欠である。加えて、「市民活動団体（NPOなど）」は、行政に代わる公共サービスの担い手として注目を集めている。</p> <p>この授業では、市民活動の歴史や市民活動団体の特徴について触れながら、事例を交えつつ、それらが社会で果たしている役割や理念及び課題などについて学ぶ。</p> <p>また、受講生の理解を促進するために、まちづくりの動画を活用し、かつ、市民活動をしておられる方をゲストスピーカーとしてお招きし、活きた（リアルな）情報をお話し頂く予定である。</p>			
到達目標			
<p>以下の点を、この授業の到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. まちづくりにおける、市民活動の役割や理念及び課題について理解する。 2. 日常生活の中に、市民活動が関わっていることを理解する。 3. 受講生自身もまちづくりの主体者であることを認識する。 			
授業計画			
<p>★この授業は、遠隔授業となります。原則として、リアルタイム型授業で実施予定です。参加方法などの詳細は、追って案内します。</p> <p>【第1回】 ガイダンス 内容：アイスブレイキング、授業の内容、進め方、評価などについて</p> <p>【第2回】 市民活動の意義 内容：住民自治と団体自治</p> <p>【第3回】 市民活動の歴史① 内容：地縁組織（コミュニティ）</p> <p>【第4回】 市民活動の歴史② 内容：NPO（アソシエーション）</p> <p>【第5回】 市民活動の歴史③ 内容：住民運動・市民運動</p> <p>【第6回】 市民活動団体の役割① 内容：自発性と主体性</p> <p>【第7回】 市民活動団体の役割② 内容：組織のマネジメント</p> <p>【第8回】 市民活動団体の役割③ 内容：事例の考察</p> <p>【第9回】 前半のふりかえり 内容：ミニレポートの作成</p> <p>【第10回】 市民活動における外部人材（よそ者）の役割 内容：学生・地域おこし協力隊</p> <p>【第11回】 市民活動におけるボランティア 内容：社会福祉協議会・シルバー人材センター</p> <p>【第12回】 ゲストスピーカーの講演①</p> <p>【第13回】 ゲストスピーカーの講演②</p> <p>【第14回】 ゲストスピーカーの講演③</p> <p>【第15回】 後半のふりかえりとまとめ 内容：市民活動のポイントを整理</p>			
事前事後の学習			
<p>授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。</p> <p>◆事前学習：市民活動に関連する新聞記事などに目を通しておくなど、市民活動の情報収集しておくこと。</p> <p>◆事後学習：レジュメや自分で作成した授業ノートなどで、毎回ふりかえり（復習）すること。</p>			

課題に対するフィードバックの方法			
この授業では、受講生に、授業での疑問や課題などを記入する「ふりかえりシート」を毎回提出してもらう。それに対して教員が、コメントなどを記入しフィードバックする。			
成績評価の方法・基準（方針）			
毎回提出する「ふりかえりシート」の内容：20％ 第9回の授業でのミニレポート：20％ 期末レポート：60％			
成績評価の種類	評価割合（％）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	第9回の授業でのミニレポート：20％	1・2・3
授業外での評価	0		
期末試験	60	期末レポート：60％	1・2・3
定期試験	0		
その他	20	毎回提出する「ふりかえりシート」の内容：20％	1・2・3

テキスト	毎回レジュメを配布する。
参考書	今川晃編著『自治体政策への提言－学生参加の意義と現実－』北樹出版、2016年 佐藤竺監修、今川晃、馬場健編『市民のための地方自治入門－サービスの担い手から自治の担い手へ－』新訂版、実務教育出版、2009年 渋谷典子著『NPOと労働法－新たな市民社会構築に向けたNPOと労働法の課題』晃洋書房、2019年 中田実『地域分権時代の町内会・自治会』新版、自治体研究社、2017年 西尾隆編著『住民・コミュニティとの協働』ぎょうせい、2004年 原田晃樹、藤井敦史、松井真理『NPO再構築への道－パートナー
履修条件・他の科目との関連	この授業は、受講生が自ら考え、受講生同士で意見を共有する「グループワーク」を毎回実施する。については、受け身の姿勢で臨まず、積極的に質問や意見などを述べることを望んでいる。
担当教員への連絡方法	・小竹森 晃 a-kotakemori@oiu.jp

授業コード	16201901		
授業科目名	マーケティング論	実務家教員による授業	○
授業担当教員氏名	近藤 浩章		
成績担当教員氏名	近藤 浩章		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

マーケティングの学習を通じてビジネスを見る眼を養う。
 基本的なマーケティングフレームワークについて、順を追って授業をすすめていく。各テーマでは、企業が実践している事例をわかりやすく解説し、マーケティングを身近なものと考えられるように工夫する。また全体を通じて、戦略的思考力を鍛えていく。
 担当教員が長年に亘り、企業において「マーケティング」業務に従事した実務経験をもとに、「マーケティング」に関する理論と実践への応用を関連付けながら講義を展開する。

到達目標

1. マーケティング・マネジメントの基礎的・理論的概念について理解している。
2. 企業のマーケティング戦略を基礎的・理論的概念に照らし合わせて解釈することができる。
3. ビジネス課題（テーマ）に対して学習した諸概念を用いながら仮説をたてることができる。

授業計画

※授業計画については変更する可能性もある。

- 【第1回】 イントロダクション
 内容・方法：講義概要、授業内レポート、マーケティングを学ぶ意義について解説する。
- 【第2回】 マーケティングの目的
 内容・方法：ビジネスにおけるマーケティングの目的を、事例を交えて解説する。
- 【第3回】 顧客について
 内容・方法：顧客という存在、顧客ニーズについて事例を交えて解説する。
- 【第4回】 ビジネスチャンスをつかむ
 内容・方法：事業創造や企業成長のために企業はどのようなことをするのか、事例を交えて解説する。
- 【第5回】 自分のビジネスを決める
 内容・方法：事業の領域を決めるという意味とその効果について事例を交えて解説する。
- 【第6回】 マーケティング・プロセス
 内容・方法：第1回～第5回の内容を踏まえ、マーケティングをどう進めるのか、全体像を解説する。
- 【第7回】 ターゲットを決める
 内容・方法：顧客を絞り込んでターゲットを決める意味を、事例を交えて解説する。
- 【第8回】 戦い方のシナリオをつくる
 内容・方法：競争戦略の概念を基本に、賢く戦って効果的に勝つ法則を、事例を交えて解説する。
- 【第9回】 商品を企画する
 内容・方法：第6回～第8回の内容を踏まえて、商品を企画する方法を、事例を交えて解説する。
- 【第10回】 価格を決める
 内容・方法：価格は安いほうがいいのか、価格の決め方とその機能について事例を交えて解説する。
- 【第11回】 流通を決める
 内容・方法：流通の機能や必要性について考え、マーケティングのシナリオとの整合について解説する。
- 【第12回】 コミュニケーションを決める
 内容・方法：コミュニケーションの機能、ネット普及による双方向性について事例を交えて解説する。
- 【第13回】 マーケティング活動の評価
 内容・方法：第12回までの内容を踏まえて、マーケティング活動の評価について事例を交えて解説する。
- 【第14回】 サービス・マーケティング
 内容・方法：非製造業のマーケティングの特徴や課題について、事例を交えて解説する。
- 【第15回】 マーケティング論まとめ
 内容・方法：マーケティング論全体の振り返りを行い、定期試験のガイダンスを実施する。

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

- 【第1回】 講義概要などの説明を受けて、マーケティングを学ぶ意義について理解を深める。
- 【第2回】 マーケティングの目的について、企業が行っているマーケティング事例を調べて理解する。
- 【第3回】 顧客について、授業で示された事例をはじめ、興味があるマーケティング事例を調べて理解する。
- 【第4回】 ビジネスチャンスについて、授業で示された事例をはじめ、興味がある企業の成長戦略を調べて理解する。
- 【第5回】 事業領域について、授業で示された事例をはじめ、興味がある企業の事業戦略を調べて理解する。
- 【第6回】 マーケティング・プロセスについて、授業で示された内容や事例を復習して理解する。
- 【第7回】 ターゲティングについて、授業で示された事例をはじめ、興味がある企業のターゲティングを調べて理解する。
- 【第8回】 戦い方のシナリオについて、授業で示された事例をはじめ、興味がある企業の競争戦略を調べて理解する。
- 【第9回】 商品企画について、授業で示された事例をはじめ、興味がある企業の商品戦略を調べて理解する。
- 【第10回】 価格戦略について、授業で示された事例をはじめ、興味がある企業の価格戦略を調べて理解する。
- 【第11回】 流通戦略について、授業で示された事例をはじめ、興味がある企業の流通戦略を調べて理解する。
- 【第12回】 コミュニケーション戦略について、授業で示された事例をはじめ、興味がある企業のコミュニケーション戦略を調べて理解する。
- 【第13回】 マーケティング活動の評価について、授業内容を復習し、企業活動における意味を確認する。
- 【第14回】 サービス・マーケティングについて、授業で示された事例をはじめ、興味がある企業のサービスマーケティングを調べて理解する。
- 【第15回】 マーケティング論の授業を振り返り、期末試験の準備を行う。

事前事後の学習時間：第1回は事後学習4.0時間、第2回～第14回は各回事前1.5時間、事後2.5時間、第15回は事前学習4.0時間

課題に対するフィードバックの方法			
学生の質問に答える形で実施する。			
成績評価の方法・基準（方針）			
以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。 ※成績評価方法・基準については、場合によっては変更する可能性もある。 ※※授業時間内の発言は回数をカウントし、授業参画の積極性を評価する。 ※※※確認テストは各授業ごとに示し、授業時間外に取り組むものとする。			
成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	授業時間内の発言回数・内容（20）	1,2
授業外での評価	40	各回の確認テスト（30）、課題レポート（10）	1,2
期末試験	0		
定期試験	40	筆記試験（40）	2,3
その他	0		

テキスト	テキストは指定しない。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介します。
履修条件・他の科目との関連	当日課題（レポート）作成のため、講義内容をしっかりと聞いてください。 講義内容を理解するための積極的な態度で履修してください。
担当教員への連絡方法	・近藤 浩章 h-kondo@oiu.jp

授業コード	16208901		
授業科目名	証券市場論	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	外島 健嗣		
成績担当教員氏名	外島 健嗣		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

証券市場は資本主義経済の発展に重要な役割を担っている場であり、そこでは国債、社債、株式など多種多様な証券が発行され、流通しており、その公正な価格形成や円滑な取引が実施されるよう様々な制度及び規制が設けられています。本授業では、証券市場の構造と機能について考察します。併せて、証券市場での資産運用にはどのようなリスクがあるかも考察します。

なお外部講師による講義を1～2回予定しており、その際は若干シラバスの内容は異なります。

到達目標

1. 株式投資について理解できるようになる。
2. 債券投資について理解できるようになる。
3. 投資信託投資について理解できるようになる。

授業計画

この授業は、遠隔授業となります。リアルタイム型の遠隔授業（その授業時間にZoom等で参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施予定です。なお、一部リアルタイム型授業を取り入れることがあります。その場合、2週間前には連絡します。参加方法などの詳細は、追って連絡します。

【第1回】証券市場論で学ぶこと（目標と対象）：授業で学習する内容を説明する。

【第2回】個人の資産運用の在り方：資産運用をめぐる動き

【第3回】株式市場（1）：株式発行市場

【第4回】株式市場（2）：株式流通市場

【第5回】株式投資：株価変動要因

【第6回】債券投資：債券投資のリターンとリスク

【第7回】投資信託（1）投資信託の特徴

【第8回】投資信託（2）：投資信託の運用とパフォーマンス評価

【第9回】外国証券投資（1）：外国証券投資の意義

【第10回】外国証券投資（2）：欧米の株式市場

【第11回】デリバティブ市場（1）：先物取引

【第12回】デリバティブ市場（2）：オプション取引

【第13回】ポートフォリオ運用の理論：ポートフォリオと分散投資

【第14回】ポートフォリオ・マネジメント：ポートフォリオ・マネジメントのプロセス

【第15回】まとめ：復習

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

授業（1回について2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

【第1回】

事前学修課題：シラバスを読む 2.0時間

事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0時間

【第2回】

事前学修課題：現在の資産運用状況について調べておこう 2.0時間

事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0時間

【第3回】

事前学修課題：株式市場に関するニュースをチェックしよう 2.0時間

事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0時間

【第4回】

事前学修課題：株式市場に関するニュースをチェックしよう 2.0時間

事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0時間

【第5回】

事前学修課題：株式市場に関するニュースをチェックしよう 2.0時間

事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0時間

【第6回】

事前学修課題：債券市場に関するニュースをチェックしよう 2.0時間

事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0時間

【第7回】

事前学修課題：投資信託とは何か調べておこう 2.0時間

事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0時間

【第8回】

事前学修課題：投資信託の種類について調べておこう 2.0時間

事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0時間

【第9回】

事前学修課題：海外の証券市場に関するニュースをチェックしよう 2.0時間

事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0時間

【第10回】

事前学修課題：海外の証券市場に関するニュースをチェックしよう 2.0時間

事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0時間

<p>【第11回】 事前学修課題：先物取引について調べておこう 2.0時間 事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0時間</p> <p>【第12回】 事前学修課題：オプション取引について調べておこう 2.0時間 事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0時間</p> <p>【第13回】 事前学修課題：ポートフォリオについて調べておこう 2.0時間 事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0時間</p> <p>【第14回】 事前学修課題：今後、どのように資産運用しようと思うか考えておこう 2.0時間 事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0時間</p> <p>【第15回】 事前学修課題：過去の資料を再読しておこう 2.0時間 事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0時間</p>

課題に対するフィードバックの方法

講義中に解説します。

成績評価の方法・基準（方針）

課題提出状況及び内容により評価します。
課題は講義日当日に提出するように心掛けてください。
それ以降、減点し、1週間経過後は提出されても受理しません。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	課題提出状況及び内容	1, 2, 3
授業外での評価	0		
期末試験	25	課題提出状況及び内容	1, 2, 3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	坂下晃編著『証券投資の基礎知識』晃洋書房、I S B N 978-4-7710-3255-2 2600円（税別）
参考書	日本証券経済研究所編『図説日本の証券市場 2020』日本証券経済研究所
履修条件・他の科目との関連	金融経済論、資産運用論は履修済み或いは今年度履修することが望ましい。 後期の国際金融論も受講することが望ましい。
担当教員への連絡方法	・外島 健嗣 sotojima@oiu.jp

授業コード	16202101		
授業科目名	財務会計論	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	高橋 泰代		
成績担当教員氏名	高橋 泰代		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

財務会計は企業を取り巻く外部の利害関係者を対象とした会計の分野である。財務会計の意義や体系を基礎として、会計制度と社会情勢や経済社会と関連付け、財務諸表の内容や会計情報の質的特徴を理解することを目的とする。また財務諸表の構造と役割、会計情報の意義を解説する。

到達目標

1. 企業が公表する会計情報を理解することができる。
2. 新聞や専門雑誌に掲載された企業情報や企業の業績が理解できる。

授業計画

★この授業は、遠隔授業となります。原則として、リアルタイム型授業で実施予定です。

参加方法などの詳細は、追って案内します。

【第1回】

テーマ：イントロダクション

内容・方法：会計の領域

【第2回】

テーマ：財務会計の基本的前提

内容・方法：財務会計の意義について解説

【第3回】

テーマ：会計情報について

内容・方法：財務諸表の種類と意義について解説

【第4回】

テーマ：財務諸表の構成要素

内容・方法：貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の役割と構造について解説

【第5回】

テーマ：国際会計

内容・方法：国際会計と日本会計の関連性について解説

【第6回】

テーマ：日本会計制度の課題

内容・方法：国際会計基準への統一化、採用の課題について解説

【第7回】

テーマ：企業会計の役割

内容・方法：企業会計の意義と役割について解説

【第8回】

テーマ：損益計算書

内容・方法：損益計算書の構造と役割について解説

【第9回】

テーマ：貸借対照表

内容・方法：貸借対照表の構造と役割について解説

【第10回】

テーマ：キャッシュ・フロー計算書

内容・方法：キャッシュ・フロー計算書の構造と役割について解説

【第11回】

テーマ：有価証券報告書

内容・方法：有価証券報告書における会計情報について解説

【第12回】

テーマ：有価証券報告書（貸借対照表）

内容・方法：有価証券報告書における貸借対照表の内容について解説

【第13回】

テーマ：有価証券報告書（損益計算書）

内容・方法：有価証券報告書における損益計算書の内容について解説

【第14回】

テーマ：有価証券報告書（キャッシュ・フロー計算書）

内容・方法：有価証券報告書におけるキャッシュ・フロー計算書について解説

【第15回】

テーマ：財務会計における会計情報の意義

内容・方法：財務会計における会計情報の意義について解説

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

【第1回】

①事前学修課題：シラバスを読んでおくこと。(90分)

②事後学修課題：会計の領域についてまとめる。(90分)

<p>【第2回】 ①事前学修課題：財務会計の意義について調べる。(90分) ②事後学修課題：財務会計の意義についてまとめる。(90分)</p> <p>【第3回】 ①事前学修課題：財務諸表について調べる。(90分) ②事後学修課題：財務諸表の内容についてまとめる。(90分)</p> <p>【第4回】 ①事前学修課題：貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の役割について調べる。(90分) ②事後学修課題：貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の役割と構造についてまとめる。(90分)</p> <p>【第5回】 ①事前学修課題：国際会計について調べる。(90分) ②事後学修課題：国際会計と日本会計の関連性についてまとめる。(90分)</p> <p>【第6回】 ①事前学修課題：日本会計制度の特徴について調べる。(90分) ②事後学修課題：国際会計基準への統一化、採用の課題についてまとめる。(90分)</p> <p>【第7回】 ①事前学修課題：企業会計の意義について調べる。(90分) ②事後学修課題：企業会計の意義と役割についてまとめる。(90分)</p> <p>【第8回】 ①事前学修課題：損益計算書について調べる。(90分) ②事後学修課題：損益計算書の構造と役割についてまとめる。(90分)</p> <p>【第9回】 ①事前学修課題：貸借対照表について調べる。(90分) ②事後学修課題：貸借対照表の構造と役割についてまとめる。(90分)</p> <p>【第10回】 ①事前学修課題：キャッシュ・フロー計算書について調べる。(90分) ②事後学修課題：キャッシュ・フロー計算書の構造と役割についてまとめる。(90分)</p> <p>【第11回】 ①事前学修課題：有価証券報告書の内容を調べる。(90分) ②事後学修課題：有価証券報告書における会計情報についてまとめる。(90分)</p> <p>【第12回】 ①事前学修課題：有価証券報告書における貸借対照表について調べる。(90分) ②事後学修課題：有価証券報告書における貸借対照表の内容についてまとめる。(90分)</p> <p>【第13回】 ①事前学修課題：有価証券報告書における損益計算書について調べる。(90分) ②事後学修課題：有価証券報告書における損益計算書の内容についてまとめる。(90分)</p> <p>【第14回】 ①事前学修課題：有価証券報告書におけるキャッシュ・フロー計算書について調べる。(90分) ②事後学修課題：有価証券報告書におけるキャッシュ・フロー計算書についてまとめる。(90分)</p> <p>【第15回】 ①事前学修課題：財務会計における会計情報の意義について調べる。(90分) ②事後学修課題：財務会計における会計情報の意義についてまとめる。(90分)</p>			
課題に対するフィードバックの方法			
授業内で講評を行い、解説する。			
成績評価の方法・基準（方針）			
授業内課題の提出と最終レポートによって評価します。			
成績評価の種類	評価割合（％）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業で提示される内容のレポートを作成すること。	1,2
授業外での評価	0		
期末試験	70	<ul style="list-style-type: none"> 客観的なデータ、資料に基づいた分析、考察ができているか。 著作権マナーを守っているか。 その他提示された注意事項に従っているか。 	1,2
定期試験	0	定期試験は実施しません。	
その他	0		
テキスト	必要に応じて資料を配布する。		
参考書	必要に応じて参考書を紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	会計学入門、簿記原理、など会計関連科目を履修することが望ましい。		
担当教員への連絡方法	・高橋 泰代 takahasi@oiu.jp		

授業コード	16202201		
授業科目名	原価計算論	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	安高 真一郎		
成績担当教員氏名	安高 真一郎		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

製品を製造し販売している企業(製造業)は、さまざまな目的のために製品を製造するためにかかったコストを計算している。1つは、各製品を製造するのにかかったコストを計算し、財務諸表を作成するためである。もう1つは、どこにどんなコストがかかったのかを計算することで、コストを削減するために何をしなければならないのかを知り、マネジメントに生かすためである。このように、原価計算は特に製造に携わっている企業において重要な手法となっている。そこで、本講義では、原価および原価計算の手法について学習し、マネジメントに必要な知識を身につけることを目的とする。

到達目標

1. 原価とは何か、原価の発生理由、コスト削減の効果、コスト削減と利益の関係を理解する。

授業計画

★この授業は、遠隔授業となります。原則として、リアルタイム型授業で実施予定です。参加方法などの詳細は、追って案内します。

【第1回】ガイダンス

内容: 原価計算とは

【第2回】原価計算のなりたち

内容: 原価計算の歴史

【第3回】企業の利益と原価

内容: 原価計算の必要性

【第4回】原価の3要素

内容: 具体的に原価とは何を指すのか

【第5回】製造直接費と製造間接費

内容: 製造費の区別について

【第6回】個別原価計算

内容: 個別原価計算の基礎と例

【第7回】部門別原価計算1

内容: 直接配賦法

【第8回】部門別原価計算2

内容: 相互配賦法

【第9回】総合原価計算1

内容: 単純総合原価計算

【第10回】総合原価計算2

内容: 先入先出法と平均法

【第11回】総合原価計算3

内容: 工程別総合原価計算

【第12回】総合原価計算4

内容: 組別総合原価計算

【第13回】総合原価計算5

内容: 等級別総合原価計算

【第14回】総合演習1

内容: これまでの復習問題

【第15回】総合演習2

内容: これまでの復習問題

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

【第1回】

①事前学習: シラバスを熟読(90分)

②事後学習: 原価計算の概念を把握した上で履修登録を再検討(90分)

【第2回】

①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索しておく。(90分)

②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)

【第3回】

①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索しておく。(90分)

②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)

【第4回】

①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索しておく。(90分)

②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)

【第5回】

①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索しておく。(90分)

②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)

【第6回】

①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索しておく。(90分)

②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)

<p>【第7回】</p> <p>①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)</p> <p>②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)</p> <p>【第8回】</p> <p>①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)</p> <p>②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)</p> <p>【第9回】</p> <p>①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)</p> <p>②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)</p> <p>【第10回】</p> <p>①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)</p> <p>②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)</p> <p>【第11回】</p> <p>①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)</p> <p>②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)</p> <p>【第12回】</p> <p>①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)</p> <p>②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)</p> <p>【第13回】</p> <p>①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)</p> <p>②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)</p> <p>【第14回】</p> <p>①事前学習: これまでの内容で質問等をまとめておく。(90分)</p> <p>②事後学習: 期末試験へ備える(90分)</p> <p>【第15回】</p> <p>①事前学習: これまでの内容で質問等をまとめておく。(90分)</p> <p>②事後学習: 期末試験へ備える(90分)</p>

課題に対するフィードバックの方法

授業中に返却し、解説を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

授業内での取り組み姿勢、期末試験の点数により総合的に評価する。
 ※欠席6回以上でK評価

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	毎回、授業内で演習を行う。 その取り組み姿勢や解答の正誤によって評価する。	1
授業外での評価	0		
期末試験	0		
定期試験	60	定期試験の点数を基に評価を行う。	1
その他	0		

テキスト	プリントを配布する
参考書	授業中に紹介する
履修条件・他の科目との関連	簿記に関する知識が若干必要。 ノートを必ず持参し、また配布資料には必ず目を通すこと。 毎回行う演習には、積極的に臨むこと。 私語は控え、スマホでも遊ばず授業に集中すること。
担当教員への連絡方法	・安高 真一郎 s-ataka@oiu.jp

授業コード	16202301		
授業科目名	管理会計論	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	安高 真一郎		
成績担当教員氏名	安高 真一郎		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

企業において、各階層の経営管理者はさまざまな意思決定を行い、マネジメントを行っている。たとえば、経営管理者は工場をどこに設立するのかを決定する場合もあるし、企業内で製造している製品にいくらを価格をつけるのかということを決める場合もある。このように、企業をマネジメントする上で必要な情報のひとつが財務情報である。管理会計は、経営管理者が行うマネジメントに必要な情報を提供する役割を担っているのである。そこで、本講義では、経営管理者に情報を提供する管理会計の各テーマを学習する。具体的には、各テーマの基本的な内容（事例も含む）を講義するとともに、各手法を体験してもらうため問題を解くなどの実習を行う。

到達目標

1. 業績評価・予算管理・原価計算の3大要素の基本的な知識を身に付ける。
2. 企業内部の利害関係者に対して、経営状態や財政状況を報告する管理会計の基礎を理解する。
3. 管理会計で用いる手法(予算管理や利益予測など)について学ぶ。

授業計画

★この授業は、遠隔授業となります。原則として、リアルタイム型授業で実施予定です。参加方法などの詳細は、追って案内します。

【第1回】ガイダンス

内容: 管理会計とは

【第2回】管理会計の概要

内容: 経営管理のプロセス

【第3回】管理会計の概要

内容: 会計学の全体像

【第4回】原価管理1

内容: 原価管理の基礎と原価計算の意義

【第5回】原価管理2

内容: 原価計算の種類と構造

【第6回】原価管理3

内容: 意思決定のための原価概念

【第7回】原価管理

内容: 原価によるマネジメント

【第8回】利益計画

内容: 経営戦略の概要

【第9回】利益計画

内容: 経営計画および利益計画の基礎

【第10回】PVC分析1

内容: 損益分岐点分析の基礎

【第11回】PVC分析2

内容: 損益分岐点分析の応用問題1

【第12回】PVC分析3

内容: 損益分岐点分析の応用問題2

【第13回】投資計画1

内容: 設備投資の有効性分析1

【第14回】投資計画2

内容: 設備投資の有効性分析2

【第15回】総合演習

内容: これまでの総復習

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

【第1回】

①事前学習: シラバスを熟読(90分)

②事後学習: 管理会計の概念を把握した上で履修登録を再検討(90分)

【第2回】

①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索しておく。(90分)

②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)

【第3回】

①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索しておく。(90分)

②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)

【第4回】

①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索しておく。(90分)

②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)

【第5回】

①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索しておく。(90分)

②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)

【第6回】

①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)
②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)
【第7回】
①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)
②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)
【第8回】
①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)
②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)
【第9回】
①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)
②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)
【第10回】
①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)
②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)
【第11回】
①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)
②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)
【第12回】
①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)
②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)
【第13回】
①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)
②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)
【第14回】
①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)
②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)
【第15回】
①事前学習: これまでの内容で質問等をまとめておく。(90分)
②事後学習: 期末試験へ備える(90分)

課題に対するフィードバックの方法

授業中に返却し、解説を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

授業内での取り組み姿勢、期末試験の点数により総合的に評価する。

※欠席6回以上でK評価

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	毎回、授業内で演習を行う。 その取り組み姿勢や解答の正誤によって評価する。	1, 2, 3
授業外での評価	0		
期末試験	0		
定期試験	60	定期試験の点数を基に評価する。	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	プリントを配布する
参考書	岡本清,尾畑裕,広本敏郎,挽文字子著,管理会計 第2版,中央経済社,2008年,¥3,660(税込) 上埜進,島吉伸,吉田栄介,杉山善浩著,管理会計の基礎—理論と実践,税務経理協会,2005年,¥3,570(税込)
履修条件・他の科目との関連	「会計学入門」を履修していることが望ましい。 毎回電卓を持参すること。 ノートを必ず持参し、また配布資料には必ず目を通すこと。 毎回行う演習には、積極的に臨むこと。 私語は控え、スマホでも遊ばず授業に集中すること。 数学(計算)が苦手な学生には、受講をオススメしない。
担当教員への連絡方法	・安高 真一郎 s-ataka@oiu.jp

授業コード	16208501		
授業科目名	財務管理論	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	市川 直樹		
成績担当教員氏名	市川 直樹		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

財務管理論では、企業の「カネ」の管理を通して会社経営について考えます。「財務」とは、「カネ」をどこから調達し、何に運用しているかということです。「カネ」といっても、私たちが一般に使っている現金だけではありません。「カネ」とは、会社が所有している「モノ」のすべて、つまり総額であり、これが「資本」です。したがって、財務管理とは、資本の調達と運用を管理することをいいます。また、「管理」とは、計画し、統制することです。さらに、財務管理は、収益性と流動性を基準として管理されます。このため、利益管理や資金管理もその範囲となります。

財務管理論では、このような財務管理の体系について理解し、資本の調達と運用に関する知識を習得し、また、収益性や流動性を基準として、財務計画や財務統制の考え方や技法を習得することを目標とします。

到達目標

- ① 財務計画や財務統制に関する基本的な知識や考え方を理解している。
- ② 財務活動を計画し、統制する技法を説明し、応用できる。

授業計画

★この授業は、遠隔授業となります。原則として、リアルタイム型授業で実施予定です。参加方法などの詳細は、追って案内します。

- 第1回 財務管理の意義
財務管理の意義と体系、財務活動、狭義の財務、広義の財務、資本、資産、資金、自己資本、他人資本、財務政策、財務計画、財務統制、資本調達管理、資本運用管理、流動性、収益性、利益管理、資金管理、予算管理
- 第2回 財務管理と企業会計
企業会計の役割と企業会計と財務管理の関係、企業会計、企業実体の公準、継続企業の公準、貨幣評価の公準、複式簿記、財務諸表、経営成績、損益計算書、財政状態、貸借対照表、財務会計、管理会計
- 第3回 資本の調達源泉の種類
資本の調達源泉の種類、外部金融、内部金融、企業間信用、仕入債務、買掛金、支払手形、借入金融、証券借入、手形借入、当座借越、証券金融、株式、社債、自己金融、留保利益、減価償却費、他人資本、自己資本
- 第4回 資本構成
資本構成の分類、自己資本比率、他人資本、自己資本、短期資本、長期資本、資本構成の是正、企業の体質改善、エクイティ・ファイナンス、デット・ファイナンス、剰余金の配当と配当政策、財務レバレッジ
- 第5回 資本コストの計算と活用
資本コスト、機会原価、源泉別資本コスト、有利子負債、無利子負債、株式資本金、社内留保、加重平均資本コスト
- 第6回 資本の運用の種類と当座資本の管理
資本運用の目的と種類、運転資本投資、当座資本投資、在庫資本投資、固定資本投資、設備投資、現金預金の管理、有価証券投資の管理、売上債権投資の管理
- 第7回 在庫と商品の管理
棚卸資産とその種類、商品回転期間、ABC分析、A B C図表、経済的発注量、発注費用、在庫費用
- 第8回 設備投資の管理方法
設備投資とその特徴、設備投資の性格、設備投資の種類と評価方法、設備投資の管理方法、固定長期適合率、有形固定資産回転率、設備投資の経済的評価の基本的考え方
- 第9回 設備投資の経済性計算
回収期間法、会計的投資利益率法、正味現在価値法
- 第10回 利益管理
利益計画、目標利益、損益分岐点、変動費、固定費、予定売上高、許容費用
- 第11回 予算管理
予算、予算管理、計画機能、調整機能、統制機能、予算差異分析、売上高差異、数量差異、価格差異
- 第12回 資金管理と現金資金の管理
資金管理の意義と必要性、資金管理と利益管理、資金の種類と資金管理、現金資金管理、資金繰り表、資金繰り実績表、資金繰り計画表
- 第13回 運転資金管理 1
正味運転資本の意義と種類、運転資本の管理方法、貸借対照表、財政状態、財務構造、資本構成の安定性、流動比率、固定長期適合率、資金運用表
- 第14回 運転資金管理 2
資金運用表への損益項目の組み入れ、資金運用表、損益計算書、貸借対照表
- 第15回 財務管理論のまとめ
財務、計画、統制、資本調達、証券金融、借入金融、企業間信用、自己金融、財務レバレッジ、資本コスト、資本運用、正味運転資本、金融商品投資、在庫投資、設備投資、損益分岐点分析、予算、資金繰り表、資金運用表

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

- 第1回 財務管理の意義
事前学習
Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間
事後学習
Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間
- 第2回 財務管理と企業会計
事前学習
Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間
事後学習
Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間

第3回 資本の調達源泉の種類

事前学習

Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間

事後学習

Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間

第4回 資本構成

事前学習

Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間

事後学習

Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間

第5回 資本コストの計算と活用

事前学習

Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間

事後学習

Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間

第6回 資本の運用の種類と当座資本の管理

事前学習

Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間

事後学習

Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間

第7回 在庫と商品の管理

事前学習

Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間

事後学習

Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間

第8回 設備投資の管理方法

事前学習

Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間

事後学習

Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間

第9回 設備投資の経済性計算

事前学習

Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間

事後学習

Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間

第10回 利益管理

事前学習

Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間

事後学習

Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間

第11回 予算管理

事前学習

Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間

事後学習

Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間

第12回 資金管理と現金資金の管理

事前学習

Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間

事後学習

Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間

第13回 運転資金管理 1

事前学習

Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間

事後学習

Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間

第14回 運転資金管理 2

事前学習

Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間

事後学習

Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間

第15回 財務管理論のまとめ

事前学習

第1回から第14回までのプリントを復習し、予算管理に関する基本的な知識や考え方をまとめる。1.5 時間

事後学習

例題などにより、これまでの講義を振り返り、経営管理について理解する。2.5 時間

課題に対するフィードバックの方法			
例題については授業内で解説する。 演習問題および自習課題については Moodle により実施するため Moodle によりフィードバックされる。			
成績評価の方法・基準（方針）			
以下に示すとおり、授業期間中に実施される演習問題および自習課題と、期末試験（Moodle による筆記試験）の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由のない欠席が 5 回以上ある場合、演習問題と自習課題が各 5 回以上未提出の場合、および期末試験の受験がない場合には、評価の対象とせず、「K」評価とする。			
成績評価の種類	評価割合（％）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	演習問題	①②
授業外での評価	0		
期末試験	60	Moodle による筆記試験	①②
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。
参考書	『財務管理』西澤脩著 泉文堂 2,800 円（税別） 『経営管理会計』西澤脩著 中央経済社 6,800 円（税別） 『財務管理入門』村松司叙著 同文館 2,600 円（税別） 『財務管理論』細井卓著 中央経済社 2,500 円（税別） 『ベーシック財務管理』大塚宗春・佐藤紘光著 同文館出版 中小企業診断士試験『基礎から学ぶ財務管理』小玉茂義著 日本マンパワー出版 2,500 円（税別）
履修条件・他の科目との関連	電卓必須（できれば、12 桁の電卓）携帯電話の使用は不可。 財務管理は企業会計と経営管理をつなぐ領域であり、簿記原理、会計学入門や経営学入門などを履修していることが望ましい。さらに、会計関連科目や経営関連科目を履修して欲しい。
担当教員への連絡方法	・市川 直樹 ichikawa@oiu.jp

授業コード	16208601		
授業科目名	予算管理論	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	市川 直樹		
成績担当教員氏名	市川 直樹		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

予算管理論では、利益計画の設定とその実現のための予算編成と予算統制を中心に講義する。主な内容は、目標利益の設定、損益分岐点分析、資本回収点分析などの短期の利益計画、割当予算、変動予算、固定予算による予算編成、および差異分析、営業費の現状分析および改善分析などの予算統制に必要な知識と技法等である。

到達目標

- ① 予算管理に関する基本的な知識や考え方を理解している。
- ② 利益計画、予算編成および予算統制に必要な技法を応用できる。

授業計画

★この授業は、遠隔授業となります。原則として、リアルタイム型授業で実施予定です。参加方法などの詳細は、追って案内します。

第1回 経営管理と予算管理

経営管理の体系と予算管理との関係

第2回 予算管理の意義

予算と予算管理の意義、予算管理の体系、予算管理の機能

第3回 利益管理の意義と目標利益の設定

短期利益計画の定義と特色、目標利益の設定方法

第4回 目標利益の実現方法

費用分解、損益分岐点分析、予定売上高、許容費用

第5回 損益分岐点比率の引下げ

損益分岐点の引き下げ、限界利益、損益分岐点分析による経営管理

第6回 変動費と固定費

変動費と固定費の性格、規模の経済、変動費と固定費の分解方法

第7回 資本回収点による目標利益の実現方法

資本図表、資本回収点の分析、利益資本図表、目標利益を総資本利益率で表した場合の予定売上高の算出

第8回 原価と原価計算

原価と原価計算の意義と種類、原価計算の方法

第9回 原価低減とコストマネジメント

原価低減の意義と重要性、コストマネジメントの意義

第10回 営業費と営業費管理

営業費の意義、マーケティングコストとマーケティング、営業費管理の意義と目的

第11回 営業費分析

営業費分析の意義、営業費の現状分析と改善分析

第12回 予算編成と予算統制

売上高予算の編成と統制方法、仕入予算の編成と統制方法、販売費の編成と統制方法、物流費の編成と統制方法、一般管理費の編成と統制方法

第13回 総合予算の編成

総合予算の編成方法、見積り損益計算書、見積り貸借対照表

例題と演習問題により総合予算の編成を演習する。

第14回 資金管理と資金予算

資金および資金表の種類

例題と演習問題により資金繰り計画表の作成を演習する。

第15回 予算管理のまとめ

利益管理、予算、予算編成、予算統制、損益予算、資金予算、損益分岐点分析、変動費、固定費、限界利益、資本回収点分析、差異分析、営業費分析、原価低減

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

第1回 経営管理と予算管理

事前学習

Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間

事後学習

Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間

第2回 予算管理の意義

事前学習

Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間

事後学習

Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間

第3回 利益管理の意義と目標利益の設定

事前学習

Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間

事後学習

Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間

第4回 目標利益の実現方法

事前学習

<p>Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間 事後学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間 第 5 回 損益分岐点比率の引下げ 事前学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間 事後学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間 第 6 回 変動費と固定費 事前学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間 事後学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間 第 7 回 資本回収点による目標利益の実現方法 事前学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間 事後学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間 第 8 回 原価と原価計算 事前学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間 事後学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間 第 9 回 原価低減とコストマネジメント 事前学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間 事後学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間 第 10 回 営業費と営業費管理 事前学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間 事後学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間 第 11 回 営業費分析 事前学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間 事後学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間 第 12 回 予算編成と予算統制 事前学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間 事後学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間 第 13 回 総合予算の編成 事前学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間 事後学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間 第 14 回 資金管理と資金予算 事前学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間 事後学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間 第 15 回 予算管理のまとめ 事前学習</p> <p>第 1 回から第 14 回までのプリントを復習し、予算管理に関する基本的な知識や考え方をまとめる。1.5 時間 事後学習</p> <p>例題などにより、これまでの講義を振り返り、仕事を進める上での「予算」について理解する。2.5 時間</p>
<p>課題に対するフィードバックの方法</p> <p>例題については授業内で解説する。 演習問題については Moodle により実施するため Moodle によりフィードバックされる。</p>
<p>成績評価の方法・基準 (方針)</p> <p>以下に示すとおり、授業期間中に実施される演習問題と、期末試験 (Moodle による筆記試験) の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。 正当な理由のない欠席が 5 回以上ある場合、演習問題が各 5 回以上未提出の場合、および期末試験の受験がない場合には、評価の対象とせず、「K」評価とする。</p>

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	演習問題	①②
授業外での評価	0		
期末試験	60	Moodle による筆記試験	①②
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。
参考書	『財務管理』西澤脩著 泉文堂 2,800 円 (税別) 『資金管理の基礎』染谷恭次郎著 国元書房 3,500 円 (税別) 『経営管理会計』西澤脩著 中央経済社 6,800 円 (税別) 『財務管理入門』村松司叙著 同文館 2,600 円 (税別) 『財務管理論』細井卓著 中央経済社 2,500 円 (税別) 中小企業診断士試験『基礎から学ぶ財務管理』小玉茂義著 日本マンパワー出版 2,500 円 (税別)
履修条件・他の科目との関連	電卓必須 (できれば、12 桁の電卓) 携帯電話の使用は不可。 予算管理は、経営戦略や経営計画を実現するための具体的な行動計画です。 簿記原理や会计学入門や経営学入門を履修し、財務管理や経営管理などの基礎科目など会計関連科目や経営関連科目を履修して、この講義に臨むことが望ましい。
担当教員への連絡方法	・市川 直樹 ichikawa@oiu.jp

授業コード	16202601		
授業科目名	資金運用論	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	外島 健嗣		
成績担当教員氏名	外島 健嗣		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

企業も我々家計もそれぞれ資産を保有している。この資産は活用法により増減する。したがって、制限のある資産をどのように有効利用するかは重要な問題である。そこで、その資産を有効活用するための資産運用にはどのような方法があるのか、そしてそれに伴うリスクにはどのようなものがあるのかを理解しておく必要がある。本講義では、資産運用の方法を理解及びそれに伴い発生するリスクを理解してもらうことを目的としている。

なお講義では、金融業界の第一線でご活躍されている方による寄付講座を数回開講する予定である。

その際、シラバス記載内容に変更が生じることがある。

到達目標

1. 現在価値について理解できるようになる。
2. 債券の利回り計算ができるようになる。
3. 経済指標が機械できるようになる。

授業計画

この授業は、遠隔授業となります。リアルタイム型の遠隔授業（その授業時間に Zoom 等で参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施予定です。なお、一部リアルタイム型授業を取り入れることがあります。その場合、2週間前には連絡します。参加方法などの詳細は、追って連絡します。

【第1回】ガイダンス：授業の概要説明

【第2回】貨幣の時間価値：現在価値と将来価値

【第3回】債券の価格と利回り（1）：債券とは何か

【第4回】債券の価格と利回り（2）：割引債の価格、金利と利回り

【第5回】債券の価格と利回り（3）：利付債の価格

【第6回】債券の価格と利回り（4）：利付債の価格（続）、デュレーション

【第7回】債券の価格と利回り（5）：個人向け国債

【第8回】マーケット環境の理解（1）：経済指標について

【第9回】マーケット環境の理解（2）：マーケット変動要因

【第10回】株式の価格：配当割引モデル

【第11回】株式の収益率：単純平均と加重平均、収益率のリンク計算

【第12回】ポートフォリオ：期待収益率、標準偏差

【第13回】投資信託：投資信託の仕組み、投資信託の利回り

【第14回】デリバティブ：先物、オプション

【第15回】まとめ

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

授業（1回について2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

【第1回】

事前学修課題：シラバスを読む 2.0時間

事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0時間

【第2回】

事前学修課題：現在価値と将来価値について調べておく 2.0時間

事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0時間

【第3回】

事前学修課題：債券について調べておくこと 2.0時間

事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0時間

【第4回】

事前学修課題：割引債について調べておくこと 2.0時間

事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0時間

【第5回】

事前学修課題：利付債について調べておくこと 2.0時間

事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0時間

【第6回】

事前学修課題：デュレーションについて調べておくこと 2.0時間

事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0時間

【第7回】

事前学修課題：個人向け国債について調べておくこと 2.0時間

事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0時間

【第8回】

事前学修課題：経済指標について調べておくこと 2.0時間

事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0時間

【第9回】

事前学修課題：マーケットの変動要因について調べておくこと 2.0時間

事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0時間

【第10回】

事前学修課題：配当割引モデルについて調べておくこと 2.0時間

事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0 時間 【第 11 回】 事前学修課題：単純平均と加重平均について調べておくこと 2.0 時間 事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0 時間 【第 12 回】 事前学修課題：期待収益率について調べておくこと 2.0 時間 事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0 時間 【第 13 回】 事前学修課題：投資信託について調べておくこと 2.0 時間 事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0 時間 【第 14 回】 事前学修課題：デリバティブについて調べておくこと 2.0 時間 事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0 時間 【第 15 回】 事前学修課題：第 1 回から 14 回までの資料を復習しておくこと 2.0 時間 事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0 時間
--

課題に対するフィードバックの方法

講義中に解説を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

課題の提出状況及び内容により評価します。
課題は講義日当日に提出するように心掛けてください。
それ以降、減点し、1 週間経過後は提出されても受理しません。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	課題の提出状況及び内容	1, 2, 3
授業外での評価	0		
期末試験	25	課題の提出状況及び内容	1, 2, 3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	プリントを配布する
参考書	「アメリカの高校生が読んでいる資産運用の教科書」山岡 道男・浅野忠克著、アスペクト、2008 年。 古賀信行・佐々木文之『賢者の投資 金融危機の歴史を学ぶ』東洋経済新報社、2015 年 野村証券投資情報部編『証券投資の基礎』丸善、2010 年
履修条件・他の科目との関連	金融関連の授業をできるだけ多く履修すること。
担当教員への連絡方法	・外島 健嗣 sotojima@oiu.jp

授業コード	16210101		
授業科目名	経営工学	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	安高 真一郎		
成績担当教員氏名	安高 真一郎		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

経営工学とは、企業経営における諸問題に対し、工学的なアプローチから解決策を提案する学問である。ここでの工学的アプローチとは、数学、統計学、情報工学といった多くの専門分野の知識を指している。本講義では、生産管理・品質管理・ロジスティクス、それらの分野に関する数学モデルの構築とその最適解決手法の紹介・考察を行っていく。

到達目標

1. 授業で紹介できる範囲には限りがあるが、経営工学で用いられる手法について理解を深めること。
2. さらに自身で興味を持って、卒業論文等その知識を活用すること。

授業計画

- 【第1回】 ガイダンス
内容: 経営工学とは
- 【第2回】 線形計画法1
内容: 線形系計画法の基礎
- 【第3回】 線形計画法2
内容: 線形計画法の応用
- 【第4回】 非線形計画法
内容: 非線形計画法とは
- 【第5回】 組合せ最適化問題1
内容: 組合せ最適化問題の基礎
- 【第6回】 組合せ最適化問題2
内容: 組合せ最適化問題の応用
- 【第7回】 ソフトコンピューティング1
内容: ソフトコンピューティングとは
- 【第8回】 ソフトコンピューティング2
内容: ソフトコンピューティング技法の応用例
- 【第9回】 生産スケジューリング1
内容: 生産スケジューリングとは
- 【第10回】 生産スケジューリング2
内容: 生産スケジューリング問題の例
- 【第11回】 統計学入門1
内容: 統計学の基礎と応用
- 【第12回】 統計学入門2
内容: 統計学の基礎と応用
- 【第3回】 品質管理1
内容: 品質管理の基礎と必要性
- 【第14回】 品質管理2
内容: 品質管理技法の歴史と応用
- 【第15回】 総合演習
内容: これまでの総復習

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

- 【第1回】
 - ①事前学習: シラバスを熟読(90分)
 - ②事後学習: 経営工学の概念を把握した上で履修登録を再検討(90分)
- 【第2回】
 - ①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)
 - ②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)
- 【第3回】
 - ①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)
 - ②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)
- 【第4回】
 - ①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)
 - ②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)
- 【第5回】
 - ①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)
 - ②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)
- 【第6回】
 - ①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)
 - ②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)
- 【第7回】
 - ①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)
 - ②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)

<p>【第8回】</p> <p>①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索しておく。(90分)</p> <p>②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)</p> <p>【第9回】</p> <p>①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索しておく。(90分)</p> <p>②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)</p> <p>【第10回】</p> <p>①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索しておく。(90分)</p> <p>②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)</p> <p>【第11回】</p> <p>①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索しておく。(90分)</p> <p>②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)</p> <p>【第12回】</p> <p>①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索しておく。(90分)</p> <p>②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)</p> <p>【第13回】</p> <p>①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索しておく。(90分)</p> <p>②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)</p> <p>【第14回】</p> <p>①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索しておく。(90分)</p> <p>②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)</p> <p>【第15回】</p> <p>①事前学習: これまでの内容で質問等をまとめておく。(90分)</p> <p>②事後学習: 期末試験へ備える(90分)</p>

課題に対するフィードバックの方法
授業中に返却し、解説を行う。
成績評価の方法・基準 (方針)
授業内での取り組み姿勢、期末試験の点数により総合的に評価する。 ※欠席6回以上でK評価

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	毎回、授業内で演習を行う。 その取り組み姿勢や解答の正誤によって評価を行う。	1
授業外での評価	0		
期末試験	0		
定期試験	60	定期試験の点数によって評価を行う。	1,2
その他	0		

テキスト	プリントを配布する。
参考書	授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	ノートを必ず持参し、また配布資料には必ず目を通すこと。 毎回行う演習には、積極的に臨むこと。 私語は控え、スマホでも遊ばず授業に集中すること。 数学(計算)が苦手な学生には、受講をオススメしない。
担当教員への連絡方法	・安高 真一郎 s-ataka@oiu.jp

授業コード	16208101		
授業科目名	経営科学	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	植松 康祐		
成績担当教員氏名	植松 康祐		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要			
感覚的な意思決定ではなく、科学的な考え方と最適化に関する手法を学ぶ。人にだまされない科学的な感覚を醸成する。			
到達目標			
1.科学的な考え方とその知識を学ぶ。 2.科学的な手法と情報処理技術について学ぶ。 3.最適化の原理を学ぶ。 4.社会での個別での適応事例を学ぶ。			
授業計画			
1 回目：経営科学の取り扱う内容とその領域を理解する。 2 回目：在庫管理の手法を学ぶ 3 回目、4 回目、5 回目：在庫管理の最適化モデルを構築して、シミュレーションを行う。 6 回目：線形計画問題の概要を学ぶ。 7 回目、8 回目、9 回目：具体的な事例に対して、線形計画問題を適応する。 10 回目：輸送計画の概要を学ぶ。 11 回目、12 回目：具体的なモデルでの検証を行う。 13 回目：システムの信頼性の構造を学ぶ。 14 回目：システムの信頼度などの測度を計算する。 15 回目：総合演習			
事前事後の学習			
授業（1 回につき 2 時間として計算）と事前事後のあわせて 1 単位あたり 4 5 時間が必要です。			
毎回の講義項目をネットで事前に検索しておくこと。講義終了後、シミュレーションなど具体的なモデルで検証しておく。			
課題に対するフィードバックの方法			
課題に対しては、必ずフィードバックして、改善を要求することもある。			
成績評価の方法・基準（方針）			
講義中に、確認テスト、または、具体的なモデルの構築を要求するので、その内容を評価する。期末試験の評価も加味する。			
成績評価の種類	評価割合（％）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	講義内での確認課題を評価	1,2,3,4
授業外での評価	20	課題提出を評価	1,2,3,4
期末試験	40	テストで評価	1,2,3,4
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	講義中に資料を配布する。
参考書	
履修条件・他の科目との関連	統計学入門や経営工学など
担当教員への連絡方法	・植松 康祐 uematsu@oiu.jp

授業コード	16207001		
授業科目名	人間工学	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	佐藤 智明		
成績担当教員氏名	佐藤 智明		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

アメリカでは Human Factors、ヨーロッパでは Ergonomics と呼ばれていて、現在はほぼ Ergonomics が定着されている。これは Ergon（仕事）と nomos（法則）と ics（学問）の造語である。元々は労働科学から出発した学問であるが、最近は人間の安全や健康、さらに快適性や効率（パフォーマンス）の向上を目指した学問といえる。本科目では初歩的な人間工学を学び、社会にある事例を紹介しながら、人間工学が目指す「人に優しい技術」、「使いやすい機器」、「暮らしやすい環境」について理解を深める。

到達目標

- 1.生活環境において、学んだことを活用できる。
- 2.アルバイトも含め、仕事をする際の快適性や作業効率を考えることができる。
- 3.ユニバーサルデザインを説明できる。

授業計画

【第1回】

テーマ：人間工学とは
内容・方法：人間工学の定義・人間と機械とのインタフェースの5側面

【第2回】

テーマ：ユニバーサルデザイン1
内容・方法：ユニバーサルデザインの背景と現状

【第3回】

テーマ：ユニバーサルデザイン2
内容・方法：身近にある生活用品のユニバーサルデザイン

【第4回】

テーマ：ユニバーサルデザイン3
内容・方法：家電製品におけるユニバーサルデザイン

【第5回】

テーマ：ユニバーサルデザイン4
内容・方法：車におけるユニバーサルデザイン

【第6回】

テーマ：ヒューマンエラー1
内容・方法：ヒューマンエラーと事故およびリスクマネジメント

【第7回】

テーマ：ヒューマンエラー2
内容・方法：ヒューマンエラーとヒューマンファクター

【第8回】

テーマ：ヒューマンエラー3
内容・方法：錯誤と失念のヒューマンエラー

【第9回】

テーマ：ヒューマンエラー4
内容・方法：ヒューマンエラーの背後要因とチームエラー

【第10回】

テーマ：ヒューマンエラー5
内容・方法：チームエラーに関わる個人の特性と気分

【第11回】

テーマ：産業保健人間工学1
内容・方法：産業保健人間工学の概略と改善の考え方

【第12回】

テーマ：産業保健人間工学2
内容・方法：エルゴマアプローチ

【第13回】

テーマ：産業保健人間工学3
内容・方法：改善のための人間工学の関連技法2

【第14回】

テーマ：産業保健人間工学4
内容・方法：改善のための人間工学の関連技法2

【第15回】

テーマ：人間工学の総まとめ
内容・方法：今まで学んだ事項の確認

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

【第1回】

- ①事前学修課題：情報端末機器等で人間工学をキーワードにして検索し、予備知識を得ておく。1.5時間
- ②事後学修課題：配布された資料を見直し、授業の振り返りを実施する。2.0時間

【第2回】

①事前学修課題：情報端末機器等でユニバーサルデザインをキーワードにして検索し、予備知識を得ておく。1.5 時間
②事後学修課題：配布された資料を見直し、授業の振り返りを実施する。2.0 時間
【第 3 回】
①事前学修課題：情報端末機器等で生活用品とユニバーサルデザインをキーワードにして検索し、予備知識を得ておく。1.5 時間
②事後学修課題：配布された資料を見直し、授業の振り返りを実施する。2.0 時間
【第 4 回】
①事前学修課題：情報端末機器等で家電製品とユニバーサルデザインをキーワードにして検索し、予備知識を得ておく。1.5 時間
②事後学修課題：配布された資料を見直し、授業の振り返りを実施する。2.0 時間
【第 5 回】
①事前学修課題：情報端末機器等で車とユニバーサルデザインをキーワードにして検索し、予備知識を得ておく。1.5 時間
②事後学修課題：配布された資料を見直し、授業の振り返りを実施する。2.0 時間
【第 6 回】
①事前学修課題：情報端末機器等でヒューマンエラーをキーワードにして検索し、予備知識を得ておく。1.5 時間
②事後学修課題：配布された資料を見直し、授業の振り返りを実施する。2.0 時間
【第 7 回】
①事前学修課題：情報端末機器等でヒューマンファクターをキーワードにして検索し、予備知識を得ておく。1.5 時間
②事後学修課題：配布された資料を見直し、授業の振り返りを実施する。2.0 時間
【第 8 回】
①事前学修課題：情報端末機器等で錯誤と失念をキーワードにして検索し、予備知識を得ておく。1.5 時間
②事後学修課題：配布された資料を見直し、授業の振り返りを実施する。2.0 時間
【第 9 回】
①事前学修課題：情報端末機器等でチームエラーをキーワードにして検索し、予備知識を得ておく。1.5 時間
②事後学修課題：配布された資料を見直し、授業の振り返りを実施する。2.0 時間
【第 10 回】
①事前学修課題：情報端末機器等でチームエラーと個人をキーワードにして検索し、予備知識を得ておく。1.5 時間
②事後学修課題：配布された資料を見直し、授業の振り返りを実施する。2.0 時間
【第 11 回】
①事前学修課題：情報端末機器等で産業保健人間工学をキーワードにして検索し、予備知識を得ておく。1.5 時間
②事後学修課題：配布された資料を見直し、授業の振り返りを実施する。2.0 時間
【第 12 回】
①事前学修課題：情報端末機器等でエルゴマプローチをキーワードにして検索し、予備知識を得ておく。1.5 時間
②事後学修課題：配布された資料を見直し、授業の振り返りを実施する。2.0 時間
【第 13 回】
①事前学修課題：情報端末機器等で人間工学と作業改善をキーワードにして検索し、予備知識を得ておく。1.5 時間
②事後学修課題：配布された資料を見直し、授業の振り返りを実施する。2.0 時間
【第 14 回】
①事前学修課題：人間工学に関する JIS 規格を検索し、予備知識を得ておく。1.5 時間
②事後学修課題：配布された資料を見直し、授業の振り返りを実施する。2.0 時間
【第 15 回】
①事前学修課題：今まで配布された 14 回分のレポートをよく読んでおく。1.5 時間
②事後学修課題：配布された資料を見直し、授業の振り返りを実施する。2.0 時間

課題に対するフィードバックの方法

学んだ内容を授業中にレポートとして提出し、次回までに採点をし、復習を可能とする。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す通り、講義期間中に実施される通常課題の提出、期末試験（レポート）、その他受講態度を最低採点基準とし、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由のない欠席 5 回以上、またレポート課題や期末レポート試験を未提出の場合、評価の対象とせず、「J」若しくは「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	講義内で課されるレポート課題	1.3
授業外での評価	20	授業外で課されるレポート課題	1.2.3
期末試験	40	全講義終了後に実施するレポート課題	1.2.3
定期試験	0		
その他	20	問いへの回答などによる積極的な受講態度	

テキスト	プリントを配布する。
参考書	必要に応じて講義の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	3 年次前期開講の学部学科科目である「産業衛生論」も併せて履修していることが望ましい。
担当教員への連絡方法	・佐藤 智明 satomo@oiu.jp

授業コード	16202701		
授業科目名	経営情報論	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	安高 真一郎		
成績担当教員氏名	安高 真一郎		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

今日の社会において、情報は必要不可欠な要素となっており、経営学が対象とする分野においても、情報の管理能力、活用能力が必要不可欠となっている。本講義では、情報技術や通信技術の発展が、今日の経営活動にどのように貢献し、浸透していったかを概観し、どのような経営情報システムを構築し、展開することで、経営情報を管理・活用しているかについて講述する。

到達目標

1. 本講義によって、コンピュータとネットワークの発展が、経営情報システムの進展に与えた影響を理解し、経営情報を管理・活用できる能力が養えることを到達目標とする。

授業計画

★この授業は、遠隔授業となります。原則として、リアルタイム型授業で実施予定です。参加方法などの詳細は、追って案内します。

【第1回】ガイダンス

内容: 経営情報とは、またその重要性

【第2回】経営情報論の基礎

内容: 経営情報論のなりたち

【第3回】情報化社会における企業経営

内容: 経営情報の活用とその必要性

【第4回】経営情報システムの設計・開発

内容: 経営情報システムの歴史と活用事例

【第5回】生産管理システム

内容: 生産管理とは

【第6回】在庫管理システム

内容: 在庫管理とは

【第7回】全体最適のための理論

内容: 部分最適と全体最適の概念

【第8回】情報通信技術とビジネス・プロセス革新

内容: 通信技術の発展とその活用事例

【第9回】SCMにおける情報技術と組織能力

内容: SCMの発展と情報技術の関係

【第10回】意思決定を支援する応用ソフトウェア

内容: 現代における情報技術の活用

【第11回】コンピュータ・ネットワークと経営情報

内容: コンピュータ・ネットワークの種類や活用事例

【第12回】情報通信技術と組織コミュニケーション

内容: 情報通信技術の発展とその活用

【第13回】システムの評価と改善

内容: 業務を支援・向上させる経営情報システムとは

【第14回】経営情報とイノベーション

内容: 最新の活用事例と今後の発展

【第15回】総合演習

内容: これまでの総復習

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

【第1回】

①事前学習: シラバスを熟読(90分)

②事後学習: 経営情報の概念を把握した上で履修登録を再検討(90分)

【第2回】

①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)

②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)

【第3回】

①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)

②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)

【第4回】

①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)

②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)

【第5回】

①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)

②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)

【第6回】

①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)

②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)

【第7回】

①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)
②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)
【第8回】
①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)
②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)
【第9回】
①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)
②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)
【第10回】
①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)
②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)
【第11回】
①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)
②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)
【第12回】
①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)
②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)
【第13回】
①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)
②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)
【第14回】
①事前学習: 次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。(90分)
②事後学習: 配布プリントを見直し、演習問題を解きなおす。(90分)
【第15回】
①事前学習: これまでの内容で質問等をまとめておく。(90分)
②事後学習: 期末試験へ備える(90分)

課題に対するフィードバックの方法

授業中に返却し、解説を行う。

成績評価の方法・基準 (方針)

授業内での取り組み姿勢、期末試験の点数により総合的に評価する。

※欠席6回以上でK評価

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	毎回、授業内で演習を行う。 その取り組み姿勢や解答の正誤によって評価する。	1
授業外での評価	0		
期末試験	0		
定期試験	60	定期試験の点数を基に評価を行う。	1
その他	0		

テキスト	プリントを配布する
参考書	必要に応じて、講義中に紹介する。
履修条件・他の科目との関連	情報技術や情報の科目に興味があることが望ましい。 ノートを必ず持参し、また配布資料には必ず目を通すこと。 毎回行う演習には、積極的に臨むこと。 私語は控え、スマホでも遊ばず授業に集中すること。
担当教員への連絡方法	・安高 真一郎 s-ataka@oiu.jp

授業コード	16203001		
授業科目名	ビジネスデータベース論	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	下條 善史		
成績担当教員氏名	下條 善史		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

データベースは個人から企業・団体にいたるまで、大量の情報を分類整理し、有効利用していくための強力なツールとして活用されうる重要なアプリケーションである。しかし同時にデータベースマネージメントシステムは、コンピュータとOSのもっとも高度な機能と性能を要求するシステムであり、それを使いこなすエンジニアはハードウェアからソフトウェア全般にわたる広範で高度な知識を要求されることになる。

本講義ではデータベースマネージメントシステムの概要を紹介し、そこに使われるさまざまな技術を解説していく。学部ではパーソナルなレベルでのデータベースを前提としてデータベースの基本知識を習得したが、ここでは本来巨大なシステムを構成するべきデータベースマネージメントシステムについて解説し、大規模なシステムで起こるさまざまな問題をも捕らえていく。

到達目標

1. データベースの基礎概念を理解できるようになること。
2. データベースにおける情報管理の方法とその問題点を知り、データベースについて深く理解できること。
3. 社会におけるデータベースの存在意義を理解し、自身の今後の情報活用に生かせるようになること。

授業計画

【第1回】

テーマ：データベース～その複雑さと、面白さ～

内容・方法：データとは何か、から始まり、データベースの考え方について紹介する。

【第2回】

テーマ：データベース～データとデータモデル～

内容・方法：データモデルという考え方を紹介し、RDBにおけるテーブルの構造の意味と意義を解説する。

【第3回】

テーマ：データ型とインデックス、そして検索

内容・方法：検索とは何か。それがデータベースにおいてどのような位置にある行為か、詳しく解説する。

【第4回】

テーマ：テーブルの分割と結合 そして正規化

内容・方法：リレーショナルデータベースの特徴を詳しく解説する。

【第5回】

テーマ：データベース設計の実際

内容・方法：書類でデータ管理をしていた現場が、データベースによる管理に移行するまでのプロセスを紹介する。

【第6回】

テーマ：マルチユーザデータベース

内容・方法：本来のデータベースに求められる性能と、それを実現するためのしくみについて解説する。

【第7回】

テーマ：トランザクションとトランザクション・ログ

内容・方法：データベース内で処理されているトランザクションについて、詳細を解説する。

【第8回】

テーマ：データベースのライフサイクル

内容・方法：データベースの誕生から死までを詳細に追ってみる。

【第9回】

テーマ：分散データベース

内容・方法：コンピュータネットワークを前提とするとデータベースはより強力なものになる。分散データベースを紹介する。

【第10回】

テーマ：SQL

内容・方法：リレーショナルデータベースの基本であるSQLシステムについて解説する。

【第11回】

テーマ：SQL 2

内容・方法：リレーショナルデータベースの基本であるSQLシステムについて解説する。

【第12回】

テーマ：SQLの実際

内容・方法：SQLベースのRDBMSの代表的なディストリビューションであるMySQLを実際に操作し、このコマンド体系を体験してみる。

【第13回】

テーマ：埋め込みSQL

内容・方法：実際のデータベースアプリケーションがどのように開発されているか、埋め込みSQLの具体例について解説する。

【第14回】

テーマ：NoSQL

内容・方法：昨今、「SQL以外のデータベース」も注目を浴びている。ここではNoSQLの考え方を紹介し、いくつかの事例でSQLデータベースとそれ以外の使い分けを考える。

【第15回】

テーマ：データベースのトラブルとリスク

内容・方法：コンピュータシステムにはトラブルがつきものとも言えるが、特にデータベースはトラブルに損害が伴う場合が多い。データベース上で起こるトラブルの分類と、それに対するリスクマネジメントの考え方を紹介する。

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

【第1回】

- ①事前学修課題：「データ」「情報」という言葉の意味についてよく考え、自分なりに定義してみよ。
 ②事後学修課題：身のまわりにある情報と、自身が持っている情報処理について整理してみよ。

【第2回】

- ①事前学修課題：データベースとは何か。そしてそれはどこにあるのか。自分なりの解答を用意しておくこと。
 ②事後学修課題：自身の情報活動の中から適当なデータセットを想定し、データモデリングしてみよ。

【第3回】

- ①事前学修課題：EXCELのワークシートにおけるデータにはどのような種類があるか、調べてみよ。
 ②事後学修課題：事前学習で調べたデータの各タイプについて、その内部表現はどのようなになっているか、調べてみよ。

【第4回】

- ①事前学修課題：世の中にある様々なオブジェクトについて、それらの関係を「一対一」「一対多」「多対多」に分類してみよ。
 ②事後学修課題：データベースの目的とは何か。一般的な解答を記してみよ。

【第5回】

- ①事前学修課題：100年前、コンピュータなどなかった頃の企業情報どのように処理されていたか、想像してみよ。
 ②事後学修課題：リレーショナルデータベースの「正規化」についての専門的な解説をネットなどで探して読んでみよ。

【第6回】

- ①事前学修課題：一人で使うデータベースと多人数で使うデータベースは何が違うか。考えてみよ。
 ②事後学修課題：データベースがマルチユーザになるために必要な機能を整理し、まとめてみよ。

【第7回】

- ①事前学修課題：銀行の預金口座を管理しているデータベースに起こりうる事故とはどのようなものが考えられるか。
 ②事後学修課題：現行の預金口座を管理しているデータベースに起こりうる、最悪の事態とはどんな事態か。

【第8回】

- ①事前学修課題：「データベースはもっともクリティカルなシステムである」という言葉がある。この言葉の意味を考えてみよ。
 ②事後学修課題：あなたが、ある企業の基幹データベースを受注したとする。そのシステムの価格を見積もってみよ。

【第9回】

- ①事前学修課題：コンピュータネットワークの長所と短所を思いつく限り列挙してみよ。
 ②事後学修課題：分散データベースはどのようなところで必要とされるだろうか。考えてみよ。

【第10回】

- ①事前学修課題：SQLについて、手に入る資料で調査してみよ。
 ②事後学修課題：SQLをベースとした市販のDBMSをリストアップしてみよ。

【第11回】

- ①事前学修課題：SQLベースのフリーDBMS「MySQL」のマニュアルを一度見ておくこと。
 ②事後学修課題：「MySQL ユーザ会」のホームページを検索し、「MySQLとは」の解説を一読せよ。

【第12回】

- ①事前学修課題：SQLの誕生と発展について、調べてみよ。
 ②事後学修課題：「SQL」という名前の意味と読みを調べてみよ。

【第13回】

- ①事前学修課題：MySQLマニュアルの「埋め込みSQL」の項を通読しておくこと。
 ②事後学修課題：データベースを利用するさまざまな立場のユーザと、そのユーザが利用するアプリケーションの関係について考えてみよ。

【第14回】

- ①事前学修課題：「ビッグデータ」「データマイニング」という言葉について、その意味を調査、理解してくる。
 ②事後学修課題：データマイニングの応用分野について考えてみること。

【第15回】

- ①事前学修課題：データベースのトラブル事例について、調査してくる。
 ②事後学修課題：トラブルとリスクの分類について、自分なりに整理する。

課題に対するフィードバックの方法

講義中に配布するプリント中に設けた設問によって確認する。

成績評価の方法・基準（方針）

出席並びに平常の受講態度と数回のレポート課題の得点を合計して評価とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	出席点と平常点	1、2、3
授業外での評価	0		
期末試験	50	授業中に課するレポート課題によって評価する。	1、2、3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	PPT資料を提示し、またプリントを配布する。
参考書	インターネットにおける「データベース」「リレーショナルデータベース」「SQL」「ビッグデータ」などのキーワードに関する最新の技術資料や動向などに関する記事を学習の参考として積極的に利用すべきである。
履修条件・他の科目との関連	本講義は演習授業ではなく講義であり、授業内でデータベースソフトの操作は行わない。
担当教員への連絡方法	・下條 善史 zen-s@oiu.jp

授業コード	16208701		
授業科目名	ビジネスゲーム論	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	市川 直樹		
成績担当教員氏名	市川 直樹		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

「ビジネスゲーム」は、ビジネスに関する知識や技術を分野横断的、総合的に習得させるため、さらに、ビジネス活動の有機的なつながりを理解し、ビジネス活動を主体的、合理的に行う能力と態度を養成するための経営模擬体験型の教育ツールです。
 ビジネスゲーム論では、「ビジネスゲーム」を教育ツールとして効率的に利用するための理論や技法を講義し、習得することを目標とします。

到達目標

- ① 経営管理を実践するための理論や技法に関する知識や考え方を理解している。
- ② 経営戦略を策定し、これに基づく経営計画を立案し、統制するという経営管理のサイクルを説明できる。
- ③ 経営管理を実践するための理論や技法を応用できる。

授業計画

★この授業は、遠隔授業となります。原則として、リアルタイム型授業で実施予定です。参加方法などの詳細は、追って案内します。

第1回 ビジネスを知ろう

経済の仕組みとビジネス、ビジネスの働き、ビジネスの形態

第2回 企業と株式会社

企業と出資者、企業の種類、株式会社の特徴

第3回 経営管理と経営目的

組織とその形態、経営管理の意義と体系、経営目的、SMART の法則

第4回 戦略的経営

経営管理の発展、戦略的経営への転換、H.I.アンゾフの意思決定論、経営環境の体系、PEST 分析

第5回 経営環境変化の態様

経営環境の変化、機会と脅威、SWOT 分析、コア・コンピタンス、事業ドメイン

第6回 製品市場戦略

アンゾフの全社戦略（戦略の4要素など）、製品市場戦略、多角化戦略

第7回 プロダクト・ポートフォリオ・マネージメント（PPM）

市場成長率と相対的市場シェア、製品ライフサイクル、事業の経験効果、市場シェアによる効果、PPMのビジネス・マトリックス、PPMの限界

第8回 需要戦略

製品ライフサイクルにおける需要戦略目標と製品戦略、プッシュ戦略とプル戦略、マーケティング戦略

第9回 競争戦略

ポーターの競争戦略、SCPパラダイム、バリューチェーン分析、ファイブ・フォース分析、コスト・リーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略

第10回 競争地位戦略

リーダーの戦略、チャレンジャーの戦略、ニッチャーの戦略、フォロワーの戦略、職能別戦略、マーケティング戦略、生産戦略

第11回 経営計画

個別計画と期間計画、総合計画と部門計画、戦略的経営計画、中期経営計画、短期経営計画、利益計画と予算管理

第12回 経営統制1

経営統制の意義、経営統制の方法

第13回 経営統制2

経営統制の分類、実体的統制、計数的統制、人的統制

第14回 業績評価

財務諸表分析、収益性の比率、流動性の比率

第15回 ビジネスゲーム論のまとめ

経営計画、価格戦略、販売促進戦略、製品のライフサイクル、市場浸透戦略、プロダクト・ポートフォリオ・マネージメント、キャッシュフロー、需要戦略、プル戦略とプッシュ戦略

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

第1回 ビジネスを知ろう

事前学習

Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間

事後学習

Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間

第2回 企業と株式会社

事前学習

Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間

事後学習

Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間

第3回 経営管理と経営目的

事前学習

Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間

事後学習

Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間

第4回 戦略的経営

事前学習

<p>Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間 事後学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間 第 5 回 経営環境変化の態様 事前学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間 事後学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間 第 6 回 製品市場戦略 事前学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間 事後学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間 第 7 回 プロダクト・ポートフォリオ・マネージメント (PPM) 事前学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間 事後学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間 第 8 回 需要戦略 事前学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間 事後学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間 第 9 回 競争戦略 事前学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間 事後学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間 第 10 回 競争地位戦略 事前学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間 事後学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間 第 11 回 経営計画 事前学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間 事後学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間 第 12 回 経営統制 1 事前学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間 事後学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間 第 13 回 経営統制 2 事前学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間 事後学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間 第 14 回 業績評価 事前学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5 時間 事後学習</p> <p>Google Classroom で配布したプリントにより例題を復習し、Moodle により演習問題を繰り返し行ってください。2.5 時間 第 15 回 ビジネスゲーム論のまとめ 事前学習</p> <p>第 1 回から第 14 回までのプリントを復習し、ビジネスゲーム論に関する基本的な知識や考え方をまとめる。1.5 時間 事後学習</p> <p>例題などにより、これまでの講義を振り返り、経営計画を立案し、実践し、統制するための知識や技法について理解する。2.5 時間</p>
<p>課題に対するフィードバックの方法</p> <p>例題については授業内で解説する。 演習問題および自習課題については Moodle により実施するため Moodle によりフィードバックされる。</p>
<p>成績評価の方法・基準 (方針)</p> <p>以下に示すとおり、授業期間中に実施される演習問題および自習課題と、期末試験 (Moodle による筆記試験) の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由のない欠席が 5 回以上ある場合、演習問題と自習課題が各 5 回以上未提出の場合、および期末試験の受験がない場合には、評価の対象とせず、「K」評価とする。</p>

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	演習問題	①②③
授業外での評価	0		
期末試験	60	Moodle による筆記試験	①②③
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。
参考書	<p>ジョン・K・ガルブレイス著、斎藤精一郎訳 『新しい産業国家(上)(下)』(講談社文庫)</p> <p>坪井順一・間嶋崇編著 『経営戦略理論史』(学分社)</p> <p>竹内弘高訳 『競争戦略論』(ダイヤモンド社)</p> <p>G・ハメルとC・K・プラハラード著 『コア・コンピタンス経営』(日本経済新聞出版社)</p> <p>P.F.ドラッカー 『ドラッカー名言集』(ダイヤモンド社)</p> <p>P.E.ドラッカー著 『創造する経営者』(ダイヤモンド社)</p> <p>など</p>
履修条件・他の科目との関連	経営・経済・会計などの基本的な科目を多く履修していることが望ましい。
担当教員への連絡方法	・市川 直樹 ichikawa@oiu.jp

授業コード	16203101		
授業科目名	マクロ経済学	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	村上 敬進		
成績担当教員氏名	村上 敬進		
単位数	4 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期、2021 年度後期

授業の目的・概要

この授業はマクロ経済学を通じて経済学的思考を養い、経済学の応用分野の講義を学習するための基礎を身に付けることを目的とします。マクロ経済学は経済全体を分析する学問であり、新聞の経済欄の記事を読む上でも、社会人として景気動向を把握するためにも役立つ学問です。

前期では、特に価格調整メカニズムが作用しない短期のマクロ経済学に焦点を当てます。経済の活動水準を適切に把握するために、まず、GDP、物価などの経済を理解する上で重要な諸変数の解説をします。次に GDP の決定、景気変動、失業、財政政策および金融政策の概要および有効性を説明します。更に、近年話題になっている財政赤字の問題、非伝統的金融政策を解説します。

後期では、価格調整を前提とした長期の分析が中心です。経済成長論、国際マクロ経済学を中心に説明します。

経済のニュース記事を紹介し、授業で勉強した理論の知識を利用して、実際の経済問題を理解できるようになることを実感してもらいます。また、授業では Google Classroom と呼ばれる学習管理システムを利用して、双方向性を確保し、質問や意見に対してフィードバックしていきます。

到達目標

1. 授業中に紹介する経済記事を、学習した理論を用いて説明できる
2. 小テストを理解し説明できる
3. 短期の理論の仕組みを説明できる
4. 経済成長の諸要因を説明できる
5. IS バランスを説明できる
6. 開放経済の GDP の決定について説明できる

授業計画

★この授業は遠隔授業となります。講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施予定です。

前期

- 第1回目 第1章 マクロ経済学の役割 第2章 経済の活動水準を測る
 第2回目 第2章 経済の活動水準を測る：三面等価、実質 GDP と名目 GDP
 第3回目 第3章 物価の測り方：GDP デフレーター、消費者物価指数、企業物価指数
 第4回目 第5章 貯蓄と投資：金融市場、貯蓄と投資、実質金利
 第5回目 第6章 貨幣と日本銀行
 第6回目 第7章 マネーストックとインフレ：フィッシャー効果、インフレのコスト
 第7回目 第11章 失業：失業の定義、不況期の失業率、失業の諸要因
 第8回目 第10章 短期の経済分析：総需要、均衡 GDP の決定、完全雇用 GDP
 第9回目 第10章 短期の経済分析：IS-LM 分析、均衡 GDP の決定
 第10回目 第10章 短期の経済分析：総需要曲線、総供給曲線、均衡 GDP の決定
 第11回目 第10章 短期の経済分析：短期から長期へ、完全雇用への回復過程
 第12回目 第10章 短期の経済分析：財政政策、クラウディングアウト、金融政策
 第13回目 第10章 短期の経済分析：流動性の罫、期待に働きかける金融政策
 第14回目 第12章 財政赤字はいつまで続けられるか：財政赤字、政府の予算制約式
 第15回目 マクロ経済学Ⅰで解決できない経済問題：自然利子率、全要素生産性

後期

- 第1回目 マクロ経済学Ⅰの復習 GDP、短期と長期
 第2回目 IS バランス
 第3回目 開放マクロ経済学、資金市場と外国為替（ドル）の需要と供給
 第4回目 開放経済における均衡
 第5回目 名目為替レートの決定
 第6回目 政策の効果
 第7回目 2 時点間の資源配分問題、実質利子率
 第8回目 資金市場、貯蓄と投資、実質利子率の決定
 第9回目 経済成長と発展、経済成長
 第10回目 なぜ豊かな国と貧しい国があるのか？
 第11回目 物的資本の変化
 第12回目 経済成長モデル
 第13回目 経済成長を促進する要因
 第14回目 人口の変化、インフラストラクチャー
 第15回目 授業のまとめと発展的課題

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

各回を通じて、以下の事前学習と事後学習が必要です。

- ・事前学習：授業内容に該当するテキストの部分を事前に読んでください（各回 20時間）。
- ・事後学習：毎回実施する小テストを理解できるようにしましょう（各回 20時間）。

課題に対するフィードバックの方法

講義内容及び小テストについての質問や意見は Google Classroom で提出してもらい、次回の授業でフィードバックします。小テストの答え合わせも次回の授業でフィードバックします。

成績評価の方法・基準（方針）			
以下に示す通り、授業時間中に実施される確認テストと期末試験（レポート）の評価結果に基づき総合的に判定の上、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由のない欠席 4 回以上またはレポート課題未提出の場合、評価の対象とせず、「K」評価とする。			
成績評価の種類	評価割合（％）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	50	授業後の提出課題（50）	1, 2, 3, 4, 5, 6
期末試験	50	全授業終了後に実施するレポート試験（50）	1, 2, 3, 4, 5, 6
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	二神孝一『マクロ経済学入門』第 3 版 日本評論社 2017 年 税込 2,420 円 ISBN-13 : 978-4535041240.
参考書	ダロン・アセモグル他『マクロ経済学』東洋経済新報社 2019 年 平口良司・稲葉大『マクロ経済学 入門の「一步前」から応用まで』有斐閣 2015 年 細野薫『いまこそ学ぼう マクロ経済学』第 2 版 日本評論社 2016 年 家森信善『マクロ経済学の基礎』第 2 版 中央経済社 2021 年
履修条件・他の科目との関連	※欠席学生への配布資料等の対応：Google Classroom に配布資料はアップロードします。 経済学入門を履修済みであることが望ましい。 ミクログ経済学Ⅰ・Ⅱを履修することが望ましい。
担当教員への連絡方法	・村上 敬進 ak-murakami@oiu.jp

授業コード	16203201		
授業科目名	ミクロ経済学	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	藤澤 宜広		
成績担当教員氏名	藤澤 宜広		
単位数	4 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期、2021 年度後期

授業の目的・概要

ミクロ経済学は、個々の家計や企業がどのように意思決定を行い、それらが相互にどのように関わり合うかを研究する学問です。マクロ経済学とあわせて、これから大学で学ぶ経済学のほとんどすべての分野の基礎となります。

前期では、まず、ほとんどの分野の経済学に共通した考え方を学ぶことから議論を始め、需要と供給、価格メカニズム、市場の効率性などの基本的な概念を前提にして、企業行動、消費者行動など、順次議論を展開します。

後期では、前期で考えられた知識を土台にして、不完全競争、ゲーム理論、外部性や公共財などのテーマを取り扱います。

到達目標

1. ミクロ経済に関するニュースに関心を持つようになる。
2. ミクロ経済学に関する基本モデルを理解できるようになる。
3. ミクロ経済に関するニュースで取り扱われている内容やその背景に対して経済学的な論理で批判的に考察できるようになる。

授業計画

この授業は遠隔授業となる予定です。原則として、リアルタイム型授業ではなく、講義を記録した動画を視聴し、所定の課題を提出する形で実施予定です。詳細は追って案内します。

前期

- 【第01回】第01章 ミクロ経済学の冒険 (1)：ミクロ経済学の枠組み
- 【第02回】第02章 需要と供給 (1)：市場均衡
- 【第03回】第02章 需要と供給 (2)：弾力性
- 【第04回】第03章 需要と供給のツールを使って市場を分析する (1)：消費者余剰と生産者余剰
- 【第05回】第03章 需要と供給のツールを使って市場を分析する (2)：価格規制、税金、補助金
- 【第06回】第04章 消費者行動 (1)：無差別曲線
- 【第07回】第04章 消費者行動 (2)：消費者の所得と予算制約線
- 【第08回】第05章 個人の需要と市場の需要 (1)：価格変化が消費選択に及ぼす影響
- 【第09回】第05章 個人の需要と市場の需要 (2)：個人の需要曲線を結合して市場の需要曲線をつくる
- 【第10回】第06章 生産者行動 (1)：企業の費用最小化問題
- 【第11回】第06章 生産者行動 (2)：規模に関する収穫
- 【第12回】第07章 費用 (1)：費用と費用曲線
- 【第13回】第07章 費用 (2)：平均費用と限界費用
- 【第14回】第08章 競争市場における供給 (1)：完全競争市場における利潤最大化
- 【第15回】第08章 競争市場における供給 (1)：短期の完全競争

後期

- 【第01回】第09章 市場支配力と独占 (1)：市場支配力の源泉
- 【第02回】第09章 市場支配力と独占 (2)：市場支配力を持つ企業の利潤最大化
- 【第03回】第10章 市場支配力と価格戦略 (1)：直接の価格差別
- 【第04回】第10章 市場支配力と価格戦略 (2)：間接の価格差別
- 【第05回】第11章 不完全競争 (1)：同一財の寡占市場
- 【第06回】第11章 不完全競争 (2)：差別化された財の寡占市場
- 【第07回】第12章 ゲーム理論 (1)：ナッシュ均衡
- 【第08回】第12章 ゲーム理論 (2)：繰り返しゲーム
- 【第09回】第14章 一般均衡 (1)：市場の効率性
- 【第10回】第14章 一般均衡 (2)：厚生経済学の定理
- 【第11回】第15章 情報の非対称性 (1)：レモンの問題と逆淘汰
- 【第12回】第15章 情報の非対称性 (2)：モラルハザード
- 【第13回】第16章 外部性と公共財 (1)：外部性
- 【第14回】第16章 外部性と公共財 (2)：公共財
- 【第15回】第17章 行動経済学と実験経済学

事前事後の学習

授業 (1回につき2時間として計算) と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

授業 (1回につき2時間として計算) と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。各回を通じて、

【事前】テキストに目を通し、重要事項を把握しておく。またわからない内容については質問できるように準備しておく。

【事後】授業中に学んだ内容の要点、感想、わからない内容を記録しておく。

その他、ミクロ経済に関するニュースに触れるようにしましょう。予習も重要ですが、復習により時間を割きましょう。不定期に実施する小テストとその解説を通じて理解度を確認して下さい。

課題に対するフィードバックの方法

授業の中で確認し、理解を深めます。

成績評価の方法・基準 (方針)

授業の感想や授業内課題60%、期末試験40%

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業の感想文 (10)、小テスト (30)、授業内課題 (20)	1、2
授業外での評価	0		
期末試験	40	最終レポート (40)	2、3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	レヴィット・グールズビー・サイヴァーソン『レヴィット ミクロ経済学 発展編』東洋経済新報社、2018年2月、本体3,600円+税、ISBN-13:978-4492315002。
参考書	レヴィット・グールズビー・サイヴァーソン『レヴィット ミクロ経済学 基礎編』東洋経済新報社、2017年5月、本体3,200円+税、ISBN-13:978-4492314951。 神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社、2014年9月、本体3,200円+税、ISBN-13:978-4535557567。 神取道宏『ミクロ経済学の技』日本評論社、2018年4月、本体1,700円+税、ISBN-13:978-4535558960。 伊藤元重『ミクロ経済学』(第3版) 日本評論社、2018年2月、本体3
履修条件・他の科目との関連	「経済学入門」を単位修得済み、かつ「ミクロ経済学Ⅰ」を単位取得済みもしくは履修中であることが望ましいです。
担当教員への連絡方法	・藤澤 宜広 fujisawa@oiu.jp

授業コード	16209201		
授業科目名	計量経済学	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	堀 要		
成績担当教員氏名	堀 要		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

この授業は、回帰分析を中心に計量分析の結果を読む、簡単な計量分析ができるようになることを目標に、演習中心に行う。統計プログラムとしては、無料で誰でもどこでも使える“R”を使うことにする。結構難しい科目ですが、勉強してもらって、卒論などで計量分析にチャレンジしてもらえればと思っている。

到達目標

1. 計量分析（回帰分析）の結果が読み、評価できる
2. 自分で計量分析が行え、その結果を評価できる

授業計画

- 【第1回】 イントロダクションRの自宅パソコンへのインストール
- 【第2回】 最小二乗法：理論的説明
- 【第3回】 最小二乗法：結果の読み方
- 【第4回】 Rの使い方とRによる回帰分析（実習）
- 【第5回】 分散不均一性のテスト
- 【第6回】 分散不均一への対処法
- 【第7回】 演習
- 【第8回】 系列相関：検定とその解決法
- 【第9回】 ダミー変数：構造変化の分析
- 【第10回】 差の差分分析
- 【第11回】 演習
- 【第12回】 パネル・データ（1）
- 【第13回】 パネル・データ（1）
- 【第14回】 連立方程式の推定（2段階最小二乗法）
- 【第15回】 演習

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

- 第1回
- 【事前】 教科書の第1章を読んで予習しておく。自宅のパソコンのスペックを確認しておく。 2.0 時間
 - 【事後】 教科書の第1章の関係箇所を読み直しておく 2.0 時間
- 第2回
- 【事前】 教科書の第3章・第4章を読んで予習しておく 3.0 時間
 - 【事後】 教科書の第3章・第4章の関係箇所を読み直しておく 2.0 時間
- 第3回
- 【事前】 教科書の第3章・第4章を読んで予習しておく 3.0 時間
 - 【事後】 教科書の第3章・第4章の関係箇所を読み直しておく 2.0 時間
- 第4回
- 【事前】 前回の授業の内容を整理しておく 2.0 時間
 - 【事後】 授業で行った作業を完了する。レポートを予定。 3.0 時間
- 第5回
- 【事前】 教科書の第7章を読んで予習しておく 2.0 時間
 - 【事後】 教科書の第7章の関係箇所を読み直し、授業で行った作業を完了する。 3.0 時間
- 第6回
- 【事前】 教科書の第7章を読んで予習しておく 2.0 時間
 - 【事後】 授業で行った作業を完了する。レポートを予定。 3.0 時間
- 第7回
- 【事前】 ここまでの授業内容を整理しておく 2.0 時間
 - 【事後】 授業で行った作業を完了する。レポートを予定。 3.0 時間
- 第8回
- 【事前】 教科書の第8章を読んで予習しておく 2.0 時間
 - 【事後】 授業で行った作業を完了する。レポートを予定。 3.0 時間
- 第9回
- 【事前】 教科書の第5章・第6章を読んで予習しておく 3.0 時間
 - 【事後】 教科書の第5章・第6章の関係箇所を読み直し、授業で行った作業を完了する。 3.0 時間
- 第10回
- 【事前】 事前に資料を配布するので、それを読んで予習しておく 2.0 時間
 - 【事後】 資料を読み直して、授業内容を整理し、授業で行った作業を完了する。 3.0 時間
- 第11回
- 【事前】 ここまでの授業内容を整理しておく 2.0 時間
 - 【事後】 授業で行った作業を完了する。レポートを予定。 3.0 時間
- 第12回
- 【事前】 教科書の第11章を読んで予習しておく 2.0 時間
 - 【事後】 教科書の第17章の関係箇所を読み直し、授業で行った作業を完了する。 3.0 時間

第13回
【事前】 前週の授業内容を整理しておく 2.0 時間
【事後】 教科書の第17章の関係箇所を読み直し、授業で行った作業を完了する。 3.0 時間
第14回
【事前】 教科書の第9章を読んで予習しておく 2.0 時間
【事後】 教科書の第9章の関係箇所を読み直し、授業で行った作業を完了する。 3.0 時間
第15回
【事前】 ここまでの授業内容を整理しておく 2.0 時間
【事後】 レポートによる試験予定。 3.0 時間

課題に対するフィードバックの方法

14回目までに実施したレポート等については、希望者にその評価を伝えます。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示すとおり、授業時間中に行う演習のプログラムと結果、授業期間中に実施される課題・レポートと、期末試験（レポート）の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業中に行う推定のプログラムと結果を提出してもらう	1, 2
授業外での評価	20	授業期間中に課すレポート	1, 2
期末試験	30	全授業終了後に実施するレポート試験	1, 2
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	『計量経済学』黒住英司,東洋経済,2016年,ISBN-13:978-4492314722,3080円
参考書	授業時間中に紹介する
履修条件・他の科目との関連	ミクロ経済学、マクロ経済学、財政学、金融論などの理論を実証する方法を学ぶ科目です。
担当教員への連絡方法	・堀 要 hori@oiu.jp

授業コード	16208201		
授業科目名	公共経済学	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	堀 要		
成績担当教員氏名	堀 要		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

公共経済学は、ミクロ経済学の一分野です。市場の役割や政府の役割について勉強します。

内容的には、競争均衡の最適性について学んだあと、市場の失敗について学び、次に、規制と規制緩和について学びます。この授業のスペシャル・トピックスとして、世界で初めて規制緩和された産業である米国の航空産業について、詳しく講義します。

到達目標

1. 公共経済学の考え方や理論を理解すること
2. 現実の政策や制度を公共経済学の知識をもとにして評価できるようになること

授業計画

- 【第1回】 ガイダンスと競争均衡の最適性 (1) 交換の効率性
- 【第2回】 競争均衡の最適性 (2) 生産の効率性と生産物代替の効率性
- 【第3回】 競争均衡の最適性 (3) 競争均衡がパレート最適な資源配分をもたらすことの証明
- 【第4回】 余剰分析 (独占、課税)
- 【第5回】 余剰分析 (貿易)
- 【第6回】 公共財 (1) 公共財とは。公共財の最適供給量。
- 【第7回】 公共財 (2) 公共財をめぐる諸問題
- 【第8回】 集合行為論と日本の政治
- 【第9回】 自然独占と規制
- 【第10回】 規制とレント＝シーキング
- 【第11回】 米国航空産業の規制と規制緩和 (1) 米国航空産業の黎明期と CAB 規制
- 【第12回】 米国航空産業の規制と規制緩和 (2) 規制下の米国航空産業
- 【第13回】 米国航空産業の規制と規制緩和 (3) 規制緩和後の動き
- 【第14回】 外部性
- 【第15回】 コロナ禍またはコロナ後の各国の政策を考える (テーマは変更する可能性あり)

事前事後の学習

授業 (1 回につき 2 時間として計算) と事前事後のあわせて 1 単位あたり 4.5 時間が必要です。

第 1 回

【事前】 教科書の「1.1 市場の機能」を読んで予習しておく 2.0 時間

【事後】 授業で配布する穴埋めのプリントの穴埋めと必要な図を描く 2.0 時間

第 2 回

【事前】 ミクロ経済学の教科書の消費者行動と競争企業の行動の部分を読んでおく 2.0 時間

【事後】 授業で配布する穴埋めのプリントの穴埋めと必要な図を描く 2.0 時間

第 3 回

【事前】 ミクロ経済学の教科書の消費者行動と競争企業の行動の部分を読んでおく 2.0 時間

【事後】 授業で配布する穴埋めのプリントの穴埋めと必要な図を描く 2.0 時間

第 4 回

【事前】 ミクロ経済学の教科書の余剰分析の部分を読んでおく 2.0 時間

【事後】 授業で配布する穴埋めのプリントの穴埋めと必要な図を描く。練習問題を解く 2.0 時間

第 5 回

【事前】 ミクロ経済学の教科書の余剰分析の部分を読んでおく 2.0 時間

【事後】 授業で配布する穴埋めのプリントの穴埋めと必要な図を描く。練習問題を解く。レポート予定。 3.0 時間

第 6 回

【事前】 教科書の公共財の部分を読んでおく 2.0 時間

【事後】 授業で配布する穴埋めのプリントの穴埋めと必要な図を描く 2.0 時間

第 7 回

【事前】 教科書の公共財の部分を読んでおく 2.0 時間

【事後】 授業で配布する穴埋めのプリントの穴埋めと必要な図を描くとともに、練習問題を解く。レポート予定。 2.0 時間

第 8 回

【事前】 公共財の定義とその供給を市場に任せただけの場合に起こる問題を復習しておく 1.0 時間

【事後】 授業の議論を復習するとともに、日本の政治について考えてみる 2.0 時間

第 9 回

【事前】 教科書の自然独占の部分を読んでおく 2.0 時間

【事後】 授業で配布する穴埋めのプリントの穴埋めと必要な図を描くとともに、練習問題を解く。 2.0 時間

第 10 回

【事前】 前週の授業の復習をしておく 2.0 時間

【事後】 授業で配布する穴埋めのプリントの穴埋めと必要な図を描くとともに、練習問題を解く。 2.0 時間

第 11 回

【事前】 前週の授業の復習をしておく 2.0 時間

【事後】 レポート予定。英語の HP を含めしっかり調べる。 3.0 時間

第 12 回

【事前】 前週の授業の復習をしておく 2.0 時間

【事後】	レポート予定。英語のHPを含めしっかり調べること。2.0 時間
第 13 回	
【事前】	前週の授業の復習をしておく 2.0 時間
【事後】	授業の内容を復習する 2.0 時間
第 14 回	
【事前】	教科書の外部性の部分を読んでおく 2.0 時間
【事後】	授業でやった部分を教科書で確認し、練習問題を解く 2.0 時間
第 15 回	
【事前】	前週に授業のテーマを言うので、その問題について調べておく 2.0 時間
【事後】	レポートによる試験予定。5.0 時間

課題に対するフィードバックの方法

14 回目までに実施したレポート等については、希望者にその評価を伝えます。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示すとおり、授業期間中に実施される課題・レポートと、期末試験（レポート）の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	70	授業期間中に課すレポート（4 回程度）	1
期末試験	30	全授業終了後に実施するレポート試験	2
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	『公共経済学』 小塩隆土,東洋経済新報社,2016 年,ISBN-13 : 978-4492314739,3080 円.
参考書	米国航空産業の規制と規制緩和については、塩見英治 『米国航空政策の研究』（文真堂,2006 年）が一番詳しい。他の参考書については授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	ミクロ経済学を履修済みであること。
担当教員への連絡方法	・堀 要 hori@oiu.jp

授業コード	16211501		
授業科目名	経済政策	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	村上 敬進		
成績担当教員氏名	村上 敬進		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

この授業では、エビデンス（根拠）に基づく経済政策の提案を説明します。景気変動、失業、貧困等の様々な経済問題をどのように解決するかを、主にマクロ経済学の立場から説明します。労働市場の動向（労働需要曲線のシフト）に注目しながら、財政政策と金融政策の有効性を整理し解説します。最後に、パンデミック下の経済政策の説明もします。経済のニュース記事を紹介し、授業で勉強した理論の知識を利用して、実際の経済問題を理解できるようになることを実感してもらいます。また、授業では Google Classroom と呼ばれる学習管理システムを利用して、双方向性を確保し、質問や意見に対してフィードバックしていきます。

到達目標

1. 授業中に紹介する経済記事を、学習した理論を用いて説明できる
2. 小テストを理解し説明できる
3. 労働需要曲線のシフトを通じて経済政策の効果を説明できる

授業計画

★この授業は遠隔授業となります。講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施予定です。

- 第1回目 経済学の方法と問い、経済モデル、実験経済学と自然実験
- 第2回目 雇用と失業の統計、労働需要
- 第3回目 労働供給、労働市場の均衡
- 第4回目 ジョブサーチと摩擦的失業、賃金の硬直性と構造的失業
- 第5回目 労働組合と団体交渉、効率賃金、賃金の下方硬直性と失業の変動、自然失業率
- 第6回目 景気変動と景気循環、大恐慌
- 第7回目 マクロ経済均衡と景気変動、労働需要曲線のシフトがもたらす景気変動
- 第8回目 労働需要曲線のシフト要因、技術進歩、実物的景気循環理論、景況感
- 第9回目 乗数効果、自己実現的予言、賃金の下方硬直性
- 第10回目 乗数と景気変動、賃金が伸縮的な場合、硬直的な場合
- 第11回目 反循環的財政政策及び金融政策
- 第12回目 連邦準備制度理事会の金融政策、日本のゼロ金利政策
- 第13回目 財政政策、政府支出乗数、クラウドディングアウト、租税乗数
- 第14回目 労働市場を対象とした財政政策、政策の無駄と政策のラグ、財政・金融政策
- 第15回目 パンデミック下の経済政策

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

各回を通じて、以下の事前学習と事後学習が必要です。

- ・事前学習：授業内容に該当するテキストの部分を事前に読んでください（各回 20時間）。
- ・事後学習：毎回実施する小テストを理解できるようにしましょう（各回 20時間）。

課題に対するフィードバックの方法

講義内容及び小テストについての質問や意見は Google Classroom で提出してもらい、次回の授業でフィードバックします。小テストの答え合わせも次回の授業でフィードバックします。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す通り、授業時間中に実施される確認テストと期末試験（レポート）の評価結果に基づき総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由のない欠席4回以上またはレポート課題未提出の場合、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	50	授業後の提出課題 (50)	1,2,3
期末試験	50	全授業終了後に実施するレポート試験 (50)	1,2,3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。講義資料を配布します。
参考書	ダロン・アセモグル他『マクロ経済学』東洋経済新報社 2019年 平口良司・稲葉大『マクロ経済学 入門の「一歩前」から応用まで』有斐閣 2015年 細野薫『いまこそ学ぼう マクロ経済学』第2版 日本評論社 2016年
履修条件・他の科目との関連	※欠席学生への配布資料等の対応：Google Classroom に配布資料はアップロードします。 経済学入門を履修済みであることが望ましい。 マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱを履修済み、もしくは履修中であることが望ましい。
担当教員への連絡方法	・村上 敬進 ak-murakami@oiu.jp

授業コード	16208301		
授業科目名	財政学	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	堀 要		
成績担当教員氏名	堀 要		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

日本の国と地方の財政の仕組みを知り、国の財政の実態を知ると同時に、財政学の理論を理解することを目的とする。政府は何をなすべきか、何をなすべきでないかという、政府の役割に関しても考えていきたい。特に今年用いる教科書は考えるヒントを提供するタイプなので、これをヒントに皆さんでいろいろと考えてもらいたいと思う。

また、この授業の特別なトピックスとして、戦後日本の公共投資政策（特に、国土計画、道路、河川分野）について講義する。公共事業への批判も強いが、東日本大震災をはじめ近年の極端な天候による洪水被害などから、防災のためのインフラ整備について再び肯定的な意見が増えている。また、戦後整備されたインフラの更新時期を迎えている。こうした中で、戦後ほぼ何もない状態から始まった日本のインフラ整備の歴史を振り返ってみるのも意義深いと思う。

到達目標

1. 日本の財政の現状や国と地方の財政関係について理解する。
2. 財政学に関わる理論的事項を理解する。
3. 政府の政策について自分なりの評価をできるようになる

授業計画

- 【第1回】 イントロダクション
- 【第2回】 予算制度と財政民主主義
- 【第3回】 日本の財政制度:国と地方の財政関係
- 【第4回】 日本の地方財政
- 【第5回】 日本の地方財政：ケーススタディ
- 【第6回】 税
- 【第7回】 社会保険と生活保障
- 【第8回】 財政赤字
- 【第9回】 財政の役割
- 【第10回】 格差・貧困の拡大と所得保障
- 【第11回】 財政政策の理論（1）
- 【第12回】 財政政策の理論（2） 問題演習
- 【第13回】 戦後日本の公共投資政策（1） 国土総合開発計画を中心に
- 【第14回】 戦後日本の公共投資政策（2） 道路
- 【第15回】 戦後日本の公共投資政策（3） 河川

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

- 第1回
- 【事前】 教科書の序章を読んで予習しておく 2.0 時間
 - 【事後】 次週の授業で使う財政データをダウンロードする 1.0 時間
- 第2回
- 【事前】 教科書の第1章を読んで予習しておく 2.0 時間
 - 【事後】 授業での議論を振り返って整理する 2.0 時間
- 第3回
- 【事前】 教科書の第5章を読んで予習しておく。授業で使うデータをダウンロードしておく。 3.0 時間
 - 【事後】 授業での議論を振り返って整理する 2.0 時間
- 第4回
- 【事前】 前回の授業の議論を整理しておく 2.0 時間
 - 【事後】 レポートを予定。 3.0 時間
- 第5回
- 【事前】 レポートで調べた事実を整理して、確認しておく 1.0 時間
 - 【事後】 自分の住んでいる自治体の財政について考えてみる 2.0 時間
- 第6回
- 【事前】 教科書の第2章を読んで予習しておく 2.0 時間
 - 【事後】 授業での議論を振り返って整理する 2.0 時間
- 第7回
- 【事前】 教科書の第3章を読んで予習しておく 2.0 時間
 - 【事後】 授業での議論を振り返って整理する 2.0 時間
- 第8回
- 【事前】 教科書の第4章を読んで予習しておく 2.0 時間
 - 【事後】 授業での議論を振り返って整理する 2.0 時間
- 第9回
- 【事前】 教科書の第6章を読んで予習しておく 2.0 時間
 - 【事後】 授業での議論を振り返って整理する。レポートを予定。 4.0 時間
- 第10回
- 【事前】 教科書の第7章を読んで予習しておく 2.0 時間
 - 【事後】 授業で配布する穴埋めのプリントの穴埋めと必要な図を描くとともに、練習問題を解く。 2.0 時間
- 第11回
- 【事前】 マクロ経済学の教科書のIS-LM分析のところを読んでおく 2.0 時間

【事後】 授業の内容を整理して、問題演習する。 3.0 時間
第 12 回
【事前】 前週の授業の復習をしておく 2.0 時間
【事後】 レポート予定。 3.0 時間
第 13 回
【事前】 前週にレジュメを配布するので、読んで予習しておく 2.0 時間
【事後】 授業の内容を整理する 2.0 時間
第 14 回
【事前】 レジュメを読んで予習しておく 2.0 時間
【事後】 授業の内容を整理する。レポート予定。 4.0 時間
第 15 回
【事前】 レジュメを読んで予習しておく 2.0 時間
【事後】 レポートによる試験予定。 5.0 時間

課題に対するフィードバックの方法

14 回目までに実施したレポート等については、希望者にその評価を伝えます。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示すとおり、授業期間中に実施される課題・レポートと、期末試験（レポート）の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	70	授業期間中に課すレポート（4 回程度）	1, 2, 3
期末試験	30	全授業終了後に実施するレポート試験	3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	『財政学の扉をひらく』 高端正幸・佐藤滋,有斐閣,2020 年,ISBN-13:978-4641150829,1980 円.
参考書	授業中に適宜紹介する。
履修条件・他の科目との関連	ミクロ経済学、マクロ経済学を履修済みまたは同時に履修している必要がある。
担当教員への連絡方法	・堀 要 hori@oiu.jp

授業コード	16203501		
授業科目名	環境経済学	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	村上 敬進		
成績担当教員氏名	村上 敬進		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

この授業は、環境問題を経済学の視点から考える能力を身に付けることを目的とします。経済学では環境問題を、所有権の欠如、外部性等の市場の失敗として捉えます。環境問題の発生メカニズム、環境問題に対する諸政策を説明した後、企業の社会的責任や環境会計、環境融資、行動経済学のナッジを利用した省エネ実験なども解説し、環境問題を複眼的視点から解説していきます。

環境経済に関わるニュース記事を紹介します。授業で勉強した理論の知識を利用して、実際の環境問題を理解できるようになることを実感してもらいます。また、授業では Google Classroom と呼ばれる学習管理システムを利用して、双方向性を確保し、質問や意見に対してフィードバックしていきます。

到達目標

1. 環境問題の発生理由を経済学の視点から説明できる
2. 環境問題の解決方法を説明できる
3. 環境金融がどのように外部性を内部化しているか説明できる
4. 有効な省エネ対策を説明できる

授業計画

★この授業は遠隔授業となります。講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施予定です。

- 第1回目 環境経済学の環境問題の捉え方
 第2回目 第14章 競争市場における企業、限界費用、限界収入、リサイクルとゴミ
 第3回目 第7章 消費者余剰・生産者余剰・市場の効率性
 第4回目 第7章 市場の効率性と市場の失敗、所有権の欠如
 第5回目 第10章 外部性と市場の非効率性、外部性の内部化
 第6回目 第10章 外部性に対する公共政策、ピグー税、売買可能な排出権取引
 第7回目 第10章 外部性に対する当事者間による解決法、コースの定理
 第8回目 第11章 公共財と共有資源、公共財、共有資源、共有地の悲劇
 第9回目 第11章 共有地の悲劇の例と対策 所有権の重要性
 第10回目 第6章 弾力性と税の帰着、弾力性の復習、環境税をだれが負担するか
 第11回目 企業の環境対策、環境経営、環境会計
 第12回目 企業の社会的責任、企業の環境リスク、CSR、CSV、SDGs、SRI
 第13回目 環境融資 ソフト情報、金融機関の情報生産、外部性の内部化手法
 第14回目 感染流行をミクロ経済学とマクロ経済学の理論モデルで理解する
 第15回目 省エネ対策の社会実験 行動経済学からのアプローチ

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

- 第1回目
 事前 授業のシラバスを読みテキストを概観する 1.0時間
 事後 今後の授業内容を復習し環境経済学の視点を理解する 1.0時間
- 第2回目
 事前 完全競争市場の利潤最大化条件を復習する（経済学入門の復習） 1.0時間
 事後 完全競争市場の利潤最大化条件を授業の範囲で再復習し、ゴミがリサイクルされる条件を復習する 1.0時間
- 第3回目
 事前 消費者余剰、生産者余剰、市場の効率性を復習する（経済学入門の復習） 2.0時間
 事後 授業で勉強した範囲で余剰分析を自分で行えるように復習する 2.0時間
- 第4回目
 事前 教科書の第7章を読む 2.0時間
 事後 市場の失敗を復習し、所有権の欠如がどのように外部性をもたらすかを整理する 2.0時間
- 第5回目
 事前 第10章の該当箇所を予習する 2.0時間
 事後 外部性によってどのように環境問題が発生するか復習する 2.0時間
- 第6回目
 事前 第10章の該当箇所を予習する 2.0時間
 事後 環境問題を解決するピグーゼイ、排出権取引を復習する 2.0時間
- 第7回目
 事前 第10章のコースの定理を予習する 2.0時間
 事後 コースの定理とピグー税の両方の関係を復習する 2.0時間
- 第8回目
 事前 第11章の該当箇所を予習する 2.0時間
 事後 公共財の定義、共有地の悲劇を復習する 2.0時間
- 第9回目
 事前 共有地の悲劇の例を予習する 2.0時間
 事後 漁業の例を説明できるように復習する 2.0時間
- 第10回目
 事前 需要の価格弾力性、供給の価格弾力性を復習する 2.0時間
 事後 環境税をだれが負担するかを説明できるように復習する 2.0時間

第11回目
事前 企業の環境経営、環境会計についてネット検索し調べる 2.0時間
事後 授業の内容の範囲で環境経営、環境会計を復習する 2.0時間
第12回目
事前 CSR、CSV、SRI等の授業の資料を予習する 2.0時間
事後 企業の社会的責任について復習する
第13回目
事前 環境金融をネット検索し調べてみる 2.0時間
事後 環境融資が外部性を内部化できる仕組みを復習する 2.0時間
第14回目
事前 外部性のところで勉強した理論、マクロ経済学で勉強したAS-AD分析を復習 2.0時間
事後 パンデミックの影響を経済理論で説明できるように復習する 2.0時間
第15回目
事前 行動経済学のナッジに付いて調べてみる 2.0時間
事後 省エネ対策を説明できるようにし、レポート課題の準備をする 6.0時間

課題に対するフィードバックの方法

講義内容及び小テストについての質問や意見は Google Classroom で提出してもらい、次回の授業でフィードバックします。小テストの答え合わせも次回の授業でフィードバックします。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す通り、授業時間中に実施される確認テストと期末試験（レポート）の評価結果に基づき総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由のない欠席4回以上またはレポート課題未提出の場合、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	50	授業後の提出課題 (50)	1, 2, 3, 4
期末試験	50	全授業終了後に実施するレポート試験 (50)	1, 2, 3, 4
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編 (第4版)』東洋経済新報社 2019年 税込み4,400円 ISBN-13:978-4492315194.
参考書	依田高典・岡田克彦 編著『行動経済学の現在と未来』日本評論社、2019年 栗山浩一・馬奈木俊介『環境経済学をつかむ』第4版、有斐閣、2020年 山下東子『魚の経済学』第2版、日本評論社、2012年
履修条件・他の科目との関連	※欠席学生への配布資料等の対応：Google Classroom に配布資料はアップロードします。 経済学入門を履修済みであることが望ましい。 マクロ経済学Ⅱ、ミクロ経済学Ⅱを履修済み、もしくは履修中であることが望ましい。
担当教員への連絡方法	・村上 敬進 ak-murakami@oiu.jp

授業コード	16203701		
授業科目名	現代の世界経済	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	花木 完爾		
成績担当教員氏名	花木 完爾		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要
現代の世界経済について基本的な知識を学びます。具体的には現代のグローバル経済が抱える課題がいつからはじまりどのような経過で今に至っているか歴史的にアプローチします。また、一方で経済学的基本説明も関連する事項として解説します。

到達目標
1.グローバル経済の現状について説明できる。 2.グローバル経済の現状について記述できる。 3.グローバル経済の現状に至る背景を説明できる。 4.グローバル経済の現状に至る背景を記述できる。

授業計画
第1回 授業ガイダンス 第2回 現代世界経済史① 第3回 現代世界経済史② 第4回 現代世界経済史③ 第5回 航空機分野における米英経済戦争① 第6回 航空機分野における米英経済戦争② 第7回 企業のグローバル化戦略① 第8回 企業のグローバル化戦略② 第9回 グローバル化とローカルの問題 第10回 階層化する社会：アメリカの学歴社会、日本の学歴社会 第11回 格差と貧困①：なぜ富める国と貧しい国に別れるのか 第12回 格差と貧困②：貧困と格差は秩序を破壊する 第13回 格差と貧困③：資本主義という課題 第14回 資本主義と欧米的「リベラル」の結合性 第15回 授業のまとめ

事前事後の学習
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

事前学習	レジュメを配布しますので事前に読んでください。1.5時間
事後学習	簡単なWEBクイズを出しますので、それに回答してください。1.5時間

課題に対するフィードバックの方法
WEBクイズは次回の冒頭に詳しく説明します。

成績評価の方法・基準（方針）
グローバル経済の問題点について認識できていること、その背景について適切に説明ができること。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	WEBクイズの参加率（40）、正答率（20）	1,3
授業外での評価	0		
期末試験	40	期末の提出課題とする。内容評価は十分な分量と質をもったグローバル経済に関する説明がなされること。	2,4
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	なし
参考書	ダロン・アセモグル 『国家はなぜ衰退するのか上・下』 ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2016年 ISBN978-4-15-050464-9、1,000円 ISBN978-4-15-050465-6、1,000円
履修条件・他の科目との関連	授業資料はGOOGLE CLASSROOMに毎週アップロード予定です。 問題意識を持てるように学んでください。
担当教員への連絡方法	・花木 完爾 k-hanaki@oiu.jp

授業コード	16208801		
授業科目名	日本経済史	実務家教員による授業	—
授業担当教員氏名	花木 完爾		
成績担当教員氏名	花木 完爾		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要			
<p>経済史は人間の経済的営みの積み重ねである。そこには社会、資本、会社、労働さまざまな要素が含まれる。技術や科学がどれだけ進歩したとしても、今も昔も人間が経済的課題に直面してさまざまな試行錯誤を繰り返すこと自体には変化はない。その意味で経済史を学ぶことは我々の経済的行動のあり方を学ぶことに等しい。なぜ、バブルは起こるのか？なぜ、国家は戦争の道を選ぶのか？歴史的なパンデミックはどのように克服されてきたのか？それらは歴史的な課題であるが、同時に現代的な課題でもある。</p> <p>本講義では特に日本人の経済的行動を理解するために特定の経済状況に直面した人間がどのような行動をとるのかを記述し、説明することが目的である。講義はパワーポイントによるプレゼン形式で行い、文字情報および静止画、動画の資料などを提示しながらすすめていく。</p> <p>授業は講義形式で受動的学習になるが、事前学習では授業テーマに関しての現代的課題を見つけたりノートを復習して熟考したりすること、事後学習では授業で提示された資料を見返すことが求められる。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1.歴史の転換点を経済学のキーワードで記述できること。 2.歴史の転換点を経済学のキーワードで説明できること。 3.歴史の転換点までのプロセスを日本語で記述できること 4.歴史の転換点までのプロセスを日本語で説明できること。 5.歴史的教訓として、歴史的事件の因果関係を抽象化して記述できること。 6.歴史的教訓として、歴史的事件の因果関係を抽象化して説明できること。 			
授業計画			
<p>*本授業は遠隔授業として実施する予定である。その遠隔授業の実施形式はオンデマンド型授業とする。リアルタイム型の遠隔授業(その授業時間に Zoom 等で参加する方法)ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施予定です。</p>			
第 1 回			
授業ガイダンス			
第 2 回			
近世の日本経済史			
第 3 回			
日本の近代化：明治維新と殖産興業			
第 4 回			
明治以降の新産業			
第 5 回			
大戦景気			
第 6 回			
昭和恐慌と高橋財政			
第 7 回			
格差拡大と戦争			
第 8 回			
戦前戦後の連続と断絶			
第 9 回			
戦後復興と高度経済成長時代			
第 10 回			
日独の台頭とアメリカの苦境			
第 11 回			
大きな時代の転換：戦後の終焉、2つのショック			
第 12 回			
1980 年代の日本経済：ジャパン・アズ・ナンバーワン			
第 13 回			
バブル経済の立ち行き：格差拡大と終焉			
第 14 回			
現代日本経済：歴史的な連続性			
第 15 回			
授業のまとめ			
事前事後の学習			
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。			
事前学習：レジュメを配布しますので事前に読んでください。1.5 時間			
事後学習：簡単な WEB クイズを出しますので、それに回答してください。1.5 時間			
課題に対するフィードバックの方法			
WEB クイズは次回の冒頭に詳しく説明します。			
成績評価の方法・基準（方針）			
<p>授業期間中に実施される課題・レポートと期末試験（レポート）の評価結果に基づき総合的に判定の上、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。</p> <p>レポート課題か期末レポート試験のいずれかを未提出の場合、評価の対象とせず、「K」評価とする。</p>			

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業への取り組み姿勢 (10)、WEB クイズへの参加率 (40)	2,4,6
授業外での評価	0		
期末試験	50	期末の提出課題とする。内容評価は日本経済史の問題点について認識できている記述があること (10)、その背景について適切に説明ができること (20)。くわえて、授業内容を超える調査記述があること (20)。	1,3,5
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	なし
参考書	粕谷誠『ものづくり日本経営史―江戸時代から現代まで―』名古屋大学出版会、2012年 ISBN978-4-8158-0715-3、3,800円
履修条件・他の科目との関連	授業資料はGOOGLE CLASSROOMに毎週アップロード予定です。 歴史とは今の自分達の立ち位置を明らかにするものです。自分たちは何者なのか探求してください。
担当教員への連絡方法	・花木 完爾 k-hanaki@oiu.jp

授業コード	16208001		
授業科目名	西洋経済史	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	花木 完爾		
成績担当教員氏名	花木 完爾		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

本講義は、「現代の資本主義社会がどのように登場し、発展してきたのか」、ということを中心に扱う。経済史という科目は「経済」という存在の特殊性についての歴史的理解を深める科目である。経済という存在の出現、発展を前近代の市場、産業革命以降、戦後グローバル経済の出現という3段階で論じる。

なお、本講義では、適宜、「実学としての経済学」という学習も考慮に入れた講義を行う。本経済学部において「実学としての経済学」の学習とは、具体的にはGDP・為替レート・金利などの経済諸指標の連関を理解しつつ、経済諸指標が互いに連動するマクロ経済学的な連関性を学ぶことを意味する。

到達目標

- 1.産業革命以降の経済成長メカニズムを記述できること。
- 2.産業革命以降の経済成長メカニズムを説明できること。
- 3.グローバル経済とはなにか記述できること
- 4.グローバル経済とはなにか説明できること。

授業計画

第1回

経済史とはなにか、授業の進め方、評価についてのガイダンス

第2回

経済成長のメカニズム

第3回

前近代の世界

第4回

前近代の市場、経済

第5回

近代への移行、市場経済の出現

第6回

近代の始まり：産業革命

第7回

産業革命期における「技術発展」

第8回

産業革命と日本開港

第9回

日本におけるエネルギー利用の変化：技術的諸条件の変化と国民生活

第10回

戦後経済の成長とグローバル化

第11回

戦後世界経済の安定：ブレトンウッズ体制とその崩壊

第12回

戦後世界経済の技術的発展、日本とドイツの経済成長

第13回

グローバリズム-1990年代・2000年代以降アジアの急成長

第14回

電力技術の発展、普及とグローバルなIT化の進行

第15回

アンチグローバル化とコロナ禍の世界経済：世界と日本の未来を考える

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

事前学習：レジュメを配布しますので事前に読んできてください。1.5時間

事後学習：簡単なWEBクイズを出しますので、それに回答してください。1.5時間

課題に対するフィードバックの方法

WEBクイズは次回の冒頭に詳しく説明します。

成績評価の方法・基準（方針）

授業期間中に実施される課題・レポートと期末試験（レポート）の評価結果に基づき総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

レポート課題が期末レポート試験のいずれかを未提出の場合、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業への取り組み姿勢 (10)、WEBクイズへの参加率 (40)	2,4
授業外での評価	0		
期末試験	50	期末の提出課題とする。内容評価は分量と質を備えた経済史の説明がなされること (30)。授業内容を越えた記述があること (20)。	1,3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	なし
参考書	小野塚知二『経済史 いまを知り、未来を生きるために』有斐閣、2018年 ISBN978-4-641-16515-1、4,000円
履修条件・他の科目との関連	授業資料はGOOGLE CLASSROOMに毎週アップロード予定です。 現在のグローバル経済がどのように始まったのか問題意識をもって受講してください。
担当教員への連絡方法	・花木 完爾 k-hanaki@oiu.jp

授業コード	16203801		
授業科目名	憲法	実務家教員による授業	○
授業担当教員氏名	三輪 淳之		
成績担当教員氏名	三輪 淳之		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

「憲法」は、学生にとっては関係性の低い遠い存在のように思われがちだが、他の全ての法よりも上位に位置する最高法規であり、国を治める基本的な定めとして、そして、我々国民の自由を守る役割として存在している。

従って、私たちが社会活動をしていくことも大いに関連があるため、より身近な存在となることを狙いとする。

本授業では、担当教員が長年に亘り、企業において「国際法務」業務に従事してきた経験をもとに、実務家教員として、実際に経験した事例を取り入れながら重要な判例も紹介して概説し、憲法の存在意義、適用のされ方やありかたについて双方向授業の形式で学び、自らの頭で思考して意見を出すことを促すことによって、日常生活における法律行為や時事問題について解説をしていく。

双方向授業の形式で学び、自らの頭で思考して意見を出すことを促すことによって、日常生活における法律行為や時事問題について解説をしていくことで、憲法を身近なものとするための実践的な学びの場とすることを狙いとする。

新聞やインターネットの新聞記事に普段から目を通して、憲法に関連するトピックについてピックアップするとともに、何がとりあげられてどのような焦点が当てられているのかについて理解と関心を高めておくこと。

到達目標

1. 憲法そのものの存在意義や基本的な枠組みを理解する
2. 憲法的視点を身につけることにより、社会的・政治的問題について主体的に考え、あるいは検討することができるようになる。
3. 憲法という題材を通して、社会のあらゆる立場にある人の利害調整について多角的視点を持って検討することを身につける。

授業計画

- ★この授業は、遠隔授業となります。
- リアルタイム型の遠隔授業（その授業 時間に Zoom 等で参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施予定です。
- 第1回：憲法の基礎知識 - 歴史と構成
1. 憲法の意義と目的
 2. 憲法の基本原理と構造
- 「憲法の国家における位置付けやおおその構造を学ぶ」
- 第2回：国民主権と象徴天皇制
1. 国民主権
 2. 天皇の仕事と権限
- 「主権とは何か、天皇の位置付けや天皇に認められている権利などを学ぶ」
- 第3回：平和主義
1. 自衛権
 2. 憲法9条
- 「平和主義の意義や自衛隊の位置付けを学ぶ」
- 第4回：基本的人権の尊重 - 基本的人権
1. 人権の主体
 2. 幸福追求権（プライバシー権等）
- 「誰について人権は保障されるのか、時代の変遷によって出現する新たな人権について」
- 第5回：法の下での平等 - 家族関係、投票価値
1. 差別禁止
 2. 家族関係
- 「平等とはどのような状態を指すのか、差別と区別の違いは何かについて学ぶ」
- 第6回：精神的自由権
1. 思想・良心の自由
 2. 信教の自由
 3. 表現の自由
 4. 学問の自由
- 「精神的自由権全般について概説し、各権利が保障される限界について学ぶ」
- 第7回：経済的自由権 - 職業選択の自由、財産権
1. 居住の自由
 2. 職業選択の自由
 3. 財産権・所有権
- 「職業選択の自由が認められない場合やその理由を学ぶ」
- 第8回：人身の自由 - 逮捕、刑事被告人の権利
1. 奴隷的拘束・拷問禁止
 2. 逮捕・捜索の制限
 3. 刑事被告人の権利
- 「捜査機関による逮捕や捜索がなぜ制限されるのか、どのような場合に許容されるのかについて学ぶ」
- 第9回：社会権 - 生存権、教育を受ける権利、労働基本権
1. 生存権
 2. 教育を受ける権利
 3. 労働基本権
 4. 公務員の労働基本権制約
- 「国民が最低限度の生活を営むためにどのような措置を国家が行うかや労働者が手厚く保護されている理由を学ぶ」
- 第10回：立法と国会 - 統治機構Ⅰ
1. 参政権
 2. 立法
 3. 国会
 4. 議員の権能・特権
- 「国民の代表者で構成される国会議員はどのような仕事をしているのか、立法の手続きなどを学ぶ」
- 第11回：内閣統治 - 統治機構Ⅱ
1. 議院内閣制
 2. 内閣の組織・権限
 3. 独立行政委員会
- 「議院内閣制と大統領制の違いや内閣の構成について学ぶ」
- 第12回：司法と裁判所 - 裁判員制度、違憲立法審査権 裁判官の独立
1. 司法権
 2. 違憲審査制
 3. 裁判所の組織・裁判官の独立
- 「裁判とは何か、裁判所で行われる違憲判断の方法、裁判官の独立はなぜ必要なのかを学ぶ」
- 第13回：地方自治・住民投票 - 地方統治
1. 地方公共団体
 2. 大阪都構想
- 「国政と地方政治の違いや、昨年行われた大阪都構想の住民投票を題材に地方自治体の仕組みを学ぶ」

<p>第14回：憲法改正 - 憲法改正手続</p> <p>1. 憲法改正手続 2. 現在議論されているトピック 「憲法改正の具体的な手続きやなぜ日本の憲法は改正が難しいのかなどを学ぶ」</p> <p>第15回：国民の義務・まとめ 「14回目までの総ざらいをする」</p>

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

各回、事前学習は2時間、事後学習は2時間を目安とする。

- ・事前学習；
テキストの該当箇所を読んで、疑問点を整理しておくこと。
- ・事後学習；
毎授業の最後の10分間で、その授業の理解度を確認するために、「理解度テスト」を実施することを基本とするので、各授業終了後1時間以内にEmailで提出すること。
詳細は初回授業の際に説明する。

課題に対するフィードバックの方法

各理解度テストについては、回答や解説、講評等を次回の授業までにネットに掲載する。
詳細は初回授業の際に説明する。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示すとおり、授業期間内に実施される理解度テスト（レポート課題に代わる可能性あり）、期末試験（レポート課題に代わる可能性あり）等を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく理解度テストを4回以上未提出の場合、又は期末試験を受験・提出（レポート課題未提出）しなかった場合、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	毎授業後の理解度テスト（レポート課題に代わる可能性あり）(40)	1,2,3
授業外での評価	0		
期末試験	60	全授業終了後に実施する試験又はレポート試験(60)	1,2,3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	<p>1. 「グラフィック 憲法入門 補訂版」毛利 透（新世社、2020年） 2,230円(税別) ISBN978-4-88384-236-0</p> <p>2. 上記1.に加えて、必要に応じて授業で配布する資料による。</p>
参考書	ポケット六法などの六法があれば望ましい
履修条件・他の科目との関連	<p>憲法についての知識がまったくない学生を歓迎します。</p> <p>新聞やインターネットの新聞記事に普段から目を通して、憲法に関連するトピックについてピックアップするとともに、何がとりあげられてどのような焦点が当てられているのかについて理解と関心を高めておくこと。</p>
担当教員への連絡方法	・三輪 淳之 a-miwa@oiu.jp

授業コード	16211801		
授業科目名	経済法	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	中川 巖		
成績担当教員氏名	中川 巖		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要			
<p>現在のようにグローバルな社会になりつつある日本における資本主義経済の下では、企業間における経済主体の公正かつ自由な競争が基本となる。しかし、現実には、事業者と一般消費者、大企業と中小企業など多様な経済主体が存在し、「公正かつ自由な競争を促進」することによって、「一般消費者の利益を確保するとともに、国民経済の民主的で健全な発達を促進する」という理念があるが、経済力の差により理念の通り実現されているのかという観点で考える必要がある。そこで、かかる理念を実現すべく制定された独占禁止法をはじめとする経済法の重要性は日々高まっている。本講義では、経済法の基礎的事項を体系的に習得することを目標とする。またその他知的財産権などにも触れる予定である。</p>			
到達目標			
<p>1.まず経済法とは何かを理解し説明できること。 2.日々の日常生活の中で経済法に関する記事・事象等を検索し場合によっては発表できること。 3.経済法違反に係る事例等見つけ簡単に報告できること。</p>			
授業計画			
<p>この授業は現在のところ、速隔（ZOOM など）による講義形式となる。 そこで、この速隔授業の配信や資料などはグーグルクラスルーム、ユニバなどでアドレス公開を行うので、各自接続できるようにしてください。</p> <p>【第1回】 ガイダンス 本講座の概要・到達目標 【第2回】 独占禁止法総論(1) 独占禁止法の歴史・目的 独占禁止法の構成と基礎概念 【第3回】 独占禁止法総論(2) 独占禁止法の構成と基礎概念 【第4回】 不当な取引制限（カルテル）(1) カルテル規制の理論的整理 【第5回】 不当な取引制限（カルテル）(2) カルテル規制の事例研究 【第6回】 私的独占(1) 私的独占禁止の理論的整理 【第7回】 私的独占(2) 不正競争・私的独占禁止の事例研究 【第8回】 不公正な取引方法(1) 不公正な取引方法規制の理論的整理 【第9回】 不公正な取引方法(2) 不公正な取引方法規制の事例研究 【第10回】 企業結合規制(1) 企業結合規制の理論的整理 【第11回】 企業結合規制(2) 知的財産法・企業結合規制の事例研究 【第12回】 独禁法違反による制裁・知的財産法・エンフォースメント・著作権 【第13回】 下請法 下請法の理論的整理・事例研究 【第14回】 景品表示法 景品表示法の理論的整理・事例研究 【第15回】 全授業のまとめ 全講義を振り返りそのまとめを実施する。</p>			
事前事後の学習			
<p>授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。</p> <p>【第1回】 シラバスを読んでおくこと。 ガイダンスを聞いたうえで、履修登録するか検討すること。 【第2回】以降 概要を読み疑問点などを明確にしておく。また毎回該当の箇所を事前に1.5時間ほど簡単に調べ、授業後指摘された事項や重要と考えた項目などを含めて2.5時間ほどの復習をしておくことと良い。</p>			
課題に対するフィードバックの方法			
<p>「適宜レポートなどの課題」を提出したものに対しては遅くとも翌々週までに寸評など加え授業の時に返却する予定である。</p>			
成績評価の方法・基準（方針）			
<p>成績の評価は平常点（授業内での発言・挙手・関連記事発表）・課題提出などで行う予定。対面式に切り替わった場合は通常の期末試験を行う。 上記記事発表とは、経済法やその他法律に関する日刊新聞の記事を学生が自主的に選定・切り抜き、その記事を担当教員に報告すれば、事業開始直後3分から5分間ほど時間を与えるので、教壇（対面の場合）・ZOOMなどで、その記事を他の受講生の前で発表する。これは諸君が今後必要になるであろう、面接・会議の報告・プレゼンなどの練習と考え是非積極的に活用してもらいたい。なお発表を行った者に対し</p>			
成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	<p>授業内での評価（平常点）は30分以上遅刻したものは通常の半分、対面式の場合、他の受講者に迷惑のかかる私語等は退席させ、その授業の平常点は無となる。 又、発表や質問は加点する。 リアルタイム速隔の場合、授業参加度合い、授業中の反応・チャット返信度合いにより参加状況を判断する。 随時の場合には、授業の参加確認課題若しくは参加者番号を通知し、その参加者番号や課題を教員メールに発送する形式で判断する</p>	<p>授業内での評価対象となる到達目標は経済法に関する記事などを発表できるとよい。 達成目標の2・3番</p>
授業外での評価	0	速隔により実施しない。	
期末試験	40	<p>速隔のため実施は授業以外で日にちを決め、開始時にレポート試験課題をユニバ、グーグルクラスルームなどにアップロードし、アップロードしたものを各自ダウンロードし一定の時間を計測、試験時間終了までに各自解答したファイルを、教員のメールアドレスまで送信する方法をとる予定。 これをもって試験に変えるものとする。</p>	<p>到達目標の1・3番をメインと考える。</p>
定期試験	0	速隔のため実施しない。	
その他	10	<p>課題提出で10% 提示した課題の提出をもって評価する。 課題未提出者は、このその他部分の10%の部分は評価しないので必ず提出すること。</p>	<p>達成目標の1・2・3番</p>

テキスト	独禁法講義（第7版）/白石忠志/有斐閣/2400/978-4-641-14465-1
参考書	授業中に適宜紹介予定。
履修条件・他の科目との関連	憲法・民法の総論的な知識を習得していることが望ましいが、必須ではなく、当該知識の未習得者でも履修可能な講義とすることを旨とする。
担当教員への連絡方法	・中川 巖 i-nakaga@oiu.jp

授業コード	16209501		
授業科目名	税法	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	増井 隆彦		
成績担当教員氏名	増井 隆彦		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要	
税金は、私たちの生活に大きく関わっています。税金は、憲法や民法等の基本法分野との密接な関連のみならず、「景気調整」や「政策手段」などの役割をも担っているからです。税金について知ることは、世の中の動き、とりわけ経済の動きを知ることにつながっていきます。そのため、この授業では、まず、税金とは何かということを明らかにした上で、多種多様な税金について学ぶ際の前提となる基礎知識について講究していきます。	
到達目標	
1.社会状況の変化に伴う税法の変移を理解する。 2.税と日常生活との関わりを理解する。 3.生活の中で税制の仕組みをいかせるようにする。	
授業計画	
この授業は遠隔授業となります。 原則として、リアルタイム型の授業（その授業内に zoom 等で参加する方法）として実施する予定です。 参加方法などの詳細は、追って案内いたします。	
【第1回】 テーマ：税の意義と租税法律主義 内容・方法：授業の進め方、評価方法についてのガイダンスを行った後、税金の意義を順に説明していきます。	
【第2回】 テーマ：租税回避と応能負担原則 内容・方法：雑税・租税回避・節税の違いを説明していきます。	
【第3回】 テーマ：課税の下限と上限 内容・方法：「健康で文化的な最低限度の生活費に税金？」を例に課税の下限と上限を説明していきます。	
【第4回】 テーマ：所得税法(1)―納税義務の範囲と所得概念 内容・方法：納税義務の範囲や、「土地は売ってなくても課税される？」を例に所得概念を説明していきます。	
【第5回】 テーマ：所得税法(2)―必要経費と所得分類 内容・方法：必要経費について、「夫が妻に給料を支払っても夫の経費にならない？」を例に説明していきます。	
【第6回】 テーマ：所得税法(3)―給与所得課税と譲渡所得 内容・方法：給与所得者の必要経費と、「土地を売却したら、誰にどんな税がかかる？」かを例に説明していきます。	
【第7回】 テーマ：所得税法(4)―収入の帰属時期と人的控除 内容・方法：収入の帰属時期とパートにおける 103 万円の壁を例に説明していきます。	
【第8回】 テーマ：所得税法(5)―課税単位と計算構造 内容・方法：課税単位と、「源泉徴収された分が戻ってくる？」を例に説明していきます。	
【第9回】 テーマ：法人税法?法人税の根拠と計算構造 内容・方法：法人税の根拠として、会社の所得は誰のものかを例に説明していきます。	
【第10回】 テーマ：消費税法(1)―消費税の基礎と多段階付加価値税・仕入税額控除 内容・方法：消費税の基礎として、消費税は付加価値税かを例に説明していきます。	
【第11回】 テーマ：消費税法(2)―非課税・ゼロ税率・逆進性対策 内容・方法：消費税の論点として、「消費税はシンプルな税制？」を例に説明していきます。	
【第12回】 テーマ：相続税法―課税の根拠、日本における課税方式と問題点 内容・方法：相続税の課税理由と「相続税は争続税？」を例に説明していきます。	
【第13回】 テーマ：酒税法 内容・方法：ビール、発泡酒、第三のビールの違いを例に説明していきます。	
【第14回】 テーマ：地方税制 内容・方法：地方税制について、「自治体が独自に課税できるの？」を例に説明していきます。	
【第15回】 テーマ：租税手続法と租税処罰法、租税救済法 内容・方法：租税手続法と租税処罰法、租税救済法について、判例をもとに説明していきます。	
事前事後の学習	
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。	
【第1回】	

①事前学修課題：講義概要を熟読してください。また、税金について興味・関心のある事柄をまとめておくとよいでしょう。

②事後学修課題：講義内容の復習を行うとともに、次回の講義内容に該当する配布資料を熟読してください。

【第2回】

①事前学修課題：前回の講義内容の復習を行うとともに、講義内容に該当する配布資料を熟読してください。

②事後学修課題：講義内容の復習を行うとともに、次回の講義内容に該当する配布資料を熟読してください。

【第3回】

①事前学修課題：前回の講義内容の復習を行うとともに、講義内容に該当する配布資料を熟読してください。

②事後学修課題：講義内容の復習を行うとともに、次回の講義内容に該当する配布資料を熟読してください。

【第4回】

①事前学修課題：前回の講義内容の復習を行うとともに、講義内容に該当する配布資料を熟読してください。

②事後学修課題：講義内容の復習を行うとともに、次回の講義内容に該当する配布資料を熟読してください。

【第5回】

①事前学修課題：前回の講義内容の復習を行うとともに、講義内容に該当する配布資料を熟読してください。

②事後学修課題：講義内容の復習を行うとともに、次回の講義内容に該当する配布資料を熟読してください。

【第6回】

①事前学修課題：前回の講義内容の復習を行うとともに、講義内容に該当する配布資料を熟読してください。

②事後学修課題：講義内容の復習を行うとともに、次回の講義内容に該当する配布資料を熟読してください。

【第7回】

①事前学修課題：前回の講義内容の復習を行うとともに、講義内容に該当する配布資料を熟読してください。

②事後学修課題：講義内容の復習を行うとともに、次回の講義内容に該当する配布資料を熟読してください。

【第8回】

①事前学修課題：前回の講義内容の復習を行うとともに、講義内容に該当する配布資料を熟読してください。

②事後学修課題：講義内容の復習を行うとともに、次回の講義内容に該当する配布資料を熟読してください。

【第9回】

①事前学修課題：前回の講義内容の復習を行うとともに、講義内容に該当する配布資料を熟読してください。

②事後学修課題：講義内容の復習を行うとともに、次回の講義内容に該当する配布資料を熟読してください。

【第10回】

①事前学修課題：前回の講義内容の復習を行うとともに、講義内容に該当する配布資料を熟読してください。

②事後学修課題：講義内容の復習を行うとともに、次回の講義内容に該当する配布資料を熟読してください。

【第11回】

①事前学修課題：前回の講義内容の復習を行うとともに、講義内容に該当する配布資料を熟読してください。

②事後学修課題：講義内容の復習を行うとともに、次回の講義内容に該当する配布資料を熟読してください。

【第12回】

①事前学修課題：前回の講義内容の復習を行うとともに、講義内容に該当する配布資料を熟読してください。

②事後学修課題：講義内容の復習を行うとともに、次回の講義内容に該当する配布資料を熟読してください。

【第13回】

①事前学修課題：前回の授業内容の復習を行うとともに、配布資料を熟読しておくこと。

②事後学修課題：講義内容の復習を行うとともに、次回の講義内容に該当する配布資料を熟読してください。

【第14回】

①事前学修課題：前回の講義内容の復習を行うとともに、講義内容に該当する配布資料を熟読してください。

②事後学修課題：講義内容の復習を行うとともに、次回の講義内容に該当する配布資料を熟読してください。

【第15回】

①事前学修課題：前回の講義内容の復習を行うとともに、講義内容に該当する配布資料を熟読してください。

②事後学修課題：配布資料を読み返し、これまでの授業内容を総復習してください。

課題に対するフィードバックの方法

各講義で提出していただいた課題の中で重要な箇所があれば講義内において適宜説明していきます。

成績評価の方法・基準（方針）

各講義内の取り組み、期末レポートで評価します。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業に対する取り組みとして、課題の作成を中心に評価していきます。さらに質問や資料を調査するなど、課題に対して積極的に取り組みがあった場合は加点します。	到達目標の1,2,3のすべて評価の対象となりますが、特に1を重視します。
授業外での評価	10	課題に対する資料調査、簿記検定試験など、積極的な取り組みがあった場合は加点します。	到達目標の1,2,3のすべて評価の対象となりますが、特に3を重視します。
期末試験	40	期末レポート	到達目標の1,2,3のすべて評価の対象となりますが、特に2を重視します。
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	講義中に適宜配布します。
参考書	資料等は講義中において、適宜配布・紹介します。
履修条件・他の科目との関連	講義資料は講義ごとに配布していきますので、各回の資料はご自身で整理して活用していくようにお願いします。
担当教員への連絡方法	・増井 隆彦 masui@oiu.jp

授業コード	16204601		
授業科目名	社会調査法	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	三木 英		
成績担当教員氏名	三木 英		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

社会調査とは、自らの手でデータを蒐集し、人間や社会についてそれまで知られていなかった現実を暴き出す営みであるといえる。そのための具体的な方法として、インタビューや観察による質的調査と、調査票を駆使しての量的調査があるが、講義はそのノウハウの伝授を中心に進められる。しっかりとした調査設計、そしてインフォーマントのプライバシーに配慮した粘り強い関わりが調査を成功させることを、受講生に知らしめるつもりである。また事情が許せば、受講生には実際に（簡単な）調査に従事していただくことも考えている。

到達目標

- ①調査を行う社会的な意義について理解する。
- ②調査の方法論について理解する。
- ③調査によって得られたデータを分析するノウハウを知る。
- ④調査報告書を作成する能力を身につける。

授業計画

【第1回】

テーマ：社会調査へのいざない

内容・方法：社会を調査するとは何か、そしてそれは何のために行われるかについて解説し、調査に対する受講生のモチベーションを高める。

【第2回】

テーマ：量的調査と質的調査

内容・方法：二種の調査について触れ、そのメリットとデメリットを明らかにして、相互補完的な調査を行なうことの重要性を説く。

【第3回】

テーマ：量的調査（！）

内容・方法：質問紙調査について解説し、まず質問し作成にあたっての注意点等に言及する。

【第4回】

テーマ：量的調査（2）

内容・方法：前回を受け、調査票の試作を行なう。それにあたり、作成を求めている「模擬調査票」の出来を検討する。

【第5回】

テーマ：量的調査（3）

内容・方法：サンプリングの重要性を説き、そのやり方を解説する。

【第6回】

テーマ：質的調査（1）

内容・方法：質的データ蒐集のための技法＝インタビューの方法について、解説する。

【第7回】

テーマ：質的調査（2）

内容・方法：質的データ蒐集のための技法＝観察（参与観察）の方法について、解説する。

【第8回】

テーマ：質的調査（3）

内容・方法：所謂アンケート調査に比べて軽視されがちな質的調査が、確かに「狭く」しかし「深く」真実に迫ろうとする技法であることを周知させる。

【第9回】

テーマ：模擬的質問紙調査（1）

内容・方法：以下、第14週まで、量的（質問紙）調査を模擬的に実施してみる。受講生が「マーケティング」関連を学ぶとき、それをよりリアルに感じてもらうためである。

【第10回】

テーマ：模擬的質問紙調査（2）

内容・方法：第9回に続き、質問紙の完成度を上げる試みを行なう。

【第11回】

テーマ：模擬的質問紙調査（3）

内容・方法：事前に求めておいた「模擬的実施」で集まったデータの、集計のやり方を SPSS によって説明する。

【第12回】

テーマ：模擬的質問紙調査（4）

内容・方法：データの入力とデータ・クリーニング

【第13回】

テーマ：模擬的質問紙調査（5）

内容・方法：単純集計のチェック、さらにクロス集計の実施

【第14回】

テーマ：模擬的質問紙調査（6）

内容・方法：コレスポンデンス分析、クラスター分析等々、種々の分析技法の説明

【第15回】

テーマ：調査倫理

内容・方法：調査実施、また調査報告の発信にあたっては被調査者のプライバシーに配慮せねばならない。調査者には倫理観が求められることを、ここでは強調しておく。

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

各回、事前学習2時間、事後学習2時間を想定している。

【第1回】

- ①事前学修課題：指定文献購読

<p>②事後学修課題：講義ノートのみまとめ（次回においてチェックする（以下、同じ））</p> <p>【第2回】</p> <p>①事前学修課題：指定文献購読</p> <p>②事後学修課題：講義ノートのみまとめ</p> <p>【第3回】</p> <p>①事前学修課題：指定文献購読</p> <p>②事後学修課題：講義ノートのみまとめ、及び「模擬調査票」作成を課す</p> <p>【第4回】</p> <p>①事前学修課題：「模擬調査票」の精度を高めることを課す</p> <p>②事後学修課題：「模擬調査票」の修正</p> <p>【第5回】</p> <p>①事前学修課題：指定文献購読</p> <p>②事後学修課題：講義ノートのみまとめ</p> <p>【第6回】</p> <p>①事前学修課題：指定文献購読</p> <p>②事後学修課題：与えられたテーマに則り、他者に試みにインタビューをしていただく。</p> <p>【第7回】</p> <p>①事前学修課題：インタビューで得たデータのまとめの作成</p> <p>②事後学修課題：何らかの対象（イベントあるいは特定集団）に試みに参与し観察することを課する。</p> <p>【第8回】</p> <p>①事前学修課題：観察結果のみまとめの作成</p> <p>②事後学修課題：講義ノートのみまとめ</p> <p>【第9回】</p> <p>①事前学修課題：質問紙の試作</p> <p>②事後学修課題：試作質問紙の修正</p> <p>【第10回】</p> <p>①事前学修課題：試作質問紙の再チェック</p> <p>②事後学修課題：試作質問紙の再修正</p> <p>【第11回】</p> <p>①事前学修課題：各受講生には、質問紙調査の「模擬的実施」を求める。</p> <p>②事後学修課題：講義ノートのみまとめ</p> <p>【第12回】</p> <p>①事前学修課題：指定文献購読</p> <p>②事後学修課題：講義ノートのみまとめ</p> <p>【第13回】</p> <p>①事前学修課題：相関関係にあると予想される変数について、仮説を設定することを求める</p> <p>②事後学修課題：単純集計・クロス集計によるデータを基に、「模擬的報告書」を作成。</p> <p>【第14回】</p> <p>①事前学修課題：相関関係また同一クラスターに属するとされる諸変数についての仮説設定を求める。</p> <p>②事後学修課題：実施された分析に基づいて、「模擬的報告書」を作成。</p> <p>【第15回】</p> <p>①事前学修課題：指定文献（日本社会学会による調査倫理要綱）の講読</p> <p>②事後学修課題：講義ノートのみまとめ、ならびに講義全体への感想についてまとめ、提出を求める（指定期日までの提出を課す）</p>

課題に対するフィードバックの方法

講義内で受講生個々に何らかの課題（レポート提出あるいは感想等の執筆）を与えた場合、その翌週当該時間に各々についてコメントを返す。

成績評価の方法・基準（方針）

Semester末に実施する試験の結果を60%、講義期間内に課す課題への応答を15%、受講態度を25%として総合的に評価する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	講義内で課される簡便な課題への対応を評価する。	①②
授業外での評価	10	講義終了後に提出を求めるレポートを評価する。	①②
期末試験	0		
定期試験	40	定期試験期間中に実施する筆記試験の成績を評価する。	①②③④
その他	10	統計的データを「読む」能力を評価する。	③

テキスト	プリントを配布する
参考書	講義中に適宜、紹介してゆく。
履修条件・他の科目との関連	「社会学」や「マーケティング」関連の講義を受講しておくことが望ましい。
担当教員への連絡方法	・三木 英 mikia@oiu.jp

授業コード	16204701		
授業科目名	公共経営論	実務家教員による授業	○
授業担当教員氏名	湯浅 孝康		
成績担当教員氏名	湯浅 孝康		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

本講義では、現在の日本の行政において実施されている公共経営の理念や手法、制度等を概観する。日本でも戦後、他の先進国と同様に福祉国家化が進展したが、1990 年代以降公共経営の考え方が広く普及し、さまざまな手法が試行・実施され、行政改革が進められている。こうした状況を踏まえ、現状の行政の経営実態を知り、今後の行政を展望することが本講義の目的である。講義は担当教員が市役所で 10 年間勤務した経験をもとに、実務家教員として具体的事例を交えながら、公共経営の理論と実践への応用を関連付けながら展開する。なお、本講義は自治体の各種制度の知識を前提に講義を実施するので、受講にあたっては「地方行政論」を事前に履修しておくこと。

到達目標

- 1.公共経営に関わる内容に関心や疑問を持ち、それを言語化できる
- 2.授業内容に即した公共経営に関する事例を適切に例示できる
- 3.公共経営に関する基礎的な知識を理解できている
- 4.公共経営に関する事例について適切に説明できる

授業計画

- 【第 01 回】 ガイダンスー公共経営とは何かー
全体のスケジュールについて確認するとともに、日本における公共経営の展開について概観する。
- 【第 02 回】 民営化の事例(1)
道路関係四公団の事例から民営化の理念や特徴、課題について講義する。
- 【第 03 回】 民営化の事例(2)
日本郵政公社の事例から民営化の理念や特徴、課題について講義する。
- 【第 04 回】 民間委託
民間委託の理念や特徴、課題について講義する。
- 【第 05 回】 市場化テスト
市場化テストの理念や特徴、課題について講義する。
- 【第 06 回】 アメリカ行政学の理論と展開
アメリカ行政学の発生と理論、その歴史的展開について講義する。
- 【第 07 回】 NPM の理念と実践
公共経営論の中核である NPM (New Public Management) の理念と実践について講義する。
- 【第 08 回】 ふりかえりと中間試験
これまでの授業内容についてふりかえり、中間試験を実施する。
- 【第 09 回】 第三セクター
第三セクターの理念や特徴、課題について講義する。
- 【第 10 回】 PPP と PFI
PPP (Public Private Partnership) と PFI (Private Finance Initiative) の理念や特徴、課題について講義する。
- 【第 11 回】 指定管理者制度
指定管理者制度の理念や特徴、課題について講義する。
- 【第 12 回】 独立行政法人制度
独立行政法人制度の理念や特徴、課題について講義する。
- 【第 13 回】 政策評価
政策評価の理念や特徴、課題について講義する。
- 【第 14 回】 公務員制度改革
公務員制度改革の理念や特徴、課題について講義する。
- 【第 15 回】 ふりかえりとまとめ
これまでの授業内容についてふりかえり、全体についてまとめる。

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

事前学習では指定の教科書・参考書を読み込む、関連する新聞記事等に目を通すなど、公共経営の理論と現状についての理解に努めること。また、事後学習では指定の教科書・参考書はもちろん、配布したプリントや自らで作成したノートを読み返し、講義内容を復習するなどの主体的学習を行うこと。毎回につき、1.5時間ほどの事前学習および事後学習が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

次回の講義の冒頭に教員からコメントすることで、課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により総合的に判定したうえ、所定の単位を認定する。ただし、特段の事情がなく5回以上欠席した者は「K」とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	受講態度 (30)、授業内課題 (15)、中間試験 (15)	2,3,4
授業外での評価	15	ふりかえりシート等の記載内容 (15)	1
期末試験	25	期末レポート (25)	3,4
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	湯浅孝康 (2021)『政策と行政の管理—評価と責任—』晃洋書房、2700 円 (税抜)、978-4-7710-3437-2 外山公美・平石正美・中村祐司・西村弥・五味太始・古坂正人・石見豊 (2014)『日本の公共経営』北樹出版、2500 円 (税抜)、978-4-7793-0423-1
参考書	田尾雅夫 (2010)『公共経営論』木鐸社 宮脇淳 (2003)『公共経営論』PHP 研究所
履修条件・他の科目との関連	受講にあたっては「地方行政論」を事前に履修しておくこと。また、毎日の新聞記事等を通じて、特に自分自身が住んでいる地域の公共経営関連の内容に関心を向けるよう心掛けること。 なお、配布資料は Google Classroom にアップロードするので、欠席した場合はそこから入手すること。
担当教員への連絡方法	・湯浅 孝康 yuasa@oiu.jp

授業コード	16204801		
授業科目名	地方行政論	実務家教員による授業	○
授業担当教員氏名	湯浅 孝康		
成績担当教員氏名	湯浅 孝康		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

本講義では、現在の日本の地方行政（自治体）の成立過程や仕組み、現状の制度を概観する。日本の自治体は、解決しなければならない多くの課題を抱えている一方で、少子高齢化や財政危機などの大きな制約を受けている。こうした状況を踏まえ、現状の地方行政（自治体）の各種制度を知り、今後の地方行政（地方自治体）を展望することが本講義の目的である。講義は担当教員が市役所で10年間勤務した経験をもとに、実務家教員として具体的事例を交えながら、地方行政（自治体）の理論と実践への応用を関連付けながら展開する。なお、本講義は行政・政策関係の科目の基礎となる科目である。今後、行政・政策関係の科目の履修を予定している者は、可能な限り本講義を早い段階で履修しておくこと。

到達目標

- 1.地方行政に関わる内容に関心や疑問を持ち、それを言語化できる
- 2.授業内容に即した地方行政に関する事例を適切に例示できる
- 3.地方行政に関する基礎的な知識や考え方を理解できている
- 4.地方行政に関する事例について適切に説明できる

授業計画

- 【第01回】ガイダンスー地方行政・地方自治体とは何かー
全体のスケジュールについて確認するとともに、自治体について概観する。
- 【第02回】自治体の歴史
明治以降の自治体の成立経過や変遷について講義する。
- 【第03回】地方分権改革
地方分権改革の経過や成果について講義する。
- 【第04回】都道府県と市区町村
日本の政府体系や市制度、都区制度、市町村合併について講義する。
- 【第05回】自治体の統治構造
二元代表制の制度原理や動態について講義する。
- 【第06回】首長と執行機関
自治体における首長の権限と役割、首長に対する統制について講義する。
- 【第07回】議会と議員
自治体における議会の機能や権限、議員の活動実態について講義する。
- 【第08回】ふりかえりと中間試験
これまでの講義内容についてふりかえり、中間試験を実施する。
- 【第09回】自治体の組織管理
自治体の組織管理のしくみや特徴、実態について講義する。
- 【第10回】自治体の財政運営と財政改革
自治体の財政のしくみや予算制度、財政改革などについて講義する。
- 【第11回】自治体職員の職務と人事
自治体の職員の職務、人事・給与制度などについて講義する。
- 【第12回】行政統制と自治体改革
自治体における行政統制の諸方策や自治体改革について講義する。
- 【第13回】自治体の政策と総合計画
自治体の政策活動の基本と総合計画について講義する。
- 【第14回】政策法務と条例
政策法務の概要、条例の制定可能な範囲、条例の具体例等について講義する。
- 【第15回】ふりかえりとまとめ
これまでの講義内容についてふりかえり、まとめを実施する。

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

事前学習では指定の教科書・参考書を読み込む、関連する新聞記事等に目を通すなど、地方行政の理論と現状についての理解に努めること。また、事後学習では、配布したプリントや自らで作成したノートを読み返し、講義内容を復習するなどの主体的学習を行うこと。毎回につき、1.5時間ほどの事前学習および事後学習が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

次回の講義の冒頭に教員からコメントすることで、課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により総合的に判定したうえ、所定の単位を認定する。ただし、特段の事情がなく5回以上欠席した者は「K」とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	受講態度（30）、授業内課題（15）、中間試験（15）	2,3,4
授業外での評価	15	ふりかえりシート等の記載内容（15）	1
期末試験	25	期末レポート（25）	3,4
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	磯崎初仁・金井利之・伊藤正次（2020）『ホーンブック地方自治』新版、北樹出版、2800円（税抜）、978-4-7793-0632-7
参考書	湯浅孝康（2021）『政策と行政の管理—評価と責任—』晃洋書房 大森彌・大杉寛（2019）『これからの地方自治の教科書』第一法規 今井照（2017）『図解 よくわかる地方自治のしくみ』第5次改訂版、学陽書房
履修条件・他の科目との関連	講義は行政・政策関係の科目の基礎となる科目である。今後、行政・政策関係の科目の履修を予定している者は、可能な限り本講義を早い段階で履修しておくこと。 受講にあたっては、高校の公民科のうち「現代社会」や「政治・経済」の地方行政の仕組みについてよく復習しておくこと。また、毎日の新聞記事等を通じて、特に自分自身が住んでいる地域の地方行政関連の内容に関心を向けるよう心掛けること。 なお、配布資料はGoogle Classroomにアップロードするので、欠席した場合はそこから入手すること。
担当教員への連絡方法	・湯浅 孝康 yuasa@oiu.jp

授業コード	16204901		
授業科目名	地域政策論	実務家教員による授業	○
授業担当教員氏名	湯浅 孝康		
成績担当教員氏名	湯浅 孝康		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

本講義では、現在の日本の自治体において実施されている公共政策について概観する。地方分権改革が進化した日本では、自治体には地域の実情に応じた政策を形成し、実施する能力が求められている。こうした状況を踏まえ、政策の考え方や形成・実施時の留意点を学び、今後の地域政策を展望することが本講義の目的である。講義は担当教員が市役所で10年間勤務した経験をもとに、実務家教員として具体的事例を交えながら、地域政策の理論と実践への応用を関連付けながら展開する。なお、受講にあたっては「地方行政論」を事前または同時に履修しておくこと。また、より深い学びのためには「政策過程論」を事前に履修しておくことが望ましい。

到達目標

- 1.地域政策に関わる内容に関心や疑問を持ち、それを言語化できる
- 2.授業内容に即した地域政策に関する実例を適切に例示できる
- 3.地域政策に関する基礎的な知識や考え方を理解できている
- 4.地域政策に関する事例について適切に説明できる

授業計画

★この授業は遠隔授業となります。原則としてリアルタイム型授業で実施予定です。参加方法などの詳細は追って案内します。

- 【第01回】ガイダンスー地域政策とは何かー
全体のスケジュールについて確認するとともに、地域政策について概観する。
- 【第02回】公共政策とは何か
公共政策の概念や定義等について講義する。
- 【第03回】公共政策の歴史
公共政策の歴史的展開について講義する。
- 【第04回】公共政策と市民
公共政策と市民の関係について民主的制御の視点から講義する。
- 【第05回】公共政策と自治
公共政策と自治の関係について熟議の重要性を中心に講義する。
- 【第06回】地方自治体の政策(1)ー産業政策と地方創生ー
自治体の政策の例として産業政策と地方創生を取り上げ、その特徴や実態について講義する。
- 【第07回】地方自治体の政策(2)ーまちづくりと公共事業ー
自治体の政策の例としてまちづくりと公共事業を取り上げ、その特徴や実態について講義する。
- 【第08回】ふりかえりと中間試験
これまでの授業内容についてふりかえり、中間試験を実施する。
- 【第09回】地方自治体の政策(3)ー子育て支援と教育ー
自治体の政策の例として産業政策と地方創生を取り上げ、その特徴や実態について講義する。
- 【第10回】地方自治体の政策(4)ー防災政策と安全ー
自治体の政策の例としてまちづくりと公共事業を取り上げ、その特徴や実態について講義する。
- 【第11回】政策のデザイン(1)ー問題の構造化と調査・分析ー
政策のデザインにおける問題の構造化と調査・分析について講義する。
- 【第12回】政策のデザイン(2)ー政策手段ー
政策のデザインと政策手段の関係について講義する。
- 【第13回】政策のデザイン(3)ー文脈ー
政策のデザインと文脈（コンテキスト）の関係について講義する。
- 【第14回】政策のデザイン(4)ー価値ー
政策のデザインと価値について講義する。
- 【第15回】ふりかえりとまとめ
これまでの授業内容についてふりかえり、まとめを実施する。

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

事前学習では指定の参考書を読み込む、関連する新聞記事等に目を通すなど、地域政策の理論と現状についての理解に努めること。また、事後学習では、配布したプリントや自らで作成したノートを読み返し、講義内容を復習するなどの主体的学習を行うこと。毎回につき、1.5時間ほどの事前学習および事後学習が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

次回の講義の冒頭に教員からコメントすることで、課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により総合的に判定したうえ、所定の単位を認定する。ただし、特段の事情がなく5回以上欠席した者は「K」とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	受講態度（30）、授業内課題（15）、中間試験（15）	2,3,4
授業外での評価	15	ふりかえりシート等の記載内容（15）	1
期末試験	25	期末レポート（25）	3,4
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	磯崎初仁・金井利之・伊藤正次 (2020) 『ホーンブック地方自治』 新版、北樹出版 石橋章市朗・佐野亘・土山希美枝・南島和久 (2018) 『公共政策学』 ミネルヴァ書房
参考書	湯浅孝康 (2021) 『政策と行政の管理—評価と責任—』 晃洋書房 秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉 (2015) 『公共政策学の基礎』 新版、有斐閣ブックス 新川達郎 (編) (2013) 『政策学入門』 法律文化社
履修条件・他の科目との関連	受講にあたっては、「地方行政論」を事前または同時に履修しておくこと。加えて、より深い学びのためには、「政策過程論」を事前に履修しておくことが望ましい。また、毎日の新聞記事等を通じて、特に自分自身が住んでいる地域の自治体の政策の内容に関心を向けるよう心掛けること。
担当教員への連絡方法	・湯浅 孝康 yuasa@oiu.jp

授業コード	16205001		
授業科目名	地域経済論	実務家教員による授業	○
授業担当教員氏名	三輪 淳之		
成績担当教員氏名	三輪 淳之		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

グローバル化する経済の中で、大きく変貌する地域経済の実態を踏まえつつ、国際化時代の地域経済学を学びます。社会や経済のグローバル化が進展する中で、地域経済や地方自治、地域づくりをどのように理解し、一人ひとりが地域の住民（＝構成員）としてどのように行動すべきか、焦点をあてていく。

これらについて、「基礎理論」・「地域経済構造」・「地域問題論」・「地域開発政策」・「地域づくり」、の視点から、企業による産業活動のみならず、地域経済の調査・分析の方法や住民の生活、そして地域づくりへの取り組みの視点でも解説を加えて、公務員や企業を目指す学生の学びの場とすることを狙いとする。

担当教員が長年に亘り、企業において「法務」業務に従事してきた経験をもとに、実務家教員として、実際に経験した身近な実例を取り入れながら概説し、双方向授業の形式で学び、自らの頭で思考して意見を出すことを促すことによって、産官学連携等のあり方も含めて検討し、実践的な学びの場とすることを狙いとする。

新聞やインターネット上の新聞記事に普段から目を通して、日常生活の中での日本や海外のグローバルな経済に関連するトピックについて意識をしてピックアップするとともに、何がとりあげられてどのような焦点が当てられているのかについて理解と関心を高めておくこと。

到達目標

1. 国際化時代にあってグローバルな活動を目指す視点からも、地域経済の実態やあり方について知識を習得する
2. 知識を習得して理解したうえで、社会に出ていく際の強みとする

授業計画

★この授業は、遠隔授業となります。

リアルタイム型の遠隔授業（その授業 時間に Zoom 等で参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施予定です。

I. グローバル化のなかの地域経済

第1回：ガイダンス — 地域経済学への招待と地域主義・グローバリズム
 「『地域』とは何か、グローバル視点からの地域経済学とは何か、を学ぶ — 英国の Brexit 例の紹介」

第2回：地域経済の成長と発展 — 産業の立地理論
 「地域経済成長のシナリオや産業立地について学ぶ」

第3回：グローバル化における地域経済 — 産業と生活の空間
 「グローバル化の中における地域経済の復権や企業や生活の空間について学ぶ」

II. 日本の地域経済と地域問題

第4回：地域経済の形成 — 経済のグローバル化過程と地域インパクト
 「経済のグローバル化と地域経済へのインパクト；海外現地化による国内産業空洞化について学ぶ」

第5回：首都への一極集中問題 — 産業構造の転換と地域経済構造
 「首都への一極集中問題の観点から地域経済のあり方を学ぶ」

第6回：WTO（世界貿易機構）と農村
 「WTO 発足と農産物輸入自由化観点から、国内農業・農村問題を学ぶ」

III. 日本の国土計画の歴史・地域開発政策

第7回：地域開発政策の歴史と展開 — 地域開発政策と水資源
 「地域開発政策のための国土計画について、道路やダム等のインフラ整備観点から学ぶ」

第8回：地域開発政策と重化学工業 — 先端技術産業との関係において
 「重化学工業の発展による地域経済への貢献と課題について学ぶ」

第9回：地域開発政策とリゾート開発 — 国土開発と将来の地域づくり
 「リゾート開発による地域経済活性化とバブル経済崩壊による影響について学ぶ」

IV. 地域づくりの進め方

第10回：地方自治と地域づくり — 地方財政の観点も踏まえて
 「地方自治制度の歴史と地方財政確保について学ぶ」

第11回：施設の政策と地域のゆがみ
 「施設(原子力発電所・在日米軍基地)立地の観点からの地域経済への効果と影響を学ぶ」

第12回：地域づくりの歴史と今後 — 地域づくり政策の新しい流れ
 「戦前の村づくりから現在の都市づくりに至るまでの歴史と過程を学ぶ」

第13回：地方分権と地域経済の独立
 「地域づくりのための、自治体間の連携と国際間の連帯について学ぶ」

第14回：地域を調べる — 地域調査の実施と方法
 「地域調査の方法と進め方についての要点を学ぶ」

第15回：振り返り、まとめ
 「14 回目まで学んできたことを総ざらいする」

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

各回、事前学習は2時間、事後学習は2時間を目安とする。

・事前学習；

テキストの該当部分を読んで疑問点を整理しておくこと

・事後学習；

・事後学習；

毎授業の最後の10分間で、その授業の理解度を確認するために、「理解度テスト」を実施することを基本とするので、各授業終了後1時間以内にEmailで提出すること。

詳細は初回授業の際に説明する。

課題に対するフィードバックの方法			
各理解度テストについては、回答や解説、講評等を次回の授業までにネットに掲載する。 詳細は初回授業の際に説明する。			
成績評価の方法・基準（方針）			
以下に示すとおり、授業期間内に実施される理解度テスト（レポート課題に代わる可能性あり）、期末試験（レポート課題に代わる可能性あり）等を総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。 正当な理由なく理解度テストを 4 回以上未提出の場合、又は期末試験を受験・提出（レポート課題未提出）しなかった場合、評価の対象とせず、「K」評価とする。			
成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	毎授業後の理解度テスト（レポート課題に代わる可能性あり）(40)	1, 2
授業外での評価	0		
期末試験	60	全授業終了後に実施する試験又はレポート試験(60)	1, 2
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	「国際化時代の地域経済学 第 4 版」岡田知弘 他共著（有斐閣アルマ、2016 年） 2,400 円(税別) ISBN978-4-641-22075-1
参考書	
履修条件・他の科目との関連	公務員のみならず、企業への就職を志望する学生も歓迎します。 新聞やインターネット上の新聞記事に普段から目を通して、日常生活の中での日本や海外のグローバルな経済に関連するトピックについて意識をしてピックアップするとともに、何がとりあげられてどのような焦点が当てられているのかについて理解と関心を高めておくこと。
担当教員への連絡方法	・三輪 淳之 a-miwa@oiu.jp

授業コード	16211701		
授業科目名	地方自治法	実務家教員による授業	○
授業担当教員氏名	湯浅 孝康		
成績担当教員氏名	湯浅 孝康		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

本講義では、地方自治法や行政法を中心に現在の日本の自治体をめぐる法制度を概観する。日本でも社会の変化に応じて法令が整備・改正されているが、特に地方分権改革以降、自治体の政策形成・実施能力が求められ、条例や規則の改正などさまざまな法務活動を通じて政策を実現させる政策法務の重要性も高まっている。こうした状況を踏まえ、法務の視点から今後の自治体を展望することが本講義の目的である。講義は担当教員が地方公務員として10年間勤務した経験をもとに、実務家教員として具体的事例を交えながら、自治体法務の理論と実践への応用を関連付けながら展開する。なお、本講義は憲法や民法の知識を前提に講義を実施するので、受講にあたっては「憲法」「民法」を事前に履修しておくこと。加えて、より深い理解のために、「地方行政論」「公共経営論」「政策過程論」「地域政策論」を事前または同時に履修しておくことが望ましい。

到達目標

- 1.自治体法務に関わる内容に関心や疑問を持ち、それを言語化できる
- 2.授業内容に即した自治体法務に関する事例を適切に例示できる
- 3.自治体法務に関する基礎的な知識を理解できている
- 4.自治体法務に関する事例について適切に説明できる

授業計画

★この授業は遠隔授業となります。原則としてリアルタイム型授業で実施予定です。参加方法などの詳細は追って案内します。

- 【第01回】ガイダンスー自治体法務とは何かー
全体のスケジュールについて確認するとともに、自治体法務について概観する。
- 【第02回】政策法務と条例
政策法務の視点から条例を制定する際の具体的手法や課題等について講義する。
- 【第03回】地方公共団体
法律の視点から地方公共団体の位置づけと国との関係について講義する。
- 【第04回】住民の自治権
法律の視点から住民の自治権について講義する。
- 【第05回】自治行政権
法律の視点から自治行政権について講義する。
- 【第06回】自治財政権
法律の視点から自治財政権について講義する。
- 【第07回】公の施設と契約
法律の視点から地方公共団体における公の施設と契約について講義する。
- 【第08回】ふりかえりと中間試験
これまでの授業内容についてふりかえり、中間試験を実施する。
- 【第09回】行政法の概要と行政組織法
行政法の概要と行政組織法について講義する。
- 【第10回】行政作用法(1)
行政作用法のうち行政立法、行政行為について講義する。
- 【第11回】行政作用法(2)
行政作用法のうち行政契約、行政指導について講義する。
- 【第12回】行政作用法(3)
行政作用法のうち実効性確保手段、行政計画、行政手続などについて講義する。
- 【第13回】行政救済法(1)
行政作用法のうち行政事件訴訟法について講義する。
- 【第14回】行政救済法(2)
行政救済法のうち不服申立、国家賠償、損失補償について講義する。
- 【第15回】ふりかえりとまとめ
これまでの授業内容についてふりかえり、全体についてまとめる。

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

事前学習では指定の教科書・参考書を読み込む、関連する新聞記事等に目を通すなど、自治体法務の理論と現状についての理解に努めること。また、事後学習では、指定の教科書・参考書はもちろん、配布したプリントや自らで作成したノートを読み返し、講義内容を復習するなどの主体的学習を行うこと。1.5時間ほどの事前学習および事後学習が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

次回の講義の冒頭に教員からコメントすることで、課題に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により総合的に判定したうえ、所定の単位を認定する。ただし、特段の事情がなく5回以上欠席した者は「K」とする。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	受講態度（30）、授業内課題（15）、中間試験（15）	2,3,4
授業外での評価	15	ふりかえりシート等の記載内容（15）	1
期末試験	25	期末レポート（25）	3,4
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	野呂充・野口貴公美・飯島淳子・湊二郎（2020）『行政法』第2版、有斐閣ストゥディア、2000円（税抜）、978-4-641-15074-4 松村享（2018）『基礎から学ぶ 入門 地方自治法』ぎょうせい、2700円（税抜）、978-4-324-10497-2
参考書	牧瀬稔（2017）『「型」からスラスラ書ける あなたのまちの政策条例』第一法規
履修条件・他の科目との関連	受講にあたっては「憲法」「民法」を事前に履修しておくこと。加えて、より深い理解のために「地方行政論」「公共経営論」「政策過程論」「地域政策論」は事前または同時に履修しておくことが望ましい。また、毎日の新聞記事等を通じて、特に自分自身が住んでいる地域の自治体の法務関連の内容に関心を向けるよう心掛けること。
担当教員への連絡方法	・湯浅 孝康 yuasa@oiu.jp

授業コード	16208401		
授業科目名	フィールド・リサーチ	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	早川 公		
成績担当教員氏名	早川 公		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

■概要
この授業は、地域に主体的に関わり、課題に対して他者（受講生、大学関係者、外部の関係者や制度など）と協働して取り組み、他者と共に何かをつくり出せることができる能力と態度の育成を目指す。

■対象フィールド
本年度の対象フィールドは門真市門真団地を予定

■授業形式
PBL（Project Based Learning、プロジェクト型学修）
少人数のグループ（チーム）を作り、実際の企画を創造し実施する。
（対面授業ができない場合は、別途検討する。）

到達目標

1. 地域（フィールド）の課題に対して当事者（自分ゴト）として取り組める
2. 自分の力だけでなく「自分たちゴト」として課題にコミットする
3. ただ行動するだけでなく、動きながら考えることができる

授業計画

- 第1回：オリエンテーション&マインドセット
- 第2回：演習の前提となる知識の確認
- 第3回：チームビルディング①（アイスブレイクのワーク）
- 第4回：チームビルディング②（質問で関係性を深めるワークショップ）
- 第5回：チームビルディング③（質問で関係性を深めるワークショップの続き）
- 第6回：デザイン思考のプロセス①（empathize、フィールドワーク）
- 第7回：デザイン思考のプロセス②（define、問題定義）
- 第8回：デザイン思考のプロセス③（define、フィールドワーク、問題再定義）
- 第9回：デザイン思考のプロセス④（ideation、アイデア発想）
- 第10回：デザイン思考のプロセス⑤（prototyping、試作品作成）
- 第11回：デザイン思考のプロセス⑥（testing、テスト検証）
- 第12回～13回：企画の検証（2コマ分）
- 第14回：企画の検証と後期企画の提案
- 第15回：デブリーフィング

本科目はPBL形式のため、プロジェクトの進行状況や学外のステークホルダーの都合により変更が前提と考えて受講すること。

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

本科目は、PBL科目という性質上、受講者で授業時間外での学修が必ず発生します。

主に、事前学習としては、プロジェクトのフェーズに応じた準備、事後学修としては授業やフィールドワークに関する振り返りシートの提出となります。

課題に対するフィードバックの方法

シートにはコメントをつけて返却する。
またプロジェクトに関する相談は随時受け付ける。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	各回のリアクション・ペーパーの量と質（40）、プロジェクトに取り組む態度（30）	1、3
授業外での評価	0		
期末試験	30	期末レポート（30）	2、3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用しません。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・企画テーマについては、第1回で説明します。受講予定者は必ず第1回に参加してください。 ・学外の方と関係しながら進める授業のため、責任ある受講として無断欠席を禁止とします。2回無断欠席があった場合にはそれ以降の受講は認められません。 ・後期の地域創造演習IIは本科目と対になっている科目ですので、合わせて履修登録をしてください。
担当教員への連絡方法	・早川 公 k-hayakawa@oiu.jp

授業コード	16205201		
授業科目名	情報デザイン論	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	下條 善史		
成績担当教員氏名	下條 善史		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要	
インターネットにアクセスすれば誰もが無数の情報を容易に手に入れられる時代にあつて、情報デザインの考え方、すなわち特定の目的のために情報を取舍選択し、また加工して最適なコミュニケーションをデザインするという方法論は、ビジネスの現場に限らずあらゆるところでの活用が期待される技術である。本講義では、情報デザインの考え方とそのさまざまな手法、特にパーソナルコンピュータとネットワークの活用によつてもたらされる新しい価値創造の技術について学び習得することを目的とする。	
到達目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報デザインの基礎概念であるコミュニケーションの理論を理解すること。 2. デジタルメディアの特性を知り、また今後現れるであろう新しいメディアの特性を推測できるようになること。 3. さまざまなデジタルメディアを使い分け、理想的なコミュニケーションの設計ができるようになること。 	
授業計画	
<p>【第1回】 テーマ：情報デザインの概要 内容・方法：情報デザインという新しい領域の学問について、現状と今後の方向性を紹介する。</p> <p>【第2回】 テーマ：現代のメディアとコミュニケーション 内容・方法：コミュニケーションの理論からメディア、コンテンツについて基礎的な用語とともにその構造を紹介し、今後の議論の準備をする。</p> <p>【第3回】 テーマ：情報技術の発生と普及、そして進化 内容・方法：情報技術がどのような目的で構想され、作り上げられ、またその普及によつてどう変化していったかを、事例を取り上げて解説する。</p> <p>【第4回】 テーマ：実現技術と利用技術 内容・方法：ICT はこれまでできなかったことを実現するための技術によつて生まれ、そしてこれまでには思いもつかなかったことに利用する技術が開発されることによつて普及した。このことを事例などによつて確認する。</p> <p>【第5回】 テーマ：ディスカッション(1) 内容・方法：あるテーマを与え、これまでに学習した内容を踏まえた討論を行う。</p> <p>【第6回】 テーマ：コミュニケーションの各論 内容・方法：これまでに学修した内容をさまざまなコミュニケーションに当てはめて、各論を展開する。</p> <p>【第7回】 テーマ：メディアと利用技術 内容・方法：インターネットのように、すでに実現技術は成熟していると思われるメディアも、今後も新たな利用技術が現れ、世の中を変えていくことが期待されている。このようなメディアと利用技術の関係について解説する。</p> <p>【第8回】 テーマ：情報提示の方法論 内容・方法：情報デザインの出力である情報提示について、そのパターンを列挙し類型化を試みる。</p> <p>【第9回】 テーマ：コミュニケーションの目的 内容・方法：情報デザインにおけるコミュニケーションの目的とターゲットは、適切なデザインに必須の情報である。ここでは目的とターゲットからコミュニケーションデザインを解いてみることを試みる。</p> <p>【第10回】 テーマ：コミュニケーションとインフラ 内容・方法：現代のコミュニケーションを支える原動力の一つはインフラの整備である。情報デザインとコミュニケーションインフラの関係を整理し、その影響力を探る。</p> <p>【第11回】 テーマ：コミュニケーションリテラシー 内容・方法：コミュニケーションの発達にはハードウェアとしてのメディアの普及のみならず、それを利用する人々のリテラシーの上達によつて支えられる。事例を通してこれらの事実を確認してみる。</p> <p>【第12回】 テーマ：ディスカッション(2) 内容・方法：あるテーマを与え、これまでに学習した内容を踏まえた討論を行う。</p> <p>【第13回】 テーマ：情報デザインとビジネス 内容・方法：ビジネスの世界で情報デザインがどのように利用されているか、また情報デザインがどのような価値を生むか、考察してみる。</p> <p>【第14回】 テーマ：情報デザインの未来 内容・方法：情報デザインという学問分野はまだ始まったばかりである。今後、どのようなトピックスが現れるだろうか。この分野の未来を想像してみる。</p> <p>【第15回】 テーマ：まとめと今後の発展 内容・方法：これまでに語られた内容をまとめるとともに、質問なども交えて簡単なディスカッションを行つてみる。</p>	
事前事後の学習	
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。	

<p>【第1回】</p> <p>①事前学修課題：この数十年間で、コミュニケーションの形は様変わりしている。両親の世代が現代のコミュニケーションについてどのような感想を持っているか、インタビューしてきてほしい。</p> <p>②事後学修課題：自身の最近のコミュニケーションが、どのようなメディアによってなされているか、整理しておくこと。</p> <p>【第2回】</p> <p>①事前学修課題：メディアとコンテンツについて、自身の理解を最新の事典などにより確認しておくこと。</p> <p>②事後学修課題：コミュニケーションやメディアと、ビジネスがどのように関わっているか、また関りの薄いのはどんな部分かを考えてみること。</p> <p>【第3回】</p> <p>①事前学修課題：スマートフォンがどのような技術によって作られ、また通信しているか、短い文章や図によってまとめてみよ。</p> <p>②事後学修課題：今後、通信技術の進歩によって、現在のコミュニケーションはどのように変化していくと考えられるか。考察してみよ。</p> <p>【第4回】</p> <p>①事前学修課題：利用技術というキーワードで検索サイトを検索し、情報を集めてくること。</p> <p>②事後学修課題：実現技術だけが開発されていながら、利用技術が発達していないために目の目を見ていない技術がある。例を挙げてみよ。</p> <p>【第5回】</p> <p>①事前学修課題：これまでの学習内容を振り返り、整理しておくこと。もし疑問などがあれば、質問できるよう準備しておくこと。</p> <p>②事後学修課題：議論の内容から導かれる経験則を文章化しておくこと。</p> <p>【第6回】</p> <p>①事前学修課題：選挙、政治、戦争、学習、就職などのキーワードと、ICTによる近年におけるそれらの変化について、考えてみよ。</p> <p>②事後学修課題：今回の授業で例示されなかったコミュニケーションについて、頭の中で同様の議論を展開してみよ。</p> <p>【第7回】</p> <p>①事前学修課題：インターネットのたとえば20年後の将来を想像してみよ。</p> <p>②事後学修課題：どのような技術が実現すれば、コミュニケーションは変わるのか。自身の頭の中で議論を展開してみよ。</p> <p>【第8回】</p> <p>①事前学修課題：第2回目の授業にて紹介したコミュニケーションの理論に従って、情報デザインのプロセスをモデル化してみよ。</p> <p>②事後学修課題：類型化された情報デザインの方法論それぞれについて、自身の能力がどこに傾いているかを判定してみよ。</p> <p>【第9回】</p> <p>①事前学修課題：ビジネスにおけるコミュニケーションを列挙して網羅してみよ。</p> <p>②事後学修課題：ビジネスにおけるコミュニケーションの目的とターゲットはいくつかの類型に分類することができるだろうか。試してみよ。</p> <p>【第10回】</p> <p>①事前学修課題：日本（自身の祖国）についての通信インフラの発達の歴史をひも解いてみよ。</p> <p>②事後学修課題：世界各国における通信インフラの状況がどのようにになっているか、調べてみよ。</p> <p>【第11回】</p> <p>①事前学修課題：コミュニケーションリテラシーとは、どのようなことを言うのか。自分なりの解答を用意して授業に臨むこと。</p> <p>②事後学修課題：自身のコミュニケーションリテラシーをできるだけ公平に評価してみよ。そのために必要な資料はどのようなものか。</p> <p>【第12回】</p> <p>①事前学修課題：これまでの学習内容を振り返り、整理しておくこと。もし疑問などがあれば、質問できるよう準備しておくこと。</p> <p>②事後学修課題：議論の内容から導かれる経験則を文章化しておくこと。</p> <p>【第13回】</p> <p>①事前学修課題：情報デザインの意義や価値はどのように評価すべきだろうか。アイデアを用意してくること。</p> <p>②事後学修課題：今後、情報デザインをビジネスに生かす余地があるだろうか。考察してみよ。</p> <p>【第14回】</p> <p>①事前学修課題：授業で語られるであろう内容を、それぞれ自分なりに予想して授業に臨んでみよ。</p> <p>②事後学修課題：授業で話された内容について、自分自身がどのように貢献できるかを想像してみよ。</p> <p>【第15回】</p> <p>①事前学修課題：これまでの内容を復習し、疑問点などあれば質問できるようにしておくこと。</p> <p>②事後学修課題：情報デザインについて書かれた資料を探し、内容を授業と比較してみよ。</p>
--

課題に対するフィードバックの方法

講義中に配布するプリント中に設けた設問によって確認する。

成績評価の方法・基準（方針）

毎回の出席は平常点に加算する。また授業中に数回、レポート提出を要求する。

成績評価の種類	評価割合（％）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	出席点と平常点	1、2、3
授業外での評価	0		
期末試験	50	授業内で数回出されるレポート課題によって評価する。	1、2、3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	テキストなし
参考書	UNIPA上に資料を準備する。また適宜授業において紹介する。
履修条件・他の科目との関連	「情報学入門」「コンピュータ基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を履修済みであることを前提に授業を進める。
担当教員への連絡方法	・下條 善史 zen-s@oiu.jp

授業コード	16205301		
授業科目名	情報数学	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	岡本 容典		
成績担当教員氏名	岡本 容典		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

本講義ではビジネスや経済、情報の分野で用いられている初歩的な数学について、厳密性にこだわらず直感的に理解させることを目標としている。単に公式を暗記したり、煩雑な計算を行ったりするのではなく、学んだことが実際にどのように役に立つのかという応用面に重点をおき解説していく。

到達目標

1. 経済学やビジネスの問題解決に最低限必要な数学を理解する。

授業計画

★この授業は、遠隔授業となります。リアルタイム型の遠隔授業（その授業時間に Zoom 等で参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施予定です。

1. ガイダンス
2. 分数・絶対値
3. 展開・因数分解
4. 関数・指数
5. 1次関数の式とグラフ
6. 2次関数の式とグラフ
7. 3次関数の式とグラフ
8. 中間テスト
9. 微分の意味と計算方法(1)
10. 微分の意味と計算方法(2)
11. 偏微分の意味と計算方法
12. 金利と経済成長率
13. 割引現在価値と投資
14. 等比級数の和の計算
15. まとめ

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4-5時間が必要です。

【事前】前回の授業内容を復習しておくこと。

【事後】授業中に指示された課題を次回までに提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

練習問題等の課題に関しては、授業内で解説を行う。中間テストは試験後に授業内で解説を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示すとおり、授業期間中に実施される小テストと、全授業終了後に実施される定期試験の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	毎回の授業で実施される小テスト	1
授業外での評価	0		
期末試験	0		
定期試験	40	全授業終了後に実施される定期試験	1
その他	0		

テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	数学は積み重ねが大切なので、毎回の授業内容を復習し、理解してから次の授業に臨むこと。
担当教員への連絡方法	・岡本 容典 okamoto@oiu.jp

授業コード	16205401		
授業科目名	プログラミング演習	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	下條 善史		
成績担当教員氏名	下條 善史		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

プログラミングという技能は、もはやこれまで考えられてきたような特殊な技能ではない。コンピューターとネットワークはすでに汎用的なツールとして我々の生活のあらゆる場面で活躍しており、これらを理解し、制御し、自身の活動に最大限に利用することは、現代を生きる社会人としては必須の能力となっている。

この科目では、プログラミング言語の例として Python を取り上げ、簡単なスクリプトの作成から、最終的には自身の情報処理を助けるための、アプリケーションまでを設計し、作成できるための技術を獲得することを目標とする。

到達目標

1. プログラミングの基礎としての論理的思考を行い、アルゴリズムを作成できること。
2. Python の文法を覚え、プログラミングとデバッグを行う技術を身につけること。
3. 情報処理の概念を理解して、プログラムの設計を行うことができること。

授業計画

【第1回】

テーマ：ガイダンスとイントロダクション

内容：プログラミングの歴史とその手法の変遷、代表的な言語と Python を対比してみる。

【第2回】

テーマ：プログラミングの準備

内容：テキストエディタ、CUI コンソールなど、プログラミングに必要なツールについて学ぶ。

【第3回】

テーマ：Python 対話モードの紹介と変数。

内容：Python 対話モードを使用して、変数や数式の扱い方、そして出力の形式を学ぶ。

【第4回】

テーマ：論理構造

内容：アルゴリズムの中での論理について着目。日常の判断を論理的に記述することを学ぶ。

【第5回】

テーマ：アルゴリズムの練習

内容：論理の流れを作成して、アルゴリズムを表現する手法を学ぶ。

【第6回】

テーマ：関数の定義

内容：関数の構造と働きを学習し、自身で定義した関数の利用法を学ぶ。

【第7回】

テーマ：授業前半の復習

内容：授業前半で学んだことを復習し、応用の練習をする。

【第8回】

テーマ：入出力

内容：コンソールへの入出力、ファイルへの入出力を学習し、プログラムへの応用を試みる。

【第9回】

テーマ：デバッグのコツ

内容：プログラミングは多くの場合、一度でうまくいかない。ここではプログラミング中に生じる様々なバグとその修正のパターンについて学習する。

【第10回】

テーマ：タートルグラフィック

内容：アルゴリズムを分かり易く視覚化するタートルグラフィックについて紹介する。

【第11回】

テーマ：辞書

内容：Python 特有の変数形態である辞書(DICT)の概念と利用法を学習する。

【第12回】

テーマ：学習プログラム

内容：辞書の機能を使って、言語を学習するプログラムを作成する。

【第13回】

テーマ：エラーハンドリング

内容：プログラムの中には様々な事態に備えて、あらかじめ考えられるエラーについての対応が盛り込まれている。ここではそのようなエラーハンドリングの技術を学習する。

【第14回】

テーマ：まとめ

内容：他の言語を利用する機会と、その手順などを紹介し、プログラミングやアルゴリズムといった手法の押し広げ方を考える。ブラリが付属している。

【第15回】

テーマ：授業内試験

内容：これまで習得した Python のコーディングに関する技術を試してみる。

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

【第1回】

事前学修課題：プログラミングという用語の一般的な意味を調べてくる。

事後学修課題：演習中の最後の課題を実習してみる。

<p>【第2回】 事前学修課題：先週の授業内容を復習しておく。 事後学修課題：演習中の最後の課題を実習してみる。</p> <p>【第3回】 事前学修課題：先週の授業内容を復習しておく。 事後学修課題：演習中の最後の課題を実習してみる。</p> <p>【第4回】 事前学修課題：先週の授業内容を復習しておく。 事後学修課題：演習中の最後の課題を実習してみる。</p> <p>【第5回】 事前学修課題：先週の授業内容を復習しておく。 事後学修課題：演習中の最後の課題を実習してみる。</p> <p>【第6回】 事前学修課題：先週の授業内容を復習しておく。 事後学修課題：演習中の最後の課題を実習してみる。</p> <p>【第7回】 事前学修課題：先週の授業内容を復習しておく。 事後学修課題：演習中の最後の課題を実習してみる。</p> <p>【第8回】 事前学修課題：先週の授業内容を復習しておく。 事後学修課題：演習中の最後の課題を実習してみる。</p> <p>【第9回】 事前学修課題：先週の授業内容を復習しておく。 事後学修課題：演習中の最後の課題を実習してみる。</p> <p>【第10回】 事前学修課題：先週の授業内容を復習しておく。 事後学修課題：演習中の最後の課題を実習してみる。</p> <p>【第11回】 事前学修課題：先週の授業内容を復習しておく。 事後学修課題：演習中の最後の課題を実習してみる。</p> <p>【第12回】 事前学修課題：先週の授業内容を復習しておく。 事後学修課題：演習中の最後の課題を実習してみる。</p> <p>【第13回】 事前学修課題：先週の授業内容を復習しておく。 事後学修課題：演習中の最後の課題を実習してみる。</p> <p>【第14回】 事前学修課題：先週の授業内容を復習しておく。 事後学修課題：演習中の最後の課題を実習してみる。</p> <p>【第15回】 事前学修課題：これまでの授業内容を復習しておく。 事後学修課題：自身が習得した技術を再確認する。</p>
--

課題に対するフィードバックの方法			
次回授業時に課題の考え方を提示し、その中でフィードバックを行う。			
成績評価の方法・基準（方針）			
出席並びに平常の受講態度と数回の授業内課題の得点を合計して評価とする。			
成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	出席点と平常点	1、2、3
授業外での評価	0		
期末試験	50	授業時間内で数回課すプログラミング課題の完成度によって評価する。	1、2、3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	PPT 資料を提示し、またプリントを配布する。
参考書	一般的な Python の参考書ならなんでもよい。
履修条件・他の科目との関連	プログラミングの習得は簡単なことではない。真摯に学びたいという気持ちが重要。また、キーボードで英単語や記号を頻繁に入力する。これについても十分に練習しておくこと。また、授業はできるだけ欠席しないこと。予習復習も重要である。これらを十分に理解、納得した上で選択することを要望する。
担当教員への連絡方法	・下條 善史 zen-s@oiu.jp

授業コード	16209801		
授業科目名	先端情報技術	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	下條 善史		
成績担当教員氏名	下條 善史		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

現在は、情報技術、つまり情報機器などのハードウェア、コンピュータプログラムなどのソフトウェア、さらにはそれを有効活用するためのユーズウェアなどの発展が著しい。また、このような技術は人々の価値観や感性なども大きく変え、新たな文化の創造にまで踏み込みつつある。本講義においては、これらの発展する情報技術の事例について、人間や社会にどう役立っているかという視点から多く学ぶとともに、その技術を成り立たせている原理についても可能な限り触れ、今後の情報技術の発展の方向性について考察する。

到達目標

1. 情報科学の基礎概念を理解し、情報関連のニュースを読めるようになること。
2. 情報技術の進歩の歴史について知り、現代社会を動かしている情報技術の成り立ちを理解すること。
3. 情報技術の進歩についての概要を知り、今後の社会の変化について議論できるようになること。

授業計画

【第1回】

テーマ：授業についてのガイダンス

内容・方法：本授業を受けるにあたっての諸注意、義務などを説明し、今後のスケジュールについて説明する。

【第2回】

テーマ：人と技術のかかわり

内容・方法：歴史の中で技術がどのように社会を変え、また人々がどのようにそれらを利用していったか、歴史から学ぶ。

【第3回】

テーマ：コンピューターの出現

内容・方法：コンピューターはどのように開発され、進歩してきたかを解説する。

【第4回】

テーマ：情報ネットワーク

内容・方法：コンピューターがつながることによって何がもたらされたか。

【第5回】

テーマ：金融と情報

内容・方法：情報技術による金融の変化について解説する。

【第6回】

テーマ：AI（人工知能）

内容・方法：人工知能の発達によって、社会に何が起ころうとしているのか。

【第7回】

テーマ：情報の流れと物流

内容・方法：情報ネットワークは物流をも変えた。情報と物流の関係について解説する。

【第8回】

テーマ：クラウドコンピューティング

内容・方法：ネットワークの発達によって、時と場所を選ばず情報処理能力が利用できるようになった。これによって何が起ころるか。

【第9回】

テーマ：AR と VR

内容・方法：人工現実感、仮想現実といった人間の感覚に訴える表現方法は、今後どのように発展していくのか。

【第10回】

テーマ：脳とコンピュータ

内容・方法：コンピュータは人間の脳を模倣しようとして、全く異なるものとして進歩してきた。コンピュータはどこまで人間に近づくことができるのか。

【第11回】

テーマ：利用技術

内容・方法：コンピュータの性能がどれだけ上がっても、人間の利用技術が確立されないうちは宝の持ち腐れである。利用技術について論ずる。

【第12回】

テーマ：コンピュータとネットワークの高速化

内容・方法：コンピュータやネットワークの高速化には限界はあるのか。現状考えられる技術の限界を探ってみる。

【第13回】

テーマ：インターネットの将来

内容・方法：インターネットにも欠点はある。それらを克服し、より人類社会に貢献するネットワークのあり方とは。

【第14回】

テーマ：つまり、コンピュータとは？

内容・方法：コンピュータとネットワークがもたらす人類の未来像について考えてみる。

【第15回】

テーマ：総括

内容・方法：情報技術の今後の発展を占う。

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

【第1回】

- ①事前学習課題：この授業にどんな内容を期待するのか、説明できるようにしておくこと。
- ②事後学習課題：授業の方針を理解し、今後の授業進行に備えて事前の準備をしておくこと。

【第2回】

①事前学修課題：「科学技術」が世の中をどう変えていったかを事前学習しておくこと。
②事後学修課題：授業内容を復習し、整理しておくこと。
【第3回】
①事前学修課題：世界初のコンピュータは何か。調べてくること。
②事後学修課題：授業内容を復習し、整理しておくこと。
【第4回】
①事前学修課題：インターネットの始まりについて調べておくこと。
②事後学修課題：授業内容を復習し、整理しておくこと。
【第5回】
①事前学修課題：fintech という言葉について調べてくること。
②事後学修課題：授業内容を復習し、整理しておくこと。
【第6回】
①事前学修課題：将棋ソフトがプロの棋士を破ろうとしていることについて、あなたはどうか考えるか。
②事後学修課題：授業内容を復習し、整理しておくこと。
【第7回】
①事前学修課題：POS システムについて、基本的な情報を調べておくこと。
②事後学修課題：授業内容を復習し、整理しておくこと。
【第8回】
①事前学修課題：「クラウド」とはどんなことを言うのか、調べてくること。
②事後学修課題：授業内容を復習し、整理しておくこと。
【第9回】
①事前学修課題：ゲームの世界で、現実感がどのように変化してきているか、調べてみよ。
②事後学修課題：授業内容を復習し、整理しておくこと。
【第10回】
①事前学修課題：「りんな」や「ワトソン」は人間とどこまで似ているのか。考えてみよ。
②事後学修課題：授業内容を復習し、整理しておくこと。
【第11回】
①事前学修課題：コンピュータがあまり活躍できそうな分野の例を挙げてみよ。
②事後学修課題：授業内容を復習し、整理しておくこと。
【第12回】
①事前学修課題：人類が火星に基地を作ったとすると、地球と火星間のコミュニケーションはどのようなものになるか、想像してみよ。
②事後学修課題：授業内容を復習し、整理しておくこと。
【第13回】
①事前学修課題：インターネットの欠点をいくつか挙げてみよ。
②事後学修課題：授業内容を復習し、整理しておくこと。
【第14回】
①事前学修課題：現代社会の諸問題を情報技術は解決できるだろうか。具体例について考察してみよ。
②事後学修課題：授業内容を復習し、整理しておくこと。
【第15回】
①事前学修課題：情報技術分野に関する「夢」を描いてみよ。
②事後学修課題：授業内容を復習し、整理しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

講義中に配布するプリント中に設けた設問によって確認する。

成績評価の方法・基準（方針）

出席・平常点とともに、授業内で数回、レポート課題を与え総合的に評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	出席点と平常点	1、2、3
授業外での評価	0		
期末試験	50	授業内で数回の課題やレポートを課し、その得点をもって評価する。	1、2、3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	PPTX を Google Classroom にて提示し、必要に応じてその他の資料を提示する。
参考書	参考資料はその都度紹介する。
履修条件・他の科目との関連	「情報学入門」「コンピュータ基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。また、普段から情報技術に関心を持ち、さまざまなメディアから情報収集しておくのが望ましい。
担当教員への連絡方法	・下條 善史 zen-s@oiu.jp

授業コード	16206001		
授業科目名	日中ビジネス論	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	何 成業		
成績担当教員氏名	何 成業		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

本科目は、現在極めて注目されている中国の企業経営を取りあげている。中国の企業組織と管理制度は、時代や環境の変化とともにどのように変革してきたのか、経営者・管理者に期待される役割はどのように変容しているのか、日本企業の経営管理は、中国の企業経営管理にとってどのような相違点、特に弱点をもっているのか、管理手法、組織制度、経営課題をどのように変革すべきかなどを理論的・実証的に講義する。特に WTO 加盟後の中国企業は、如何に市場経済体制を確立するか、如何に企業所有体制の問題を解決するか、経営学の視点から、中国企業の所有と支配、現代企業制度確立の問題を分析し、日本企業の経営と比較しながら講義を行う。

到達目標

- 1.日中企業経営の基本を勉強し、把握する。
- 2.中国の企業経営と日本企業の経営の相違点、特に弱点を理解する。
- 3.日中ビジネス経営に関する応用能力として、日中ビジネス経営の管理能力や問題解決能力が一定水準に達していること。

授業計画

この授業は、遠隔授業となる。原則として、リアルタイム型授業で実施予定である。参加方法などの詳細は、追って案内する。

【第1回】
 テーマ：中国国有企業の形成と発展について
 内容・方法：①国有化企業の形成過程 ②国有化企業の対象と実施過程 ③国有化企業の特徴と形態 ④要約と結論

【第2回】
 テーマ：中国国有企業組織管理制度の確立について
 内容・方法：①国有企業組織管理制度の形成 ②「工場管理委員会」組織管理制度 ③「工場管理委員会」組織管理制度の実施 ④要約と結論

【第3回】
 テーマ：「工場単独責任制」の組織管理制度について
 内容・方法：①「工場単独責任制」の組織管理制度の導入②「工場単独責任制」の問題点 ③対資本主義工商企業の社会主義改造 ④要約と結論

【第4回】
 テーマ：「党委員会指導下での工場長責任制」について
 内容・方法：①「党委員会指導下での工場長責任制」の導入 ②国有企業独立採算の実施 ③文革期の「工場革命委員会」組織管理制度 ④要約と結論

【第5回】
 テーマ：改革・開放による国有企業改革の開始について
 内容・方法：①国有企業の組織形態による再分類 ②国有企業組織制度変遷の再考 ③復活した「党委員会指導下での工場長責任制」④要約と結論

【第6回】
 テーマ：企業経営と環境変化への対応について
 内容・方法：①経営環境変化への対応と組織改革 ②工場の管理組織と現場作業組織(事例調査分析) ③工場組織と管理の統合的考察④要約と結論

【第7回】
 テーマ：国有企業人事制度改革について
 内容・方法：①就業構造の変化と雇用制度改革 ②賃金水準と賃金制度改革 ③企業改革と雇用維持の問題 ④要約と結論

【第8回】
 テーマ：中国の技術導入と日本の経験について（1）
 内容・方法：①自動車産業の事例を中心に分析する ②中国の技術導入と日本の経験 ③日中自動車産業の形成比較 ④要約と結論

【第9回】
 テーマ：中国の技術導入と日本の経験について（2）
 内容・方法：①日中の技術導入と普及比較 ②中国自動車工業技術導入の現状 ③技術導入における日本の経験 ④要約と結論

【第10回】
 テーマ：国有企業から株式会社への転換について（1）
 内容・方法：①改革の鍵を握る国有企業 ②国有企業改革の歩み ③市場経済の厳しさ ④要約と結論

【第11回】
 テーマ：国有企業から株式会社への転換について（2）
 内容・方法：①国有企業改革の正念場 ②二重構造と二重移行 ③要約と結論

【第12回】
 テーマ：現代中国企業の所有と支配について（1）
 内容・方法：①企業所有制の多元化 ②株式会社の導入 ③現代企業制度の確立 ④要約と結論

【第13回】
 テーマ：現代中国企業の所有と支配について（2）
 内容・方法：①国有企業の戦略的改革 ②コーポレート・ガバナンスの問題 ③要約と結論

【第14回】
 テーマ：現代企業制度の確立について（1）
 内容・方法：①現代企業制度確立の条件 ②現代企業制度確立の現状 ③要約と結論

【第15回】
 テーマ：現代企業制度の確立について（2）
 内容・方法：①現代企業の国際的性格の明確化 ②中国企業の今後の課題③要約と結論

期末試験（該当授業終了後）：レポート提出

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

各回、事前学修は2時間、事後学修は2時間を目安とする

<p>【第1回】 ①事前学修課題：教科書の該当部分の内容を読んでおくこと。 ②事後学修課題：教科書の該当部分の内容を再読して、授業の内容を振り返ること。</p> <p>【第2回】 ①事前学修課題：教科書の該当部分の内容を読んでおくこと。 ②事後学修課題：教科書の該当部分の内容を再読して、授業の内容を振り返ること。</p> <p>【第3回】 ①事前学修課題：教科書の該当部分の内容を読んでおくこと。 ②事後学修課題：教科書の該当部分の内容を再読して、授業の内容を振り返ること。</p> <p>【第4回】 ①事前学修課題：教科書の該当部分の内容を読んでおくこと。 ②事後学修課題：教科書の該当部分の内容を再読して、授業の内容を振り返ること。</p> <p>【第5回】 ①事前学修課題：教科書の該当部分の内容を読んでおくこと。 ②事後学修課題：教科書の該当部分の内容を再読して、授業の内容を振り返ること。</p> <p>【第6回】 ①事前学修課題：教科書の該当部分の内容を読んでおくこと。 ②事後学修課題：教科書の該当部分の内容を再読して、授業の内容を振り返ること。</p> <p>【第7回】 ①事前学修課題：教科書の該当部分の内容を読んでおくこと。 ②事後学修課題：教科書の該当部分の内容を再読して、授業の内容を振り返ること。</p> <p>【第8回】 ①事前学修課題：教科書の該当部分の内容を読んでおくこと。 ②事後学修課題：教科書の該当部分の内容を再読して、授業の内容を振り返ること。</p> <p>【第9回】 ①事前学修課題：教科書の該当部分の内容を読んでおくこと。 ②事後学修課題：教科書の該当部分の内容を再読して、授業の内容を振り返ること。</p> <p>【第10回】 ①事前学修課題：教科書の該当部分の内容を読んでおくこと。 ②事後学修課題：教科書の該当部分の内容を再読して、授業の内容を振り返ること。</p> <p>【第11回】 ①事前学修課題：教科書の該当部分の内容を読んでおくこと。 ②事後学修課題：教科書の該当部分の内容を再読して、授業の内容を振り返ること。</p> <p>【第12回】 ①事前学修課題：教科書の該当部分の内容を読んでおくこと。 ②事後学修課題：教科書の該当部分の内容を再読して、授業の内容を振り返ること。</p> <p>【第13回】 ①事前学修課題：教科書の該当部分の内容を読んでおくこと。 ②事後学修課題：教科書の該当部分の内容を再読して、授業の内容を振り返ること。</p> <p>【第14回】 ①事前学修課題：教科書の該当部分の内容を読んでおくこと。 ②事後学修課題：教科書の該当部分の内容を再読して、授業の内容を振り返ること。</p> <p>【第15回】 ①事前学修課題：教科書の該当部分の内容を読んでおくこと。 ②事後学修課題：教科書の該当部分の内容を再読して、授業の内容を振り返ること。</p>

課題に対するフィードバックの方法			
ディスカッション、課題レポートの発表と提出	Google Classroom で課題の提示、解答の回収、フィードバックまでを行うこともできますのでご利用ください。		
成績評価の方法・基準（方針）			
以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。また、正当な理由なく 5 回以上欠席した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。			
授業内評価：授業内での報告、ディスカッション 30%	授業外評価：課題レポートの完成 60%		
その他：授業に関する質問・発言、取り組み姿勢 10%			
成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内での報告、ディスカッション 30	1,2
授業外での評価	0		
期末試験	60	課題レポートの完成（60）	3
定期試験	0		
その他	10	授業に関する質問・発言(5)、取り組み姿勢(5)	2

テキスト	『中国国有企業の組織と経営管理』/何 成業/青山社/2,857/4-88359-093-3
参考書	『日本企業の国際経営』吉原英樹 著 同文館 定価 3,800 円
履修条件・他の科目との関連	受講生の積極的な質問、特に日中両国の企業経営、ビジネス問題などに対する質問を大歓迎する。 教科書に関する質問は授業中にお答える。
担当教員への連絡方法	・何 成業 he@oiu.jp

授業コード	16206801		
授業科目名	国際経営論	実務家教員による授業	○
授業担当教員氏名	近藤 浩章		
成績担当教員氏名	近藤 浩章		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

企業のグローバル化が従来の「日本型経営の輸出」から「現地化」、「グローバル連携」へと転換している状況を踏まえ、日本企業の国際経営の歴史を理解したうえで、今後の進むべき道を大局的にとらえる。各テーマにおいては、グローバルビジネスの実態や海外各市場の特性を、成功・失敗事例を交えてわかりやすく解説する。担当教員が長年に亘り、企業において国際経営に従事した実務経験をもとに、国際経営に関する理論と実践への応用を関連付けながら講義を展開する。

到達目標

1. グローバルビジネスを身近なものとして捉える眼を養う。
2. 日本企業が国際経営を行う際の課題と対応について理解する。
3. グローバルリーダーとして活躍するためのスキルアップ目標を持つ。

授業計画

※授業計画については変更する可能性もある。

- 【第1回 国際経営論概要】
講義の目的と全体構成、国際経営論を学ぶ意義
- 【第2回 国際経営とは】
さまざまな国際経営活動 多国籍企業 経営資源の海外移転
- 【第3回 国際経営戦略】
国際経営戦略とは 国際経営戦略の歴史 政治的制約
- 【第4回 海外マーケティング】
輸出と海外進出の歴史 海外販売子会社設立と現地化 輸入 SCM
- 【第5回 海外生産】
海外生産の発展 日本型生産の海外展開 日本型生産の試練
- 【第6回 海外研究開発】
技術の国際移転 海外研究開発の展開 ソフトウェア海外開発
- 【第7回 国際経営マネジメント】
国際経営組織 言語に関する課題と対応 日本型経営の課題と対応
- 【第8回 マトリクス経営】
事業軸経営 地域軸経営 マトリクス経営の実践と課題
- 【第9回 欧米における日本企業】
北米でのビジネス 欧州でのビジネス 国際情勢の影響
- 【第10回 アジアにおける日本企業】
ASEAN でのビジネス 中国でのビジネス インドでのビジネス
- 【第11回 新興国戦略】
新興国市場の特徴 外国企業の戦略 日本企業の戦略
- 【第12回 サービス企業の海外進出】
サービス企業の特徴 海外進出の事例と成果 海外進出の要点
- 【第13回 国際経営の未来】
非製造業のインバウンド戦略 国際経営の革新 日本企業の課題
- 【第14回 グローバルビジネスで活躍するために】
グローバルビジネスの特徴 求められるスキル・マインドセット
- 【第15回 国際経営論まとめ】
講義全般の振り返り、ビジネスパーソンとして大事なこと

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

- 【第1回】講義概要などの説明を復習し、国際経営を学ぶ意義について理解を深める。
- 【第2回】国際経営の全体像について予習し、授業内容をもとに身近な企業事例を調べて理解を深める。
- 【第3回】国際経営の歴史や戦略について予習し、授業内容をもとに身近な企業事例を調べて理解を深める。
- 【第4回】海外マーケティングについて予習し、授業内容をもとに身近な企業事例を調べて理解を深める。
- 【第5回】海外生産について予習し、授業内容をもとに身近な企業事例を調べて理解を深める。
- 【第6回】海外研究開発について予習し、授業内容をもとに身近な企業事例を調べて理解を深める。
- 【第7回】国際経営組織や課題について予習し、授業内容をもとに身近な企業事例を調べて理解を深める。
- 【第8回】マトリクス経営について予習し、授業内容をもとに身近な企業事例を調べて理解を深める。
- 【第9回】北米や欧州のビジネスについて予習し、授業内容をもとに身近な企業事例を調べて理解を深める。
- 【第10回】アジアのビジネスについて予習し、授業内容をもとに身近な企業事例を調べて理解を深める。
- 【第11回】新興国のビジネスについて予習し、授業内容をもとに身近な企業事例を調べて理解を深める。
- 【第12回】サービス企業の国際経営について予習し、授業内容をもとに身近な企業事例を調べて理解を深める。
- 【第13回】国際経営の諸課題について予習し、授業内容をもとに身近な企業事例を調べて理解を深める。
- 【第14回】グローバルビジネスの特徴について予習し、授業内容をもとに身近な企業事例を調べて理解を深める。
- 【第15回】国際経営の授業を振り返り、期末試験の準備を行う。

事前事後の学習時間：第1回は事後学習4.0時間、第2回～第14回は各回事前1.5時間、事後2.5時間、第15回は事前学習4.0時間

課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業時に課題レポートに対するコメントをする。			
成績評価の方法・基準（方針）			
以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。 ※成績評価方法・基準については、場合によっては変更する可能性もある。 ※※授業時間内の発言は回数をカウントし、授業参画の積極性を評価する。 ※※※確認テストは各授業ごとに示し、授業時間外に取り組むものとする。			
成績評価の種類	評価割合（％）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	授業時間内の発言回数・内容（20）	1,2
授業外での評価	40	各回の確認テスト（30）、課題レポート（10）	2
期末試験	0		
定期試験	40	筆記試験（40）	2,3
その他	0		

テキスト	テキストは指定しない。
参考書	国際経営 第4版（有斐閣アルマ）吉原 英樹 著 ISBN-13:978-4641220645
履修条件・他の科目との関連	マーケティング論の履修が望ましい。 授業では発言を求められるため、積極的な態度で履修すること。
担当教員への連絡方法	・近藤 浩章 h-kondo@oiu.jp

授業コード	16207901		
授業科目名	国際会計論	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	高橋 泰代		
成績担当教員氏名	高橋 泰代		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

我が国の会計制度は会計ビッグバンと呼ばれる会計改革により経済社会に影響を与えている。我が国の会計制度の特徴を基礎として、国際会計基準導入への課題を解説する。また日本会計制度の特殊性と国際会計制度の関連性を解説し、国際会計基準の意義と役割を考察することを目的とする。

到達目標

1. 日本会計基準が理解できる。
2. 国際会計基準と日本会計基準の差異が理解できる。
3. 国際会計基準を採用している企業の財務諸表が理解できる。

授業計画

★この授業は、遠隔授業となります。原則として、リアルタイム型授業で実施予定です。
参加方法などの詳細は、追って案内します。

【第1回】

テーマ：イントロダクション

内容・方法：会計のグローバル化の概要について解説

【第2回】

テーマ：国際会計基準設定の歴史的背景

内容・方法：国際会計基準審議会設立までの歴史的背景を解説

【第3回】

テーマ：国際会計基準の設定プロセス

内容・方法：国際会計基準の設定プロセスについて解説

【第4回】

テーマ：日本会計基準と国際会計基準

内容・方法：日本会計基準が国際会計基準の意義について解説

【第5回】

テーマ：日本会計と国際会計（アドプション）

内容・方法：日本会計基準が国際会計基準にアドプションする事の意義について解説

【第6回】

テーマ：国際会計基準(IAS)「財務諸表の表示」

内容・方法：IAS No.1「財務諸表の表示」について解説

【第7回】

テーマ：国際会計基準(IAS)「リース」

内容・方法：IAS No.17「リース」について解説

【第8回】

テーマ：国際会計基準(IAS)「個別財務諸表」

内容・方法：IAS No.27「個別財務諸表」について解説

【第9回】

テーマ：国際会計基準(IAS)「金融商品」

内容・方法：IAS No.32.39「金融商品」について解説

【第10回】

テーマ：国際会計基準(IAS)「無形資産」

内容・方法：IAS No.38「無形資産」について解説

【第11回】

テーマ：国際財務報告基準(IFRS)「連結財務諸表」

内容・方法：IFRS No.10「連結財務諸表」について解説

【第12回】

テーマ：国際財務報告基準(IFRS)「公正価値測定」

内容・方法：IFRS No.13「公正価値測定」について解説

【第13回】

テーマ：財務会計の概念フレームワーク（日本会計）

内容・方法：概念フレームワークの意義と日本の概念フレームワークの内容について解説

【第14回】

テーマ：財務報告に関する概念フレームワーク（国際会計）

内容・方法：日本と国際会計の概念フレームワークの相違について解説

【第15回】

テーマ：グローバル社会における会計基準

内容・方法：主要国の会計基準と国際会計基準の採用状況について解説

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

【第1回】

①事前学修課題：特になし

②事後学修課題：会計のグローバル化についてまとめる。(90分)
【第2回】
①事前学修課題：国際会計基準審議会について調べる。(90分)
②事後学修課題：国際会計基準審議会設立の歴史的背景についてまとめる。(90分)
【第3回】
①事前学修課題：国際会計基準の設定プロセスを調べる。(90分)
②事後学修課題：国際会計基準の設定プロセスについてまとめる。(90分)
【第4回】
①事前学修課題：日本会計基準への国際会計基準採用について調べる。(90分)
②事後学修課題：日本会計基準における国際会計基準採用の影響をまとめる。(90分)
【第5回】
①事前学修課題：日本会計基準におけるアドプションの意味を調べる。(90分)
②事後学修課題：日本会計基準におけるアドプションの意味をまとめる。(90分)
【第6回】
①事前学修課題：IAS No.1「財務諸表の表示」について調べる。(90分)
②事後学修課題：IAS No.1「財務諸表の表示」についてまとめる。(90分)
【第7回】
①事前学修課題：IAS No.17「リース」について調べる。(90分)
②事後学修課題：IAS No.17「リース」についてまとめる。(90分)
【第8回】
①事前学修課題：IAS No.27「個別財務諸表」について調べる。(90分)
②事後学修課題：IAS No.27「個別財務諸表」についてまとめる。(90分)
【第9回】
①事前学修課題：IAS No.32,39「金融商品」について調べる。(90分)
②事後学修課題：IAS No.32,39「金融商品」についてまとめる。(90分)
【第10回】
①事前学修課題：IAS No.38「無形資産」について調べる。(90分)
②事後学修課題：IAS No.38「無形資産」についてまとめる。(90分)
【第11回】
①事前学修課題：IFRS No.10「連結財務諸表」について調べる。(90分)
②事後学修課題：IFRS No.10「連結財務諸表」についてまとめる。(90分)
【第12回】
①事前学修課題：IFRS No.13「公正価値測定」について調べる。(90分)
②事後学修課題：IFRS No.13「公正価値測定」についてまとめる。(90分)
【第13回】
①事前学修課題：概念フレームワークの内容を調べる。(90分)
②事後学修課題：概念フレームワークの意義をまとめる。(90分)
【第14回】
①事前学修課題：それぞれの概念フレームワークの内容を調べる。(90分)
②事後学修課題：それぞれの概念フレームワークの相違をまとめる。(90分)
【第15回】
①事前学修課題：主要国の国際会計基準導入の状況について調べる。(90分)
②事後学修課題：主要国の国際会計基準導入の状況についてまとめる。(90分)

課題に対するフィードバックの方法

授業内で講評を行い、説明をする。

成績評価の方法・基準（方針）

授業の取り組みと、授業内レポートおよび最終試験または最終レポートによって評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内で提示された課題を提出する。 ・客観的なデータ、資料に基づいて分析、考察ができています。 ・著作権マナーを守っている。 ・その他レポート作成上の注意事項を守っている。	1,2
授業外での評価	0		
期末試験	70	・客観的なデータ、資料に基づいて分析、考察ができています。 ・著作権マナーを守っている。 ・その他レポート作成上の注意事項を守っている。	1,2,3
定期試験	0	定期試験は実施しません。	
その他	0		

テキスト	必要に応じて資料を配布または、提示する。
参考書	必要に応じて参考書を紹介する。
履修条件・他の科目との関連	会計学入門、財務会計論を履修していることが望ましい。
担当教員への連絡方法	・高橋 泰代 takahasi@oiu.jp

授業コード	16209301		
授業科目名	国際経済論	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	藤澤 宜広		
成績担当教員氏名	藤澤 宜広		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

近年、経済活動のグローバル化が急速に進展したことで、財・サービスの貿易のみならず、直接投資や証券投資等の資金や、労働者や観光客等の人が大量かつ活発に国境を越えて移動しています。世界各国の相互依存は一層高まり、日本を含めどの国の経済も他国の経済動向に大きな影響を受けるようになっていきます。

この授業では、こうした国際経済を考える上で欠かせない基本的な視点を提供する経済法則について解き明かしていきます。古典的な比較優位論に始まり、より現代的な国際貿易論、貿易政策へと順次議論を展開するとともに、貿易政策をめぐる最近の論争など、世界経済のメカニズムや現実の経済状況について考察する能力を身につけます。

到達目標

1. 国際経済に関するニュースに関心を持つようになる。
2. 国際経済に関する基本モデルを理解できるようになる。
3. 国際経済に関するニュースで取り扱われている内容やその背景に対して経済学的な論理で批判的に考察できるようになる。

授業計画

この授業は遠隔授業となる予定です。原則として、リアルタイム型授業ではなく、講義を記録した動画を視聴し、所定の課題を提出する形で実施予定です。詳細は追って案内します。

- 【第01回】第01章 はじめに (1)：国際経済学って何を扱うの？
- 【第02回】第01章 はじめに (2)：国際貿易と国際金融
- 【第03回】第02章 世界貿易の概観：世界貿易のパターン変化
- 【第04回】第03章 労働生産性と比較優位 (1)：リカードのモデル
- 【第05回】第03章 労働生産性と比較優位 (2)：比較優位をめぐる誤解
- 【第06回】第04章 特殊要素と所得分配 (1)：特殊要素モデルでの国際貿易
- 【第07回】第04章 特殊要素と所得分配 (2)：所得分配と貿易の利益
- 【第08回】第05章 資源と取引 (1)：ヘクシャー＝オリーン・モデル
- 【第09回】第05章 資源と取引 (2)：2要素経済同士の国際貿易が与える影響
- 【第10回】第09章 貿易政策のツール (1)：基本的な関税の分析
- 【第11回】第09章 貿易政策のツール (2)：関税の費用と便益
- 【第12回】第09章 貿易政策のツール (3)：貿易政策のほかのツール
- 【第13回】第12章 貿易政策をめぐる論争 (1)：活発な貿易政策を支持する高度な議論
- 【第14回】第12章 貿易政策をめぐる論争 (2)：グローバル化と低賃金労働
- 【第15回】第12章 貿易政策をめぐる論争 (3)：グローバル化と環境

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。各回を通じて、

【事前】テキストに目を通し、重要事項を把握しておく。またわからない内容については質問できるように準備しておく。

【事後】授業中に学んだ内容の要点、感想、わからない内容を記録しておく。

その他、国際経済に関するニュースに触れるようにしましょう。予習も重要ですが、復習により時間を割きましょう。不定期に実施する小テストとその解説を通じて理解度を確認して下さい。

課題に対するフィードバックの方法

授業の中で確認し、理解を深めます。

成績評価の方法・基準（方針）

授業の感想や授業内課題 60%、期末試験 40%

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業の感想文 (10)、小テスト (30)、授業内課題 (20)	1, 2
授業外での評価	0		
期末試験	40	最終レポート (40)	2, 3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	クルーグマン・オブストフェルド・メリッツ『クルーグマン国際経済学 理論と政策 上：貿易編』（原書第10版）丸善出版、2017年1月、本体4,000円＋税、ISBN-13: 978-4621300572。 Krugman, Paul, Maurice Obstfeld, and Marc Melitz, International Economics: Theory and Policy, 11th ed., Pearson Education Limited, 2017, ISBN-13: 978-12
参考書	多和田眞『コンパクト国際経済学』（コンパクト経済学ライブラリ6）新世社、2010年10月、本体1,850円＋税、ISBN-13: 978-4883841530。 浦田・小川・澤田『はじめて学ぶ国際経済』（有斐閣アルマ）有斐閣、2011年1月、本体1,900円＋税、ISBN-13: 978-4641124219。 石川・椋・菊池『国際経済学をつかむ』（テキストブックス [つかむ]）（第2版）有斐閣、2013年9月、本体2,200円＋税、ISBN-13: 978-4641177192。 伊藤元重『どうなる
履修条件・他の科目との関連	「経済学入門」「ミクロ経済学Ⅰ」「マクロ経済学Ⅰ」を単位取得済み、かつ「ミクロ経済学Ⅱ」「マクロ経済学Ⅱ」を単位取得済みもしくは履修中であることが望ましいです。
担当教員への連絡方法	・藤澤 宜広 fujisawa@oiu.jp

授業コード	16209401		
授業科目名	国際金融論	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	外島 健嗣		
成績担当教員氏名	外島 健嗣		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

「円高が進み〇年〇か月ぶりに 1 ドル 100 円を割りました」「昨年より一段と円安が進んだため今期は増収になりました」等というニュースを聞いたことがあると思います。本講義では、外国為替市場ってどんな市場か、外国為替相場はどのような相場で、どのような要因で決まるのか、円安円高で企業業績はどう変化するのか、また通貨変動が危機を発生させた事例を紹介し、外国為替を通して、現実の諸問題を見る目を養うことを主題としています。

到達目標

1. 経済動向が理解できる。
2. 外国為替市場が理解できる。
3. 国際金融の各種統計データにて理解し、説明できる。

授業計画

この授業は、遠隔授業となります。リアルタイム型の遠隔授業（その授業時間に Zoom 等で参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施予定です。なお、一部リアルタイム型授業を取り入れることがあります。その場合、2週間前には連絡します。参加方法などの詳細は、追って連絡します。

- 【第 01 回】 ガイダンス
- 【第 02 回】 外国為替とは
- 【第 03 回】 貿易と外国為替
- 【第 04 回】 外国為替市場（その 1）為替市場の参加者
- 【第 05 回】 外国為替市場（その 2）各国の為替市場
- 【第 06 回】 外国為替相場（その 1）外国為替相場の見方
- 【第 07 回】 外国為替相場（その 2）先物取引等
- 【第 08 回】 為替相場の決定理論（その 1）古典派理論
- 【第 09 回】 為替相場の決定理論（その 2）近代派理論
- 【第 10 回】 国際通貨制度（その 1）管理通貨制度・固定相場制
- 【第 11 回】 国際通貨制度（その 2）変動相場移行後の為替相場
- 【第 12 回】 国際通貨制度（その 3）リーマンショック
- 【第 13 回】 国際通貨制度（その 4）欧州債務危機
- 【第 14 回】 国際通貨制度（その 5）人民元の国際化
- 【第 15 回】 まとめ

事前事後の学習

授業（1 回につき 2 時間として計算）と事前事後のあわせて 1 単位あたり 4.5 時間が必要です。

授業（1 回について 2 時間として計算）と事前事後のあわせて 1 単位あたり 4.5 時間が必要です。

- 【第 1 回】
 - ① 前学修課題：シラバスを読む 1.0 時間
 - 事後学修課題：年間予定からスケジュールを調整 1.0 時間
- 【第 2 回】
 - 事前学修課題：外国為替について調べておく 1.5 時間
 - 事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.5 時間
- 【第 3 回】
 - 事前学修課題：外国為替について調べておく 1.5 時間
 - 事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.5 時間
- 【第 4 回】
 - 事前学修課題：外国為替市場について調べておく 2.0 時間
 - 事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0 時間
- 【第 5 回】
 - 事前学修課題：外国為替市場について調べておく 2.0 時間
 - 事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0 時間
- 【第 6 回】
 - 事前学修課題：外国為替相場について調べておく 2.0 時間
 - 事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0 時間
- 【第 7 回】
 - 事前学修課題：外国為替相場について 2.0 時間
 - 事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0 時間
- 【第 8 回】
 - 事前学修課題：古典派理論について調べておく 2.0 時間
 - 事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0 時間
- 【第 9 回】
 - 事前学修課題：近代派理論について調べておく 2.0 時間
 - 事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0 時間
- 【第 10 回】
 - 事前学修課題：固定相場制について調べておく 2.0 時間
 - 事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0 時間
- 【第 11 回】

事前学修課題：変動相場制について調べておく 2.0 時間 事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0 時間 【第 12 回】 事前学修課題：リーマンショックについて調べておく 2.0 時間 事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0 時間 【第 13 回】 事前学修課題：欧州債務危機について調べておく 2.0 時間 事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0 時間 【第 14 回】 事前学修課題：中国人民元について調べておく 2.0 時間 事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0 時間 【第 15 回】 事前学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0 時間 事後学修課題：授業中に配布された資料を再読する 2.0 時間
--

課題に対するフィードバックの方法

授業の中で確認し、理解を深めます。

成績評価の方法・基準（方針）

課題の提出状況及び内容により評価します。
課題は講義日当日に提出するように心掛けてください。
それ以降、減点し、1週間経過後は提出されても受理しません。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	課題の提出状況及び内容により評価	1, 2, 3
授業外での評価	0		
期末試験	25	課題の提出状況及び内容により評価	1, 2, 3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用しません。 プリントを配布します。
参考書	飯島寛之ほか『身近に感じる国際金融』有斐閣、2017年、ISBN978-4-641-15044-7、1800円+税 川本明人『外国為替・国際金融入門〈第2版〉』中央経済社、2018年、ISBN978-4-502-26951-6 2600円+税 清水順子ほか『徹底解説 国際金融』日本評論社、2016年、ISBN978-4-535-55818-2 2600円+税 橋本優子ほか『国際金融論をつかむ〈新版〉』有斐閣、2019年、ISBN978-4-641-17728-4 2400円+税
履修条件・他の科目との関連	新聞では「日本経済新聞」、インターネットでは「日経ネット」、TVでは「ワールドビジネスサテライト」（月～金曜PM11時～7ch）を見て、国際金融市場がどのように動いているのかについて関心を持ってください。 国際経済学等の関連する授業は履修ください。
担当教員への連絡方法	・外島 健嗣 sotojima@oiu.jp

授業コード	16206901		
授業科目名	国際事情	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	何 成業		
成績担当教員氏名	何 成業		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

(全体の概要) 本講義は、世界主要な国及びアジア地域を中心とする最新の国際事情を理解するため、地域内各国の地理的、文化的、経済などそれぞれの特徴を理解する。目覚ましい発展を遂げてきた中国、韓国、東南アジア地域は日本経済と深い結びつきがあり、ビジネス展開にも非常に魅力ある地域である。各国経済動向に対する理解を深める。(オムニバス方式／全15回)

まず中国の歴史、文化、教育、政治、社会的、地域の格差、経済の発展現状を解説し、中国の社会構造の特徴を把握する。主要指標等のデータ分析による考察を行うことで、中国経済の動向に対する理解を深める。さらに国際社会の情勢が中国に与える影響と同地域の今後の展望と課題にも着目する。

近年、世界は情報・交通手段を通じて、グローバル化が進んでおり、国や地域を越え、人類の共通の解決すべき地球規模の課題が私たちの生活の中にも顕在化してきている。本授業では、特に、中国の文化、歴史、教育、企業経営などを取り上げ、現在の動向について習い、周辺国である日本の解決すべき課題についてを考える。

到達目標

- 1.各国経済動向,アジア地域を中心とする最新の国際事情を理解し
- 2.日本の解決すべき課題についてを考えさせる
- 3.国際事情の専門基礎知識に関する一定水準の学習目標到達とインセンティブを提供する。

授業計画

【第1回】

テーマ：オリエンテーション

内容・方法：講義の概要、注意点、オムニバス方式、クラス分け

【第2回】

テーマ：日本の経済

内容・方法：日本経済の特徴、現状について

【第3回】

テーマ：韓国の経済

内容・方法：韓国経済の特徴、現状について

【第4回】

テーマ：中国の経済

内容・方法：中国経済の特徴、現状について

【第5回】

テーマ：ロシアの経済

内容・方法：ロシア経済の特徴、現状について

【第6回】

テーマ：EU 経済圏

内容・方法：EU 経済圏の特徴、現状について

【第7回】

テーマ：イギリスの経済

内容・方法：イギリス経済の特徴、現状について

【第8回】

テーマ：イラン、イラクの経済

内容・方法：イラン、イラク経済の特徴、現状について

【第9回】

テーマ：オーストラリアの経済

内容・方法：オーストラリア経済の特徴、現状について

【第10回】

テーマ：東南アジア 10 カ国の経済

内容・方法：東南アジア 10 カ国経済の特徴、現状について

【第11回】

テーマ：インドとパキスタンの経済

内容・方法：インドとパキスタン経済の特徴、現状について

【第12回】

テーマ：アルゼンチンとチリ共和国の経済

内容・方法：アルゼンチンとチリ共和国経済の特徴、現状について

【第13回】

テーマ：ブラジルの経済

内容・方法：ブラジル経済の特徴、現状について

【第14回】

テーマ：メキシコの経済

内容・方法：メキシコ経済の特徴、現状について

【第15回】

テーマ：アメリカ、カナダの経済

内容・方法：アメリカ、カナダ経済の特徴、現状について

期末試験：課題レポート

事前事後の学習			
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。			
各回、事前学修は2時間、事後学修は2時間を目安とする			
【第1回】			
①事前学修課題：予め授業の概要を読んでおくこと。			
②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。			
【第2回】			
①事前学修課題：前回の内容を授業内容を復習しておくこと。			
②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。			
【第3回】			
①事前学修課題：前回の内容を授業内容を復習しておくこと。			
②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。			
【第4回】			
①事前学修課題：前回の内容を授業内容を復習しておくこと。			
②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。			
【第5回】			
①事前学修課題：前回の内容を授業内容を復習しておくこと。			
②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。			
【第6回】			
①事前学修課題：前回の内容を授業内容を復習しておくこと。			
②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。			
【第7回】			
①事前学修課題：前回の内容を授業内容を復習しておくこと。			
②事後学修課題：授業中に指示されたレポートを次回までに提出すること。			
【第8回】			
①事前学修課題：前回の内容を授業内容を復習しておくこと。			
②事後学修課題：まとめ			
【第9回】			
①事前学修課題：前回の内容を授業内容を復習しておくこと。			
②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。			
【第10回】			
①事前学修課題：前回の内容を授業内容を復習しておくこと。			
②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。			
【第11回】			
①事前学修課題：前回の内容を授業内容を復習しておくこと。			
②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。			
【第12回】			
①事前学修課題：前回の内容を授業内容を復習しておくこと。			
②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。			
【第13回】			
①事前学修課題：前回の内容を授業内容を復習しておくこと。			
②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。			
【第14回】			
①事前学修課題：前回の内容を授業内容を復習しておくこと。			
②事後学修課題：授業中に指示されたレポートを次回までに提出すること。			
【第15回】			
①事前学修課題：前回の内容を授業内容を復習しておくこと。			
②事後学修課題：まとめ			
課題に対するフィードバックの方法			
ディスカッション、報告レポートの発表と提出			
成績評価の方法・基準（方針）			
以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。			
また、正当な理由なく5回以上欠席した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。			
授業内評価：ディスカッション、授業内報告レポートの完成50%			
授業外評価：8回目提出するレポート25%			
期末試験：課題レポートの完成25%			
成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	ディスカッション、授業内報告レポートの完成（50）	1, 2
授業外での評価	25	8回目提出する課題レポート（25）	3
期末試験	25	期末試験：課題レポート完成、提出（25）	3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	プリント資料を配布する、媒体情報も参考する インターネット・情報機器を利用する
参考書	インターネット・情報機器を利用する テーマによって必要な参考資料を配る。
履修条件・他の科目との関連	授業内態度を重視する。各受講生は、毎時間出席することを求める。
担当教員への連絡方法	・何 成業 he@oiu.jp

授業コード	16206501		
授業科目名	専門基礎セミナー a	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	何 成業		
成績担当教員氏名	何 成業		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要			
<p>連続授業の1 コマ目は、グローバルビジネスに必要な最低限の知識を身につけ、最終的に各種の業界に関する研究を行い、プレゼンテーションを実施する（リサーチプロジェクトII）。</p> <p>2 コマ目は、前期と同様にタブレットを用いて、一般常識や時事問題を学び、社会や様々なビジネスに必要な基本的学習スキルの向上を目指す。前期よりもさらなるレベルアップを目指す。</p>			
到達目標			
<p>1.グローバルビジネスに必要な最低限の知識を身につけ</p> <p>2.各種の業界に関する研究を行い、プレゼンテーションを実施する</p> <p>3.一般常識や時事問題を学び</p> <p>4.社会や様々なビジネスに必要な基本的学習スキルの向上</p>			
授業計画			
第1回			
<p>テーマ：1 コマ目：夏季休暇課題確認、Chapter5 ビジネスと法①</p> <p>2 コマ目：（共通）基礎学力学習及び時事問題ワーク</p> <p>内容・方法：1 コマ目：夏季休暇課題提出、5.1 取引・商談＝契約、5.2 会社の法律</p> <p>2 コマ目：（共通）タブレットを用いての基礎学習及び新聞記事を用いての時事問題学習</p>			
【第2回】			
<p>テーマ：1 コマ目：Chapter5 ビジネスと法②</p> <p>2 コマ目：（共通）基礎学力学習及び時事問題ワーク</p> <p>内容・方法：1 コマ目：5.3 雇用と労働の法律、5.4 労働衛生</p> <p>2 コマ目：（共通）タブレットを用いての基礎学習及び新聞記事を用いての時事問題学習</p>			
【第3回】			
<p>テーマ：1 コマ目：Chapter6 行政とビジネス</p> <p>2 コマ目：（合同）就職について考える①</p> <p>内容・方法：1 コマ目：6.1 主な行政機関、6.2 ビジネスから考える行政に関する法</p> <p>2 コマ目：（合同）就職活動についての現状について講義を聞く</p>			
【第4回】			
<p>テーマ：1 コマ目：（共通）外食産業業界を知る①</p> <p>2 コマ目：（合同）外食産業業界を知る②</p> <p>内容・方法：1 コマ目：（共通）吉野家HDの概要についてビデオも用いつつ学ぶ</p> <p>2 コマ目：（合同）吉野家HD代表取締役による講演を聞く</p>			
【第5回】			
<p>テーマ：1 コマ目：（合同）外食産業業界を知る③</p> <p>2 コマ目：（合同）外食産業業界を知る④</p> <p>内容・方法：1 コマ目：（合同）吉野家HDのグローバル展開について講義を聞く</p> <p>2 コマ目：（合同）吉野家HDのメニュー開発について講義を聞く</p>			
【第6回】			
<p>テーマ：1 コマ目：（合同）リサーチプロジェクトII説明会</p> <p>2 コマ目：（共通）基礎学力学習及び時事問題ワーク</p> <p>内容・方法：1 コマ目：（合同）リサーチプロジェクトIIの進め方について説明を聞く</p> <p>2 コマ目：（共通）タブレットを用いての基礎学習及び新聞記事を用いての時事問題学習</p>			
【第7回】			
<p>テーマ：1 コマ目：リサーチプロジェクトII作成ワーク①</p> <p>2 コマ目：（共通）基礎学力学習及び時事問題</p> <p>内容・方法：1 コマ目：テーマ設定からプレゼンテーション資料作成</p> <p>2 コマ目：（共通）タブレットを用いての基礎学習及び新聞記事を用いての時事問題学習</p>			
【第8回】			
<p>テーマ：1 コマ目：Chapter7 情報発信力向上：数値データの理解と発信</p> <p>2 コマ目：リサーチプロジェクトII作成ワーク②</p> <p>内容・方法：1 コマ目：7.1 量の体系、7.2 数値の比較、7.3 変化・関係を説明する</p> <p>2 コマ目：プレゼンテーション資料の完成</p>			
【第9回】			
<p>テーマ：1 コマ目：（合同）専門セミナー説明会</p> <p>2 コマ目：リサーチプロジェクトII作成ワーク③</p> <p>内容・方法：1 コマ目：（合同）3年次に配属されるゼミの紹介を実施する</p> <p>2 コマ目：プレゼンテーションの練習</p>			
【第10回】			
<p>テーマ：1 コマ目：（共通）リサーチプロジェクトIIゼミ内発表会①</p> <p>2 コマ目：（共通）基礎学力学習及び時事問題ワーク</p> <p>内容・方法：1 コマ目：（共通）担当者は口頭発表を行い、その他の学生は質問・感想を述べ、採点評価する</p> <p>2 コマ目：（共通）タブレットを用いての基礎学習及び新聞記事を用いての時事問題学習</p>			

【第11回】

テーマ：1 コマ目：(共通) リサーチプロジェクトⅡゼミ内発表会②
 2 コマ目：(共通) 基礎学力学習及び時事問題ワーク
 内容・方法：1 コマ目：(共通) 担当者は口頭発表を行い、その他の学生は質問・感想を述べ、採点評価する
 2 コマ目：(共通) タブレットを用いての基礎学習及び新聞記事を用いての時事問題学習

【第12回】

テーマ：1 コマ目：(共通) リサーチプロジェクトⅡゼミ内発表会③
 2 コマ目：(合同) 社会に必要な基礎知識の確認
 内容・方法：1 コマ目：(共通) 担当者は口頭発表を行い、その他の学生は質問・感想を述べ、採点評価し、ゼミ代表者を決定する
 2 コマ目：(合同) 全国SPI模試を実施する

【第13回】

テーマ：1 コマ目：(合同) リサーチプロジェクトⅡゼミ代表発表会
 2 コマ目：(共通) 基礎学力学習及び時事問題ワーク
 内容・方法：1 コマ目：(合同) 代表者は全員の前で口頭発表を行い、その他の学生は採点評価する
 2 コマ目：(共通) タブレットを用いての基礎学習及び新聞記事を用いての時事問題学習

【第14回】

テーマ：1 コマ目：Chapter8 情報発信力向上：図解①
 2 コマ目：(合同) 就職について考える②
 内容・方法：1 コマ目：8.1 文章から図解へ、8.2 グラフ、8.3 ダイアグラム
 2 コマ目：(合同) インターンシップについての講義を聞く

【第15回】

テーマ：1 コマ目：Chapter8 情報発信力向上：図解②、履歴書作成
 2 コマ目：(共通) 基礎学力学習及び時事問題ワーク
 内容・方法：1 コマ目：8.4 集合・論理、8.5 業界研究のプレゼンテーション、履歴書の作成
 2 コマ目：(共通) タブレットを用いての基礎学習及び新聞記事を用いての時事問題学習
 期末試験：課題レポート

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

各回、事前学修は2時間、事後学修は2時間を目安とする

【第1回】

①事前学修課題：夏季休暇課題の確認をする、テキストのChapter5の前半を読む
 ②事後学修課題：タブレットを用い、誤答した問題を確認する

【第2回】

①事前学修課題：テキストのChapter5の後半を読む
 ②事後学修課題：タブレットを用い、誤答した問題を確認する

【第3回】

①事前学修課題：テキストのChapter6を読む
 ②事後学修課題：興味のある業界について調べる

【第4回】

①事前学修課題：外食産業業界について新聞記事を調べておく
 ②事後学修課題：講演内容のノートを整理する

【第5回】

①事前学修課題：外食産業業界について新聞記事を調べておく
 ②事後学修課題：講義内容のノートを整理する

【第6回】

①事前学修課題：ガイドブックに掲載してある、昨年度のリサーチプロジェクトⅡ優秀作品を一読する
 ②事後学修課題：タブレットを用い、誤答した問題を確認する

【第7回】

①事前学修課題：プレゼンテーションのテーマを考える
 ②事後学修課題：タブレットを用い、誤答した問題を確認する

【第8回】

①事前学修課題：テキストのChapter7を読む
 ②事後学修課題：プレゼンテーション資料の不十分な部分を加筆修正する

【第9回】

①事前学修課題：学科教員の研究分野や研究業績を調べる
 ②事後学修課題：プレゼンテーション資料の再確認を行う

【第10回】

①事前学修課題：タブレットを用いて課題を進める
 ②事後学修課題：タブレットを用い、誤答した問題を確認する

【第11回】

①事前学修課題：タブレットを用いて課題を進める
 ②事後学修課題：タブレットを用い、誤答した問題を確認する

【第12回】

①事前学修課題：タブレットを用いて課題を進める
 ②事後学修課題：タブレットを用い、誤答した問題を確認する

【第13回】

①事前学修課題：タブレットを用いて課題を進める ②事後学修課題：タブレットを用い、誤答した問題を確認する 【第14回】 ①事前学修課題：テキストのChapter8の前半を読む ②事後学修課題：講義ノートを整理する 【第15回】 ①事前学修課題：テキストのChapter8の後半を読む ②事後学修課題：タブレットを用い、誤答した問題を確認する

課題に対するフィードバックの方法
提出課題を添削し返却する。

成績評価の方法・基準（方針）

2コマ連続授業である。授業内評価（40%）、授業外評価：通常課題の提出（10%）、夏季休暇課題（10%）、その他受講態度（10%）、期末試験（20%）に、2コマ目のタブレット学習などの成績（10%）を加える。欠席した場合は、フォローアップの為の特別課題の実施で、欠席による減点を軽減する。但し、無断欠席の場合は更なる特別課題を課す。なお、リサーチプロジェクトⅡの未発表及び合格基準に達していない場合、単位取得を認めない。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	ディスカッション（40）	1,2,3
授業外での評価	30	通常課題の提出（10）、夏季休暇課題（10）、タブレット学習などの成績（10）	3
期末試験	20	課題レポートの完成（20）	4
定期試験	0		
その他	10	受講態度（10）	3

テキスト	佐藤智明ほか編『業界研究学びのことはじめ』ナカニシヤ出版、2200円＋税、ISBN978-4-7795-1027-4
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	テキスト、ガイドブック及びタブレットを毎回持参すること。 授業計画は、クラスによって実施時期・内容が異なることもあるので、おおよその順序である。エンカレージングタイム（個別面談）はゼミ毎に9月から10月中に実施される。12月にリサーチプロジェクトⅡ（業界研究プレゼンテーション）として、研究発表がある。
担当教員への連絡方法	・何 成業 he@oiu.jp

授業コード	16206601		
授業科目名	専門基礎セミナーb	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	何 成業		
成績担当教員氏名	何 成業		
単位数	2 単位	開講年次	2 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要			
「日中ビジネスの比較経営について」 ①経営学の基本概念を勉強し、把握する。②中国の企業経営と管理制度と日本企業の経営の相違点、特に弱点を理解する。③日中企業の管理手法、組織制度、経営課題をどのように変革すべきかなどを理論的・実証的にゼミ生たちに指導する。			
到達目標			
1.経営学の基本概念を勉強し、把握する。 2.中国の企業経営と管理制度と日本企業の経営の相違点、特に弱点を理解する。 3.実践的・理論的諸問題を解明する学力と理論、それを現実に適用していく実践的・実務的な能力を身につける。			
授業計画			
【第1回】 テーマ：WTO加盟後の中国企業は、如何に市場経済体制を確立するか 内容・方法：問題を掘り出して、考察し、分析する			
【第2回】 テーマ：WTO加盟後の中国企業は、如何に市場経済体制を確立するか 内容・方法：問題を掘り出して、考察し、分析する			
【第3回】 テーマ：WTO加盟後の中国企業は、如何に市場経済体制を確立するか 内容・方法：問題を掘り出して、考察し、分析する			
【第4回】 テーマ：WTO加盟後の中国企業は、如何に市場経済体制を確立するか 内容・方法：問題を掘り出して、考察し、分析する			
【第5回】 テーマ：WTO加盟後の中国企業は、如何に市場経済体制を確立するか 内容・方法：問題を掘り出して、考察し、分析する			
【第6回】 テーマ：如何に企業所有制の問題を解決するか、中国企業の所有と支配に関して 内容・方法：国有企業所有制を多元化する指摘し、解決方法を探る。			
【第7回】 テーマ：国有企業の株式化と株式合作制を推進していくこと 内容・方法：所有制の多様な効果的な実現形式を積極的に模索する現状、事例を説明し、分析する。			
【第8回】 テーマ：企業の所有と支配、現代企業制度の確立の問題 内容・方法：問題を掘り出して、考察し、分析する			
【第9回】 テーマ：必要な概念や理論について 内容・方法：それらの問題解決や研究に必要な概念や理論を学習する。			
【第10回】 テーマ：企業経営を巡る今日の諸問題 内容・方法：参加者は自ら解決策を提案する。			
【第11回】 テーマ：特に日中ビジネス、日中合併企業など経営の諸問題について 内容・方法：学習研究並びに実態調査を行う。			
【第12回】 テーマ：研究レポート 内容・方法：研究レポートを作成および報告する。			
【第13回】 テーマ：4 年次生との合同授業 内容・方法：プレゼンテーション等を行う。			
【第14回】 テーマ：履歴書の作成、自己分析、SPI 内容・方法：合同ゼミ、キャリア教育などを指導する。業界の分析、就職活動などを助言し、指導する。			
【第15回】 テーマ：セミナーⅣに向けて、卒業研究について 内容・方法：各自のテーマを設定し、資料の収集、整理、分析し、参加者全員に報告する。最後に、卒業研究の完成を指導する。 期末試験（該当授業終講後）：レポート提出			
事前事後の学習			
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。			
各回、事前学修は2時間、事後学修は2時間を目安とする			
【第1回】 ①事前学修課題：WTO加盟後の中国企業は、如何に市場経済体制を確立について、問題を事前に意識し、分析できるよう準備する			

②事後学修課題：問題を事後にも分析結果をまとめる
【第2回】
①事前学修課題：WTO加盟後の中国企業は、如何に市場経済体制を確立について、問題を事前に意識し、分析できるよう準備する
②事後学修課題：問題を事後にも分析結果をまとめる
【第3回】
①事前学修課題：WTO加盟後の中国企業は、如何に市場経済体制を確立について、問題を事前に意識し、分析できるよう準備する
②事後学修課題：問題を事後にも分析結果をまとめる
【第4回】
①事前学修課題：WTO加盟後の中国企業は、如何に市場経済体制を確立について、問題を事前に意識し、分析できるよう準備する
②事後学修課題：問題を事後にも分析結果をまとめる
【第5回】
①事前学修課題：WTO加盟後の中国企業は、如何に市場経済体制を確立について、問題を事前に意識し、分析できるよう準備する
②事後学修課題：問題を事後にも分析結果をまとめる
【第6回】
①事前学修課題：企業所有制の問題についての予習
②事後学修課題：企業所有制の問題のまとめ
【第7回】
①事前学修課題：国有企業の株式化と株式合作制を推進していくことの予習
②事後学修課題：所有制の多種の効果的な実現形式についてのまとめ
【第8回】
①事前学修課題：企業の所有と支配、現代企業制度の確立の問題を事前に準備する
②事後学修課題：その問題の分析のまとめ
【第9回】
①事前学修課題：問題解決や研究に必要な概念や理論の事前学習
②事後学修課題：それらの問題解決や研究に必要な概念や理論の復習
【第10回】
①事前学修課題：企業経営を巡る今日の諸問題を事前に準備する
②事後学修課題：問題を解決する能力検証する
【第11回】
①事前学修課題：日中ビジネス、日中合弁企業など経営の諸問題について事前に用意する
②事後学修課題：日中ビジネス、日中合弁企業など経営の諸問題のまとめ
【第12回】
①事前学修課題：各自の研究レポートの準備
②事後学修課題：研究レポートの自己評価
【第13回】
①事前学修課題：プレゼンテーションの事前に準備する
②事後学修課題：プレゼンテーションの事後まとめ
【第14回】
①事前学修課題：履歴書の作成、自己分析、SPIの準備
②事後学修課題：履歴書の作成、就職活動
【第15回】
①事前学修課題：卒業研究の完成を事前に準備する
②事後学修課題：卒業研究の完成

課題に対するフィードバックの方法

ディスカッション、報告レポートの発表と提出

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

授業内評価：ディスカッション40%、自己啓発の達成度10%

授業外評価：報告レポート20%

期末試験：課題レポート30%

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	1,ディスカッション (40) 2,自己啓発の達成度 (10)	1,2
授業外での評価	20	報告レポート (20)	3
期末試験	30	課題レポート提出 (30)	3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	ゼミナール経営学入門/伊丹敬之・加護野忠男 著/日本経済新聞社/3,000/978-4532132477
参考書	『人的資源管理』奥林康司+上林憲雄+平野光俊 編著、中央経済社、定価2800円+税 『中国の企業組織と経営管理』何成業 著、学術図書出版、青山社、定価2,857円+税
履修条件・他の科目との関連	「経営学分野」の科目を履修しておくことが望ましい。
担当教員への連絡方法	・何 成業 he@oiu.jp

授業コード	16212002		
授業科目名	専門セミナー I a	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	三木 英		
成績担当教員氏名	三木 英		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要			
来日する観光客を対象とした産業、あるいは外国への輸出産品の製造業等について、その現状を的確に把握し、将来的な展望について考察することを目的とする。とりわけ、今後の一層の活性化が予想されるイスラーム世界とのビジネス関係（ハラール・ビジネス）について、深く研究を進めてゆく。			
到達目標			
①インバウンドを頼る経済に関心を寄せることができる。 ②同時に異文化への関心を寄せることができる。 ③現状について科学的な判断を下すことができる。 ④自身の考えるところを適切に表現することができる。			
授業計画			
<p>【第1回】 テーマ：セミナー・ガイダンス 内容・方法：セミナーの概要を提示。そしてセミナー・メンバーへの周知</p> <p>【第2回】 テーマ：日本経済の現状把握(1)：アウトバウンド編 内容・方法：ここ半世紀の動向について、メンバーに報告を求める</p> <p>【第3回】 テーマ：日本経済の現状把握(2)：アウトバウンド編 内容・方法：ここ半世紀の動向について、メンバーに報告を求める</p> <p>【第4回】 テーマ：日本経済の現状把握(3)：インバウンド編 内容・方法：ここ半世紀の動向について、メンバーに報告を求める</p> <p>【第5回】 テーマ：日本経済の現状把握(4)：インバウンド編 内容・方法：ここ半世紀の動向について、メンバーに報告を求める</p> <p>【第6回】 テーマ：日本経済の現状把握(5) 内容・方法：これまでの報告に基づいての総括</p> <p>【第7回】 テーマ：日本経済の現状に作用した社会的要因(1) 内容・方法：国民諸属性の変動の把握</p> <p>【第8回】 テーマ：日本経済の現状に作用した社会的要因(2) 内容・方法：国民意識の変動の把握</p> <p>【第9回】 テーマ：諸外国との比較(1) 内容・方法：中国における経済成長の現状把握</p> <p>【第10回】 テーマ：諸外国との比較(2) 内容・方法：韓国における経済成長の現状把握</p> <p>【第11回】 テーマ：諸外国との比較(3) 内容・方法：(中韓以外の) アジア圏における経済成長の現状把握</p> <p>【第12回】 テーマ：諸外国との比較(4) 内容・方法：アメリカにおける経済状況の現状把握</p> <p>【第13回】 テーマ：諸外国との比較(5) 内容・方法：欧州における経済状況の現状把握</p> <p>【第14回】 テーマ：諸外国との比較(6) 内容・方法：その他地域における経済状況の現状</p> <p>【第15回】 テーマ：日本の直面する諸課題 内容・方法：ここまでの報告・議論の総括</p>			
事前事後の学習			
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。			
各回、事前学習2時間、事後学習2時間を想定している。			
<p>【第1回】</p> <p>①事前学修課題：とくに求めない ②事後学修課題：とくに求めない</p>			

<p>【第2回】 ①事前学修課題：報告内容についての文献調査 ②事後学修課題：報告内容についての確認</p> <p>【第3回】 ①事前学修課題：報告内容についての文献調査 ②事後学修課題：報告内容についての確認</p> <p>【第4回】 ①事前学修課題：報告内容についての文献調査 ②事後学修課題：報告内容についての確認</p> <p>【第5回】 ①事前学修課題：報告内容についての文献調査 ②事後学修課題：報告内容についての確認</p> <p>【第6回】 ①事前学修課題：疑問点・問題点の抽出 ②事後学修課題：問題視された諸点の確認</p> <p>【第7回】 ①事前学修課題：報告内容についての文献調査 ②事後学修課題：報告内容についての確認</p> <p>【第8回】 ①事前学修課題：報告内容についての文献調査 ②事後学修課題：報告内容についての確認</p> <p>【第9回】 ①事前学修課題：報告内容についての文献調査 ②事後学修課題：報告内容についての確認</p> <p>【第10回】 ①事前学修課題：報告内容についての文献調査 ②事後学修課題：報告内容についての確認</p> <p>【第11回】 ①事前学修課題：報告内容についての文献調査 ②事後学修課題：報告内容についての確認</p> <p>【第12回】 ①事前学修課題：報告内容についての文献調査 ②事後学修課題：報告内容についての確認</p> <p>【第13回】 ①事前学修課題：報告内容についての文献調査 ②事後学修課題：報告内容についての確認</p> <p>【第14回】 ①事前学修課題：報告内容についての文献調査 ②事後学修課題：報告内容についての確認</p> <p>【第15回】 ①事前学修課題：ここまでの全報告・全議論の再確認 ②事後学修課題：抽出された諸問題の確認</p>

課題に対するフィードバックの方法

ゼミ生は当該時間に限らず、担当者の時間が許す限り、指導を受けることができる。

成績評価の方法・基準（方針）

出席重視はもちろんであるが、ゼミ室における取組の真摯さも鍵となる。

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	セミナー内で課される簡便課題への応答。	①②
授業外での評価	20	セミナー終了後に提出を求めるレポート課題への対応。	①②
期末試験	0		
定期試験	0		
その他	50	セミナー内での積極的発言、調査への関与、自らの計画になる調査の設計等を評価する。	①②③④

テキスト	テキストなし
参考書	適宜指示する。
履修条件・他の科目との関連	積極的なコミットメントを期待する。
担当教員への連絡方法	・三木 英 mikia@oiu.jp

授業コード	16212003		
授業科目名	専門セミナー I a	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	植松 康祐		
成績担当教員氏名	植松 康祐		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要			
経営学を基礎としながらも、経済学、情報学、政治学、法学など幅広い分野におけるビジネスに関するテーマを掲げ、問題解決のための情報の収集および調査方法に関する能力を身に付ける。また、研究テーマに関する的確な文献及び資料を検索でき、それらの文献資料等を科学的根拠に基づいてレポートできることが求められる。			
到達目標			
1.職業観に関する知識を醸成させます。 2.社会的な課題に対しての調査分析を目的とした、情報検索の技術とデータ処理の実習を行います。 3.研究テーマに関する的確な文献及び資料を検索でき、それらの文献資料等を科学的根拠に基づいてレポートできることが求められる。			
授業計画			
前半は、職業観に関する知識を醸成させます。後半は、社会的な課題に対しての調査分析を目的とした、情報検索の技術とデータ処理の実習を行います。			
事前事後の学習			
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。			
事前に調査すべき内容を指示します。 その後、課題について研究を行う。			
課題に対するフィードバックの方法			
毎回、講義にて必ずフィードバックを行う。			
成績評価の方法・基準（方針）			
課題に対して総合的に評価する。			
成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	課題の報告で評価	1,2,3
授業外での評価	30	課題に対しての評価を行う。	1,2,3
期末試験	30	確認のレポートで評価	1,2,3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	講義中に資料を配布
参考書	
履修条件・他の科目との関連	経営学を受講した方が望ましい。
担当教員への連絡方法	・植松 康祐 uematsu@oiu.jp

授業コード	16212102		
授業科目名	専門セミナー I b	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	三木 英		
成績担当教員氏名	三木 英		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要			
来日する外国人観光客を対象とした産業、あるいは外国への輸出製品の製造業等について、その現状を的確に把握し、将来的な展望について考察することを目的とする。とりわけ、今後の一層の活性化が予想されるイスラーム世界とのビジネス関係（ハラール・ビジネス）について、深く研究を進めてゆく。			
到達目標			
①インバウンドを頼る経済に関心を寄せることができる。 ②同時に異文化への関心を寄せることができる。 ③現状について科学的な判断を下すことができる。 ④自身の考えるところを適切に表現することができる。			
授業計画			
【第1回】 テーマ：イスラーム文化の学習 内容・方法：年度後半に取り組みハラール・ビジネス研究にあたり、基礎となるイスラームの概説			
【第2回】 テーマ：「ハラール」とは何か 内容・方法：鍵概念である「ハラール」について学ぶ			
【第3回】 テーマ：ハラール対応の現状(1)：インバウンド編 内容・方法：旅行会社における対応の現状認識			
【第4回】 テーマ：ハラール対応の現状(2)：インバウンド編 内容・方法：ホテル業界における対応の現状認識			
【第5回】 テーマ：ハラール対応の現状(3)：インバウンド編 内容・方法：飲食業界における対応の現状認識			
【第6回】 テーマ：ハラール対応の現状(4)：アウトバウンド編 内容・方法：食品業界における対応の現状認識			
【第7回】 テーマ：ハラール対応の現状(5)アウトバウンド編 内容・方法：化学業界における対応の現状認識			
【第8回】 テーマ：ハラール対応の現状(6)：アウトバウンド編 内容・方法：その他製造業界における対応の現状認識			
【第9回】 テーマ：フィールドワーク(1)：事前学習 内容・方法：フィールド調査にあたっての心構え			
【第10回】 テーマ：フィールドワーク(2) 内容・方法：旅行会社において聴き取り調査に従事			
【第11回】 テーマ：フィールドワーク(3) 内容・方法：ホテル業界において聴き取り調査に従事			
【第12回】 テーマ：フィールドワーク(4) 内容・方法：食品会社において聴き取り調査に従事			
【第13回】 テーマ：フィールドワークの総括 内容・方法：調査を総括する全体ディスカッション			
【第14回】 テーマ：卒業研究に向けて：前半 内容・方法：卒業研究執筆に向けての問題設定			
【第15回】 テーマ：卒業研究に向けて：後半 内容・方法：卒業研究執筆に受けての問題設定			
事前事後の学習			
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。			
各回、事前学習2時間、事後学習2時間を想定している。			
【第1回】 ①事前学修課題：とくになし ②事後学修課題：講義内容の復讐			

<p>【第2回】 ①事前学修課題：報告内容についての文献調査 ②事後学修課題：報告内容についての確認</p> <p>【第3回】 ①事前学修課題：報告内容についての情報収集 ②事後学修課題：報告内容についての確認</p> <p>【第4回】 ①事前学修課題：報告内容についての情報収集 ②事後学修課題：報告内容についての確認</p> <p>【第5回】 ①事前学修課題：報告内容についての情報収集 ②事後学修課題：報告内容についての確認</p> <p>【第6回】 ①事前学修課題：報告内容についての情報収集 ②事後学修課題：報告内容についての確認</p> <p>【第7回】 ①事前学修課題：報告内容について情報収集 ②事後学修課題：報告内容についての確認</p> <p>【第8回】 ①事前学修課題：報告内容についての情報収集 ②事後学修課題：報告内容についての確認</p> <p>【第9回】 ①事前学修課題：とくになし ②事後学修課題：講義内容の復習</p> <p>【第10回】 ①事前学修課題：調査項目のピックアップ ②事後学修課題：調査ノートの作成</p> <p>【第11回】 ①事前学修課題：調査項目のピックアップ ②事後学修課題：調査ノートの作成</p> <p>【第12回】 ①事前学修課題：調査項目のピックアップ ②事後学修課題：調査ノートの作成</p> <p>【第13回】 ①事前学修課題：ディスカッション資料の作成 ②事後学修課題：疑問点・問題点の確認</p> <p>【第14回】 ①事前学修課題：各自の問題意識の整理 ②事後学修課題：自身の研究テーマについての再確認</p> <p>【第15回】 ①事前学修課題：各自の問題意識の整理 ②事後学修課題：自身の研究テーマについての再確認</p>
--

課題に対するフィードバックの方法

ゼミ生は当該時間に限らず、担当者の時間が許す限り、指導を受けることができる。

成績評価の方法・基準（方針）

セミナーにおける各自の取り組みへの評価が大きな比重を占める。それにあたり、セミナーでの発表（指示された課題への対応）の完成度も重視する。

成績評価の種類	評価割合（％）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	セミナー内で課される簡便課題への対応を評価する。	①②
授業外での評価	20	セミナー終了後に提出を求めるレポート課題への対応を評価する。	①②
期末試験	0		
定期試験	0		
その他	50	一年を総括する調査研究報告書の作成を求め、その完成度を評価する。	①②③④

テキスト	テキストなし
参考書	佐々木良昭監修『ハラルマーケット最前線』（実業之日本社、2014） アクマル・アブ・ハッサン、恵島良太郎『決定版「ハラル」ビジネス入門』（幻冬舎、2014）
履修条件・他の科目との関連	とくにない
担当教員への連絡方法	・三木 英 mikia@oiu.jp

授業コード	16212103		
授業科目名	専門セミナー I b	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	植松 康祐		
成績担当教員氏名	植松 康祐		
単位数	2 単位	開講年次	3 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要			
経営学を基礎としながらも、経済学、情報学、政治学、法学など幅広い分野におけるビジネスに関するテーマを掲げ、問題解決のための情報の収集および調査方法に関する能力を身に付ける。また、研究テーマに関する的確な文献及び資料を検索でき、それらの文献資料等を科学的根拠に基づいてレポートできることが求められる。			
到達目標			
1.職業観に関する知識を醸成させます。 2.社会的な課題に対する調査分析を目的とした、情報検索の技術とデータ処理の実習を行います。 3.研究テーマに関する的確な文献及び資料を検索でき、それらの文献資料等を科学的根拠に基づいてレポートできることが求められる。			
授業計画			
前半は、就職対策となる面接やグループディスカッションの演習を行う。後半は、情報検索の技術とデータ処理の実習、特に Excel の実習を中心に演習する。最後に、卒業論文に対応するためのレポートの書き方について学ぶ。			
事前事後の学習			
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。			
事前に調査すべき内容を指示します。 その後、課題について研究を行う。			
課題に対するフィードバックの方法			
毎回、講義にて必ずフィードバックを行う。			
成績評価の方法・基準（方針）			
課題に対して総合的に評価する。			
成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	出席と議論に対して積極的な参加することで評価を行う。	1,2,3
授業外での評価	30	課題に対する評価を行う。	1,2,3
期末試験	30	レポートの提出で評価	1,2,3
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	講義中に資料を配布
参考書	
履修条件・他の科目との関連	経営学を受講した方が望ましい。
担当教員への連絡方法	・植松 康祐 uematsu@oiu.jp

授業コード	16212404		
授業科目名	専門セミナーII a	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	植松 康祐		
成績担当教員氏名	植松 康祐		
単位数	2 単位	開講年次	4 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要			
経営学を基礎としながらも、経済学、情報学、政治学、法学など幅広い分野におけるビジネスに関するテーマを掲げ、問題解決のための情報の収集および調査方法に関する能力を身に付ける。卒業研究を踏まえて、情報検索、情報の加工技術などについて学習する。模擬卒業論文の作成を行うことで、科学的な論文作成の手法を学ぶ。			
到達目標			
1.職業観に関する知識を醸成させます。 2.社会的な課題に対しての調査分析を目的とした、情報検索の技術とデータ処理の実習を行います。 3.研究テーマに関する的確な文献及び資料を検索でき、それらの文献資料等を科学的根拠に基づいてレポートできることが求められる。 4.卒業論文作成の手法を学ぶ。			
授業計画			
前半は、職業観に関する知識を醸成させます。後半は、社会的な課題に対しての調査分析を目的とした、情報検索の技術とデータ処理の実習を行います。			
事前事後の学習			
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。			
事前に調査すべき内容を指示します。 その後、課題について研究を行う。			
課題に対するフィードバックの方法			
毎回、講義にて必ずフィードバックを行う。			
成績評価の方法・基準（方針）			
課題に対して総合的に評価する。			
成績評価の種類	評価割合（％）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	課題に対しての積極的な参加を評価する。	1,2,3,4
授業外での評価	30	課題に対しての評価を行う。	1,2,3,4
期末試験	30	レポートで評価する。	1,2,3,4
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	講義中に資料を配布
参考書	
履修条件・他の科目との関連	経営学を受講した方が望ましい。
担当教員への連絡方法	・植松 康祐 uematsu@oiu.jp

授業コード	16212406		
授業科目名	専門セミナーⅡ a	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	何 成業		
成績担当教員氏名	何 成業		
単位数	2 単位	開講年次	4 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

転換著しい現代社会において、「先を読む」ことは極めて大切な課題である。その「読む」ことを正確に行うためには、正確な「現状分析」も不可欠であること。
 本セミナーは「先を読み」「現状分析」を行うための技術である社会調査に、セミナー・メンバーを誘うものである。メンバーは各自の関心に従い、調査を設計し実施することが求められる。そしてその調査の成果を、卒業研究へと結実させることを期待するのである。いまでもなく調査は科学的に行われねば意味がない。
 本セミナーは調査を科学的に行うとはいかなることか、また科学的に行われぬ調査のいかに信頼に足らざるものであるかを、メンバーに痛感していただく。見せかけだけで科学的ではない社会調査が溢れる現代だからこそ、メンバーにはその轍を踏んで欲しくないのである。

到達目標

1. 研究調査を遂行する中、一人ひとりのゼミナール学生が当該分野（各自の関心領域）の調査を設計し実施すること
2. 調査の成果を、卒業研究へと結実させること
3. 最終学年であることを考慮し、学生が就職内定を得ることができるように、積極的に就職活動をする
4. 卒業研究を完成する

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：執筆に向けて
 内容・方法：後期の予定について、各自に確定することを求める
- 【第2回】
 テーマ：夏季休暇中の研究報告（1）
 内容・方法：休暇中の蓄積について、ゼミ内での提示を求める
- 【第3回】
 テーマ：夏季休暇中の研究報告（2）
 内容・方法：休暇中の蓄積について、ゼミ内での提示を求める
- 【第4回】
 テーマ：卒業研究中間報告（1）
 内容・方法：この時点での卒業研究の成果について、各自に発表を求める
- 【第5回】
 テーマ：卒業研究中間報告（2）
 内容・方法：この時点での卒業研究の成果について、各自に発表を求める
- 【第6回】
 テーマ：卒業研究中間報告（3）
 内容・方法：この時点での卒業研究の成果について、各自に発表を求める
- 【第7回】
 テーマ：卒業研究中間報告（4）
 内容・方法：この時点での卒業研究の成果について、各自に発表を求める
- 【第8回】
 テーマ：卒業研究中間報告（5）
 内容・方法：この時点での卒業研究の成果について、各自に発表を求める
- 【第9回】
 テーマ：ゼミ担当者による「中間報告」総括（1）
 内容・方法：中間報告へのゼミ担当者からのコメント
- 【第10回】
 テーマ：ゼミ担当者による「中間報告」総括（2）
 内容・方法：中間報告へのゼミ担当者からのコメント
- 【第11回】 テーマ：卒業研究完成に向けて（1）
 内容・方法：前回からの一週間の執筆について、各自に報告を求める
- 【第12回】
 テーマ：卒業研究完成に向けて（2）
 内容・方法：書き加えた部分について、各自に報告を求める
- 【第13回】
 テーマ：卒業研究完成に向けて（3）
 内容・方法：書き加えた部分について、各自に報告を求める
- 【第14回】
 テーマ：卒業研究最終発表（1）
 内容・方法：卒業研究最終報告
- 【第15回】
 テーマ：卒業研究最終発表（2）
 期末試験：卒業研究最終報告

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

各回、事前学修は2時間、事後学修は2時間を目安とする

【第1回】

①事前学修課題：後期計画の立案
②事後学修課題：計画の再検討
【第2回】
①事前学修課題：「蓄積」のまとめ
②事後学修課題：他者の「まとめ」を聞いての自己計画の（必要があれば）修正
【第3回】
①事前学修課題：「蓄積」のまとめ
②事後学修課題：他者の「まとめ」を聞いての自己計画の（必要があれば）修正
【第4回】
①事前学修課題：報告の準備
②事後学修課題：コメント等を受けての修正
【第5回】
①事前学修課題：報告の準備
②事後学修課題：コメントを受けての修正
【第6回】
①事前学修課題：報告の準備
②事後学修課題：コメントを受けての修正
【第7回】
①事前学修課題：報告の準備
②事後学修課題：コメントを受けての修正
【第8回】
①事前学修課題：報告の準備
②事後学修課題：コメントを受けての修正
【第9回】
①事前学修課題：他者のコメントを受けての修正版の準備
②事後学修課題：ゼミ担当者のコメントを受けての修正
【第10回】
①事前学修課題：他者のコメントを受けての修正版の準備
②事後学修課題：ゼミ担当者のコメントを受けての修正
【第11回】
①事前学修課題：執筆の継続
②事後学修課題：コメントを受けての修正
【第12回】
①事前学修課題：執筆の継続
②事後学修課題：コメントを受けての修正
【第13回】
①事前学修課題：執筆の継続
②事後学修課題：コメントを受けての修正
【第14回】
①事前学修課題：卒業研究の完成
②事後学修課題：報告へのコメントのまとめ
【第15回】
①事前学修課題：卒業研究の報告
②事後学修課題：報告へのコメントのまとめ、および総評の作成（指定期日までの提出を求める）

課題に対するフィードバックの方法

ディスカッション、報告レポートの発表と提出

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 授業内評価：ディスカッション、報告レポートの発表と提出 40% 授業外評価：積極的に就職活動をする 20%
 期末試験：卒業研究を完成する 40%

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	ディスカッション、報告レポートの発表と提出	1,2
授業外での評価	20	積極的に就職活動（20）	3
期末試験	40	卒業研究最終報告（40）	4
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	プリントを配布する
参考書	卒業研究完成のため、ゼミナール所属学生には自身の関心に従った資料を揃え、当該時間に発表する経験を積むことを求める。また指導する側からも適宜、参考資料を提供してゆく。
履修条件・他の科目との関連	調査はただフィールド・ワークによってのみ遂行されるのではない。現場での調査活動にあたり、各自が事前に、あるいは活動遂行中に「理論武装」することは必須である。したがって自身の関心テーマに沿う文献を渉猟することが求められる。
担当教員への連絡方法	・何 成業 he@oiu.jp

授業コード	16212417		
授業科目名	専門セミナーⅡ a	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	三木 英		
成績担当教員氏名	三木 英		
単位数	2 単位	開講年次	4 年
		開講期	2021 年度前期

授業の目的・概要

変転著しい現代社会において、「先を読む」ことは極めて大切な課題である。その「読む」ことを正確に行うためには、正確な「現状分析」も又不可欠であることは言を俟たない。本セミナーは「先を読み」「現状分析」を行うための技術である社会調査に、セミナー・メンバーを誘うものである。メンバーは各自の関心に従い、調査を設計し実施することが求められる。そしてその調査の成果を、卒業研究へと結実させることを期待するのである。

いうまでもなく調査は科学的に行われねば意味がない。本セミナーは調査を科学的に行うとはいかなることか、また科学的に行われない調査のいかに信頼に足らざるものであるかを、メンバーに痛感していただく。見せかけだけで科学的ではない社会調査が溢れる現代だからこそ、メンバーにはその轍を踏んで欲しくないのである。

到達目標

- ①調査を設計する能力を獲得する。
- ②調査を実施するという経験を獲得する。
- ③調査結果を入力・集計・分析する能力を獲得する。
- ④生データをを用い調査報告を執筆する能力を獲得する。

授業計画

- 【第1回】**
 テーマ：卒業研究作成に向けて (1)
 内容・方法：前年度実施調査について再確認 (2)
- 【第2回】**
 テーマ：卒業研究作成に向けて (2)
 内容・方法：前年度実施調査について再確認 (2)
- 【第3回】**
 テーマ：卒業研究作成に向けて (3)
 内容・方法：論文の書き方
- 【第4回】**
 テーマ：卒業研究作成に向けて (4)
 内容・方法：各自テーマの最終決定
- 【第5回】**
 テーマ：「序章」の執筆 (1)
 内容・方法：各自の「序」について、公開を求める。
- 【第6回】**
 テーマ：「序章」の執筆 (2)
 内容・方法：修正された「序」の提示
- 【第7回】**
 テーマ：卒業研究作成のための「不足点」の検討
 内容・方法：執筆にあたり不可欠な知識・情報の洗い出し
- 【第8回】**
 テーマ：文献研究 (1)
 内容・方法：各自に必読文献の提示を求め、講読の割り振りを行う。
- 【第9回】**
 テーマ：文献研究 (2)
 内容・方法：各自が割り当てられた文献について、レジメを準備し、解説することを求める。
- 【第10回】**
 テーマ：文献研究 (3)
 内容・方法：各自が割り当てられた文献について、レジメを準備し、解説することを求める。
- 【第11回】**
 テーマ：文献研究 (4)
 内容・方法：各自が割り当てられた文献について、レジメを準備し、解説することを求める。
- 【第12回】**
 テーマ：文献研究 (5)
 内容・方法：各自が割り当てられた文献について、レジメを準備し、解説することを求める
- 【第13回】**
 テーマ：文献研究 (6)
 内容・方法：各自が割り当てられた文献について、レジメを準備し、解説することを求める
- 【第14回】**
 テーマ：文献研究 (7)
 内容・方法：各自が割り当てられた文献について、レジメを準備し、解説することを求める
- 【第15回】**
 テーマ：前期を振り返って
 内容・方法：前期に蓄積した知識・情報について、整理を行う。

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

各回、事前学習2時間、事後学習2時間を想定している。

<p>【第1回】 ①事前学修課題：前年度実施調査結果の再検討 ②事後学修課題：各自が執筆すべき卒業研究のテーマ探求</p> <p>【第2回】 ①事前学修課題：前回を受けての調査成果の読み取り ②事後学修課題：卒業研究テーマの絞り込み</p> <p>【第3回】 ①事前学修課題：指定文献講読 ②事後学修課題：授業内容の振り返り</p> <p>【第4回】 ①事前学修課題：テーマについて具体化 ②事後学修課題：テーマについての最終的確認</p> <p>【第5回】 ①事前学修課題：「序」の執筆 ②事後学修課題：他者の意見を受けての「序」の修正</p> <p>【第6回】 ①事前学修課題：「序」の修正 ②事後学修課題：意見を受けての「序」の修正</p> <p>【第7回】 ①事前学修課題：各自の「不足点」について、考えておくことを求める。 ②事後学修課題：「不足」知識・情報の探求（必読文献の探求）</p> <p>【第8回】 ①事前学修課題：提示文献の準備 ②事後学修課題：文献のレジュメ作成</p> <p>【第9回】 ①事前学修課題：他者による報告へのコメント準備 ②事後学修課題：報告についてのまとめの作成</p> <p>【第10回】 ①事前学修課題：他者による報告へのコメント準備 ②事後学修課題：報告についてまとめの作成</p> <p>【第11回】 ①事前学修課題：他者による報告へのコメント準備 ②事後学修課題：報告についてのまとめの作成</p> <p>【第12回】 ①事前学修課題：他者による報告へのコメント準備 ②事後学修課題：報告についてのまとめの作成</p> <p>【第13回】 ①事前学修課題：他者による報告へのコメント準備 ②事後学修課題：報告についてのまとめの作成</p> <p>【第14回】 ①事前学修課題：他者による報告へのコメント準備 ②事後学修課題：報告についてのまとめの作成</p> <p>【第15回】 ①事前学修課題：あらためて、卒業研究についての見直しを求める ②事後学修課題：卒業研究執筆のための不足知識・情報の再確認</p>

課題に対するフィードバックの方法

ゼミ生は当該時間に限らず、担当者の時間が許す限り、指導を受けることができる。

成績評価の方法・基準（方針）

平常点とレポート（＝毎ゼミナールでの報告）の充実度を同等に評価したい。

成績評価の種類	評価割合（％）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	セミナー内で課される簡便課題への対応を評価する。	①②
授業外での評価	0		
期末試験	0		
定期試験	0		
その他	50	卒業研究の執筆とその完成度を評価する。	①②③④

テキスト	プリントを配布する
参考書	卒業研究完成のため、ゼミナール所属学生には自身の関心に従った資料を揃え、当該時間に発表する経験を積むことを求める。また指導する側からも適宜、参考資料を提供してゆく。
履修条件・他の科目との関連	調査はただフィールド・ワークによってのみ遂行されるのではない。現場での調査活動にあたり、各自が事前に、あるいは活動遂行中に「理論武装」することは必須である。したがって自身の関心テーマに沿った文献を渉猟することが求められる。
担当教員への連絡方法	・三木 英 mikia@oiu.jp

授業コード	16212504		
授業科目名	専門セミナーⅡ b(卒業研究を含む)	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	植松 康祐		
成績担当教員氏名	植松 康祐		
単位数	2 単位	開講年次	4 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要			
経営学を基礎としながらも、経済学、情報学、政治学、法学など幅広い分野におけるビジネスに関するテーマを掲げ、問題解決のための情報の収集および調査方法に関する能力を身に付ける。卒業論文の完成を目指す。			
到達目標			
1.職業観に関する知識を醸成させます。 2.社会的な課題に対する調査分析を目的とした、情報検索の技術とデータ処理の実習を行います。 3.研究テーマに関する的確な文献及び資料を検索でき、それらの文献資料等を科学的根拠に基づいてレポートできることが求められる。 4.これまでの知識を活用して、卒業論文の作成を行う。			
授業計画			
前半は、卒業論文のテーマが適切であるか、また、それが論文となりえるかについて議論を行う。後半は、卒業論文のテーマに即した情報検索を行い、論文の完成させる。			
事前事後の学習			
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。			
毎回の指示に従って、テーマ、データの収集を行う。 論文の添削を行うので、それを改善させる。			
課題に対するフィードバックの方法			
毎回、講義にて必ずフィードバックを行う。			
成績評価の方法・基準（方針）			
卒業論文作成に対して総合的に評価する。			
成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	論文作成のプロセスを評価する。	1,2,3,4
授業外での評価	30	卒業論文に対する評価を行う。	1,2,3,4
期末試験	30	レポートで評価	1,2,3,4
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	講義中に資料を配布
参考書	
履修条件・他の科目との関連	経営学を受講した方が望ましい。
担当教員への連絡方法	・植松 康祐 uematsu@oiu.jp

授業コード	16212506		
授業科目名	専門セミナーⅡb(卒業研究を含む)	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	何 成業		
成績担当教員氏名	何 成業		
単位数	2 単位	開講年次	4 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

転換著しい現代社会において、「先を読む」ことは極めて大切な課題である。その「読む」ことを正確に行うためには、正確な「現状分析」も不可欠であること。
 本セミナーは「先を読み」「現状分析」を行うための技術である社会調査に、セミナー・メンバーを誘うものである。メンバーは各自の関心に従い、調査を設計し実施することが求められる。そしてその調査の成果を、卒業研究へと結実させることを期待するのである。いまでもなく調査は科学的に行われねば意味がない。
 本セミナーは調査を科学的に行うとはいかなることか、また科学的に行われぬ調査のいかに信頼に足らざるものであるかを、メンバーに痛感していただく。見せかけだけで科学的ではない社会調査が溢れる現代だからこそ、メンバーにはその轍を踏んで欲しくないのである。

到達目標

- 1.研究調査を遂行する中、一人ひとりのゼミナール学生が当該分野（各自の関心領域）の調査を設計し実施すること
- 2.調査の成果を、卒業研究へと結実させること
- 3.最終学年であることを考慮し、学生が就職内定を得ることができるように、積極的に就職活動をする
- 4.卒業研究を完成する

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：執筆に向けて
 内容・方法：後期の予定について、各自に確定することを求める
- 【第2回】
 テーマ：夏季休暇中の研究報告（1）
 内容・方法：休暇中の蓄積について、ゼミ内での提示を求める
- 【第3回】
 テーマ：夏季休暇中の研究報告（2）
 内容・方法：休暇中の蓄積について、ゼミ内での提示を求める
- 【第4回】
 テーマ：卒業研究中間報告（1）
 内容・方法：この時点での卒業研究の成果について、各自に発表を求める
- 【第5回】
 テーマ：卒業研究中間報告（2）
 内容・方法：この時点での卒業研究の成果について、各自に発表を求める
- 【第6回】
 テーマ：卒業研究中間報告（3）
 内容・方法：この時点での卒業研究の成果について、各自に発表を求める
- 【第7回】
 テーマ：卒業研究中間報告（4）
 内容・方法：この時点での卒業研究の成果について、各自に発表を求める
- 【第8回】
 テーマ：卒業研究中間報告（5）
 内容・方法：この時点での卒業研究の成果について、各自に発表を求める
- 【第9回】
 テーマ：ゼミ担当者による「中間報告」総括（1）
 内容・方法：中間報告へのゼミ担当者からのコメント
- 【第10回】
 テーマ：ゼミ担当者による「中間報告」総括（2）
 内容・方法：中間報告へのゼミ担当者からのコメント
- 【第11回】 テーマ：卒業研究完成に向けて（1）
 内容・方法：前回からの一週間の執筆について、各自に報告を求める
- 【第12回】
 テーマ：卒業研究完成に向けて（2）
 内容・方法：書き加えた部分について、各自に報告を求める
- 【第13回】
 テーマ：卒業研究完成に向けて（3）
 内容・方法：書き加えた部分について、各自に報告を求める
- 【第14回】
 テーマ：卒業研究最終発表（1）
 内容・方法：卒業研究最終報告
- 【第15回】
 テーマ：卒業研究最終発表（2）
 期末試験：卒業研究最終報告

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

各回、事前学修は2時間、事後学修は2時間を目安とする

【第1回】

①事前学修課題：後期計画の立案
②事後学修課題：計画の再検討
【第2回】
①事前学修課題：「蓄積」のまとめ
②事後学修課題：他者の「まとめ」を聞いての自己計画の（必要があれば）修正
【第3回】
①事前学修課題：「蓄積」のまとめ
②事後学修課題：他者の「まとめ」を聞いての自己計画の（必要があれば）修正
【第4回】
①事前学修課題：報告の準備
②事後学修課題：コメント等を受けての修正
【第5回】
①事前学修課題：報告の準備
②事後学修課題：コメントを受けての修正
【第6回】
①事前学修課題：報告の準備
②事後学修課題：コメントを受けての修正
【第7回】
①事前学修課題：報告の準備
②事後学修課題：コメントを受けての修正
【第8回】
①事前学修課題：報告の準備
②事後学修課題：コメントを受けての修正
【第9回】
①事前学修課題：他者のコメントを受けての修正版の準備
②事後学修課題：ゼミ担当者のコメントを受けての修正
【第10回】
①事前学修課題：他者のコメントを受けての修正版の準備
②事後学修課題：ゼミ担当者のコメントを受けての修正
【第11回】
①事前学修課題：執筆の継続
②事後学修課題：コメントを受けての修正
【第12回】
①事前学修課題：執筆の継続
②事後学修課題：コメントを受けての修正
【第13回】
①事前学修課題：執筆の継続
②事後学修課題：コメントを受けての修正
【第14回】
①事前学修課題：卒業研究の完成
②事後学修課題：報告へのコメントのまとめ
【第15回】
①事前学修課題：卒業研究の報告
②事後学修課題：報告へのコメントのまとめ、および総評の作成（指定期日までの提出を求める）

課題に対するフィードバックの方法

ディスカッション、報告レポートの発表と提出

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 授業内評価：ディスカッション、報告レポートの発表と提出 40% 授業外評価：積極的に就職活動をする 20%
 期末試験：卒業研究を完成する 40%

成績評価の種類	評価割合（%）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	ディスカッション、報告レポートの発表と提出（40）	1,2
授業外での評価	20	積極的に就職活動をする（20）	3
期末試験	40	卒業研究を完成、公開発表（40）	4
定期試験	0		
その他	0		

テキスト	プリントを配布する
参考書	卒業研究完成のため、ゼミナール所属学生には自身の関心に従った資料を揃え、当該時間に発表する経験を積むことを求める。また指導する側からも適宜、参考資料を提供してゆく。
履修条件・他の科目との関連	調査はただフィールド・ワークによってのみ遂行されるのではない。現場での調査活動にあたり、各自が事前に、あるいは活動遂行中に「理論武装」することは必須である。したがって自身の関心テーマに沿う文献を渉猟することが求められる。
担当教員への連絡方法	・何 成業 he@oiu.jp

授業コード	16212517		
授業科目名	専門セミナーⅡb(卒業研究を含む)	実務家教員による授業	-
授業担当教員氏名	三木 英		
成績担当教員氏名	三木 英		
単位数	2 単位	開講年次	4 年
		開講期	2021 年度後期

授業の目的・概要

変転著しい現代社会において、「先を読む」ことは極めて大切な課題である。その「読む」ことを正確に行うためには、正確な「現状分析」も又不可欠であることは言を俟たない。本セミナーは「先を読み」「現状分析」を行うための技術である社会調査に、セミナー・メンバーを誘うものである。メンバーは各自の関心に従い、調査を設計し実施することが求められる。そしてその調査の成果を、卒業研究へと結実させることを期待するのである。

いうまでもなく調査は科学的に行われねば意味がない。本セミナーは調査を科学的に行うとはいかなることか、また科学的に行われぬ調査のいかに信頼に足らざるものであるかを、メンバーに痛感していただく。見せかけだけで科学的ではない社会調査が溢れる現代だからこそ、メンバーにはその轍を踏んで欲しくないのである。

到達目標

- ①調査を設計する能力を獲得する。
- ②調査を実施するという経験を獲得する。
- ③調査結果を入力・集計・分析する能力を獲得する。
- ④生データをを用い調査報告を執筆する能力を獲得する。

授業計画

- 【第1回】**
 テーマ：執筆に向けて
 内容・方法：後期の予定について、各自に確定することを求める
- 【第2回】**
 テーマ：夏季休暇中の研究報告（1）
 内容・方法：休暇中の蓄積について、ゼミ内での提示を求める
- 【第3回】**
 テーマ：夏季休暇中の研究報告（2）
 内容・方法：休暇中の蓄積について、ゼミ内での提示を求める
- 【第4回】**
 テーマ：卒業研究中間報告（1）
 内容・方法：この時点での卒業研究の成果について、各自に発表を求める
- 【第5回】**
 テーマ：卒業研究中間報告（2）
 内容・方法：この時点での卒業研究の成果について、各自に発表を求める
- 【第6回】**
 テーマ：卒業研究中間報告（3）
 内容・方法：この時点での卒業研究の成果について、各自に発表を求める
- 【第7回】**
 テーマ：卒業研究中間報告（4）
 内容・方法：この時点での卒業研究の成果について、各自に発表を求める
- 【第8回】**
 テーマ：卒業研究中間報告（5）
 内容・方法：この時点での卒業研究の成果について、各自に発表を求める
- 【第9回】**
 テーマ：ゼミ担当者による「中間報告」総括（1）
 内容・方法：中間報告へのゼミ担当者からのコメント
- 【第10回】**
 テーマ：ゼミ担当者による「中間報告」総括（2）
 内容・方法：中間報告へのゼミ担当者からのコメント
- 【第11回】**
 テーマ：卒業研究完成に向けて（1）
 内容・方法：前回からの一週間の執筆について、各自に報告を求める
- 【第12回】**
 テーマ：卒業研究完成に向けて（2）
 内容・方法：書き加えた部分について、各自に報告を求める
- 【第13回】**
 テーマ：卒業研究完成に向けて（3）
 内容・方法：書き加えた部分について、各自に報告を求める
- 【第14回】**
 テーマ：卒業研究最終発表（1）
 内容・方法：卒業研究最終報告
- 【第15回】**
 テーマ：卒業研究最終発表（2）
 内容・方法：卒業研究最終報告

事前事後の学習

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。

各回、事前学習2時間、事後学習2時間を想定している。

<p>【第1回】 ①事前学修課題：後期計画の立案 ②事後学修課題：計画の再検討</p> <p>【第2回】 ①事前学修課題：「蓄積」のまとめ ②事後学修課題：他者の「まとめ」を聞いての自己計画の（必要があれば）修正</p> <p>【第3回】 ①事前学修課題：「蓄積」のまとめ ②事後学修課題：他者の「まとめ」を聞いての自己計画の（必要があれば）修正</p> <p>【第4回】 ①事前学修課題：報告の準備 ②事後学修課題：コメント等を受けての修正</p> <p>【第5回】 ①事前学修課題：報告の準備 ②事後学修課題：コメントを受けての修正</p> <p>【第6回】 ①事前学修課題：報告の準備 ②事後学修課題：コメントを受けての修正</p> <p>【第7回】 ①事前学修課題：報告の準備 ②事後学修課題：コメントを受けての修正</p> <p>【第8回】 ①事前学修課題：報告の準備 ②事後学修課題：コメントを受けての修正</p> <p>【第9回】 ①事前学修課題：他者のコメントを受けての修正版の準備 ②事後学修課題：ゼミ担当者のコメントを受けての修正</p> <p>【第10回】 ①事前学修課題：他者のコメントを受けての修正版の準備 ②事後学修課題：ゼミ担当者のコメントを受けての修正</p> <p>【第11回】 ①事前学修課題：執筆の継続 ②事後学修課題：コメントを受けての修正</p> <p>【第12回】 ①事前学修課題：執筆の継続 ②事後学修課題：コメントを受けての修正</p> <p>【第13回】 ①事前学修課題：執筆の継続 ②事後学修課題：コメントを受けての修正</p> <p>【第14回】 ①事前学修課題：卒業研究の完成 ②事後学修課題：報告へのコメントのまとめ</p> <p>【第15回】 ①事前学修課題：卒業研究の報告 ②事後学修課題：報告へのコメントのまとめ、および総評の作成（指定期日までの提出を求める）</p>

課題に対するフィードバックの方法

ゼミ生は当該時間に限らず、担当者の時間が許す限り、指導を受けることができる。

成績評価の方法・基準（方針）

平常点とレポート（＝毎ゼミナールでの報告）の充実度を同等に評価したい。

成績評価の種類	評価割合（％）	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	セミナー内で課される簡便課題への対応を評価する。	①②③
授業外での評価	0		
期末試験	0		
定期試験	0		
その他	50	卒業研究の執筆とその完成度を評価する。	④

テキスト	プリントを配布する
参考書	卒業研究完成のため、ゼミナール所属学生には自身の関心に従った資料を揃え、当該時間に発表する経験を積むことを求める。また指導する側からも適宜、参考資料を提供してゆく。
履修条件・他の科目との関連	調査はただフィールド・ワークによってのみ遂行されるのではない。現場での調査活動にあたり、各自が事前に、あるいは活動遂行中に「理論武装」することは必須である。したがって自身の関心テーマに沿った文献を渉猟することが求められる。
担当教員への連絡方法	・三木 英 mikia@oiu.jp